

外国語学部 英米学科 (2011年度入学生)

※網掛けの科目については、本年度開講しません

<昼>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	歴史と政治 小林 道彦	1学期	1	2	1
		1年			
	家族を問う 小野 憲昭	1学期	1	2	2
		1年			
	人間と文化 神原 ゆうこ	1学期	1	2	3
		1年			
	ことばの科学 漆原 朗子	1学期	1	2	4
		1年			
	国際学入門 伊野 憲治	1学期	1	2	5
		1年			
	教養としての平和学 戸蒔 仁司	1学期	1	2	6
		1年			
	可能性としての歴史 小林 道彦	2学期	2	2	7
		2年			
	家族の再生 小野 憲昭	2学期	2	2	8
		2年			
	文化と政治 神原 ゆうこ	2学期	2	2	9
		2年			
言語と認知 漆原 朗子 他	1学期	2	2	10	
	2年				
共生社会論 伊野 憲治	2学期	2	2	11	
	2年				
戦争と平和 戸蒔 仁司	2学期	2	2	12	
	2年				
生活世界の哲学 伊原木 大祐	1学期	1	2	13	
	1年				
共同体と身体 伊原木 大祐	2学期	2	2	14	
	2年				
■スキル科目	メンタル・ヘルスI 中島 俊介	1学期	1	2	15
		1年			

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■スキル科目	メンタル・ヘルスII 中島 俊介	2学期	1	2	16
		1年			
	フィジカル・ヘルスI 高西 敏正	1学期	1	2	17
		1年			
	フィジカル・ヘルスI 加倉井 美智子	1学期	1	2	18
		1年			
	フィジカル・ヘルスII 高西 敏正	2学期	1	2	19
		1年			
	フィジカル・ヘルスII 徳永 政夫	2学期	1	2	20
		1年			
	フィジカル・ヘルスII 加倉井 美智子	2学期	1	2	21
		1年			
	自己管理論 生田カツ工、稲月正	2学期	1	2	22
		1年			
	キャリア・デザイン 眞鍋 和博	1学期	1	2	23
		1年			
	キャリア・デザイン 見館 好隆	1学期	1	2	24
		1年			
	コミュニケーションと思考法 眞鍋 和博	2学期	1	2	25
		1年			
プロフェッショナルの仕事 見館 好隆	1学期	2	2	26	
	2年				
大学論・学問論 休講	1学期	1	2		
	1年				
法律の読み方 小野 憲昭 他	2学期	1	2	27	
	1年				
社会調査 稲月 正	2学期	1	2	28	
	1年				
統計を読む・統計をつくる 山本 努	1学期	1	2	29	
	1年				

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	担当者		備考		
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■スキル科目	フィジカル・エクササイズI (サッカー)	1学期	1	1	30
	磯貝 浩久	1年			
	フィジカル・エクササイズI (テニス)	1学期	1	1	31
	濱崎 裕介	1年			
	フィジカル・エクササイズI(ソフトボール)	1学期	1	1	32
	濱崎 裕介	1年			
	フィジカル・エクササイズI (女性のスポーツ)	1学期	1	1	33
	加倉井 美智子	1年			
	フィジカル・エクササイズI (バレーボール)	1学期	1	1	34
	高西 敏正	1年			
	フィジカル・エクササイズI (バレーボール)	1学期	1	1	35
	美山 泰教	1年			
	フィジカル・エクササイズI (バドミントン)	1学期	1	1	36
	美山 泰教	1年			
	フィジカル・エクササイズI (バドミントン)	1学期	1	1	37
	鯨 吉夫	1年			
	フィジカル・エクササイズI (バドミントン)	1学期	1	1	38
	鯨 吉夫	1年			
	フィジカル・エクササイズII (バドミントン)	2学期	1	1	39
	磯貝 浩久	1年			
フィジカル・エクササイズII (バドミントン)	2学期	1	1	40	
濱崎 裕介	1年				
フィジカル・エクササイズII (バスケットボール)	2学期	1	1	41	
濱崎 裕介	1年				
フィジカル・エクササイズII (バレーボール)	2学期	1	1	42	
美山 泰教	1年				
フィジカル・エクササイズII (バレーボール)	2学期	1	1	43	
美山 泰教	1年				
フィジカル・エクササイズII (サッカー)	2学期	1	1	44	
鯨 吉夫	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引	
		クラス				
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■スキル科目	フィジカル・エクササイズII (サッカー) 磯貝 浩久	2学期	1	1	45	
		1年				
	フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 鯨 吉夫	2学期	1	1	46	
		1年				
	フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 徳永 政夫	2学期	1	1	47	
		1年				
	■教養演習科目	教養基礎演習I 伊野 憲治 他	1学期	1	2	48
			1年			
		教養基礎演習I 日高 京子	1学期	1	2	49
		1年				
教養基礎演習I 小林 道彦		1学期	1	2	50	
		1年				
教養基礎演習I 神原 ゆうこ		1学期	1	2	51	
		1年				
教養基礎演習I 稲月 正		1学期	1	2	52	
		1年				
教養基礎演習I 廣川 祐司		1学期	1	2	53	
		1年				
教養基礎演習I (防衛セミナー) 戸蒔 仁司		1学期	1	2	54	
		1年				
教養基礎演習I 伊原木 大祐		1学期	1	2	55	
	1年					
教養基礎演習I 二宮 正人	1学期	1	2	56		
	1年					
教養基礎演習I 高西 敏正	1学期	1	2	57		
	1年					
教養基礎演習II 伊野 憲治 他	2学期	1	2	58		
	1年					
教養基礎演習II 眞鍋 和博 他	2学期	1	2	59		
	1年					

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	担当者		備考		
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養基礎演習II	2学期	1	2	60
	日高 京子	1年			
	教養基礎演習II	2学期	1	2	61
	小林 道彦	1年			
	教養基礎演習II	2学期	1	2	62
	神原 ゆうこ	1年			
	教養基礎演習II	2学期	1	2	63
	徳永 政夫	1年			
	教養基礎演習II	2学期	1	2	64
	稲月 正	1年			
	教養基礎演習II	2学期	1	2	65
	廣川 祐司	1年			
	教養基礎演習II (防衛セミナー)	1学期	1	2	66
	戸蒔 仁司	1年			
	教養基礎演習II	2学期	1	2	67
	伊原木 大祐	1年			
教養基礎演習II	2学期	1	2	68	
二宮 正人	1年				
教養基礎演習II	2学期	1	2	69	
高西 敏正	1年				
教養演習AI	1学期	2	2	70	
伊野 憲治 他	2年				
教養演習AI	1学期	2	2	71	
高西 敏正	2年				
教養演習AI	1学期	2	2	72	
日高 京子	2年				
教養演習AI	1学期	2	2	73	
小林 道彦	2年				
教養演習AI	1学期	2	2	74	
神原 ゆうこ	2年				

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
	担当者	クラス			
	備考				
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養演習A1(防衛セミナー)	1学期	2	2	75
	戸蒔 仁司	2年			
	教養演習A1	1学期	2	2	76
	稲月 正	2年			
	教養演習A1	1学期	2	2	77
	伊原木 大祐	2年			
	教養演習A2	2学期	2	2	78
	伊野 憲治 他	2年			
	教養演習A2	2学期	2	2	79
	徳永 政夫 他	2年			
	教養演習A2	2学期	2	2	80
	日高 京子	2年			
	教養演習A2	2学期	2	2	81
	小林 道彦	2年			
	教養演習A2	2学期	2	2	82
	神原 ゆうこ	2年			
	教養演習A2(防衛セミナー)	1学期	2	2	83
	戸蒔 仁司	2年			
教養演習A2	2学期	2	2	84	
稲月 正	2年				
教養演習A2	2学期	2	2	85	
伊原木 大祐	2年				
教養演習B1	1学期	3	2	86	
伊野 憲治 他	3年				
教養演習B1	1学期	3	2	87	
高西 敏正	3年				
教養演習B1	1学期	3	2	88	
日高 京子	3年				
教養演習B1	1学期	3	2	89	
小林 道彦	3年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養演習BⅠ 神原 ゆうこ	1学期	3	2	90
		3年			
	教養演習BⅠ(防衛セミナー) 戸蒔 仁司	1学期	3	2	91
		3年			
	教養演習BⅠ 稲月 正	1学期	3	2	92
		3年			
	教養演習BⅠ 伊原木 大祐	1学期	3	2	93
		3年			
	教養演習BⅡ 徳永 政夫 他	2学期	3	2	94
		3年			
	教養演習BⅡ 伊野 憲治 他	2学期	3	2	95
		3年			
	教養演習BⅡ 日高 京子	2学期	3	2	96
		3年			
教養演習BⅡ 小林 道彦	2学期	3	2	97	
	3年				
教養演習BⅡ 神原 ゆうこ	2学期	3	2	98	
	3年				
教養演習BⅡ(防衛セミナー) 戸蒔 仁司	1学期	3	2	99	
	3年				
教養演習BⅡ 稲月 正	2学期	3	2	100	
	3年				
教養演習BⅡ 伊原木 大祐	2学期	3	2	101	
	3年				
プロジェクト演習Ⅰ 見館 好隆	2学期	2	2	102	
	2年				
プロジェクト演習Ⅱ 見館 好隆	1学期	3	2	103	
	3年				
■テーマ科目 自然学のまなざし(ナウシカ) 竹川 大介	1学期	1	2	104	
	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	動物のみかた 到津の森公園、文学部 竹川大介	2学期	1	2	105
		1年			
	地球の生いたち 長井 孝一	2学期	1	2	106
		1年			
	自然史へのいざない 北九州市立自然史・歴史博物館、基盤教育センター 日高京子	2学期	1	2	107
		1年			
	くらしと化学 秋貞 英雄	1学期	1	2	108
		1年			
	現代人のこころ 田中 信利	1学期	1	2	109
		1年			
	数のたのしみ 高妻 倫太郎	集中	1	2	110
		1年			
	私たちと宗教 佐藤 真人	2学期	1	2	111
		1年			
	思想と現代 伊原木 大祐	1学期	1	2	112
		1年			
	ものがたりと人間 休講	1学期	1	2	
	1年				
文化と表象 真鍋 昌賢	2学期	1	2	113	
	1年				
言語とコミュニケーション 休講	2学期	1	2		
	1年				
芸術と人間 花田 伸一	2学期	1	2	114	
	1年				
文学を読む 馬場 美佳 他	2学期	1	2	115	
	1年				
戦争と人間 戸蔭 仁司 他	1学期	1	2	116	
	1年				
現代正義論 重松 博之	2学期	1	2	117	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	民主主義とは何か 中道 壽一	1学期	1	2	118
		1年			
	人権論 柳井 美枝	1学期	1	2	119
		1年			
	ジェンダー論 力武 由美	1学期	1	2	120
		1年			
	障がい学 伊野 憲治 他	2学期	1	2	121
		1年			
	共生の作法 重松 博之 他	2学期	1	2	122
		1年			
	北九州学 日高 京子	2学期	1	2	123
		1年			
	市民活動論 西田 心平	2学期	1	2	124
		1年			
	企業と社会 遠藤 雄二	2学期	1	2	125
		1年			
	つながりの人間学 地域共生教育センター 坂本毅啓、石谷百合加、奥村貴仁	1学期	1	2	126
		1年			
現代社会と倫理 伊原木 大祐	1学期	1	2	127	
	1年				
現代社会の諸問題 重松 博之 他	2学期	1	2	128	
	1年				
現代の国際情勢 金 鳳珍	1学期	1	2	129	
	1年				
国際社会論 稲月 正	1学期	1	2	130	
	1年				
国際紛争と国連 戸蔭 仁司	1学期	1	2	131	
	1年				
民族・エスニシティ問題 久木 尚志 他	1学期	1	2	132	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	開発と統治 三宅 博之 他	2学期	1	2	133
		1年			
	グローバル化する経済 前田 淳 他	2学期	1	2	134
		1年			
	テロリズム論 戸蒔 仁司	2学期	1	2	135
		1年			
	国際社会と日本 中野 博文	1学期	1	2	136
		1年			
	歴史の読み方I 八百 啓介	1学期	1	2	137
		1年			
	歴史の読み方II 小林 道彦	1学期	1	2	138
		1年			
	そのとき世界は 小林 道彦 他	2学期	1	2	139
		1年			
	戦後の日本経済 迎 由理男	2学期	1	2	140
		1年			
	都市と農村の生活文化史 福間 裕爾	1学期	1	2	141
	1年				
ものと人間の歴史 中野 博文	1学期	1	2	142	
	1年				
人物と時代の歴史 山崎 勇治 他	1学期	1	2	143	
	1年				
教養特講I (生命と物質) 日高 京子 他	1学期	1	2	144	
	1年				
教養特講I (生命の境界線) 中道 壽一 他	2学期	1	2	145	
	1年				
教養特講II (セクシュアル・ライツ) 文学部 河嶋 静代 他	2学期	1	2	146	
	1年				
教養特講III (誰にも負けない私のイギリス案内) 山崎 勇治	2学期	1	2	147	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	教養特講Ⅳ(報道・情報・営業、テレビはいま)	2学期	1	2	148
	見館 好隆 他	1年			
■教職関連科目	日本史	2学期	1	2	149
	内山 一幸	1年			
	西洋史	1学期	1	2	150
	疇谷 憲洋	1年			
	東洋史	2学期	1	2	151
	藤野 月子	1年			
	社会学	1学期	1	2	152
	稲月 正	1年			
	人文地理学	2学期	1	2	153
	吉津 直樹	1年			
	土地地理学	1学期	1	2	154
	野井 英明	1年			
	地誌学	1学期	1	2	155
	吉津 直樹	1年			
日本国憲法	2学期	1	2	156	
植木 淳	1年				
倫理学	2学期	1	2	157	
伊原木 大祐	1年				
■情報教育科目	エンドユーザコンピューティング	2学期	1	2	158
	中尾 泰士	国・再履英・再履中・群			
	エンドユーザコンピューティング	2学期	1	2	159
	光藤 雄一	英・中・再履国・群			
	データ処理	1学期	1	2	160
	山田 寛	英1-C・英1-D			
データ処理	1学期	1	2	161	
浅羽 修丈	英1-A・英1-B・再履国				
データ処理	1学期	1	2	162	
浅羽 修丈	国1-1・国1-2・再履英				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■情報教育科目	情報表現 中尾 泰士	1学期	2	2	163
		2年			
	情報表現 中尾 泰士	2学期	2	2	164
		2年			
	プログラミング基礎 浅羽 修丈	2学期	2	2	165
		2年			
	プログラミング基礎 浅羽 修丈	1学期	2	2	166
		2年			
■外国語教育科目 ■第一外国語	英語I 石田 由希	1学期	1	1	167
		英 1 - A			
	英語I 渡邊 嘉則	1学期	1	1	168
		英 1 - B			
	英語I 杉山 智子	1学期	1	1	169
		英 1 - C			
	英語I 酒井 秀子	1学期	1	1	170
		英 1 - D			
	英語II 石田 由希	2学期	1	1	171
		英 1 - A			
	英語II 渡邊 嘉則	2学期	1	1	172
		英 1 - B			
	英語II 酒井 秀子	2学期	1	1	173
		英 1 - C			
	英語II 杉山 智子	2学期	1	1	174
		英 1 - D			
英語III アルバート・オスカー・モウ	1学期	1	1	175	
	英 1 - A				
英語III デビット・ニール・マクレラン	1学期	1	1	176	
	英 1 - B				
英語III ジャマール・ミラー	1学期	1	1	177	
	英 1 - C				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第一外国語	英語III リス・クレシーニ	1学期	1	1	178
		英 1 - D			
	英語IV ロバート・マーフィ	2学期	1	1	179
		英 1 - A			
	英語IV デビット・ニール・マクレラン	2学期	1	1	180
		英 1 - B			
	英語IV ダンカン・ウォトリイ	2学期	1	1	181
		英 1 - C			
	英語IV リス・クレシーニ	2学期	1	1	182
		英 1 - D			
	英語V 相原 信彦	1学期	2	1	183
		英 2 - A			
	英語V 吉川 哲郎	1学期	2	1	184
		英 2 - B			
	英語V 北峯 裕士	1学期	2	1	185
		英 2 - C			
	英語V 野島 啓一	1学期	2	1	186
		英 2 - D			
	英語VI 北峯 裕士	2学期	2	1	187
		英 2 - A			
英語VI 松田 智	2学期	2	1	188	
	英 2 - B				
英語VI 木下 善貞	2学期	2	1	189	
	英 2 - C				
英語VI 吉川 哲郎	2学期	2	1	190	
	英 2 - D				
英語VII デビット・ニール・マクレラン	1学期	2	1	191	
	英 2 - A				
英語VII アルバート・オスカー・モウ	1学期	2	1	192	
	英 2 - B				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第一外国語	英語VII ジャマール・ミラー	1学期	2	1	193
		英 2 - C			
	英語VII アレクサンダー・ボードナー	1学期	2	1	194
		英 2 - D			
	英語VIII デビット・ニール・マクレラン	2学期	2	1	195
		英 2 - A			
	英語VIII アルバート・オスカー・モウ	2学期	2	1	196
		英 2 - B			
	英語VIII ダンカン・ウォトリイ	2学期	2	1	197
		英 2 - C			
	英語VIII アレクサンダー・ボードナー	2学期	2	1	198
		英 2 - D			
英語IX 永末 康介	1学期	3	1	199	
	英中国 3 年				
英語X 葛西 宏信	2学期	3	1	200	
	英中国 3 年				
英語XI デビット・ニール・マクレラン	1学期	3	1	201	
	英中国 3 年				
英語XII デビット・ニール・マクレラン	2学期	3	1	202	
	英中国 3 年				
■第二外国語	中国語I 板谷 秀子	1学期	1	1	203
		英 1 年			
	中国語I 野村 和代	1学期	1	1	204
		英 1 年			
	中国語II 板谷 秀子	2学期	1	1	205
		英 1 年			
	中国語II 野村 和代	2学期	1	1	206
	英 1 年				
中国語III 王 占華	1学期	1	1	207	
	英 1 年				

科目区分	科目名	担当者	学期	履修年次	単位	索引
			クラス			
	備考					
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	中国語III	張 景珊	1学期	1	1	208
			英 1 年			
	中国語IV	王 占華	2学期	1	1	209
			英 1 年			
	中国語IV	張 景珊	2学期	1	1	210
			英 1 年			
	中国語V	正野 留加	1学期	2	1	211
			英 2 年			
	中国語VI	正野 留加	2学期	2	1	212
			英 2 年			
	中国語VII	王 晨	1学期	2	1	213
			英 2 年			
	中国語VIII	王 晨	2学期	2	1	214
			英 2 年			
	上級中国語I	唐 雋	1学期	3	1	215
			英国济営比人 3 年			
	上級中国語II	唐 雋	2学期	3	1	216
			英国济営比人 3 年			
	上級中国語III	王 占華	1学期	3	1	217
			英国济営比人 3 年			
上級中国語IV	王 占華	2学期	3	1	218	
		英国济営比人 3 年				
朝鮮語I	金 貞愛	1学期	1	1	219	
		英 1 年				
朝鮮語II	金 貞愛	2学期	1	1	220	
		英 1 年				
朝鮮語III	金 貞淑	1学期	1	1	221	
		英 1 年				
朝鮮語IV	金 貞淑	2学期	1	1	222	
		英 1 年				

科目区分	科目名	担当者	学期	履修年次	単位	索引
			クラス			
	備考					
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	朝鮮語V	金 貞愛	1学期	2	1	223
			英 2 年			
	朝鮮語VI	金 貞愛	2学期	2	1	224
			英 2 年			
	朝鮮語VII	金 貞淑	1学期	2	1	225
			英 2 年			
	朝鮮語VIII	金 貞淑	2学期	2	1	226
			英 2 年			
	上級朝鮮語I	金 貞淑	1学期	3	1	227
			英中国済営比人 3 年			
	上級朝鮮語II	金 貞淑	2学期	3	1	228
			英中国済営比人 3 年			
	上級朝鮮語III	金 貞愛	1学期	3	1	229
			英中国済営比人 3 年			
	上級朝鮮語IV	金 貞愛	2学期	3	1	230
			英中国済営比人 3 年			
	ロシア語I	芳之内 雄二	1学期	1	1	231
			英 1 年			
	ロシア語II	芳之内 雄二	2学期	1	1	232
			英 1 年			
ロシア語III	ナタリア・シエスタコーワ	1学期	1	1	233	
		英 1 年				
ロシア語IV	ナタリア・シエスタコーワ	2学期	1	1	234	
		英 1 年				
ロシア語V	芳之内 雄二	1学期	2	1	235	
		英 2 年				
ロシア語VI	芳之内 雄二	2学期	2	1	236	
		英 2 年				
ロシア語VII	ナタリア・シエスタコーワ	1学期	2	1	237	
		英 2 年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	ロシア語VIII ナタリア・シエスタコーフ	2学期	2	1	238
		英 2 年			
	ドイツ語I 山下 哲雄	1学期	1	1	239
		英 1 年			
	ドイツ語II 山下 哲雄	2学期	1	1	240
		英 1 年			
	ドイツ語III 山下 哲雄	1学期	1	1	241
		英 1 年			
	ドイツ語IV 山下 哲雄	2学期	1	1	242
		英 1 年			
	ドイツ語V 山下 哲雄	1学期	2	1	243
		英 2 年			
	ドイツ語VI 山下 哲雄	2学期	2	1	244
		英 2 年			
	ドイツ語VII 山下 哲雄	1学期	2	1	245
		英 2 年			
	ドイツ語VIII 山下 哲雄	2学期	2	1	246
		英 2 年			
	フランス語I 坂田 由紀	1学期	1	1	247
		英 1 年			
フランス語II 坂田 由紀	2学期	1	1	248	
	英 1 年				
フランス語III 山下 広一	1学期	1	1	249	
	英 1 年				
フランス語IV 山下 広一	2学期	1	1	250	
	英 1 年				
フランス語V 坂田 由紀	1学期	2	1	251	
	英 2 年				
フランス語VI 坂田 由紀	2学期	2	1	252	
	英 2 年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	フランス語VII 山下 高之	1学期	2	1	253
		英 2 年			
	フランス語VIII 山下 高之	2学期	2	1	254
		英 2 年			
	スペイン語I 青木 文夫	1学期	1	1	255
		英 1 年			
	スペイン語II 青木 文夫	2学期	1	1	256
		英 1 年			
	スペイン語III 辻 博子	1学期	1	1	257
		英 1 年			
	スペイン語IV 辻 博子	2学期	1	1	258
		英 1 年			
スペイン語V 辻 光博	1学期	2	1	259	
	英 2 年				
スペイン語VI 辻 光博	2学期	2	1	260	
	英 2 年				
スペイン語VII 辻 博子	1学期	2	1	261	
	英 2 年				
スペイン語VIII 辻 博子	2学期	2	1	262	
	英 2 年				
■留学生特別科目	日本語 A 国際教育交流センター 小林浩明、非常勤講師 中山亜紀子	1学期 (ペア)	1	2	263
		留学生 1 年			
	日本語 A 国際教育交流センター 小林浩明、非常勤講師 中山亜紀子	1学期 (ペア)	1	2	264
		留学生 1 年			
	日本語 B 清水 順子	1学期 (ペア)	1	2	265
		留学生 1 年			
日本語 B 清水 順子	1学期 (ペア)	1	2	266	
	留学生 1 年				
日本語 C 国際教育交流センター 小林浩明、非常勤講師 中山亜紀子	2学期 (ペア)	1	2	267	
	留学生 1 年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■基盤教育科目 ■留学生特別科目	日本語C 国際教育交流センター 小林浩明、非常勤講師 中山亜紀子	2学期 (ペア)	1	2	268
		留学生 1年			
	日本語D 清水 順子	2学期 (ペア)	1	2	269
		留学生 1年			
	日本語D 清水 順子	2学期 (ペア)	1	2	270
		留学生 1年			
	日本事情 (人文) A	1学期	1	2	271
		留学生 1年			
日本事情 (人文) B	2学期	1	2	272	
	留学生 1年				
日本事情 (社会) A 山崎 勇治	1学期	1	2	273	
	留学生 1年				
日本事情 (社会) B 山崎 勇治	2学期	1	2	274	
	留学生 1年				
■専門教育科目 ■選択科目 ■米地域・国際科目群	地域研究入門 (アメリカ) 田宮 晴彦	1学期	2	2	275
		2年			
	アメリカの社会I 田宮 晴彦	1学期	2	2	276
		2年			
	アメリカの社会II 朝立 康太郎	2学期	2	2	277
		2年			
	アメリカの政治I 休講	1学期	2	2	
		2年			
	アメリカの政治II 休講	2学期	2	2	
		2年			
アメリカの政治III 中野 博文	1学期	2	2	278	
	2年				
アメリカの政治IV 中野 博文	2学期	2	2	279	
	2年				
国際関係論I 千知岩 正継	1学期	2	2	280	
	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引	
		クラス				
■専門教育科目 ■選択科目 ■米地域・国際科目群	国際関係論II 大平 剛	2学期	2	2	281	
		2年				
	国際関係史I 中野 博文	1学期	2	2	282	
		2年				
	国際関係史II 木村 健二	2学期	2	2	283	
		2年				
	■法経科目群	国際貿易論I 水戸 康夫	1学期	2	2	284
			2年			
		国際貿易論II 水戸 康夫	2学期	2	2	285
		2年				
国際金融論I 前田 淳		1学期	2	2	286	
		2年				
国際金融論II 前田 淳		2学期	2	2	287	
		2年				
国際経済論I 魏 芳		1学期	2	2	288	
		2年				
国際経済論II 魏 芳		2学期	2	2	289	
		2年				
国際法I 二宮 正人		1学期	2	2	290	
		2年				
国際法II 二宮 正人		2学期	2	2	291	
	2年					
国際取引法 大隈 一武	集中	2	2	292		
	2年					
国際私法 休講	集中	2	2			
	2年					
アメリカ経済 山崎 好裕	2学期	2	2	293		
	2年					
途上国開発論 休講	1学期	2	2			
	2年					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引	
		クラス				
■専門教育科目 ■選択科目 ■英米文学・文化科目群	イギリス文学概論 休講	1学期	2	2	294	
	アメリカ文学概論 前田 譲治	1学期	2	2		
	イギリスの現代文学 杉本 美穂	1学期	2	2	295	
	アメリカの現代文学 江頭 理江	2学期	2	2		
	イギリスの18-19世紀文学 長瀬 真理子	2学期	2	2	297	
	アメリカの18-19世紀文学 非常勤:未定	2学期	2	2		
	アメリカの歴史と社会 寺田 由美	1学期	2	2	299	
	アメリカの歴史と文化 前田 譲治	1学期	2	2		
	アメリカの生活文化 休講	1学期	2	2	301	
	アメリカの大衆文化 前田 譲治	2学期	2	2		
	■専門基礎教育科目 ■必修科目	基礎演習I (発音クリニック) デニス・ジョーンズ	1学期	1	2	302
		基礎演習I (発音クリニック) 平野 圭子	1学期	1	2	
		基礎演習I (発音クリニック) フィオナ・クリーサー	1学期	1	2	304
基礎演習I (発音クリニック) 村田 希巳子		1学期	1	2		
基礎演習II ロジャー・ウィリアムソン		2学期	1	2	306	
			1	1		

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■専門基礎教育科目 ■必修科目	基礎演習II デニス・ジョーンズ	2学期	1	2	307
		1 - 2			
	基礎演習II ダニエル・ストラック	2学期	1	2	308
		1 - 3			
	基礎演習II フィオナ・クリーサー	2学期	1	2	309
		1 - 4			
	英会話演習A アンデリユー・ジッツマン	1学期	1	2	310
		1 - 1			
	英会話演習A デニス・ウールブライト	1学期	1	2	311
		1 - 2			
	英会話演習A デニス・ウールブライト	1学期	1	2	312
		1 - 3			
	英会話演習A デニス・ウールブライト	1学期	1	2	313
		1 - 4			
英作文演習A 山口 実	2学期	1	2	314	
	1 - 1				
英作文演習A 山口 実	2学期	1	2	315	
	1 - 2				
英作文演習A 江口 雅子	2学期	1	2	316	
	1 - 3				
英作文演習A 松崎 徹	2学期	1	2	317	
	1 - 4				
■選択科目	英語学概論 北峯 裕士	1学期	1	2	318
		1年			
	英文法I 廣田 恵美	1学期	1	2	319
		1 - 1・ 1 - 2			
英文法I 廣田 恵美	1学期	1	2	320	
	1 - 3・ 1 - 4				
英文法II 廣田 恵美	2学期	1	2	321	
	1 - 1・ 1 - 2				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■専門基礎教育科目 ■選択科目	英文法II 廣田 恵美	2学期	1	2	322
		1 - 3・1 - 4			
	異文化間コミュニケーション概論 山崎 和夫	2学期	1	2	323
		1年			
■演習・研究科目	日英翻訳演習 ダニエル・ストラック	1学期	2	2	324
		2 - 3			
	日英翻訳演習 ダニエル・ストラック	1学期	2	2	325
		2 - 2			
	日英翻訳演習 ダニエル・ストラック	1学期	2	2	326
		2 - 1			
	日英翻訳演習 ダニエル・ストラック	1学期	2	2	327
		2 - 4			
■必修科目	英語リスニング演習A 平野 圭子	1学期	1	2	328
		1 - 1			
	英語リスニング演習A 平野 圭子	1学期	1	2	329
		1 - 2			
	英語リスニング演習A 平野 圭子	1学期	1	2	330
		1 - 3			
	英語リスニング演習A 平野 圭子	1学期	1	2	331
		1 - 4			
	英会話演習B アンデリュー・ジッツマン	2学期	2	2	332
		2 - 1			
	英会話演習B デニス・ウールブライト	2学期	2	2	333
		2 - 2			
	英会話演習B デニス・ウールブライト	2学期	2	2	334
	2 - 3				
英会話演習B デニス・ウールブライト	2学期	2	2	335	
	2 - 4				
Reading and Discussion I クレイグ・ランバート	1学期	2	2	336	
	2 - 1				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■演習・研究科目 ■必修科目	Reading and Discussion I クレイグ・ランバート	1学期	2	2	337
		2 - 2			
	Reading and Discussion I 石井有希子	1学期	2	2	338
		2 - 3			
	Reading and Discussion I 石井有希子	1学期	2	2	339
		2 - 4			
	Reading and Discussion II クレイグ・ランバート	2学期	2	2	340
		2 - 1			
	Reading and Discussion II クレイグ・ランバート	2学期	2	2	341
		2 - 2			
	Reading and Discussion II デニス・ジョーンズ	2学期	2	2	342
		2 - 3			
	Reading and Discussion II デニス・ジョーンズ	2学期	2	2	343
		2 - 4			
	英語リスニング演習B 江口 雅子	1学期	2	2	344
		2 - 1			
	英語リスニング演習B 江口 雅子	1学期	2	2	345
		2 - 2			
	英語リスニング演習B 山口 実	1学期	2	2	346
		2 - 3			
英語リスニング演習B 山口 実	1学期	2	2	347	
	2 - 4				
英語スピーキング演習 フィオナ・クリーサー	1学期	3	2	348	
	3 - 1				
英語スピーキング演習 フィオナ・クリーサー	1学期	3	2	349	
	3 - 2				
英語スピーキング演習 フィオナ・クリーサー	1学期	3	2	350	
	3 - 3				
英語スピーキング演習 フィオナ・クリーサー	1学期	3	2	351	
	3 - 4				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■演習・研究科目 ■必修科目	英語リーディング演習I 木下 善貞	1学期	3	2	352
		3 - 1			
	英語リーディング演習I 木下 善貞	1学期	3	2	353
		3 - 2			
	英語リーディング演習I 田吹 長彦	1学期	3	2	354
		3 - 3			
	英語リーディング演習I 田吹 長彦	1学期	3	2	355
		3 - 4			
	英作文演習B フィオナ・クリーサー	2学期	3	2	356
		3 - 1			
	英作文演習B フィオナ・クリーサー	2学期	3	2	357
		3 - 2			
英作文演習B フィオナ・クリーサー	2学期	3	2	358	
	3 - 3				
英作文演習B フィオナ・クリーサー	2学期	3	2	359	
	3 - 4				
■選択科目	ビジネス英語演習 松田 智	1学期	2	2	360
		2 - 1			
	ビジネス英語演習 松田 智	1学期	2	2	361
		2 - 2			
	ビジネス英語演習 松田 智	1学期	2	2	362
		2 - 3			
	ビジネス英語演習 松田 智	1学期	2	2	363
		2 - 4			
	メディア英語演習I 北峯 裕士	1学期	2	2	364
		2 - 1			
	メディア英語演習I 北峯 裕士	1学期	2	2	365
		2 - 2			
メディア英語演習I 大塚 由美子	1学期	2	2	366	
	2 - 3				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■演習・研究科目 ■選択科目	メディア英語演習I 大塚 由美子	1学期	2	2	367
		2 - 4			
	メディア英語演習II 吉川 哲郎	2学期	2	2	368
		2 - 1			
	メディア英語演習II 吉川 哲郎	2学期	2	2	369
		2 - 2			
	メディア英語演習II 吉川 哲郎	2学期	2	2	370
		2 - 3			
	メディア英語演習II 吉川 哲郎	2学期	2	2	371
		2 - 4			
	英日翻訳演習 野島 啓一	2学期	2	2	372
		2 - 1			
	英日翻訳演習 村田 希巳子	2学期	2	2	373
		2 - 2			
	英日翻訳演習 村田 希巳子	2学期	2	2	374
		2 - 3			
	英日翻訳演習 村田 希巳子	2学期	2	2	375
		2 - 4			
	異文化間コミュニケーション演習 十時 康	1学期	2	2	376
		2 - 1			
異文化間コミュニケーション演習 十時 康	1学期	2	2	377	
	2 - 2				
異文化間コミュニケーション演習 十時 康	1学期	2	2	378	
	2 - 3				
異文化間コミュニケーション演習 山崎 和夫	1学期	2	2	379	
	2 - 4				
通訳基礎演習I 伊藤 健一	1学期	2	2	380	
	2 - 1				
通訳基礎演習I 伊藤 健一	1学期	2	2	381	
	2 - 2				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■演習・研究科目 ■選択科目	通訳基礎演習I 野島 啓一	1学期	2	2	382
		2 - 3			
	通訳基礎演習I 野島 啓一	1学期	2	2	383
		2 - 4			
	通訳基礎演習II 伊藤 健一	2学期	2	2	384
		2 - 1			
	通訳基礎演習II 伊藤 健一	2学期	2	2	385
		2 - 2			
	通訳基礎演習II 野島 啓一	2学期	2	2	386
		2 - 3			
	通訳基礎演習II 野島 啓一	2学期	2	2	387
		2 - 4			
	異文化フィールドワーク ロジャー・ウィリアムソン	1学期	2	2	388
		2年			
	英語学研究I (音声学・音韻論) 山内 ひさ子	2学期	2	2	389
		国比優先クラス			
	英語学研究II (統語論) 北峯 裕士	2学期	2	2	390
		2年			
	英語史 松崎 徹	2学期	2	2	391
		2年			
社会言語学研究 廣田 恵美	2学期	2	2	392	
	2年				
アメリカ研究 ダニエル・ストラック	2学期	2	2	393	
	2年				
イギリス研究 アダム・ヘイルズ	2学期	2	2	394	
	2年				
英米文化研究 伊藤 健一	2学期	2	2	395	
	2年				
日英文化研究 休講	1学期	2	2		
	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■演習・研究科目 ■選択科目	上級英語I アンデリュー・ジッツマン	1学期	3	2	396
	3年				
	上級英語II アンデリュー・ジッツマン	2学期	3	2	397
	3年				
	英語プレゼンテーション演習 ロジャー・ウィリアムソン	1学期	3	2	398
	3 - 1・ 3 - 2				
	英語プレゼンテーション演習 ロジャー・ウィリアムソン	1学期	3	2	399
	3 - 3・ 3 - 4				
	英語リーディング演習II 木下 善貞	2学期	3	2	400
	3 - 1				
	英語リーディング演習II 木下 善貞	2学期	3	2	401
	3 - 2				
	英語リーディング演習II 田吹 長彦	2学期	3	2	402
	3 - 3				
英語リーディング演習II 田吹 長彦	2学期	3	2	403	
3 - 4					
Advanced Reading and Discussion デニス・ジョーンズ	1学期	3	2	404	
3 - 1・ 2					
Advanced Reading and Discussion デニス・ジョーンズ	1学期	3	2	405	
3 - 3・ 4					
ビジネス英語研究 松田 智	2学期	3	2	406	
3年					
卒業課題 ゼミ指導教員	1・2学期 (ペア)	4	8	407	
4年					
異文化間コミュニケーションゼミAI ロジャー・ウィリアムソン	1学期	3	2	408	
3年					
異文化間コミュニケーションゼミAI 休講	1学期	3	2		
3年					
通訳ゼミAI 伊藤 健一	1学期	3	2	409	
3年					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■ゼミ・卒業課題科目	通訳ゼミAI	1学期	3	2	410
	野島 啓一	3年			
	通訳ゼミAI	1学期	3	2	411
	木下 善貞	3年			
	通訳ゼミAI	1学期	3	2	412
	ダニエル・ストラック	3年			
	通訳ゼミAI	1学期	3	2	
	休講	3年			
	ビジネス英語ゼミAI	1学期	3	2	413
	松田 智	3年			
	メディア英語ゼミAI	1学期	3	2	414
	吉川 哲郎	3年			
	メディア英語ゼミAI	2学期	3	2	415
	アダム・ヘイルズ	3年			
	アメリカ研究ゼミAI	1学期	3	2	416
	デニス・ジョーンズ	3年			
	イギリス研究ゼミAI	1学期	3	2	
	休講	3年			
	英語学ゼミAI	1学期	3	2	417
	北峯 裕士	3年			
英語教育ゼミAI	1学期	3	2	418	
クレイグ・ランバート	3年				
社会言語学ゼミAI	1学期	3	2	419	
平野 圭子	3年				
異文化間コミュニケーションゼミAII	2学期	3	2	420	
ロジャー・ウィリアムソン	3年				
異文化間コミュニケーションゼミAII	2学期	3	2		
休講	3年				
通訳ゼミAII	2学期	3	2	421	
伊藤 健一	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■ゼミ・卒業課題科目	通訳ゼミAII	2学期	3	2	422
	野島 啓一	3年			
	通訳ゼミAII	2学期	3	2	423
	木下 善貞	3年			
	通訳ゼミAII	2学期	3	2	424
	ダニエル・ストラック	3年			
	通訳ゼミAII	2学期	3	2	
	休講	3年			
	ビジネス英語ゼミAII	2学期	3	2	425
	松田 智	3年			
	メディア英語ゼミAII	2学期	3	2	426
	吉川 哲郎	3年			
	メディア英語ゼミAII	2学期	3	2	427
	アダム・ヘイルズ	3年			
	アメリカ研究ゼミAII	2学期	3	2	428
	デニス・ジョーンズ	3年			
イギリス研究ゼミAII	2学期	3	2		
休講	3年				
英語学ゼミAII	2学期	3	2	429	
北峯 裕士	3年				
英語教育ゼミAII	2学期	3	2	430	
クレイグ・ランバート	3年				
社会言語学ゼミAII	1学期	3	2	431	
平野 圭子	3年				
異文化間コミュニケーションゼミBI	1学期	4	2	432	
山崎 和夫	4年				
異文化間コミュニケーションゼミBI	1学期	4	2	433	
ロジャー・ウィリアムソン	4年				
通訳ゼミBI	1学期	4	2	434	
伊藤 健一	4年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		1学期	4	2	
■専門教育科目 ■ゼミ・卒業課題科目	通訳ゼミBI 野島 啓一	1学期	4	2	435
		4年			
	通訳ゼミBI 木下 善貞	1学期	4	2	436
		4年			
	通訳ゼミBI ダニエル・ストラック	1学期	4	2	437
		4年			
	ビジネス英語ゼミBI 松田 智	1学期	4	2	438
		4年			
	メディア英語ゼミBI 吉川 哲郎	1学期	4	2	439
		4年			
	メディア英語ゼミBI 休講	1学期	4	2	
		4年			
	アメリカ研究ゼミBI デニス・ジョーンズ	1学期	4	2	440
		4年			
	イギリス研究ゼミBI 木原 謙一	1学期	4	2	441
		4年			
	英語学ゼミBI 北峯 裕士	1学期	4	2	442
		4年			
	英語教育ゼミBI クレイグ・ランバート	1学期	4	2	443
	4年				
社会言語学ゼミBI 平野 圭子	1学期	4	2	444	
	4年				
異文化間コミュニケーションゼミBII 山崎 和夫	2学期	4	2	445	
	4年				
異文化間コミュニケーションゼミBII ロジャー・ウィリアムソン	2学期	4	2	446	
	4年				
通訳ゼミBII 伊藤 健一	2学期	4	2	447	
	4年				
通訳ゼミBII 野島 啓一	2学期	4	2	448	
	4年				

外国語学部 英米学科 (2011年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■ゼミ・卒業課題科目	翻訳ゼミBII 木下 善貞	2学期	4	2	449
		4年			
	翻訳ゼミBII ダニエル・ストラック	2学期	4	2	450
		4年			
	ビジネス英語ゼミBII 松田 智	2学期	4	2	451
		4年			
	メディア英語ゼミBII 吉川 哲郎	2学期	4	2	452
		4年			
	メディア英語ゼミBII 休講	1学期	4	2	
		4年			
	アメリカ研究ゼミBII デニス・ジョーンズ	2学期	4	2	453
		4年			
	イギリス研究ゼミBII 木原 謙一	2学期	4	2	454
		4年			
英語学ゼミBII 北峯 裕士	2学期	4	2	455	
	4年				
英語教育ゼミBII クレイグ・ランバート	2学期	4	2	456	
	4年				
社会言語学ゼミBII 平野 圭子	1学期	4	2	457	
	4年				
■教職に関する科目	英語科教育法A 休講	1学期	2	2	
		2年			
	英語科教育法A 森 千鶴	1学期	2	2	458
		2年			
	英語科教育法B 休講	2学期	2	2	
		2年			
英語科教育法B 森 千鶴	2学期	2	2	459	
	2年				
道徳教育の研究 黒田 耕司	1学期	2	2	460	
	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■教職に関する科目	教育実習 3 恒吉 紀寿 他	1学期	4	2	461
		4年			
	英語科教育法 C クレイグ・ランバート	1学期	2	2	462
		2年			
	英語科教育法 D 伊藤 健一	2学期	2	2	463
		2年			
■必修科目	教師論 黒田 耕司	1学期	1	2	464
		1年			
	教育原理 見玉 弥生	2学期	1	2	465
		1年			
	発達心理学 税田 慶昭	1学期	2	2	466
		2年			
	教育制度 見玉 弥生	1学期	3	2	467
		3年			
	特別活動の研究 楠 凡之	1学期	2	2	468
		2年			
	教育方法学 黒田 耕司	2学期	2	2	469
		2年			
	教育工学 大塚 一徳	2学期	2	2	470
		2年			
	教育実習 1 黒田 耕司 他	2学期	3	2	471
		3年			
	教育実習 2 恒吉 紀寿 他	1学期	4	2	472
		4年			
教育相談 楠 凡之	1学期	2	2	473	
	2年				
生徒・進路指導論 楠 凡之	2学期	2	2	474	
	2年				
教職実践演習 未開講	2学期	4	2		
	4年				

外国語学部 英米学科 (2011年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■教職に関する科目 ■選択科目	教育心理学 五十嵐 亮	2学期	2	2	475
		2年			
	教育法規 児玉 弥生	2学期	3	2	476
		3年			
	障害児の心理と指導 休講	2学期	2	2	
		2年			
	教育社会学 休講	1学期	2	2	
		2年			
■教科または教職に関する科目	人権教育論 弓野 勝族	1学期	2	2	477
		2年			

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	歴史と政治 小林 道彦	1学期	1	2	478
		1年			
	家族を問う 小野 憲昭	2学期	1	2	479
		1年			
	人間と文化 神原 ゆうこ	1学期	1	2	480
		1年			
	ことばの科学 漆原 朗子	1学期	1	2	481
		1年			
	国際学入門 伊野 憲治	1学期	1	2	482
		1年			
	教養としての平和学 戸蒔 仁司	2学期	1	2	483
		1年			
	可能性としての歴史 (昼のみ開講)		2	2	
		2年			
	家族の再生 (昼のみ開講)		2	2	
		2年			
	文化と政治 (昼のみ開講)		2	2	
		2年			
	言語と認知 (昼のみ開講)		2	2	
	2年				
共生社会論 (昼のみ開講)		2	2		
	2年				
戦争と平和 (昼のみ開講)		2	2		
	2年				
生活世界の哲学 伊原木 大祐	2学期	1	2	484	
	1年				
共同体と身体 (昼のみ開講)		2	2		
	2年				
■スキル科目	メンタル・ヘルスI 中島 俊介	1学期	1	2	485
		1年			

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■スキル科目	メンタル・ヘルスII 中島 俊介	2学期	1	2	486
		1年			
	フィジカル・ヘルスI 内田 若希	1学期	1	2	487
		1年			
	フィジカル・ヘルスII 休講	2学期	1	2	
		1年			
	自己管理論 (昼のみ開講)		1	2	
		1年			
	キャリア・デザイン (昼のみ開講)		1	2	
		1年			
	コミュニケーションと思考法 (昼のみ開講)		1	2	
		1年			
	プロフェッショナルの仕事 (昼のみ開講)		2	2	
		2年			
	大学論・学問論 (昼のみ開講)		1	2	
		1年			
法律の読み方 (昼のみ開講)		1	2		
	1年				
社会調査 休講	2学期	1	2		
	1年				
統計を読む・統計をつくる (昼のみ開講)		1	2		
	1年				
フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 休講	1学期	1	1		
	1年				
フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 徳永 政夫	2学期	1	1	488	
	1年				
■教養演習科目	教養基礎演習I (昼のみ開講)		1	2	
		1年			
	教養基礎演習II (昼のみ開講)		1	2	
		1年			

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養演習AⅠ (昼のみ開講)		2	2	
		2年			
	教養演習AⅡ (昼のみ開講)		2	2	
		2年			
	教養演習BⅠ (昼のみ開講)		3	2	
		3年			
	教養演習BⅡ 二宮 正人	2学期	3	2	489
	3年				
プロジェクト演習Ⅰ (昼のみ開講)		2	2		
	2年				
プロジェクト演習Ⅱ (昼のみ開講)		3	2		
	3年				
■テーマ科目	自然学のまなざし(人間と生命) 日高 京子	2学期	1	2	490
		1年			
	動物のみかた (昼のみ開講)		1	2	
		1年			
	地球の生いたち 休講	2学期	1	2	
		1年			
	自然史へのいざない (昼のみ開講)		1	2	
		1年			
くらしと化学 秋貞 英雄	1学期	1	2	491	
	1年				
現代人のこころ 森永 今日子	1学期	1	2	492	
	1年				
数のたのしみ (昼のみ開講)		1	2		
	1年				
私たちと宗教 (昼のみ開講)		1	2		
	1年				
思想と現代 休講	1学期	1	2		
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引	
		クラス				
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	ものがたりと人間 (昼のみ開講)		1	2	1年	
	文化と表象 (昼のみ開講)		1	2	1年	
	言語とコミュニケーション (昼のみ開講)		1	2	1年	
	芸術と人間 (昼のみ開講)		1	2	1年	
	文学を読む 休講	2学期	1	2	1年	
	戦争と人間 (昼のみ開講)		1	2	1年	
	現代正義論 重松 博之	2学期	1	2	1年	493
	民主主義とは何か 休講	1学期	1	2	1年	
	人権論 休講	1学期	1	2	1年	
	ジェンダー論 休講	1学期	1	2	1年	
障がい学 伊野 憲治 他	2学期	1	2	1年	494	
共生の作法 (昼のみ開講)		1	2	1年		
北九州学 休講	2学期	1	2	1年		
市民活動論 西田 心平	2学期	1	2	1年	495	
企業と社会 休講	1学期	1	2	1年		

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	つなぐりの人間学 (昼のみ開講)		1	2	496
		1年			
	現代社会と倫理 休講	1学期	1	2	497
		1年			
	現代社会の諸問題 重松 博之 他	2学期	1	2	498
		1年			
	現代の国際情勢 休講	1学期	1	2	499
		1年			
	国際社会論 稲月 正	1学期	1	2	500
		1年			
	国際紛争と国連 休講	1学期	1	2	501
		1年			
	民族・エスニシティ問題 (昼のみ開講)		1	2	502
		1年			
	開発と統治 休講	2学期	1	2	503
		1年			
	グローバル化する経済 前田 淳 他	2学期	1	2	504
		1年			
	テロリズム論 (昼のみ開講)		1	2	505
		1年			
国際社会と日本 中野 博文	1学期	1	2	506	
	1年				
歴史の読み方I 小林 道彦	1学期	1	2	507	
	1年				
歴史の読み方II 小林 道彦	1学期	1	2	508	
	1年				
そのとき世界は (昼のみ開講)		1	2	509	
	1年				
戦後の日本経済 (昼のみ開講)		1	2	510	
	1年				

外国語学部 英米学科 (2011年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	都市と農村の生活文化史 福間 裕爾	1学期	1	2	502
		1年			
	もとと人間の歴史 (昼のみ開講)		1	2	
		1年			
	人物と時代の歴史 山崎 勇治 他	1学期	1	2	503
		1年			
	教養特講I (昼のみ開講)		1	2	
		1年			
	教養特講II (昼のみ開講)		1	2	
		1年			
	教養特講III (昼のみ開講)		1	2	
		1年			
教養特講IV (昼のみ開講)		1	2		
	1年				
■教職関連科目	日本史 内山 一幸	2学期	1	2	504
		1年			
	西洋史 疇谷 憲洋	1学期	1	2	505
		1年			
	東洋史 藤野 月子	2学期	1	2	506
		1年			
	社会学 稲月 正	1学期	1	2	507
		1年			
	人文地理学 吉津 直樹	2学期	1	2	508
		1年			
土地地理学 野井 英明	1学期	1	2	509	
	1年				
地誌学 吉津 直樹	1学期	1	2	510	
	1年				
日本国憲法 休講	2学期	1	2		
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教職関連科目	倫理学 伊原木 大祐	2学期	1	2	511
	1年				
■情報教育科目	エンドユーザコンピューティング 中尾 泰士	2学期	1	2	512
	群・夜間主コース				
	データ処理 中尾 泰士	1学期	1	2	513
	群・夜間主コース				
	情報表現 (昼のみ開講)		2	2	
	2年				
プログラミング基礎 (昼のみ開講)		2	2		
2年					
■外国語教育科目 ■第一外国語	英語I 杉山 智子	1学期	1	1	514
	英夜1年				
	英語II 杉山 智子	2学期	1	1	515
	英夜1年				
	英語III クリストファー・オサリバン	1学期	1	1	516
	英夜1年				
	英語IV クリストファー・オサリバン	2学期	1	1	517
	英夜1年				
	英語V 伊藤 晃	1学期	2	1	518
	英夜2年				
	英語VI 漆原 朗子	2学期	2	1	519
	英夜2年				
	英語VII クリストファー・オサリバン	1学期	2	1	520
	英夜2年				
英語VIII クリストファー・オサリバン	2学期	2	1	521	
英夜2年					
■第二外国語	中国語I 一木 達彦	1学期	1	1	522
	英比人夜1年				
	中国語II 一木 達彦	2学期	1	1	523
英比人夜1年					

科目区分	科目名	担当者	学期	履修年次	単位	索引
			クラス			
	備考					
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	中国語Ⅲ	王 占華	1学期	1	1	524
			英比人夜 1年			
	中国語Ⅳ	王 占華	2学期	1	1	525
			英比人夜 1年			
	朝鮮語Ⅰ	金 光子	1学期	1	1	526
			英比人夜 1年			
	朝鮮語Ⅱ	金 光子	2学期	1	1	527
			英比人夜 1年			
	朝鮮語Ⅲ	金 光子	1学期	1	1	528
			英比人夜 1年			
	朝鮮語Ⅳ	金 光子	2学期	1	1	529
			英比人夜 1年			
	ロシア語Ⅰ	芳之内 雄二	1学期	1	1	530
			英比人夜 1年			
	ロシア語Ⅱ	芳之内 雄二	2学期	1	1	531
			英比人夜 1年			
	ロシア語Ⅲ	芳之内 雄二	1学期	1	1	532
			英比人夜 1年			
	ロシア語Ⅳ	芳之内 雄二	2学期	1	1	533
			英比人夜 1年			
ドイツ語Ⅰ	山下 哲雄	1学期	1	1	534	
		英夜 1年				
ドイツ語Ⅱ	山下 哲雄	2学期	1	1	535	
		英夜 1年				
ドイツ語Ⅲ	山下 哲雄	1学期	1	1	536	
		英夜 1年				
ドイツ語Ⅳ	山下 哲雄	2学期	1	1	537	
		英夜 1年				
フランス語Ⅰ	福島 勲	1学期	1	1	538	
		英夜 1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	フランス語II 福島 勲	2学期	1	1	539
		英夜 1年			
	フランス語III 福島 勲	1学期	1	1	540
		英夜 1年			
	フランス語IV 福島 勲	2学期	1	1	541
		英夜 1年			
	スペイン語I 岡住 正秀	1学期	1	1	542
		英比人夜 1年			
スペイン語II 岡住 正秀	2学期	1	1	543	
	英比人夜 1年				
スペイン語III 岡住 正秀	1学期	1	1	544	
	英比人夜 1年				
スペイン語IV 岡住 正秀	2学期	1	1	545	
	英比人夜 1年				
■専門教育科目 ■選択科目 ■米地域・国際科目群	地域研究入門 (アメリカ) 休講	1学期	2	2	
		2年			
	アメリカの社会I 休講	1学期	2	2	
		2年			
	アメリカの社会II 休講	2学期	2	2	
		2年			
	アメリカの政治I 休講	1学期	2	2	
		2年			
アメリカの政治II 休講	2学期	2	2		
	2年				
アメリカの政治III 休講	1学期	2	2		
	2年				
アメリカの政治IV 休講	2学期	2	2		
	2年				
■法経科目群	国際貿易論I 山口 実	1学期	2	2	546
		2年			

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目 ■法経科目群	国際貿易論II 山口 実	2学期	2	2	547
		2年			
	国際金融論I 休講	1学期	2	2	
		2年			
	国際金融論II 休講	2学期	2	2	
		2年			
	国際経済論I 魏 芳	1学期	2	2	548
		2年			
	国際経済論II 魏 芳	2学期	2	2	549
		2年			
	国際法I 二宮 正人	1学期	2	2	550
		2年			
	国際法II 休講	2学期	2	2	
		2年			
	国際取引法 休講	集中	2	2	
		2年			
国際私法 中林 啓一	集中	2	2	551	
	2年				
アメリカ経済 休講	2学期	2	2		
	2年				
途上国開発論 三宅 博之	2学期	2	2	552	
	2年				
■英米文学・文化科目群	イギリス文学概論 田部井 世志子	1学期	2	2	553
		2年			
	アメリカ文学概論 休講	1学期	2	2	
		2年			
イギリスの現代文学 休講	1学期	2	2		
	2年				
アメリカの現代文学 休講	2学期	2	2		
	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■選択科目 ■英米文学・文化科目群	イギリスの18-19世紀文学	2学期	2	2	
	休講	2年			
	アメリカの18-19世紀文学	2学期	2	2	
	休講	2年			
	アメリカの歴史と社会	1学期	2	2	
	休講	2年			
	アメリカの歴史と文化	1学期	2	2	
	休講	2年			
アメリカの生活文化	1学期	2	2	554	
寺田 由美	2年				
アメリカの大衆文化	2学期	2	2		
休講	2年				
■ゼミ・卒業課題科目	卒業課題	1・2学期(ペア)	4	8	555
	ゼミ指導教員	4年			
	異文化間コミュニケーションゼミBI	1学期	4	2	556
	ロジャー・ウィリアムソン	4年			
	異文化間コミュニケーションゼミBII	2学期	4	2	557
	ロジャー・ウィリアムソン	4年			
■選択科目 ■実践ビジネス科目群	グループ演習(ディベート・討論)	1学期	2	2	558
	伊藤 健一 ※副専攻プログラム履修者のみ本科目を履修できます。	2年			
	Japanese Affairs	1学期	2	2	559
	フィオナ・クリーサー ※副専攻プログラム履修者のみ本科目を履修できます。	2年			
	Japanese Culture and Society	1学期	2	2	560
	ロジャー・ウィリアムソン ※副専攻プログラム履修者のみ本科目を履修できます。	2年			
	経営学I	1学期	2	2	561
	晴山 英夫 ※副専攻プログラム履修者のみ本科目を履修できます。	2年			
	企業研究I	2学期	2	2	562
	晴山 英夫 ※副専攻プログラム履修者のみ本科目を履修できます。	2年			
	Chinese Culture and Society	2学期	2	2	563
	金縄 初美 ※副専攻プログラム履修者のみ本科目を履修できます。	2年			

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目 ■実践ビジネス科目群	English Speaking Cultures and Societies ダニエル・ストラック	2学期	2	2	564
	※副専攻プログラム履修者のみ本科目を履修できます。	2年			
	国際経営 晴山 英夫	2学期	2	2	565
	※副専攻プログラム履修者のみ本科目を履修できます。	2年			
	経営学II 齋藤 貞之	2学期	2	2	566
	※副専攻プログラム履修者のみ本科目を履修できます。	2年			
■教職に関する科目	英語科教育法A 森 千鶴	1学期	2	2	567
		2年			
	英語科教育法B 森 千鶴	2学期	2	2	568
		2年			
	道徳教育の研究 黒田 耕司	1学期	2	2	569
		2年			
	教育実習3 恒吉 紀寿	1学期	4	2	570
		4年			
	英語科教育法C 休講	1学期	2	2	
		2年			
	英語科教育法D 休講	2学期	2	2	
		2年			
■必修科目	教師論 黒田 耕司	1学期	1	2	571
		1年			
	教育原理 見玉 弥生	2学期	1	2	572
		1年			
	発達心理学 税田 慶昭	1学期	2	2	573
		2年			
	教育制度 見玉 弥生	1学期	3	2	574
		3年			
	特別活動の研究 楠 凡之	1学期	2	2	575
		2年			
教育方法学 黒田 耕司	2学期	2	2	576	
	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■教職に関する科目 ■必修科目	教育工学 大塚 一徳	2学期	2	2	577
	2年				
	教育実習 1 黒田 耕司	2学期	3	2	578
	3年				
	教育実習 2 恒吉 紀寿	1学期	4	2	579
	4年				
	教育相談 楠 凡之	1学期	2	2	580
2年					
生徒・進路指導論 楠 凡之	2学期	2	2	581	
2年					
教職実践演習 未開講	2学期	4	2		
4年					
■選択科目	教育心理学 休講	2学期	2	2	
	2年				
	教育法規 休講	2学期	3	2	
	3年				
障害児の心理と指導 税田 慶昭	2学期	2	2	582	
2年					
教育社会学 見玉 弥生	1学期	2	2	583	
2年					
■教科または教職に関する科目	人権教育論 弓野 勝族	1学期	2	2	584
	2年				

歴史と政治【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ペリー来航（1853）から敗戦（1945）までの日本政治の歩みを外交政策の展開と関連させて概説する。日本のことを知らないで、国際化社会に対処することはできません。この講義では、日本近代史を学び直すことを通じて、21世紀にふさわしい歴史的感覚を涵養していきます。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○伊藤之雄『明治天皇』（ミネルヴァ書房）、○小林道彦『児玉源太郎』・『桂太郎』（ともにミネルヴァ書房）、○岡義武『山県有朋』（岩波新書）、○岡義武『近衛文麿』（岩波新書）、○高坂正堯『宰相吉田茂』など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 明治維新【維新の三傑】
- 第3回 不平等条約と条約改正
- 第4回 明治14年政変と朝鮮問題【伊藤博文】
- 第5回 日清戦争【陸奥宗光】
- 第6回 明治憲法体制【伊藤博文】
- 第7回 日露戦争【山県有朋】
- 第8回 大正政変 - 国家経営構想の分裂 - 【桂太郎】
- 第9回 21カ条要求【大隈重信】
- 第10回 原敬と協調外交【原敬】
- 第11回 二大政党制と外交政策【加藤高明】
- 第12回 政党政治と満州事変【浜口雄幸】
- 第13回 2・26事件と日中戦争【近衛文麿】
- 第14回 太平洋戦争【東条英機】【吉田茂】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な講義への取り組み...10% 期末試験...90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「ただ聴くだけ」という受講態度は許されない。講義前に高校教科書レベルの知識を得ておくこと。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

家族を問う【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

私たちが共同生活を営んでいる社会の最小単位である家族、信頼のおけるかけがえのない存在であるこの家族に今何が起きているのか。迷走し、混迷する家族の実像から、現代の家族が抱える問題点を明らかにしてみようと思っています。

教科書 /Textbooks

レジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 開講にあたって-問題の出発点
- 2回 家族制度の歴史
- 3回 家族の機能
- 4回 ハードウェアとしての家族
- 5回 システムとしての家族① - しつけ・教育
- 6回 システムとしての家族② - 役割・役割分担
- 7回 システムとしての家族③ - 勢力・権威
- 8回 現代家族の課題-離婚の原因
- 9回 現代家族の課題-離婚制度
- 10回 現代家族の課題-中高年の離婚
- 11回 現代家族の課題-夫婦間暴力
- 12回 現代家族の課題-児童虐待
- 13回 現代家族の課題-家族の危機
- 14回 現代家族の課題-高齢社会と家族
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み... 10% 定期試験... 90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布するレジュメに紹介した参考文献、図書館所蔵の関連図書を読み込むと理解を深めることができます。講義ノートを作成するよう心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人間と文化【昼】

担当者名 /Instructor 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「文化」という言葉から伝統芸能や芸術活動を連想する受講者も多いかもしれない。本講義では文化を「人間の生活様式を規定してきたもの」としてより幅広く考え、現代社会における多様な文化のありかたを基礎から考えることを目指す。

(おそらく大部分が)北九州周辺に在住の大学生という受講者にとってあたりまえである「常識」もまた、それまで生きてきた文化のなかで育まれたものである。グローバル化が進んだ現在でも、地域によって家族・親族関係のありかた、信仰のありかた、経済活動に関する考え方は大きく異なるものであり、その違いを理解するのが困難なこともある。本講義では、その違いについて逐一学ぶものではない。身近なようでつかみどころのない文化をどうとらえるか、自分なりの姿勢を身に着けるための手掛かりを学んでほしい。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。授業ではPower Pointを使用するが、Power Pointのキーワードを書き写しただけで、安心せず、ノートをしっかり取ること。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 綾部恒雄・桑山敬己2006『よくわかる文化人類学』ミネルヴァ書房
- 奥野克己(編)2005『文化人類学のレッスン』学陽書房
- 春日直樹(編)2008『人類学で世界をみる』ミネルヴァ書房

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入：グローバルでローカルな世界を理解するてがかりとしての文化
- 第2回 異文化理解とは
- 第3回 家族は普遍的か？
- 第4回 生殖医療の時代の家族・親族関係を考える
- 第5回 親族・家族関係から社会関係への拡張
- 第6回 ジェンダー
- 第7回 伝統と普遍的価値観
- 第8回 中間試験 / 経済活動に見る文化：導入
- 第9回 経済活動にみる文化②：贈与・交換とは
- 第10回 経済活動にみる文化③：現代の贈与・交換
- 第11回 開発の現場における「文化の差異」
- 第12回 「貧しさ」とは何か
- 第13回 中間試験の講評 / 文化と世界観①：儀礼
- 第14回 文化と世界観②：宗教・呪術・占い
- 第15回 講義のまとめ 文化をめぐる問題の現状

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験 20%、期末試験 80% を基本に、エッセイによる授業貢献を適宜加点する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回最後の10-15分は指定するトピック(次回のテーマに関するもの)についてのエッセイを記述し、提出してもらいます。次回の講義の冒頭で、提出されたエッセイから読み取れる「現在、受講者が持っている文化に関する常識」を導入に講義を進めます。専門分野に関わらず、日常的に新聞、雑誌、書籍などを読む習慣をつけ、自分の考えをまとめる訓練を心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

中間試験の無断欠席者および授業態度が目に見える受講生は、評価割合の枠を超えて大幅に減点する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義「人間と文化」では、文化について生活に密着した側面に注目しています。2年次以上対象の「文化と政治」を受講すると、文化についてより包括的な理解が深まります。

キーワード /Keywords

文化、個人と集団、世界観、経済活動、共同体、社会関係

ことばの科学 【昼】

担当者名 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「ことば」は種としての「ヒト」を特徴づける重要な要素です。しかし、私たちはそれをいかにして身につけたのでしょうか。「ことば」はどのような構造と機能を持っているのでしょうか。「ことば」の構成要素を詳しく見ていくと、私たちが「ことば」のうちに無意識に体現しているすばらしい規則性が明らかになります。それは、狭い意味での「文法」ではなく、もっと広い意味での言語の知識です。この講義では、私の専門である生成文法の言語観に基づきながら、日本語、英語をはじめその他の言語のデータや最新の脳科学での発見を交え、「ことば」について考えていきます。

教科書 /Textbooks

配布資料・その他授業中に指示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『はじめて学ぶ言語学：ことばの世界をさぐる17章』大津由紀雄編著、ミネルヴァ書房、2009年。
- 『言語を生み出す本能(上)・(下)』スティーヴン・ピンカー著、椋田 直子訳、NHKブックス、1995年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 序(1)：ことばの不思議
- 第2回 序(2)：ことばの習得
- 第3回 ことばの単位(1)：音声と音韻
- 第4回 連濁・鼻濁音
- 第5回 ことばの単位(2)：語
- 第6回 語の基本：成り立ち・構造・意味
- 第7回 語の文法：複合語・短縮語・新語
- 第8回 言葉の単位(3)：文
- 第9回 動詞の自他
- 第10回 日本語と英語の受動態
- 第11回 数量詞
- 第12回 代名詞：「彼」「彼女」「自分」「自分自身」
- 第13回 時制と相：方言比較
- 第14回 ことばと脳：言語野と他の領域
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の態度...10% 課題...30% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際学入門 【昼】

担当者名 伊野 憲治 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代の国際社会を理解するに当たっては、大きく2本の柱が必要となる。すなわち、①グローバル化のすすむ国際社会へ対応する形での研究(国際関係論、国際機構論、国際地域機構論、国際経済論、国際社会論など)と②世界の多様化に対応するための研究(地域研究、比較文化論、比較政治論など)である。本講義では、後者「地域研究」の問題意識、手法を中心に、現代国際社会理解に当たって、その有用性を考えてみる。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準等の説明。
- 第2回：現代の国際社会、現代国際社会理解の方法。【国際問題の変容】【グローバル化】【多様化】
- 第3回：「地域研究」の問題意識、「地域研究のルーツ」
- 第4回～6回：「地域研究」における総合的認識。【総合化】【全体像の把握】
- 第7回～9回：「地域研究」における文化主義的アプローチ。【文化主義】【オリエンタリズム】
- 第10回：「地域」概念、中間的まとめ。
- 第11回：「地域研究」の技法。【フィールドワーク】
- 第12回：「関わり」の問題。
- 第13回～14回：地域研究の視点、ミャンマー研究を事例として。
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

可能であるならば、本講義と共に、国際関係論、国際機構論、比較文化論などを履修することを勧める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養としての平和学 【昼】

担当者名 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

皆さんがこれまで漠然と認識してきた「戦争」や「平和」という既成概念を改めて真剣に問い返して、戦争アレルギーに基づく思考停止的反戦主義や現実性に乏しい理想主義的平和主義を廃し、現実的な平和思考を養うことを目的とします。一言で言えば「平和とは何か」がテーマです。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～5回 問題提起、戦争の定義
- 6回～8回 平和の定義、積極平和論
- 9回～11回 日本の平和主義
- 12回～13回 正戦論(正義の戦争はあるか)
- 14回 二重結果の原則
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

可能性としての歴史【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「歴史にイフは禁物」とよく言われるが、本当にそうなのか？安易なイフの設定はたしかに禁物だが、イフを上手に導入すれば、歴史の失われた可能性が見えてくるだろう。この講義では、おもに日本外交史を講義する中で、いくつかのイフを導入して、日本近代史の別の可能性をみなさんとともに考えていこうと思う。なお、「歴史と政治」「歴史の読み方II」を受講していただいた方が、講義の理解はより深まります。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○小林道彦『桂太郎』(ミネルヴァ書房)など。適宜、講義の中で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 日清戦争 - 戦争回避の可能性はなかったのか？【陸奥宗光】
- 3回 日露戦争 - 戦争回避の可能性はなかったのか？【小村寿太郎】
- 4回 もし、伊藤博文が暗殺されなかったら - 韓国併合回避の可能性はあったか？ - 【山県有朋】
- 5回 もし、明治天皇がもっと長生きしていたら - 2大政党制の誕生 - 【桂太郎】
- 6回 もし、シーメンス事件が発覚しなかったら？ - 大隈内閣と21カ条要求 - 【山本権兵衛】
- 7回 もし、原敬が暗殺されなかったら？ - 政党政治による軍部支配 - 【田中義一】
- 8回 もし、加藤高明が急死しなかったら？ - 外交政策の安定化 - 【護憲三派内閣】
- 9回 もし、若槻礼次郎内閣が崩壊しなかったら？ - 満州事変は失敗していた？ - 【石原莞爾】
- 10回 もし、2・26事件が起こらなかったら？ - 日中戦争回避の可能性 - 【高橋是清】
- 11回 もし、1940年夏にフランスがドイツに勝利していたら？(日独伊三国同盟)【ヒトラー】
- 12回 もし、鈴木貫太郎内閣がポツダム宣言を受諾しなかったら？(太平洋戦争)【本土決戦】。
- 13回 もし、西郷隆盛が亡くならなかったら【西南戦争】【藩閥政府】。
- 14回 歴史にifは必要だ！
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...10%、期末試験...90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

※学生諸君の理解度に鑑みて、講義内容を若干変更する可能性があります。「ただ聴くだけ」という受講態度は許されない。最低限、高校教科書レベル+αの予習を毎回やってきて下さい。そのための文献は適宜指示します。

履修上の注意 /Remarks

相当量の板書をするので、ノートはこまめにとること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

家族の再生【昼】

担当者名 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代家族の状況、家族の形成、再生の試みを紹介しながら今後の家族の行方を探り、家族の可能性、家族とともに生きることを考えてみようと思っています。

教科書 /Textbooks

レジュメを使用します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに-ガイダンス
- 2回 家族を見つめる① - 統計から見る家族
- 3回 家族を見つめる② - 現代家族のゆくえ
- 4回 家族を見つめる③ - 家族論の変化
- 5回 家族モデルを考える① - 戦後に形成された家族のモデル
- 6回 家族モデルを考える② - 家族モデルの特徴と役割
- 7回 家族モデルを考える③ - 家族モデルのゆくえ
- 8回 家族の危機を回避する① - 家族の発達課題
- 9回 家族の危機を回避する② - 夫婦のかかわり
- 10回 家族の危機を回避する③ - 中高年の夫婦について
- 11回 家族の危機を回避する④ - 夫婦のコミュニケーション
- 12回 家族の危機を回避する⑤ - 親子のかかわり
- 13回 家庭裁判所の利用を考える① - 家庭裁判所の概要
- 14回 家庭裁判所の利用を考える② - 家庭裁判所の役割
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み... 10% 定期試験... 90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布するレジュメに紹介した参考文献、図書館所蔵の関連図書を読み込むと理解を深めることができます。講義ノートを作成するよう心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義の内容や教科書、参考書を参照しながら、論点ごとに講義ノートを作成して理解を深めてください。

キーワード /Keywords

文化と政治【昼】

担当者名 /Instructor 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 2学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

グローバルな現代世界において、異なる文化同士の対立がしばしば政治的な問題となり、その解決のために異なる文化同士の共生が必要とされている。しかし、どの文化とも共生が可能になる万能のマニュアルのようなものは存在しない。ケースに応じて対応する能力が必要であり、本講義では、現代社会が抱える問題を取り上げながら、判断のための基礎知識を身につけることを目的とする。
講義の前半は、「文化を知ること」そのものが持つ政治性について講義を行い、後半はグローバリゼーションの具体的な現場が抱える問題に注目して講義を行う。

教科書 /Textbooks

以下の参考文献を各人の興味にあわせて一冊以上読んでおくことが望ましい。授業ではPower Pointを使用するが、それだけに頼らず、各自ノートをしっかり取ること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 岩竹美加子 1996 『民俗学の政治性』 未来社
- ウルリヒ・ベック 2010 『世界リスク社会論』 ちくま学芸文庫
- 吉田憲司1999 『文化の「発見」』 岩波書店
- 関根政美 2000 『多文化主義社会の到来』 朝日選書
- 陳天璽 2005 『無国籍』 新潮社
- デヴッド・ヘルド 2002 『グローバル化とは何か』 法律文化社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入：授業の説明 / 本講義において文化とは何を意味するのか
- 第2回 自文化・異文化を知ること / 知らないこととはどういうことか？
- 第3回 自文化を知ることの政治性：ナショナリズムと文化
- 第4回 自文化を知ることの政治性の裏面：先住民・少数民族の文化に関して
- 第5回 異文化を知ることの政治性①：「未開の人々」へのエキゾチズム
- 第6回 異文化を知ることの政治性②：植民地主義と博物館
- 第7回 普遍的な概念はあるか？
- 第8回 中間試験
- 第9回 グローバリゼーションの時代と人の移動
- 第10回 中間試験講評 / ナショナリズム・エスノナショナリズムと紛争
- 第11回 共生のための政治①：多文化主義
- 第12回 共生のための政治②：多文化主義の限界？
- 第13回 文化帝国主義
- 第14回 「わからないもの / こと」を取り巻く政治①グローバルな危機への対応
- 第15回 「わからないもの / こと」を取り巻く政治②リスク社会

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験30%、期末試験70%
そのほか講義中に課した提出物にすばらしいものがあれば評価に加える。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

高校レベルの世界史、地理、現代社会などに自信がない学生は、背景となる事象を知らないままにせず、調べておくこと。

履修上の注意 /Remarks

中間試験を無断欠席した学生は、評価割合をこえて厳しく減点することもある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ビジョン科目「人間と文化」を受講済みの学生は、授業の理解度が高まります。「人間と文化」が異文化理解の基礎であるならば、「文化と政治」はより時事的な問題を用いる応用的な講義となります。

キーワード /Keywords

ナショナリズム、マイノリティ、グローバリゼーション、多文化主義

言語と認知【昼】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター, 中溝 幸夫 / NAKAMIZO SACHIO / 非常勤講師
杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター, 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター
ダニエル・ストラック / Daniel C. Strack / 英米学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

言語の習得やコミュニケーションにおける処理はどのように行われるのか。特に、それらはヒトの他の認知能力（視覚、聴覚）や活動（記憶、認識）と同じなのか。また、語彙や構文はどのようにして私たちの頭の中に蓄えられ、用いられるのか。これらの問いについて、言語学(特に認知言語学)、認知科学、心理学の側面から学際的に考えていきます。

教科書 /Textbooks

配布資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実際の日程により順番が変わる可能性があります。第1回授業時配布の予定表を参照して下さい。

- 第1回 序 (漆原・全員)
- 第2回 眼はどのように動いているか、それをどう測定するか (中溝)
- 第3回 文を読むとき、眼はどのように動いているのか (中溝)
- 第4回 言語活動時、脳のどこが働いているか (中溝)
- 第5回 ことばはどのように身につけられるのか (言語習得) (漆原)
- 第6回 ことばはどのように失われるのか (失語症・失文法) (漆原)
- 第7回 脳と心のなりたち (脳のはたらきを支配する遺伝子) (日高)
- 第8回 ことばはなぜヒトに特有なのか (言語と遺伝子) (日高)
- 第9回 特別講義 (外部講師)
- 第10回 概念と言葉 (概念におけるプロトタイプ効果など) (ストラック)
- 第11回 隠喩とは何か (隠喩論) (ストラック)
- 第12回 詩とほのめかし (アイコン性、phonaesthemesなど) (ストラック)
- 第13回 文の形と意味をつなぐもの (文法形式と意味の類像性) (杉山)
- 第14回 左右の区別がなかったら (ことばと思考・言語相対論) (杉山)
- 第15回 まとめ: 担当者によるパネル・ディスカッション (全員)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 20% レポート 16% × 5 = 80%
(すべての教員のレポートを提出しない限り評価不能(-)となります。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

* 「ことばの科学」を受講していると理解が一層深まります。

履修上の注意 /Remarks

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

共生社会論 【昼】

担当者名 伊野 憲治 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「共存」「共生」という言葉をキーワードとし、地域社会から国際社会における、共生のあり方を考え、実現可能性について探ってみる。特に、異質なものを異文化ととらえ、異文化の共存・共生のあり方を掘り下げる中で、この問題に迫って生きたい。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準。
- 第2回：「共存」「共生」の意味、共生社会の阻害要因【共存】【共生】【オリエンタリズム】。
- 第3回～第6回：異文化共存の方法、オリエンタリズムの克服方法【一元論的理解VS.多元論的理解】【文化相対主義】
- 第7回：障がい者との共生、「障害」の捉えかた【文化モデル】
- 第8回～第12回：具体的事例「自閉症児者との共存・共生」
- 第13回～第14回：文化相対主義の可能性と限界【文化相対主義】【反文化相対主義】【反反文化相対主義】
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本講義受講に当たっては、「国際学入門」[担当：伊野]や「障がい学」[担当：伊野・狭間]を既に受講していることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

戦争と平和【昼】

担当者名
/Instructor

戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 2年次
/Year

単位 2単位
/Credits

学期 2学期
/Semester

授業形態 講義
/Class Format

クラス 2年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
						○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1年次ビジョン科目「教養としての平和学」からさらに進んで、戦争とは何かを体系的に考えてみることをねらいとします。「教養としての平和学」を履修済みの人はもちろん、まだ履修したことのない人の受講も大歓迎です。一言で言えば、「戦争とは何か」がテーマです。

教科書 /Textbooks

なし。レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 安全保障とは何か(1)
- 第3回 安全保障とは何か(2)
- 第4回 戦争概論
- 第5回 戦争の経歴(1)絶対主義時代の戦争
- 第6回 戦争の経歴(2)革命戦争、近代戦争
- 第7回 両大戦の特徴(総力化、イデオロギー化、全面化)
- 第8回 戦争の変質(勢力均衡、アメリカ的戦争観)
- 第9回 原爆の開発過程
- 第10回 原爆の完成と投下
- 第11回 核兵器の種類と威力
- 第12回 核兵器出現に伴う変化(1)
- 第13回 核兵器出現に伴う変化(2)
- 第14回 核兵器の役割(抑止概念、抑止条件、相互確証破壊)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし。ただし、「教養としての平和学」「国際紛争と国連」「テロリズム論」「戦争と人間」「国際社会と日本」「防衛セミナー」などを受講しておくこと、さらに深く理解できる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生活世界の哲学【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「生活世界」を講義全体のキーワードとして、初学者向けに社会哲学への手引きを行なう。この科目を真摯に受講すれば、20世紀のヨーロッパで展開された社会思想に関する基本的な知識が得られるだろう。具体的には、マックス・ヴェーバーからフランクフルト学派、ハンナ・アーレントにまで至る思想家たちの「近代」に対する基本的なスタンスを説明したあと、近年盛んに論じられている公共性と親密圏の交錯という問題に取り組む。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 姜尚中『マックス・ヴェーバーと近代—合理化論のプロブレマティーク』御茶ノ水書房
- ハンナ・アーレント『人間の条件』(志水速雄訳)ちくま学芸文庫
- 斎藤純一『公共性(思考のフロンティア)』岩波書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 「近代」とはいかなる時代だったのか? (1) 【形式合理性】
- 3回 「近代」とはいかなる時代だったのか? (2) 【官僚制】
- 4回 「近代」とはいかなる時代だったのか? (3) 【工場労働】
- 5回 「近代」とはいかなる時代だったのか? (4) 【物象化】
- 6回 「近代」とはいかなる時代だったのか? (5) 【分業体制】
- 7回 確認テスト
- 8回 生活世界論のはじまり(1) 【ガリレオ・ガリレイと科学革命】
- 9回 生活世界論のはじまり(2) 【フッサールの近代批判】
- 10回 生活世界論のひろがり【アーレントの近代批判】
- 11回 公私の区別とその起源(1) 【古代ギリシャ概説】
- 12回 公私の区別とその起源(2) 【古代ギリシャにおける公と私】
- 13回 宗教の私事性と公的領域(1) 【迫害と弾圧】
- 14回 宗教の私事性と公的領域(2) 【社会との確執】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

確認テスト...50% 学期末試験...50%
(第7回に予定している確認テストを受験していない者は、自動的に期末試験の受験資格を失う。この場合、成績評価はE判定となる。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

高校世界史の教科書を一通り読み直しておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

1年生向け科目であることを考慮に入れ、分かりやすい講義となるよう心がけたい。しかし、2回にわたって実施する試験は、いずれも難度の高いものであることをあらかじめ認識しておくこと(例年2~3割の受講者が不合格となっている)。単位取得のためには相当な努力と学習意欲が求められる。

キーワード /Keywords

生活世界 形式合理性 活動 ポリス

共同体と身体 【昼】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

人間が自分(たち)の体について抱いている観念は、歴史を通じて必ずしも一貫しているわけではない。身体に対するイメージは、その人間が生きている時代の共同体によって微妙に変化してゆく。
この授業では、共同体と身体という二つの「体」がどのように関係してきたのかを精神的な観点から考察する。継続的な受講により、生活世界と自己とのつながりが以前よりもはっきりと理解できるようになるだろう。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- B・スネル『精神の発見—ギリシア人におけるヨーロッパ的思考の発生に関する研究』(新井靖一訳)、創文社。
 - ミシェル・フーコー『監獄の誕生—監視と処罰』(田村椒訳)、新潮社。
- その他の参考文献は授業時にそのつど指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 日本的身体のイメージ1【九鬼周造】
- 3回 日本的身体のイメージ2【溝口健二】
- 4回 現代社会と身体の規律1【シュレーバー】
- 5回 現代社会と身体の規律2【オーウェル】
- 6回 社会身体論の展望
- 7回 中間考査(2回~6回の内容確認テストを実施)
- 8回 近代社会の勃興と心身二元論【デカルト】
- 9回 古代ギリシャの身体観1【プラトンからホメロスへ】
- 10回 古代ギリシャの身体観2【ソポクレス】
- 11回 古代ギリシャの身体観3【通時的総括】
- 12回 キリスト教共同体と身体【アウグスティヌス】
- 13回 産業社会と身体【ドイツ表現主義】
- 14回 身体としての共同体
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

内容確認テスト...40% 期末テスト...60%
(※内容確認テストを受けていない者は、期末テストの受験資格を失う)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で扱われる内容は、1年生向けビジョン科目「生活世界の哲学」の続編である。
「生活世界の哲学」、もしくは同担当者による「倫理学」の単位を取得している場合は、本講義についていくのが比較的容易なはずである。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

今年度よりテストを2回にわたって実施するので注意されたい。テスト方式・時間の詳細は初回の授業で説明する。この説明を聞かなかった場合に生じる不利益はすべて受講者本人の自己責任とする。

キーワード /Keywords

心身二元論 身体像 権力 規律と監視

メンタル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

メンタルヘルス（心の健康）の学習とは、病気や不適応事例の発生予防だけでなく、もっと幅広く、多くの「健康な生活人」の健康増進にも役立つような要件を学ぶことである。ストレス社会と言われる現代にあつては、メンタルのタフさがなければ生活人としての活動は難しい。身近なことでは学生生活そのものがさまざまなストレス源への対処を余儀なくされる。過剰なストレスは友人間や家族内の人間関係の悪化や学習意欲の低下、生活上の事故やミス、無気力や抑うつ症状などを生じさせる。本講義では一般的な心理学を基盤に「メンタルヘルス（心の健康）」を生涯発達（エリクソン理論）の視点からとらえながら、日々の生活を充実させるための、人生でのその時期、その時期でのストレスマネジメントの力を身につけることを目標とする。

教科書 /Textbooks

教科書はない。適宜資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「こころの旅」神谷美恵子著 みすず書房
 「こころと人間」中島俊介著、ナカニシヤ出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 以下のスケジュールで行う（【 】はキーワード）
- 1回 オリエンテーション，受講上の注意，講師自己紹介など。
 - 2回 心の健康を学ぶ目的。「心」とは「健康」とは。【心の健康】【生涯発達心理学】
 - 3回 乳幼児の心の健康を知る。【エリクソンの自我発達理論】
 - 4回 児童期の心の健康を知る 【勤勉性と劣等感】
 - 5回 思春期の心のありよう【第二反抗期】
 - 6回から11回 青年期から壮年期までの人生と心の健康 【豊かな心とは】
 同一性の視点から ・遊びと人生
 配偶者の選択 ・病いと人生
 - 12回から13回 発達の障がいについての理解 【自閉症】【アスペルガー - 】
 - 14回 健康な心と身体に行く末について。【老いと死の受容】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

成績評価の方法
 定期試験...50% 受講態度と勉学への熱意...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

当該個所に対する自分の課題や疑問を整理しておくこと。自分なりの意見をまとめておいて授業に臨むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

メンタル・ヘルスII【昼】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

メンタルヘルス（心の健康）を友情の哲学と呼んだ識者がいた。多様な文化・人間性を周囲・地域に認めようということである。心の健康な人とは異端・極端を認め、そこから思考しようと努力する人であり「一人ひとりの幸福な生き方を配慮し援助する実践的な思想」といえる。時代は多文化共生の生き方を求めている。本講座では、一般的な心理学を基盤にした「メンタルヘルスI」勘案しながら、さらにポジティブ心理学やアドラーや森田正馬の心理療法領域や平和や人権文化の視点から心の健康増進の要件を学ぶ。青年期における健康な生活スタイルにも言及したい。欧米の理論も紹介しながら、特にわが国の文化的背景から出てきた、心の健康法にもふれることにより、受講者自身のセルフカウンセリングの能力がさらに高まることを期待したい。

教科書 /Textbooks

テキスト 特に設けない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業内容とタイムスケジュール (【 】はキーワード)

- 1回 オリエンテーション。受講上の注意など。【健康行動と感情】
- 2回 心的態度と生き方のセルフチェック【あるがまま・とらわれ】
- 3回～5回 人間の発達と自己形成【コフト理論やアドラー心理学などの理論紹介】
- 6回～8回 心の体操。自分の価値観を知る。自分の人間関係スキルを磨く。【傾聴・対話】
- 9回～10回 心のリフレッシュ。内観療法の視点から。森田療法の視点から。【感謝】
- 11回～12回 ライフスタイルについて。平和志向や非暴力、人権文化について。【人権・平和】
- 13回～14回 ライフプランについて(ワークライフ・バランス)。地域や世界の心の健康を考える。
キャリアプラン 【仕事】【遊び】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 受講態度と勉学への熱意...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

自己の心の健康のみならず、他者や地域、国家や地球の環境にまで視野を拡大することを望みたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・演習 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 健康と体力(体力とトレーニング)
- 3回 準備運動と整理運動
- 4回 ストレッチング実習<実習>
- 5回 体力測定(筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など)<実習>
- 6回 自分にとって必要な体力とは?
- 7回 運動処方
- 8回 運動強度測定(心拍数測定)<実習>
- 9回 自分にとって最適な運動強度とは?
- 10回 自分に適した運動の種類や方法とは?
- 11回 正しいウォーキングとストックウォーキング<実習>
- 12回 道具を使用したトレーニング(バランスボールなど)<実習>
- 13回 スポーツビジョントレーニング(バレーボールを利用して)<実習>
- 14回 運動・スポーツの動機付け
- 15回 北九州市立大学散策マップ作成(100kcal運動)<実習>

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容(講義・実習)によって教室・体育館(多目的ホール)と場所が異なるので、間違いがないようにすること。(体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること)

実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スポーツを科学する、健康と体力、コミュニケーション

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。

この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 オリエンテーション
- 2回 仲間作り、ゲーム【コミュニケーション】
- 3回 (実習)ソフト・トリムバレーボール【笑顔】
- 4回 (講義)ストレッチの理論
- 5回 (実習)ストレッチの実際、ゲーム
- 6回 (講義)ふとる・やせる、適度な運動とは【体脂肪】、【ニコニコベース】
- 7回 (実習)軽運動、エアロビクス・ダンス【笑顔】
- 8回 (講義)フェアプレイ、スポーツマンシップとは
- 9回 (実習)球技を楽しもう①(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 10回 (実習)球技を楽しもう②(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 11回 (講義)これからの運動①【心臓の予備力】、【体力の変化】
- 12回 (講義)これからの運動②【体力の維持・向上】、【継続性】
- 13回 (講義)レッツ・スポーツ【計画・企画】
- 14回 (実習)レッツ・スポーツ【主体性】
- 15回 まとめ、レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容(講義・実習)によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回予告を聞いて間違いがないようにする。体育館入口の黒板にも記載するので、確認すること。

実習の場合は、運動ができる服装と体育館シューズを準備して下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

授業全体のキーワードは、【笑顔】と【コミュニケーション】である。

フィジカル・ヘルスII 【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 健康と体力(体力とトレーニング)
- 3回 準備運動と整理運動
- 4回 ストレッチング実習<実習>
- 5回 体力測定(筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など)<実習>
- 6回 自分にとって必要な体力とは?
- 7回 運動処方
- 8回 運動強度測定(心拍数測定)<実習>
- 9回 自分にとって最適な運動強度とは?
- 10回 自分に適した運動の種類や方法とは?
- 11回 正しいウォーキングとストックウォーキング<実習>
- 12回 道具を使用したトレーニング(バランスボールなど)<実習>
- 13回 スポーツビジョントレーニング(バレーボールを利用して)<実習>
- 14回 運動・スポーツの動機付け
- 15回 北九州市立大学散策マップ作成(100kcal運動)<実習>

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容(講義・実習)によって教室・体育館(多目的ホール)と場所が異なるので、間違いがないようにすること。(体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること)

実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スポーツを科学する、健康と体力

フィジカル・ヘルスII 【昼】

基盤教育科目
 教養教育科目
 スキル科目
 ライフ・スキル

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 講義・演習
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、スポーツで身体のケアを目指す事に重点をおき、まずは楽しく身体を動かすことで心身の健康保持増進を図り、ウォーミングアップの大切さやストレッチングの理論と実践といったものから、ルールを守るとはどういうことなのか、ゲーム中の真摯な態度とは何かなど考えてみたい。

教科書 /Textbooks

授業時に資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 健康体力の理解
- 3回 身体のケアについて メンタル面
- 4回 身体のケアについて フィジカル面
- 5回 ウォーミングアップとクーリングダウン
- 6回 用具を使って身体を整える
- 7回 セルフマッサージで身体を整える
- 8回 テーピングによる簡単な予防
- 9回 トレーニングによって身体を整える
- 10回 ウェイトトレーニングの注意点
- 11回 体脂肪を減らすトレーニング
- 12回 柔軟性を高める運動 一人で行うもの
- 13回 柔軟性を高める運動 二人で行うもの
- 14回 腰痛と運動
- 15回 運動・スポーツの動機付け

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。

授業内容(講義・実習)によって教室・体育館・多目的ホールと場所が異なるので、間違いがないようすること。(体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること)

実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスII 【昼】

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。

この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 オリエンテーション
- 2回 仲間作り、ゲーム【コミュニケーション】
- 3回 (実習)ソフト・トリムバレーボール【笑顔】
- 4回 (講義)ストレッチの理論
- 5回 (実習)ストレッチの実際、ゲーム
- 6回 (講義)ふとる・やせる、適度な運動とは【体脂肪】、【ニコニコベース】
- 7回 (実習)軽運動、エアロビクス・ダンス【笑顔】
- 8回 (講義)フェアプレイ、スポーツマンシップとは
- 9回 (実習)球技を楽しもう①(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 10回 (実習)球技を楽しもう②(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 11回 (講義)これからの運動①【心臓の予備力】、【体力の変化】
- 12回 (講義)これからの運動②【体力の維持・向上】、【継続性】
- 13回 (講義)レッツ・スポーツ【計画・企画】
- 14回 (実習)レッツ・スポーツ【主体性】
- 15回 まとめ、レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容(講義・実習)によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回予告を聞いて間違いがないようにする。体育館入口の黒板にも記載するので、確認すること。

実習の場合は、運動できる服装と体育館シューズを準備して下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

授業全体のキーワードは、【笑顔】と【コミュニケーション】である。

自己管理論 【昼】

担当者名 /Instructor 生田カツ工、稲月正

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

青年期である大学生は自我意識が高まる時期であり、初めて一人暮らしをする学生にとっても、自己決定に基づく健康的で自立した生活することは容易なことではない。これからは、様々な角度から自己管理についての正しい知識と、自分を守り人にも役立つ健康の意識を高め、実践力を身につけることが大切である。今回の自己管理論は、各分野におけるプロフェッショナルの実体験や知識を学び、社会人になっても大いに役立ち、心身ともに健康で前向きに生きられる自分づくりをめざす。

教科書 /Textbooks

パワーポイントや配布資料など

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に設けない。授業中に関連文献を随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 第 1回 自己管理I総論【保健師】：自己管理に必要な青年期の心身両面からの問題を総論する。
- 第 2回 防犯の心得【警察官】：安心・安全とは何か。被害にあわないための具体的な自己防衛法を学び生活に役立てる。
- 第 3回 自己管理II体の健康【保健師】：多様な疾病・リスクを中心に生涯にわたる健康を見直す。
- 第 4回 若者にもっとも大切な栄養の話【管理栄養士】：健康的な栄養の知識を身につける。
- 第 5回 歯と口の健康を保つセルフケア【歯科医師】：歯及び口腔のセルフケアを学び豊かな人生を送るための基礎を養う。
- 第 6回 薬と健康【薬剤師】：薬の効果、サプリメントなど健康のための薬の知識を学ぶ。
- 第 7回 依存と健康【精神科専門職】：心身ともに破滅に陥りやすい依存症の医学的知識を学ぶ。
- 第 8回 自己管理III心の健康【保健師】：心と身体の関係から起こる疾病の予防や対策を学ぶ。
- 第 9回 健康な体と感染症【助産師】：自分で予防できる感染症の知識や命の尊さを学ぶ。
- 第 10回 救急法I【消防士】：救急法I、IIは講義と救急救命の実技を組み合わせる。
- 第 11回 救急法II応急手当の方法、心肺蘇生法の手順など、事故・災害時の身の守り方、人命救助の具体的方法を学習する。
- 第 12回 障害とノーマライゼーション【作業療法士】：障害者の地域福祉、関係法、ケアマネジメントの基本理念、自立生活を支援するための資源、サービス、情報など身近な事柄として紹介する。
- 第 13回 人権・ハラスメント関係【関係専門職】：人権侵害・ハラスメント防止などの知識と予防対策を学ぶ。
- 第 14回 自己管理まとめ【保健師】：小試験・ポイント・記述などで総合的に理解を深める。

成績評価の方法 /Assessment Method

①毎回のミニレポート：60% ②まとめ(小試験・ポイント・記述など)：40%、①②の総合点で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回授業で配布するレジュメをよく読みこんでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

- 1 1回目の総論で「自己管理のプログラム」を配布する。
- 2 外部講師による講義のため、授業開始後20分には入室禁止する。私語をしない。
- 3 毎回のミニレポートは出席確認としても取り扱う。
- 4 欠席した場合は正直に自己管理授業用の欠席届を提出する。
- 5 救急法の実技時には、上靴、スラックスなど着用する。
- 6 最終回の「自己管理まとめ」授業は小試験のため必ず出席する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

キャリア・デザイン 【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

大学生の就職活動だけでなく、企業などで働いている社会人にとっても現在の労働環境は厳しいものがあります。皆さんは本学卒業後には何らかの職業に就くことになると思います。この授業は、自らのキャリアを主体的に考え、自ら切り拓いていってもらうために必要な知識・態度・スキルを身につけます。特に以下の5点をねらいとしています。

- ①様々な職業や企業の見方などの労働環境について知る
- ②将来の進路に向けた学生生活の過ごし方のヒントに気づく
- ③コミュニケーションをとることに慣れる
- ④社会人としての基本的な態度を身につける
- ⑤自分について知る

授業では、グループワーク、個人作業、ゲーム、講義などを組み合わせて進めていきます。進路に対する不安や迷いを解消できるように、皆さんと一緒に将来のことを考えていく時間にしたいと考えています。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。また、適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス【授業の目的、授業のルール】
- 2回 進路の現状【就職・公務員・教員等の進路準備スケジュール】
- 3回 学生生活とキャリア【社会人基礎力・学力、企業が求める能力、大学時代の過ごし方】
- 4回 自分を知る(1)【自分の歴史を振り返る、自分の強みを知る】
- 5回 インターンシップ【インターンシップ経験者の話、インターンシップの効用】
- 6回 仕事をするということ【仕事を考える視点、仕事のやりがい】
- 7回 企業・業界について【企業の組織について、業界の見方】
- 8回 働いている人の話を聞く【実際の仕事、仕事のやりがいについて】
- 9回 就職試験を体験する【SPI、一般常識】
- 10回 様々な働き方【働き方の多様化、キャリアに対する考え方】
- 11回 キャリアとお金【働き方別の賃金、生活費シミュレーション】
- 12回 自分を知る(2)【自分の価値観を考える、多様性を認識する】
- 13回 就職活動の実体験【内定した4年生の話、就職活動のポイント】
- 14回 学生生活を考える【将来の目標、どんな学生生活を過ごすのか】
- 15回 まとめ【授業全体を振り返る、総括】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...50% 授業内のレポート...30% まとめのレポート...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特に準備することはありませんが、自分のキャリアは自分で考えるしかありません。積極的・主体的に授業に参加し、将来に対して真剣に向き合う姿勢が求められます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業に参加するには、社会人としての態度が求められます。以下の10力条を守ってください。

- ①遅刻厳禁②携帯メール厳禁、携帯はマナーモードでバッグの中③脱帽④飲食禁止⑤作業時間は守る⑥授業を聞くところ、話し合うところのメリハリをつける⑦グループワークでは積極的に発言する⑧周りのメンバーの意見にしっかり耳を傾ける⑨分からないことは聞く⑩授業に「出る」ではなく、「参加する」意識を持つ

キャリア・デザイン【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
キャリア・スキル

キーワード /Keywords

キャリア、進路、公務員、教員、資格、コンピテンシー、自己分析、インターンシップ、職種、企業、業界、社会人、SPI、派遣社員、契約社員、正社員、フリーター、給料、就職活動

キャリア・デザイン 【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

将来の進路に対する不安や迷いを解消するために、また将来のために有意義な大学生活を営むために、

- ①アイデンティティを獲得するために、自分について深く知る
- ②働くこと、つまり様々な業界や企業、そして働き方などを知る
- ③多様な人々と協働する力を身に付けるために、初対面の学生とのコミュニケーションに慣れる
- ④社会で働く上でお互いが気持ちよく活動するための最低限の倫理感、社会人マナーを身につける
- ⑤将来の進路に向けた学生生活の過ごし方を知る

以上5点を獲得目標とし、グループワーク、個人ワーク、講義、先輩や社会人のゲストとのディスカッションなどを組み合わせて授業を進めていきます。最終授業では、将来の目標のためにどんな学生生活を過ごすのかをプランしていただきます。

皆さんと一緒に、無限の可能性を秘めた自分の将来について、じっくり考える時間したいと思います。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。また、適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください。以下書籍はその参考例です。

- 金井寿宏『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP研究所
- 大久保幸夫『キャリアデザイン入門1基礎力編』日本経済新聞社
- 渡辺三枝子『新版キャリアの心理学』ナカニシヤ出版
- モーガン・マッコール『ハイフライヤー 次世代リーダーの育成法』プレジデント社
- エドガー・H.シャイン『キャリア・アンカー 自分のほんとうの価値を発見しよう』白桃書房
- 見館好隆『「いっしょに働きたくなる人」の育て方-マクドナルド、スターバックス、コールドストーンの人材研究』プレジデント社
- 平木典子『改訂版 アサーション・トレーニング-さわやかな自己表現のために』金子書房
- 中原淳・長岡健『ダイアログ 対話する組織』ダイヤモンド社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス (授業の目的やルール、キャリアの基本知識)
- 2回 学生生活とキャリア (社会で働く上で必要となる力、大学時代の過ごし方)
- 3回 進路について (就職活動や公務員試験、教員試験、大学院進学など)
- 4回 自分を知る① (働く価値観や仕事へのこだわり、セルフアセスメントの実施)
- 5回 自分を知る② (一皮むける経験、身の丈を超えた経験、経験学習、ライフライン)
- 6回 働くということ (仕事を考える視点、仕事のやりがい) ※社会人ゲストを予定
- 7回 社会人としての倫理やマナー① (傾聴、多様性理解)
- 8回 社会人としての倫理やマナー② (アサーショントレーニング)
- 9回 キャリアとお金 (雇用形態と賃金、生活費シミュレーション)
- 10回 大学生活を面白くする方法 (計画された偶発性・セレンディピティ)
- 11回 地域活動に挑戦する (地域活動を体験した先輩とのディスカッション)
- 12回 業界&企業研究 (業界のしくみ、業界研究および企業研究の方法)
- 13回 就職活動を知る (就職活動を体験した先輩とのディスカッション)
- 14回 学生生活を考える (自分を振り返り、将来の目標のためにどんな学生生活を過ごすのか)
- 15回 まとめ (総括)

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業で課されるレポート...80% 最終回のレポート...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特別な準備は必要ありませんが、自分の将来に対して真剣に向き合う姿勢、そして自分を成長させたい意欲が求められます。

キャリア・デザイン 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
キャリア・スキル

履修上の注意 /Remarks

必修ではありませんが、将来の進路のために大学生生活をどう営むかを考える、主に1年生向けの授業です。真鍋先生の「キャリアデザイン」が本講義いずれかを履修することをお勧めします。また、毎回、授業開始直後にグループワークがあります。よって、遅刻すると他のメンバーに迷惑がかかりますので注意してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

グループワークのメンバーは毎回シャッフルされます。毎週、初対面の学生と話せて学内の知り合いが増えます。また、地域活動やインターシップなど、自らのキャリア形成に役立つインフォメーションもあります。積極的にご参加ください。

キーワード /Keywords

キャリア、キャリア発達、大学生活、アイデンティティ、コミュニケーション、社会人マナー、倫理観

コミュニケーションと思考法【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
キャリア・スキル

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本経団連の調査では、大卒新卒者に求める能力として『コミュニケーション力』が常にトップとなっています。ダイバーシティと言われるように、多様な価値観を持った人と円滑なコミュニケーションができることが、仕事を進めていく上でポイントになります。また、複雑化・成熟化した社会では、単に言われたことをこなすのではなく問題を発見し解決に導いていくための『考える力』が求められます。授業の前半コミュニケーションの部分では、外部から企業研修等で活躍されている講師が担当します。講師の話を聞くだけでなく現実場面を設定し、実践しながらコミュニケーションのトレーニングをします。後半では、仕事をする上で重要な思考法についてその基礎を学びます。

教科書 /Textbooks

コミュニケーションに関するテキストを使用します。別途告知します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、授業中に参考になる文献等を適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 全体ガイダンス	【授業の目的、授業のルール】
2回 会話とストレートトーク	【コミュニケーションとは、大切さ】
3回 言動の基本、伝え方	【話力とは、聞き手に心を開いて話をする】
4回 話し方に心理学を応用する(1)	【行動パターンによるコミュニケーション】
5回 話し方に心理学を応用する(2)	【良い人間関係を作るコミュニケーション】
6回 話し方に心理学を応用する(3)	【日常会話、スピーチ、プレゼンテーション】
7回 応対マナー	【どう話すのか、話す時の立ち振る舞い】
8回 電話応対	【電話・手紙のマナー】
9回 敬語を上手に使い話力を高める	【敬語の使い方】
10回 話し方のTPO	【シチュエーションを考える】
11回 プレゼンテーションをやってみる	【考えをまとめて発表する】
12回 思考法(1)	【ロジカルシンキング、演繹法、帰納法】
13回 思考法(2)	【ロジカルシンキング、ロジックツリー】
14回 思考法(3)	【クリティカルシンキング】
15回 まとめ	【授業のまとめ、総括】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...50%、授業の成果物...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特に準備することはありません。

履修上の注意 /Remarks

講義の性格上、1クラス50名程度での開講となります。例年多数の履修希望者があり抽選となっています。しかし、抽選に当たったにも関わらず、授業に参加しない学生が見られます。そうすると、本当に受講したくても受講できない学生に迷惑がかかります。受講したいという意思を強く持っている学生に履修登録をしていただきたいと思います。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

コミュニケーション、マナー、論理的思考法、帰納法、演繹法、クリティカルシンキング

プロフェッショナルの仕事【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

<目的>現場の第一線で活躍している社会人に教壇に立って頂き、仕事のやりがいや辛さ、そして自らが成長した学生時代の物語を語って頂きます。その話を聴くことで、①ビジネスの仕組み ②仕事の現実 ③将来の進路の手掛かりやヒント ④大学時代に何をすべきかを学びます。

<進め方>講演者の企業や仕事を予習して、講演を傾聴します。そこで得た新しい知識や払拭できた先入観、将来へのヒントを元に、「将来のために今すべきこと」をレポートにまとめます。

<期待される効果>将来の自分の進路がイメージできない人は、様々な企業や団体の第一線で働いている社会人の話を聴くことで、自らの将来の姿を描くヒントを得ることができます。また、企業や団体の第一線でいきいきと輝いて働いている社会人の話を聴くことで、大学時代においてどんな大学生活を過ごせば良いかを理解できます。

なお、企業・団体は先方の都合もあり毎年変わります。事情によってはビデオ上映の場合もあります。以下は過去の実績です。

<2011年度>マイナビ、スターフライヤー、東芝ロジスティクス、北九州市役所、ナフコ、アイ・ケイ・ケイ、ベネッセコーポレーション、日本生命、西日本高速道路(NEXCOWest Japan)、デンソー九州、山口銀行(北九州銀行)、ジェイアイエヌ(JiNS)、フリーアナウンサー長崎真友子氏

<2010年度>ジェイコム北九州、リクルート、北九州市役所、門司港ホテル、スターフライヤー、デンソー九州、日本生命、朝日新聞社、東芝物流、コクヨ、ナフコ、山口銀行(北九州銀行)

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。企業・団体によっては会社案内などを当日配布します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関する書籍を各自参考にしてください。

以下書籍はその参考例です。

○金井寿宏『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP研究所

○中原淳ほか『企業内人材育成入門』ダイヤモンド社

○モーガン・マッコール『ハイフライヤー 次世代リーダーの育成法』プレジデント社

見館好隆『「いっしょに働きたくなる人」の育て方-マクドナルド、スターバックス、コールドストーンの人材研究』プレジデント社

中原淳・長岡健『ダイアログ 対話する組織』ダイヤモンド社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 全体ガイダンス

第2～14回 各企業・団体の第一線で働く社会人の講演

第15回 まとめ

※2011年度の実績

マイナビ、スターフライヤー、東芝ロジスティクス、北九州市役所、ナフコ、アイ・ケイ・ケイ、ベネッセコーポレーション、日本生命、西日本高速道路(NEXCOWest Japan)、デンソー九州、山口銀行(北九州銀行)、ジェイアイエヌ(JiNS)、フリーアナウンサー長崎真友子氏

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業で課されるレポート...80% 最終回のレポート...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講演者が所属する企業・団体および仕事について必ず予習をしてください。予習するポイントはその都度指示します。

履修上の注意 /Remarks

※履修者が多かった場合、履修者の調整を行います。その際、第1回の授業を欠席した学生の履修申請を取り消しますので、必ず第1回は出席するようにしてください。何らかの事情で出席できない場合は、事前に教員までメールなどで連絡をしてください。
※1学期の「キャリア・デザイン」を受講していることが望ましい。
※授業の特性上、出席しなければ点数は付きません。よって課外活動で欠席が多くなる学生は履修を避けてください。
※本務でお忙しい中、本学の学生のために、わざわざ来学していただいている講演です。よって、以下の5項目は特別な事情があるときを除き厳守してください。①遅刻厳禁 ②携帯操作厳禁(マナーモードでバッグの中に) ③脱帽 ④飲食禁止 ⑤私語厳禁
※授業終了後、キャリアセンターにて座談会を開催する場合があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本学の学生は、首都圏の大学生よりも立地的に、企業・団体に働いている社会人と出会う機会が少なくなっています。そんな中、自分の将来への視野を広げたい、将来のために自分を成長させるヒントを得たいと考えている学生のために設計しました。講演者の皆様は大学生活ではなかなか出会うことができない方ばかりです。講演者の皆様が本学の学生のために語ってくれた言葉を聞き逃さず、何かを学ぼうという意思を持ってご参加ください。

キーワード /Keywords

働くこと、成長、キャリア、キャリア発達、大学生活、アイデンティティ

法律の読み方 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科, 山本 光英 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

六法全書や法律書を開いてみても難しい。裁判所の判例を読んでみてもどうしてそういう判断をするのかわからない。法律はどのような仕組みになっているのかわからない。そういう疑問に少しでも応え、法律の世界を理解するために必要なスキルを提供します。法律に興味や関心を抱き、社会生活を円滑に営むための指針、心構えをつくる手助けになればと思っています。

教科書 /Textbooks

毎回、レジュメ、資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス-法律を読むために
- 2回 民法を読む①【社会規範】【行為規範】【法律用語】【裁判所】
- 3回 民法を読む②【法解釈の方法】【文理解釈】【類推解釈】
- 4回 刑法を読む①【法規範の特性】【法の機能】【法が存在形式】【法源】【罪法定主義】
- 5回 刑法を読む②【刑事法】【法の適用】【憲法と刑事法の関係】【法の解釈】
- 6回 判例の読み方 【判例】【先例】【認定事実】【判決理由】
- 7回 民事判例を読む①【判例研究の方法】【判例部分の抽出】【判例研究の目的】
- 8回 民事判例を読む②【判例評価の方法】【生命保険金】【特別受益】
- 9回 刑事判例を読む①【判例集の名称】【判例集の調べ方】【判例集の体裁】
- 10回 刑事判例を読む②【刑事判例の勉強の仕方】【事実の概要】【判旨】【解説】【因果関係】
- 11回 民法の視点から社会を読む①【婚姻】【内縁】【パートナーシップ】
- 12回 民法の視点から社会を読む②【人工生殖】【親子関係】【相続権】
- 13回 刑法の視点から社会を読む①【一厘事件】【3銭電気窃盗事件】【窃盗罪の客体】
【可罰的違法性】【起訴便宜主義】
- 14回 刑法の視点から社会を読む②【裁判員制度】【刑事裁判の流れ】【公判の基本原則】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 20 % 定期試験... 80 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

六法を持参してください。法学部生以外の受講生には、石川明他編『法学六法'12』信山社(1,000円)をお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会調査【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

社会調査（主に量的調査）の基本的な考え方と技法を習得する。調査法を学ぶ場合、統計ソフトが使えるようになることよりも、基本的な「考え方」の方が重要である。たとえば、「あることを主張するためにはどのようなデータを用い、どのような事実が観察される必要があるか」を考えることである。その上で、質問文の作り方、調査票の構成、サンプリング、データファイル作成、単純集計、記述統計量の計算、検定、クロス表の作成など、基本的な分析技法について学ぶ。なお、パソコン教室を使う関係上、教室定員に応じて受講者数調整を行う可能性がある。

教科書 /Textbooks

『社会調査法入門』、盛山和夫著、有斐閣、2004

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『ガイドブック社会調査(第2版)』、森岡清志編著、日本評論社、2007
 - 『新版 ライフヒストリーを学ぶ人のために』、谷富夫編著、世界思想社、2008
- その他、授業の中で紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 何のための社会調査か
- 第2回 量的調査と質的調査
- 第3回 調査と研究の進め方
- 第4回 社会調査を企画する
- 第5回 ワーディングと調査票の作成(1)
- 第6回 ワーディングと調査票の作成(2)
- 第7回 ワーディングと調査票の作成(3)
- 第8回 サンプリング
- 第9回 調査の実施とデータファイルの作成(1)
- 第10回 調査の実施とデータファイルの作成(2)
- 第11回 分布と統計量
- 第12回 検定の考え方
- 第13回 クロス集計
- 第14回 相関係数
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 40% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストをよく読んでくること。
 「統計を読む・統計をつくる」(1学期)と合わせて受講することが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

統計を読む・統計をつくる【昼】

担当者名 /Instructor 山本 努 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

統計を用いて戦後（あるいは明治以後）の日本の地域変動・社会変動を読み解いていく。近代化、産業化、都市化、高齢化、少子化、過疎化、未婚・晩婚化、地域人口移動などに関わる統計指標が紹介され、それに基づく、社会分析を紹介する。

教科書 /Textbooks

山本努・徳野貞雄・加来和典・高野和良『現代農山村の社会分析』学文社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

谷富夫・山本努『よくわかる質的社会調査(プロセス編)』ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 都市化・産業化・過疎化について
- 2回 過疎の変貌について
- 3回 人口の社会動態、自然動態について
- 4回 ある村の家族と職業の変化について
- 5回 地域意識、定住経歴について
- 6回 人口Uターンの基本分析について
- 7回 人口Uターンの生活構造分析について
- 8回 日本の人口推移と近代化の概略について
- 9回 少子化・未婚化と地域社会について
- 10回 1990～2010年ころに見る過疎化の最新段階について
- 11回 少子型過疎、集落分化型過疎の出現
- 12回 高齢者減少型過疎の出現と市町村合併
- 13回 社会調査とは何か
- 14回 量的(統計)分析と社会調査の類型について
- 15回 まとめ、補足、

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・90%
 遅刻・欠席はマイナス評価として反映する・・・10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- 1.教科書を持参して授業に参加のこと。教科書ナシでは授業は理解できません。
- 2.授業の進行次第ではプリントを配りますから、こちらも持参して授業に出て下さい。

履修上の注意 /Remarks

「統計を読む・統計をつくる」という科目名から数学のような印象をもつ学生がいるようですが、本講義は社会科学をベースにした講義です。統計学のごく入門的な話題が少し紹介されるかもしれませんが、数学的な統計の授業を期待している学生には受講を勧めません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

都市化、産業化、過疎化、量的(統計)分析、社会調査

フィジカル・エクササイズI (サッカー) 【昼】

担当者名 /Instructor 磯貝 浩久 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、サッカーの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サッカーの基本技術(リフティング)の習得と試しのゲーム(1)
- 3回 サッカーの基本技術(パス)の習得と試しのゲーム(2)
- 4回 サッカーの基本技術(シュート)の習得と試しのゲーム(3)
- 5回 サッカーの戦術(ディフェンス)の説明
- 6回 サッカーの戦術(ディフェンス)の習得と応用ゲーム
- 7回 サッカーの戦術(オフENS)の説明
- 8回 サッカーの戦術(オフENS)の習得と応用ゲーム
- 9回 サッカーの戦術の応用説明
- 10回 サッカーの戦術の応用ゲーム
- 11回 審判法の習得と試しのゲーム
- 12回 リーグ戦方式の試合(1)パスを意識して
- 13回 リーグ戦方式の試合(2)戦術を意識して
- 14回 リーグ戦方式の試合(3)まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (テニス) 【昼】

担当者名 /Instructor 濱崎 裕介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、テニスの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 ストロークの基礎練習 (球出しによるフォアハンド練習)
- 3回 ストロークの基礎練習 (ラリーの中でのフォアハンド練習)
- 4回 ストロークの基礎練習 (球出しによるバックハンド練習)
- 5回 ストロークの基礎練習 (ラリーの中でのバックハンド練習)
- 6回 サービスの基礎練習
- 7回 ボレーの基礎練習
- 8回 スマッシュの基礎練習
- 9回 ルールの説明
- 10回 戦術の説明・実践
- 11回 シングルスゲーム (1) ゲーム法の解説
- 12回 シングルスゲーム (2) ゲームの実践
- 13回 ダブルスゲーム (1) ゲーム法の解説
- 14回 ダブルスゲーム (2) ゲームの実践
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI(ソフトボール) 【昼】

担当者名 /Instructor 濱崎 裕介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、ソフトボールの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 キャッチボール(スローイング、キャッチング)
- 3回 ピッチング(ウインドミル)
- 4回 バッティング(トスバッティング)
- 5回 ゴロの捕球・フライの捕球
- 6回 守備練習
- 7回 フリーバッティング
- 8回 ベースランニング
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ゲーム(1) 内野の連係プレイ
- 12回 ゲーム(2) 内外野の連係プレイ
- 13回 ゲーム(3) 走者の進め方
- 14回 ゲーム(4) まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (女性のスポーツ) 【昼】

基盤教育科目
 教養教育科目
 スキル科目
 ラーニング・スキル

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこでこの授業では、体力・技術にあまり自信のない女性を対象に、レクリエーションスポーツ種目も含め、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえて、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

スポーツルール百科

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (受講上の注意)
- 2回 バレーボール (1) サーブ、パスの基礎練習
- 3回 バレーボール (2) ルール説明とゲーム
- 4回 バドミントン (1) 基本的な打ち方とフライト練習
- 5回 バドミントン (2) ダブルスのルール説明とゲーム
- 6回 卓球 (1) フォアハンド、バックハンドの基礎練習
- 7回 卓球 (2) ダブルスのルール説明とゲーム
- 8回 ソフトバレーボール (1) サーブ、パス、アタックの基本練習
- 9回 ソフトバレーボール (2) ルール説明とゲーム
- 10回 ショートテニス (1) フォアハンド、バックハンドの基礎練習
- 11回 ショートテニス (2) ルール作りとゲーム
- 12回 選択種目 (1) 【バレーボール】 【卓球】
- 13回 選択種目 (2) 【バドミントン】 【ショートテニス】
- 14回 選択種目 (3) 【ソフトバレーボール】 【バドミントン】
- 15回 スキル獲得の確認 (選択種目)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% スキル獲得テスト ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バレーボール) 【昼】

担当者名 /Instructor 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、バレーボールの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 バレーボールの基礎(1) <オーバーパス>
- 3回 バレーボールの基礎(2) <アンダーパス>
- 4回 バレーボールの基礎(3) <サーブ>
- 5回 バレーボールの基礎(4) <サーブカットをセッターに>
- 6回 バレーボールの基礎(5) <アタック>
- 7回 バレーボールの基礎(6) <サーブカットからアタックまで>
- 8回 バレーボールの基礎(7) <ルールの習得>
- 9回 バレーボールの応用(1) <フォーメーション>
- 10回 バレーボールの応用(2) <ゲーム展開>
- 11回 ゲーム(1) <サーブに留意して>
- 12回 ゲーム(2) <サーブカットに意識して>
- 13回 ゲーム(3) <アタックに留意して>
- 14回 ゲーム(4) <フォーメーションに留意して>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% スキル獲得テスト ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バレーボール) 【昼】

担当者名 /Instructor 美山 泰教 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。
 この授業では、バレーボールの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <オーバーサーブ>
- 4回 パス練習(1) <アンダーパス>
- 5回 パス練習(2) <オーバーパス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド>
- 8回 アタック練習(2) <センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1) <サーブに留意して>
- 12回 ゲーム(2) <サーブカットに意識して>
- 13回 ゲーム(3) <アタックに留意して>
- 14回 ゲーム(4) <フォーメーションに留意して>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 美山 泰教 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、バドミントンの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 フライト練習(1) <ヘアピン>
- 3回 フライト練習(2) <ハイクリアー>
- 4回 フライト練習(3) <ドライブ>
- 5回 フライト練習(4) <スマッシュ>
- 6回 サービス練習(1) <ショートサービス、ロングサービス>
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
- 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
- 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
- 13回 ダブルスゲーム(2) <ゲームの実践>
- 14回 ダブルスゲーム(3) <まとめ>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 鯨 吉夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、バドミントンの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修についての諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 導入実技
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習
- 7回 応用組み合わせ練習 (ヘアピンリターン)
- 8回 応用組み合わせ練習 (ドロップリターン)
- 9回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 10回 戦術の説明
- 11回 ダブルスのゲーム法の解説
- 12回 ダブルスの陣形の解説
- 13回 ダブルスゲームの実践
- 14回 ダブルスゲームのまとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 鯨 吉夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、バドミントンの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修についての諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 導入実技
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習
- 7回 応用組み合わせ練習 (ヘアピンリターン)
- 8回 応用組み合わせ練習 (ドロップリターン)
- 9回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 10回 戦術の説明
- 11回 ダブルスのゲーム法の解説
- 12回 ダブルスの陣形の解説
- 13回 ダブルスゲームの実践
- 14回 ダブルスゲームのまとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 磯貝 浩久 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、バドミントンの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 フライト練習(1) <ヘアピン>
- 4回 フライト練習(2) <ハイクリアー>
- 5回 フライト練習(3) <ドライブ、スマッシュ>
- 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
- 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
- 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
- 13回 ダブルスゲーム(2) <ゲームの実践>
- 14回 ダブルスゲーム(3) <まとめ>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 濱崎 裕介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、バドミントンの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 フライト練習(1) <ヘアピン>
- 4回 フライト練習(2) <ハイクリアー>
- 5回 フライト練習(3) <ドライブ、スマッシュ>
- 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
- 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
- 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
- 13回 ダブルスゲーム(2) <ゲームの実践>
- 14回 ダブルスゲーム(3) <まとめ>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バスケットボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
ラーニング・スキル

担当者名 /Instructor 濱崎 裕介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、バスケットボールの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 集団行動(走る(ラン)・跳ぶ(ジャンプ)・投げる(スロー))
- 3回 ボールに慣れる(ドリブル・パス・シュート)
- 4回 シュートの基礎練習(レイアップシュート・ジャンプシュート)
- 5回 応用練習(2対1)
- 6回 応用練習(3対2)
- 7回 ルール・戦術の説明
- 8回 簡易ゲームを通してのオフェンス・ディフェンスの戦術習得
- 9回 スキルアップ(ドリブルシュート・リバウンド)
- 10回 スキルアップ(速攻、スクリーンプレイ)
- 11回 ゲーム(1) ゾーンディフェンス(2-3)
- 12回 ゲーム(2) ゾーンディフェンス(2-1-2)
- 13回 ゲーム(3) マンツーマンディフェンス
- 14回 ゲーム(4) まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バレーボール) 【昼】

担当者名 /Instructor 美山 泰教 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、バレーボールの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <オーバーサーブ>
- 4回 パス練習(1) <アンダーパス>
- 5回 パス練習(2) <オーバーパス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド>
- 8回 アタック練習(2) <センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1) <サーブに留意して>
- 12回 ゲーム(2) <サーブカットに意識して>
- 13回 ゲーム(3) <アタックに留意して>
- 14回 ゲーム(4) <フォーメーションに留意して>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バレーボール) 【昼】

担当者名 /Instructor 美山 泰教 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、バレーボールの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <オーバーサーブ>
- 4回 パス練習(1) <アンダーパス>
- 5回 パス練習(2) <オーバーパス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド>
- 8回 アタック練習(2) <センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1) <サーブに留意して>
- 12回 ゲーム(2) <サーブカットに意識して>
- 13回 ゲーム(3) <アタックに留意して>
- 14回 ゲーム(4) <フォーメーションに留意して>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (サッカー) 【昼】

担当者名 /Instructor 鯨 吉夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、サッカーの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修に関する諸注意)
- 2回 サッカーの基本技術 (リフティング) の習得と試しのゲーム (1)
- 3回 サッカーの基本技術 (パス) の習得と試しのゲーム (2)
- 4回 サッカーの基本技術 (シュート) の習得と試しのゲーム (3)
- 5回 サッカーの戦術 (ディフェンス) の説明
- 6回 サッカーの戦術 (ディフェンス) の習得と応用ゲーム
- 7回 サッカーの戦術 (オフェンス) の説明
- 8回 サッカーの戦術 (オフェンス) の習得と応用ゲーム
- 9回 サッカーの戦術の応用習得
- 10回 サッカーの戦術の応用ゲーム
- 11回 審判法の習得と試しのゲーム
- 12回 リーグ戦方式の試合 (1) パスを意識して
- 13回 リーグ戦方式の試合 (2) 戦術を意識して
- 14回 リーグ戦方式の試合 (3) まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (サッカー) 【昼】

担当者名 /Instructor 磯貝 浩久 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、サッカーの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サッカーの基本技術(リフティング)の習得と試しのゲーム(1)
- 3回 サッカーの基本技術(パス)の習得と試しのゲーム(2)
- 4回 サッカーの基本技術(シュート)の習得と試しのゲーム(3)
- 5回 サッカーの戦術(ディフェンス)の説明
- 6回 サッカーの戦術(ディフェンス)の習得と応用ゲーム
- 7回 サッカーの戦術(オフENS)の説明
- 8回 サッカーの戦術(オフENS)の習得と応用ゲーム
- 9回 サッカーの戦術の応用説明
- 10回 サッカーの戦術の応用ゲーム
- 11回 審判法の習得と試しのゲーム
- 12回 リーグ戦方式の試合(1)パスを意識して
- 13回 リーグ戦方式の試合(2)戦術を意識して
- 14回 リーグ戦方式の試合(3)まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 鯨 吉夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、バドミントンの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修についての諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 導入実技
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習
- 7回 応用組み合わせ練習 (ヘアピンリターン)
- 8回 応用組み合わせ練習 (ドロップリターン)
- 9回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 10回 戦術の説明
- 11回 ダブルスのゲーム法の解説
- 12回 ダブルスの陣形の解説
- 13回 ダブルスゲームの実践
- 14回 ダブルスゲームのまとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 フライト練習(1) <ヘアピン>
- 4回 フライト練習(2) <ハイクリアー>
- 5回 フライト練習(3) <ドライブ、スマッシュ>
- 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
- 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
- 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
- 13回 ダブルスゲーム(3) <ゲームの実践>
- 14回 ダブルスゲーム(4) <まとめ>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description
 地域社会活動を通じ、広義の地域づくりに参加することで、実践に際してのマナーやPDCAサイクルの基本を身につけることを目的とする。特に地域共生教育センターの運営スタッフとして、センターの運営や地域活動に直接参加することで、得た学びを各自が報告し、振り返り学習を通じて、上記の目的を達成する。

教科書 /Textbooks
 適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 第1回～4回：事前学習
 第5回～第10回：センター運営活動、地域活動等の実践。
 第11回・12回：活動報告
 第13回・14回：振り返り学習
 第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 演習における議論への参加度50%
 活動への参加度50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 関連活動に関する文献学習。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。本演習では「生命と物質」を主たるテーマとし、簡単な実験・実習を体験することによって、これらに関する基本的知識と興味を身につける。また、私たちが普段口にする食物など、身近な話題から対象となる物質を探し出し、生物学的な意義を学ぶことによって、科学的なものの見方や考え方を身につける。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○「文系のための生命科学 第2版」東京大学生命科学教材書籍編集委員会編 2011年(羊土社)
高校生物およびIIの教科書または参考書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の確認
- 3回 発表方法についての説明
- 4回 プレゼンテーションの準備(1)
- 5回 プレゼンテーションの準備(2)
- 6回 プレゼンテーションの準備(3)
- 7回～8回 DNA抽出実験(学期内のいずれかの土曜日午後実施)
- 9回 プレゼンテーション(1)
- 10回 プレゼンテーション(2)
- 11回 プレゼンテーション(3)
- 12回 遺伝学実習
- 13回 関連映画鑑賞
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み40%(配布するカードに記入した内容で評価する)、発表40%、課題20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

希望者が多い場合は受講者数の調整を行うので、第1回目には必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

これまでまったく生物の勉強をしなかった者も歓迎します。この演習をきっかけに生命科学に興味を持ってもらうことが狙いです。

キーワード /Keywords

教養基礎演習Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

文献読解能力を訓練し、レジюме（梗概）の作り方、報告の仕方などを実地に学んでいく。あわせて、日本の歴史に対する理解を深め、国際化時代に相応しい教養を涵養する一助としたい。

毎回、全履修生から「レジюме」（梗概）を提出してもらい、次週までに添削して返却します。「レジюме」とは、わかりやすく言うと、この場合には本の内容の要約です。この演習の目的は、レジюмеを作成することを通じて、専門的な文献を読む基礎になる読解力、内容を要約してまとめる力、プレゼンテーション能力などを涵養することにあります。受講者数にもよりますが、毎回1～5名程度の受講生に報告してもらいます。したがって、受講者が少ない場合には毎回報告してもらうことになります。意欲的な学生は大歓迎です。15回の演習で、一冊完読します。

教科書 /Textbooks

小林道彦『桂太郎 - 予が生命は政治である』（ミネルヴァ書房、2007年）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション。
- 2～14回 文献の輪読。
- 15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...50% 報告・レジюмеの内容...50%
無断欠席はたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

演習が始める前に大学図書館を見学しておいて下さい。
毎週必ず、テキストの該当ページを読んで、レジюмеを作ってもらいます。

履修上の注意 /Remarks

小林担当の「教養基礎演習Ⅱ」とセットで履修することを希望します。
この演習は2年生・3年生との合同演習です。
受講希望者が合計11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

大学での学び方入門：
本演習では、大学での勉強の仕方の基礎を学びます。最終的には、文献を読んで自分の考えをまとめるレポート（高校までの小論文でも調べ学習でも感想文でもなく）を書くことを目指す。前半では、現代社会と若者について論じているテキスト『希望難民ご一行様』の批判的読解を試みることを通して、レジュメの作りかた、議論の行い方、論点の見つけ方を学び、後半では、自分で関連する文献をさらに探して、2000字程度のレポートを書くプロセスを報告しながら、受講者とともにより完成度の高いレポートの作成を目指す。

教科書 /Textbooks

古市憲寿・本多由紀 2010 『希望難民ご一行様』光文社新書

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 佐藤望ほか(編) 2006 『アカデミック・スキルズ』慶應大学出版会
- 専修大学出版企画委員会(編) 2009 『知のツールボックス』専修大学出版会
- 白井利明・高橋一郎 2008 『よくわかる卒論の書き方』ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入：大学の授業とは
- 第2回 大学における本の読みかた・探しかた
- 第3回 レジュメの作りかた
- 第4・5・6・7回 テキスト輪読型の演習における報告と議論
テキスト：『希望難民ご一行様』
- 第8・9回 テーマの見つけかた・レポートの書きかた
- 第10・11・12・13・14回 レポート構想報告
- 第15回 文章を推敲する：レポートの相互添削

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート50%、授業貢献(報告内容、積極的な発言など)50%
(第15回で学生相互にレポートを添削し、その後最終的に書き直したレポートを評価の対象とします。)
ただし、報告者の無断欠席は厳しく減点します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

問題意識は、漠然と本を読み、授業を聞くだけで生まれるものではありません。4月の段階で特定の学問的興味関心を持つことは求めませんが、学期末までには課題に対する問題意識を見つけることを心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

教養基礎演習IIも継続して受講することが望ましいです。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・大学での本の読みかたやレポートの書きかたを基礎から学ぶので、怖気づかずに履修してください。ですが、演習の準備に時間がかかることは嫌がらないでください。
- ・現代社会や若者に関する問題に興味のある学生の受講を歓迎します。
- ・出席者の報告を重視するので、人数が多すぎる場合、受講制限をします。

キーワード /Keywords

レポートの書き方、問題意識の発見、レポート作成

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習では、1年を通して、各自が自分の関心に従って、社会学的な視点・方法によって論文・レポート(4000字程度)を書くことをめざす。したがって原則として「教養基礎演習I」「教養基礎演習II」の通年受講(1・2学期受講)を義務づける。

1学期は、まず、以下のことを身につけることを目指す。

- (1) 社会学的なものの見方・考え方
- (2) 文献資料の調べ方
- (3) レポート・論文の書き方

さらに、社会学的な調査を用いた基礎的な文献を報告してもらう。

同時並行的に、自らが書く論文・レポートについても準備をすすめる。まず、各自が「テーマ」と「問い」をたてる。その上で、自らのたてた「問い」について関連する文献のリストを作成する。

報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、受講者の最大数は10人とする(それを越える場合、受講者数調整をかける)。

教科書 /Textbooks

- 『知的複眼思考法』、刈谷剛彦、講談社+α文庫、2002
- 『「二ート」って言うな』、本田由紀・内藤朝雄・後藤和智、光文社新書、2006

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 『レポート・論文の書き方入門』河野哲也、慶応義塾大学出版会
- 『自分で調べる技術 - 市民のための調査入門』、宮内泰介、岩波アクティブ新書
- その他、講義の中で、その都度、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業内容の紹介
- 第2回 社会学的なものの見方・考え方(1) - 『知的複眼思考法』
- 第3回 社会学的なものの見方・考え方(2) - 『知的複眼思考法』
- 第4回 社会学的なものの見方・考え方(3) - 『知的複眼思考法』
- 第5回 第1回レポート検討会
- 第6回 論文・レポートの書き方
- 第7回 情報収集の仕方(1)
- 第8回 情報収集の仕方(2)
- 第9回 第2回レポート検討会
- 第10回 分析事例(1) - 『「二ート」って言うな』第1部
- 第11回 分析事例(2) - 『「二ート」って言うな』第2部
- 第12回 分析事例(3) - 『「二ート」って言うな』第3部
- 第13回 調査倫理について
- 第14回 第3回レポート検討会
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

参加度・貢献度... 40% 課題(レポート)... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

レポート検討会の際には「研究計画書」を準備すること(様式等は授業中に指示する)。
報告者は、(1)文献概要、(2)内容要約、(3)論点整理、(4)議論を記したレジュメを準備すること。
報告者以外の者は(当然のことながら)事前に文献を読み、コメントを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

教養基礎演習I【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習では、大学における学習や研究の方法を身につけることを目的とする。環境問題をテーマとして取り上げ、受講者の①レジュメ作成能力、②プレゼンテーション能力、③学術的コミュニケーション能力（対話・議論）の向上を目指す。

教科書 /Textbooks

富山和子（2001）『環境問題とは何か』PHP新書

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

鬼頭秀一（1996）『自然保護を問いなおす—環境倫理とネットワーク』ちくま新書
○大江正章（2008）『地域の力—食・農・まちづくり』岩波新書
その他、必要に応じて授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：授業内容についての紹介（イントロダクション）
- 第2回：学習法・レジュメの作成方法・プレゼンテーション方法について
- 第3回：環境問題についての考え方について
- 第4回：テキストの輪読①
- 第5回：テキストの輪読②
- 第6回：テキストの輪読③
- 第7回：テキストの輪読④
- 第8回：テキストの輪読⑤
- 第9回：テキストの輪読⑥
- 第10回：テキストの輪読⑦
- 第11回：テキストの輪読⑧
- 第12回：レポートを書く際の考え方とその方法
- 第13回：プレ・レポート報告会
- 第14回：プレ・レポート報告会
- 第15回：プレ・レポート報告会+まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への貢献度（積極的発言・報告姿勢等）：40%
最終レポート：60%

（※最終レポートとは、第13回～第15回において各自の関心において作成したレポートに対し、参加者から寄せられた批判や修正点等をふまえ、改善をした上で学期末に提出するレポートである。）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業には予めテキスト、ならびに事前に配布されるレジュメを精読してのぞむこと。

履修上の注意 /Remarks

原則として、後期に開講する「教養基礎演習II」とセットで履修すること。

教養基礎演習I【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業は、自分の考え方や意思を的確に相手に伝えることができるようになることを目指す。これは就職活動や社会に出ても必要な能力である。受講者の積極的な参加を望む。

キーワード /Keywords

大学における学習方法、レジюме・レポート作成、コミュニケーション能力の向上

教養基礎演習I (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ(少人数・対話型)として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。この演習の履修希望者は、必ず、同じく1学期に開かれている「教養基礎演習II」とセットで受講すること。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。経験豊富な幹部自衛官(陸海空、尉官・佐官クラス)をほぼ毎回招聘し、それぞれの立場と経験に基づくレクチャーをしてもらい、レクチャーについての質疑応答を行う。また、2回のバスハイクを予定しており、海上自衛隊佐世保基地での護衛艦体験搭乗、航空自衛隊築城基地の見学などを行う(予定)。

教科書 /Textbooks

『防衛白書』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(戸蒔)
- 2回~14回 現段階でゲストは調整中であるが、陸海空の幹部自衛官で比較的若手を中心にする計画である。ただし、1~2回は高級幹部(1佐・将補の司令クラス)を招聘し、講演会に充てたい。また、上述の通り、2回はバスハイクの予定。そして1回は、隣にある陸上自衛隊小倉駐屯地の見学を行う。スケジュールは第1回のガイダンスで発表する。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度...50% レポート...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

準備などは特に必要ない。ただし、戸蒔の「教養基礎演習II」とセットで受講できる者が望ましい。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄（とくに人文的教養）に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、これから大学生として学んでゆくにあたって最低限必要と思われる基礎的な能力を身につけることが、本演習の目的である。
年度ごとに思想上の古典を一冊セレクトし、それを全員で読み進めていく。今回はサルトルの名著『ユダヤ人』を取り上げる。

教科書 /Textbooks

J.-P. サルトル (安堂信也訳) 『ユダヤ人』 岩波新書、1956年、735円。
(※本演習ではこのテキストを使用するので、必ず各自で用意しておくこと。)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンス時に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス1 (演習でのルール、成績評価法の説明)
- 2回 ガイダンス2 (対象となるテキスト、著者の紹介)
- 3回 読解と議論1
- 4回 読解と議論2
- 5回 読解と議論3
- 6回 読解と議論4
- 7回 読解と議論5
- 8回 読解と議論6
- 9回 読解と議論7
- 10回 読解と議論8
- 11回 読解と議論9
- 12回 読解と議論10
- 13回 復習と補助学習1
- 14回 復習と補助学習2
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況 (予習・議論・発言の積極性) ...50% 課題 (議事録作成) ...50%
(3回以上無断欠席をした場合は自動的に不合格判定となる。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本演習への参加を希望している者は、第三回の授業までに上記のテキスト購入しておく必要がある (税込735円)。

履修上の注意 /Remarks

参加者全員ができるだけ多くの発言・課題作成の機会を得られるよう、受講者の最大人数は15人までとする。それを越える場合は受講者数調整をかける。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では毎回の「予習」(指定ページの読解、分からない単語の調査)と「復習」(授業議事録の作成)が必須となります。この授業は2年生以上の学生も参加する合同演習です。予習・復習に十分な時間をかけることができない方は、他の参加者に迷惑をかけることとなりますので、ご遠慮ください。

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

このクラスのテーマは、「バレーボールを科学する！入門編」です。
この演習では、2012ロンドンオリンピック世界最終予選兼アジア大陸予選（FIVB, World Olympic Qualification Tournament: WOQT）の全日本の試合を題材に、実際の映像情報や公式情報を使い、ゲームを詳細に見直すことで、受講者に、バレーボールという競技の本質への理解を深めてもらうとともに、勝利のためには何が必要なのかを確認してもらうことを目的としています。この入門編を通じ、バレーボールの試合の流れを正しく掴む力、チームの特徴を捉える力、ゲームの勝因や敗因を特定する力、さらにはチームや個々の選手の今後の課題を明確にする力を養います。つまり受講者の皆さんには、バレーボールを科学するための基礎的な枠組みの習得に加え、試合を左右する戦術的要素に対する正確な視点の確立を目指してほしいと思っています。
また作業は、座学と調査・実習を組み合わせながら、グループで行うことを予定しています。このプロセスを通じ、受講者の皆さんには、①情報を収集する力、②データを分析する力、③問題（ポイント）を発見する力、④自分の考えを人に伝達する力、⑤考えを異にする人と討論し、説得する力、⑥問題解決のための構想を練る力、⑦プレゼン能力、⑧質疑応答力を身につけ、高めていってほしいと思っています。

教科書 /Textbooks

テキスト等はありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書等は、初回の授業時に、紹介します。
授業の理解に必要な資料等は、適宜、配布します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースガイダンス
- 第2回 スキルチェック
- 事例学習『FIVB World Grand Prix 2010 JPN-NED』の試合を題材に
 - 第3回 ゲーム分析の基礎①：映像によるゲームの確認【作業枠組み】
 - 第4回 ゲーム分析の基礎②：公式記録の探し方とその見方【FIVB】【VIS】【Match Info】
 - 第5回 ゲーム分析の基礎③：コメント・戦評等の収集と活用【TV】【新聞】【日本バレーボール協会】
- 作業課題『FIVB, World Olympic Qualification Tournament (WOQT: 5/19-27, TKO-JPN)』の試合から選択
 - 第6回 グループ分けと作業内容の指示【分析対象試合の振り分け, 2試合 / Group】【PPT】
 - 第7回 グループ作業①：監督・選手コメントや戦評、公式記録等からの情報の収集
 - 第8回 グループ作業②：映像の確認によるゲームの流れの理解と課題の抽出
 - 第9回 グループ作業③：資料作成【試合の基本情報シートの作成】
 - 第10回 グループ作業④：資料作成【対戦チームとの比較分析シートの作成】【映像での再確認】
 - 第11回 グループ作業⑤：資料作成【担当2試合間の比較分析シートの作成】【映像での再確認】
 - 第12回 グループ作業⑥：プレゼン内容の最終確認【打合せ】【トライアル】
 - 第13回 グループ発表とフロア・ディスカッション【Group A】【Group B】
 - 第14回 グループ発表とフロア・ディスカッション【Group C】
対象6試合を通じたフリーディスカッション【クロス分析】
- 第15回 まとめ
- 夏休みの課題（個人研究）『The Olympic Games, London 2012: 7/27-8/12』の試合から選択

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加の程度をもとに総合的に評価します。具体的には、出席状況、報告・課題などへの取り組み状況、授業態度、貢献度（積極的な発言など）を基準として評価することになります。
ゼミへの参加...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

サブゼミなどのため、正規の授業時間外にも時間を取ってもらうことになります。
受講申請にあたってはこの点に注意してください。

教養基礎演習I【昼】

履修上の注意 /Remarks

最大で12人を予定しています。受講希望者が多い場合は、初回の授業時に選考を行います。したがって受講希望者は、最初の授業には必ず出席するようにしてください。

原則としてIとIIはセットで受講してください。

欠席や遅刻は、ゼミの運営に支障をきたし、グループでの作業に深刻な影響を与えることになります。参加状況が悪い場合には、その後のゼミ受講を認めませんので、注意してください。

夏休みの課題（個人研究）もあります（IIの授業内で発表してもらいます）。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

バレーボールが真に好きな人、得られた知見を、現在、そして将来にわたって、活かしてくれる人を募集します。

あなたの『バレーボールカ』を伸ばしてみませんか。

キーワード /Keywords

バレーボール ゲーム分析 ロンドンオリンピック 全日本 FIVB WOQT 2012 VIS 公式記録

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初めてあった人や普段話したことがない人の中にいたり、自分自身を人に理解してもらうためにはどうしたらいいのが困ったことなどはありませんか。そんな中、身体活動を通して、知らない人同士で自然に打ち解け、楽しみを感じたことはありませんでしたか。身体活動は、健康体力の増進のみならず、コミュニケーションづくりにも有効な方法なのです。本演習では、身体活動やグループワークを通して、どうしたら、コミュニケーション能力（人間関係力）を高めることができるかを焦点に考えていきたいと思ひます。
 また、学内と離れた場所での野外活動(キャンプ実習)を通して、他人と協調し、新たな自己発見や、自己開示能力についても養っていききたいと思ひます。

教科書 /Textbooks

適宜資料配付

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 自己紹介と他己紹介
- 3回 人間関係力とは
- 4回 人間関係力演習(1)簡単なゲームを通して
- 5回 人間関係力演習(2)簡単なゲームを通して
- 6回 人間関係力演習(3)身体活動を通して
- 7回 人間関係力演習(4)身体活動を通して
- 8回 人間関係力演習(5)身体活動を通して
- 9回 人間関係力演習(6)身体活動を通して
- 10回 人間関係力演習(7)身体活動を通して
- 11回 野外活動とは？
- 12回 キャンプ実習についての講義(1)
- 13回 キャンプ実習についての講義(2)
- 14回 キャンプ実習についての講義(3)
- 15回 キャンプ実習のふり返り

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

実習については、別途参加費がかかります(約4000円)。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

地域社会活動を通じ、広義の地域づくりに参加することで、活動に際してのマナーやP D C Aサイクルの基本を身につけることを目的とする。特に地域共生教育センターの運営スタッフとして、センターの運営や地域活動に直接参加することで、得た学びを各自が報告し、振り返り学習を通じて、上記の目的を達成する。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回～4回：事前学習
- 第5回～第10回：センター運営活動、地域活動等の実践。
- 第11回・12回：活動報告
- 第13回・14回：振り返り学習
- 第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- 演習における議論への参加度50%
- 活動への参加度50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

関連活動に関する文献学習。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター, 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は、株式会社スターフライヤーの協力を得て開講します。将来、社会人として求められる能力、特に対人接点を必要とする仕事に必要なコミュニケーション能力やホスピタリティについて学びます。航空業界、百貨店・小売業界、ホテル業界、ブライダル業界等を目指す学生にとって役に立つ講義です。

この講義を開講する理由は大きく三つあります。一点目は、昨今の企業が求める人材要件として、コミュニケーション能力が重視されていることです。単に同質な人との接点ではなく、多様な方々と円滑なコミュニケーションが取れることが求められています。二点目は、コミュニケーションやホスピタリティに関するスキル獲得だけでなく、それらを発揮するための素養を育む必要性があるからです。三点目は、上にあげた業界に就職したいと考えている学生にとってのチャンスを拡大するためです。

このような理由から、常に最高の接客コミュニケーションが求められるキャビンアテンダント教育の要素を取り入れたいと考え、株式会社スターフライヤーに協力をいただきます。日々業務を行っている実務家の講義は、現場に即した実践的な学びを学生の皆さんに提供します。

教科書 /Textbooks

授業開始時に説明します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業開始時に説明します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 コミュニケーションとは？(1)【エアラインでの実例をもとに考察する】
- 3回 コミュニケーションとは？(2)【エアライン等、対人職において求められる人物像の考察】
- 4回 コミュニケーションとは？(3)【コミュニケーションスキル他】
- 5回 コミュニケーションとは？(4)
- 6回 マナーとホスピタリティ(1)【ホスピタリティの意味～今なぜホスピタリティなのか？】
- 7回 マナーとホスピタリティ(2)【ホスピタリティマインドとアクション】
- 8回 マナーとホスピタリティ(3)【ホスピタリティ溢れるポジティブマナーとは】
- 9回 マナーとホスピタリティ(4)
- 10回 コミュニケーション&マナー実践(5)【対人職に求められるコミュニケーションスキル実践】
- 11回 コミュニケーション&マナー実践(6)
- 12回 コミュニケーション&マナー実践(7)【サービス適正確認 実践(ロールプレー)】
- 13回 コミュニケーション&マナー実践(8)【苦情/クレームについて考える】
- 14回 コミュニケーション&マナー実践(9)【面接におけるマナー】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...50% レポート...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

指定回スーツを着用しての受講となります。

履修上の注意 /Remarks

クラス定員を30名程度としますので、履修希望者多数の場合は抽選とします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

主として客室乗務員研修(ホスピタリティ/サービス実践等)を軸に対人職に求められるパーソナリティや接客スキルを学び磨いていく講義です。
「生」、「現場」の情報をお届けしますので、客室乗務員やグランドスタッフ、ホテルコンシェルジュ等高い接客スキルが求められる職業を将来希望される学生にぜひ受講して頂きたいと思っております。

キーワード /Keywords

コミュニケーション、ホスピタリティ、エアライン、ブライダル、ホテル

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。本演習では「人間と生命」を主たるテーマとし、簡単な実験・実習を体験することによって、これらに関する基本的知識と興味を身につける。また、新聞記事やニュースなど、身近な話題から対象となるトピックを探し出し、生物学的な背景を学ぶことによって、科学的なものの見方や考え方を身につける。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○「文系のための生命科学 第2版」東京大学生命科学教材書籍編集委員会編 2011年(羊土社)
 高校生物およびIIの教科書または参考書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の確認
- 3回 発表方法についての説明
- 4回 プレゼンテーションの準備(1)
- 5回 プレゼンテーションの準備(2)
- 6回 プレゼンテーションの準備(3)
- 7回 実験の準備および説明
- 8回～9回 DNA鑑定実験(学期内のいずれかの土曜日午後に実施)
- 10回 プレゼンテーション(1)
- 11回 プレゼンテーション(2)
- 12回 プレゼンテーション(3)
- 13回 関連映画鑑賞
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み40%(配布するカードに記入した内容で評価する)、発表40%、課題20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

希望者が多い場合は受講者数の調整を行うので、第1回目には必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

これまでまったく生物の勉強をしなかった者も歓迎します。この演習をきっかけに生命科学に興味を持ってもらうことが狙いです。

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description
日本政治外交史に関するゼミ・レポートを書いてもらう(400字×10枚以上)。受講者数にもよるが、毎回学生諸君に自分の研究テーマについて報告してもらい、それについての議論を深めていく。

教科書 /Textbooks
コピーして配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
山内志朗『ぎりぎり合格への論文マニュアル』(平凡社新書、2001年、700円)。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
1回 演習運営方針に関する話し合い。
2~14回 各自の研究報告。
15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method
日常的な授業への取り組み...50% 課題...50%
無断欠席はたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。
なお、ゼミ・レポート未提出は「D」評価となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
演習が始める前に大学図書館を見学しておいて下さい。

履修上の注意 /Remarks
小林担当の「教養基礎演習I」とセットで履修することを希望します。
この演習は2年生、3年生との合同演習です。
受講希望者が合計11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

考えを深める訓練：
教養基礎演習Iの続きとして、一つのテーマについて考えを深める訓練を行う。具体的には、教養基礎演習Iのレポートをもとに、受講者同士の問題関心に近いテキストをディスカッションを通して、各自のテーマをより掘り下げることを試みる。その成果を活かし、学期末には1の4000字レポートを書くことを目指す。この演習を通して、ひとつのテーマについてじっくり取り組むという、研究の基礎的な姿勢を身につけることを目的とする。

教科書 /Textbooks

教養基礎演習Iのレポート提出者の興味関心にあわせて第1回目の演習で指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 佐藤望ほか(編) 2006 『アカデミック・スキルズ』慶應大学出版会
- 専修大学出版企画委員会(編) 2009 『知のツールボックス』専修大学出版会
- 白井利明・高橋一郎 2008 『よくわかる卒論の書き方』ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 テーマを決めて文章を書くということ。
- 第2回 考えと深めるにはどうしたらいいか? : 教養基礎演習Iのレポートの講評と反省
- 第3・4回 テーマを深めるための議論のしかた
- 第5・6・7・8・9回 テキスト輪読と議論
- 第10・11・12・13回 レポート構想報告
- 第14回 文章を推敲する: レポート相互添削
- 第15回 報告会と演習のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート50%、授業貢献(報告内容、演習中の発言、その他の提出物など)50%
レポートについては教養基礎演習Iのレポートからの発展性を評価する。
ただし、報告者の無断欠席は厳しく減点します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

4000字のレポートは大変ですが、それは書く時間がかかるのではなく、それまでの準備に時間がかかります。本を探し、読む時間を計算に入れて準備しましょう。

履修上の注意 /Remarks

原則として教養基礎演習Iを受講した者を対象とするが、教養基礎演習IIのみ受講したい者は、必ず事前に相談すること(受講のためのレポート課す場合がある)。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

1学期は基本的な書き方を学ぶのに対し、2学期はより完成度の高いレポートを書くことが目的です。そのために自分の意見を説得力をもって話し、議論することも重視します。積極的な発言を心がけてください。

キーワード /Keywords

議論、多角的視野、説得力のあるレポート

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

学生としての心構えや厳しい社会へ踏み出す前段階としての「人間力」・「社会力」などのスキルの獲得が非常に重要なことと考える。そこで本演習では、共同生活を伴った野外活動体験や冒険教育の理論をもとに構築されたレクリエーション活動などによる人間関係トレーニングを行う。その中で、自己を見つめ直し、他人への配慮やコミュニケーション能力などの強化を目指す。本演習においては、演習Iを踏まえ、自然克服型である「スキー」を実施する。「スキー」等において学内では経験できないスポーツ活動を体験し、さらに集団スポーツで求められるチームワークやコミュニケーション能力の強化を目指します。キャンプ実習同様実習の参加ができないときは単位の認定ができない場合がありますので注意してください。実習は実費です。

教科書 /Textbooks

必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 自分自身を理解すること
- 2回 自分自身を人に理解させること
- 3回 人を理解すること
- 4回 集団で克服していくトレーニング
- 5回 ビデオによるスキー技術の習得 (1)
- 6回 ブルークターン (2)
- 7回 パラレルターン (3)
- 8回 ウデルン (4)
- 9回 学生自身によるスキー計画 (1) 場所
- 10回 学生自身によるスキー計画 (2) 期間
- 11回 学生自身によるスキー計画 (3) 金額
- 12回 学生自身によるスキー計画 (4) グループ分け
- 13回 スキープログラムの作成 (1)
- 14回 スキープログラムの作成 (2)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

受講態度 ... 70% レポート ...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。
 スキー実習は別途実習費が必要です。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習では、1年を通して、各自が自分の関心に従って、社会的な視点・方法によって論文・レポートを書くことをめざす。したがって原則として「教養基礎演習I」「教養基礎演習II」の通年（1学期・2学期）受講を義務づける。

II（2学期）では、まず、教養基礎演習Iで各自がたてた「問い」について「論文執筆計画書」を書く。さらに、その「計画書」中の「文献リスト」をもとに、各回2名ずつ、関連文献について内容報告（テキスト批評）をしてもらい、議論を行う。なお、1～2ヶ月に1度くらいの割合で、論文について進捗状況の報告会を行う。

Iと同様、報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、受講者の最大数は10人とする（それを越える場合、受講者数調整をかける）。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「論文執筆計画書」の報告
- 第2回 テキスト批評と議論
- 第3回 テキスト批評と議論
- 第4回 テキスト批評と議論
- 第5回 テキスト批評と議論
- 第6回 レポート検討会（4）
- 第7回 テキスト批評と議論
- 第8回 テキスト批評と議論
- 第9回 テキスト批評と議論
- 第10回 テキスト批評と議論
- 第11回 レポート検討会（5）
- 第12回 テキスト批評と議論
- 第13回 テキスト批評と議論
- 第14回 レポート検討会（6）
- 第15回 レポート報告会

成績評価の方法 /Assessment Method

参加度・貢献度...20% 課題（レポート）...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

レポート検討会の際には「研究計画書」を準備すること（様式等は授業中に指示する）。
報告者は、（1）文献概要、（2）内容要約、（3）論点整理、（4）議論を記したレジユメを準備すること。
報告者以外の者は（当然のことながら）事前に文献を読み、コメントを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名
/Instructor

廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
						○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習では、調査やフィールドワークをするための基礎的な能力を身につけることを目的とする。環境問題やコミュニティ問題などの地域社会が抱える問題の多くは、1つの学問分野では解決することが困難な複合的要因によって発生している。そのため、その解決策を模索する際には、地域社会に出て実際に調査することが必要である。「地域の人々から学ぶ」という学習方法・姿勢の習得を目指す。

教科書 /Textbooks

宮本常一・安溪遊地（2008）『調査されるという迷惑-フィールドに出る前に読んでおく本』みずのわ出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ジーン・レイヴ,エティエンヌ・ウエンガー（1993 = 1991）『状況に埋め込まれた学習-正統的周辺参加-』（佐伯胖 訳）産業図書
○ジョン・デューイ（2004 = 1938）『経験と教育』（市村尚久 訳）講談社学術文庫

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：授業内容についての紹介（イントロダクション）
- 第2回：レポート報告会①（夏季課題レポートの報告）
- 第3回：レポート報告会②（夏季課題レポートの報告）
- 第4回：レポート報告会③（夏季課題レポートの報告）
- 第5回：調査する意味について①（「地域社会から学ぶ」とは何か？）
- 第6回：調査する意味について②
- 第7回：調査をする上での注意点
- 第8回：調査の方法について（量的調査と質的調査）
- 第9回：テキスト（『調査されるという迷惑』）の輪読①
- 第10回：テキストの輪読②
- 第11回：テキストの輪読③
- 第12回：調査計画の作成の方法について
- 第13回：調査計画の作成と報告①
- 第14回：調査計画の作成と報告②
- 第15回：調査計画の作成と報告③ + まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

事前準備（夏季課題レポート）の完成度：30%
調査計画の完成度：30%
授業への貢献度（積極的発言・報告姿勢等）：40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

この演習を受講する者は、事前に示す課題について夏季休業中にレポートを作成してから、授業にのぞんでもらう。

履修上の注意 /Remarks

原則として「教養基礎演習I」を受講した者を対象とする。
(教養基礎演習IIのみを受講したい者は事前に申し出ること。夏季課題レポートについて指示するため。)

教養基礎演習II 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講者には1年次である程度、興味・関心のあるテーマを自分で見つけることを目指してほしい。春季休業中に実際に「地域社会」に出て調査を行うことが望ましい。

キーワード /Keywords

調査・フィールドワーク、地域社会から学ぶ、調査計画の作成方法

教養基礎演習II (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ(少人数・対話型)として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。この演習の履修希望者は、必ず、同じく1学期に開かれている「教養基礎演習I」とセットで受講すること。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。

この授業では、実際に自衛官を招聘する「教養基礎演習I」を補完するために、戸蒔が『防衛白書』等を用いて各ポイントの解説をする。防衛問題についてほとんど知識がない者から、多少の知識のある者までを想定し、わかりやすく解説する。

教科書 /Textbooks

『防衛白書』(必ず購入)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(戸蒔)
- 2回~14回 この授業は、各回の「教養基礎演習I」の内容に備えるための事前勉強という側面が強いので、「教養基礎演習I」のスケジュールと連動している。現段階で「教養基礎演習I」のゲストが調整中であるため、ここにスケジュールの詳細を明記することはできない。当面の予定は、概説、『防衛白書』『防衛計画の大綱』などの解説、ビデオ観賞などである。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

準備などは特に必要ない。ただし、戸蒔の「教養基礎演習I」とセットで受講できる者が望ましい。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄（とくに人文的教養）に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、これから大学生として学んでゆくにあたって最低限必要と思われる基礎的な能力を身につけることが、本演習の目的である。
年度ごとに思想上の古典を一冊セレクトし、それを全員で読み進めていく。今回はサルトルの名著『ユダヤ人』を取り上げる。

教科書 /Textbooks

J.-P. サルトル (安堂信也訳) 『ユダヤ人』岩波新書、1956年、735円。
(※本演習ではこのテキストを使用するので、必ず各自で用意しておくこと。)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンス時に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 1学期の復習と内容確認
- 3回 読解と議論 1
- 4回 読解と議論 2
- 5回 読解と議論 3
- 6回 読解と議論 4
- 7回 読解と議論 5
- 8回 読解と議論 6
- 9回 読解と議論 7
- 10回 読解と議論 8
- 11回 読解と議論 9
- 12回 読解と議論 10
- 13回 復習と補助学習 1
- 14回 復習と補助学習 2
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況 (予習・議論・発言の積極性) ...50% 課題 (議事録作成) ...50%
(3回以上無断欠席をした場合は自動的に不合格判定となる。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

参加を希望する場合は、初回の授業までに上記のテキストを購入しておくこと (税込735円) 。
本演習は全体の後半部にあたるため、1学期に参加していなかった者は、授業前の準備事項としてテキストの前半100頁ほどを自分自身で読み通しておくことが必要になる。

履修上の注意 /Remarks

参加者全員ができるだけ多くの発言・課題作成の機会を得られるよう、受講者の最大人数は15人までとする。それを越える場合は受講者数調整をかける。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では毎回の「予習」(指定ページの読解、分からない単語の調査) と「復習」(授業議事録の作成) が必須となります。この授業は2年生以上の学生も参加する合同演習です。予習・復習に十分な時間をかけることができない方は、他の参加者に迷惑をかけることとなりますので、ご遠慮ください。

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

このクラスのテーマは、「バレーボールを科学する！技術編」です。
この演習では、教養基礎演習I(入門編)で経験した「映像情報および公式情報に基づくゲームの見直し作業」を通じて得られた知見をもとに、戦術理解の深化をキーワードに、大学生の武器である「頭(頭脳)」を使って「バレーボール」と真正面から向き合うための基礎知識・技術を習得してもらおうと思っています。バレーボールで試合に勝つためには、連続失点を少なくすること、連続得点を多くすることを考えたチーム作りが必要になりますが、今回、ここでは「連続得点をとる」をキーワードに、基本的な戦術の理解とともに映像等を基にしたデータ分析の基礎的な手法を学んでいきます。
作業は、座学と調査・実習を組み合わせながら、グループで行うことを予定しています。このプロセスを通じ、①情報を収集する力、②データを分析する力、③問題(ポイント)を発見する力、④自分の考えを人に伝達する力、⑤考えを異にする人と討論し、説得する力を、みなさんに身につけ、高めていってほしいと思います。

教科書 /Textbooks

テキスト等はありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書等は、初回の授業時に、紹介します。
授業の理解に必要な資料等は、適宜、配布します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースガイダンス, 夏休みの課題(個人研究)の発表
- 第2回 夏休みの課題(個人研究)の発表の続き, バレーボールとアナリストの役割
- 【連続得点をとるための分析軸I: サービス⇒レセプション(サービスによって先手を取る)】
- 第3回 戦術理解I: レセプションフォーメーション&サービス
- 第4回 ゲーム映像からの分析I①: フォーメーションのチェック
- 第5回 ゲーム映像からの分析I②: ローテーションごとに結果を整理(レセプションの評価)
- 第6回 分析結果の発表I: サービスの狙い目はどこか
- 【連続得点をとるための分析軸II: レセプション⇒アタック(相手チームの攻撃パターンを知る)】
- 第7回 戦術理解II: アタックフォーメーション
- 第8回 ゲーム映像からの分析II①: レセプション⇒攻撃(軌跡化)
- 第9回 ゲーム映像からの分析II②: レセプション⇒攻撃(選手ごとの特徴)
- 第10回 分析結果の発表II: どのような特徴がレセプションからの攻撃に見られるか
- 【連続得点をとるための分析軸III: ティグ⇒アタック(拾って攻撃につなげる)】
- 第11回 戦術理解III A: ブロックシステム, フロアディフェンスフォーメーション
- 第12回 ケーススタディIII A: チーム事情に応じたシステムを考えよう
- 第13回 戦術理解III B: アタック&ブロックフォローフォーメーション
- 第14回 ケーススタディIII B: 高さを理解した攻撃を考えよう(2つの最高到達点の比較から)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加の程度をもとに総合的に評価します。具体的には、出席状況、報告・課題などへの取り組み状況、授業態度、貢献度(積極的な発言など)を基準として評価することになります。
ゼミへの参加...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

夏休みの課題(個人研究)を行ってこよう

サブゼミなどのため、正規の授業時間外にも時間を取ってもらうことになります。
受講申請にあたってはこの点に注意してください。

教養基礎演習II 【昼】

履修上の注意 /Remarks

最大で12人を予定しています。
IとIIはセットで受講してもらうことを原則とします。
欠席や遅刻は、ゼミの運営に支障をきたし、グループでの作業に深刻な影響を与えることになります。参加状況が悪い場合には、その後のゼミ受講を認めませんので、注意してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

バレーボールが真に好きな人、得られた知見を、現在、そして将来にわたって、活かしてくれる人を募集します。
あなたの『バレーボール力』をさらに伸ばしてみませんか。

キーワード /Keywords

バレーボール アナリスト データ分析 各スキル・エリアの記号化 スキル評価の基準

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

自分自身を人に理解してもらうためにはどうしたらいいでしょうか。初めてあった人や普段話したことがない人の良いところを見つけるためにはどうしたらよいかを見つける術について考えていきます。本演習では、身体活動を通して、自分自身を理解する能力、そして人に自分を理解させる能力を身につけることを主眼においています。

また、学内と離れた場所での野外活動（スキー実習）を通して、他人と協調し、新たな自己発見や、自己開示能力についても養っていききたいと思います。

教科書 /Textbooks

適宜資料配付

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 自分自身を理解するためには (1)
- 3回 自分自身を理解するためには (2)
- 4回 自分自身を人に理解させるためには (1)
- 5回 自分自身を人に理解させるためには (2)
- 6回 身体活動を用いた自己表現 (1)
- 7回 身体活動を用いた自己表現 (2)
- 8回 身体活動を用いた自己表現 (3)
- 9回 身体活動を用いた自己表現 (4)
- 10回 身体活動を用いた自己表現 (5)
- 11回 身体活動を用いた自己表現 (6)
- 12回 スキー実習についての講義 (1)
- 13回 スキー実習についての講義 (2)
- 14回 スキー実習についての講義 (3)
- 15回 スキー実習のふり返り

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

スキー実習については、別途参加費がかかります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 AI 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

地域社会活動を通じ、広義の地域づくりに参加することで、実践的な企画力・運営力を養うことを目的とする。
 特に地域共生教育センターの運営スタッフとして、センターの運営や地域活動に直接参加することで、得た学びを各自が報告し、振り返り学習を通じて、上記の目的を達成する。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回～4回：事前学習・企画
 第5回～第10回：センター運営活動、地域活動等の実践。
 第11回・12回：活動報告
 第13回・14回：振り返り学習
 第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習における議論への参加度50%
 活動への参加度50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

関連活動に関する文献学習。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 AI 【昼】

担当者名 /Instructor 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本演習では、身体活動を通して、初めてあった人や知らない人同士でどうしたら自然に打ち解け、お互いに楽しみを共有できるかについて主眼をおく。そこで、学内での実習や学外での実習（キャンプ実習や地域の中高齢者を対象とした運動プログラム）を通して、教示の仕方や振る舞い方などでどのように楽しみを共有できるかについて考えていきたい。
 また、キャンプ実習（教養基礎演習I）のリーダーとして関わりながら、他人と協調し、新たな自己発見や、自己開示能力についても養ってきたい。

教科書 /Textbooks

適宜資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 リーダーとリーダーシップ
- 3回 安全性と有効性
- 4回 キャンプ実習の計画（1）リーダーとしての関わり
- 5回 キャンプ実習の計画（2）安全性と有効性
- 6回 キャンプ実習の計画（3）プログラム作成
- 7回 キャンプ実習の実施
- 8回 キャンプ実習の評価
- 9回 中高齢者にあった身体活動プログラムの計画（1）安全性と有効性
- 10回 中高齢者にあった身体活動プログラムの計画（2）プログラム作成
- 11回 中高齢者にあった身体活動プログラムの計画（3）プログラム作成
- 12回 中高齢者にあった身体活動プログラムの実施（1）
- 13回 中高齢者にあった身体活動プログラムの実施（2）
- 14回 中高齢者にあった身体活動プログラムの評価
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

身体活動を伴うので、運動のできる服装とシューズを準備すること。
 キャンプ実習については、別途参加費がかかります。（約4000円）。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 AI 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。本演習では「生命と物質」を主たるテーマとし、簡単な実験・実習を体験することによって、これらに関する基本的知識と興味を身につける。また、私たちが普段口にする食物など、身近な話題から対象となる物質を探し出し、生物学的な意義を学ぶことによって、科学的なものの見方や考え方を身につける。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ 「文系のための生命科学 第2版」 東京大学生命科学教材書籍編集委員会編 2011年(羊土社)
 高校生物およびIIの教科書または参考書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の確認
- 3回 発表方法についての説明
- 4回 プレゼンテーションの準備(1)
- 5回 プレゼンテーションの準備(2)
- 6回 プレゼンテーションの準備(3)
- 7回～8回 DNA抽出実験(学期内のいずれかの土曜日午後実施)
- 9回 プレゼンテーション(1)
- 10回 プレゼンテーション(2)
- 11回 プレゼンテーション(3)
- 12回 遺伝学実習
- 13回 関連映画鑑賞
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み40%(配布するカードに記入した内容で評価する)、発表40%、課題20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

希望者が多い場合は受講者数の調整を行うので、第1回目には必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

これまでまったく生物の勉強をしなかった者も歓迎します。この演習をきっかけに生命科学に興味を持ってもらうことが狙いです。

キーワード /Keywords

教養演習 AI 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 1学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

文献読解能力を訓練し、レジюме（梗概）の作り方、報告の仕方などを実地に学んでいく。あわせて、日本の歴史に対する理解を深め、国際化時代に相応しい教養を涵養する一助としたい。

毎回、全履修生から「レジюме」（梗概）を提出してもらい、次週までに添削して返却します。「レジюме」とは、わかりやすく言うと、この場合には本の内容の要約です。この演習の目的は、レジюмеを作成することを通じて、専門的な文献を読む基礎になる読解力、内容を要約してまとめる力、プレゼンテーション能力などを涵養することにあります。受講者数にもよりますが、毎回1～5名程度の受講生に報告してもらいます。したがって、受講者が少ない場合には毎回報告してもらうことになります。意欲的な学生は大歓迎です。15回の演習で、一冊完読します。

教科書 /Textbooks

小林道彦『桂太郎 - 予が生命は政治である』（ミネルヴァ書房、2007年）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション。
- 2～14回 文献の輪読。
- 15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...50% 報告・レジюмеの内容...50%
 無断欠席やレジюмеの未提出は、それぞれたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎週必ず、テキストの該当ページを読んで、レジюмеを作ってもらいます。

履修上の注意 /Remarks

小林担当の「教養演習 AIII」とセットで履修することを希望します。
 この演習は1年生、3年生との合同演習です。
 受講希望者が合計11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A1【昼】

担当者名 /Instructor 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 / 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

問題関心へのアプローチ法を考える①：

本演習では、漠然と現代社会に関する問題や異文化に関する問題に関するフィールド調査をすることに興味があり、漠然と卒業論文などでこれらの問題を扱いたいと考えている学生を対象とする。

漠然と卒業論文で（インタビュー調査、参与観察などの）質的調査をとりいれてみたいと考えている学生はいると思うが、はたしてその興味関心にアプローチするのに質的調査は適切だろうか。本演習では、受講者の関心に応じて現代社会または異文化に関する文献を購読するとともに、質的調査の方法論に興味関心にどのように生かすことができるかを学び、自身の問題関心を深めることを目的とする。

教科書 /Textbooks

受講者の関心に合わせて現代社会または異文化に関する質的調査の結果を用いたテキストを1-2冊程度読む。テキストについては第1回で決定する。

（候補：春日直樹『人類学で世界を見る』、菅原和孝（編）『フィールドワークへの挑戦』など）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○佐藤郁哉 2002 『フィールドワークの技法：問いを育てる、仮説をきたえる』 新曜社

○箕浦康子（編）1999 『フィールドワークの技法と実際』 ミネルヴァ書房

※そのほか必要に応じて演習中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入：本演習の目的説明、テキスト決定
- 第2回 具体的な現場から社会を理解することについて（講義）
- 第3回 インタビュー調査の方法と実践①
- 第4回 インタビュー調査の方法と実践②
- 第5回 言葉からわかることの限界
- 第6回 テキスト輪読と議論
- 第7回 テキスト輪読と議論
- 第8回 テキスト輪読と議論
- 第9回 参与観察の方法と記録のつけかた
- 第10回 参与観察の方法と記録のつけかた
- 第11回 テキスト輪読と議論
- 第12回 テキスト輪読と議論
- 第13回 テキスト輪読と議論
- 第14回 レポート構想報告
- 第15回 レポート構想報告

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の報告と提出物50%、期末レポート50%、報告の無断欠席と提出物の未提出は厳しく減点します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ・具体的に何らかのフィールドワークを行う必要は特にありませんが、各自で、なんらかの研究関心を持ってください。学期末のレポートでは興味あるテーマについて論じることを求めます。
- ・演習参加者には、輪読のテキストについて各自で読書ノートを取り、意見を述べるのが求められる。具体的な説明は第1回で行う。

履修上の注意 /Remarks

- ・教養演習 A1も続けて受講することが望ましいです。
- ・輪読するテキストを準備する資金はそれなりに必要です。注意してください。
- ・履修を希望する場合、第1回か第2回のいずれかに必ず出席してください。

教養演習 AI 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 現代社会や異文化に関する具体的な問題に関心があるけれど、どんな本を読めばいいのかわからないという学生同士が積極的に協力関係をつくることを期待します。
- ・ 担当者のほかの授業（教養基礎演習、人間と文化、文化と政治）を履修したことがあれば、理解がさらに深まります。

キーワード /Keywords

- ・ 現代社会、文化、質的調査

教養演習 AI (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ(少人数・対話型)として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。この演習の履修希望者は、必ず、同じく1学期に開かれている「教養演習AII」とセットで受講すること。
 この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。経験豊富な幹部自衛官(陸海空、尉官・佐官クラス)をほぼ毎回招聘し、それぞれの立場と経験に基づくレクチャーをしてもらい、レクチャーについての質疑応答を行う。また、2回のバスハイクを予定しており、海上自衛隊佐世保基地での護衛艦体験搭乗、航空自衛隊築城基地の見学などを行う(予定)。

教科書 /Textbooks

『防衛白書』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(戸蒔)
- 2回~14回 現段階でゲストは調整中であるが、陸海空の幹部自衛官で比較的若手を中心にする計画である。ただし、1~2回は高級幹部(1佐・将補の司令クラス)を招聘し、講演会に充てたい。また、上述の通り、2回はバスハイクの予定。そして1回は、隣にある陸上自衛隊小倉駐屯地の見学を行う。スケジュールは第1回のガイダンスで発表する。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度50%、レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

準備などは特に必要ない。ただし、戸蒔の「教養演習AII」とセットで受講できる者が望ましい。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 AI 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習では、1年を通して、各自が自分の関心に従って、社会学的な視点・方法によって論文・レポート（8000字程度）を書くことをめざす。したがって原則として「教養演習AI」「教養演習AII」の通年受講（1・2学期受講）を義務づける。

1学期は、まず、以下のことを身につけることを目指す。

- (1) 社会学的なもの見方・考え方
- (2) 文献資料の調べ方
- (3) レポート・論文の書き方

さらに、社会学的な調査を用いた基礎的な文献を報告してもらう。

同時並行的に、自らが書く論文・レポートについても準備をすすめる。まず、各自が「テーマ」と「問い」をたてる。その上で、自らのたてた「問い」について関連する文献のリストを作成する。

報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、原則として受講者の最大数は10人とする（それを越える場合、受講者数調整をかけることがある）。

教科書 /Textbooks

- 『知的複眼思考法』、刈谷剛彦、講談社+α文庫、2002
- 『「二ート」って言うな』、本田由紀・内藤朝雄・後藤和智、光文社新書、2006

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『レポート・論文の書き方入門』河野哲也、慶応義塾大学出版会
- 『自分で調べる技術 - 市民のための調査入門』、宮内泰介、岩波アクティブ新書
- その他、講義の中で、その都度、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業内容の紹介
- 第2回 社会学的なもの見方・考え方(1) - 『知的複眼思考法』
- 第3回 社会学的なもの見方・考え方(2) - 『知的複眼思考法』
- 第4回 社会学的なもの見方・考え方(3) - 『知的複眼思考法』
- 第5回 第1回レポート検討会
- 第6回 論文・レポートの書き方
- 第7回 情報収集の仕方(1)
- 第8回 情報収集の仕方(2)
- 第9回 第2回レポート検討会
- 第10回 分析実例(1) - 『「二ート」って言うな』第1部
- 第11回 分析実例(2) - 『「二ート」って言うな』第2部
- 第12回 分析実例(3) - 『「二ート」って言うな』第3部
- 第13回 調査倫理について
- 第14回 第3回レポート検討会
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

参加度・貢献度...40% 課題...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

レポート検討会の際には「研究計画書」を準備すること（様式等は授業中に指示する）。
報告者は、(1)文献概要、(2)内容要約、(3)論点整理、(4)議論を記したレジユメを準備すること。
報告者以外の者は（当然のことながら）事前に文献を読み、コメントを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

教養演習 AI 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 AI 【昼】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、すべての大学生にとって欠かすことのできない人文的な素養を身につけることが、本演習の目的である。
年度ごとに思想上の基本文献を一冊セレクトし、それを全員で読み進めていく。今回はサルトルの名著『ユダヤ人』を取り上げる。

教科書 /Textbooks

J. -P. サルトル (安堂信也訳) 『ユダヤ人』 岩波新書、1956年、735円。
(※本演習ではこのテキストを使用するので、必ず各自で用意しておくこと。)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンス時に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 ガイダンス 1 (演習でのルール、成績評価法の説明)
- 2 回 ガイダンス 2 (対象となるテキスト、著者の紹介)
- 3 回 読解と議論 1
- 4 回 読解と議論 2
- 5 回 読解と議論 3
- 6 回 読解と議論 4
- 7 回 読解と議論 5
- 8 回 読解と議論 6
- 9 回 読解と議論 7
- 10 回 読解と議論 8
- 11 回 読解と議論 9
- 12 回 読解と議論 10
- 13 回 復習と補助学習 1
- 14 回 復習と補助学習 2
- 15 回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況 (予習・議論・発言の積極性) ...50% 課題 (議事録作成) ...50%
(3 回以上無断欠席をした場合は自動的に不合格判定となる。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本演習への参加を希望している者は、第三回の授業までに上記のテキストを購入しておく必要がある (税込735円) 。

履修上の注意 /Remarks

参加者全員ができるだけ多くの発言・課題作成の機会を得られるよう、受講者の最大人数は15人までとする。それを越える場合は受講者数調整をかける。その際、同担当者による授業科目「思想と現代」を履修済みであり、なおかつその試験で「A」以上の成績を収めている学生は優先的に配慮する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では毎回の「予習」(指定ページの読解、分からない単語の調査) と「復習」(授業議事録の作成) が必須となります。予習・復習に十分な時間をかけることができない方は、他の参加者に迷惑をかけることとなりますので、ご遠慮ください。

キーワード /Keywords

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

地域社会活動を通じ、広義の地域づくりに参加することで、実践的な企画力・運営力を養うことを目的とする。
 特に地域共生教育センターの運営スタッフとして、センターの運営や地域活動に直接参加することで、得た学びを各自が報告し、振り返り学習を通じて、上記の目的を達成する。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回～4回：事前学習・企画
- 第5回～第10回：センター運営活動、地域活動等の実践。
- 第11回・12回：活動報告
- 第13回・14回：振り返り学習
- 第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- 演習における議論への参加度50%
- 活動への参加度50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

関連活動に関する文献学習。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター, 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本演習では、学内や学外での実習（スキー実習や地域の健康増進プログラムなど）を通して、自分自身を理解する能力、そして人に自分を理解させる能力を身につけることに主眼をおく。さらに、身体活動を通して、初めてあった人や普段話したことがない人の良いところを見つけるためにはどうしたらよいかを見つける術について考えていく。
 また、スキー実習（教養基礎演習II）のリーダーとして関わり、他人と協調し、新たな自己発見や、自己開示能力についても養っていききたい。

教科書 /Textbooks

適宜資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 コミュニケーションゲーム(1)
- 3回 コミュニケーションゲーム(2)
- 4回 地域における健康ニーズ
- 5回 健康と体力
- 6回 地域住民に必要な体力とは
- 7回 健康増進プログラムの計画(1) 体力測定
- 8回 健康増進プログラムの計画(2) 安全性と有効性
- 9回 健康増進プログラムの計画(3) プログラム作成
- 10回 健康増進プログラムの実施
- 11回 健康増進プログラムの評価
- 12回 スキー実習の計画(1) 野外活動の意義
- 13回 スキー実習の計画(2) 安全性と有効性
- 14回 スキー実習の計画(3) プログラム作成
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

身体活動を伴うので、運動のできる服装とシューズを準備すること。
 スキー実習については、別途参加費がかかります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。本演習では「人間と生命」を主たるテーマとし、簡単な実験・実習を体験することによって、これらに関する基本的知識と興味を身につける。また、新聞記事やニュースなど、身近な話題から対象となるトピックを探し出し、生物学的な背景を学ぶことによって、科学的なものの見方や考え方を身につける。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○「文系のための生命科学 第2版」東京大学生命科学教材書籍編集委員会編 2011年(羊土社)
高校生物およびIIの教科書または参考書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の確認
- 3回 発表方法についての説明
- 4回 プレゼンテーションの準備(1)
- 5回 プレゼンテーションの準備(2)
- 6回 プレゼンテーションの準備(3)
- 7回 実験の準備および説明
- 8回～9回 DNA鑑定実験(学期内のいずれかの土曜日午後に実施)
- 10回 プレゼンテーション(1)
- 11回 プレゼンテーション(2)
- 12回 プレゼンテーション(3)
- 13回 関連映画鑑賞
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み40%(配布するカードに記入した内容で評価する)、発表40%、課題20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

希望者が多い場合は受講者数の調整を行うので、第1回目には必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

これまでまったく生物の勉強をしなかった者も歓迎します。この演習をきっかけに生命科学に興味を持ってもらうことが狙いです。

キーワード /Keywords

教養演習 AII 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description
 ゼミ論文をかいてもらう(400字×20枚以上)。受講者数にもよるが、毎回学生諸君に自分の研究テーマについて報告してもらい、それについての議論を深めていく。

教科書 /Textbooks
 コピーして配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 山内志朗『ぎりぎり合格への論文マニュアル』(平凡社新書、2001年)700円。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 1回 演習運営方針に関する話し合い。
 2~14回 各自の研究報告(同時並行的に論文執筆)。
 15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method
 日常的な授業への取り組み...50%課題...50%
 無断欠席はたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。なお、ゼミ論未提出は「D」評価となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 毎週こつこつと原稿を作っておいて下さい。

履修上の注意 /Remarks
 小林担当の「教養演習AI」とセットで履修することを希望します。
 AIを履修できない場合には、事前に相談して下さい。
 この演習は1年生、3年生との合同演習です。
 受講希望者が合計で11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 AII 【昼】

担当者名 /Instructor 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位 2学期
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

問題関心へのアプローチ法を考える②：

本演習では、1学期の演習を踏まえて、自分の問題関心の深めかたについて学ぶ。現代社会または異文化に関するテキストの輪読を行う。自分の興味関心について意見交換することを通し、最終的に各自が設定したテーマに沿ってレポートを作成する（受講者によって多少の変更の可能性はある）。

教科書 /Textbooks

受講者の関心に合わせて現代社会または異文化に関するテキストを1-2冊程度読む。テキストについては第1回で決定する。
(候補：レベッカ・ソルニット『災害ユートピア』、ジェームス・スコット『モラル・エコノミー』、竹沢尚一郎『社会とは何か』など、または、世界思想社社会学ベーシックシリーズから適宜)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて演習中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 問題関心をいかに深めるか：テキストの選定
- 第2回 問題関心へのアプローチ法について：1学期のレポート返却とコメント
- 第3回 問題関心共有のための議論
- 第4回 テキスト輪読と議論
- 第5回 テキスト輪読と議論
- 第6回 テキスト輪読と議論
- 第7回 テキスト輪読と議論
- 第8回 テキスト輪読と議論
- 第9回 テキスト輪読と議論
- 第10回 テキスト輪読と議論
- 第11回 レポート構想報告
- 第12回 レポート構想報告
- 第13回 レポート構想報告
- 第14回 レポート構想報告
- 第15回 レポート構想報告

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の報告と提出物50%、期末レポート50%、
報告の無断欠席と提出物の未提出は厳しく減点します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ・ 演習参加者には、輪読のテキストについて各自で読書ノートを取り、意見を述べる事が求められます。具体的な説明は第1回で行います。
- ・ 本演習は自分の問題関心を深めることが目的です。議論やレポート作成に主体的に取り組んでください。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 教養演習AIの受講者を対象とするが、テキスト輪読のみに興味あるなど、教養演習AIIからの受講を希望する者は事前に相談すること。
- ・ 輪読するテキストを準備する資金はそれなりに必要です。注意してください。
- ・ 履修を希望する場合、第1回の授業に必ず出席してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 現代社会に関する問題、文化に関する問題に興味ある学生の受講を歓迎します。
- ・ 担当者のほかの授業(教養基礎演習、人間と文化、文化と政治)を履修したことがあれば、理解がさらに深まります。

キーワード /Keywords

現代社会、文化

教養演習 AII (防衛セミナー) 【昼】

担当者名
 /Instructor

戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ(少人数・対話型)として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。この演習の履修希望者は、必ず、同じく1学期に開かれている「教養演習AI」とセットで受講すること。
 この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。
 この授業では、実際に自衛官を招聘する「教養基礎演習I」を補完するために、戸蒔が『防衛白書』等を用いて各ポイントの解説をする。防衛問題についてほとんど知識がない者から、多少の知識のある者までを想定し、わかりやすく解説する。

教科書 /Textbooks

『防衛白書』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(戸蒔)
- 2回~14回 この授業は、各回の「教養演習AI」の内容に備えるための事前勉強という側面が強いので、「教養基礎演習I」のスケジュールと連動している。現段階で「教養演習AI」のゲストが調整中であるため、ここにスケジュールの詳細を明記することはできない。当面の予定は、概説、『防衛白書』『防衛計画の大綱』などの解説、ビデオ観賞などである。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

準備などは特に必要ない。ただし、戸蒔の「教養演習AI」とセットで受講できる者が望ましい。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 AII 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /2 Years 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2 Semesters 授業形態 /Class Format 演習 /Seminar クラス /Class 2年 /2 Years

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習では、1年を通して、各自が自分の関心に従って、社会学的な視点・方法によって論文・レポート（8000字程度）を書くことをめざす。したがって原則として「教養演習AI」「教養演習AII」の通年（1学期・2学期）受講を義務づける。

AII（2学期）では、まず、教養演習AIで各自がたてた「問い」について「論文執筆計画書」を書く。さらに、その「計画書」中の「文献リスト」をもとに、各回2名ずつ、関連文献について内容報告（テキスト批評）をしてもらい、議論を行う。なお、1～2ヶ月に1度くらいの割合で、論文について進捗状況の報告会を行う。

AIと同様、報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、受講者の最大数は10人とする（それを越える場合、受講者数調整をかける）。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「論文執筆計画書」の報告
- 第2回 テキスト批評と議論
- 第3回 テキスト批評と議論
- 第4回 テキスト批評と議論
- 第5回 テキスト批評と議論
- 第6回 レポート検討会（4）
- 第7回 テキスト批評と議論
- 第8回 テキスト批評と議論
- 第9回 テキスト批評と議論
- 第10回 テキスト批評と議論
- 第11回 レポート検討会（5）
- 第12回 テキスト批評と議論
- 第13回 テキスト批評と議論
- 第14回 レポート検討会（6）
- 第15回 レポート報告会

成績評価の方法 /Assessment Method

参加度・貢献度...20% 課題（レポート）...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

レポート検討会の際には「研究計画書」を準備すること（様式等は授業中に指示する）。報告者は、（1）文献概要、（2）内容要約、（3）論点整理、（4）議論を記したレジюмеを準備すること。報告者以外の者は（当然のことながら）事前に文献を読み、コメントを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A II 【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、すべての大学生にとって欠かすことのできない人文的な素養を身につけることが、本演習の目的である。
年度ごとに思想上の基本文献を一冊セレクトし、それを全員で読み進めていく。今回はサルトルの名著『ユダヤ人』を取り上げる。

教科書 /Textbooks

J.-P. サルトル (安堂信也訳) 『ユダヤ人』岩波新書、1956年、735円。
(※本演習ではこのテキストを使用するので、必ず各自で用意しておくこと。)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンス時に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 1学期の復習と内容確認
- 3回 読解と議論 1
- 4回 読解と議論 2
- 5回 読解と議論 3
- 6回 読解と議論 4
- 7回 読解と議論 5
- 8回 読解と議論 6
- 9回 読解と議論 7
- 10回 読解と議論 8
- 11回 読解と議論 9
- 12回 読解と議論 10
- 13回 復習と補助学習 1
- 14回 復習と補助学習 2
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況 (予習・議論・発言の積極性) ...50% 課題 (議事録作成) ...50%
(3回以上無断欠席をした場合は自動的に不合格判定となる。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

参加を希望する場合は、初回の授業までに上記のテキストを購入しておくこと (税込735円) 。
本演習は全体の後半部にあたるため、1学期に参加していなかった者は、授業前の準備事項としてテキストの前半100頁ほどを自分自身で読み通しておくことが必要になる。

履修上の注意 /Remarks

参加者全員ができるだけ多くの発言・課題作成の機会を得られるよう、受講者の最大人数は15人までとする。それを越える場合は受講者数調整をかける。その際、同担当者による授業科目「思想と現代」を履修済みであり、なおかつその試験で「A」以上の成績を収めている学生は優先的に配慮する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では毎回の「予習」(指定ページの読解、分からない単語の調査) と「復習」(授業議事録の作成) が必須となります。予習・復習に十分な時間をかけることができない方は、他の参加者に迷惑をかけることとなりますので、ご遠慮ください。

キーワード /Keywords

教養演習BI【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 3年
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

地域社会活動を通じ、広義の地域づくりに参加することで、実践力・総合力を養うことを目的とする。
 特に地域共生教育センターの運営スタッフとして、センターの運営や地域活動に直接参加することで、得た学びを各自が報告し、振り返り学習を通じて、上記の目的を達成する。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回～4回：事前学習・企画
- 第5回～第10回：センター運営活動、地域活動等の実践。
- 第11回・12回：活動報告
- 第13回・14回：振り返り学習
- 第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- 演習における議論への参加度20%
- 活動への参加度50%
- 活動報告書30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

関連活動に関する文献学習。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習BI【昼】

担当者名 /Instructor 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本演習では、身体活動を通して、初めてあった人や知らない人同士でどうしても自然に打ち解け、お互いに楽しみを共有できるかについて主眼をおく。そこで、学内での実習や学外での実習（キャンプ実習や地域の中高齢者を対象とした運動プログラム）を通して、教示の仕方や振る舞い方などでどのように楽しみを共有できるかについて考えていきたい。また、社会人に必要なマナーや振る舞いについても考えていく。
 また、キャンプ実習（教養基礎演習I）のリーダーとして関わりながら、他人と協調し、新たな自己発見や、自己開示能力についても養ってきたい。

教科書 /Textbooks

適宜資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 リーダーとリーダーシップ
- 3回 安全性と有効性
- 4回 キャンプ実習の計画(1)リーダーとしての関わり
- 5回 キャンプ実習の計画(2)安全性と有効性
- 6回 キャンプ実習の計画(3)プログラム作成
- 7回 キャンプ実習の実施
- 8回 キャンプ実習の評価
- 9回 中高齢者にあった身体活動プログラムの計画(1)安全性と有効性
- 10回 中高齢者にあった身体活動プログラムの計画(2)プログラム作成
- 11回 中高齢者にあった身体活動プログラムの計画(3)プログラム作成
- 12回 中高齢者にあった身体活動プログラムの実施(1)
- 13回 中高齢者にあった身体活動プログラムの実施(2)
- 14回 中高齢者にあった身体活動プログラムの評価
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

身体活動を伴うので、運動のできる服装とシューズを準備すること。
 キャンプ実習については、別途参加費がかかります。(約4000円)。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習BI【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。本演習では「生命と物質」を主たるテーマとし、簡単な実験・実習を体験することによって、これらに関する基本的知識と興味を身につける。また、私たちが普段口にする食物など、身近な話題から対象となる物質を探し出し、生物学的な意義を学ぶことによって、科学的なものの見方や考え方を身につける。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○「文系のための生命科学 第2版」東京大学生命科学教材書籍編集委員会編 2011年(羊土社)
 高校生物およびIIの教科書または参考書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の確認
- 3回 発表方法についての説明
- 4回 プレゼンテーションの準備(1)
- 5回 プレゼンテーションの準備(2)
- 6回 プレゼンテーションの準備(3)
- 7回～8回 DNA抽出実験(学期内のいずれかの土曜日午後実施)
- 9回 プレゼンテーション(1)
- 10回 プレゼンテーション(2)
- 11回 プレゼンテーション(3)
- 12回 遺伝学実習
- 13回 関連映画鑑賞
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み40%(配布するカードに記入した内容で評価する)、発表40%、課題20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

希望者が多い場合は受講者数の調整を行うので、第1回目には必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

これまでまったく生物の勉強をしなかった者も歓迎します。この演習をきっかけに生命科学に興味を持ってもらうことが狙いです。

キーワード /Keywords

教養演習BI【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

文献読解能力を訓練し、レジюме（梗概）の作り方、報告の仕方などを実地に学んでいく。あわせて、日本の歴史に対する理解を深め、国際化時代に相応しい教養を涵養する一助としたい。

毎回、全履修生から「レジюме」（梗概）を提出してもらい、次週までに添削して返却します。「レジюме」とは、わかりやすく言うと、この場合には本の内容の要約です。この演習の目的は、レジюмеを作成することを通じて、専門的な文献を読む基礎になる読解力、内容を要約してまとめる力、プレゼンテーション能力などを涵養することにあります。受講者数にもよりますが、毎回1～5名程度の受講生に報告してもらいます。したがって、受講者が少ない場合には毎回報告してもらうことになります。意欲的な学生は大歓迎です。15回の演習で、一冊完読します。

教科書 /Textbooks

小林道彦『桂太郎 - 予が生命は政治である』（ミネルヴァ書房、2007年）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目 オリエンテーション。
- 2～14回 文献の輪読。
- 15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...50% 報告・レジюмеの内容...50%
 無断欠席やレジюмеの未提出は、それぞれたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎週必ず、テキストの該当ページを読んで、レジюмеを作ってもらいます。

履修上の注意 /Remarks

小林担当の「教養演習A1・II」「教養演習BII」とセットで履修することを希望します。
 A1・IIを履修できなかった場合、事前に相談して下さい。
 この演習は1年生、2年生との合同演習です。
 受講希望者が合計11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習BI【昼】

担当者名 /Instructor 市原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

問題関心へのアプローチ法を考える①：

本演習では、漠然と現代社会に関する問題や異文化に関する問題に関するフィールド調査をすることに興味があり、漠然と卒業論文などでこれらの問題を扱いたいと考えている学生を対象とする。

漠然と卒業論文で（インタビュー調査、参与観察などの）質的調査をとりいれてみたいと考えている学生はいると思うが、はたしてその興味関心にアプローチするのに質的調査は適切だろうか。本演習では、受講者の関心に応じて現代社会または異文化に関する文献を購読するとともに、質的調査の方法論に興味関心にどのように生かすことができるかを学び、自身の問題関心を深めることを目的とする。

教科書 /Textbooks

受講者の関心に合わせて現代社会または異文化に関する質的調査の結果を用いたテキストを1-2冊程度読む。テキストについては第1回で決定する。

(候補：春日直樹『人類学で世界を見る』、菅原和孝(編)『フィールドワークへの挑戦』など)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○佐藤郁哉 2002 『フィールドワークの技法：問いを育てる、仮説をきたえる』 新曜社

○箕浦康子(編) 1999 『フィールドワークの技法と実際』 ミネルヴァ書房

※そのほか必要に応じて演習中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入：本演習の目的説明、テキスト決定
- 第2回 具体的な現場から社会を理解することについて(講義)
- 第3回 インタビュー調査の方法と実践①
- 第4回 インタビュー調査の方法と実践②
- 第5回 言葉からわかることの限界
- 第6回 テキスト輪読と議論
- 第7回 テキスト輪読と議論
- 第8回 テキスト輪読と議論
- 第9回 参与観察の方法と記録のつけかた
- 第10回 参与観察の方法と記録のつけかた
- 第11回 テキスト輪読と議論
- 第12回 テキスト輪読と議論
- 第13回 テキスト輪読と議論
- 第14回 レポート構想報告
- 第15回 レポート構想報告

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の報告と提出物50%、期末レポート50%、
報告の無断欠席と提出物の未提出は厳しく減点します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ・ 演習参加者には、輪読のテキストについて各自で読書ノートを取り、意見を述べるのが求められる。具体的な説明は第1回で行う。
- ・ 具体的に何らかのフィールドワークを行う必要は特にありませんが、各自で、なんらかの研究関心を持ってください。学期末のレポートでは興味あるテーマについて論じることを求めます。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 教養演習BIIも続けて受講することが望ましいです。
- ・ 輪読するテキストを準備する資金はそれなりに必要です。注意してください。
- ・ 履修を希望する場合、第1回か第2回のいずれかに必ず出席してください。

教養演習BI【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 現代社会や異文化に関する具体的な問題に関心があるけれど、どんな本を読めばいいのかわからないという学生同士が積極的に協力関係をつくることを期待します。
- ・ 担当者のほかの授業（教養基礎演習、人間と文化、文化と政治）を履修したことがあれば、理解がさらに深まります。

キーワード /Keywords

現代社会、文化、質的調査、

教養演習BI (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ(少人数・対話型)として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。この演習の履修希望者は、必ず、同じく1学期に開かれている「教養演習BII」とセットで受講すること。
 この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。経験豊富な幹部自衛官(陸海空、尉官・佐官クラス)をほぼ毎回招聘し、それぞれの立場と経験に基づくレクチャーをしてもらい、レクチャーについての質疑応答を行う。また、2回のバスハイクを予定しており、海上自衛隊佐世保基地での護衛艦体験搭乗、航空自衛隊築城基地の見学などを行う(予定)。

教科書 /Textbooks

『防衛白書』

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(戸蒔)
- 2回~14回 現段階でゲストは調整中であるが、陸海空の幹部自衛官で比較的若手を中心にする計画である。ただし、1~2回は高級幹部(1佐・将補の司令クラス)を招聘し、講演会に充てたい。また、上述の通り、2回はバスハイクの予定。そして1回は、隣にある陸上自衛隊小倉駐屯地の見学を行う。スケジュールは第1回のガイダンスで発表する。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度50%、レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

準備などは特に必要ない。ただし、戸蒔の「教養演習BI」とセットで受講できる者が望ましい。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。また、将来、自衛隊の幹部候補生試験を受ける可能性のある者は、受講を強く勧める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習BI【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習では、1年を通して、各自が自分の関心に従って、社会学的な視点・方法によって論文・レポート(10000字程度)を書くことをめざす。したがって原則として「教養演習BI」「教養演習BII」の通年受講(1・2学期受講)を義務づける。

1学期は、まず、以下のことを身につけることを目指す。

- (1) 社会学的なものの見方・考え方
- (2) 文献資料の調べ方
- (3) レポート・論文の書き方

さらに、社会学的な調査を用いた基礎的な文献を報告してもらう。

同時並行的に、自らが書く論文・レポートについても準備をすすめる。まず、各自が「テーマ」と「問い」をたてる。その上で、自らのたてた「問い」について関連する文献のリストを作成する。

報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、原則として受講者の最大数は10人とする(それを越える場合、受講者数調整をかけることがある)。

教科書 /Textbooks

- 『知的複眼思考法』、刈谷剛彦、講談社+α文庫、2002
- 『「二ート」って言うな』、本田由紀・内藤朝雄・後藤和智、光文社新書、2006

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 『レポート・論文の書き方入門』河野哲也、慶応義塾大学出版会
- 『自分で調べる技術 - 市民のための調査入門』、宮内泰介、岩波アクティブ新書
- その他、講義の中で、その都度、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業内容の紹介
- 第2回 社会学的なものの見方・考え方(1) - 『知的複眼思考法』
- 第3回 社会学的なものの見方・考え方(2) - 『知的複眼思考法』
- 第4回 社会学的なものの見方・考え方(3) - 『知的複眼思考法』
- 第5回 第1回レポート検討会
- 第6回 論文・レポートの書き方
- 第7回 情報収集の仕方(1)
- 第8回 情報収集の仕方(2)
- 第9回 第2回レポート検討会
- 第10回 分析実例(1) - 『「二ート」って言うな』第1部
- 第11回 分析実例(2) - 『「二ート」って言うな』第2部
- 第12回 分析実例(3) - 『「二ート」って言うな』第3部
- 第13回 調査倫理について
- 第14回 第3回レポート検討会
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

参加度・貢献度...40% 課題...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- レポート検討会の際には「研究計画書」を準備すること(様式等は授業中に指示する)。
- 報告者は、(1)文献概要、(2)内容要約、(3)論点整理、(4)議論を記したレジユメを準備すること。
- 報告者以外の者は(当然のことながら)事前に文献を読み、コメントを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

教養演習BI【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習BI【昼】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、すべての大学生にとって欠かすことのできない人文的な素養を身につけることが、本演習の目的である。
年度ごとに思想上の基本文献を一冊セレクトし、それを全員で読み進めていく。今回はサルトルの名著『ユダヤ人』を取り上げる。

教科書 /Textbooks

J. -P. サルトル (安堂信也訳) 『ユダヤ人』岩波新書、1956年、735円。
(※本演習ではこのテキストを使用するので、必ず各自で用意しておくこと。)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンス時に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス1 (演習でのルール、成績評価法の説明)
- 2回 ガイダンス2 (対象となるテキスト、著者の紹介)
- 3回 読解と議論1
- 4回 読解と議論2
- 5回 読解と議論3
- 6回 読解と議論4
- 7回 読解と議論5
- 8回 読解と議論6
- 9回 読解と議論7
- 10回 読解と議論8
- 11回 読解と議論9
- 12回 読解と議論10
- 13回 復習と補助学習1
- 14回 復習と補助学習2
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況 (予習・議論・発言の積極性) ...50% 課題 (議事録作成) ...50%
(3回以上無断欠席をした場合は自動的に不合格判定となる。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

参加を希望している者は、第三回の授業までに上記のテキストを購入しておく必要がある (税込735円)。

履修上の注意 /Remarks

参加者全員ができるだけ多くの発言・課題作成の機会を得られるよう、受講者の最大人数は15人までとする。それを越える場合は受講者数調整をかける。その際、同担当者による授業科目「思想と現代」を履修済みであり、なおかつその試験で「A」以上の成績を収めている学生は優先的に配慮する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では毎回の「予習」(指定ページの読解、分からない単語の調査)と「復習」(授業議事録の作成)が必須となります。予習・復習に十分な時間をかけることができない方は、他の参加者に迷惑をかけることとなりますので、ご遠慮ください。1・2年生との合同演習になります。

キーワード /Keywords

教養演習 B II 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター, 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本演習では、学内や学外での実習（スキー実習や地域の健康増進プログラムなど）を通して、自分自身を理解する能力、そして人に自分を理解させる能力はもちろんのこと社会人として必要なマナー（振る舞いなど）を身につけることに主眼をおく。さらに、初めてあった人や普段話したことのない人の良いところを見つけるためにはどうしたらよいのかを見つける術について考えていく。
 また、スキー実習（教養基礎演習II）のリーダーとして関わり、他人と協調し、新たな自己発見や、自己開示能力についても養っていききたい。

教科書 /Textbooks

適宜資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回ガイダンス
- 2 回コミュニケーションゲーム (1)
- 3 回コミュニケーションゲーム (2)
- 4 回地域における健康ニーズ
- 5 回健康と体力
- 6 回地域住民に必要な体力とは
- 7 回健康増進プログラムの計画 (1) 体力測定
- 8 回健康増進プログラムの計画 (2) 安全性と有効性
- 9 回健康増進プログラムの計画 (3) プログラム作成
- 1 0 回健康増進プログラムの実施
- 1 1 回健康増進プログラムの評価
- 1 2 回スキー実習の計画 (1) 野外活動の意義
- 1 3 回スキー実習の計画 (2) 安全性と有効性
- 1 4 回スキー実習の計画 (3) プログラム作成
- 1 5 回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

身体活動を伴うので、運動のできる服装とシューズを準備すること。
 スキー実習については、別途参加費がかかります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習BⅡ【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 3年
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description
 地域社会活動を通じ、広義の地域づくりに参加することで、実践力・総合力を養うことを目的とする。
 特に地域共生教育センターの運営スタッフとして、センターの運営や地域活動に直接参加することで、得た学びを各自が報告し、振り返り学習を通じて、上記の目的を達成する。

教科書 /Textbooks
 適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 第1回～4回：事前学習・企画
 第5回～第10回：センター運営活動、地域活動等の実践。
 第11回・12回：活動報告
 第13回・14回：振り返り学習
 第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 演習における議論への参加度20%
 活動への参加度50%
 活動報告書30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 関連活動に関する文献学習。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 B II 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。本演習では「人間と生命」を主たるテーマとし、簡単な実験・実習を体験することによって、これらに関する基本的知識と興味を身につける。また、新聞記事やニュースなど、身近な話題から対象となるトピックを探し出し、生物学的な背景を学ぶことによって、科学的なものの見方や考え方を身につける。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○「文系のための生命科学 第2版」東京大学生命科学教材書籍編集委員会編 2011年(羊土社)
高校生物およびIIの教科書または参考書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の確認
- 3回 発表方法についての説明
- 4回 プレゼンテーションの準備(1)
- 5回 プレゼンテーションの準備(2)
- 6回 プレゼンテーションの準備(3)
- 7回 実験の準備および説明
- 8回～9回 DNA鑑定実験(学期内のいずれかの土曜日午後に実施)
- 10回 プレゼンテーション(1)
- 11回 プレゼンテーション(2)
- 12回 プレゼンテーション(3)
- 13回 関連映画鑑賞
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み40%(配布するカードに記入した内容で評価する)、発表40%、課題20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

希望者が多い場合は受講者数の調整を行うので、第1回目には必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

これまでまったく生物の勉強をしなかった者も歓迎します。この演習をきっかけに生命科学に興味を持ってもらうことが狙いです。

キーワード /Keywords

教養演習B II 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description
 ゼミ論文をかいてもらう(400字×30枚以上)。受講者数にもよるが、毎回学生諸君に自分の研究テーマについて報告してもらい、それについての議論を深めていく。

教科書 /Textbooks
 コピーして配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 山内志朗『ぎりぎり合格への論文マニュアル』(平凡社新書、2001年)700円。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 第1回 演習運営方針に関する話し合い。
 第2回～14回 各自の研究報告(同時並行的に論文執筆)。
 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 日常的な授業への取り組み...50%課題...50%
 無断欠席はたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。なお、ゼミ論未提出は「D」評価となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 毎週、こつこつと原稿を書いておいて下さい。

履修上の注意 /Remarks
 小林担当の「教養演習AI・II」「教養演習BI」とセットで履修することを希望します。
 以上の科目を履修できなかった場合には、事前に相談して下さい。
 この演習は1年生、2年生との合同演習です。受講希望者が合計11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習BII【昼】

担当者名 /Instructor 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

問題関心へのアプローチ法を考える②：

本演習では、1学期の演習を踏まえて、自分の問題関心の深めかたについて学ぶ。現代社会または異文化に関するテキストの輪読を行う。自分の興味関心について意見交換することを通し、最終的に各自が設定したテーマに沿ってレポートを作成する（受講者によって多少の変更の可能性はある）。

教科書 /Textbooks

受講者の関心に合わせて現代社会または異文化に関するテキストを1-2冊程度読む。テキストについては第1回で決定する。

(候補：レベッカ・ソルニット『災害ユートピア』、ジェームス・スコット『モラル・エコノミー』、竹沢尚一郎『社会とは何か』など、または、世界思想社社会学ベーシックシリーズから適宜)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて演習中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 問題関心をいかに深めるか：テキストの選定
- 第2回 問題関心へのアプローチ法について：1学期のレポート返却とコメント
- 第3回 問題関心共有のための議論
- 第4回 テキスト輪読と議論
- 第5回 テキスト輪読と議論
- 第6回 テキスト輪読と議論
- 第7回 テキスト輪読と議論
- 第8回 テキスト輪読と議論
- 第9回 テキスト輪読と議論
- 第10回 テキスト輪読と議論
- 第11回 レポート構想報告
- 第12回 レポート構想報告
- 第13回 レポート構想報告
- 第14回 レポート構想報告
- 第15回 レポート構想報告

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の報告と提出物50%、期末レポート50%、
報告の無断欠席と提出物の未提出は厳しく減点します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ・ 演習参加者には、輪読のテキストについて各自で読書ノートを取り、意見を述べる事が求められます。具体的な説明は第1回で行います。
- ・ 本演習は自分の問題関心を深めることが目的です。議論やレポート作成に主体的に取り組んでください。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 教養演習BIの受講者を対象とするが、テキスト輪読のみに興味あるなど、教養演習BIIからの受講を希望する者は事前に相談すること。
- ・ 輪読するテキストを準備する資金はそれなりに必要です。注意してください。
- ・ 履修を希望する場合、第1回の授業に必ず出席してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 現代社会に関する問題、文化に関する問題に興味ある学生の受講を歓迎します。
- ・ 担当者のほかの授業(教養基礎演習、人間と文化、文化と政治)を履修したことがあれば、理解がさらに深まります。

キーワード /Keywords

現代社会、文化

教養演習BII (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ(少人数・対話型)として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。この演習の履修希望者は、必ず、同じく1学期に開かれている「教養演習BI」とセットで受講すること。
 この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。
 この授業では、実際に自衛官を招聘する「教養基礎演習I」を補完するために、戸蒔が『防衛白書』等を用いて各ポイントの解説をする。防衛問題についてほとんど知識がない者から、多少の知識のある者までを想定し、わかりやすく解説する。

教科書 /Textbooks

『防衛白書』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(戸蒔)
- 2回~14回 この授業は、各回の「教養演習BI」の内容に備えるための事前勉強という側面が強いので、「教養基礎演習I」のスケジュールと連動している。現段階で「教養演習BI」のゲストが調整中であるため、ここにスケジュールの詳細を明記することはできない。当面の予定は、概説、『防衛白書』『防衛計画の大綱』などの解説、ビデオ観賞などである。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

準備などは特に必要ない。ただし、戸蒔の「教養演習AI」とセットで受講できる者が望ましい。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。また、卒業後、幹部自衛官になることを希望する者は、受講を強く勧める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習BII【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習では、1年を通して、各自が自分の関心に従って、社会学的な視点・方法によって論文・レポート（10000字程度）を書くことをめざす。したがって原則として「教養演習BI」「教養演習BII」の通年（1学期・2学期）受講を義務づける。

BII（2学期）では、まず、教養演習BIで各自がたてた「問い」について「論文執筆計画書」を書く。さらに、その「計画書」中の「文献リスト」をもとに、各回2名ずつ、関連文献について内容報告（テキスト批評）をしてもらい、議論を行う。なお、1～2ヶ月に1度くらいの割合で、論文について進捗状況の報告会を行う。

BIと同様、報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、原則として受講者の最大数は10人とする（それを越える場合、受講者数調整をかける）。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「論文執筆計画書」の報告
- 第2回 テキスト批評と議論
- 第3回 テキスト批評と議論
- 第4回 テキスト批評と議論
- 第5回 テキスト批評と議論
- 第6回 レポート検討会（4）
- 第7回 テキスト批評と議論
- 第8回 テキスト批評と議論
- 第9回 テキスト批評と議論
- 第10回 テキスト批評と議論
- 第11回 レポート検討会（5）
- 第12回 テキスト批評と議論
- 第13回 テキスト批評と議論
- 第14回 レポート検討会（6）
- 第15回 レポート報告会

成績評価の方法 /Assessment Method

参加度・貢献度...20% 課題（レポート）...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

レポート検討会の際には「研究計画書」を準備すること（様式等は授業中に指示する）。
 報告者は、（1）文献概要、（2）内容要約、（3）論点整理、（4）議論を記したレジюмеを準備すること。
 報告者以外の者は（当然のことながら）事前に文献を読み、コメントを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 B II 【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、すべての大学生にとって欠かすことのできない人文的な素養を身につけることが、本演習の目的である。
年度ごとに思想上の基本文献を一冊セレクトし、それを全員で読み進めていく。今回はサルトルの名著『ユダヤ人』を取り上げる。

教科書 /Textbooks

J.-P. サルトル (安堂信也訳) 『ユダヤ人』岩波新書、1956年、735円。
(※本演習ではこのテキストを使用するので、必ず各自で用意しておくこと。)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンス時に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 1学期の復習と内容確認
- 3回 読解と議論 1
- 4回 読解と議論 2
- 5回 読解と議論 3
- 6回 読解と議論 4
- 7回 読解と議論 5
- 8回 読解と議論 6
- 9回 読解と議論 7
- 10回 読解と議論 8
- 11回 読解と議論 9
- 12回 読解と議論 10
- 13回 復習と補助学習 1
- 14回 復習と補助学習 2
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況 (予習・議論・発言の積極性) ...50% 課題 (議事録作成) ...50%
(3回以上無断欠席をした場合は自動的に不合格判定となる。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

参加を希望する場合は、初回の授業までに上記のテキストを購入しておくこと (税込735円) 。
本演習は全体の後半部にあたるため、1学期に参加していなかった者は、授業前の準備事項としてテキストの前半100頁ほどを自分自身で読み通しておくことが必要になる。

履修上の注意 /Remarks

参加者全員ができるだけ多くの発言・課題作成の機会を得られるよう、受講者の最大人数は15人までとする。それを越える場合は受講者数調整をかける。その際、同担当者による授業科目「思想と現代」を履修済みであり、なおかつその試験で「A」以上の成績を収めている学生は優先的に配慮する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では毎回の「予習」(指定ページの読解、分からない単語の調査) と「復習」(授業議事録の作成) が必須となります。予習・復習に十分な時間をかけることができない方は、他の参加者に迷惑をかけることとなりますので、ご遠慮ください。1・2年生との合同演習になります。

キーワード /Keywords

プロジェクト演習I【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

<目的> 教室内にとどまらず学内外の様々なプロジェクトにチームで取り組むことで、PDCAサイクルを体験し、チームワークや自己管理能力、創造力、実践力など、将来社会で働く上で必要となる力を体得します。JOB×HUNTERのように期間限定のタイプもあれば、キャリアーナのように通年行うタイプもあります。

<演習の進め方> 最初に自己分析を行い、成長させたい力と、その成長プランを作ります。そしてプロジェクトに参加し、最後に最終レポートを提出します。

<期待される効果> 将来のために、学生時代に何か「やり遂げた事実」すなわち達成感を得たい人にとって、かけがえのない経験を得ることができます。また、その経験は自らの将来をイメージするヒントになり、また将来への活動（就職活動など）にもプラスになるでしょう。

※2011年1月現在の、プロジェクト演習Iの対象プロジェクト：JOB×HUNTER、キャリアーナ、Navy Wavy（キラヴァンツ応援プロジェクト）

教科書 /Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特にありません。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 目標設定と実施計画策定
- 第2～14回 プロジェクトに取り組みます。
- 第15回 リフレクション・最終レポート作成

成績評価の方法 /Assessment Method

参加時間、参加への姿勢、最終レポートでの総合判断となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特にありません。やる気のみです。

履修上の注意 /Remarks

- ※履修対象者は2年次以上です。
- ※掲示板にて公示されるプロジェクトのみが対象となります。2学期の履修登録の修正登録期間に履修登録してください。
- ※自らプロジェクトを立ち上げたい人は事前にご相談ください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プロジェクトは必ず最後までやり遂げてください。よって期間中は他の課外活動との両立は難しく、また途中でリタイアするとメンバーに迷惑をかけてしまいますので、中途半端な気持ちで参加しないでください。なお、応募者が多いプロジェクトは参加の審査があります。

キーワード /Keywords

課題解決型学習、プロジェクト型学習、サービス・ラーニング、経験学習、地域活動

プロジェクト演習II【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

<目的> 教室内にとどまらず学内外の様々なプロジェクトにチームで取り組むことで、PDCAサイクルを体験し、チームワークや自己管理能力、創造力、実践力など、将来社会で働く上で必要となる力を体得します。オープンキャンパスのように期間限定のタイプもあれば、キャリアーナのように通年行うタイプもあります。

<演習の進め方> 最初に自己分析を行い、成長させたいかと、その成長プランを作ります。そしてプロジェクトに参加し、最後に最終レポートを提出します。

<期待される効果> 将来のために、学生時代に何か「やり遂げた事実」すなわち達成感を得たい人にとって、かけがえのない経験を得ることができます。また、その経験は自らの将来をイメージするヒントになり、また将来への活動（就職活動など）にもプラスになるでしょう。

※2011年1月現在の、プロジェクト演習Iの対象プロジェクト：オープンキャンパスプロジェクト、キャリアーナ、Navy Wavy（ギラヴァンツ応援プロジェクト）

教科書 /Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特にありません。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 目標設定と実施計画策定
- 第2～14回 プロジェクトに取り組めます。
- 第15回 リフレクション・最終レポート作成

成績評価の方法 /Assessment Method

参加時間、参加への姿勢、最終レポートでの総合判断となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特にありません。やる気のみです。

履修上の注意 /Remarks

- ※この演習を履修できるのは、原則2年次に『プロジェクト演習I』を履修した人です。ただし、オープンキャンパスなど期間限定のタイプは単独でも履修可能です。
- ※掲示板にて公示されるプロジェクトのみが対象となります。2学期の履修登録の修正登録期間に履修登録してください。
- ※自らプロジェクトを立ち上げたい人は事前にご相談ください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プロジェクトは必ず最後までやり遂げてください。よって期間中は他の課外活動との両立は難しく、また途中でリタイアするとメンバーに迷惑をかけてしまいますので、中途半端な気持ちで参加しないでください。なお、応募者が多いプロジェクトは参加の審査があります。

キーワード /Keywords

課題解決型学習、プロジェクト型学習、サービス・ラーニング、経験学習、地域活動

自然学のまなざし (ナウシカ) 【昼】

担当者名 /Instructor 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

街に住んでいると、海や森を懐かしく思う。殺風景な自分の部屋にもどるたびに、緑を置きたくなったり、せめて小さな生き物がそこにいてくれたらなあ、なんて考える。

西洋の学問の伝統では、ながらく文化と自然を切り離して考えてきた。文系・理系と人間の頭を2つに分けてしまう発想は、未だに続くそのなごりだ。でもそれでは解らないことがある。だれだって「あたま(文化)」と「からだ(自然)」がそろって初めてひとりの人間になれるように、文化と自然は人間の内においても外においても、それぞれが融合し合い調和し合いながら世界を作り上げている。

野で遊ぶことが好きで、旅に心がワクワクする人ならば、だれでも「自然学のすすめ」の講義をつうじて、たくさんの智恵を学ぶことができるだろう。教室の中でじっとしていることだけが勉強ではない。海や森に出かけよう、そんな小さなきっかけをつくるための講義です。教室の中の講義だけではなく、講義中に紹介するさまざまな活動に参加してほしい。大学生生活を変え、自分の生き方を考えるための入り口となればと願っています。

教科書 /Textbooks

- 『風の谷のナウシカ』1-7宮崎 駿

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『イルカとナマコと海人たち』NHKブックス
「自然学の展開」「自然学の提唱」今西錦司
「自然学の未来」黒田未寿

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 竹川
- 第1講 「今西錦司と自然学」
- 第2講 「私とあなたの自然学」
- 第3・4講 「バックミンスターフラーと自然学」
- 第5・6講 「海と人の自然学1：沖縄の海人たち」
- 第7・8講 「海と人の自然学2：ソロモンの海洋民たち」
- 第9・10講 「海と人の自然学：軍艦島を考える」
- 第11・12講 「風の谷のナウシカの自然学」
- 第13・14講 「人の進化と自然学」
- 第15講 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- 講義で紹介するさまざまな活動に参加する . . . 30%
- 講義で紹介するさまざまな本を読み考える . . . 30%
- 講義の内容を元に人間の生き方について小論を書く . . . 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

学ぶことはまねること。さまざまな活動に参加するなかで、ソーシャルスキルは伸びていきます。

履修上の注意 /Remarks

講義は教室の中だけでは終わりません。
そういうのが好きな人だけ受講して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学のもっとも大学らしい自由な講義を心がけています。
教えられるのではなく覚えるのでもなく、行動すること、考えること、楽しむことを一番に心がけて下さい。

自然学のまなざし (ナウシカ) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

キーワード /Keywords

人類学
環境学
フィールドワーク

動物のみかた 【昼】

担当者名 /Instructor 到津の森公園、文学部 竹川大介

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

動物園とのかかわる事項等を検証し、環境や教育など様々な問題を考える。

動物園は教育機関としてのみならず、情感に影響を与える施設として様々な広がりを持っている。
動物園の本来の姿を追求し、どうすれば地域の施設として欠くべからざる施設となりうるのかを検証する。

教科書 /Textbooks

テキストなし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『戦う動物園』島泰三編 小菅正夫・岩野俊郎共著

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 動物園学概論 1
- 2回 動物園学概論 2
- 3回 キーパーの仕事 1
- 4回 キーパーの仕事 2
- 5回 キーパーの仕事 3
- 6回 キーパーの仕事 4
- 7回 キーパーの仕事 5
- 8回 キーパーの仕事 6
- 9回 校外実習 1
- 10回 校外実習 2
- 11回 獣医の仕事 1
- 12回 獣医の仕事 2
- 13回 動物園学まとめ 1
- 14回 動物園学まとめ 2
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 80% 平常の学習状況 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義では実際の動物園施設の見学もあります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地球の生いたち【昼】

担当者名 /Instructor 長井 孝一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

我々の住む地球は太陽系の第3惑星として、今から約46億年前に誕生した。その46億年の地球史の中で、大地や海、大気が形成され、地球生命が誕生し、さらに、そのそれぞれが進化あるいは変遷を繰り返してきた。地球生命は約38億年前に誕生し、長大な時間をかけて進化を繰り返してきた。我々人類は今、地球の生物史上初めて地球に能動的にかかわる生物として、その長大な時間の延長線上にいる。高度文明社会が人類や地球の未来を危うくしかねない問題を次々と引き起こしている現在、我々はこれまでも増して地球のしくみと地球史について正しく理解する必要がある。

この授業では、地球のしくみと地球史に対する講義を通して、地球と人間とのあるべき関係を正しく理解するとともに、地球と人間との共生の道をさぐる。

教科書 /Textbooks

教科書は使用せず、プリントを適宜配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

川上伸一『生命と地球の共進化』(日本放送協会), 1071円
丸山茂徳・磯崎行雄著『生命と地球の歴史』(岩波書店), 861円
その他の参考書については授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目: 地球の歴史の表し方【地質時代と絶対年代】
- 2回目: 生きている地球1【プレートテクトニクス】
- 3回目: 生きている地球2【ウエゲナーと大陸移動説】
- 4回目: 地球惑星の起源と進化【水の惑星の誕生】
- 5回目: 地球生命の起源と目に見えない生物の長い長い時代【先カンブリア時代】
- 6回目: 先カンブリア時代末の大事変【全球凍結】
- 7回目: 生物進化史上最大の事変1【カンブリア爆発】
- 8回目: 生物進化史上最大の事変2【カンブリア爆発の意義】
- 9回目: 顕生累代の生物の変遷史1【古生代】
- 10回目: 繰り返す大量絶滅1【ペルム紀末の大量絶滅】
- 11回目: 顕生累代の生物の変遷史2【中生代】
- 12回目: 繰り返す大量絶滅2【白亜紀末の大量絶滅】
- 13回目: 顕生累代の生物の変遷史3【新生代】
- 14回目: 人間圏の成立と地球環境問題【人類と環境】
- 15回目: まとめと演習

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験: 80%, 日常の授業への取り組み: 10%, ミニレポート: 10%
欠席の多い学生は減点する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回配布する資料プリントの説明文や図表類を帰宅後に読み直し、授業の内容を復習すること。また、シラバスによって次回の授業内容の確認を行ない、可能であればシラバスに載せている参考書を用いて、授業に関係する部分を適宜予習・復習すること。

履修上の注意 /Remarks

特になし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地球史を学ぶ事を通して、地球と人間との関係について考えましょう。

キーワード /Keywords

地球史, 生命と地球, 共進化

自然史へのいざない【昼】

担当者名 /Instructor 北九州市立自然史・歴史博物館、基盤教育センター 日高京子

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

北九州市立自然史・歴史博物館（愛称：いのちのたび博物館）の学芸員が、北九州の自然と自然史博物館の魅力、そして各学芸員の調査や研究について紹介をする授業です。北九州市は多様な化石を産する化石の一大産地であり、多様な自然に囲まれた都市でもあります。このような恵まれた北九州の自然と、それを展示している博物館を、まずみなさんに知ってもらうことがこの授業の大きな目的です。各学芸員は、海外での発掘や、調査・研究も積極的に行っています。講義では、海外の話題も含めた、各自然史分野の最先端の話も聞くことができます。よりグローバルな視点から自然史を学んでもらうことも、この授業の目的としています。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

各学芸員が担当する講義のテーマは下記の通りです（【】内はキーワード、（）内は担当学芸員名）。講義の順番は変更となる場合があります。北方キャンパスでの13回の講義のほか、北九州市立自然史・歴史博物館での講義および見学を予定しています。

- 1回 ガイダンス
- 2回・3回 自然史博物館での講義および見学
- 4回 昆虫分類学の歴史（上田）：【分類】【学名】【アリストテレス、リンネ、ビュフォン】
- 5回 化石が語る魚類の進化（藪本）：【魚類化石】
- 6回 二次的自然と哺乳類（馬場）：【都市近郊に棲む哺乳類】【生物多様性の価値】
- 7回 ちょっと前の自然～植物の世界を例に（真鍋）：【里山】【二次的自然】【生態遷移】
- 8回 鳥類の絶滅危惧と生物多様性の保全（武石）：【絶滅危惧】【生物多様性】
- 9回 化石記録が物語るいのちのたび「絶滅と繁栄」（太田）：【化石】【生命史】【絶滅】
- 10回 カエルとサンショウウオのはなし（山根）：【両生類】【身近な生き物たち】
- 11回 ヒスイが語る地下深部の世界（森）：【宝石】【鉱物】
- 12回 深海生物～その形と適応の意義～（下村）：【深海】
- 13回 アンモナイトの古生物学（御前）：【化石】【進化】【古生態】
- 14回 骨から知る脊椎動物進化（大橋）：【系統進化】【形態と機能】【恐竜】
- 15回 まとめ

※北九州市立自然史・歴史博物館のホームページ：<http://www.kmnh.jp/>

成績評価の方法 /Assessment Method

2回の博物館見学は必須となります。
 講義への積極的な参加30%、期末レポート70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

履修上の注意 /Remarks

博物館見学は10月第2日曜日と11月最終日曜日を予定していますが、日程を変更する可能性もあります。見学についての説明がありますので、第1回目の授業には必ず出席するとともに、掲示物に注意してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

くらしと化学 【昼】

担当者名 /Instructor 秋貞 英雄 / Akisada Hideo / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

化学知識は生活に不可欠な知識です。化学物質は身近な物質として生活を豊かにするのに貢献しています。また”生命とは宇宙とは”豊かな発想や、豊かな未来社会を展望する上での必要な知識です。一方、地球環境汚染など否定的現象にも関わる知識です。また金銭を中心とする消費社会では、工セ科学を利用した詐欺的商法もあります。市民は其中で、単なる教養でなく、正しい判断のための正確な科学知識が必要とされます。

そのためにまず化学と身近な問題の関係を学習し、そのかわりから化学への興味をもち、そして化学的知識の理解・習得に至る過程に関わることがこの授業のねらいである。

教科書 /Textbooks

「逆説・化学物質 - あなたの常識に挑戦する」 John Emsley著、渡辺正訳 (丸善)
2,310円 1996年09月発行 ISBN 978-4-621-04227-4

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 「ゼロからはじめる化学」立屋敷 哲著 (丸善) 2200円、ISBN 978-4-621-08016-0
- 「沈黙の春」 R. Carson著、青木 梁一訳 (新潮社)
- 「奪われし未来」 T. Colbon, D. Dumanoski, P. Myers著、長尾 力著 (翔泳社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

講義は、入門的に高校の理科・化学のまとめと補足を行い。引き続いて、教科書に与えられたテーマに基づき、補足、関連話題や解説を進めて理解の促進をはかる。

- 1化学の基礎
- 2砂糖と甘味料
- 3アルコール・・・酒と百薬の長・・・アルコールの体内挙動
- 4コレステロール、その働き
- 5脂肪、食物繊維・・・ダイエットとメタボ対策
- 6くすり その1・・・毒と薬は紙一重
- 7くすり その2・・・その開発と副作用
- 8原子力と放射性物質 (教科書外)
- 9洗剤・・・洗淨、きれいさ、その歴史と洗剤の多機能性 (教科書外)
- 10洗剤・・・洗剤と環境問題 (教科書外)
- 11塩化ビニルとダイオキシン・・・プラスチックと高分子の歴史
- 12塩化ビニルとダイオキシン・・・化学汚染と環境問題史
- 13二酸化炭素その1・・・二酸化炭素と温暖化の科学的仕組み、
- 14二酸化炭素その2・・・二酸化炭素の地球循環
- 15まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

簡単レポート20%、期末試験80%で総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

高校の理科、化学の教科書があると望ましい(手引き代わり)。
テレビ・新聞等の科学関連ニュースには注目して欲しい。疑問点は質問して欲しい。

履修上の注意 /Remarks

教科書外の内容も講義する。それがテストの範囲になるので、プリントを受け取り、ノートはきちんととること。やむ終えない欠席時はノート模写をしておくこと。教科書は事前事後どちらでもよいが目を通して置く。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

新聞、雑誌、放送機関、インターネット等の科学情報に関心を持ち、質問するような姿勢が好ましい。質問には即答できないときは後日に答えるようにします。

キーワード /Keywords

現代人のこころ【昼】

担当者名 田中 信利 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代人の教養としての心理学を理解する。本講義では、乳児期から青年期までに出会う人間関係、すなわち親子関係、家族関係、そして友人関係に着目し、それらが人間の成長にどのような影響を及ぼすかについて、発達心理学、臨床心理学、及び青年心理学の観点から考究する。(ちなみに、本講義の単位取得は容易ではないので、受講に際しては慎重に判断されたい)

教科書 /Textbooks

特に指定しない。毎回、講義時にプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に随時、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：本講義の概要について
- 第2回 人間関係を探る【エゴグラムテスト】
- 第3回 親子関係を探る(1)：人間関係の芽生え【生得的解発機構】【応答性】
- 第4回 親子関係を探る(2)：自己の起源【分離 - 個体化】【アタッチメント】
- 第5回 親子関係を探る(3)：「三つ子の魂、百までも」【個人差】【内的作業モデル】
- 第6回 家族関係を探る(1)：子どもにとっての家族【家族の病理】
- 第7回 家族関係を探る(2)：思春期の家族関係【第2の分離 - 個体化】【個性性と結合性】
- 第8回 友人関係を探る(1)：児童期から思春期にかけて【チャムシップ】【ヤマアラシのジレンマ】
- 第9回 友人関係を探る(2)：現代若者事情【対人恐怖心性】【ふれあい恐怖心性】
- 第10回 青年期を考える(1)：アイデンティティ【モラトリアム】
- 第11回 青年期を考える(2)：アイデンティティの諸問題【不適応】【同一性拡散】
- 第12回 青年期を考える(3)：ストレスとメンタルヘルス
- 第13回 青年期を考える(4)：進路選択決定についての自己理解【職業的アイデンティティ】
- 第14回 青年期を考える(5)：進路選択にかかわる諸問題【ひきこもり】【フリーター】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト&レポート ... 40% 試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義ではハンドアウトを配布するので講義中にメモを取っておくと同時に次回講義の前に必ず再度目を通して復習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

数のたのしみ 【昼】

担当者名 /Instructor 高妻 倫太郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 集中 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中学校・高校で習う「数学」とは異なり、文化的観点を取り入れた「数楽」を体験してもらう。ねらいは次の通り。
 1. 数の世界に対する関心・興味を持ってもらうこと。
 2. 数学的思考法を体感し、「考えることは楽しい」感覚を呼び覚ますこと。
 講義全体のキーワードは、数との親しみ・愉しみ。これを通して世の中に数学的精神が息づいていることを伝えたい。

教科書 /Textbooks

講義資料を毎回準備するため、テキストの指定は特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

心躍る、3世紀にわたる数学者たちの、挫折と栄光と感動の物語として次を推奨する。
 ○サイモン・シン著・青木薫訳『フェルマーの最終定理』新潮社(2006年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 数の世界はどのようにして発見、発展させられてきたか。数学史を織り交ぜながら述べる。
2. 数学的な考え方の紹介。数(や図形)の問題を皆で考える。ただし、予備知識をなるべく仮定せず考えて楽しいと思われる問題。
 - 1回 古代の数学【バビロニア】、【エジプト】、【中国】、【インド】
 - 2回 かぞえること【数の発見】、【数の表記法】、ギリシャ数学のはじまり【ピタゴラス学派】
 - 3回 古代ギリシャの数学者・哲学者たち【ギリシャ三大作図問題】
 - 4回 円周率とは【 π の歴史】、【ビュフォンの針】
 - 5回 ギリシャ数学の末期【ディオファントスの「算術」】、中世の中国
 - 6回 中世の数学【インド】、【イスラーム】、【ヨーロッパ】、ふしぎの黄金比【黄金比】
 - 7回 いろいろな記号の起源、未知数がXになるまでの道のり、方程式の解法をめぐって【数学記号】
 - 8回 究極の折り紙【折り紙の幾何学】
 - 9回 ルネサンスの絵画と幾何、17世紀の幾何学・確率論・数論【近世数学】
 - 10回 和算について【江戸時代】、19世紀の代数学・数論、19世紀までの主な数学分野【近代数学】
 - 11回 フェルマーの最終定理が解かれるまで【フェルマーの最終定理】
 - 12回 「テーマから考えてみよう」
 - 13回 暗号のはなし【公開鍵暗号】、【法の世界】
 - 14回 技術に生きる現代数学【RSA暗号】
 - 15回 技術に生きる現代数学【ISBN】

成績評価の方法 /Assessment Method

アンケート(毎回)およびレポートによる総合評価。
 「アンケート40%+レポート60%-欠席点数」で評価。3回以上の無断欠席は不可とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予備知識は特に仮定しない。数をたのしんでみようという心構え・やる気が必要である。
 上記の参考文献を読まれるとよい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この講義は、高校までの数学とは一味違う、「数楽」の講義です。
 数の神秘やそれにまつわる歴史にふれること、たのしむこと、そして、思考の奥深さを体験することが内容に含まれます。
 講義を通して数学の意義や在り方を各自で感じ取ってもらい、今後の人生を生き抜く上でのひとつの糧となれば幸いです。

キーワード /Keywords

私たちと宗教【昼】

担当者名 /Instructor 佐藤 真人 / Sato Masato / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本で生活するわれわれの大多数は、宗教を迷信ないしは縁遠いものと受けとめているのではないだろうか。しかしながら諸外国においては、宗教は抜き差しならない切実な問題であり、社会に大きな位置を占めて人々の倫理観や思考を深く規制している。振り返ってみれば、われわれ自身も実は決して無宗教というわけではない。この授業を通して人間社会における宗教の重要性を認識してもらいたい。授業ではとりわけ日本人にとって身近な宗教についての理解を深めてもらう。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

脇本平也『宗教学入門』（講談社学術文庫）
○橋爪大三郎『世界がわかる宗教社会学入門』（筑摩書房・ちくま文庫）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 日本人の宗教観
- 3回 世界の諸宗教
- 4回 宗教の諸類型
- 5回 宗教とはなにか？
- 6回 一神教について1（ユダヤ教の形成）
- 7回 一神教について2（一神教の論理）
- 8回 一神教について3（キリスト教）
- 9回 仏教について1（シャカの教え）
- 10回 仏教について2（大乘仏教とは）
- 11回 仏教について3（中国の宗教風土と仏教）
- 12回 仏教について4（日本の仏教）
- 13回 神道について1（日本の神と祭り）
- 14回 神道について2（神仏習合）
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 50% 平常の学習状況... 30% レポート... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に配布した資料は下読みしておくこと。
レポートの作成には数冊の本を読んでもらうことになります。それなりの時間とお金を必要とします。計画的に作業を進めてレポートを提出して下さい。

履修上の注意 /Remarks

レポートを提出しない者は、期末試験を受験することができません。
レポート提出の遅延は認めません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

宗教を信じることを勧める授業ではありません。宗教というものが人間や文化にとって重要な位置を占めるものであることを認識し、日本の宗教風土の特色を理解してもらう授業です。

キーワード /Keywords

宗教 一神教 仏教 神道

思想と現代【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

19世紀末から20世紀にかけて発展してきた重要な思想の流れを解説する。この時代がいわゆる「哲学の終焉」以降の時代であることを意識しつつ、その中から生まれてきた新たな哲学的発想（実存思想・精神分析・フェミニズム）に着目してゆく。これらの発想をヒントにすることで、自我の成立、および他者との関係性について複眼的な思索ができるようになることを本授業の目的とする。

教科書 /Textbooks

適宜プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『哲学の歴史 第9巻—反哲学と世紀末』中央公論新社、2007年。
- 『哲学の歴史 第12巻—実存・構造・他者』中央公論新社、2008年。
- 小此木啓吾『フロイト思想のキーワード』講談社現代新書、2002年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 実存の思想(1)【概説】
- 3回 実存の思想(2)【キルケゴール】
- 4回 実存の思想(3)【ハイデガー】
- 5回 実存の思想(4)【サルトル】
- 6回 実存の思想(5)【メルロ=ポンティ】
- 7回 中間総括(確認テスト)
- 8回 精神分析の思想(1)【フロイト1】
- 9回 精神分析の思想(2)【フロイト2】
- 10回 精神分析の思想(3)【メラニー・クライン1】
- 11回 精神分析の思想(4)【メラニー・クライン2】
- 12回 フェミニズムの思想(1)【第一波】
- 13回 フェミニズムの思想(2)【第二波】
- 14回 フェミニズムの思想(3)【現代】
- 15回 全体総括

成績評価の方法 /Assessment Method

確認テスト... 50% 期末レポート... 50%
(※確認テストを受験していない者は、期末レポート提出の権利を失う)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

第7回にテスト(第3回~第6回の内容確認)を実施するので、受講希望者は遅くとも第3週目から出席しておく必要がある。テスト予定日は授業内で早めに通知するつもりである。なお、このテストを受験していない者には単位を認めないので、あらかじめ注意しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ろくに事前連絡もなく、授業最終日になってから「忙しくて確認テスト受けられませんでした」などと言いに来る者もいるが、この手のチープな言い訳はまったく通用しない。その場合は当然不合格となる。
本授業に対しては、一切の甘えを捨てた上で取り組んでほしい。また、授業内で指示する課題内容から外れたレポート、無断引用(コピペ等)が発覚したレポートは即座に0点となる。

キーワード /Keywords

文化と表象【昼】

担当者名 真鍋 昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、表象概念の基礎を理解し、表象論の視点・テーマのひろがりを知ることを目的としている。受講者は、講義を受けるなかで各自の生活環境を「表象」という視点から見つめ直すことが求められる。
まず前半の講義では表象論事始めとして、理論的背景の説明や、イメージとしての〈日本〉について多様な角度から言及するなかで、表象研究の導入をおこなう。
次に比較分析の例として映画を原作と比べて、その差異について論じる。さらに、後半では、テーマ研究として具体的なテーマに焦点を絞り、表象についての理解を深めていく。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 【表象論事始め】 理論的背景
- 3回 イメージとしての〈日本〉①
- 4回 イメージとしての〈日本〉②
- 5回 イメージとしての〈日本〉③
- 6回 【表象分析事始め】方法としての「比較」
- 7回 映画分析①
- 8回 映画分析②
- 9回 映画分析③
- 10回 【テーマ研究】 表象を論じるためのテーマ
- 11回 テーマ研究①
- 12回 テーマ研究②
- 13回 テーマ研究③
- 14回 テーマ研究をふりかえって
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(課題・コメントカードなど) ... 20% 中間レポート・期末テスト ... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習は特に必要ないが、毎回の授業を復習するなかで、各自の身近な生活環境から問題をつねに内省的に「発見」することが求められるので、緊張感をもった態度で受講してほしい。単位取得のためには、中間レポート・期末テストにおいて十分な準備が要求される。全体的にハードなプログラムであることを受講希望者は意識しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

芸術と人間【昼】

担当者名 /Instructor 花田 伸一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

国内外の現代美術の事例を、鑑賞・趣味の対象としてではなく、批評・実践のツールとして紹介します。必要に応じて美術以外の諸分野も取り上げます。

教科書 /Textbooks

ナシ

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

今道友信『美について』(講談社現代新書)
佐々木健一『美学への招待』(中公新書)
暮沢剛巳編『現代美術を知るクリティカル・ワーズ』(フィルムアート社)
ほか、できるかぎり近辺の展覧会に足を運び、現場での実体験をすること。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 美をめぐる言葉の整理：美×美術×美術館×美学
- 2回 作品鑑賞1：学内作品鑑賞
- 3回 作品鑑賞2：抽象美術作品鑑賞
- 4回 美術の現場1：美術館展覧会の舞台裏
- 5回 美術の現場2：アートプロジェクトとは
- 6回 美術と近代化1：近代日本美術の成立
- 7回 美術と近代化2：東南アジアの現在：ラオス、カンボジア
- 8回 美術と近代化3：東南アジアの現在：タイ
- 9回 芸術と権力：ファシズムと祝祭性について
- 10回 芸術と宗教：ニューエイジについて
- 11回 美術と教育：美術教育の現場から
- 12回 芸術と生活：限界芸術、民芸
- 13回 美術と地域：福岡県内プロジェクト事例紹介
- 14回 北九州・福岡アートシーン紹介1
- 15回 北九州・福岡アートシーン紹介2

成績評価の方法 /Assessment Method

試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

上記の講義内容は変更する場合があります。
また講義室内での受講にとどまらず、できる限り近隣の美術館・ギャラリー等で行われる展覧会・レクチャー・トーク・ワークショップ等に足を運び、「現場」での体験と省察とを心がけること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

文学を読む【昼】

担当者名 /Instructor 馬場 美佳 / MIKA BABA / 比較文化学科, 田部井 世志子 / Yoshiko TABEL / 比較文化学科
福島 勲 / FUKUSHIMA ISAO / 比較文化学科, 木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科
伊原木 大祐 / 基盤教育センター, 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIHIKO / 基盤教育センター
板谷 俊生 / 中国学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

◎総合テーマ

大学に入るまでに、私たちは「国語」という科目のなかで「文学」に触れ、また自ら図書館や書店の棚で「文学」を手にとってきた体験があります。こうした「文学を読む」という行為は、人間にとって当たり前の営みだと感じられがちなのですが、それは本当なのでしょう？さらには「古典」「名作」と名づけられた作品は、今なお読むに値する、どのような意味・意義を有しているのでしょうか。一見、自明にみえる課題を再度問い直し、私たちにとって現実的な営みとしての「文学」を捉え直すことがこの科目の目的です。

◎2012年度のテーマ：「ノーベル文学賞」（コーディネーター：文学部・馬場）

毎年メディアで大々的に取り上げられている「ノーベル文学賞」。みなさんはこの賞について何を知っていますか？ その歴史や背景はどのようなものか？ 受賞した作家たちはどのような人で、どのような作品を書いたのか？ 今年度は10名の受賞作家をとりあげ、それぞれを専門とする教員および特別講師によるオムニバス講義を行います。世界中が注目する「ノーベル文学賞」が、政治・社会そして国家の問題をはらみつつ、文学とどのようにきりむすんでいるのか。行動する作家たちの生き様や作品をてがかりに、考えて行きます。

教科書 /Textbooks

担当教員毎に必要な箇所を配布、もしくは提示します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○講義でとりあげる作家の作品(リストを、授業の初回で提示します)。
図書館の指定図書コーナーにすべて配架してありますので、各自閲覧してください。
また、本館地下・生協にも専用のコーナーがあり、書籍を購入することができます。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 「ノーベル文学賞」を考える
- 第3回 ウィリアム・バトラー・イェーツ【アイルランド】 木原担当(外・英米)
- 第4回 トーマス・マン【ドイツ】 岩本担当(文・比較)
- 第5回 ウィンストン・チャーチル【英国】 小林担当(基盤)
- 第6回 アーネスト・ミラー・ヘミングウェイ【アメリカ】 新村担当(特別講師/文・比較)
- 第7回 ジャン-ポール・サルトル【フランス】 伊原木担当(基盤)
- 第8回 川端康成【日本】 馬場担当(文・比較)
- 第9回 トニ・モリスン【アメリカ】 田部井担当(文・比較)
- 第10回 高行健/ガオ・シンジエン【中国・フランス】 板谷担当(外・中国)
- 第11回 ル・クレジオ【フランス】 福島担当(文・比較)
- 第12回 大江健三郎【日本】 服部担当(特別講師)
- 第13回 レポートについて
- 第14回 「ノーベル文学賞」で考える①
- 第15回 「ノーベル文学賞」で考える②

成績評価の方法 /Assessment Method

小レポート... 40%
学期末レポート... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義で対象となる作家の作品を事前に読むこと。

履修上の注意 /Remarks

毎講義、しっかりとノートテイクをすること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義に関する問い合わせは、コーディネーターの馬場まで

キーワード /Keywords

文学、政治、社会、歴史、伝記、近現代、日本文学、海外文学、文学賞

戦争と人間【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター, 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「戦争」は、人類が抱え込んできた難問であり続けている。「獣」は人間のような過剰な殺戮をおこなわないという観察的事実から、過剰な殺戮・すなわち虐殺こそが人間の特色であるという見方も、不可能ではない。戦争とは、人間にとってどのような営みなのか、という根源的な問いを踏まえ、近代の総力戦以降、私たちはどのように戦争を遂行し、またどのような体験をしてきたのか、幅広く戦争という営みを見据えたい。そして人間にとっての戦争を、政治、文化、記憶と歴史そして哲学と倫理等の側面から多角的に検証し、戦争と共生のはざままで今日の我々が共有すべき問いについて考える。

教科書 /Textbooks

必要な資料はプリントとして配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

この授業は、複数の教員が各々の専門と関心から同一テーマに従って輪番で講義を進行させてゆく「オムニバス授業」である。政治学(戸蒔)、政治・外交史(小林)、哲学・倫理学(伊原木)を中心とし、他学部の教員も加えて授業展開してゆく予定である。授業テーマや担当者については初回授業で説明するので、必ず出席すること。参考までに、昨年度の共通テーマは「敵概念」であった。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代正義論【昼】

担当者名 /Instructor 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、現代社会における「正義」をめぐる諸問題や論争について、その理論的基礎を倫理的・法的な観点から学ぶと同時に、その応用問題として現代社会への「正義」論の適用を試みる。

まずは、初回に現代正義論の流れを概観する。その上で、次に現代社会における「正義」の問題の具体的な実践的応用問題として、応用倫理学上の諸問題を取りあげる。具体的には、安楽死・尊厳死や脳死・臓器移植といった具体的で身近な生命倫理にかかわる諸問題を取りあげ考察する。そのうえで、現代正義論の理論面について、ロールズ以後現在までの現代正義論の理論展開を、論争状況に即して検討する。それにより、現代社会における「正義」のあり方を、理論的かつ実践的に考察することを、本講義の目的とする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。講義の際に、適宜レジュメや資料を配布する

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- マイケル・サンデル『これからの「正義」の話しよう』（早川書房）
- マイケル・サンデル『ハーバード白熱教室講義録+東大特別授業(上)(下)』（早川書房）
- 盛山和夫『リベラリズムとは何か』（勁草書房）
- 平井亮輔編『正義』（嵯峨野書院）
- 川本隆史『現代倫理学の冒険』（創文社）
- 川本隆史『ロールズ - 正義の原理』（講談社）
- 葛生栄二郎他『いのちの法と倫理』（法律文化社）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 現代正義論とは ~ 本講義の構成と概説
- 第2回 現代正義論とは ~ 本講義の概説(続)
- [第3回~第7回まで 「正義」の応用問題(生命倫理と法)]
- 第3回 脳死・臓器移植①
- 第4回 脳死・臓器移植②
- 第5回 脳死・臓器移植③
- 第6回 安楽死・尊厳死① 基本概念の整理と国内の状況
- 第7回 安楽死・尊厳死② 諸外国の状況
- 第8回 現代正義論① ~ ロールズの正義論
- 第9回 現代正義論② ~ ノージックのリバタリアニズム
- 第10回 現代正義論③ ~ 共同体主義と多文化主義
- 第11回 現代正義論④ ~ アマルティア・センの正義論
- 第12回 現代正義論⑤ ~ センとロールズ・ノージック
- 第13回 現代正義論⑥ ~ 狭義の(ロールズ以後の)「現代正義論」のまとめ
- 第14回 法と正義 ~ 現代正義論と正義の応用問題
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...80% 講義中に課す感想文...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各回の講義で配布したレジュメや資料をきちんと読み込み、理解すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

NHK教育テレビで放送され、話題となったマイケル・サンデルの「ハーバード白熱教室」の番組を見ておけば、本講義の後半部の理解にとって、大変に役にたつと思います。

キーワード /Keywords

ロールズ ノージック サンデル 正義 脳死 尊厳死

民主主義とは何か【昼】

担当者名 /Instructor 中道 壽一 / Hisakazu Nakamichi / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

かつて「危険な思想」であった民主主義は、今やすべてのものを正当化するレトリックとなり、きわめて形式的なものとなっている。そこで、本講義では、民主主義に関する議論を活性化するためのいくつかの素材、論点、概念などを提示し、「民主主義とは何か」を問い直してみたい。

教科書 /Textbooks

レジュメの配布を基本とするが、S・シャピロ『民主主義理論の現在』（慶応義塾大学出版会、2010年）（○）も多く用いる。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

中道編『現代デモクラシー論のトポグラフィー』（日本経済評論社、2003年）（○）
J・リンズほか『大統領制民主主義の失敗』（南窓社、2003年）（○）
L・ダイヤモンドほか『シビリアン・コントロールとデモクラシー』（刀水書房、2006年）（○）
中道『政治思想のデッサン』（ミネルヴァ書房、2006年）（○）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 開講の辞・グローバル化と民主主義 【第三の波】【ベルリンの壁】【東欧革命】【市民社会】
- 第2 - 3回 ポリスの民主主義・「デモス」と「クラティア」について 【イソノミア】【イセゴリア】【イソモイリア】
- 第4 - 5回 近代の民主主義・民主主義の二つの伝統 【G・セイバイン】【自由】【平等】
- 第6 - 7回 近代市民革命と自由民主主義について 【C・シュミット】【自由主義】【民主主義】【議会制民主主義】
- 第8 - 9回 理論としての民主主義・現代民主主義の諸類型 【同質性民主主義】【エリート主義的民主主義】【参加民主主義】【共生の民主主義】【熟議民主主義】【ラディカル民主主義】
- 第10 - 11回 制度としての民主主義・議院内閣制民主主義と大統領制民主主義 【政治的安定性】【首相公選制】
- 第12 - 13回 民主主義批判の思想について 【全体主義】【ポスト・デモクラシー】
- 第14回 運動としての民主主義・デモクラシーの徹底化について 【C・ムフ】【多様性】【複数性】
- 第15回 まとめ 民主主義の三つのレベル 【思想】【運動】【制度】

成績評価の方法 /Assessment Method

講義への積極的取組状況考慮、小テストによる問題の解説と添削、レポート任意提出可、定期試験と講義への積極的取組などで総合評価
講義への積極的取組 10%、小テスト... 10% レポート(任意) 10% 試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布したレジュメに目を通しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

レジュメを多く配布するので、すべてを一つにファイルして、毎回の講義に持参すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

民主主義は「未完のプロジェクト」であると同時に「時代と社会の鏡」です。したがって、民主主義は常に自己検証を繰り返しながら、理念と現実の緊張関係の中から、新たな地平と可能性を切り開かなければなりません。そのためにも、私たちは、民主主義に対する様々な考え方を学ばなければなりません。

キーワード /Keywords

人権論 【昼】

担当者名 /Instructor 柳井 美枝 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「人権」といえば「特別なこと」というイメージを持つかもしれないが、実際には「気づかない」「知らない」ことにより、自分自身の「人権」が侵害されていたり、無意識に他者の「人権」を侵害しているということがある。

本講義では、「人権とは何か」という基本的な概念をふまえて、現存する「人権課題」の実情や社会的背景を考察していく。その上で、自分自身がどのように「人権」と向き合っていくのかを問い直す機会としたい。

目標

1. 人権とは何かについての理論的概念が理解できる。
2. 人権獲得の歴史を体系的に理解できる。
3. 現代社会における様々な人権課題について、その事例を説明できる。
4. 自分自身と人権との関わりが理解できる。

教科書 /Textbooks

『人権とは何か』（横田耕一著 / 福岡県人権研究所発行 ¥1000）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『部落問題資料と解説』（解放出版社発行）
必要な参考書は授業時に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 自分にとっての人権課題
- 2 「人権とは何か」
- 3 「人権獲得の歴史」
- 4 「世界人権宣言採択の歴史的経緯と意義」
- 5 国内の人権課題「部落問題について」
- 6 国内の人権課題「部落差別の事例と当事者の声」
- 7 国内の人権課題「在日外国人と人権課題」
- 8 国内の人権課題「在日コリアンについて」
- 9 国内の人権課題「ハンセン病とは、元患者の事例」
- 10 「識字問題～読み書きができないことがもたらす人権侵害」
- 11 「教育と人権～教育を受ける権利が保障されていない人たちの状況」
- 12 「障害者の立場からみる人権課題」
- 13 「アジアの人権状況 1」
- 14 「アジアの人権状況 2」
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 50% 期末テスト 40% レポート 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日常生活の中にあるさまざまな人権課題に関心を持ち、授業のミニレポートまたは感想用紙に反映させることが望ましい。

人権論【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

履修上の注意 /Remarks

私語は厳禁

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学生自身が持つ「学ぶ権利」を認識して授業に取り組んでほしい。

キーワード /Keywords

「すべての人」「人間らしく生きる」

ジェンダー論 【昼】

担当者名 /Instructor 力武 由美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

なぜ男言葉と女言葉があるのか、なぜ女性の大芸術家は現れないのか、「男は仕事、女は家庭」は自然な役割なのか、なぜ政治学や法学・科学の分野に女性教員や女子学生が少ないのか、なぜ戦時・平時にかかわらず女性に対して暴力が振られるのか-そのような日常的な「当たり前」をジェンダーの視点で問い直すことで、社会や文化に潜むジェンダー・ポリティクスを読み解く視点と理論を学ぶ。

教科書 /Textbooks

牟田和恵編『ジェンダー・スタディーズ-女性学・男性学を学ぶ』（大阪大学出版会、2009）
適宜、補足資料を配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

井上輝子・上野千鶴子・江原由美子・大沢真理・加納美紀代編『岩波女性学辞典』（岩波書店、2002）
マギー・ハム『フェミニズム理論辞典』（明石書店、1997）
R.W. Connell, Gender: Short Introduction. Polity, 2002.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 日本語とジェンダー-戦後から現代までの日本歌謡曲【女言葉】【男言葉】
- 2回 ジェンダー・リテラシーで読み解く文学-村上春樹作・小説『ノルウェイの森』【眼差し】
- 3回 現代アートとジェンダー-映画『ロダンが愛したカミーユ・クローデル』【制度】
- 4回 男もつらいよ-アーサー・ミラー作・戯曲『セールスマンの死』【男らしさ】【性別分業】
- 5回 ジェンダー家族を超えて-週刊誌『女性自身』にみる皇室家族の肖像【近代家族】
- 6回 セクシュアリティを考える-あだち充作・マンガアニメ『タッチ』【ホモソーシャル】
- 7回 学校教育の今昔-学園TVドラマの系譜【隠れたカリキュラム】
- 8回 社会保障とジェンダー-津村記久子作・小説『ポトスライムの舟』【貧困の女性化】
- 9回 ジェンダーの視点からみる農業-エレン・グラスゴー作・小説『不毛の大地』【農業経営】
- 10回 アジア現代女性史の試み-ミュージカル『ミス・サイゴン』【女性に対する暴力】
- 11回 女性差別撤廃条約と人権-絵本『世界中のひまわり姫へ』【民法】【均等法】【DV防止法】
- 12回 ジェンダーと平和学-女性戦士の系譜『リボンの騎士』『風の谷のナウシカ』【平和構築】
- 13回 グローバリゼーションと労働市場-国連『人間開発計画報告書』【移住労働】
- 14回 デートDV-TVドラマ「ラスト・フレンズ」【ドメスティック・バイオレンス(DV)】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の積極的な発言...25%、プレゼン...25%、レポート...25%、期末試験...25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

(1)法制度改正の動きを新聞等で把握しておく。(2)メディア表現を含め日常的な会話・風景をジェンダーの視点で問い直す作業を日頃から行い、授業中の発言、プレゼン、レポート、期末試験に反映させる。(3)プレゼンにはパワーポイント使用のためプレゼンおよびPPTスキルを身につけておく。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

「ジェンダー」「セクシュアリティ」「ポリティクス」

障がい学【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 狭間 直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「障害」という否定的なイメージで捉えられることが少なくないが、本講義では、「文化」といった視点から「障害」という概念を捉えなおし、異文化が共存・共生していくための阻害要因や問題点を浮き彫りにしていくとともに、共存・共生社会を実現するための考え方を学ぶ。障害者問題をテーマとしたテレビドラマ等にも随時ふれながら、身近な問題として考えていく。また、ゲスト・スピーカーとして、当事者や家族、支援者にもお話をうかがう予定でいる。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準。
- 第2回：「障がい学」とは【障害学】【障がい学】
- 第3回～4回：障害の捉え方【医療モデル】【社会モデル】【文化モデル】
- 第5回～第8回：「文化モデル」の可能性、自閉症児者との共生をめぐる【文化モデル】【文化相対主義】【自閉症】
- 第9回～12回：日本の福祉制度の現状と課題【当事者の声】
- 第13回～14回：自己の問題としての障がい
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

共生の作法【昼】

担当者名 /Instructor
重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科, 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科
岡本 博志 / OKAMOTO Hiroshi / 法律学科, 小池 順一 / junichi KOIKE / 法律学科
植木 淳 / 法律学科, 津田 小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科
山本 光英 / 法律学科, 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科
狭間 直樹 / 政策科学科, 福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科
矢澤 久純 / 法律学科

履修年次 /Year	1年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	2学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class	1年				
対象入学年度 /Year of School Entrance		2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
								○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代社会は、国家としても個人としても、極めて複雑な様々な関係から成り立っている。われわれは個人としてどのような関係の中で生活しているのか、どのような関係の中で生活すればよいのかを考える必要がある。われわれの生活が、およそ一人では成り立たない以上、人と人との関係、人と国家との関係、国家と国家との関係、世代と世代との関係、人と自然との関係など様々な関係の中で成り立っていることを考えなければならない。

他者との共存ないし共生は我々の生活には不可欠なものであり、そのためにお互いの良好な関係を維持し、これを発展させるためには、お互いに守るべきルールやマナー（作法）を知ることが必要である。

今現在、そのような他者との関係がどのようになっているのかを考え、そして、これらの関係をどのように維持し、あるいは改善しなければならないかを考えることが、本講義の目的である。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の中で適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 開講の辞、法と道徳（重松）
- 第2回 裁判とは何か（岡本）
- 第3回 相隣関係とは何か（隣接する土地所有権相互の利用を調整することの意味）（福本）
- 第4回 民事少額訴訟とは何か（小池）
- 第5回 障害のある人の権利 - 日本国憲法から（植木）
- 第6回 社会福祉の視点から（狭間）
- 第7回 雇用とは何か（雇用関係の成立、雇用関係の展開、雇用関係の終了）（國武後任）
- 第8回 犯罪とは何か（構成要件、違法、責任、罪刑法定主義）（大杉）
- 第9回 契約とは何か（矢澤）
- 第10回 財産とは何か（さまざまな財産、物権と債権、財産権の保障、財産権とその制約、財産権と公共の福祉など）（矢澤）
- 第11回 社会保障の必要性と社会保険について考えよう（津田）
- 第12回 規範意識とは何か（3銭の電気窃盗）（山本）
- 第13回 国際社会と日本（二宮）
- 第14回 Pacta sunt servanda とは何か（「契約」と「約束の違い、契約の成立から終了までのプロセス）（福本）
- 第15回 まとめ(重松)

成績評価の方法 /Assessment Method

原則としてレポートによる(計3本)。

- ①受講者は各講義のテーマの中から指定された3つの課題につき、レポートを計3本作成して提出すること。3本に満たないものは不可とする。
- ②レポートの書式等は別途指示する。ただし、各レポート2000字以上とする。③3本のレポートは別々に綴じ、各々に所属学科・学年・学籍番号・氏名・テーマ・講義担当教員名を明記した表紙を必ず添付すること。④3本のレポートは各100点満点として採点し、その平均点で評価する。⑤授業態度が著しく悪いと判断される受講者は、レポート提出があっても評価されないことがある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各回のテーマに応じて事前に情報を収集し、予習しておくとう理解が深まります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

レポート課題は、原則として全ての授業終了後に学籍番号に応じて指定します。全ての授業に出席しないと書けないことになるので注意して下さい。

共生の作法【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

キーワード /Keywords

現代社会 共生 作法 ルール マナー

北九州学 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

環境問題の全体像を把握するために環境問題に関する基礎的な知識を習得し、持続可能な社会作りに向けた行動の重要性を理解する。そのために、行政・企業・NPO・マスコミ等の実務担当者を招へいし、様々な視点から北九州の環境を学習する。また、「環境首都検定」を受験し、市民の立場に立って環境に対する取り組みを幅広く学習する。さらに、環境関連施設（環境ミュージアム、エコタウンなど）を見学し、その体験を講義での学習につなげる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

北九州市環境首都検定公式テキスト

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 持続可能な社会をめざして
- 3回 北九州における環境問題
- 4回 北九州における環境政策
- 5～6回 環境関連施設見学①
- 7回 北九州の自然・生態系
- 8回 環境問題とソーシャルビジネス
- 9回 環境問題と市民の関わり
- 10～11回 環境関連施設見学②
- 12回 環境首都検定模擬問題学習
- 13回 環境問題とジャーナリズムの役割
- 14回 環境都市としての北九州
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

施設見学参加を原則必須とする。
 環境首都検定（12月16日実施）の成績（50%）、積極的な授業への参加（50%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

施設見学は①環境ミュージアム（12月2日（日）午後）、②エコタウン（10月31日（水）午後）を予定しているが、変更の可能性もある。
 定員は100名とする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

すでに検定試験を受けたことのある者も歓迎します。

キーワード /Keywords

市民活動論 【昼】

担当者名 西田 心平 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

市民活動とはどのようなものが、基本的な論点が理解できるようになることを目的とする。主要な事例をとりあげ、それを柱にしながら授業を進めて行く予定である。

教科書 /Textbooks

とくに指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
 - 2回 枠組みの設定
 - 3回 民衆行動の分析①
 - 4回 民衆行動の分析②
 - 5回 市民運動の分析
 - 6回 市民の活動の展開 / 戦前 (上)
 - 7回 市民の活動の展開 / 戦前 (下)
 - 8回 市民の活動の展開 / 戦後 (上)
 - 9回 市民の活動の展開 / 戦後 (下)
 - 10回 市民の活動の展開 / 高度成長期 (上)
 - 11回 市民の活動の展開 / 高度成長期 (下)
 - 12回 市民の活動の展開 / ポスト高度成長期 (上)
 - 13回 市民の活動の展開 / ポスト高度成長期 (下)
 - 14回 市民活動の現在
 - 15回 全体まとめ
- ※スケジュールの順序または内容には、若干の変動がありうる。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極参加... 30% 期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講者には、市民活動について自分で調べてもらうような課題を課す場合がある。その際の積極的な参加が求められる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業と社会【昼】

担当者名 /Instructor 遠藤 雄二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

企業における男女平等とワークライフバランス
日本企業における職場の男女平等、働き方に関して多面的に把握し、21世紀の企業における新しい働き方を追求する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。ただし、参考図書を随時、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス：講義の概要
- 2 日本企業における女性労働の変遷：1960～75年
- 3 日本企業における女性労働の変遷：1975～92年
- 4 日本企業における女性労働の変遷：1992年～現在
- 5 男女別の人事労務管理
- 6 雇用管理の変遷と雇用形態の多様化
- 7 男女別賃金制度とコース別管理
- 8 男女賃金格差と性別職務分離
- 9 非正規社員と女性労働
- 10 男女雇用機会均等法の変遷
- 11 ワークライフバランスと人間らしい働き方
- 12 欧米の女性労働の特徴
- 13 企業における男女平等実現のための世界の流れ
- 14 男女共同参画社会の地平
- 15 21世紀日本の職場の男女平等と人間らしい働き方

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の発言や小テスト・・・20% 試験の成績・・・80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日々の新聞を読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

授業中に発言を求められることがあるので、前回の授業で指示した課題について考えたうえで出席することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

上記の通り。

キーワード /Keywords

職場における男女平等、ワークライフバランス、人間らしい働き方

つながりの人間学【昼】

担当者名 /Instructor 地域共生教育センター 坂本毅啓、石谷百合加、奥村貴仁

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は、地域共生教育センター担当科目として開講します。
地域貢献活動へ参加する入門科目として、以下の6点をねらいとします。

- ①地域活動に関する実践的方法論の習得
- ②マッチング型などへの参加学生への指導
- ③プロジェクト型等は基盤演習
- ④実際に1つ以上の地域活動を体験することを通して、地域活動への参加意欲を高める
- ⑤既に地域活動に参加している学生によるシンポジウムを開催し、参加意欲を高める。
- ⑥地域活動家による講演会を開催し、地域活動への理解を深める。

教科書 /Textbooks

講義時に適宜紹介

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に適宜紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回目 ガイダンス
講義の目的、留意事項、421Lab.の紹介
- 第2回目 地域活動概論①
地域活動の紹介、北九州市への理解
- 第3回目 地域活動概論②
コミュニティワークの紹介と応用
- 第4回目 地域活動家特別講演会(予定)
- 第5回目 地域活動参加学生によるシンポジウム(予定)
- 第6回目 演習:基本的コミュニケーション技術
話し方、姿勢・立ち位置、表情
- 第7回目 プロジェクトドライブ①
情報収集
- 第8回目 プロジェクトドライブ②
企画作成
- 第9回目 プロジェクトドライブ③
模擬作成したプロジェクトのプレゼンテーション
- 第10回目 プロジェクトドライブ④
記録、報告、連絡、相談
- 第11回目 マナー講座①
- 第12回目 マナー講座②
- 第13回目 地域活動と価値観
- 第14回目 地域活動とキャリアプラン
- 第15回目 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義中に課す小レポート(50点)+期末レポート試験(50点)=合計100点評価

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講を希望するものは、ボランティア活動、地域活動に関する文献を1冊以上は読んでおくこと。

つながりの人間学 【昼】

履修上の注意 /Remarks

詳細については、第1回目の講義時に資料を配布しますので、そちらを必ずご参考ください。地域活動に既に参加しているかどうかは関係ありませんので、多くの方に履修していただきたいと考えています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目は、2010年度に開設された地域共生教育センターが提供する科目です。この科目をきっかけとして地域活動へ参加していただきたいと思えます。また、より深く地域活動をとおして学びたい方は、基盤教育の教養基礎演習、教養演習も履修していただきたいです。

キーワード /Keywords

地域活動、ボランティア、キャリア観形成

現代社会と倫理【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代社会の中で生じている倫理的問題のいくつかを考察しながら、実践倫理学の基礎を学ぶ。「われわれ現代人は生と死の問題、差別と平等の問題にどう立ち向かうべきなのか」という問いかけを中心に、個々の社会問題に対する批判的思考の育成を目指す。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ピーター・シンガー『実践の倫理 新版』(山内友三郎・塚崎智監訳)昭和堂、1999年。
- 加藤尚武・飯田亘之編『バイオエシックスの基礎』東海大学出版会、1988年。
- 江口聡編・監訳『妊娠中絶の生命倫理』勁草書房、2011年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イン트로ダクション
- 2回 現代における人命の価値(1)【生命の神聖説】
- 3回 現代における人命の価値(2)【積極的行為と消極的行為】
- 4回 現代における人命の価値(3)【最大幸福原理】
- 5回 現代における人命の価値(4)【自己意識】
- 6回 現代における人命の価値(5)【FLO】
- 7回 中間のまとめ
- 8回 現代における差別の問題(1)【人種差別】
- 9回 現代における差別の問題(2)【差別反対論】
- 10回 現代における差別の問題(3)【種差別の基礎】
- 11回 現代における差別の問題(4)【種差別の諸相】
- 12回 現代における公平性の意義(1)【世界の貧困】
- 13回 現代における公平性の意義(2)【公平主義】
- 14回 現代における公平性の意義(3)【援助義務論】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト... 40% 学期末試験... 60%
(第7回「中間のまとめ」の時間に小テストを実施します。小テストの受験は単位取得のための必須条件となります。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の概要と詳しい参考文献の紹介は初回に行なう。
参考文献に挙げた『バイオエシックスの基礎』および『妊娠中絶の生命倫理』に収められた論文を一部授業の素材にするので、簡単にでも目を通しておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業の期末試験は持ち込みが一切不可(プリント・ノート類も禁止)となっている。
また、それに応じて成績評価のハードルもかなり高くなる。このため、受講者には継続的な学習意欲とそれ相応の記憶力が要求される。この方式変更に伴うリスクと負担をよく理解した上で講義に臨むこと。

キーワード /Keywords

生命 功利主義 義務論 公平性

現代社会の諸問題【昼】

担当者名 /Instructor 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科, 福重 さと子 / SATOKO FUKUSHIGE / 法律学科
今泉 恵子 / 法律学科, 植木 淳 / 法律学科
大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科, 岡 邦信 / 法律学科
岡本 博志 / OKAMOTO Hiroshi / 法律学科, 山本 光英 / 法律学科
高橋 衛 / 法律学科, 朴 元奎 / PARK, Won-Kyu / 法律学科
福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科, 吉村 弘 / hiromu yosimura / 法律学科
小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代社会においては、従来見られなかった問題や、従来潜在的なものであったが近年顕在的となり、議論されるようになった様々な問題がある。われわれはそのような現代的な諸問題をどのように理解し、どのように考えたら良いのであろうか。

本講義は、現代において生起しているそのような様々な問題の幾つかを取り上げ、それらを正確に理解したうえで問題解決の方向を考えることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の中で適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 開講の辞、「現代正義論の展望」(重松)
- 第2回 「民法(債権法)改正とその問題点」(福本)
- 第3回 「障害のある人の権利 — ADAを中心にして」(植木)
- 第4回 「ドメスティック・バイオレンスと児童虐待」(小野)
- 第5回 「日本における法の継受」(岡)
- 第6回 「裁判員制度」(山本)
- 第7回 「情報公開制度の現状と課題」(岡本)
- 第8回 「株式会社とは何か」(高橋)
- 第9回 「現代型犯罪の原因と予防」(朴)
- 第10回 「行政活動の実効性」(福重)
- 第11回 「現代刑事裁判の諸問題」(吉村)
- 第12回 「現代型商取引から生じる法律問題」(今泉)
- 第13回 「脳死と臓器移植」(大杉)
- 第14回 「フランチャイズ契約とその問題点」(福本)
- 第15回 まとめ(重松)

成績評価の方法 /Assessment Method

原則としてレポートによる(計3本)。

- ①受講者は各講義のテーマの中から指定された3つの課題につき、レポートを計3本作成して提出すること。3本に満たないものは不可とする。
- ②レポートの書式等は別途指示する。ただし、各レポート2000字以上とする。
- ③3本のレポートは別々に綴じ、各々に所属学科・学年・学籍番号・氏名・テーマ・講義担当教員名を明記した表紙を必ず添付すること。
- ④3本のレポートは各100点満点として採点し、その平均点で評価する。
- ⑤授業態度が著しく悪いと判断される受講者は、レポート提出があっても評価されないことがある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各回のテーマに応じて事前に情報を収集し、予習しておくとう理解が深まります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

レポート課題は、原則として全ての授業終了後に学籍番号に応じて指定します。全ての授業に出席しないと書けないことになるので注意して下さい。

キーワード /Keywords

現代社会 諸問題

現代の国際情勢【昼】

担当者名 金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

東アジア現代の国際情勢を思想史的に考察する。そのため、近年に国際関係分野においても注目を浴びているポストコロナリズムとその思想課題を主軸とし、講義を進める。

教科書 /Textbooks

姜尚中『ポストコロナリズム』（作品社、2003）、2000円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中、随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 教科書の紹介、授業のガイダンス
- 第2回 なぜ今、ポストコロナリズムなのか(1)【植民地主義後】
- 第3回 なぜ今、ポストコロナリズムなのか(2)【植民地主義後の可能性】
- 第4回 第IV部の総論 「ポストウォー」から「ポストコロナル」へ【戦後、植民地以後】
- 第5回 第II部の総論 「ポストコロナリズム」の思想的現在性【理論、現実】
- 第6回 第II部の「近代」 【ポストモダニズム、ポスト構造主義】
- 第7回 第II部の「性・文化」 【フェミニズム、カルチュラル・スタディーズ】
- 第8回 第II部の「日本」 【植民地主義、構造的批判】
- 第9回 第II部の「第三世界」 【第三世界、民族解放論】
- 第10回 第II部の「国家」 【ナショナリズム論】
- 第11回 第IV部の1「ポストコロナルとポリティカル・エコノミー」【開発独裁、オリエンタリズム】
- 第12回 第III部の2「帝国と文化」【植民地朝鮮】
- 第13回 第III部の3「記憶と責任」【過去の克服、植民地支配責任】
- 第14回 第III部の4「マイノリティ・ジェンダー・他者」【沖縄、多文化間精神医学】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加への熱意 (30点)、レポート3本 (70点)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習と復習。教科書のなかに登場する概念、理論、人物について自主学習すること。

履修上の注意 /Remarks

とくになし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

思想と哲学に関心をもち、勉強しようという意欲をもつこと。

キーワード /Keywords

国際情勢、ポストコロナリズム、思想課題、ポスト構造主義、植民地主義、ナショナリズム、オリエンタリズム、アイデンティティ、過去の克服、他者

国際社会論 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業のテーマは「日本における民族関係の社会的考察」である。
グローバル化の進展に伴って、定住外国人の「統合」や多文化共生の地域づくりが重要な課題となってきた。こうした課題について考えるための基礎知識を提供する。また、グローバルな現象をローカルな場（地域）において実証的に把握していく方法についても学ぶ。
授業では、まずグローバル化の現状を紹介するとともに日本への人の流れについて概説する。
ついで、日本における出入国管理の仕組み等について紹介した後、①これまで1世紀近くにわたって形成されてきた在日韓国・朝鮮人と日本人との民族関係、②近年顕著になった日系ブラジル人と日本人との民族関係について紹介し、共生社会の形成メカニズムについて考察する。

教科書 /Textbooks

なし（プリント配布）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『民族関係における結合と分離』、谷富夫編、ミネルヴァ書房
 - 『顔の見えない定住化 - 日系ブラジル人と国家・市場・移民ネットワーク』、梶田孝道・丹野清人・樋口直人著、名古屋大学出版会
 - 『在日韓国・朝鮮人の「世界」と「帝国」国家』、西成田豊著、東京大学出版会
- その他、多数あるので、講義の中で、適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 テーマの紹介
- 第2回 グローバル化の進展と国際労働力移動【グローバル化】【エスニシティ】
- 第3回 出入国管理について【外国人登録】【出入国管理】
- 第4回 エスニシティ理論【道具主義】【原初主義】【分断労働市場】【オリエンタリズム】
- 第5回 在日韓国・朝鮮人と日系ブラジル人について【特別永住者】【定住者】【永住者】
- 第6回 日本と朝鮮半島の近現代史①（外国語学部総田先生による講義）【植民地支配】
- 第7回 日本と朝鮮半島の近現代史②（外国語学部総田先生による講義）【冷戦】【民団と総連】
- 第8回 在日韓国・朝鮮人と日本社会①【民族関係】
- 第9回 在日韓国・朝鮮人と日本社会②【エスニシティ】
- 第10回 日系ブラジル人と日本社会①【国境を越えた雇用システム】
- 第11回 日系ブラジル人と日本社会②【顔の見えない定住化】
- 第12回 日系ブラジル人と日本社会③【非正規雇用】
- 第13回 日系ブラジル人と日本社会④【教育達成】
- 第14回 統合と多文化共生社会の形成に向けて - 国・自治体・NGOの役割
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 15% 期末試験... 85%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で配布したプリントをよく読んでくること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際紛争と国連【昼】

担当者名 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

国際社会の性質を簡単に紹介した上で、国連を中心として、国際機構が世界の安全保障において、どんな役割を有しているのかを考えることが目的です。現代社会の理解には、それまでの歴史的展開の理解が不可欠であると考えますので、時系列的に古い話から、徐々に現代にテーマを移してゆくようにします。

教科書 /Textbooks

テキストは指定しません。各テーマごとにレジュメ(説明プリント)を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 「国際」とは何か？
- 第3回 国際社会と主権国家、国際機構
- 第4回 国際社会の組織化(1)～国際機構の誕生
- 第5回 国際社会の組織化(2)～国際連盟の展開
- 第6回 国際社会の組織化(3)～国際連盟の失敗と教訓
- 第7回 国際連合の成立過程(1)～第二次世界大戦と連合国構想
- 第8回 国際連合の成立過程(2)～大西洋憲章からダンバートンオークス会議に向けて
- 第9回 国際連合の成立過程(3)～ヤルタ会談とサンフランシスコ会議
- 第10回 国際連合の展開(1)～国際連合の誕生と国連軍
- 第11回 国際連合の展開(2)～安保理の機能不全
- 第12回 国際連合の展開(3)～日本の戦後処理と国連加盟
- 第13回 国際連合の展開(4)～途上国の台頭、中国の代表権問題
- 第14回 国際連合の展開(5)～PKOの展開
- 第15回 PKOと日本の国際平和協力

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

民族・エスニシティ問題【昼】

担当者名 /Instructor 久木 尚志 / 国際関係学科, 篠崎 香織 / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

冷戦終了後、世界各地で民族紛争が激化している。また、移民をめぐる動きやエスニシティ、人種に関する議論も活発化している。これらは、きわめて新しい政治現象であると思われがちであるが、決してそうではない。民族・エスニシティ問題は、政治・経済・文化・社会のさまざまな領域にかかわるきわめて現代的な事柄であるが、同時に、それが現在にいたる歴史的経緯もまた重要である。この授業では、民族・エスニシティ問題に関する史的・総合的な理解を目指す。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ヨーロッパにおけるネイションとエスニシティ
- 2回 イギリスにおける民族とエスニシティ(1)【連合王国】【ロンドン同時爆破事件】
- 3回 イギリスにおける民族とエスニシティ(2)【オルダム暴動】【多文化主義】
- 4回 イギリスにおける民族とエスニシティ(3)【ブリクストン暴動】【スカーマン報告】
- 5回 イギリスにおける民族とエスニシティ(4)【サッチャー主義】【イスラム嫌い】
- 6回 フランスにおける民族とエスニシティ(1)【都市郊外暴動】【サルコジ】
- 7回 フランスにおける民族とエスニシティ(2)【ライシテ】【スカーフ問題】
- 8回 東南アジアと「エスニシティ論」
- 9回 「本物・本質」探し(1)ベトナムの事例から
- 10回 「本物・本質」探し(2)「マレー人」概念の構築
- 11回 「独立か否か」(1)インドネシア・アチエの事例から
- 12回 「独立か否か」(2)フィリピン・ミンダナオの事例から
- 13回 「ニセモノ」のネイション(1)アンダーソンの想像の共同体
- 14回 「ニセモノ」のネイション(2)マレーシアの「民族の政治」
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で指示されたことを、授業の事前事後に学習し、準備すること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

開発と統治【昼】

担当者名 /Instructor 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科, 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

グローバル化が刻々と進行している中、現在、持続可能な社会の構築が求められています。なかにはその目標に向かって進んでいる国や地域がある一方で、紛争や対立を繰り返している国や地域もあります。本講義では各国や地域を熟知・精通した教員が、各自が考える「ガバナンス（統治）」の意味を世界各地の国や地域社会の具体的な実例を用いて説明します。そして、最後に受講生にとって「ガバナンス」とは何なのかについてグループ・ワークを通じて回答を出してもらいます。

教科書 /Textbooks

その都度配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『○○を知るための○章』シリーズ(明石書店)、特にミャンマー、バングラデシュ、韓国を参照のこと。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 「開発と統治」をはじめるにあたって	担当：三宅
第2回 民主化問題を考える視座(1) 【民主化問題】	担当：伊野
第3回 民主化問題を考える視座(2)	担当：伊野
第4回 理論と現実 -ミャンマーの民主化をめぐる~その1 【ミャンマー】	担当：伊野
第5回 理論と現実 -ミャンマーの民主化をめぐる~その2 【ミャンマー】	担当：伊野
第6回 援助と民主主義：バングラデシュの事例 【援助】	担当：チョウドリ・三宅
第7回 選挙を通して見たバングラデシュの政治活動 【バングラデシュ政治】	担当：チョウドリ・三宅
第8回 途上国と一村一品運動 【一村一品運動】	担当：チョウドリ・三宅
第9回 グラミン銀行と地域社会のガバナンスの変化【グラミン銀行】	担当：チョウドリ・三宅
第10回 南太平洋からの便り~フィジーを事例に 【フィジー】	担当：三宅
第11回 地域社会から見たガバナンス 【地域社会】	担当：三宅
第12回 日本の子ども会をとりまく環境~グループワーク 【子ども会】	担当：三宅
第13回 日本の子ども会を取り巻く環境~教員による説明	担当：三宅
第14回 ガバナンスについてのグループ・ワーク	担当：指名教員
第15回 まとめ 担当：三宅	

成績評価の方法 /Assessment Method

小課題の提出 ... 30 % 試験 ... 70 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日ごろから世界の動きに注目し、新聞やインターネットなどで情報をキャッチしておくこと。また、時々、小課題を出すので、提出すること。

履修上の注意 /Remarks

グループワークでは誰でも気軽に話せるようにしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

世界と私たちが住む地域は恒常的に結びついています。その結びつきを最終的には理解できるようにします。

キーワード /Keywords

ガバナンス ミャンマー 韓国 バングラデシュ フィジー、子ども会 グループ・ワーク

グローバル化する経済【昼】

担当者名
/Instructor

前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科, 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科
魏 芳 / FANG WEI / 経済学科, 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科
安岡 匡也 / Masaya Yasuoka / 経済学科, 畔津 憲司 / KENJI AZETSU / 経済学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
						○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

今日の国際経済を説明するキーワードの一つが、グローバル化である。この講義では、グローバル化とは何か、世界経済への影響、グローバル化の歴史、国や地域による違いを念頭に入れながら、グローバル化を包括的に説明する。日常の新聞・ニュースに登場するグローバル化に関する報道が理解できること、平易な新書を理解できること、さらに、国際人としての基礎的教養を身につけることを目標とする。複数担当者によるオムニバス形式で授業を行う。

教科書 /Textbooks

木暮太一(2010)『経済が世界—シンプルにつかめる本』明日香出版社。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

野田稔(監修)(2010)『ポン!とわかる日本経済』宝島SUGOI文庫。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード) ※適宜、ビデオ学習等をするため、若干のズレがありえます。

第1回	シラバス詳細版配布、授業の説明、イントロダクション	【グローバル化】
第2回	世界で何が起きている?	【サブプライム問題】
第3回	世界で何が起きている?	【WTO】【BRICs】
第4回	商品にまつわる話	【海外進出】【立地】
第5回	商品にまつわる話	【人件費】【為替レート】
第6回	食べ物にまつわる話	【食料自給率】
第7回	食べ物にまつわる話	【エコビジネス】【脱炭素燃料】
第8回	生活環境にまつわる話	【円高・円安】【人件費】
第9回	生活環境にまつわる話	【雇用慣行】【労働移動】
第10回	人の力にまつわる話	【人口減少】【貯蓄率】
第11回	人の力にまつわる話	【年金】
第12回	国の持ち物にまつわる話	【自由貿易】
第13回	国の持ち物にまつわる話	【多国籍企業】
第14回	お金と為替にまつわる話	【基軸通貨】
第15回	お金と為替にまつわる話	【変動相場制】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(ミニテストやレポートなど): 20~30%、学期末試験: 70~80%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストの該当部分を事前に講読しておくこと。また、必要に応じて配布されるプリントも予習・復習の際に参考にすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

テロリズム論 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

911以降の国際社会を考える上で、もはやテロリズム問題を避けて通ることはできない状況ですが、テロは当然、911以前から歴然と脅威の対象であり続けました。特にわが国は、日本赤軍やオウム真理教など、これまでのテロの「進化」に「貢献」してきたテロの先進国でもあるので、もっとテロリズム全般の知識があってもよいのかなと考えます。この授業は、テロリズムの体系的な理解を得ることを目的とします。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～4回 テロリズムとは何か。
テロの定義の難しさ、佐賀散弾銃乱射事件や秋葉原連続殺傷事件はテロか、911の特異性、テロの定義、テロの特徴、テロのグレーゾーン
- 5回 テロの歴史
テロの起源、19世紀のテロ、アナキスト、国粋主義、ナショナリズム
- 6回～8回 現代テロの登場
国際化(1968年エルアル機ハイジャック)、反米化(TWA機ハイジャック)、無差別化・自爆テロ(1972年ロッド空港事件)、劇場型テロ(ミュンヘンオリンピック事件)
- 9回 反近代・脱近代のテロ
オクラホマシティー連邦ビル爆破テロ、ユナボマー、環境テロなど
- 10回～11回 無差別大量殺戮テロ
オウム真理教地下鉄サリン事件など
- 12回～14回 911米国同時多発テロ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際社会と日本【昼】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

21世紀の日本外交の現状を概観した上で、第二次世界大戦後の日本と国際社会の関わりの変化を概観する。講義の軸は三つある。第一は政治面の軸であり、アメリカによる占領改革と独立の回復、冷戦期における日米同盟の発展、そしてポスト冷戦期に進められた日本の国際的役割の再定義が主な内容である。第二が経済面の軸であり、アメリカと東アジア諸国との連携の上に高度経済発展を遂げたこと、そして1970年代にはいって経済大国として世界経済の安定に中心的な役割を果たすようになっていったことを取り扱う。そして、第三に文化面での軸であり、西洋思想の吸収と安定した民主主義体制の建設を検討する。このような諸側面を見ることによって歴史的な知識を身に付けるとともに、社会変化を分析する技術を取得することがこの講義の目的である。

教科書 /Textbooks

五百旗頭真編『戦後日本外交史』第3版(有斐閣 2010年)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンス時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス【21世紀の日本】
- 第2回 敗戦時の日本【ポツダム宣言受諾】【占領軍進駐】【戦犯逮捕】
- 第3回 占領改革【日本国憲法制定】
- 第4回 朝鮮戦争と日米安保条約1【対日講和交渉】【冷戦のアジアへの波及】
- 第5回 朝鮮戦争と日米安保条約2【吉田茂政権】【日米安保条約制定】
- 第6回 自主外交と日本における二大政党制【鳩山一郎政権】【日ソ共同宣言】
- 第7回 岸外交と日米安保条約の改定【日米安保条約改定】【60年安保闘争】
- 第8回 池田政権と高度経済成長【所得倍増】【沖縄問題】
- 第9回 佐藤政権の時代【沖縄復帰】【ベトナム戦争】【米中接近】
- 第10回 石油ショックと日本の新しい役割1【田中角栄政権】【第一次石油ショック】
- 第11回 石油ショックと日本の新しい役割2【角福戦争】【第二次石油ショック】【日米同盟】
- 第12回 中曽根政権と自由主義的改革【中曽根政権】【貿易摩擦】
- 第13回 湾岸戦争と自民党政権の崩壊【バブル経済】【冷戦の終結】
- 第14回 冷戦後の日本外交【小泉政権】【民主党政権成立】
- 第15回 授業の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

テスト ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

この講義の内容は国際関係の授業とあわせて学習すると、国際関係の発展をよく理解することができるようになります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

予習復習をしっかりとください。

キーワード /Keywords

日本政治 歴史 第二次世界大戦後

歴史の読み方I【昼】

担当者名 八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ここでは明治時代をはじめとする、歴史上の人物や実際の史料を取り上げながら、今日の世界の中で日本の歴史がどう捉えられているのか、また私たち自身が歴史をどう見ているのかを考えることを目的とした歴史の見方を学びます。

教科書 /Textbooks

レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

野口実『武家の棟梁の条件』(中公新書)
佐伯真一『戦場の精神史』(NHKブックス)
勝田政治『廃藩置県～「明治国家」が生まれた日～』(講談社)
イ・ヨンスク『国語という思想～近代日本の言語認識』(岩波書店)
網野善彦『日本社会の歴史(上)～(下)』(岩波新書)
門脇禎二『吉備の古代史』(NHKブックス)
鳥越信『桃太郎の運命』(ミネルヴァ書房)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 ガイダンス①授業の進め方
 - 2回 『ラスト・サムライ』と武士道
 - 3回 武士道の成立
 - 4回 『平家物語』を読む①二つの平家物語
 - 5回 『平家物語』を読む②騎馬戦と【言葉戦】
 - 6回 県名を読む①【国郡制】と【幕藩制】
 - 7回 県名を読む②県名と県庁所在地
 - 8回 県名を読む③戊辰戦争
 - 9回 「国語」とは何か?
 - 10回 『国語元年』(ビデオ)を読む(ビデオ)①方言とは何か?
 - 11回 『国語元年』(ビデオ)②標準語とは何か?
 - 12回 網野善彦と日本史の枠組み
 - 13回 『もののけ姫』を読む-網野史学と【縄文文化】
 - 14回 「桃太郎」と吉備王国
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

受講生100名以上の場合には筆記試験100%、受講生100名以下の場合には授業レポート50%筆記試験50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

シラバス・レジュメ・参考文献をよく読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

歴史の読み方II 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

司馬遼太郎『坂の上の雲』で、「戦術的天才」として描き出された児玉源太郎（日露戦争時の満州軍総参謀長、台湾総督）の実像に実証的に迫り、その「立憲主義的軍人」としての生涯をたどることを通じて、歴史小説と政治外交史研究との関係について思いをめぐらすきっかけを作りたい。要するに、「歴史認識とはいったい何か」という問題を考察していく。

教科書 /Textbooks

小林道彦『児玉源太郎 - そこから旅順港は見えるか』（ミネルヴァ書房）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○小林道彦『桂太郎 - 予が生命は政治である』（ミネルヴァ書房）。その他、講義中に適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 政治的テロルの洗礼 - 徳山七士殉難事件 - 佐賀の乱 -
- 第3回 危機管理者 - 神風連の乱 - 西南戦争 -
- 第4回 雌伏の日々 - 佐倉にて -
- 第5回 洋行と近代陸軍の建設
- 第6回 陸軍次官 - 英米系知識人との出会い -
- 第7回 台湾経営 - 後藤新平を使いこなす -
- 第8回 政治への関わり - 第一次桂内閣
- 第9回 陸軍改革の模索 - 大山巖・山県有朋との対立 -
- 第10回 日露戦争 - 統帥権問題の噴出 -
- 第11回 旅順攻防戦 - 統帥権問題と明治国家の危機 -
- 第12回 児玉は「天才的戦術家」だったか - 危機における人間像 -
- 第13回 立憲主義的軍人
- 第14回 歴史小説と政治史研究の間
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な講義への取り組み...20% 期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義前に高校教科書レベルの知識を得ておくこと（必須）。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

児玉源太郎 陸軍 統帥権 帷幄上奏 日露戦争 西南戦争 伊藤博文 山県有朋

そのとき世界は【昼】

担当者名 /Instructor
小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター, 伊野 憲治 / 基盤教育センター
中道 壽一 / Hisakazu Nakamichi / 政策科学科, 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
寺田 由美 / Yumi Terada / 比較文化学科, 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

世界史を日本史・東洋史・西洋史に分けてとらえるのではなく、同時代に世界ではいったい何が起こっていたのか、そしてそれはどのように相互に関連していたのか、という観点から世界の動きをよりいきいきととらえて、新しい「世界史」を学生諸君に提示したいと思います。今年度は「1960年代の世界」というテーマを設定して、その時の世界の有様を日本、ベトナム、フランス、ドイツ、アメリカ、スペインといった地域での動きを中心にオムニバス方式で講義していきます。

教科書 /Textbooks

適宜指示いたします。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示いたします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN
- 第2・3回 日本(小林)【60年安保】、【所得倍増政策】
- 第4・5回 ベトナム(伊野)【ベトナム戦争】
- 第6・7回 フランス(伊原木)【パリ五月革命】
- 第8・9回 ドイツ(中道)【学生運動】
- 第10・11回 アメリカ(寺田)【公民権運動】
- 第12・13回 スペイン(岡住)【民主化】【自治州国家体制】
- 第14回 1970年代への展望
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...20%小テスト...40%レポート...40%
上の数値は一応の目安です。実際には、1、各教員担当講義の2コマ目の最後に、出席者に「小テスト」を課します。一回でも未受験があったら、単位は認定されません。2、レポート提出...6人の教員の中から任意の講義を2つ選び、それについてのレポートを提出してもらいます(課題は別途指示。1,200字×2本)。コピーは不正行為と見なします。3、適宜出欠を取ります。4、以上の総合評価で成績評価とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

※講義の順番や担当者(地域)は変更になることもあります。「ただ聴くだけ」という受講態度は許されない。講義前に高校教科書レベルの知識を得ておくこと。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

戦後の日本経済【昼】

担当者名 迎 由理男 / mukai yurio / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

第2次世界大戦以降の日本経済の発展過程を講義します。第二次世界大戦の敗戦から日本経済がどのように立ち直り、いかに経済成長を遂げてきたのか、日本的経済システムというのはどのようなものなのか。これらの問題をできるだけ平易に説明してゆきます。

教科書 /Textbooks

毎回用意するレジュメにしたがって授業を進めます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

野口悠紀雄『戦後日本経済史』新潮選書、2008年
三橋規宏・内田茂男・池田吉紀『ゼミナール日本経済入門』日本経済新聞、2011年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の目標・戦前と戦後
- 2回 戦後改革
- 3回 経済復興
- 4回 高度成長とそのメカニズム
- 5回 高度成長とそのメカニズム
- 6回 高度成長期の企業システム(1)
- 7回 高度成長期の企業システム(2)
- 8回 高度成長のもたらしたもの
- 9回 高度成長の終焉
- 10回 日本企業の国際競争力
- 11回 バブル経済
- 12回 長期不況と不良債権
- 13回 アジアの成長と日本経済
- 14回 金融危機と日本
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の小テスト・レポート25%、期末テスト70%、平常の学習状況5%で評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

学習事項の復習をきちんとしておくこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

都市と農村の生活文化史 【昼】

担当者名 /Instructor 福間 裕爾 / Yuji FUKUMA / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義には、二つの柱がある。ひとつは、「都市と農村」あるいは「都会と田舎」という区分が、現代社会において、どのような繋がりと存在意義を持っているのかを明らかにすることである。もうひとつは、「世間」というものが、現代の私たちの生活を無意識のうちに律していることを自覚し、その存在理由を文化的に分析することである。

授業においては、都市から農村を見ていくことで、両者のダイナミズムやそのなかに秘められた人々を相対化する技法を考える。また、文献等に残ることが少ない人々の営みをどのように整理し、現場のなかでいかに問題を発見し理論化するか、というフィールドワークの基本にも触れることができる内容としたい。何気ない日常に焦点をあて、そのなかから理論を析出するおもしろさを伝えたい。

教科書 /Textbooks

特定の教科書は用いない。資料はプリントで適宜配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス 何気ない普段の生活を意識する
- 第2回 はじめに「都市の誘惑」都市と農村のリズム
- 第3回 「世間とは」気づかない日常の拘束力
- 第4回 「言葉の威力」言葉から都市と農村を見る
- 第5回 「新しい世間」電子メディアと文化均一化
- 第6回 「稲の魂」農村と神
- 第7回 「都市と御霊」都市の間と光
- 第8回 「祭と祭礼」都市の指標としての祭礼
- 第9回 「都会の身体 / 田舎の身体」身振りと文化
- 第10回 「人気(じんき)」国民性・県民性 集合的無意識
- 第11回 「都会のハビトゥス1」出会いと社交の技法
- 第12回 「都会のハビトゥス2」結集の技法
- 第13回 「都会のハビトゥス3」不文律の妙
- 第14回 「都市の威力」博多山笠に見る文化伝播
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポートまたは試験 80% 授業中の小レポート等20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業を聞き、十分にノートをとること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

身近なところから問題点を発見し、自ら分析し、解決する。この知的技法の基本を楽しく伝えていきたいと思います。

キーワード /Keywords

日本民俗学 柳田國男 世間 世間体 文化伝播 伝統と創造 変化変容 都市祭礼 フィールドワーク 伝承と電子メディア

もの与人間の歴史【昼】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

特定の「モノ」を取り上げ、「モノ」の製造 / 生産、流通、そして使用など、モノ与人間の関わり方の現場に焦点を絞り、その「モノ」と関わることで、私たちの生活そして社会のあり方などがどのように変容してきたか、「モノ」をめぐる歴史を検討する。今年度は自動車を取りあげる。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献リストは、ガイダンス時に配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 自動車がつくった社会【モータリゼーション】
- 第3回 カと近代【蒸気機関】、【内燃機関】、【原子力】
- 第4回 自動車の時代の終わり?【ICT】、【高付加価値生産】
- 第5回 自動車発明への道【ガソリン・エンジン】【電気自動車】
- 第6回 自動車をめぐる国民文化【大衆社会】、【トクヴィル】、【ウェーバー】
- 第7回 内燃機関と身体【職人文化】
- 第8回 ヘンリー・フォードとアメリカ【ヘンリー・フォード】
- 第9回 フォード・システムと大衆【フォーディズム】
- 第10回 フォード対GM 【柔軟な大量生産システム】
- 第11回 自動車と20世紀文明【大衆社会、大量生産】
- 第12回 自動車と道路【道路の歴史】【交通規制】
- 第13回 自動車と都市政治【住宅開発】
- 第14回 自動車と国家【産業政策】
- 第15回 授業のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 70% レポート30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

履修上の注意 /Remarks

近代化をめぐる政治、経済、文化の議論を展開しますので、政治学や経済学、カルチュラル・スタディとあわせて勉強すると、よく授業内容が分かります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自動車から開けていく様々な事柄を紹介しますので、多方面のことに興味を持って勉強して下さい。

キーワード /Keywords

大量生産システム、民主主義、比較文明論

人物と時代の歴史【昼】

担当者名 /Instructor 山崎 勇治 / 国際教育交流センター, 乗口 眞一郎 / 北方キャンパス 非常勤講師
新村 昭雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

歴史の面白さを、特定の代表的な人物を中心として講義して、学生に知らせることを目的とする。
なぜならば、歴史の背後にある人物や文化などを理解することが複雑な今日政治、経済、文化、外交、戦争などの諸現象を理解できるからである。
三人の教員が、日本・アメリカ・ヨーロッパの代表的な人物について、人物と時代について語る。まず、ヨーロッパについては1930年代の世界恐慌とそれを打開しようとしたアメリカのルーズベルト大統領のニューディール政策、ドイツのヒットラーのナチス経済、世界恐慌を救済する理論を考案した経済学者M. ケインズ。ケインズ政策を使って昭和恐慌を救った高橋是清について述べる。
次にアメリカを代表する人物の話に移る。果たして、オバマ大統領のノーベル平和賞授与は正しかったのか。オバマ大統領の経歴と奴隷解放運動の歴史について語る。そして、歴代大統領とその素顔(リンカーン、ケネディー、クリントン大統領)について。
最後は、「剣と禅」に生きた山岡鉄舟と幕末・明治維新について語る。今、武士道(Bushido)が見直されている。核兵器と原子力を抑止するのは結局のところ人間の心しかない。禅と武道を極めた鉄舟もその心を無刀流においた。江戸時代、上杉鷹山はその儒教的経営で壊滅的な上杉家の財政を見事に立て直した。その技を見てみよう。次に、徳川幕府が始まってまだその礎が固まっていなとき、3代将軍家光の弟・保科正之は江戸幕府の礎を築いた。長い平安の時代が終わり、貴族に代わって武士が台頭したとき、貴族のための仏教に代わって、庶民のために仏教が生まれた。それを代表するのが浄土真宗の親鸞であった。日本古来の縄文信仰(アイヌや南方諸島に残る)や弥生信仰に代わって、聖徳太子(厩戸皇子)は仏教を大和(やまと)の国の根本におかれた。飛鳥・奈良時代、なぜ、インド・中国から渡来した仏教が日本で繁栄したのか。これらを明らかにする。

教科書 /Textbooks

教科書 /Textbooks 資料を配付します。(新村)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 新渡戸稲造『武士道』(BUSHIDO)
- 藤沢周平『漆の実のみのる国』(文春文庫)
- 中村彰彦『保科正之』(中公新書)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 日本、アメリカ、ヨーロッパの歴史の中からテーマを厳選し、講義をする
- 第1回 永遠の繁栄のアメリカと賠償支払い問題で苦境のドイツ
 - 第2回 1929年世界恐慌の構造
 - 第3回 ルーズベルト大統領とニューディール政策
 - 第4回 ヒットラーとナチス経済
 - 第5回 M ケインズと不況の経済学「一般理論」
 - 第6回 高橋是清と昭和恐慌
 - 第7回 サッチャーの経済政策とバブル経済
 - 第8回 オバマ大統領のノーベル平和賞授与は正しかったのか
 - 第9回 オバマ大統領の経歴と奴隷解放運動の歴史
 - 第10回 歴代大統領とその素顔(リンカーン、ケネディー、クリントン大統領)
 - 第11回 「ラスト・サムライ」山岡鉄舟と【幕末・明治維新】
 - 第12回 【江戸時代】、ギリシャと同様に壊滅的だった藩の財政を立て直した上杉鷹山と儒教的経営
 - 第13回 【3・11東日本大震災】同様の危機を乗り切ったり【江戸幕府】の礎を築いた三代将軍家光の弟・保科正之
 - 第14回 乱世の世に現れた宗教家・親鸞と【平安・鎌倉時代】
 - 第15回 聖徳太子と【飛鳥・奈良時代】

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート(70%)と平常の学習状況(30%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

* 受講する際に、各回で取り上げる人物やテーマについて図書館等で調べておくこと。

履修上の注意 /Remarks

人物と時代の歴史【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養特講I (生命と物質) 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

約40億年前の地球に生命は誕生し、長い時間をかけて多様な生物種へと進化してきた。そもそも生命とはなにか、生物はどのような物質からできていて、どのようなしくみで成り立っているのか。生命のはじまりと終わりは生物学的にどのように定義されるのか。本講では生命を物質的な側面からとらえ、生きているということについて科学する。また、生命の多様性を生み出すしくみ、放射線や化学物質などが生物に及ぼす影響、遺伝子工学や生命操作についての基礎を学び、現代社会における生命科学の諸問題を理解することを目標とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 「文系のための生命科学 第二版」 東京大学生命科学教科書編集委員会 2011年 (羊土社)
 - 「宇宙と生命の起源 ビッグバンから人類誕生まで」 嶺重慎・小久保英一郎編著 2004年 (岩波ジュニア新書)
 - 「生物と無生物のあいだ」 福岡伸一著 2007年 (講談社)
- 高校生物IおよびIIの教科書または参考書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 地球をつくる物質の起源【元素】【原子】【超新星爆発】
- 3回 地球の進化と環境の変化【太陽活動】【宇宙放射線】【生物絶滅】
- 4回 物質のなりたち【分子】【化学結合】
- 5回 生命の部品となる物質【核酸】【タンパク質】【糖】【脂質】
- 6回 生命を設計する物質【DNA】【遺伝子】
- 7回 生命を動かす物質【ATP】【呼吸】【酵素】
- 8回 生命をとりまく物質【放射線】【変異原】
- 9回 生命の起源と進化【原核生物】【真核生物】
- 10回 多様性を生み出すしくみ【突然変異】【生殖】【減数分裂】
- 11回 生命を操作するという①【遺伝子工学】【遺伝子組換え作物】
- 12回 生命を操作するという②【ES細胞】【生殖医療】
- 13回 映画鑑賞
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業への参加40% (質問やコメントの内容で評価する)、確認のための小テスト (2～3回実施) 30%、期末レポート30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自然科学系科目が苦手な者も歓迎します。高校の教科書や参考書等を入手し、わからない用語は自分で調べるなど、積極的に取り組んでください。興味がある者は、「自然学のみなぞし (人間と生命) 【夜間】」も合わせて受講するとよいでしょう。

キーワード /Keywords

教養特講I (生命の境界線) 【昼】

担当者名 /Instructor 中道 壽一 / Hisakazu Nakamichi / 政策科学科, 中野 次吉 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

< テーマ >

医療倫理を学びます。

< 概要 >

遺伝子治療、安楽死、脳死・臓器移植を通して、現代医療において「いのち」がどう扱われているか学びます。そのことを通して、現代医療が抱える制度的、倫理的課題について考えます。

< 対象 >

医療や科学・技術問題に関心がある学生、とくに医療・福祉分野に進みたい学生を歓迎します。

教科書 /Textbooks

とくに使いません。プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

配布するプリントの末尾で紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

< 授業内容 >

医療技術の発達で、人類は神の力を手に入れました。それは「いのち」を自由に操作する技術です。いまや、多くの病気や死は克服されつつあるようにみえます。しかし、そのことで、人類はかつて経験しなかった難問を抱えこんでしまいました。

たとえば、臨終の場面を想像してみてください。医師はあなたにこう尋ねます。「もはや手は尽くしました。ご家族は生命維持装置なしにはもちません。これからも治療を続けますか?」。あなたが「はい」と答えると、家族は機械の力で生き続けます。「いいえ」と答えると、家族は機械を外され「いのち」を終える、つまり死ぬこととなります。

「いのち」に意図的な境界線を引くこと、これが現代医療の抱える難問です。これまで死はどうすることもできない運命でした。しかし、いまは科学・技術の力でそれを何とかすることができます。上述のように、あなたの一言が人の生死を決定します。わたしたちは人間の死に対して責任を負わなければならなくなりました。そこに倫理が生じてきます。

授業では、現代医療における「いのち」について、医療技術・制度、哲学、法律などの観点から、自分なりの「いのちの境界線」について考えてもらいます。具体的な事例として、遺伝子治療、安楽死、脳死・臓器移植をとり上げます。

< 授業計画 >

- 第1回 : ガイダンス
- 第2回 : 第1章 遺伝子治療① — 「人体製造」技術
- 第3回 : 第1章 遺伝子治療② — 遺伝子治療と倫理
- 第4回 : 第1章 遺伝子治療③ — 操作される生命「救世主兄弟」
- 第5回 : 第2章 安楽死① — 操作される死「カレン事件」
- 第6回 : 第2章 安楽死② — 安楽死と法
- 第7回 : 第2章 安楽死③ — 安楽死の論理「どこで線を引くか?」
- 第8回 : 第2章 安楽死④ — 残された課題
- 第9回 : 第3章 脳死・臓器移植① — 脳死とは?
- 第10回 : 第3章 脳死・臓器移植② — 死の概念「医学と哲学における基準」
- 第11回 : 第3章 脳死・臓器移植③ — 臓器移植という治療の特色
- 第12回 : 第3章 脳死・臓器移植④ — 脳死・臓器移植の倫理、制度的課題
- 第13回 : 第4章 科学・技術と倫理① — 科学・技術における「自然」の考え方
- 第14回 : 第4章 科学・技術と倫理② — 科学・技術に対する倫理
- 第15回 : まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験で評価します (配布プリント、ノートの持ち込みを可とします) 。

教養特講I (生命の境界線) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

とくにありません。

履修上の注意 /Remarks

とくにありません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

配布するプリントをよく読んでください。

キーワード /Keywords

遺伝子、安楽死、脳死、科学・技術、倫理

教養特講II (セクシュアル・ ライツ) 【昼】

担当者名 /Instructor 文学部 河嶋 静代 他

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

性と人権は深く結び付いている。セクシュアル・ライツはあらゆる人間が生まれながらにして有する自由、尊厳、平等にもとづく普遍的権利である。21世紀に切り拓かれる人権の領域である。
本授業では性に関する多様なテーマについて取り上げながら、広く性と人権について考察していく。セクシュアル・ライツについて学ぶことで、自分や人を大切にできる意識や感性を醸成し、性的自己決定能力を向上させていくことがねらいである。
具体的には、セクシュアル・ハラスメントやデートDVの予防など、相互尊重のコミュニケーションやソーシャルスキルの習得できるように、ロールプレイなど一部体験学習を織り交ぜながら授業を進めていく。
本学教員と外部講師によるオムニバス形式での授業を行う。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に配布するプリントに記載

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、セクシュアル・ライツとは 【ジェンダー】 【セクシュアリティ】
- 2回 性の多様性とセクシュアル・マイノリティ 【性自認】 【性的指向】 【性の二元化】
- 3回 トランスジェンダー 【トランスジェンダリズム】 【性同一性障害】
- 4回 リプロダクティブ・ヘルス/ライツ 【性的自己決定】 【母体保護法】 【人工中絶と優生思想】
- 5回 性感染症の予防 【性教育】 【性的自立】
- 6回 生殖医療の発達と生命倫理 【代理母】 【不妊治療】 【出産ビジネス】
- 7回 大学におけるセクシュアル・ハラスメントと防止 【男女雇用機会均等法】 【アカデミック・ハラスメント】
- 8回 デートDVの予防 【自尊感情】 【アサーション・トレーニング】
- 9回 性暴力被害とトラウマ 【性暴力裁判】 【強姦神話】 【フェミニスト・カウンセリング】
- 10回 日本における売春防止法と「婦人保護」 【公娼制度】 【売春の歴史】
- 11回 日本と諸外国の売買春をめぐる動向 【セックスワーカー】 【性労働】 【売春の合法化】
- 12回 障害者と性 【ADL・QOL】 【性のケアと看護】
- 13回 戦争と性暴力 【軍事化】 【性支配】 【植民地主義】 【民族浄化】
- 14回 メディアと子どもの性被害 【ポルノグラフィ】 【児童ポルノ禁止法】 【メディア・リテラシー】
- 15回 これまでの振り返り

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点40%、課題60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養特講III (誰にも負けない私のイギリス案内) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor 山崎 勇治 / 国際教育交流センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

私の本学教員生活34年間はイギリス経済研究三昧の日々であった。その間、3年間もイギリスで研究生活を楽しんだ。専門書『石炭で栄え滅んだ大英帝国—産業革命からサッチャー改革まで—』はその成果である。
多くの時間とエネルギーをイギリスに投入した私は、イギリス社会をさまざまな角度から見る機会を得てきた。いわば研究余滴というべき「私だけのイギリス案内」を講義する。
また、留学生を良く連れていく門司港→渡船にて唐戸→唐戸の英国領事館→春帆楼→赤間神宮門→関門歩道トンネルは、「私のデートコース案内」としてイギリスを関門地域」に発見したコースである。
換言すると、イギリスを鏡として日本の姿を改めて見直す。これが講義の目的である。

教科書 /Textbooks

口述であるために教科書はなし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山崎勇治『石炭で栄え滅んだ大英帝国—産業革命からサッチャー改革まで—』(ミネルヴァ書房、2008年)
M・サッチャー『回顧録』(上、下) (石塚雅彦訳、日本経済評論社、1993年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 なぜイギリスを語るのか
- 第2回 明治維新を支えたスコットランド人
「蛍の光、窓の雪」のルーツを求めて—アダム・スミス「国富論」(1776年) を中心に—
- 第3回 湖水地方；自然保護は住民の運動によってのみ守られる
- 第4回 世界のケンブリッジ大学—ノーベル賞受賞者との日々
- 第5回 ケンブリッジ大学留学とインド人家族との交流
- 第6回 1929年世界恐慌を救ったM・ケインズ—ケインズ革命「雇用・利子および貨幣の一般理論」(1936) が語りかけるもの
- 第7回 ミュージカル鑑賞でロンドンの夜を楽しもう
- 第8回 ・大英博物館図書館案内—
- 第9回 世界最大の図書館案内—『資本論』がなぜいま人気があるのか—『資本論』の世界紹介
- 第10回 ダウニング街10番地
- 第11回 イギリスの2大政党政治と日本の政治
- 第12回 セイント・アイビス；バーナード・リーチと小鹿田焼き窯
- 第13回 南ウエールズの首都カーディフ市と北九州市との関係
- 第14回 花の都パリで乾杯
- 第15回 私のデートコース案内—イギリスから見た関門地域—

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度50%、レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

拙著『石炭で栄え滅んだ大英帝国—産業革命からサッチャー改革まで—』(ミネルヴァ書房、2008年)
M・サッチャー『回顧録』(上、下) (石塚雅彦訳、日本経済評論社、1993年)
を目に通しておけば、理解し易い。
また、新聞を毎日読んで、伊英関係の記事を見つけてノートに要約しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養特講Ⅳ (報道・情報・営業、テレビはいま) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所, 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 /Credits 単位 2単位 /Semester 学期 2学期 /Class Format 授業形態 講義 /Class クラス 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

< 本講義のタイトル > 「報道・情報・営業、テレビはいま (RKB寄付講座) 」

< 目的 >

RKB毎日放送株式会社の現場の第一線で活躍している社員に教壇に立って頂き、番組制作における基本的知識 (特に問題点) をご講演していただいたのち、社員の方から投げられた現場における困難な課題を、グループで取り組み、課題解決 (場合によっては制作および発表) を通して、パースペクティブな視野を持ったクリティカル・シンキングの獲得、および現実に即したメディアリテラシーの理解を目指します。そして、大学生活における学びや活動に対し、意欲を持って実行することに繋げていくことを目的とします。

< 進め方 >

毎回、現場における課題を提示し、グループワークを促し、一部グループに発表していただきます。

①テーマに基づく講演、ダイアログ、作品上映など

②グループワーク

③プレゼンテーション ※講演者が選出。数グループ。

④講評および来週の課題

※講演や上映部分を長くし、レポート提出する回もあり。

< 期待される効果 >

クリティカルシンキング、メディアリテラシー

教科書 /Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特にありません。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス
 - 2回 総論
 - 3回 「報道の自由」「国民の知る権利」「人権」の狭間で揺れるテレビ報道
 - 4回 ドキュメンタリー総論
 - 5回 エンタメ・情報系ドキュメンタリー
 - 6回 ハードドキュメンタリー
 - 7回 群像ドキュメンタリー
 - 8回 死闘！情報ワイド戦争
 - 9回 情報からヒューマンへ
 - 10回 はいどうぞ、親切丁寧地上波テレビ。編成テクニク実戦編
 - 11回 営業第一線からの報告
 - 12回 めざせ放送人！優れた作り手よ来たれ！
 - 13回 まとめ
 - 15回 最終レポート
- (※期間中、最終レポートとは別にテレビ作品に対するホームワーク提出を持って、全15回となります)

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業で課されるレポート...80%、最終レポートおよび途中提出のホームワーク...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

原則、毎回グループワークとプレゼンテーションがありますので、授業で指示する事前準備を行ってください

履修上の注意 /Remarks

※履修者が多かった場合、履修者の調整を行います。その際、第1回の授業を欠席した学生の履修申請を取り消しますので、必ず第1回は出席するようにしてください。何らかの事情で出席できない場合は、事前に教員までメールなどで連絡をしてください。
※「プロフェッショナルの仕事」を受講していることが望ましい。
※授業の特性上、出席しなければ点数は付きません。よって課外活動で欠席が多くなる学生は履修を避けてください。
※本務でお忙しい中、本学の学生のために、わざわざ来学していただいている講演です。よって、以下の5項目は特別な事情があるときを除き厳守してください。①遅刻厳禁 ②携帯操作厳禁 (マナーモードでバッグの中に) ③脱帽 ④飲食禁止 ⑤私語厳禁

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本学の学生は、首都圏の大学生よりも立地的に、企業・団体に働いている社会人と出会う機会が少なくなっています。そんな中、実際の現場で起こっている課題に、社会人がどう取り組んでいるのかを体感することで、みなさんの大学での学びを仕事に試すチャンスです。さらにテレビ局はインターンシップに参加する数名のみしか体験できない現場です。この機会を活かして自分の力を試してみたい、そしてさらに高めたい意欲を持って参加してください。

キーワード /Keywords

マスメディア、メディアリテラシー、テレビ局、アナウンサー、ディレクター、営業、ドキュメンタリー

日本史【昼】

担当者名 /Instructor 内山 一幸 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

境界・領域・国家といった観点から、日本の歴史上の諸問題について考えていく。例えば現代において「国境」というものは容易に越えがたいものであるが、中世の日本では「境界」は容易に越えうるものであった。それはなぜか、そのことが意味するものは何か、といったことを考えてみることで、古代から現代に至る各時代の「日本」や「日本人」について理解を深めてもらいたい。

教科書 /Textbooks

使用しない。毎回資料を配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 網野善彦『「日本」とは何か』(講談社、2000年 / 講談社学術文庫、2008年)
- 大石直正ほか編『周縁から見た中世日本』(講談社、2001年 / 講談社学術文庫、2009年)
- 小熊英二『「日本人」の境界』(新曜社、1998年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 日本史を学ぶこととは
- 第2回 「鎖国」と「開国」
- 第3回 蝦夷地とアイヌ
- 第4回 近代化とアイヌ社会
- 第5回 琉球の形成と環シナ海世界
- 第6回 琉球から沖縄へ
- 第7回 対馬からみた日朝関係
- 第8回 近世的日朝関係と対馬
- 第9回 台湾をめぐる同化と異化
- 第10回 韓国併合と「日本人」
- 第11回 満洲国と「民族協和」
- 第12回 「外国」になった沖縄
- 第13回 「大帝国日本」の解体
- 第14回 「日本人」の戦後問題
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

西洋史【昼】

担当者名 /Instructor 曠谷 憲洋 / Norihiro Kurotani / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

地球規模で進行する「世界の一体化」。地中海や大西洋、インド洋、東・南シナ海といった海域世界の発展と相互の接続を見ることによって、ヨーロッパとアフリカ・「新世界」・アジアの出遭いの諸相と諸文明の交流・衝突、そして近代世界の形成を理解します。

教科書 /Textbooks

プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】内はキーワード)
- 1回 「13世紀世界システム」とヨーロッパ 【バックス・モンゴリカ】
 - 2回 ヨーロッパ進出以前のアジア海域世界 【港市国家】
 - 3回 イベリア諸国の形成 【レコンキスタ】
 - 4回 「中世の危機」とポルトガルの海外進出【エンリケ航海王子】
 - 5回 新世界到達と「世界分割」【トルデシリャス条約】
 - 6回 ポルトガル海洋帝国の形成① 【香辛料】
 - 7回 ポルトガル海洋帝国の形成② 【点と線の支配】
 - 8回 スペインによる植民地帝国の形成① 【ポトシ】
 - 9回 スペインによる植民地帝国の形成② 【モナルキア・イスパニカ】
 - 10回 「17世紀の危機」と国際秩序の再編①【東インド会社】
 - 11回 「17世紀の危機」と国際秩序の再編②【砂糖革命】
 - 12回 環大西洋世界の展開① 【第二次英仏百年戦争】
 - 13回 環大西洋世界の展開② 【環大西洋革命】
 - 14回 ヨーロッパ勢力とアジアの海 【近代世界システム】
 - 15回 まとめ 【「コロンブスの交換」】

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内に課す小レポート(5回)・・・25%、期末試験・・・75%
(小レポートの提出が一度もない場合、期末試験を受けることが出来ません)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

既習の歴史に関する知識を再確認しておいてください(とくに世界史)。

履修上の注意 /Remarks

毎回講義プリントを配布し、それに基づいて講義します。講義後も配布プリントとノートを見直し、整理・復習を心がけてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東洋史【昼】

担当者名 /Instructor 藤野 月子 / FUJINO TSUKIKO / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、東アジアを中心としてその歴史的な変容を考察する。目標として、中国・朝鮮・日本をはじめとする東アジア諸地域の特異性について明らかにし、更にはそれを通じて東アジア諸地域の今後の在り方を自らで模索することの出来る能力を養うことを目指す。なお一般的に中国の歴史というと、単に中国国内のみの問題と捉える傾向があるかもしれない。しかし、古来から中国は近隣の様々な民族を吸収・同化しつつ変容を繰り返しているのである。また、近隣諸地域もその影響を受けつつオリジナルな国家形成を行ってきているのである。つまり、東アジアにおいて両者を巡るこのような関わりは相互に密接なものを有しているといえよう。よってここでは具体的に、中国における古代文明の誕生から隋唐の世界帝国の形成・衰退までを、中国のみに止まることなく東アジアという包括的視座に置いて各時代の政治・思想・外交・文化等の多角的な面から理解することを掲げる。

教科書 /Textbooks

特に使用しない。講義では毎回プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに - 講義のガイダンス・東洋史と中国 -
- 第2回 秦の始皇帝による統一 - 古代文明の誕生から中華思想の形成まで -
- 第3回 秦漢と匈奴 - 中国と北方騎馬民族との関係 -
- 第4回 中国の外交政策 - 羈縻・冊封・互市・和蕃公主の降嫁 -
- 第5回 前漢の政治と思想 - 儒教との関係 -
- 第6回 後漢の政治と思想 - 外戚と宦官 -
- 第7回 三国志の時代 - 三国の領土拡大と卑弥呼の朝貢 -
- 第8回 西晋による三国統一 - 西晋の内乱と諸民族の動向 -
- 第9回 東晋南朝の社会 - 貴族とは -
- 第10回 五胡十六国北朝の時代 - 北中国における民族の融合 -
- 第11回 南北朝と朝鮮・日本 - 朝鮮・日本の中国外交 -
- 第12回 隋唐による統一 - 世界帝国の成立と政治制度 -
- 第13回 唐と朝鮮・日本 - 唐の朝鮮政策と白村江の戦い -
- 第14回 唐代の外交 - 唐の近隣支配体制と商業活動 -
- 第15回 安史の乱後における唐の滅亡 - 世界帝国の衰退と東アジアへの影響 -

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習態度... 20%・定期試験... 80%
(講義では毎回感想カードを配布回収する)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習としては特になし。
復習としては講義中に適宜紹介するものを読んで理解を深めることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

特になし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

世界史・東洋史に初めて触れる人にも理解しやすい講義を心がけたいと思います。
先入観に振り回されず、
今後の世界に大きな影響を与えることが確実な中国の歴史について学ぶことは必要であると同時に大変有益です。

キーワード /Keywords

東アジア 中国 朝鮮 日本

社会学 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業のねらいは、社会学の基本的な考え方と概念を身につけ、現代社会の諸問題を社会的に解釈していく力を身につけることにある。授業では、まず、社会学の基本的な考え方についてデュルケムやウェーバーらの古典的著作を例にとりながら紹介していく。ついで、「集団・組織」、「家族」、「階層」、「国際化」といった社会の各領域について社会的分析を行う。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『現代の社会的解読』(山本努・辻正二・稲月正著、学文社、2006)
その他、講義の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨン
- 第2回 社会学の基本的な考え方
- 第3回 社会と個人をつなぐ1 - デュルケム1 : 集合意識と行為
- 第4回 社会と個人をつなぐ2 - デュルケム2 : 『自殺論』
- 第5回 社会と個人をつなぐ3 - ウェーバー1 : 理解社会学
- 第6回 社会と個人をつなぐ4 - ウェーバー2 : 『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』
- 第7回 集団と組織1 - 集団・組織の種類と機能
- 第8回 集団と組織2 - 官僚制の逆機能
- 第9回 家族1 - 家族の種類と機能
- 第10回 家族2 - 近代化と家族
- 第11回 社会階層と社会移動1 - 階層化の趨勢
- 第12回 社会階層と社会移動2 - 階層化のメカニズム
- 第13回 グローバル化とエスニシティ1 - グローバル化の趨勢
- 第14回 グローバル化とエスニシティ2 - 統合のメカニズム
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 15% 期末試験... 85%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業にあたって配布プリント等をよく読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人文地理学 【昼】

担当者名 吉津 直樹 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では世界的視野で自然的要素の諸相を明らかにし、自然的条件が人間および人間社会に及ぼす影響を及ぼすかを世界の様々な地域を事例を挙げて検討する。さらに日本において生活の基礎的条件としての自然的条件が人間生活に影響を及ぼしている事例を検討する。

教科書 /Textbooks

特定の教科書は用いない。随時、プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

井関弘太郎『沖積平野』東京大学出版会、1988年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. はじめに～地理学あるいは人文地理学とは
2. 世界の自然 - 気候、地形、地震
3. 世界の自然と農業 - 農業様式と景観
4. 未開発地域の人々の生活
5. 氷雪地域における人間の生活 - シベリア・オイミヤコン
6. 熱帯地域における人間の生活 - 酷暑地域
7. 乾燥地域における人間の生活 - アタカマ砂漠
8. 西ヨーロッパの気候と人間の生活 - イギリス、ドイツ、スペインなど
9. 世界最多雨地域における人間の生活 - マガラヤ
10. 日本の自然条件 - 気候、地形、陸水
11. 日本における気候と農業、生活
12. 自然条件が人間活動に及ぼす影響 - 氷河性海面変動と沖積層
13. 自然条件が人間活動に及ぼす影響 - 沖積層と地盤沈下
14. 自然条件が人間活動に及ぼす影響 - 沖積層と工業立地
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 (50%)、日常の授業の取り組み (50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

地図帳持参が望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

機構、地形、極寒地域、酷暑地域、温暖地域、氷河性海面変動、沖積層

土地地理学 【昼】

担当者名 /Instructor 野井 英明 / Hideaki Noi / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

地理学は、地球表面に生起する自然、人文の緒現象を「地域的観点」から究明する科学です。そのため、地理学を研究する場合、必ず必要になるのが地図です。この科目では、地理学の言語ともいわれる地図に関して学ぶとともに、地図や空中写真を利用した実習を行い、地理学的知見を高めることを目的とします。

教科書 /Textbooks

教科書はありません。適宜、プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 「地理的情報の分析手法」(菅野峰明・安仁屋政武・高阪宏行著 古今書院)
- 「日本列島地図の旅 付・地図の読み方入門」大沼一雄著 東洋選書)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地理学では何を学ぶか。【自然地理学】【人文地理学】
- 2回 地図の役割。【地図の能力】
- 3回 地図の歴史。
- 4回 地図には、どのような種類があるか。【一般図】【主題図】
- 5回 地図は、どのように作られるか。【地図投影】【図法】
- 6回 地図記号から景観を読む。【図式】
- 7回 山の地形を地形図から描くI (講義・実習)。【等高線】
- 8回 山の地形を地形図から描くII (実習)。
- 9回 地図を利用して地表の状態を調べる。【地形計測】
- 10回 地形図を利用して山の体積を測定するI (講義・実習)。
- 11回 地形図を利用して山の体積を測定するII (実習)。
- 12回 空中写真の利用。【リモートセンシング】
- 13回 空中写真を利用して高さを測定する(講義・実習)。
- 14回 リモートセンシング、衛星データの利用。
- 15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...40% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

参考書や配布する資料などを読んでおくとより理解が深まります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地誌学 【昼】

担当者名 吉津 直樹 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

地域を対象としてとりあげ、「社会的環境の変化と地域の変化」をテーマとする。産業構造の変化、交通の変化、自治体の再編成が地域にどのような変化をもたらすかを明らかにする。
ビデオなども使い、具体的なイメージが湧くように努めたい。

教科書 /Textbooks

特定の教科書は用いない。随時、資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (1)はじめに～地理学とは、地誌とは
- (2)産業構造の変化と地域① - 製鉄業の再編成と地域の変貌 (北九州、釜石、福山など)
- (3)産業構造の変化と地域② - 自動車産業の再編成と地域の変貌 (座間、豊田、荻田など)
- (4)産業構造の変化と地域③ - 造船業の再編成と地域の変貌 (下関、因島など)
- (5)産業構造の変化と地域④ - エネルギー革命と地域の変貌 (宇部)
- (6)産業構造の変化と地域⑤ - エネルギー革命と地域の変貌 (夕張)
- (7)交通の変化と地域の変貌① - 道路輸送、鉄道輸送の整備と地域の変貌 (農業地域、一戸、飯田など)
- (8)交通の変化と地域の変貌② - 高速交通網の整備と地域の変貌 (観光地、角館、小布施、湯布院など)
- (9)交通の変化と地域の変貌③ - 橋、トンネルの開通と地域の変貌 (下関、高松、函館、青森など)
- (10)交通の変化と地域の変貌④ - 空路輸送、海上輸送の整備と地域の変化 (ハブ港とフィーダー輸送)
- (11)自治体の再編成と地域の変貌① - 何のための自治体の再編成か
- (12)自治体の再編成と地域の変貌② - 山口県における自治体再編成と下関市の合併
- (13)自治体の再編成と地域の変貌③ - 合併しなかった自治体について (福島県矢祭町、長野県栄村など)
- (14)自治体の再編成と地域の変貌④ - 合併しなかった自治体について (山口県阿武町)
- (15)まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 (50%)、日常の授業の取り組み (50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

地図帳を持参することが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域、産業再編成、交通変化、自治体再編成、製鉄業、自動車産業、造船業、エネルギー革命、高速交通網

日本国憲法 【昼】

担当者名 植木 淳 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

我々の国家・社会の基本法である「憲法」の意義・概要について学ぶことによって、一人の人間として、あるいは主権者たる市民として、思索・行動する上での何らかのてがかりにしていきたい。

教科書 /Textbooks

大隈義和、大江正昭編『憲法学へのいざない(第2版)』(青林書院・2011年)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 浦部法穂『憲法学教室(全訂第2版)』(日本評論社・2006年)
- 高橋和之他編『憲法判例百選I・II(第5版)』別冊ジュリ186・187(有斐閣・2007年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 憲法の意義
- 第2回 憲法の展開
- 第3回 人権総論
- 第4回 人権各論①(人権享有主体)
- 第5回 人権各論②(幸福追求権)
- 第6回 人権各論③(平等原則)
- 第7回 人権各論④(信教の自由)
- 第8回 人権各論⑤(表現の自由)
- 第9回 統治機構①(国民主権)
- 第10回 統治機構②(権力分立)
- 第11回 統治機構③(日本の政治制度)
- 第11回 平和主義①(憲法9条の意義)
- 第12回 平和主義②(戦後日本の安全保障)
- 第13回 平和主義③(憲法9条と裁判所)
- 第14回 日本憲法史
- 第15回 予備日程

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特に必要なし。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

倫理学 【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

哲学や宗教との関わりを通して古代から現代にいたる主要な倫理学説を紹介してゆく。西洋の歴史において倫理思想がどのように発展してきたのかを学びつつ、倫理学についての基本的知識を身につけることが本授業の目的である。

教科書 /Textbooks

適宜レジュメを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 岩田靖夫ほか『西洋思想のあゆみ—ロゴスの諸相』有斐閣、1993年。
- 熊野純彦『西洋哲学史 古代から中世へ』岩波新書、2006年。
- 熊野純彦『西洋哲学史 近代から現代へ』岩波新書、2006年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 哲学と倫理 (1) 古代ギリシャにおける倫理学の成立【概説】
- 3回 哲学と倫理 (2) 古代ギリシャにおける倫理学の成立【ソクラテス】
- 4回 哲学と倫理 (3) 古代ギリシャにおける倫理学の成立【プラトン】
- 5回 哲学と倫理 (4) 古代ギリシャにおける倫理学の成立【アリストテレス】
- 6回 哲学と倫理 (5) 古代ギリシャにおける倫理学の成立【ヘレニズム期】
- 7回 宗教と倫理 (1) ユダヤ-キリスト教の倫理【古代イスラエルの宗教】
- 8回 宗教と倫理 (2) ユダヤ-キリスト教の倫理【ユダヤ教】
- 9回 宗教と倫理 (3) ユダヤ-キリスト教の倫理【原始キリスト教】
- 10回 宗教と倫理 (4) ユダヤ-キリスト教の倫理【キリスト教の発展】
- 11回 近代倫理学の誕生 (1) 【イギリス経験論】
- 12回 近代倫理学の誕生 (2) 【契約説】
- 13回 近代倫理学の発展 (1) 【カント】
- 14回 近代倫理学の発展 (2) 【功利主義】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み... 10% 学期末試験... 90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教養教育科目の「現代社会と倫理」とあわせて受講すれば、この分野に関する理解がいつそう深まるはずである。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教職科目という性質上、当然ながら一般的な授業よりも採点基準は厳しくなる。テストは持ち込み一切不可。最終的な成績は、日頃の学習態度と記憶力の程度によって大きく異なってくるだろう。

キーワード /Keywords

エンドユーザコンピューティング 【昼】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 国・再履英・再履中・群

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業のねらいは、エンドユーザの立場から、職場や家庭、大学等の様々な環境において必要不可欠な情報に関する技術や知識を習得し、コンピュータを利用する際の正しい判断力を身につけることです。具体的には以下のような項目を説明することができるようになります：

- 情報社会におけるエンドユーザの役割
- Webページの作成元や信頼度
- インターネットを用いた情報収集、情報発信についての基礎的な知識

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『エンドユーザのための情報基礎』 (浅羽 修丈他著) FOM出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 エンドユーザコンピューティングを学ぶために【エンドユーザ】
- 2回 コンピュータ内部のデータ表現【2進数】【ビット・バイト】【文字コード】
- 3回 ハードウェア【CPU】【メモリ】【ハードディスク】【フラグメンテーション】
- 4回 ソフトウェア【OS】【拡張子】
- 5回 ネットワークの仕組み【サーバ】【LAN】【IPアドレス】【ドメイン名】
- 6回 情報システムの利用者としての心得(1)【PDCA】【パスワード】【リスク分析】
- 7回 情報システムの利用者としての心得(2)【検索エンジン】【フリー百科事典】【情報の引用】
- 8回 情報システムの利用者としての心得(3)【ブログ】【ソーシャルメディア】【掲示板】
- 9回 情報システムの利用者としての心得(4)【クラウドコンピューティング】【スマートフォン】【データベース】
- 10回 情報システムの利用者としての心得・まとめ
- 11回 情報セキュリティ対策(1)【コンピュータウイルス】【Windows Update】
- 12回 情報セキュリティ対策(2)【スパイウェア】【ファイアウォール】
- 13回 情報セキュリティ対策(3)【SSL】【クッキー】
- 14回 情報セキュリティ対策・まとめ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 75%
日常の授業への取り組み ... 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

受講生の理解や授業進度に応じて、授業計画が変更になる可能性があります。変更がある場合は、授業中にお伝えします。ただし、授業内容を大幅に変更することはありません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

情報分野の専門用語を数多く学習していきます。あまり興味のない人にとっては、慣れない専門用語がたくさんあるかもしれません。授業中の説明を1度聞いただけで理解できると考えずに、毎回、しっかりと復習をしてください。そして、わからない事があれば、授業中に質問してください。

キーワード /Keywords

エンドユーザ、情報セキュリティ、ソーシャルメディア

エンドユーザコンピューティング 【昼】

担当者名 /Instructor 光藤 雄一 / Yuichi Mitsudo / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英・中・再履国 /Class 群

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業のねらいは、エンドユーザの立場から、職場や家庭、大学等の様々な環境において必要不可欠な情報に関する技術や知識を習得し、コンピュータを利用する際の正しい判断力を身につけることです。具体的には以下のような項目を説明することができるようになります：

- 情報社会におけるエンドユーザの役割
- Webページの作成元や信頼度
- インターネットを用いた情報収集、情報発信についての基礎的な知識

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『エンドユーザのための情報基礎』 (浅羽 修丈他著) FOM出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 エンドユーザコンピューティングを学ぶために【エンドユーザ】
- 2回 コンピュータ内部のデータ表現【2進数】【ビット・バイト】【文字コード】
- 3回 ハードウェア【CPU】【メモリ】【ハードディスク】【フラグメンテーション】
- 4回 ソフトウェア【OS】【拡張子】
- 5回 ネットワークの仕組み【サーバ】【LAN】【IPアドレス】【ドメイン名】
- 6回 情報システムの利用者としての心得(1)【PDCA】【パスワード】【リスク分析】
- 7回 情報システムの利用者としての心得(2)【検索エンジン】【フリー百科事典】【情報の引用】
- 8回 情報システムの利用者としての心得(3)【ブログ】【ソーシャルメディア】【掲示板】
- 9回 情報システムの利用者としての心得(4)【クラウドコンピューティング】【スマートフォン】【データベース】
- 10回 情報システムの利用者としての心得・まとめ
- 11回 情報セキュリティ対策(1)【コンピュータウイルス】【Windows Update】
- 12回 情報セキュリティ対策(2)【スパイウェア】【ファイアウォール】
- 13回 情報セキュリティ対策(3)【SSL】【クッキー】
- 14回 情報セキュリティ対策・まとめ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 75%
日常の授業への取り組み ... 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

受講生の理解や授業進度に応じて、授業計画が変更になる可能性があります。変更がある場合は、授業中にお伝えします。ただし、授業内容を大幅に変更することはありません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

情報分野の専門用語を数多く学習していきます。あまり興味のない人にとっては、慣れない専門用語がたくさんあるかもしれません。授業中の説明を1度聞いただけで理解できると考えずに、毎回、しっかりと復習をしてください。そして、わからない事があれば、授業中に質問してください。

キーワード /Keywords

エンドユーザ、情報セキュリティ、ソーシャルメディア

データ処理【昼】

担当者名 /Instructor 山田 寛 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英1 - C . 英1 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要です。この授業では、みなさんがコンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習します。具体的には以下のよう項目を身につけることができます：

- タイピングの基礎を習得することができます。
- 表計算ソフトを使ったデータ処理、グラフ作成の基礎を習得することができます。
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎を習得することができます。
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎を習得することができます。

教科書 /Textbooks

「情報利活用 表計算」日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境を知る【ID】【パスワード】【グループウェア】
- 2回 文字入力を正確に行う【タイピング】
- 3回 ネットワークコミュニケーションの技法を知る【電子メール】【SSL通信】
- 4回 ネットワークの光と影を知る【情報倫理】【著作権】【個人情報保護】
- 5回 きれいな表を作る【セル】【シート】【書式】【ページ設定】【印刷プレビュー】
- 6回 計算式を作る【セルの参照】【コピー】【ペースト】
- 7回 いろいろなグラフを作る【グラフ】
- 8回 グラフをカスタマイズする【グラフ編集】
- 9回 基本的な関数を利用する【関数】【引数】
- 10回 さまざまな関数を利用する【関数の挿入】
- 11回 表計算演習1【表・グラフ作成】
- 12回 表計算演習2【条件分岐】【ソート】
- 13回 表計算演習3【表の参照】
- 14回 総合課題に取り組む
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50% ,
積極的な授業参加 (タイピング , 電子メール送受信 , 情報倫理の理解等を含む) ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

コンピュータの基本的な操作 (キーボードで文字を入力する , マウス操作など) ができるようになっておく受講しやすくなります。

履修上の注意 /Remarks

授業の進度、情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」に記入した内容の順番が入れ替わることがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

コンピュータの操作が基本になるので、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切です。

キーワード /Keywords

表計算ソフト タイピング 電子メール 情報倫理

データ処理【昼】

担当者名 /Instructor 浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 講義 クラス 英1 - A . 英1 - B . 再履国

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要です。この授業では、みなさんがコンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習します。具体的には以下の様な項目を身につけることができます：

- タイピングの基礎を習得することができます。
- 表計算ソフトを使ったデータ処理、グラフ作成の基礎を習得することができます。
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎を習得することができます。
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎を習得することができます。

教科書 /Textbooks

「情報利活用 表計算」日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境を知る【ID】【パスワード】【グループウェア】
- 2回 文字入力を正確に行う【タイピング】
- 3回 ネットワークコミュニケーションの技法を知る【電子メール】【SSL通信】
- 4回 ネットワークの光と影を知る【情報倫理】【著作権】【個人情報保護】
- 5回 きれいな表を作る【セル】【シート】【書式】【ページ設定】【印刷プレビュー】
- 6回 計算式を作る【セルの参照】【コピー】【ペースト】
- 7回 いろいろなグラフを作る【グラフ】
- 8回 グラフをカスタマイズする【グラフ編集】
- 9回 基本的な関数を利用する【関数】【引数】
- 10回 さまざまな関数を利用する【関数の挿入】
- 11回 表計算演習1【表・グラフ作成】
- 12回 表計算演習2【条件分岐】【ソート】
- 13回 表計算演習3【表の参照】
- 14回 総合課題に取り組む
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50% ,
積極的な授業参加 (タイピング , 電子メール送受信 , 情報倫理の理解等を含む) ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

コンピュータの基本的な操作 (キーボードで文字を入力する , マウス操作など) ができるようになっておく受講しやすくなります。

履修上の注意 /Remarks

授業の進度、情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」に記入した内容の順番が入れ替わることがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

コンピュータの操作が基本になるので、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切です。

キーワード /Keywords

表計算ソフト タイピング 電子メール 情報倫理

データ処理【昼】

担当者名 /Instructor 浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 講義 クラス 国 1 - 1 . 国 1 - 2 . 再履英

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要です。この授業では、みなさんがコンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習します。具体的には以下のよう
な項目を身につけることができます：

- タイピングの基礎を習得することができます。
- 表計算ソフトを使ったデータ処理、グラフ作成の基礎を習得することができます。
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎を習得することができます。
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎を習得することができます。

教科書 /Textbooks

「情報利活用 表計算」日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境を知る【ID】【パスワード】【グループウェア】
- 2回 文字入力を正確に行う【タイピング】
- 3回 ネットワークコミュニケーションの技法を知る【電子メール】【SSL通信】
- 4回 ネットワークの光と影を知る【情報倫理】【著作権】【個人情報保護】
- 5回 きれいな表を作る【セル】【シート】【書式】【ページ設定】【印刷プレビュー】
- 6回 計算式を作る【セルの参照】【コピー】【ペースト】
- 7回 いろいろなグラフを作る【グラフ】
- 8回 グラフをカスタマイズする【グラフ編集】
- 9回 基本的な関数を利用する【関数】【引数】
- 10回 さまざまな関数を利用する【関数の挿入】
- 11回 表計算演習1【表・グラフ作成】
- 12回 表計算演習2【条件分岐】【ソート】
- 13回 表計算演習3【表の参照】
- 14回 総合課題に取り組む
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50% ,
積極的な授業参加 (タイピング , 電子メール送受信 , 情報倫理の理解等を含む) ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

コンピュータの基本的な操作 (キーボードで文字を入力する , マウス操作など) ができるようになっておく受講しやすくなります。

履修上の注意 /Remarks

授業の進度、情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」に記入した内容の順番が入れ替わることがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

コンピュータの操作が基本になるので、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切です。

キーワード /Keywords

表計算ソフト タイピング 電子メール 情報倫理

情報表現【昼】

担当者名
/Instructor

中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 2年次
/Year

単位 2単位
/Credits

学期 1学期
/Semester

授業形態 講義
/Class Format

クラス 2年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
						○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、HTMLを使ったWebページ作成やプレゼンテーションなどに関する技術を学びます。その過程を通じて、情報収集の基本的な方法、情報の信頼性の吟味、著作権に関する事項、効果的な情報発信手法なども学ぶことができます。具体的には、以下のような項目を身に付けることができます。

- HTMLを用いた文書構造（タイトル、セクション、段落など）の指定や、CSSを利用した文字飾り、背景色などのWebデザイン、画像・ハイパーリンクなどを用いたWebページ作成の技術
- プレゼンテーションソフトを使った効果的なプレゼンテーション
- 発表のテーマ選定から情報収集、情報の信頼性の吟味、情報の加工から発信までの一連の流れ

教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コンピュータを用いた情報表現
- 2回 HTMLによるWebページ作成方法
- 3回 Webページの構成
- 4回 Webページのデザイン
- 5回 デジタル時代の著作権
- 6回 Webページ作成実習1 (テーマ選定, 情報収集)
- 7回 Webページ作成実習2 (情報加工, 情報発信)
- 8回 プレゼンテーション作成技術
- 9回 プレゼンテーション作成演習
- 10回 グループによるスライド作成実習1 (発表のストーリー性)
- 11回 グループによるスライド作成実習2 (情報の共有化)
- 12回 発表の技術
- 13回 グループによる発表
- 14回 グループによる発表と相互評価
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題... 90% , 積極的な授業参加 ... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「データ処理」や「エンドユーザコンピューティング」を受講していると、この授業の理解が深まります。また、コンピュータの操作にある程度慣れておくと受講しやすくなります。

履修上の注意 /Remarks

教室のパソコン台数に制限がありますので、履修希望者数が多数の場合は受講者数調整を実施します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

難しく感じたり、よく分からない内容が出てきた場合は、早目に質問して、解決するようにしてください。また、この授業ではグループによる協同学習を導入しています。グループのメンバーでお互いに協力して学習課題を進めるよう心がけてください。

キーワード /Keywords

HTML, プレゼンテーション, マルチメディア

情報表現【昼】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、HTMLを使ったWebページ作成やプレゼンテーションなどに関する技術を学びます。その過程を通じて、情報収集の基本的な方法、情報の信頼性の吟味、著作権に関する事項、効果的な情報発信手法なども学ぶことができます。具体的には、以下のような項目を身に付けることができます。

- HTMLを用いた文書構造（タイトル、セクション、段落など）の指定や、CSSを利用した文字飾り、背景色などのWebデザイン、画像・ハイパーリンクなどを用いたWebページ作成の技術
- プレゼンテーションソフトを使った効果的なプレゼンテーション
- 発表のテーマ選定から情報収集、情報の信頼性の吟味、情報の加工から発信までの一連の流れ

教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コンピュータを用いた情報表現
- 2回 HTMLによるWebページ作成方法
- 3回 Webページの構成
- 4回 Webページのデザイン
- 5回 デジタル時代の著作権
- 6回 Webページ作成実習1 (テーマ選定, 情報収集)
- 7回 Webページ作成実習2 (情報加工, 情報発信)
- 8回 プレゼンテーション作成技術
- 9回 プレゼンテーション作成演習
- 10回 グループによるスライド作成実習1 (発表のストーリー性)
- 11回 グループによるスライド作成実習2 (情報の共有化)
- 12回 発表の技術
- 13回 グループによる発表
- 14回 グループによる発表と相互評価
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題... 90% , 積極的な授業参加 ... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「データ処理」や「エンドユーザコンピューティング」を受講していると、この授業の理解が深まります。また、コンピュータの操作にある程度慣れておくと受講しやすくなります。

履修上の注意 /Remarks

教室のパソコン台数に制限がありますので、履修希望者数が多数の場合は受講者数調整を実施します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

難しく感じたり、よく分からない内容が出てきた場合は、早目に質問して、解決するようにしてください。また、この授業ではグループによる協同学習を導入しています。グループのメンバーでお互いに協力して学習課題を進めるよう心がけてください。

キーワード /Keywords

HTML, プレゼンテーション, マルチメディア

プログラミング基礎 【昼】

担当者名 /Instructor 浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

みなさんが利用しているコンピュータの中のソフトウェアは、すべてどこかの誰かが作成したプログラムによって出来ています。この授業では、「データ処理」で学習した表計算ソフトの高度な利用方法を学習し、コンピュータを思い通りに動かすプログラムを自分で作れるようになることを目指します。自分でプログラムを作成できるようになると、より賢くコンピュータを利用できるようになり、世界が広がります。

コンピュータプログラムは、機械が理解できる言葉（プログラミング言語）で書く必要があります。そのため、プログラムの学習は言葉の学習に似ています。この授業で使用するプログラミング言語はVBA（Visual Basic for Application）です。この言語は、表計算ソフトExcelに付属しており、Excelが利用できる環境であればVBAが利用できるようになっています。

この授業は、パソコンを利用して授業を行います。具体的には以下のような項目を身につけることができます：

- 表計算ソフトにおいて、マクロを利用して同じ手順を自動的に処理できるようになります。
- 現在のコンピュータが行っている情報処理の流れを理解し、論理的な思考ができるようになります。
- プログラミングの基本を知り、プログラムを自分で作成できるようになります。

教科書 /Textbooks

特に指定はしません。必要資料は配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 プログラミングとは何か 1【VBA】、【マクロ】
- 2回 プログラミングとは何か 2【フローチャート】
- 3回 プログラミングとは何か 3【構造化プログラミング】
- 4回 VBAの基本構文【Visual Basic Editor】、【Sub】、【デバッグ】
- 5回 VBAを用いた表作成【Borders】、【幅と高さ設定】、【線種設定】、【色設定】
- 6回 メッセージボックスとインプットボックス【MsgBox】、【InputBox】
- 7回 シートとセルの操作【Worksheets】、【Cells】
- 8回 変数【変数のデータ型】、【変数の宣言】、【演算】、【式】
- 9回 プログラムの構造 1：条件分岐構造【if 文】
- 10回 プログラムの構造 2：多重の条件分岐構造【if 文のネスト】
- 11回 プログラムの構造 3：ループ構造 1【for 文】
- 12回 プログラムの構造 4：ループ構造 2【while 文】
- 13回 プログラムの構造 5：多方向分岐構造【select 文】
- 14回 フォームの作成【フォーム】、【ボタン】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50%、積極的な授業参加... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「データ処理」や「エンドユーザコンピューティング」を既に受講した場合は、本授業の理解がより深くなります。また、コンピュータの操作（タイピング等）をある程度経験しておくとう受講しやすくなります。

履修上の注意 /Remarks

情報処理教室のコンピュータ台数に制限があるため、受講者数調整を行うことがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プログラミング初心者にも分かるように、基本的な内容から解説します。

キーワード /Keywords

プログラミング、VBA、マクロ、フローチャート、GUI

プログラミング基礎 【昼】

担当者名 /Instructor 浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

みなさんが利用しているコンピュータの中のソフトウェアは、すべてどこかの誰かが作成したプログラムによって出来ています。この授業では、「データ処理」で学習した表計算ソフトの高度な利用方法を学習し、コンピュータを思い通りに動かすプログラムを自分で作れるようになることを目指します。自分でプログラムを作成できるようになると、より賢くコンピュータを利用できるようになり、世界が広がります。

コンピュータプログラムは、機械が理解できる言葉（プログラミング言語）で書く必要があります。そのため、プログラムの学習は言葉の学習に似ています。この授業で使用するプログラミング言語はVBA（Visual Basic for Application）です。この言語は、表計算ソフトExcelに付属しており、Excelが利用できる環境であればVBAが利用できるようになっています。

この授業は、パソコンを利用して授業を行います。具体的には以下のような項目を身につけることができます：

- 表計算ソフトにおいて、マクロを利用して同じ手順を自動的に処理できるようになります。
- 現在のコンピュータが行っている情報処理の流れを理解し、論理的な思考ができるようになります。
- プログラミングの基本を知り、プログラムを自分で作成できるようになります。

教科書 /Textbooks

特に指定はしません。必要資料は配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 プログラミングとは何か 1【VBA】、【マクロ】
- 2回 プログラミングとは何か 2【フローチャート】
- 3回 プログラミングとは何か 3【構造化プログラミング】
- 4回 VBAの基本構文【Visual Basic Editor】、【Sub】、【デバッグ】
- 5回 VBAを用いた表作成【Borders】、【幅と高さ設定】、【線種設定】、【色設定】
- 6回 メッセージボックスとインプットボックス【MsgBox】、【InputBox】
- 7回 シートとセルの操作【Worksheets】、【Cells】
- 8回 変数【変数のデータ型】、【変数の宣言】、【演算】、【式】
- 9回 プログラムの構造 1：条件分岐構造【if 文】
- 10回 プログラムの構造 2：多重の条件分岐構造【if 文のネスト】
- 11回 プログラムの構造 3：ループ構造 1【for 文】
- 12回 プログラムの構造 4：ループ構造 2【while 文】
- 13回 プログラムの構造 5：多方向分岐構造【select 文】
- 14回 フォームの作成【フォーム】、【ボタン】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50%、積極的な授業参加... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「データ処理」や「エンドユーザコンピューティング」を既に受講した場合は、本授業の理解がより深くなります。また、コンピュータの操作（タイピング等）をある程度経験しておくとう受講しやすくなります。

履修上の注意 /Remarks

情報処理教室のコンピュータ台数に制限があるため、受講者数調整を行うことがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プログラミング初心者にも分かるように、基本的な内容から解説します。

キーワード /Keywords

プログラミング、VBA、マクロ、フローチャート、GUI

英語I【昼】

担当者名 /Instructor 石田 由希 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英1 - A /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEICの出題パターンに慣れるだけでなく、効率的な取り組み方と出題傾向を学び、スコアアップを目指す。また、洋書の抜粋や映像作品を併用し、物語を楽しみながら、ポキャブラリーの強化を目指す。

教科書 /Textbooks

Seize the Essence of the TOEIC Test 「TOEICテストのエッセンスを学ぶ」 安丸雅子 / 八尋真由実 他著 金星堂 \1995

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義概要・ガイダンス (初回のみプリント教材を使用)
- 2回 Unit1 Daily Life [名詞・主語と動詞の一致]
- 3回 Unit1 Daily Life [名詞・主語と動詞の一致]
- 4回 Unit2 Eating Out & Amusement [形容詞・副詞]
- 5回 Unit2 Eating Out & Amusement [形容詞・副詞]
- 6回 Unit3 Cooking & Purchasing [基本時制]
- 7回 Unit3 Cooking & Purchasing [基本時制]
- 8回 Unit4 Traffic & Travel [進行形・完了形]
- 9回 Unit4 Traffic & Travel [進行形・完了形]
- 10回 Unit5 Production & Logistics [受動態]
- 11回 Unit5 Production & Logistics [受動態]
- 12回 Review Test 1 (Unit1 ~ 6)
- 13回 Unit6 Business & Economics [分詞・分詞構文]
- 14回 Unit6 Business & Economics [分詞・分詞構文]
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストによる平常点と筆記試験に、出席状況・学習態度・TOEICテストの結果を加味して総合的に評価する(平常点と試験点の比率は、授業中に告知する)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

単語テストを実施するので、各自勉強して準備しておくこと。
授業には辞書を持つてのぞむこと(携帯電話の辞書は不可)。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 渡邊 嘉則 / WATANABE YOSHINORI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEIC受験を前提にした、英語リスニングとリーディングの能力を伸ばすことをテーマとする。

教科書 /Textbooks

Practical Situations for the TOEIC® Test Listening (成美堂)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

英辞郎 (アルク)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 Unit 1, 2
- 3回 Unit 3, 4
- 4回 Unit 5, 6
- 5回 まとめ(1)
- 6回 Unit 7, 8
- 7回 Unit 9, 10
- 8回 Unit 11, 12
- 9回 まとめ(2)
- 10回 Unit 13, 14
- 11回 Unit 15, 16
- 12回 まとめ(3)
- 13回 Unit 17, 18
- 14回 Unit 19, 20
- 15回 まとめ(4)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 30% 課題・小テスト ... 30% 期末試験 ... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎週、指示する予習・復習をして、授業に出席してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I【昼】

担当者名 /Instructor 杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEICの演習問題を通して英語聴解能力を訓練し、またエッセイや英字新聞の記事を読み解きながら文法能力と英語読解力の伸長を目指すことを目的とする。

教科書 /Textbooks

リスニング教材：生協の教科書リストに指定するので確認されたい。
リーディング教材：生協の教科書リストに指定するので確認されたい。
その他、適宜プリントを用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 リスニング プレテスト、リーディング ユニット1
- 3回 リスニング ユニット1、リーディング ユニット2
- 4回 リスニング ユニット2、リーディング ユニット3
- 5回 リスニング ユニット3、リーディング ユニット4
- 6回 リスニング ユニット4、リーディング ユニット5
- 7回 リスニング ユニット5、リーディング ユニット6
- 8回 リスニング ユニット6、リーディング ユニット7
- 9回 リスニング ユニット7、リーディング ユニット8
- 10回 リスニング ユニット8、リーディング ユニット9
- 11回 リスニング ユニット9、リーディング ユニット10
- 12回 リスニング ユニット10、リーディング ユニット11
- 13回 リスニング ユニット11、リーディング ユニット12
- 14回 リスニング ユニット12、リーディング まとめ
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・小テスト 80% 授業への貢献 20%
欠席が授業実施回数の3分の1を超えた場合、不合格になることがあります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎授業、指定された作業とリーディング教材の予習を必ず行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I【昼】

担当者名 /Instructor 酒井 秀子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英1 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEICの出題パターンに慣れるだけでなく、効率的な取り組み方と出題傾向を学び、スコアアップを目指す。

教科書 /Textbooks

Seize the Essence of the TOEIC Test 「TOEICテストのエッセンスを学ぶ」
 安丸雅子 / 八尋真由実 他著 金星堂 ¥1,995

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Unit 1 Daily Life [名詞・主語と動詞の一致]
- 2回 Unit 2 Eating Out & Amusement [形容詞・副詞]
- 3回 Unit 3 Cooking & Purchasing [基本時制]
- 4回 Unit 4 Traffic & Travel [進行形・完了形]
- 5回 Unit 5 Production & Logistics [受動態]
- 6回 Unit 6 Business & Economics [分詞・分詞構文]
- 7回 Review Test 1
- 8回 Unit 7 Advertising & ICT [不定詞・動名詞]
- 9回 Unit 8 Health & the Environment [助動詞]
- 10回 Unit 9 Law & Administration [代名詞・関係詞]
- 11回 Unit 10 Employment & Personnel [比較構文]
- 12回 Unit 11 Finance & Banking [前置詞]
- 13回 Unit 12 Office Work & Correspondence [その他の構文]
- 14回 Review Test 2
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

筆記試験(60%)、小テスト(30%)、課題や学習態度(10%)に、出席状況やTOEICテストのスコアを加味して総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

単語テスト、復習テストなど、毎回小テストを実施するので、各自勉強をして備えておくこと。また、学期中にTOEICテストを受験すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II【昼】

担当者名 /Instructor 石田 由希 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英1 - A /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEICの出題パターンに慣れるだけでなく、効率的な取り組み方と出題傾向を学び、スコアアップを目指す。また、洋書、英語新聞、映像作品を併用し、ポキャブラリーの強化を目指す。

教科書 /Textbooks

Seize the Essence of the TOEIC Test 「TOEICテストのエッセンスを学ぶ」 安丸雅子 / 八尋真由実 他著 金星堂 \1995

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義概要・ガイダンス (初回のみプリント教材を使用)
- 2回 Unit7 Advertising & ICT [不定詞・動名詞]
- 3回 Unit7 Advertising & ICT [不定詞・動名詞]
- 4回 Unit8 Health & the Environment [助動詞]
- 5回 Unit8 Health & the Environment [助動詞]
- 6回 Unit9 Law & Administration [代名詞・関係詞]
- 7回 Unit9 Law & Administration [代名詞・関係詞]
- 8回 Unit10 Employment & Personnel [比較構文]
- 9回 Unit10 Employment & Personnel [比較構文]
- 10回 Unit11 Finance & Banking [前置詞]
- 11回 Unit11 Finance & Banking [前置詞]
- 12回 Review Test 2 (Unit7 ~ 12)
- 13回 Unit12 Office Work & Correspondence [その他の構文]
- 14回 Unit12 Office Work & Correspondence [その他の構文]

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストによる平常点と筆記試験に、出席状況・学習態度・TOEICテストの結果を加味して総合的に評価する(平常点と試験点の比率は、授業中に告知する)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

単語テストを実施するので、各自勉強して準備しておくこと。
授業には辞書を持ってのぞむこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II【昼】

担当者名 /Instructor 渡邊 嘉則 / WATANABE YOSHINORI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEIC受験を前提にした、英語リスニングとリーディングの能力をさらに伸ばすことをテーマとする。

教科書 /Textbooks

未定。テキストは生協の教科書販売リストを確認して、購入してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

英辞郎 (アルク)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 Unit 1
- 3回 Unit 2
- 4回 Unit 3
- 5回 Unit 4
- 6回 Unit 5
- 7回 Unit 6
- 8回 まとめ (1)
- 9回 Unit 7
- 10回 Unit 8
- 11回 Unit 9
- 12回 Unit 10
- 13回 Unit 11
- 14回 Unit 12
- 15回 まとめ (2)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 30% 課題・小テスト ... 30% 期末試験 ... 40%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎週、指示する予習・復習をして、授業に出席してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II【昼】

担当者名 /Instructor 酒井 秀子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEICの出題パターンに慣れるだけでなく、効率的な取り組み方と出題傾向を学び、スコアアップを目指す。

教科書 /Textbooks

Seize the Essence of the TOEIC Test 「TOEICテストのエッセンスを学ぶ」
安丸雅子 / 八尋真由実 他著 金星堂 ¥1,995

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Unit 1 Daily Life [名詞・主語と動詞の一致]
- 2回 Unit 2 Eating Out & Amusement [形容詞・副詞]
- 3回 Unit 3 Cooking & Purchasing [基本時制]
- 4回 Unit 4 Traffic & Travel [進行形・完了形]
- 5回 Unit 5 Production & Logistics [受動態]
- 6回 Unit 6 Business & Economics [分詞・分詞構文]
- 7回 Review Test 1
- 8回 Unit 7 Advertising & ICT [不定詞・動名詞]
- 9回 Unit 8 Health & the Environment [助動詞]
- 10回 Unit 9 Law & Administration [代名詞・関係詞]
- 11回 Unit 10 Employment & Personnel [比較構文]
- 12回 Unit 11 Finance & Banking [前置詞]
- 13回 Unit 12 Office Work & Correspondence [その他の構文]
- 14回 Review Test 2
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

筆記試験(60%)、小テスト(30%)、課題や学習態度(10%)に、出席状況やTOEICテストのスコアを加味して総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

単語テスト、小テストなど毎回テストを実施するので、各自勉強し備えておくこと。また、学期中にTOEICテストを受験すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II【昼】

担当者名 /Instructor 杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英1 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEICの演習問題を通して英語聴解能力を訓練し、またエッセイや英字新聞の記事を読み解きながら文法能力と英語読解力の伸長を目指すことを目的とする。

教科書 /Textbooks

リスニング教材：生協の教科書リストに指定するので確認されたい。
リーディング教材：生協の教科書リストに指定するので確認されたい。
その他、適宜プリントを用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 リスニング プレテスト、リーディング ユニット1
- 3回 リスニング ユニット1、リーディング ユニット2
- 4回 リスニング ユニット2、リーディング ユニット3
- 5回 リスニング ユニット3、リーディング ユニット4
- 6回 リスニング ユニット4、リーディング ユニット5
- 7回 リスニング ユニット5、リーディング ユニット6
- 8回 リスニング ユニット6、リーディング ユニット7
- 9回 リスニング ユニット7、リーディング ユニット8
- 10回 リスニング ユニット8、リーディング ユニット9
- 11回 リスニング ユニット9、リーディング ユニット10
- 12回 リスニング ユニット10、リーディング ユニット11
- 13回 リスニング ユニット11、リーディング ユニット12
- 14回 リスニング ユニット12、リーディング まとめ
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・小テスト 80% 授業への貢献 20%
欠席が授業実施回数の3分の1を超えた場合、不合格になることがあります。
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎授業、指定された作業とリーディング教材の予習を必ず行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語III 【昼】

担当者名 /Instructor アルバート・オスカー・モウ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英 1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Points of this class are English speaking, listening, reading and writing skills. The class is taught in English by a native English teacher and is designed to meet the needs of English majors in regards to English communication. The target of this course is to provide an environment that will enhance the communication skills of second language English speakers who wish to study English and communicate confidently. Student must ask questions in class. Students must be prepared to present 3 minute conversations in class and write 200 word reports as homework.

教科書 /Textbooks

World English 2A: Heinle Cengage Learning (Textbook must be brought to the first class).

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Good Dictionary: bilingual is preferable. The student will also need a memory stick.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Course Introduction. Unit 1: Compare what people usually do with what they are doing now.
- 第2回 Comparisons: Regional Foods; Traditional Dishes.
- 第3回 Video Journal: Forbidden Fruit. Unit 2: Intercultural Communication.
- 第4回 Small Talk; Breaking the Ice.
- 第5回 Video Journal: Orangutan Language. Unit 3: Describing a Place.
- 第6回 Explaining Good/Bad Points; Using Maps; Discussing an Action Plan.
- 第7回 The Future; Predicting. Video Journal: FES.
- 第8回 Unit 4: Health and Lifestyles: Comparatives, Superlatives and Equatives.
- 第9回 Suggestions and Remedies; Video Journal: The Human Body.
- 第10回 Conversation Presentations
- 第11回 Unit 5: Discussing Challenges and Accomplishments: Simple Past and Past Continuous.
- 第12回 Abilities: Phrasal Verbs. Personal Challenges. Video Journal: Megatransect Project.
- 第13回 Unit 6: Transitions and Milestones in Life.
- 第14回 Getting More Information. Personal Milestones. Video Journal: Nubian Wedding.
- 第15回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Writing Assignments 20% Planned Conversations 20% Work in Class 30% Final Exam 30%

Participation: If the student is absent four times, the student will not be allowed to take the final exam, therefore, the student will receive an incomplete.

The student must bring a hospital receipt to the next class attended if he or she is absent because of sickness.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Student must ask questions in class. Student must be prepared to present 3 minute conversations in class and write 200 word reports as homework. Student must review textbook for the next class.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor デビット・ニール・マクレラン / David Neil McClelland / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Practical English communication skills developed through regular practice. While the primary focus is on verbal interaction, students will also be given training in reading and listening for general understanding. Training for academic presentation will be provided using a variety of topics and formats.

教科書 /Textbooks

English for International Tourism (pre-intermediate): Longman

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

電子辞書を持っていくこと。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 : Orientation
- 第2回 : Timed speeches and Q&A - Introduction
- 第3回 : Unit 1 and discussion in English (Exchanging Personal Details)
- 第4回 : Unit 2 and discussion in English (Creating a Schedule)
- 第5回 : Class presentations (Original Topics)
- 第6回 : Unit 3 and discussion in English (Talking about Cuisine)
- 第7回 : Unit 4 and discussion in English (Giving a Guided Tour)
- 第8回 : Unit 5 and discussion in English (Hotels and Facilities)
- 第9回 : Class presentations (Original Topics)
- 第10回 : Unit 6 and discussion in English (Talking about Experiences)
- 第11回 : Unit 7 and discussion in English (Advice and Recommendations)
- 第12回 : Unit 8 and discussion in English (Exchanging Holiday Plans)
- 第13回 : Class presentations (Original Topics)
- 第14回 : End of semester review
- 第15回 : Consolidation

成績評価の方法 /Assessment Method

Classwork ... 30% Homework ... 20% Examination ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

担当教員の指示に従って準備してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Communication Brings Peace

キーワード /Keywords

Make friends - Communicate - Have fun

英語III 【昼】

担当者名 /Instructor ジャマール・ミラー / JAMAR MILLER / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This is an English communications course that develops the four English language skills of listening, speaking, reading, and writing. The main objective of this course is to help you improve each of these skills as presented in various different circumstances. The course aims to help students activate the English that they have learned in secondary school for oral communication as well as further develop their skills in line with the demands of purposeful communication tasks. Class time is thus spent with students: 1. Using their English actively with their classmates in pairs and small groups to complete communication tasks, and 2. listening and watching samples of proficient speakers performing the same tasks while completing activities which focus their attention on relevant aspects of the meaning and the language forms used.

教科書 /Textbooks

Advancing your English 2 by Jamar A. Miller. Lulu Press. ISBN #: 978-0-557-99919-4

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Teacher and Student self Introductions, and course review
2. Topic: Australia and it's Extra Seasons
3. Topic: South Africans Support Their Heroes
4. Topic: New Ageism Laws Let retirees Sue For Millions
5. Topic: Internet Chaos in Asia
6. Topic: Time Warner Marketing Stunt Creates Terror
7. Topic: Viagra for Valentine's Day in the U.K
8. Topic: Nike Coming Clean About Sweatshops
9. Topic: Adidas Agrees to Buy Rival Reebok
10. Topic: Ups and Downs in Copenhagen
11. Topic: Surprise Upswing in US Economy
12. Topic: Pop Star Kylie Returns to Stage in Sydney
13. Topic: David Beckham in 250-Million-Dollar LA Move
14. Topic: Hillary Clinton "in to win" US Presidency
15. Review
16. Final Speaking Exam

成績評価の方法 /Assessment Method

Speaking 35%
Writing 15%
Participation 40%
Final Speaking Exam 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

Everyone must have their own Textbook

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

No credit will be given to students who are absent 5 or more classes

キーワード /Keywords

英語III 【昼】

担当者名 /Instructor リズ・クレシーニ / Riz CRESCINI / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 英1 - D
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This is an English Communication course. Focus will be on improving the four major English skills-speaking, listening, reading and writing. Various communication activities, individual/group work, and presentations will be used in class to facilitate the acquisition of these skills. Upon completion of this course, students should have increased confidence in their ability to speak and understand English and communicate more confidently in English with those around them.

教科書 /Textbooks

Interchange Book 2 with Audio Cd (Third Edition) by Jack C. Richards (Cambridge University Press) as well as materials prepared by the instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students are encouraged to have both an English-to-Japanese and Japanese-to-English dictionary.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week One: Course Introduction
 Week Two: Unit 1 "A Time to Remember" People; childhood; memories
 Week Three: Unit 1 "A Time to Remember" Practice and wrap up
 Week Four: Unit 13 "Good Book, Terrible Movie!" Entertainment; movies and books; reactions and opinions
 Week Five: Unit 13 "Good Book, Terrible Movie!" Practice and wrap up
 Week Six: Unit 16 "What's Your Excuse?" Requests; excuses; invitations
 Week Seven: Unit 16 "What's Your Excuse?" Practice and wrap-up
 Week Eight: Midterm Review
 Week Nine: Unit 5 "Going Places" Travel; vacations; plans
 Week Ten: Unit 5 "Going Places" Practice and wrap-up
 Week Eleven: Unit 11 "It's Really Worth Seeing!" Landmarks and monuments; world knowledge
 Week Twelve: Unit 11 "It's Really Worth Seeing!" Practice and wrap-up
 Week Thirteen: Unit 4 "I've Never Heard of That!" Food; recipes; instructions; cooking methods
 Week Fourteen: Unit 8 "Let's Celebrate!" Holidays; festivals; customs; celebrations
 Week Fifteen: Final Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation - 20%
 Reports - 20%
 Quizzes and Presentations - 20%
 Final Exam - 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Students are expected to bring the following to class: 1) textbook 2) notebook 3) clear file or folder 4) electronic dictionary. In addition, READ English books to increase your vocabulary. Write down vocabulary and phrases you don't know and then try to use those words and phrases in English conversation whenever you can. WATCH English movies and LISTEN to English music in order to create your own English listening environment. Be ready to ask questions in English, speak English, write English and listen to English. Stop being over-dependent on your electronic dictionary to learn English.

履修上の注意 /Remarks

None

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

This is an English Communication class, so all students are expected to speak English as much as possible. Your instructor will do the same. The instructor will provide a fun, learning environment for the students. Thomas Jefferson once said, "Nothing can stop the man with the right mental attitude from achieving his goal; nothing on earth can help the man with the wrong mental attitude." Having the right attitude for learning English will help the student achieve the goals for this class.

キーワード /Keywords

English communication

英語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 口バート・マーフィ / Robert S. Murphy / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英 1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

英語を用いて思考を深め、相手の英語を聞き指摘する力、表現したい事柄をテーマに沿って英語で流暢に表現できるようになること、外国語コミュニケーション能力の向上をねらいとする。

教科書 /Textbooks

Optimal Levels! Philosophy Flavor Book 1
Optimal Levels! Project Book

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 Introduction / Writing
- 第 2 回 Love-Introductions
- 第 3 回 Love-Building Skills
- 第 4 回 Love-Essay composition
- 第 5 回 Presentation
- 第 6 回 Justice-Introduction
- 第 7 回 Justice-Building Skills
- 第 8 回 Justice-Essay composition
- 第 9 回 Presentation
- 第10回 Humanity-Introduction
- 第11回 Humanity-Building Skills
- 第12回 Humanity-Essay Composition
- 第13回 Presentation
- 第14回 Test Practice / Composition
- 第15回 Test

成績評価の方法 /Assessment Method

プレゼンテーション 各20% (計3回) 試験(essay) 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストブックはModule 3 までしか使用しませんが、Module 4~6は休講期間等を利用して各自完成させておいてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分の語りたいことを英語で語れるようになる、楽しいクラスです。アイデアをたくさん出して、自由に表現できるようになりましょう。文法の用法や単語、表現の方法など講義中の質問は大歓迎です。

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor デビット・ニール・マクレラン / David Neil McClelland / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Practical English communication skills developed through regular practice. While the primary focus is on verbal interaction, students will also be given training in reading and listening for general understanding. Training for academic presentation will be provided using a variety of topics and formats.

教科書 /Textbooks

English for International Tourism (pre-intermediate): Longman

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

電子辞書を持ってくること。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 : Timed speeches and Q&A
- 第2回 : Unit 8 and discussion in English (review)
- 第3回 : Unit 9 focus on listening (Training Routines)
- 第4回 : Unit 9 focus on speaking (Taking an Order)
- 第5回 : Class presentations (Original Topics)
- 第6回 : Unit 10 and discussion in English (Responding to an Enquiry)
- 第7回 : Unit 11 focus on listening (Changing a Booking)
- 第8回 : Unit 11 focus on speaking (Exchanging Information on Excursions)
- 第9回 : Class presentations (Original Topics)
- 第10回 : Unit 12 and discussion in English (Plan an Entertainment Program)
- 第11回 : Unit 13 and discussion in English (Ecotourism - Planning a Trip)
- 第12回 : Unit 14 and discussion in English (Upselling at Reception)
- 第13回 : Unit 15 and discussion in English (Giving Local Information)
- 第14回 : Class presentations (Original Topics)
- 第15回 : Consolidation

成績評価の方法 /Assessment Method

Classwork ... 30% Homework ... 20% Examination ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

担当教員の指示に従って準備してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Communication Brings Peace

キーワード /Keywords

Make friends - Communicate - Have fun

英語Ⅳ【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者名 /Instructor
ダンカン・ウォトリイ / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance

2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
						○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The course should help you communicate in English. Each class aims to provide an atmosphere where you can activate and exchange the knowledge of English you have already built up after several years of study. Activities such as listening, reading, writing, presenting ideas and doing special individual or pair-work projects will be used. In addition, all students will keep an English diary which should help them express their experiences and personalize their English development.

教科書 /Textbooks

Summit 1, Joan Saslow, Allen Ascher, Pearson-Longman

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week One Introduction
Week Two New Perspectives
Week Three Music
Week Four Money
Week Five Looking Good (1) Impressions - Listening and Speaking Focus
Week Six Looking Good (2) Perspectives - Writing and Reading Focus
Week Seven Community
Week Eight Animals (1) Pets - Listening and Speaking Focus
Week Nine Animals (2) Wild Animals and the Environment - Writing and Reading Focus
Week Ten Advertising
Week Eleven Consumers
Week Twelve Family Trends
Week Thirteen History
Week Fourteen Your Free Time
Week Fifteen Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Diary 15%
Class Participation 15%
Group Presentation 10%
Special Projects 20%
Final Test 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Review and Reading, Diary

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語IV 【昼】

担当者名 /Instructor リズ・クレシーニ / Riz CRESCINI / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英 1 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This is an English Communication course. This course will build on the speaking, listening, reading and writing skills achieved in the previous semester course. Various communication activities, individual/group work, and presentations will be used in class to facilitate the acquisition of these skills.

教科書 /Textbooks

Interchange Book 2 with Audio CD (Third Edition) by Jack C. Richards (Cambridge University Press) as well as materials prepared by the instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students are encouraged to have both an English-to-Japanese and Japanese-to-English dictionary.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week One: Course Introduction and Review
 Week Two: Unit 3 "Time for a Change!" Houses and apartments; lifestyle changes; wishes
 Week Three: Unit 3 "Time for a Change!" Practice and wrap up
 Week Four: Unit 6 "OK. No Problem!" Complaints; household chores; requests; excuses; apologies
 Week Five: Unit 6 "OK. No Problem!" Practice and wrap up
 Week Six: Unit 7 "What's This For?" Technology; instructions
 Week Seven: Unit 7 "What's This For?" Practice and wrap up
 Week Eight: Midterm Review
 Week Nine: Unit 9 "Back to the Future" Life in the past, present, and future; changes and contrasts; consequences
 Week Ten: Unit 9 "Back to the Future" Practice and wrap up
 Week Eleven: Unit 15 "What Would You Do?" Money; hopes; predicaments; speculations
 Week Twelve: Unit 15 "What Would You Do?" Practice and wrap up
 Week Thirteen: Unit 10 "I Don't Like Workin on Weekends!" Abilities and skills; job preferences; personality traits; careers
 Week Fourteen: Unit 10 "I Don't Like Workin on Weekends!" Practice and wrap up
 Week Fifteen: Final Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation - 20%
 Reports - 20%
 Quizzes and Presentations - 20%
 Final Review - 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Students are expected to bring the following to class: 1) textbook 2) notebook 3) clear file or folder 4) electronic dictionary. In addition, READ English books to increase your vocabulary. Write down vocabulary and phrases you don't know and then try to use those words and phrases in English conversation whenever you can. WATCH English movies and LISTEN to English music in order to create your own English listening environment. Be ready to ask questions in English, speak English, write English and listen to English. Stop being over-dependent on your electronic dictionary to learn English.

履修上の注意 /Remarks

None

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

This is an English Communication class, so all students are expected to speak English as much as possible. Your instructor will do the same. The instructor will provide a fun, learning environment for the students. Thomas Jefferson once said, "Nothing can stop the man with the right mental attitude from achieving his goal; nothing on earth can help the man with the wrong mental attitude." Having the right attitude for learning English will help the student achieve the goals for this class.

キーワード /Keywords

English communication

担当者名 /Instructor 相原 信彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英2 - A /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description
Japan Times 或いは Daily Yomiuri の Editorial (社説) を使い、最近の出来事を英語で簡潔に表現できるようにする。社説の性格上、取り扱う問題は多岐にわたっていると思われるが、英語を学習しながら、大学生として社会問題にも関心を持ってほしい。

教科書 /Textbooks
特になし。授業ごとに Japan Times / Daily Yomiuri の社説をプリントして渡す。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
新聞は、限られたスペースで多くの情報を提供するという性格があるため、或る種独特の英語が用いられている個所がある。その典型的な例として、分詞構文などがある。こうした英語を「普通」の英語に直す作業も行いながら、さらに、大学入試とは関係が薄い語彙を身につけることによって、より身近な問題を表現する能力が増してくるものだと考えている。授業はそのことを主たる目標として行いたい。

成績評価の方法 /Assessment Method
平常点 30%
定期試験 70%
最終評価には TOEIC スコア が反映されます。反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
翌週取り上げる記事は前もってプリントの形で渡すので、予習は十二分に行い、授業に臨むこと。ただし、予習のやり方としては、単語の意味を調べるだけでなく、英文を身につけるために、記事は必ず音読してくること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 吉川 哲郎 / KIKKAWA TETSUROU / 英米学科

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 英2 - B
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEIC受験を自明のこととして、英語のリスニング力とリーディング力を強化することがこの授業のねらいです。映画を教材として、ナチュラルな英語のリスニング力を伸ばし、迅速に内容把握ができるように努めます。

教科書 /Textbooks

プリントを使用します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 ユニット1
- 3回 ユニット2
- 4回 ユニット3
- 5回 ユニット4
- 6回 ユニット5
- 7回 ユニット6
- 8回 ユニット7
- 9回 ユニット8
- 10回 ユニット9
- 11回 ユニット10
- 12回 ユニット11
- 13回 ユニット12
- 14回 ユニット13
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表内容・・・20% 期末試験・・・80%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず予習をしてください。

履修上の注意 /Remarks

欠席の扱いは、大学の規定通りとします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

リスニング力とリーディング力をつけるように頑張ってください。

キーワード /Keywords

【リスニング力】 【リーディング力】

英語V【昼】

担当者名 /Instructor 北峯 裕士 / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英2 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

英文を読む

教科書 /Textbooks

The Half-Edition of English through the News Media 2011 朝日出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス
- 2 読書はネットで
- 3 ヨーロッパで「マンガ」大ブーム
- 4 黒人が白人か？
- 5 日本、パラグアイにPK負け
- 6 マグロ取引と象牙取引
- 7 イスラム教徒に生まれて
- 8 よーろっぱの金融危機
- 9 英国自民党、保守党との連立を考慮
- 10 あのドバイが地域経済の足を引っ張る？
- 11 メコン川流域 水不足と相互不信
- 12 イスラエルはどこもロシアだらけ
- 13 ツイッターの普及で大統領の人気急落
- 14 まとめ1
- 15 まとめ2

成績評価の方法 /Assessment Method

試験50パーセント、発表50パーセント。
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習をしてくること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語V【昼】

担当者名 /Instructor 野島 啓一 /nojima keiichi / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英2 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEIC試験の問題（主としてリーディング）を実際に解くことを第一の目標にして、第二の目標として以後の自主学習の一助として①「アクセス」または「エクセル」を利用したデータベース型のvocabulary-buildingの設計の方法と利用の仕方②英文法の学習項目の体系的利用方法③リスニングに必要な「音の文法」と英文法との関連づけを学ぶ。

教科書 /Textbooks

『TOEIC TEST:DOWN TO BuSINESS』 本田吉彦・狩野紀子・本橋朋子 南雲堂 ¥2,100
適宜プリントの配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 一回 概要説明と授業方針
- 二回 第一章 (Personnel・冠詞)
- 三回 第二章 (Payroll Insurance・句と節)
- 四回 第三章 (Office Routine・動詞と五文型)
- 五回 第四章 (Conference Meeting・現在時制と未来時制)
- 六回 第五章 (Presentation・現在完了時制)
- 七回 第六章 (Management・形容詞・副詞)
- 八回 第七章 (Sales・能動態と受動態)
- 九回 第八章 (Manufacture・分詞構文)
- 十回 第九章 (Foreign Currency・後置修飾)
- 十一回 第十章 (Advertisement・関係代名詞・関係副詞)
- 十二回 第十一章 (Accounting・仮定法)
- 十三回 第十二章 (Job Hunting・その他)
- 十五回 まとめと要約

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト (10点×三回) + 単語帳作成ファイル (20点) + 試験 (50点)
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「英文法I」「英文法II」を履修しておくことが望ましい。情報教育関連の科目を履修しておくことよい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 北峯 裕士 / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英2 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

英文を読む。

教科書 /Textbooks

プリント配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞書。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目 ガイダンス
- 1回目～14回目 範囲を割り当てて英文の輪読及び要約発表。
- 15回目 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験50パーセント、発表50パーセント。
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 松田 智 / Matsuda, Satoshi / 英米学科

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 英2 - B
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

国際ビジネス、経済関係の英文記事を読みこなすことによって、英文を読みながら、経営、経済についての知識、概念を身につけること。

履修登録者の特徴を見て、ミクロ・マクロ経済学の基礎を必要に応じて講義しますので、経済学を学んだことのない学生にも工夫をして英文を読めるように配慮する。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。Financial Times, The Economist, Times, Newsweek, Business Week などから、できるだけ最近の国際ビジネス、経済関係の記事を取り上げる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

英和辞典、英次郎、英英辞典、文法書など

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Session 1: class orientation

Session 2: ビジネス関係の英文に慣れる : 文章自体は易しく、ビジネス・経済の専門用語を含む英文を読む。

Session 3: 同上。

Session 4: 同上。

Session 5: 同上。

Session 6: 同上。

Session 7: ややレベルの高い英文を読む。 : 内容を把握できるように丁寧に解説する。英語の専門用語を増や していく。

Session 8: 同上。

Session 9: 同上。

Session10: 同上。

Session 11: 同上。

Session 12: さらにレベルの高い英文を読む。 : 英文の内容、背景についても丁寧に説明する。

Session 13: 同上。

Session 14: 同上。

Session 15: 同上。

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation: 30 Midterm quiz:30 Final examination : 40

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日本の新聞を読み直近の話題に関心を持ってください。そして英語で何と言うのであろうと考えてください。

履修上の注意 /Remarks

既に経済、経営関係の講義を受講している場合はさらに効果的な学習ができます。日本の新聞を読み直近の話題に関心を持ってください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

economy, managemnet, current topics, finance, marketing, accounting, bond market, stock market, IMF, WorldBank, fiscal crisis, financial crisis, India, China, Africa, Japanese companies

担当者名 /Instructor 木下 善貞 / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英2 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

①英文テキストが書かれた背景、社会状況の十分な理解、②読む者の主観を排して英文テキストの意図する意味の把握、③叙述の仕方と文法の分析、以上3点がねらいである。

教科書 /Textbooks

ダールとレンデル = ミステリー短編集 (朝日出版社)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『英国小説の「語り」の構造』 (開文社出版)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の進め方。1回に5頁ずつ読んでいく。
- 2回 "Man from the South"1-5頁
- 3回 6-10頁
- 4回 11-15頁
- 5回 16-18頁"The Orchard Walls"19-20頁
- 6回 21-25頁
- 7回 26-30頁
- 8回 31-35頁
- 9回 36-40頁
- 10回 41頁"The Way up to Heaven"42-45頁
- 11回 46-50頁
- 12回 51-55頁
- 13回 56-60頁
- 14回 61-63頁"The New Girl Friend"64-65頁
- 15回 1学期のまとめと試験対策

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 50% 期末試験... 50%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

あらかじめ1頁ずつ担当を決めておくので当たった人は質問に答えられるように予習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI 【昼】

担当者名 吉川 哲郎 / KIKKAWA TETSUROU / 英米学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 英2 - D
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEIC受験も頭に置きながら、英語のリーディングとリスニングの能力を伸ばすことを目的とする。映画を教材にして、口語的表現に慣れ、精読の能力を強化する。

教科書 /Textbooks

プリントを使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入
- 2回 ユニット1
- 3回 ユニット2
- 4回 ユニット3
- 5回 ユニット4
- 6回 ユニット5
- 7回 ユニット6
- 8回 まとめ(1)
- 9回 ユニット7
- 10回 ユニット8
- 11回 ユニット9
- 12回 ユニット10
- 13回 ユニット11
- 14回 ユニット12
- 15回 まとめ(2)

成績評価の方法 /Assessment Method

課題・・・25% 期末試験・・・75%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎週予習をして授業に出席してください。

履修上の注意 /Remarks

特になし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

原則として1学期に1回TOEIC(TOEFL)テストを受験することが義務付けられています。

キーワード /Keywords

【リーディング】 【リスニング】

英語VII 【昼】

担当者名 /Instructor デビット・ニール・マクレラン / David Neil McClelland / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英2 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Practical comprehension and speaking skills developed through study of various English materials. Students will also have opportunities to practice academic presentation. Keywords for the course: Communicate, make friends, have fun.

教科書 /Textbooks

English for International Tourism (Pre-Intermediate): Longman

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

電子辞書を持ってくること。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 : Orientation
- 第2回 : Timed speeches and Q&A - Introduction
- 第3回 : Unit 1 and discussion in English (Exchanging Personal Details)
- 第4回 : Unit 2 and discussion in English (Creating a Schedule)
- 第5回 : Class presentations (Original Topics)
- 第6回 : Unit 3 and discussion in English (Talking about Cuisine)
- 第7回 : Unit 4 and discussion in English (Giving a Guided Tour)
- 第8回 : Unit 5 and discussion in English (Hotels and Facilities)
- 第9回 : Class presentations (Original Topics)
- 第10回 : Unit 6 and discussion in English (Talking about Experiences)
- 第11回 : Unit 7 and discussion in English (Advice and Recommendations)
- 第12回 : Unit 8 and discussion in English (Exchanging Holiday Plans)
- 第13回 : Class presentations (Original Topics)
- 第14回 : End of semester review
- 第15回 : Consolidation

成績評価の方法 /Assessment Method

Classwork ... 30% Homework ... 30% Examination ... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

担当教員の指示に従って準備してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Let's enjoy studying together

キーワード /Keywords

English - Communication

担当者名 /Instructor アルバート・オスカー・モウ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英2 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Points of this class are speaking, reading and writing English. The class is taught in English and is designed to meet the needs of English majors' in regards to public speaking.

教科書 /Textbooks

Speech Communication Made Simple. Paulette Dale - James C. Wolf - Pearson Longman - Third Edition (the student will also need a memory stick) (Textbook must be brought to the first class).

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese/English dictionary and a memory stick.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回(Week 1) Course and Introductions - Picture Story Speech
- 第2回 Delivering Your Message
- 第3回 Putting Your Speech Together
- 第4回 Outlining and Writing - A Personal Experience
- 第5回 Delivery-Group 1 - A Personal Experience Speech - 1
- 第6回 Outlining and Writing - A Personal Experience
- 第7回 Delivery-Group 2 - A Personal Experience - Speech 1
- 第8回 Outlining and Writing - A Meaningful Object
- 第9回 Delivery-Group 1 - A Meaningful Object - Speech 2
- 第10回 Outlining and Writing - A Meaningful Object
- 第11回 Delivery-Group 2 - A Meaningful Object - Speech 2
- 第12回 Speaking to Inform - Outlining and Writing - An Informative Speech
- 第13回 Delivery-Group 1 - An Informative Speech - Final Speech
- 第14回 Speaking to Inform - Outlining and Writing - An Informative Speech
- 第15回 Delivery-Group 2 - An Informative Speech - Final Speech

成績評価の方法 /Assessment Method

60% Class Work and 40% Final Exam

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Write, practice and memorize assigned speech.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor ジャマール・ミラー / JAMAR MILLER / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英2 - C /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This is an English communications course that develops the four English language skills of listening, speaking, reading, and writing. The main objective of this course is to help you improve each of these skills as presented in various different circumstances. The course aims to help students activate the English that they have learned in secondary school for oral communication as well as further develop their skills in line with the demands of purposeful communication tasks. Class time is thus spent with students: 1. Using their English actively with their classmates in pairs and small groups to complete communication tasks, and 2. listening and watching samples of proficient speakers performing the same tasks while completing activities which focus their attention on relevant aspects of the meaning and the language forms used.

教科書 /Textbooks

Advancing your English 3 by Jamar A. Miller. Lulu Press. ISBN #: 978-0-557-99920-0

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Teacher and Student self Introductions, and course review
2. Topic: Indian men volunteer to marry people of questionable backgrounds.
3. Topic: New life for the Kyoto Protocol
4. Topic: New highways threaten local wildlife
5. Topic: Global warming
6. Topic: Water supply returns to China
7. Topic: Climate change and the world's fish populations
8. Topic: Gay Alexander?
9. Topic: Taj Mahal-new natural attraction
10. Topic: The king buys his wives BMWs
11. Topic: Bill Gates a knight?
12. Topic: Kate Moss fashion icon
13. Topic: Tarantino to make a new movie
14. Topic: Eminem and his lyrics case
15. Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Speaking 35% Writing 15% Participation 40% Final Speaking Exam 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

なし

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

EVERYONE MUST HAVE THEIR OWN TEXTBOOK

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

No credit will be given to students who are absent 5 or more times

キーワード /Keywords

なし

担当者名 /Instructor アレクサンダー・ ボードナー / Alexander Bodnar / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英2 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Course Description:
This course in discussion skills moves from simply giving opinions to supporting, explaining, and presenting opinions and ends in debating opinions.

2.Course Objectives:

At the end of this course students will be able to:

- Recognize different types of opinions
- Use reasons to explain opinions •Use evidence to support opinions
- Critically evaluate reasons and evidence
- Apply all the above skills within a debate format

教科書 /Textbooks

Lubetsky, L., LeBeau, C., and Harrington, D. Discover Debate: Basic Skills for Supporting and Refuting Opinions. Language Solutions Inc., 2000.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Lesson 1: To The Students.....(p.0) Your Opinion.....(pp.1~5) Listening.....(p.9)
- Lesson 2: Opinion Survey.....(pp.10~11)
- Lesson 3: Explaining Your Opinion.....(pp.17~20) Brainstorming Reasons.....(pp.28~29)
- Lesson 4: Supporting Your Opinion.....(pp.31~35)
- Lesson 5: Case Study.....(pp.40~45)
- Lesson 6: Organizing Your Opinion.....(pp.47~49) Presenting Your House.....(pp.58~59)
- Lesson 7: Refuting Opinions.....(pp.61~65) Making Refutations.....(p.70)
- Lesson 8: Listen and Write.....(p.71)
- Lesson 9: Tennis Debate.....(pp.72~73)
- Lesson 10: Challenging Supports.....(pp.75~78) Challenge Supports.....(p.83) Critiquing an Advertisement.....(p.88)
- Lesson 11: Organizing Your Refutation.....(pp.89-91)
- Lesson 12: Mini-Debate.....(pp.100~101)
- Lesson 13: Debating an Opinion.....(pp.103~105) Flowing a Debate.....(pp.112~113)
- Lesson 14: In Class Debates.....(pp.123~124)
- Lesson 15: In Class Debates.....(pp.123~124)まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Quizzes and class debate participation: 70% Exam: 30%
Any student who is absent four times may not take the final exam and will not receive credit for the course.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Students must read the relevant textbook units before each lesson.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor デビット・ニール・マクレラン / David Neil McClelland / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英2 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Practical comprehension and speaking skills developed through study of various English materials. Students will also have opportunities to practice academic presentation. Keywords for the course: Communicate, make friends, have fun.

教科書 /Textbooks

English for International Tourism (Pre-Intermediate): Longman

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

電子辞書を持ってくること。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 : Timed speeches and Q&A
- 第2回 : Unit 8 and discussion in English (review)
- 第3回 : Unit 9 focus on listening (Training Program)
- 第4回 : Unit 9 focus on speaking (Taking an Order)
- 第5回 : Unit 10 and discussion in English (Reply to an Enquiry)
- 第6回 : Unit 11 focus on listening (Change a Booking)
- 第7回 : Unit 11 focus on speaking (Exchange information on Excursions)
- 第8回 : Unit 12 and discussion in English (Plan an Entertainment Program)
- 第9回 : Unit 13 focus on listening (Ecotourism - Plan a Trip)
- 第10回 : Unit 13 focus on speaking (Giving Advice)
- 第11回 : Unit 14 and discussion in English (Upsell at Reception)
- 第12回 : Unit 15 focus on listening (Understanding Local Information)
- 第13回 : Unit 15 focus on speaking (Explaining the Local Area)
- 第14回 : End of semester review
- 第15回 : Consolidation

成績評価の方法 /Assessment Method

Classwork ... 30% Homework ... 30% Examination ... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

担当教員の指示に従って準備してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Let's enjoy studying together

キーワード /Keywords

English - Communication

担当者名 /Instructor アルバート・オスカー・モウ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英2 - B /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Points of this class are speaking, reading and writing English. The class is taught in English and is designed to meet the needs of English majors' in regards to public speaking.

教科書 /Textbooks

Speech Communication Made Simple. Paulette Dale - James C. Wolf - Pearson Longman- Third Edition (Textbook must be brought to the first class).

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese/English dictionary (the student will also need a memory stick)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 (Week 1) Course and Introductions
- 第2回 Preparing for the Persuasive Speech - Choosing Your Topic
- 第3回 Determining Your Specific Purpose - Analyzing Your Audience
- 第4回 Gathering Information - Preparing Visual Aids
- 第5回 Organizing Your Speech
- 第6回 Persuasive Speech - Outlining and Writing
- 第7回 Persuasive Speech Group 1 (The Japanese Government Should...)
- 第8回 Persuasive Speech Group 2 (The Japanese Government Should...)
- 第9回 Persuasive Speech Group 1 (Students' Choice)
- 第10回 Persuasive Speech Group 2 (Students' Choice)
- 第11回 Persuasive Speech Group 1 (Energy Sources)
- 第12回 Persuasive Speech Group 2 (Energy Sources)
- 第13回 Participating in Group Discussions - Brainstorming
- 第14回 Effective Group Leader - Responsible Group Member
- 第15回 Group Discussions

成績評価の方法 /Assessment Method

60% Class Work and 40% Final Exam

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

The students will write, practice, and memorize each of their speeches.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VIII 【昼】

担当者名
/Instructor

ダンカン・ ウォトリイ / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 英2 - C
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
						○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The course should help you communicate in English. Each class aims to provide an atmosphere where you can activate and exchange the knowledge of English you have already built up after several years of study. Activities such as listening, reading, writing, presenting ideas and doing special individual or pair-work projects will be used. In addition, all students will keep an English diary which should help them express their experiences and personalize their English development.

教科書 /Textbooks

Summit One, Joan Saslow, Allen Ascher, Pearson and Longman

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week One Introduction Animals (1) Pets and preferences
 Week Two Animals (2) Nature, Ecology
 Week Three Advertising and Consumers (1) Listening and Discussion - Why Advertising Works
 Week Four Advertising and Consumers (2) Writing Focus - Descibing Our Experiences as Consumers
 Week Five Advertising and Consumers (3) Listening and Writing - Creating an Advertisement ,Group Work
 Week Six Family Trends (1) Listening and Discussion - Impressions of family trends
 Week Seven Family Trends (2) Writing Focus - Descibing our Family
 Week Eight Family Trends (3) Listening and Writing - Imagining the Future
 Week Nine History (1) Listening and Discussion - How history mainifests itself in the present
 Week Ten History (2) Writing Focus - Social History
 Week Eleven History (3) Presentation of an event in your hometown's local history
 Week Twelve Your Free Time (1) Listening and Discussion - What is free time?
 Week Thirteen Your Free Time (2) Writing Focus - Planning an Itinerary
 Week Fourteen Your Free Time (3) Listening and Writing - Descibing your hobbies
 Week Fifteen Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Diary 15%
 Special Activity 20%
 Presentation Activity 15%
 Homework 10%
 Final Test 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Reading and Review, Diary

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor アレクサンダー・ボードナー / Alexander Bodnar / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英2 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

英語を用いて思考を深め、相手の英語を聞き指摘する力、表現したい事柄を英語で流暢に表現できるようになることをねらいとする。

教科書 /Textbooks

Murphy, Robert. Optimal Levels. Fun Flavor: Book 1. Deeper Understanding Books, 2010.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Introduction / Writing
- 第2回 Travel-Introductions
- 第3回 Travel-Building Skills
- 第4回 Travel-Essay composition
- 第5回 Presentation
- 第6回 Shopping-Introduction
- 第7回 Shopping-Building Skills
- 第8回 Shopping-Essay composition
- 第9回 Presentation
- 第10回 Movies-Introduction
- 第11回 Movies-Building Skills
- 第12回 Movies-Essay Composition
- 第13回 Presentation
- 第14回 Synthesis Practice / Composition
- 第15回 Test

成績評価の方法 /Assessment Method

プレゼンテーション 各20% (計3回) 試験(essay) 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストブックはModule 3 までしか使用しませんが、Module 4~6は休講期間等を利用して各自完成させておいてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分の語りたいことを英語で語れるようになる、楽しいクラスです。アイデアをたくさん出して、自由に表現できるようになりましょう。文法の用法や単語、表現の方法など講義中の質問は大歓迎です。

キーワード /Keywords

英語Ⅸ【昼】

担当者名 /Instructor 永末 康介 / Kosuke NAGASUE / 基盤教育センター

履修年次 3年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 英中国3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

時事的な英文記事や学術的な英文テキストなどを用いて、英語力に磨きをかけることを目的とする。あわせて、関連する文化的事象についての理解を深めていくことも目的とする。授業全体のキーワードは「多読・精読」、「異文化理解」、「コミュニケーション力」です。

教科書 /Textbooks

配布プリント

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Pre-test
- 3回 時事英語①
- 4回 アカデミックリーディング①
- 5回 グループ討論①
- 6回 グループ討論②
- 7回 時事英語②
- 8回 アカデミックリーディング②
- 9回 グループ討論③
- 10回 グループ討論④
- 11回 時事英語③
- 12回 アカデミックリーディング③
- 13回 グループ討論⑤
- 14回 グループ討論⑥
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...30%、平常の学習状況(小テストを含む)...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語Ⅹ【昼】

担当者名 /Instructor 葛西 宏信 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

テキストの英文を読みながら、英語の読解力の向上・語彙の増強を目指す。受講者は、単にテキストの英文を読むだけでなく、それに関連する内容を積極的に調べながら、テキストで扱うテーマについて、より深く理解することが求められる。また、プレゼンテーションのスキル向上も目指す。

教科書 /Textbooks

生協の教科書リストに掲載する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Chapter 1
- 3回 Chapter 2
- 4回 Chapter 3
- 5回 Chapter 4
- 6回 Chapter 5
- 7回 Chapter 6
- 8回 Chapter 7
- 9回 Chapter 8
- 10回 Chapter 9
- 11回 Chapter 10
- 12回 Chapter 11
- 13回 Chapter 12
- 14回 Chapter 13
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...30% 発表...30% 期末試験...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業での発表や質問等、授業への積極的な参加が求められる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor デビット・ニール・マクレラン / David Neil McClelland / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Authentic study and research skills will be developed through an introductory English language medium course on the fundamentals of social research. Through step by step skills training, students will be taught how to maximize their understanding of academic lectures in English, hone their discussion skills, and learn how to conduct and present original research on social topics. All students will be encouraged to participate actively in group and team work throughout the course.

教科書 /Textbooks

Academic (Listening) Encounters: Life in Society (Cambridge University Press)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

電子辞書を持って来てください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回： Orientation
- 第2回： Theme 1: Belonging to a Group
- 第3回： Introduction to Presentation Skills 1
- 第4回： The Power of the Group
- 第5回： Developing a Survey
- 第6回： Lecture Skills and Note Taking 1
- 第7回： Class Presentation 1
- 第8回： Consolidation 1
- 第9回： Theme 2: Gender Roles
- 第10回： Introduction to Presentation Skills 2
- 第11回： Gender Issues Today
- 第12回： Developing a Research Plan
- 第13回： Lecture Skills and Note Taking 2
- 第14回： Class Presentation 2
- 第15回： Consolidation 2

成績評価の方法 /Assessment Method

Assessment by written assignment and coursework.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

担当教員の指示に従って準備してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Let's enjoy learning together

キーワード /Keywords

English - Social - Research

担当者名 /Instructor デビット・ニール・マクレラン / David Neil McClelland / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Authentic study and research skills will be developed through an introductory English language medium course on the fundamentals of social research. Through step by step skills training, students will be taught how to maximize their understanding of academic lectures in English, hone their discussion skills, and learn how to conduct and present original research on social topics. All students will be encouraged to participate actively in group and team work throughout the course.

教科書 /Textbooks

Academic (Listening) Encounters: Life in Society (Cambridge University Press)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

電子辞書を持って来てください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回： Orientation
- 第2回： Theme 1: Media and Society
- 第3回： Introduction to Presentation Skills 1
- 第4回： The Influence of Mass Media
- 第5回： Developing a Survey
- 第6回： Lecture Skills and Note Taking 1
- 第7回： Class Presentation 1
- 第8回： Consolidation 1
- 第9回： Theme 2: Contemporary Society
- 第10回： Introduction to Presentation Skills 2
- 第11回： Global Issues
- 第12回： Developing a Research Plan
- 第13回： Lecture Skills and Note Taking 2
- 第14回： Class Presentation 2
- 第15回： Consolidation 2

成績評価の方法 /Assessment Method

Assessment by written assignment and coursework.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

担当教員の指示に従って準備してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Let's enjoy learning together

キーワード /Keywords

English - Social - Research

中国語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 板谷 秀子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。
 (1)発音から学び始め、語彙力を増やしながら、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
 (2)課文の講読を通して中国の一部の都市や地理、人文について理解します。
 (3)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ、知識を得ることができます。

教科書 /Textbooks

『西遊記』 < 試用本 > (『西遊記』編集委員会)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【轻声】
- 2回 第二課 発音【子音】
- 3回 第三課 発音【複合母音】【鼻母音】
- 4回 第四課 自己紹介【人称代名詞】【指示代名詞】【動詞の文】【是の文】
- 5回 第四課 自己紹介(本文)
- 6回 第五課 北京【形容詞の文】【名詞の修飾】【数字】
- 7回 第五課 北京(本文)
- 8回 第六課 天津【動詞が複数ある文】【時間詞】【量詞】
- 9回 第六課 天津(本文)
- 10回 第七課 上海【指示代名詞】【方位詞】【存在の在】【存在の有】【複文】
- 11回 第七課 上海(本文)
- 12回 第八課 蘇州と杭州【前置詞の在】【所有の有】【是～的】
- 13回 第八課 蘇州と杭州(本文)
- 14回 前期のまとめ(1)
- 15回 前期のまとめ(2)

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・60% 小テスト・・・20% 日常の授業への取り組み・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 野村 和代 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。
 (1)発音から学び始め、語彙力を増やしなが、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
 (2)課文の講読を通して中国の一部の都市や地理、人文について理解します。
 (3)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ、知識を得ることができます。

教科書 /Textbooks

『西遊記』 <試用本> (『西遊記』編集委員会)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【轻声】
- 2回 第二課 発音【子音】
- 3回 第三課 発音【複合母音】【鼻母音】
- 4回 第四課 自己紹介【人称代名詞】【指示代名詞】【動詞の文】【是の文】
- 5回 第四課 自己紹介(本文)
- 6回 第五課 北京【形容詞の文】【名詞の修飾】【数字】
- 7回 第五課 北京(本文)
- 8回 第六課 天津【動詞が複数ある文】【時間詞】【量詞】
- 9回 第六課 天津(本文)
- 10回 第七課 上海【指示代名詞】【方位詞】【存在の在】【存在の有】【複文】
- 11回 第七課 上海(本文)
- 12回 第八課 蘇州と杭州【前置詞の在】【所有の有】【是～的】
- 13回 第八課 蘇州と杭州(本文)
- 14回 前期のまとめ(1)
- 15回 前期のまとめ(2)

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・60% 小テスト・・・20% 日常の授業への取り組み・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語II 【昼】

担当者名 /Instructor 板谷 秀子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。
 (1)発音から学び始め、語彙力を増やしなが、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
 (2)課文の講読を通して中国の一部の都市や地理、人文について理解します。
 (3)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ、知識を得ることができます。

教科書 /Textbooks

『西遊記』 <試用本> (『西遊記』編集委員会)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 義烏【了】【動作の現在進行形】【助動詞】【前置詞】
- 2回 第九課 義烏(本文)
- 3回 第十課 西安と洛陽【動詞+過】【動作の回数】【結果補語】【状態補語】【助動詞】
- 4回 第十課 西安と洛陽(本文)
- 5回 第十一課 成都【前置詞】【複文】【結果補語】【動作の時間を表す単位】【動作の時間】
- 6回 第十一課 成都(本文)
- 7回 第十二課 昆明【複文】【結果補語】【前置詞】
- 8回 第十二課 昆明(本文)
- 9回 第十三課 広州【結果補語】【前置詞】【ちょっと、少しの表現】【複文】【方向補語】【把の構文】
- 10回 第十三課 広州(本文)
- 11回 第十四課 大連【比較表現】【比喻表現】【使役表現】【受身表現】
- 12回 第十四課 大連(本文)
- 13回 第十五課 日本の紹介【複文】【了】【助動詞】
- 14回 第十五課 日本の紹介(本文)
- 15回 後期のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・ ・ 60% 小テスト・ ・ 20% 日常の授業への取り組み・ ・ 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語II 【昼】

担当者名 /Instructor 野村 和代 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。
 (1)発音から学び始め、語彙力を増やしなが、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
 (2)課文の講読を通して中国の一部の都市や地理、人文について理解します。
 (3)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ、知識を得ることができます。

教科書 /Textbooks

『西遊記』 < 試用本 > (『西遊記』編集委員会)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 義烏【了】【動作の現在進行形】【助動詞】【前置詞】
- 2回 第九課 義烏(本文)
- 3回 第十課 西安と洛陽【動詞+過】【動作の回数】【結果補語】【状態補語】【助動詞】
- 4回 第十課 西安と洛陽(本文)
- 5回 第十一課 成都【前置詞】【複文】【結果補語】【動作の時間を表す単位】【動作の時間】
- 6回 第十一課 成都(本文)
- 7回 第十二課 昆明【複文】【結果補語】【前置詞】
- 8回 第十二課 昆明(本文)
- 9回 第十三課 広州【結果補語】【前置詞】【ちょっと、少しの表現】【複文】【方向補語】【把の構文】
- 10回 第十三課 広州(本文)
- 11回 第十四課 大連【比較表現】【比喻表現】【使役表現】【受身表現】
- 12回 第十四課 大連(本文)
- 13回 第十五課 日本の紹介【複文】【了】【助動詞】
- 14回 第十五課 日本の紹介(本文)
- 15回 後期のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・60% 小テスト・・・20% 日常の授業への取り組み・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業は、中国語の発音、基礎文法、日常生活によく使用される実用会話文を身につけることを目標とする。先ず初習外国語としての中国語の基本である発音および基本文法を一部分ずつ詳しく解説した上、十分な練習を通じて身に付け、その上、実用会話が中心になっている場面で編成された本文について読解と音読の訓練を行う。また、将来中国語検定試験・中国語HSK試験などの就職に役立てる能力試験を受けるため、語学資格検定の試験問題も練習する。

教科書 /Textbooks

『比較中国語（実用・基礎編）』（王 占華 著 駿河台出版社）[コピー配布]

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 『中国語学概論』【改訂版】（王占華 他著 駿河台出版社）
- 『就職に役立てる中国語』【改訂版】（王占華 他著 駿河台出版社）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 中国語概説・単母音と声調
2. 子音1と複母音1
3. 子音2と複母音2・基本挨拶
4. 鼻母音・音節と音便・教室用語
5. 発音の復習とまとめ
6. 「自己紹介」（判断文・疑問文1・人称代名詞）
7. 復習と実用練習
8. 「空港で」（授受表現・存在表現・疑問文2）
9. 復習と実用練習
10. 「両替」（願望表現・数字・場所）
11. 復習と実用練習
12. 「道を尋ねる」（方位表現・移動表現・禁止表現）
13. 復習と実用練習
14. 「乗り物に乗る」（動作の進行・状態の持続・動作の実現）
15. 復習と実用練習

成績評価の方法 /Assessment Method

授業の参加態度・授業中の練習・小テスト（4割）、定期試験の成績（6割）で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

確認と復習として、文法規則としての重要性、文例としての実用性、使用頻度の角度から文字及び口頭による常用短文の作文、中→日、日→中双方向の訳などの練習を課する。コミュニケーションの基礎としての代表的な文例について、活用できるように要求するので、予習と積極的な練習を望んでいる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語の発音 中国語の基礎文法 中国語の実用会話 中国語能力試験 中国事情

中国語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 張 景珊 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

- 中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れることを目指します。
- (1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
 - (2)日常会話に必要な語彙を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。
 - (3)会話文の学習を通して場面に応じる中国会話力を高めます。
 - (4)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ、知識を得ることができます。

教科書 /Textbooks

『西遊記』<試用本> (『西遊記』編集委員会)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【轻声】、練習問題
- 2回 第二課 発音【子音】、練習問題
- 3回 第三課 発音【複合母音】【鼻母音】、練習問題
- 4回 発音の総合練習
- 5回 第四課 初めまして(会話文)
- 6回 第四課 初めまして、練習問題
- 7回 第五課 搭乗・入国(会話文)
- 8回 第五課 搭乗・入国、練習問題
- 9回 第六課 レストランにて(会話文)
- 10回 第六課 レストランにて、練習問題
- 11回 第七課 交通(会話文)
- 12回 第七課 交通、練習問題
- 13回 第八課 観光(会話文)
- 14回 第八課 観光、練習問題
- 15回 前期のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・ 50% 日常の授業への取り組み・小テスト50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業は、中国語の発音、基礎文法、日常生活によく使用される実用会話を身につけることを目標とする。まず初習外国語としての中国語の基本である発音および基本文法を一部分ずつ詳しく解説した上、十分な練習を通じて身に付け、その上、実用会話が中心になっている場面で編成された本文について読解と音読の訓練を行う。また、将来中国語検定試験・中国語HSK試験などの就職に役立てる能力試験を受けるため、語学資格検定の試験問題も練習する。

教科書 /Textbooks

『比較中国語（実用・基礎編）』（王 占華 著 駿河台出版社）） [コピー配布]

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『中国語学概論』【改訂版】（王占華 他著 駿河台出版社）
- 『就職に役立てる中国語』【改訂版】（王占華 他著 駿河台出版社）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 「中国語Ⅲ」についての復習・中国語で夏休みについての話
2. 「宿泊」（可能表現・時点・時量）
3. 復習と実用練習
4. 「食事」（数量表現・形容詞述語文・程度表現）
5. 復習と実用練習
6. 「ショッピング」（指示表現・仮定表現・比較表現）
7. 復習と実用練習
8. 「ツアーでの旅行」（方向補語・使役表現・受身表現）
9. 復習と実用練習
10. 「友達を作る」（意向確認・難色を示す・ことわる）
11. 復習と実用練習
12. 「会社見学」（必要表現・可能補語・経験表現）
13. 復習と実用練習
14. 「電話を掛ける」（方向補語・処置表現・複文）
15. 復習と実用練習

成績評価の方法 /Assessment Method

授業の参加態度・授業中の練習・小テスト（4割）、定期試験の成績（6割）で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

確認と復習として、文法規則としての重要性、文例としての実用性、使用頻度の角度から文字及び口頭による常用短文の作文、中→日、日→中双方向の訳などの練習を課する。コミュニケーションの基礎としての代表的な文例について、活用できるように要求するので、予習と積極的な練習を望んでいる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語の発音 中国語の基礎文法 中国語の実用会話 中国語能力試験 中国事情

中国語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 張 景珊 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れることを目指します。
 (1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
 (2)日常会話に必要な語彙を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。
 (3)会話文の学習を通して場面に応じる中国会話力を高めます。
 (4)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ、知識を得ることができます。

教科書 /Textbooks

『西遊記』 < 試用本 > (『西遊記』編集委員会)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中日・日中」電子辞書 (CASIO等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 買い物(会話文)
- 2回 第九課 買い物、練習問題
- 3回 第十課 銀行にて(会話文)
- 4回 第十課 銀行にて、練習問題
- 5回 第十一課 ホテルにて(会話文)
- 6回 第十一課 ホテルにて、練習問題
- 7回 第十二課 電話(会話文)
- 8回 第十二課 電話、練習問題
- 9回 第十三課 趣味(会話文)
- 10回 第十三課 趣味、練習問題
- 11回 第十四課 語り合い(会話文)
- 12回 第十四課 語り合い、練習問題
- 13回 第十五課 搭乗手続き・免税店にて(会話文)
- 14回 第十五課 搭乗手続き・免税店にて、練習問題
- 15回 後期のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・ 50% 日常の授業への取り組み・小テスト50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 正野 留加 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 英2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。

皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが。本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

(1)本文読解を通じ、主に「読解・翻訳」面の強化に重点を置いた授業を行います。

(2)中級レベルの文法を学び、少し長めの文章を作る・自分の言いたいことを言えるレベルを目指します。

(3)本文読解を通じ日本への理解を深めると共に、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書 /Textbooks

『東遊記』（『東遊記』編集委員会）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中日・日中電子辞書 (CASIO等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 日本紹介(本文) ポイント説明
- 2回 第二課 東京(本文)
- 3回 第二課 ポイント説明
- 4回 第三課 横浜(本文)
- 5回 第三課 ポイント説明
- 6回 第四課 富士山と東照宮(本文)
- 7回 第四課 ポイント説明
- 8回 第五課 静岡と名古屋(本文)
- 9回 第五課 ポイント説明
- 10回 第六課 京都(本文)
- 11回 第六課 ポイント説明
- 12回 第七課 奈良(本文)
- 13回 第七課 ポイント説明
- 14回 第八課 大阪(本文)
- 15回 第八課 ポイント説明

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 60% 日常の授業への取り組み、小テスト等... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
授業前に本文を読み、内容を把握しておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

中国語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 正野 留加 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。

皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが。本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

(1)本文読解を通じ、主に「読解・翻訳」面の強化に重点を置いた授業を行います。

(2)中級レベルの文法を学び、少し長めの文章を作る・自分の言いたいことを言えるレベルを目指します。

(3)本文読解を通じ日本への理解を深めると共に、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書 /Textbooks

『東遊記』（『東遊記』編集委員会）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中日・日中電子辞書 (CASIO等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 宮島と下関 (本文)
- 2回 第九課 ポイント説明
- 3回 第十課 九州 (本文)
- 4回 第十課 ポイント説明
- 5回 第十一課 福岡 (本文)
- 6回 第十一課 ポイント説明
- 7回 第十二課 佐賀 (本文)
- 8回 第十二課 ポイント説明
- 9回 第十三課 長崎 (本文)
- 10回 第一三課 ポイント説明
- 11回 第十四課 四国 (本文)
- 12回 第十四課 ポイント説明
- 13回 第十五課 仙台と北海道 (本文)
- 14回 第十五課 ポイント説明
- 15回 後期のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...60% 日常の授業への取り組み、小テスト等...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
授業前に本文を読み、内容を把握しておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

中国語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 王 晨 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが。本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

中国語中級者を対象に、実用的な中級レベルのコミュニケーションが取れることを目指します。

- (1) 会話文の練習などを通して、正しい発音・自然な言い回しをしっかりと定着させます。
- (2) 本文を通じ日本への理解を深めると共に、日本のことを中国語で紹介できる能力を身につけます。また、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書 /Textbooks

『東遊記』（『東遊記』編集委員会）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

1. 中日・日中電子辞書(CASIO等)
2. 『体験汉语100句・公務类』中国・高等教育出版社(褚佩如 等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 日本紹介(会話) 練習
- 2回 第二課 東京(会話)
- 3回 第二課 練習
- 4回 第三課 横浜(会話)
- 5回 第三課 練習
- 6回 第四課 富士山と東照宮(会話)
- 7回 第四課 練習
- 8回 第五課 静岡と名古屋(会話)
- 9回 第五課 練習
- 10回 第六課 京都(会話)
- 11回 第六課 練習
- 12回 第七課 奈良と神戸(会話)
- 13回 第七課 練習
- 14回 第八課 大阪(会話)
- 15回 第八課 練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・50% 暗唱テスト・・・30% 日常の授業への取り組み・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

中国語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 王 晨 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。

皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが。本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

中国語中級者を対象に、実用的な中級レベルのコミュニケーションが取れることを目指します。

(1) 会話文の練習などを通して、正しい発音・自然な言い回しをしっかりと定着させます。

(2) 本文を通じ日本への理解を深めると共に、日本のことを中国語で紹介できる能力を身につけます。また、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書 /Textbooks

『東遊記』（『東遊記』編集委員会）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

1. 中日・日中電子辞書 (CASIO等)
2. 『体験汉语100句・公務类』中国・高等教育出版社(褚佩如 等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 宮島と下関 (会話)
- 2回 第九課 練習
- 3回 第十課 九州 (会話)
- 4回 第十課 練習
- 5回 第十一課 福岡 (会話)
- 6回 第十一課 練習
- 7回 第十二課 佐賀 (会話)
- 8回 第十二課 練習
- 9回 第十三課 長崎 (会話)
- 10回 第一三課 練習
- 11回 第十四課 四国 (会話)
- 12回 第十四課 練習
- 13回 第十五課 仙台と北海道 (会話)
- 14回 第十五課 練習
- 15回 後期のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・50% 暗唱テスト・・・30% 日常の授業への取り組み・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

上級中国語I 【昼】

担当者名 /Instructor 唐 雋 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英国済営比人3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

上級中国語I・IIは、中国語初・中級をひとつおわり終えた学習者のために、さらに一歩上の段階で学ぶ講義である。
本講義は初・中級に続き、文章の購読、理解、作文練習などの技能を修得することを重点に置き、読むおよび書くことの能力の養成に配慮し、中国語の文章の読解能力、作文力を身につけることを目標とする。
テキストを中心に翻訳、作文練習を重ねて行う。テキスト以外にビデオ、参考資料などを通して中国の文化や風習などを紹介する。

教科書 /Textbooks

名和又介『ビデオで学ぶ中国文化』金星堂

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

名和又介『ビデオで学ぶ中国文化』金星堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1学期
- 第1回 吉祥紅I
- 第2回 吉祥紅II
- 第3回 作文練習
- 第4回 淮揚菜I
- 第5回 淮揚菜II
- 第6回 作文練習
- 第7回 紹興与酒I
- 第8回 紹興与酒II
- 第9回 作文練習
- 第10回 高密剪纸I
- 第11回 高密剪纸II
- 第12回 作文練習
- 第13回 潮州工夫茶I
- 第14回 潮州工夫茶II
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み15% 作文などの練習35% 定期試験50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習および復習する必要がある。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発想力

上級中国語II 【昼】

担当者名 /Instructor 唐 雋 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英国済営比人3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

上級中国語I・IIは、中国語初・中級をひとつおわり終えた学習者のために、さらに一歩上の段階で学ぶ講義である。
本講義は前期に続き、文章の購読、理解、作文練習などの技能を修得することを重点に置き、読むおよび書くことの能力の養成に配慮し、中国語の文章の読解能力、ビジネス作文力を身につけることを目標とする。
テキスト、プリントを中心に翻訳し、作文練習を重ねて行う。テキスト以外にプリント、ビデオなどを通して中国の文化やビジネス慣習などを紹介する。

教科書 /Textbooks

名和又介『ビデオで学ぶ中国文化』金星堂、プリント

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

名和又介『ビデオで学ぶ中国文化』金星堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第2学期
第1回 オリエンテーション
第2回 八達嶺I
第3回 八達嶺II
第4回 作文練習
第5回 天壇説九I
第6回 天壇説九II
第7回 作文練習
第8回 ビジネス作文練習I
第9回 ビジネス作文練習II
第10回 ビジネス作文練習III
第11回 ビジネス作文練習IV
第12回 ビジネス作文練習V
第13回 ビジネス作文練習VI
第14回 ビジネス作文練習VII
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み15% 作文練習35% 定期試験50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習する必要がある。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語作文、ビジネス中国語

上級中国語Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英国済営比人 3年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎を習得した学生を対象に、やや複雑な文章や長文の読解、作文を教授学習する。なお、「聴く」、「話す」、「読む」、「書く」四つの能力を総合的にバランスよく基本的な表現方式を実習し、一場面ずつ簡単なビジネス中国語を身に付け、将来の就職に役に立つように気を配る。

また、将来中国語検定試験・中国語HSK試験などの就職に役立つ能力試験を受けるため、語学資格検定の試験問題も練習する。

教科書 /Textbooks

『就職に役立つ中国語』[改訂版]王占華・劉慶 駿河台出版社
(3回目まではプリントを配布し、授業を実施し、その後相談で決める。)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○『中国語学概論』(改訂版)王占華 他 駿河台出版社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義の目標と進め方について これまで習った内容の復習
- 2回 面接、【動詞と時量】
- 3回 電話を掛ける【呼び方】
- 4回 復習、中間小テスト
- 5回 ホームページのアドレスと電子メール【開始+動詞】
- 6回 約束【全面否定・肯定】
- 7回 復習、中間小テスト
- 8回 空港への出迎え【願望】
- 9回 食事に招待する【比況表現】
- 10回 復習、中間小テスト
- 11回 町を見物する【軽量表現】
- 12回 空港見送り【仮定表現】
- 13回 ホテルの予約【起点、終点】
- 14回 総合復習
- 15回 試験

成績評価の方法 /Assessment Method

普段の小練習...50% 期末試験...50%。(就職活動・教育実習による欠席分について相談可。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教科書が実用的な内容で、それほど難しくないが、この授業を通じ、社会人として基礎的な中国語の運用能力を身に付けてもらいたい。従って、積極的な予習と「聴く」「話す」を中心にする反復練習を望む。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

外国語は単なる知識ではなく、能力である。車の免許をとるために、いくら理論的な条文を暗記しても、路上練習をしなければ運転できない。「一回の実践は百回の丸暗記に勝る」。

キーワード /Keywords

中国語の実用会話 中国語基礎コミュニケーション能力 中国語資格試験 中国事情 中国文化

上級中国語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英国済営比人 3年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎を習得した学生を対象に、やや複雑な文章や長文の読解、作文を教授学習する。なお、「聴く」、「話す」、「読む」、「書く」四つの能力を総合的にバランスよく基本的な表現方式を実習し、一場面ずつ簡単なビジネス中国語を身に付け、将来の就職に役に立つように気を配る。

また、将来中国語検定試験・中国語HSK試験などの就職に役立つ能力試験を受けるため、語学資格検定の試験問題も練習する。

教科書 /Textbooks

『就職に役立つ中国語』 [改訂版] 王占華・劉慶 駿河台出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『中国語学概論』(改訂版) 王占華 他 駿河台出版社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義の目標と進め方について、1学期習った内容の復習
- 2回 税関で【結果補語1】
- 3回 タクシーに乗る【距離表現】
- 4回 復習、中間小テスト
- 5回 チェックイン【受身主語文】
- 6回 道をたずねる【連鎖表現】
- 7回 復習、中間小テスト
- 8回 両替【等分表現】
- 9回 レストランで食事する【結果補語2】
- 10回 復習、中間小テスト
- 11回 サンプルを送る【比較表現】
- 12回 列車の乗車券を買う【強調表現】
- 13回 おみやげを買う【疑問詞の非疑問用法】
- 14回 総合復習
- 15回 試験

成績評価の方法 /Assessment Method

普段の小練習...50% 期末試験...50%。(就職活動・教育実習による欠席分について相談可。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教科書が実用的な内容で、それほど難しくないが、この授業を通じ、社会人として基礎的な中国語の運用能力を身に付けてもらいたい。従って、積極的な予習と「聴く」「話す」を中心とする反復練習を望む。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

外国語は単なる知識ではなく、能力である。車の免許をとるために、いくら理論的な条文を暗記しても、路上練習をしなければ運転できない。「一回の実践は百回の丸暗記に勝る」。

キーワード /Keywords

中国語の実用会話 中国語基礎コミュニケーション能力 中国語資格試験 中国事情 中国文化

朝鮮語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

朝鮮語（韓国語）を基礎から学ぶ。入門段階である1学期はハングル文字と発音を正確に習得することが重要である。したがって、この講義では一言会話とともに正確に読み書きができることを目指す。

教科書 /Textbooks

『韓国語の初歩』（巖 基珠他、白水社、2,200円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典（必携）

『朝鮮語辞典』（小学館、8,000円）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 文字と発音【単母音】【鼻音】
- 3回 文字と発音【単母音その2】【流音】
- 4回 文字と発音【平音】【半母音】
- 5回 文字と発音【激音】【濃音】
- 6回 文字と発音【合成母音】まとめと復習
- 7回 文字と発音【パッチム】
- 8回 発音の規則【有声音化】【連音化】
- 9回 発音の規則【濃音化】【激音化】
- 10回 発音の規則【流音化】【口蓋音化】【その他】
- 11回 まとめと復習
- 12回 第11課 指定詞の丁寧形【～です】
- 13回 第12課 指定詞の丁寧な否定表現【～ではありません】
- 14回 第11課と第12課の復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業に対する取り組み、小テストおよび宿題... 40% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語II 【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級段階に必要な文法や基本句型、語彙を学習し、同等レベルの作文と読解ができることを目指す。

教科書 /Textbooks

『韓国語の初歩』（巖 基珠他、白水社、2,200円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典(必携)

『朝鮮語辞典』（小学館、8,000円）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 前期の復習
- 3回 第13課 どこで習っていますか？【かしまった丁寧形①】
- 4回 第14課 暑くありませんか？【かしまった丁寧形の否定表現】
- 5回 フリートーキング
- 6回 数詞のまとめ
- 7回 第15課 誕生日はいつですか？【指定詞の打ち解けた丁寧形】
- 8回 第16課 どこに住んでいますか？【指定詞以外の打ち解けた丁寧形】
- 9回 復習とフリートーキング
- 10回 第17課 先生いらっしゃいますか？【特殊な尊敬語】
- 11回 第18課 何をお探しですか？【打ち解けた丁寧形の尊敬表現】
- 12回 第19課 何をしましたか？【過去形】
- 13回 復習とフリートーキング
- 14回 何を召し上がりますか？【好みを言ってみよう】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業に対する取り組み、小テストおよび宿題... 40% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

基本となる文字と発音の訓練に力を注ぎ、正確な読み書きができることを第一の目標とする。同時に簡単なあいさつ表現や初歩的な会話表現なども学びたいと思う。

教科書 /Textbooks

金順玉 他 『新チャレンジ! 韓国語』、白水社 (2009年3月)、2,300円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典 『朝鮮語辞典』 小学館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【韓国語入門の予備知識】
- 2回 基本母音字とその発音【基本母音】
- 3回 基本子音字(平音)とその発音【基本子音】
- 4回 基本子音字(平音)とその発音【基本子音】
- 5回 子音(激音)字とその発音【派生子音1】
- 6回 子音(濃音)字とその発音【派生子音2】
- 7回 合成母音字とその発音【派生母音】
- 8回 終声子音字とその発音【パッチム】
- 9回 終声子音字とその発音【パッチム】
- 10回 連音化、激音化、濃音化【音の変化】
- 11回 連音化、激音化、濃音化【音の変化】
- 12回 辞典を引いてみよう【辞典の引き方】
- 13回 自己紹介【指定詞の丁寧形】【～です/ですか】
- 14回 自己紹介【指定詞の丁寧形】【～といたします】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の学習への取り組みと試験による評価。
 授業中に遅刻や私語、無断欠席などで注意された場合は減点の対象になる。
 平常点50%(小テスト・課題・態度)、 定期試験50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習・復習をすること。
 特に予習の課題が多いので必ずノートを作ること。

履修上の注意 /Remarks

授業中、発表や発言が多く求められるので、授業に積極的に参加すること。
 欠席が多い場合は平常点が少なくなるので、そのことを自覚してしっかり取り組むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく話しましょう!

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

正確な発音の能力を高めながら、初級文法をもとに会話表現を学び、基礎レベルでの日常会話の能力を身につけることを目指す。

教科書 /Textbooks

金順玉 他 『新チャレンジ! 韓国語』、白水社 (2009年3月)、2,300円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』小学館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前期の復習
- 2回 時間ありますか【存在の有無】【助詞】
- 3回 時間ありますか【存在の有無】【助詞】
- 4回 それは何ですか【指示代名詞】【疑問代名詞】
- 5回 それは何ですか【指示代名詞】【疑問代名詞】
- 6回 何時ですか【固有数詞】【時間】【助数詞】
- 7回 初デートの約束【漢数詞】【年月日】【電話番号】
- 8回 初デートの約束【漢数詞】【年月日】【電話番号】
- 9回 何が好きですか【うちとけた丁寧形】【用言の否定形】【願望形】
- 10回 何が好きですか【うちとけた丁寧形】【用言の否定形】【願望形】
- 11回 週末には何をしましたか【過去形】【接続語1】
- 12回 週末には何をしましたか【過去形】【接続語1】
- 13回 スープが冷たくておいしいです【接続語2】【逆接】
- 14回 スープが冷たくておいしいです【接続語2】【逆接】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の学習への取り組みと試験による評価。
授業中に遅刻や私語、無断欠席などで注意された場合は減点の対象になる。
平常点50% (小テスト・課題・態度)、定期試験50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習・復習をすること。
特に予習の課題が多いので必ずノートを作ること。

履修上の注意 /Remarks

授業中、発表や発言が多く求められるので、授業に積極的に参加すること。
欠席が多い場合は平常点が少なくなるので、そのことを自覚してしっかり取り組むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく話しましょう!

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級レベルでは学習しなかった、より高度な会話や文章の読解を目指す。主として表現・文法の学習を中心とし、その学習を効果的に行うため、会話や読解、作文練習などに力を入れる。

教科書 /Textbooks

『楽しくできる韓国語初級II』（李志暎他、DEKIRU出版、2,000円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典(必携)

『朝鮮語辞典』（小学館、8,000円）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 用言活用の基本について
- 3回 第1課 食べ方がけっこう違いますね。【動詞の現在連体形】
- 4回 第2課 韓国へ行ったことがありますか？【動詞の過去連体形】【経験を述べる】
- 5回 第3課 卒業したら何をするつもりですか？【動詞の未来連体形】【予定を述べる】
- 6回 復習とフリーターキング
- 7回 第4課 背の高い男は誰ですか？【形容詞の現在連体形】
- 8回 第5課 お忙しいところすみません。【～のですが、～のに】
- 9回 第6課 熱いから気をつけてください。【は不規則活用】【理由】
- 10回 第7課 外国語は毎日聞かなければなりません。【に不規則活用】【義務】
- 11回 復習とフリーターキング
- 12回 第8課 風邪はすっかり治ったんですか？【は不規則活用】【理由②】
- 13回 第9課 A型とO型はどう違いますか？【三不規則活用】
- 14回 第10課 赤い色はありませんか？【を不規則活用】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業に対する取り組み、小テストおよび宿題... 40% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級レベルでは学習しなかった、より高度な会話や文章の読解を目指す。1学期に引き続き、主として表現・文法の学習を中心とし、その学習を効果的に行うため、会話や読解、作文練習などに力を入れる。

教科書 /Textbooks

『楽しくできる韓国語初級II』（李志暎他、DEKIRU出版、2,000円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典 (必携)

『朝鮮語辞典』（小学館、8,000円）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 前期の復習
- 3回 第11課 私もメール送ります。【話者の意思・約束】
- 4回 第12課 あそこに何と書いてありますか？【完了状態の継続】【禁止】
- 5回 第13課 雨が降りそうですね。【過去・現在・未来の推量】
- 6回 復習とフリートーキング
- 7回 第14課 新年の挨拶をした後、お墓参りに行きます。【～する前に、～した後に】
- 8回 第15課 辛くして食べるほうです。【傾向を述べる】
- 9回 第16課 日本にいらしてからどれくらいになりましたか？【時間の経過】
- 10回 復習とフリートーキング
- 11回 第17課 こうすれば探しやすいです。【-기 名詞化】
- 12回 第18課 運転お上手でしょうね。【推測・予測、～するとき】
- 13回 第19課 私がお待ちしましょうか？【～てあげる・～てくれる】
- 14回 第20課 何を召し上がりますか？【意思・話者の願望】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業に対する取り組み、小テストおよび宿題... 40% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、1年次で朝鮮語の基礎を習得した受講者が朝鮮語の基本表現の理解や表現力をさらに深め、基礎的な日常会話の運用能力が身につくようになることを目標とする。

教科書 /Textbooks

金順玉 他 『ちょこっとチャレンジ! 韓国語』、白水社 (2011年3月)、2,400円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』小学館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 お名前なんとおっしゃいますか?【インタビューする】
- 3回 お名前なんとおっしゃいますか?【インタビューする】
- 4回 朝子といいますが、日本から来ました。【自己紹介をする】
- 5回 朝子といいますが、日本から来ました。【自己紹介をする】
- 6回 朝子といいますが、日本から来ました。【自己紹介をする】
- 7回 魚は焼かないでください。【決まりを言う】
- 8回 魚は焼かないでください。【決まりを言う】
- 9回 ファンの集いに行くことにしました。【約束をする】
- 10回 ファンの集いに行くことにしました。【約束をする】
- 11回 ファンの集いに行くことにしました。【約束をする】
- 12回 道を渡って左にずっと行ってください。【道案内をする】
- 13回 道を渡って左にずっと行ってください。【道案内をする】
- 14回 道を渡って左にずっと行ってください。【道案内をする】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の学習への取り組みと試験による評価。
授業中に遅刻や私語、無断欠席などで注意された場合は減点の対象になる。
平常点50% (発表・課題・小テスト・態度)、定期試験50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回、先週のできことを発表してもらう。
予習・復習をすること。
特に予習の課題が多いので必ずノートを作ること。

履修上の注意 /Remarks

授業中、発表や発言が多く求められるので、授業に積極的に参加すること。
欠席が多い場合は平常点が少なくなるので、そのことを自覚してしっかり取り組むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく話しましょう!

キーワード /Keywords

朝鮮語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、1年次で朝鮮語の基礎を習得した受講者が朝鮮語の基本表現の理解や表現力をさらに深め、基礎的な日常会話の運用能力が身につくようになることを目標とする。

教科書 /Textbooks

金順玉 他 『ちょこっとチャレンジ! 韓国語』、白水社 (2011年3月)、2,400円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典 『朝鮮語辞典』 小学館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 自由会話【夏休みの出来事】
- 2回 ファンの集いへ行ってみてください。【感想を言う】
- 3回 ファンの集いへ行ってみてください。【感想を言う】
- 4回 少し安くしてください。【買い物をする】
- 5回 少し安くしてください。【買い物をする】
- 6回 少し安くしてください。【買い物をする】
- 7回 私の気持ちですから受け取ってください。【プレゼントをする】
- 8回 私の気持ちですから受け取ってください。【プレゼントをする】
- 9回 咳がひどくて眠れませんでした。【体の具合を言う】
- 10回 咳がひどくて眠れませんでした。【体の具合を言う】
- 11回 咳がひどくて眠れませんでした。【体の具合を言う】
- 12回 字幕を見ながら勉強します。【勉強の仕方を話す】
- 13回 字幕を見ながら勉強します。【勉強の仕方を話す】
- 14回 字幕を見ながら勉強します。【勉強の仕方を話す】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の学習への取り組みと試験による評価。
授業中に遅刻や私語、無断欠席などで注意された場合は減点の対象になる。
平常点50% (発表・課題・小テスト・態度)、 定期試験50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回、先週のできことを発表してもらう。
予習・復習をすること。
特に予習の課題が多いので、必ずノートを作ること。

履修上の注意 /Remarks

授業中、発表や発言が多く求められるので、授業に積極的に参加すること。
欠席が多い場合は平常点が少なくなるので、そのことを自覚してしっかり取り組むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく話しましょう！

キーワード /Keywords

上級朝鮮語I【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日常の身近なできごとをテーマにした様々な文章を読むことを通して、読解力を身につけることを目標とする。同時に応用作文の練習を多く行い、文章力の養成を目指す。

教科書 /Textbooks

曹喜澈『ウリマル』、白帝社(2006年2月)、2,600円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』(小学館)など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 自己紹介【講読】
- 3回 自己紹介【作文】
- 4回 私の家【講読】
- 6回 私の家【作文】
- 7回 私の学校【講読】
- 8回 私の学校【作文】
- 9回 病院と薬局【講読】
- 10回 病院と薬局【作文】
- 11回 手紙【講読】
- 12回 手紙【作文】
- 13回 趣味【講読】
- 14回 趣味【作文】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の学習への取り組みと試験による評価。
授業中に遅刻や私語、無断欠席などで注意された場合は減点の対象になる。
平常点50% (作文・小テスト・課題・態度)、定期試験50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回、訳を作成してもらうので必ず辞書を持参すること。
予習の課題が多いのでノートを作ること。
テキストに出る文型や語句を覚えること。

履修上の注意 /Remarks

授業中、発表や発言が多く求められるので、授業に積極的に参加すること。
欠席が多い場合は平常点が少なくなるので、そのことを自覚してしっかり取り組むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく文章を作りましょう！

キーワード /Keywords

上級朝鮮語II 【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日常の身近なできごとをテーマにした様々な文章を読むことを通して、読解力を身につけることを目標とする。同時に応用作文の練習を多く行い、文章力の養成を目指す。

教科書 /Textbooks

曹喜澈 『ウリマル』、白帝社 (2006年2月)、2,600円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』(小学館)など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 映画【講読】
- 3回 映画【作文】
- 4回 地下鉄【講読】
- 5回 地下鉄【作文】
- 6回 感想文【講読】
- 8回 感想文【作文】
- 9回 日記【講読】
- 10回 日記【作文】
- 11回 試験【講読】
- 12回 試験【作文】
- 13回 韓国と日本【講読】
- 14回 韓国と日本【作文】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の学習への取り組みと試験による評価。
授業中に遅刻や私語、無断欠席などで注意された場合は減点の対象になる。
平常点50%(作文・小テスト・課題・態度)、定期試験50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回、訳を作成してもらうので必ず辞書を持参すること。
予習の課題が多いのでノートを作ること。
テキストに出る文型や語句を覚えること。

履修上の注意 /Remarks

授業中、発表や発言が多く求められるので、授業に積極的に参加すること。
欠席が多い場合は平常点が少なくなるので、そのことを自覚してしっかり取り組むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく文章を作りましょう！

キーワード /Keywords

上級朝鮮語Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級・中級まで学習してきたことを定着、さらに発展させて自信と実践力をつける。また、韓国の社会や文化など、韓国事情に触れることで異文化理解も深めたい。

教科書 /Textbooks

『できる韓国語 中級II』（李志暎他、DEKIRU出版、2,500円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典(必携)

『朝鮮語辞典』（小学館、8,000円）、『韓国語上級表現ノート』（前田、明石書店、1890円）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 自己紹介とウォーミングアップ
- 3回 第1課 紹介①
- 4回 第1課 紹介②
- 5回 第2課 旅行①
- 6回 第2課 旅行②
- 7回 第3課 予約①
- 8回 第3課 予約②
- 9回 第4課 案内①
- 10回 第4課 案内②
- 11回 第5課 ショッピング①
- 12回 第5課 ショッピング②
- 13回 第6課 交通①
- 14回 第6課 交通②
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業に対する取り組み、小テストおよび宿題... 40% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

上級朝鮮語Ⅳ 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第二外国語

担当者名 /Instructor 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級・中級まで学習してきたことを定着、さらに発展させて自信と実践力をつける。また、韓国の社会や文化など、韓国事情に触れることで異文化理解も深めたい。

教科書 /Textbooks

『できる韓国語 中級II』（李志暎他、DEKIRU出版、2,500円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典(必携)

『朝鮮語辞典』（小学館、8,000円）、『韓国語上級表現ノート』（前田、明石書店、1890円）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 第7課 キャンセル①
- 3回 第7課 キャンセル②
- 4回 第8課 新聞①
- 5回 第8課 新聞②
- 6回 第9課 伝達①
- 7回 第9課 伝達②
- 8回 第10課 食事①
- 9回 第10課 食事②
- 10回 第11課 電話①
- 11回 第11課 電話②
- 12回 第12課 文化①
- 13回 第12課 文化②
- 14回 第13課 美容室①
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業に対する取り組み、小テストおよび宿題... 40% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅰ【昼】

担当者名 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 英1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

読み書き、標準的発音の習得に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ロシア語概論、アルファベット
- 2回 文字と発音：母音、子音(1)、アクセント、疑問詞のある疑問文と答え方(1)
- 3回 子音(2)、疑問詞のある疑問文と答え方(2)、硬子音と軟子音、名詞の性
- 4回 所有代名詞、疑問詞のある疑問文と答え方(3)、有声子音と無声子音、子音の発音規則
- 5回 硬音記号と軟音記号、疑問詞のない疑問文と答え方、イントネーション
- 6回 50音のロシア文字表記法
- 7回 一課前半 テキストの読み、内容解説、挨拶表現、ロシア人の名、自己紹介の練習
- 8回 一課後半 テキストの読み、内容解説、人称代名詞、国名・国民名、名詞複数形
- 9回 二課前半 テキストの読み、内容解説、動詞の現在変化、接続詞、副詞、練習問題
- 10回 二課後半 テキストの読み、内容解説、名詞格変化(対格)、和文露訳
- 11回 三課前半 テキストの読み、内容解説、所有表現、名詞格変化(前置格)、練習問題
- 12回 三課後半 テキストの読み、内容解説、形容詞、複数専用名詞、前置詞用法、和文露訳
- 13回 四課前半 テキストの読み、内容解説、動詞過去、個数詞、時間表現、練習
- 14回 四課後半 テキストの読み、内容解説、動詞の体、名詞格変化(生格)、和文露訳
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト ... 20% 授業への参加度 ... 20%
(欠席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

2 - 3回毎に1回の割合で単語力・文法事項の理解力を問う小テストを行う。また、本課に入れば、2回に1回の割合で、和文露訳の問題を課する。習ったことの復習に時間をかけて授業準備をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

読み書き、標準的発音の習得に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 一学期に習ったことの復習(1)
- 2回 一学期に習ったことの復習(2)
- 3回 五課前半 テキストの読み、内容解説、動詞未来、前置詞句(1)、曜日
- 4回 五課後半 テキストの読み、内容解説、完了動詞未来、不定人称文、命令形、和文露訳
- 5回 六課前半 テキストの読み、内容解説、運動の動詞、行先表現、交通手段表現
- 6回 六課後半 テキストの読み、内容解説、出発と到着表現、場所に関する疑問詞、和文露訳
- 7回 七課前半 テキストの読み、内容解説、形容詞と副詞について、数量表現
- 8回 七課後半 テキストの読み、内容解説、述語副詞、四季、方位、月、和文露訳
- 9回 八課前半 テキストの読み、内容解説、無人称述語、動詞の格支配(1)(2)
- 10回 八課後半 テキストの読み、内容解説、義務・可能性表現、動詞の格支配(3)、和文露訳
- 11回 九課前半 テキストの読み、内容解説、年齢表現、年月日表現、比較級
- 12回 九課後半 テキストの読み、内容解説、値段表現、授与動詞、仮定法、和文露訳
- 13回 十課前半 テキストの読み、内容解説、関係代名詞、形容詞最上級、形容詞格変化
- 14回 十課後半 テキストの読み、内容解説、単文と複文、直接話法と間接話法、ことわざ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト ... 20% 授業への参加度 ... 20%
(欠席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

単語力・文法事項の理解力を問う小テストを行う。また、本課に入れば、2回に1回の割合で、和文露訳の問題を課する。復習に力を入れて授業準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor ナタリア・シェスタコワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「聞き取り・発音」、「会話」に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行う。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行い、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社
ビデオ教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤 厚編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ロシア語とはどんな言葉か？【母音と母音文字】、【こんにちは】
- 2回 ロシア語のアルファベット【交際】
- 3回 短文のイントネーション 【これは誰ですか】、【これは何ですか】
- 4回 簡単な問いと答え 【あなたは学生ですか】、【お元気ですか】
- 5回 第1課① 【挨拶】、【紹介】
- 6回 第1課② 【ロシア人の名前】、【これは誰のものですか】
- 7回 第1課③ 会話
- 8回 第2課① 【教室でロシア語】
- 9回 第2課② 【動詞現在変化】、【私は本を読んでいます】
- 10回 第2課③ 【趣味】、【私はロシア語を話します】
- 11回 第3課① 【家族の紹介】
- 12回 第3課② 【名詞の前置格】、【あなたの家族はどこにお住まいですか】
- 13回 第3課③ 【形容詞】、【これは新しい車です】
- 14回 復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 10% 宿題... 10% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅳ【昼】

担当者名
/Instructor

ナタリア・シェスタコワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次
/Year

単位 1単位
/Credits

学期 2学期
/Semester

授業形態 講義
/Class Format

クラス 英1年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
						○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「聞き取り・発音」、「会話」に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行う。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行い、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社
ビデオ教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤 厚編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第4課① 【一日の生活】、【過去の表現】
- 2回 第4課② 【時間表現】
- 3回 第4課③ 【動詞の体】、【昨日あなたは何をしましたか】
- 4回 第4課④ 【不完了体と完了体】、【あなたは宿題をしまいましたか】
- 5回 第5課① 【休日】、【動詞の未来】
- 6回 第5課② 【曜日名】、【明日あなたは何をしますか】
- 7回 第5課③ 【名詞の造格】、【命令形】
- 8回 第5課④ 【どうぞ、午後に私に電話してください】
- 9回 第6課① 【交通】、【運動の動詞】
- 10回 第6課② 【交通手段と行先】、【あなたはどこへ行くのですか】
- 11回 第6課③ 【電話】、【出発と到着の表現】 「
- 12回 第6課④ 【あなたはどこから来ましたか】
- 13回 会話 【どこへ】、【どこに】、【どこから】
- 14回 復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 10% 宿題... 10% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

一年次に習ったロシア語の語彙、基礎文法、読み書き、聞き取り・発音を練磨しつつ、応用力の向上を目指す。「読解・解釈」と「文法・語法」に重点を置く。

教科書 /Textbooks

プリント配布（「百万人のロシア語」）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

博友社「ロシア語辞典」、研究社「露和辞典」、岩波書店「ロシア語辞典」のいずれかが必要

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 <СКОРО ПЕРВОЕ СЕНТЯБРЯ> 名詞の性、不規則変化動詞、形容詞前置格
- 2回 <МАМА И ФУТБОЛ> 多義動詞の用法、関係副詞構文、形容詞短語尾、全否定構文
- 3回 <МАТЬ> 関係副詞構文、関係代名詞構文、不規則変化動詞、名詞単数・複数の使分け
- 4回 <САЛЮТ> 複文の種類と構造、不規則変化動詞、第二生格
- 5回 <ГИПНО'З> 不定人称文、「・・・する」の後結合、完了動詞・不完了動詞
- 6回 <ВАЖНЫЙ РАЗГОВОР> 願望を意味する動詞と複文、運動の動詞の派生語
- 7回 <ТРУДНЫЙ ЭКЗАМЕН> 動詞の格支配、複文、否定生格
- 8回 <ДОМ ОТДЫХА> 時の表現、動詞の体
- 9回 <БАБУШКА И ВОВКА> 動詞の格支配、不規則変化動詞
- 10回 <ВТОРАЯ МОЛОДОСТЬ> 複文、動詞の体
- 11回 <О ЧЁМ ДУМАЕТ МАРАБУ> 年月日表現、年齢表現、形容詞格変化復習
- 12回 <КАК Я ВСТРЕЧАЛ НОВЫЙ ГОД> 不定法構文、無人称文
- 13回 <ЛЮБИМЫЙ ПРАЗДНИК> 個数詞+形容詞+名詞の語結合、所有形容詞
- 14回 <ЭТО СЛУЧИЛОСЬ В ВОЗДУХЕ> 「互いに」の表現、運動の動詞、不定代名詞
- 15回 まとめと復習：構文

成績評価の方法 /Assessment Method

授業での発表 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

出席者には毎回、テキストの読み・和訳の発表を課するので、予習が必要。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 英2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

会話テキスト「ロシアでの一ヶ月」の読み、訳、練習問題をこなすことで、ロシア語運用力の向上を目指す。

教科書 /Textbooks

プリント配布（「ロシアでの一ヶ月」）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

博友社「ロシア語辞典」、研究社「露和辞典」、岩波書店「ロシア語辞典」のいずれかが必要

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	ГОСТИНИЦА	その1	読み、訳、練習問題
2回	ГОСТИНИЦА	その2	読み、訳、練習問題
3回	СТОЛОВАЯ	その1	読み、訳、練習問題
4回	СТОЛОВАЯ	その2	読み、訳、練習問題
5回	ГАСТРОНОМ		読み、訳、練習問題
6回	УНИВЕРМАГ		読み、訳、練習問題
7回	ТРАНСПОРТ		読み、訳、練習問題
8回	ПОЧТА		読み、訳、練習問題
9回	ТЕЛЕФОН		読み、訳、練習問題
10回	ВОКЗАЛ		読み、訳、練習問題
11回	ПОЛИКЛИНИКА		読み、訳、練習問題
12回	ПАРИКМАХЕРСКАЯ		読み、訳、練習問題
13回	ТЕКСТЫ ДЛЯ ЧТЕНИЯ	その1	読み、訳、練習問題
14回	ТЕКСТЫ ДЛЯ ЧТЕНИЯ	その2	読み、訳、練習問題
15回	ТЕКСТЫ ДЛЯ ЧТЕНИЯ	その3	読み、訳、練習問題

成績評価の方法 /Assessment Method

授業での発表 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

出席者には毎回、テキストの読み・和訳の発表を課するので、予習が必要。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅶ【昼】

担当者名
/Instructor

ナタリア・シェスタコワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次
/Year

単位
/Credits

1単位

学期
/Semester

1学期

授業形態
/Class Format

講義

クラス 英2年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
						○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

これまでに習ったロシア語の語彙、読み書き、聞き取り・発音を練磨しつつ、応用力の向上をめざす。「聞き取り・会話」と「作文」に重点を置く。

教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社
ビデオ教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第7課① 【天候】、【КАКАЯ СЕГОДНЯ ПОГОДА?】
- 2回 第7課② 【気温】、【雨が降る】
- 3回 第7課③ 【四季】、【КАКОЕ ВРЕМЯ ГОДА ВЫ ЛЮБИТЕ?】
- 4回 ビデオ学習① 【В ГОСТИНИЦЕ】
- 5回 ビデオ学習② 会話練習
- 6回 第8課① 【病気と健康】、【ЧТО У ВАС БОЛИТ?】
- 7回 第8課② 【必要性】、【可能】、【不可能】、【許可】、【禁止】
- 8回 第8課③ 【ЧТО ВЫ ДОЛЖНЫ СДЕЛАТЬ ЧЕРЕЗ НЕДЕЛЮ?】
- 9回 ビデオ学習③ 【ЗИМНЯЯ СЮИТА】
- 10回 ビデオ学習④ 会話練習【У ВРАЧА】
- 11回 ビデオ学習⑤ 作文【Я И СПОРТ】
- 12回 第9課① 【年齢】、【年月日の表現】、【КОГДА ВЫ РОДИЛИСЬ?】
- 13回 第9課② 【買い物】、【値段】
- 14回 復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 10% 宿題... 30% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅷ 【昼】

担当者名 /Instructor ナタリア・シェスタコワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 英2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

一年次に習ったロシア語の語彙、基礎文法、読み書き、聞き取り・発音を練磨しつつ、応用力の向上を目指す。「読解・解釈」と「文法・語法」に重点を置く。

教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社
ビデオ教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ビデオ学習① 【В ГОСТЯХ】
- 2回 ビデオ学習② 会話練習【В ГОСТЯХ】
- 3回 ビデオ学習③ 作文【КАК ПРИГЛАШАЮТ В ГОСТИ В ЯПОНИИ】
- 4回 第10課①【モスクワの町】
- 5回 第10課②【関係代名詞 КОТОРЫЙ】、
【КАКАЯ ГОРА САМАЯ ВЫСОКАЯ?】
- 6回 第10課③【モスクワの町】、【単文と複文】
- 7回 第10課④【ことわざ】、【МОЙ РОДНОЙ ГОРОД】
- 8回 ビデオ学習④【ИСТОРИЯ С УЧЕБНИКОМ ИСТОРИИ】
- 9回 ビデオ学習⑤ 会話【В МАГАЗИНЕ】、【ПОКУПКА КНИГИ】
- 10回 ビデオ学習⑥ 作文
- 11回 読み物 【СОВЕТ ВРАЧА】
- 12回 読み物 【ДВА ТОВАРИЩА】
- 13回 読み物 【ЛЕГЕНДА ОБ АНГАРЕ】
- 14回 復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む)...10% 宿題...30% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語I【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツ語を身近に感じることに。

教科書 /Textbooks

『気分はドイツ』三修社、本郷建治 他
(Deutsch macht Spaß!)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ドイツの若者をビデオで見る【アルファベット・発音】
- 2回 自己紹介【動詞の現在人称変化(1)、名詞】
- 3回 英語の君は話すの?【動詞の現在人称変化(2)、数詞】
- 4回 あなたの名前は何か?【動詞の現在人称変化(2)、時刻】
- 5回 私は父にこの本を贈ります。【人称代名詞、家族】
- 6回 私の夫はオーストリア人です。【冠詞類、月・季節】
- 7回 君は今日、暇ですか?【定形の位置(1)、曜日】
- 8回 もし私に暇があれば、小倉へ行きます。【定形の位置(2)】
- 9回 母の代わりに父が料理をします。【前置詞(1)】
- 10回 私は明日、街へ行きます。【前置詞(2)】
- 11回 ここに車を停めることができますか?【話法の助動詞(1)】
- 12回 私はこの手紙を日本へ送りたいのですが。【話法の助動詞(2)】
- 13回 なぜ君はパーティーにいかなかったの?【動詞の3基本形(1)】
- 14回 私には熱がありました。【動詞の3基本形(2)】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音:ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語II【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツ語を身近に感じることに。

教科書 /Textbooks

『気分はドイツ』三修社、本郷建治 他
(Deutsch macht Spaß!)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ビデオで「グリム兄弟の生涯」を見る。【(現在)完了形(1)】
- 2回 君は昨日何をしましたか？【(現在)完了形(2)】
- 3回 フランクフルト行きの列車はいつ発車するのですか？【分離動詞(1)】
- 4回 私はどこで下車しますか？【分離動詞(2)】
- 5回 私達はドイツのレストランへ行きます。【形容詞】
- 6回 私はベンチの上に座ります。【再帰動詞】
- 7回 雨が降っています。【esの用法】
- 8回 あなたが訪ねるその男性は私の友人です。【関係代名詞(1)】
- 9回 私が昨日見た映画は面白かった。【関係代名詞(2)】
- 10回 オーストリアではドイツ語が話されます。【受動(1)】
- 11回 山々は雪で覆われています。【受動(2)】
- 12回 夏にヨーロツパへ行く、と山下さんは言っています【接続法(1)】
- 13回 暇があれば、私もヨーロツパへ行くのになあ。【接続法(2)】
- 14回 ドイツ語を学ぶことは難しくありません。【分詞・zu不定詞】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音:ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じることに。

教科書 /Textbooks

『スツエーネン1 場面で学ぶドイツ語』三修社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 名前、出身、住所、挨拶。【規則動詞の現在人称変化、1・2人称、】
- 2回 名前、出身、住所を尋ねる【前置詞、副詞、疑問文、疑問詞】
- 3回 紹介、数字、電話番号【3人称、数詞】
- 4回 各国の国名、車のナンバープレート【名詞の性、定冠詞、所有冠詞】
- 5回 履修科目、言語、曜日【動詞の位置と語順】
- 6回 ドイツと日本の外国人数【冠詞の使い方】
- 7回 趣味、好きなこと、嫌いなこと【否定文の作り方】
- 8回 ドイツ人と日本人の余暇活動【不規則動詞の現在人称変化】
- 9回 好物、外国料理【接続詞】
- 10回 ドイツの食事【頻度を表す副詞】
- 11回 家族、職業、年齢、性格【不定冠詞、否定冠詞、人称代名詞、1(主)格】
- 12回 ドイツと日本の子供の数【名詞の複数形、形容詞、否定文の作り方】
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音:ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じる事。

教科書 /Textbooks

『スツエーネン1 場面で学ぶドイツ語』三修社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 持ち物、持ち物を尋ねる【指示代名詞】
- 2回 傘はドイツ語でなんと言うか【4(直接目的)格】
- 3回 住居、場所の表現【前置詞、人称代名詞の3格、】
- 4回 家賃はいくらですか、部屋の広さは
- 5回 時刻の表現、テレビを何時間みるか【非人称動詞の主語es】
- 6回 日付、曜日、誕生日、今週の予定
- 7回 大学の建物、道案内、【副詞】
- 8回 交通手段、ドイツの大学【Sieに対する命令形、疑問詞womit】
- 9回 休暇の計画、手紙の書き方【話法の助動詞】
- 10回 ドイツで人気のある休暇先【疑問詞】
- 11回 過去の表現、天気、日記【完了形、過去人称変化】
- 12回 クイズ：ドイツの首都は。再統一はいつ。
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音：ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

『スツェーネン 2 場面で学ぶドイツ語』三修社、佐藤修子 他
(Szenen 2)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ザビーネとパウルはハンブルクへ行きます。【時刻表】
- 2回 駅の券売窓口で。【列車の乗り換え】
- 3回 私達は注文したいのですが。【レストランで】
- 4回 部屋は空いていますか？【ホテルで】
- 5回 郵便局へはどう行けばいいですか？【道を教える】
- 6回 円をユーロに両替したいのですが。【銀行で】
- 7回 フライブルクはミュンヘンより暖かいです。【天気】
- 8回 ドイツの休暇の過ごし方。【長期休暇】
- 9回 どこが悪いのですか？【病気】
- 10回 頭痛に効く薬が欲しいのですが。【薬局で】
- 11回 君は彼女に何をプレゼントしますか？【贈り物】
- 12回 ドイツ人はお祝いをするのがとても好きです。【誕生祝い】
- 13回 ドイツ語でクロスワード遊び。
- 14回 一日の活動を日記に書く。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト (50%) 学期末試験 (50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストのCDを何度も聞きながら一緒に発音し、ドイツのニュースに興味を持ち、ドイツの映像をインターネットで見ましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

『スツェーネン2 場面で学ぶドイツ語』三修社、佐藤修子 他
(Szenen 2)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ 『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 パーティーに何を着ますか？【服装】
- 2回 このグレーのスラックスはいいかがですか？【お店で】
- 3回 家庭のゴミはどのように分類しますか？【環境問題】
- 4回 ドイツの学校の環境プロジェクト。【無駄を省く】
- 5回 ここで犬を放してはいけません。【禁止】
- 6回 何歳になったら何ができますか？【選挙権】
- 7回 ドイツの学校制度。【教育】
- 8回 パン屋になるためには大学へ行く必要はありません。【資格】
- 9回 あなたは何に興味がありますか？【職業】
- 10回 イースターはなぜ特別なお祭りなのですか？【祝日】
- 11回 イースターのウサギが語ります【祭り】
- 12回 君はクリスマスを楽しみにしていますか？【年末】
- 13回 君達はクリスマスには何をしますか。【年末】
- 14回 クリスマスクッキーの作り方。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト (50%) 学期末試験 (50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストのCDを何度も聞きながら一緒に発音し、ドイツのニュースに興味を持ち、ドイツの映像をインターネットで見ましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

プリントおよび資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 自己紹介、人の紹介、お礼をいうとき、お礼をいわれたとき
- 2回 人に会ったとき、人と別れるとき、知人に会ったとき、人と別れるとき
- 3回 軽く詫げて話しかけるとき、謝るとき、ちょっと席をはずすとき
- 4回 ドイツのビデオ、1回から3回までの復習
- 5回 人と別れるとき、相手の成功を祈るとき、お礼を言うとき
- 6回 相手の言うことが聞き取れないとき
- 7回 理解できないとき、単語が分からないとき、ドイツ語で何と言うか聞くと
- 8回 綴りを聞くと、英語の分る人を探るとき、いい直しをするとき
- 9回 ドイツのビデオ、5回から8回までの復習
- 10回 場所を聞くと、道順・方向を聞くと、距離を聞くと
- 11回 時刻を聞くと、時間を聞くと、曜日を聞くと、日付を聞くと
- 12回 値段を聞くと、数量を聞くと、方法を聞くと、理由を聞くと
- 13回 目的を聞くと、住所を聞くと、出身地を聞くと、生年月日を聞くと
- 14回 ドイツのビデオ、10回から13回までの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

私のドイツ生活・ドイツ語通訳体験などのエピソードを通して、ドイツ・ドイツ語を身近に感じて、インターネットでドイツの情報を得ましよう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅷ 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

プリントおよび資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 事情を聞くとき、あることを頼むとき、人に何かを頼むとき
- 2回 両替を頼むとき、助力を求めるとき、助言を求めるとき
- 3回 服を買うとき、席・切符の予約をするとき、人に助言をするとき
- 4回 ドイツのビデオ、1回から3回までの復習
- 5回 相手の助言に応じるとき、相手の助言に応じられないとき、人を誘うとき
- 6回 自分の考え・意見を言うとき、相手の意見を聞くとき、相手の感想を聞くとき
- 7回 相手の発言・意見に同意するとき、関心事について言うとき、希望を言うとき
- 8回 予定・計画を言うとき、相手の都合が合わないとき、相手が気の毒な状態のとき
- 9回 ドイツのビデオ、5回から8回までの復習
- 10回 病状を言うとき、身体の具合を聞くとき、体調を言うとき
- 11回 会う日を相談するとき、会う場所を相談するとき、相手の都合を聞くとき
- 12回 自分の都合を説明するとき、場所と時間を確認するとき、招待に感謝するとき
- 13回 贈り物・お土産を渡すとき、飲み物を聞くとき、料理を勧めるとき
- 14回 ドイツビデオ、10回から13回までの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

私のドイツ生活・ドイツ語通訳体験などのエピソードを通して、ドイツ・ドイツ語を身近に感じて、インターネットでドイツの情報を得ましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語I【昼】

担当者名 /Instructor 坂田 由紀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

基礎文法の習得を目標とします。具体的には、フランス語の基本的な仕組みを学び、練習問題を解き、発音、会話練習、和文仏訳（作文）をします。最後に、このテキストの主人公テツオの物語を仏文和訳して、文法の確認をします。6月に実施される実用フランス語技能検定試験（仏検）5級を合格すれば、成績cを保証されます。その場合でも定期試験を必ず受けます。

教科書 /Textbooks

長野督 他著 『テツオ、ただいま修行中』（白水社）2300円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する。辞書は紙のものが望ましい。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 発音とアルファベ
- 2回 1課 主語人称代名詞と動詞 <etre >
- 3回 1課 名詞と形容詞の性数 疑問文
- 4回 2課 第一群規則動詞の活用 否定文 定冠詞
- 5回 3課 動詞 <avoir > 不定冠詞
- 6回 3課 部分冠詞 否定のde
- 7回 4課 第二群規則動詞 疑問形容詞
- 8回 4課 形容詞
- 9回 5課 形容詞・副詞の比較級
- 10回 5課 形容詞・副詞の最上級
- 11回 6課 動詞 <faire >
- 12回 6課 動詞 <prendre > 疑問代名詞
- 13回 7課 前置詞と定冠詞の縮約
- 14回 7課 動詞 <aller > <venir >
- 15回 8課 非人称構文 命令文

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験70%、平常の授業への取り組み30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

金曜日の会話の授業を受講していることを前提とします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語II 【昼】

担当者名 /Instructor 坂田 由紀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1学期に引き続き、基礎文法の習得を目標とします。11月に実施される仏検4級を合格すれば、成績cが保証されます。その場合でも、定期試験を必ず受けます。

教科書 /Textbooks

長野督 他著 『テツオ、ただいま修行中』 (白水社) 2300円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する。辞書は紙のものが望ましい。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 9課 人称代名詞(直接目的補語)
- 2回 9課 人称代名詞(間接目的補語) 動詞 < pouvoir > < vouloir >
- 3回 9課 人称代名詞のまとめ
- 4回 10課 代名動詞
- 5回 11課 過去分詞 複合過去1
- 6回 12課 複合過去2
- 7回 12課 複合過去3
- 8回 13課 半過去
- 9回 13課 複合過去と半過去
- 10回 14課 中性代名詞
- 11回 14課 中性代名詞
- 12回 15課 単純未来
- 13回 15課 時制のまとめ
- 14回 16課 関係代名詞
- 15回 16課 強調構文

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験の結果70%、平常の授業への取り組み30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

金曜日の授業を履修していることが前提です。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 広一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

フランス語の日常会話と文章読解・表現の基礎を学びます。1学期は「実用フランス語検定5級」相当のフランス語力をつけることを目指します。

教科書 /Textbooks

『新・彼女は食いしん坊! 1』 (藤田裕二著 朝日出版社 ¥2500)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

教科書は全12課、配列に従って原則各回1課進み、1学期で終了。

以下のスケジュールで基本表現を学んでいきます。

- 1回 フランス語の発音とつづり字
- 2回 国籍・職業をいう
- 3回 名前・持ち物をいう
- 4回 友人・家族を紹介する
- 5回 人・物を説明する
- 6回 電話をかける、近い未来・過去についていう
- 7回 人、物、場所、時についてたずねる
- 8回 食べ物・飲み物についていう
- 9回 時刻・天候をいう
- 10回 人・物を比較する
- 11回 人称代名詞目的語を使った表現
- 12回 過去のことを話す
- 13回 代名動詞を使った表現
- 14回 未来のことを話す
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...20% 定期試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

仏和辞典を各自用意すること。

遅くとも3回目の講義までには教科書を用意しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

連続して欠席すると、講義内容についていくのが困難となります。

正当な理由がある場合をのぞき、遅刻・途中退室は欠席扱いとします。

キーワード /Keywords

はじめて学ぶフランス語

フランス語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 広一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1学期に引き続き、フランス語の日常会話と文章読解・表現の基礎を学びます。2学期は「実用フランス語検定4級」相当のフランス語力をつけることを目指します。

教科書 /Textbooks

『彼女は食いしん坊！2 -フランス美味探訪の旅-』（藤田裕二著 朝日出版社 ￥2500）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

教科書は全10課、配列に従って原則毎回3ページずつ進む。

Eメールの文章を中心に、文法、練習問題、聞き取りなどを通して、「読む」、「書く」、「聴く」、「話す」といった総合的な語学能力の習得を目指す。

- 1回 アルザス地方への旅
- 2回 複合過去を使った表現
- 3回 半過去と大過去を使った表現
- 4回 ブルゴーニュ地方への旅
- 5回 関係代名詞を使った表現
- 6回 現在分詞・ジェロンディフを使った表現
- 7回 ローヌ・アルプ地方への旅
- 8回 受動態の表現
- 9回 強調構文
- 10回 プロヴァンス地方への旅
- 11回 条件法を使った表現
- 12回 接続法の表現
- 13回 ブルターニュ地方への旅
- 14回 間接話法と時制の一致について
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...20% 定期試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

仏和辞典を各自用意すること。
教科書は1回目の講義から用意しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

1学期に最低1科目はフランス語の講義を履修しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

正当な理由がある場合をのぞき、遅刻・途中退室は欠席扱いとします。

キーワード /Keywords

フランスの地方料理を巡る旅、フランス語を生きた言葉として実感

フランス語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 坂田 由紀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1年時に習得した基礎文法事項を復習しながら、さらにフランス語表現力アップを目標とします。同時にフランス社会の多様性や、奥深い文化に対する知見を広げます。

教科書 /Textbooks

澤田直之 他著 『アミカルマンーフランス語、フランス文化への誘いー』 (駿河台出版社) 2625円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 プリント1 作文1 <avoir> <etre> を使って"自己紹介文"を作る
- 2回 同上
- 3回 テキスト1課 読解1 "La France"
- 4回 テキスト2課 読解2 "Paris"
- 5回 プリント2 作文2 前置詞の縮約 代名動詞を使って"自分の住む街の紹介文"を作る
- 6回 同上
- 7回 テキスト3課 読解3 "les cafes"
- 8回 同上
- 9回 テキスト4課 読解4 "la vie des etudiants"
- 10回 同上
- 11回 プリント3 作文3 比較級・最上級を使って"大学の課外活動について"を作文する
- 12回 テキスト5課 人称代名詞の復習
- 13回 テキスト5課 読解5 "le pain, le vin et le fromage"
- 14回 同上
- 15回 1学期のまとめと復習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験の結果70%、平常の授業への取り組み30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストと同時にプリント学習をする。テキストは必ず購入すること。プリントは受講者人数分しか用意しないので、なくさないこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 坂田 由紀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1学期に引き続き、フランス語による表現力アップと、フランス社会の多様性や、奥深い文化に対する知見を広げることを目標とします。

教科書 /Textbooks

澤田直之 他著 『アミカルマンーフランス語、フランス文化への誘い』 (駿河台出版社) 2625円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 テキスト6課 読解6 "La Bretagne"
- 2回 同上
- 3回 テキスト7課 読解7 "La Provence"
- 4回 同上
- 5回 プリント4 作文4 "過去の出来事を語る"手紙文を書く
- 6回 同上
- 7回 テキスト8課 関係代名詞復習 接続詞queを使った表現
- 8回 テキスト8課 読解8 "L'Alsace"
- 9回 同上
- 10回 プリント5 中性代名詞復習
- 11回 プリント5 観光案内文を読む
- 12回 プリント5 作文5 日本の観光案内文を書く
- 13回 テキスト9課 読解9 "Le systeme politique"
- 14回 テキスト10課 条件法と接続法について
- 15回 テキスト10課 読解10 "Le francais dans le monde"

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験の結果70%、平常の授業への取り組み30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストとプリントを使用する。テキストは必ず購入すること。プリントは受講者人数分しか用意しないのでなくさないこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語Ⅶ 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 高之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 /Class Format 講義 クラス 英2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1年次に習得したフランス語能力を再確認し、さらに応用力を身につけることを目指す。

テキストには仏検4級対策問題集を使用するが、授業内容は決して仏検対策ではない。良質の問題集であるため、上記の目的を達成するのに好適だからである。

特につぎの3点を重要視する。

1. 基礎文法事項を徹底的に復習する。
2. 問題を解き理解するだけでなく、正確に発音できるよう指導し、適宜、暗記することを課す。
3. 時間の許す限り、フランス文化についての知識も教授する。

4級の問題集ではあるが、真摯に取り組めば3級程度の実力をつけることができる。
 6月に行われる検定試験3級に合格した受講生には単位取得を保障する。

教科書 /Textbooks

富田正二『ニヴオー・カトル』（駿河台出版社）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、発音の復習
- 2回 冠詞 1
- 3回 冠詞 2
- 4回 動詞の活用 1
- 5回 動詞の活用 2
- 6回 動詞の活用 3
- 7回 代名詞 1
- 8回 代名詞 2
- 9回 代名詞 3
- 10回 単語配列 1
- 11回 単語配列 2
- 12回 単語配列 3
- 13回 前置詞 1
- 14回 前置詞 2
- 15回 前置詞 3

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 40%、 日常の授業への取り組み 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

1年次のフランス語を受講していること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

仏検 文法 発音 文化

フランス語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 高之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 1単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

前期のフランス語VIIIに引き続き、現在までに習得したフランス語能力を再確認し、さらに応用力を身につけることを目指す。

テキストには仏検4級対策問題集を使用するが、授業内容は決して仏検対策ではない。良質の問題集であるため、上記の目的を達成するのに好適だからである。

特につぎの3点を重要視する。

1. 基礎文法事項を徹底的に復習する。
2. 問題を解き理解するだけでなく、正確に発音できるよう指導し、適宜、暗記することを課す。
3. 時間の許す限り、フランス文化についての知識も教授する。

4級の問題集ではあるが、真摯に取り組めば準2級程度の実力を目指すことができる。
6月に行われる検定試験準2級に合格した受講生には単位取得を保障する。

教科書 /Textbooks

富田正二『ニヴオー・カトル』（駿河台出版社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 応用問題 1
- 2回 応用問題 2
- 3回 応用問題 3
- 4回 応用問題 4
- 5回 応用問題 5
- 6回 短文聞き取り 1
- 7回 短文聞き取り 2
- 8回 会話文 1
- 9回 会話文 2
- 10回 会話文 3
- 11回 会話文聞き取り 1
- 12回 会話文聞き取り 2
- 13回 会話文聞き取り 3
- 14回 長文読解 1
- 15回 長文読解 2

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 40%、 日常の授業への取り組み 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

1年次のフランス語および前期のフランス語VIIを受講していること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

仏検 文法 発音 文化

スペイン語I【昼】

担当者名 /Instructor 青木 文夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

スペイン語を公用語とする国は、ヨーロッパに1つ、アフリカに1つ、中南米に19（含む1自治領）あり、その話者の数は、アメリカ合衆国にいる hispanicの人たちも含めると4億をはるかに超え、英語、中国語、ヒンズー語に続くと言われていています。ラテン語（ローマ帝国の言語）を起源とし、イタリア語、ポルトガル語、フランス語、ルーマニア語とともにロマンス語と呼ばれる仲間に入ります。コロンブスのアメリカ大陸発見（1492年）以降、スペイン語は中南米の植民地の言語になったので、現在のように多くの中南米の国で使われています。その特徴は、これだけ広い地域で用いられているのに、コミュニケーションの妨げになるほどの差がないことです。その広大な文化圏のドアを開けるための第1歩として、スペイン語の基礎を学びましょう。未知の世界が広がっていくはずですが、具体的には、スペイン語の初級から中級程度の文法を学びながら基本的な表現をマスターします。

教科書 /Textbooks

『スペイン語で表現しよう』
青木文夫・辻博子・マリア エルナンデス（共著）、弘学社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

西和辞典：
 スペイン語中辞典（小学館）
 新スペイン語（研究社）
 現代スペイン語辞典（白水社）
 プログレッシブスペイン語辞典（小学館）
 パスポート初級スペイン語辞典（白水社）
 他多数有。
 白水社の別の西和辞典（高橋編）は、見出し語は多いが使いにくいので薦めません。
 和西辞典：
 和西辞典（宮城、コントレラス監修：白水社）
 クラウン和西辞典（三省堂）
 その他
 図説スペインの歴史（川成洋、中西省三編：河出書房新社）
 スペインの歴史（立石、関、中川、中塚著：昭和堂）
 スペイン（増田監修：新潮社）
 スペインの社会（寿里、原編：早稲田大学出版）
 スペインの政治（川成、奥島編：早稲田大学出版）
 スペインの経済（戸門、原編：早稲田大学出版）
 スペイン語とつきあう本（寿里著：東洋書店）
 スペイン語基礎文法（口ボ、大森、広康共訳：ピアソンエデュケーション）
 電子辞書も奨めます。辞書については、最初の講義で詳しく説明するので、辞書の購入はそれまで待っていてください。

スペイン語I【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 導入：スペイン語とはこんな言語
- 2 発音の仕組み
- 3 発音の仕組み
- 4 発音の練習と簡単なテスト
- 5 性数の一致：冠詞と名詞
- 6 性数の一致：冠詞と名詞
- 7 規則動詞の現在形とその用法
- 8 規則動詞の現在形とその用法
- 9 規則動詞の現在形練習問題
- 10 規則動詞の現在形の活用
- 11 serとestarの活用と用法
- 12 serとestarの練習問題
- 13 serとestarの練習問題
- 14 serとestarの練習問題
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験に授業中の評価（小テスト、口頭での答え、作文など）も考慮します。欠席が多い場合その部分が不利になります。具体的には出席は必要条件なので1/3以上休んだ場合は下で述べる平常点を一切加味せず定期試験の点数だけで評価します。その1/3の条件を満たしている範囲での欠席は構いません。なお、クラブ活動など一切欠席届は認めません。

定期試験が60点以上ならば無条件で単位を認定しますが、60点を下回る場合にも平常点を加味して評価します。もちろん60点を超過している場合も平常点を加算して、成績を決めます。平常点は普通の教室でのやりとり（読む、書くなど）や小テストの点数を年間に亘って数値化します。その年度によって若干の差異はありますが、最大で30点くらいになるようにします。したがって、欠席が多い場合（例えば小テストを受けていないとか、授業中答えていないなど）で平常点が少なくなりますので、そのつもりで取り組んでください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

語学は基本的には演習科目なので出席は必要条件だけど、十分条件ではないので、そのことを自覚してしっかりと取り組んで欲しい。

履修上の注意 /Remarks

最初に数回は基礎になる重要な事項が多いので、休まずに理解して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

留学、学習その他なんでも相談OKです！
メール：faoki@fukuoka-u.ac.jp

キーワード /Keywords

スペイン語II 【昼】

担当者名 /Instructor 青木 文夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級から中級程度のスペイン語の文法と表現を学びながら、スペインや中南米のスペイン語圏の文化理解の導入とします。視聴覚教材も楽しいものを提示し、スペイン語に馴染めるようにします。具体的にはスペイン語Iのテキストの続きをある程度複雑な文や、スペイン語に独特な文を作れるようなレベルまで進みます。英語にない文のパターンも、最初は複雑だと思うかもしれませんが、慣れてくると簡潔な表現で多くの情報が伝わる面白さが理解できるでしょう。

教科書 /Textbooks

『スペイン語で表現しよう』青木・辻・エルナンデス共著 弘学社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

図説スペインの歴史(川成洋、中西省三編:河出書房新社)
 スペインの歴史(立石、関、中川、中塚著:昭和堂)
 スペイン(増田監修:新潮社)
 スペインの社会(寿里、原編:早稲田大学出版)
 スペインの政治(川成、奥島編:早稲田大学出版)
 スペインの経済(戸門、原編:早稲田大学出版)
 スペイン語基礎文法(ロボ、大森、広康共訳:ピアソンエデュケーション)
 辞書についてはスペイン語Iで述べたのを参考にしてください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 不規則動詞現在形の活用の仕組みと用法を中心に。
- 2回 不規則動詞現在形の活用の仕組みと用法を中心に。
- 3回 不規則動詞現在形の活用の仕組みと用法を中心に。
- 4回 与格と対格の代名詞と再帰代名詞を用いた表現。
- 5回 与格と対格の代名詞と再帰代名詞を用いた表現。
- 6回 与格と対格の代名詞と再帰代名詞を用いた表現。
- 7回 与格と対格の代名詞と再帰代名詞を用いた表現。
- 8回 日付の表現
- 9回 時刻
- 10回 天気の表現
- 11回 不定語について
- 12回 スペイン語圏の国々について:視聴覚教材を用いて
- 13回 スペイン語圏の国々について:視聴覚教材を用いて
- 14回 まとめ
- 15回 スペイン語のさらなる習得に向けて

成績評価の方法 /Assessment Method

語学は基本的には演習科目なので出席は必要条件だけど、十分条件ではないので、そのことを自覚してしっかりと取り組んで欲しい。定期試験に授業中の評価(小テスト、口頭での答え、作文など)も考慮します。欠席が多い場合その部分が不利になります。具体的には出席は必要条件なので1/3以上休んだ場合は平常点を考慮せずに評価します。その条件を満たしていれば数回の欠席は構いません。なお、クラブなどの欠席届は認めません。定期試験に今述べた平常点を最大30点まで加算します。もちろん60点を超過している場合でも、平常点を加味して成績を算定します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

前期に比べて少し複雑な内容になると思いますが、ロマンス語(スペイン語、イタリア語、ポルトガル語、フランス語など)に共通する文法の基礎にもなるので、しっかりと取り組んで、将来の学習につなげましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

留学・学習の相談、何でもOKです。メール: faoki@fukuoka-u.ac.jp

キーワード /Keywords

スペイン語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

スペイン語の発音・読み方からはじめ、テキストの会話表現を学んでいきます。スペイン語の発音は日本語話者に易いので、テキストの単語を発音しながらスペイン語の音に慣れましょう。
文法事項を押さえながら学ぶ会話表現なので、理解しやすくスペイン語の基礎固めになります。

教科書 /Textbooks

『コミュニケーションのためのスペイン語(三訂版)』坂東省次 他著、2009、第三書房

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。
西和辞書については開講時に指示しますが、薦めるものとしては『クラウン西和辞典』三省堂2005、
『現代スペイン語辞典』白水社1999、電子辞書などです。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語とスペイン語圏について、アルファベットの読み方
- 2回 発音とアクセント
- 3回 発音、挨拶 「お願いします」
- 4回 定冠詞、不定冠詞、hay 「空港に銀行はありますか」
- 5回 -ar動詞、否定文、疑問文I 「スペイン語を話しますか」
- 6回 数字1-100、動詞estar 「タクシー乗り場は何処ですか」
- 7回 動詞ir、dar 「どこに行きましょうか」
- 8回 疑問文II、前置詞a
- 9回 estarとhayのまとめ
- 10回 形容詞 「感じのいい人たち」
- 11回 ser動詞、ser/estarと形容詞 「私はスペイン人です」
- 12回 ser/estarまとめ、時間表現 「何時ですか」
- 13回 -er動詞、-ir動詞 新聞は何処で売っていますか」
- 14回 所有詞 「アントニオは私の友人です」
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 70%、日常の授業への取り組み 30% (うち、小テストを行う場合は10%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

動詞の活用、既出単語などは授業前に覚えてきてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語

スペイン語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

スペイン語Ⅲの続きから、更に表現を学んでいきます。Ⅲと同様、文法項目を押さえながら学ぶ会話表現です。理解したうえで聞き取り、会話表現を発展させていきます。

教科書 /Textbooks

Ⅲと同じテキストを使用。
(『コミュニケーションのためのスペイン語(三訂版)』坂東省次 他著、2009、第三書房)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

西和辞書についてはⅢの開講時に指示したものと同じです。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Ⅲの復習、数字100-100.000
- 2回 語根母音変化動詞 「お勤めは何ですか」
- 3回 指示詞 「この果物は何ですか」
- 4回 間接目的格人称代名詞、感嘆文
- 5回 gustar構文 「頭が痛い」
- 6回 不規則動詞 「兄弟が二人います」
- 7回 不定詞の用法 「日曜の予約をしたい」
- 8回 直接目的格人称代名詞 「君にそれをあげる」
- 9回 命令(！) 「もう一度質問しなさい」
- 10回 再帰動詞 「何時に起きますか」
- 11回 「もう行っちゃうの」
- 12回 自己紹介 「私は石田です」
- 13回 現在分詞
- 14回 不定語と否定語
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 ... 70% 日常の授業への取り組み ... 30% (うち、小テストを行う場合は10%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

動詞の活用、既出単語などは授業前に覚えてきてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語

スペイン語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 辻 光博 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

スペイン語Ⅰ・Ⅱを復習・継続し、初級の文法を完了します。

教科書 /Textbooks

スペイン語Ⅰ・Ⅱと同じ(青木・辻・マリア J. 共著『スペイン語で表現しよう』、弘学社

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし。西和辞典又は電子辞書必携。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 接続法とは何か
- 2回 接続法現在・規則活用
- 3回 接続法現在・不規則活用
- 4回 接続法現在の用法
- 5回 命令法・命令形
- 6回 感嘆文
- 7回 比較級
- 8回 相対・絶対最上級
- 9回 不定詞を用いた放任・使役の動詞
- 10回 不定詞を用いた忠告・命令・許可・禁止の動詞
- 11回 SEの受身文
- 12回 SEの無人称文
- 13回 接続法の過去・現在完了・過去完了
- 14回 接続法の用法(独立文)
- 15回 接続法の例文

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

スペイン語Ⅰ・Ⅱを良く理解・学習しておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

欠席は好ましくありません。

キーワード /Keywords

スペイン語圏

スペイン語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 辻 光博 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

スペインの文化・風土・歴史などを織り込んだ中級程度のスペイン語の文章を読みます。スペイン語及びスペインに関する幅広い知識を身に付けます。

教科書 /Textbooks

青木文夫・辻光博共著『現代スペイン語：文法と表現』（弘学社）の、講読部分（別冊。500円）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。西和辞典又は電子辞書必携。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

* スペイン語講読・説明・解説

- 1回 第一課 【位置】
- 2回 第二課 【風土】
- 3回 第三課 【行政】
- 4回 第四課 【生活】
- 5回 第五課 【バルセローナ】
- 6回 第六課 【マドリード】
- 7回 第七課 【中世文学】
- 8回 第八課 【レコンキスタ】
- 9回 第九課前半 【古代ローマ治下】
- 10回 第九課後半 【イスラーム治下】
- 11回 第十課 【セビージャ】
- 12回 第十一課前半 【レコンキスタの完了】
- 13回 第十一課後半 【スペイン帝国】
- 14回 第十二課 【ドン・キホーテ】
- 15回 第十三課 【バスク自治州】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

スペイン語Ⅱ・Ⅴを良く理解・学習しておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

欠席は好ましくありません。

キーワード /Keywords

古代ローマ帝国 イスラーム レコンキスタ

スペイン語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

前年度のスペイン語Ⅲ・Ⅳ(会話表現)を更に発展させていきます。スペイン語テキストの文法事項を押さえ、いろいろな場面に応じた会話表現を学んでいきます。また、適宜音声教材やDVD教材などを使用し、ネイティブの話すスペイン語理解(聞き取り)も行います。

教科書 /Textbooks

なし。プリントを使用。初回には、前年度スペイン語Ⅲ、Ⅳのテキスト『オラ!』(粕谷てる子著、2010、第三書房)を持参のこと。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし。
辞書については開講時に指示します。西和辞書で薦めるものは『クラウン西和辞典』三省堂2005、
『現代スペイン語辞典』白水社1999、電子辞書などです。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前年度スペイン語Ⅲ・Ⅳの復習(スペイン語聞き取り)
- 2回 前年度スペイン語Ⅲ・Ⅳの復習(スペイン語会話練習)
- 3回 「ロラへの手紙」
- 4回 「電話口にて」再帰動詞
- 5回 「モニカの友人が到着した」現在完了、過去形について
- 6回 「サラマンカへの行き方」命令形、接続法について
- 7回 「セビーリャへの電車は何時ですか」
- 8回 「旅行の計画」
- 9回 「買い物：プレゼント用に包んでほしいのですが」
- 10回 「レストランにて：パエリャは時間かかるんですか」
- 11回 「住居探し：家賃は月にいくら」比較表現
- 12回 「面接：昨日の人物よりよさそうだ」
- 13回 「人物について：新しい恋人」
- 14回 「好きな有名人」
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 60%、日常の授業への取り組み 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

辞書必携です。

履修上の注意 /Remarks

スペイン語初級(Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ)の単位をとっていることは必須ではありませんが、よく理解している必要があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語 スペイン語圏 中南米 ラテンアメリカ

スペイン語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

スペイン語VIIを更に発展させていきます。いろいろな場面に応じた会話表現を学んでいきます。また、適宜音声教材やDVD教材などを使用し、ネイティブの話すスペイン語理解(聞き取り)も行います。

教科書 /Textbooks

なし。プリントを配ります。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。
辞書についてはスペイン語VIIに同じです。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | |
|-----|-----------------------------|
| 1回 | スペイン語VIIの復習 |
| 2回 | 「待ち時間：今週はもう5回目だよ」 |
| 3回 | 「面接：こういった企業で働いたことはありますか」点過去 |
| 4回 | 「そのとき～の部署で働いていました」線過去 |
| 5回 | 過去形のまとめ |
| 6回 | 「夜8時の船にしよう」直説法未来 |
| 7回 | 「お釣りはありますか」接続法 |
| 8回 | 「私だっ行ってきたいけれど・・・」直説法過去未来 |
| 9回 | 短編教材と聞き取り |
| 10回 | 短編教材と会話練習 |
| 11回 | 「一番○○なこと」 |
| 11回 | 「都市に住むか、田舎に住むか」 |
| 13回 | スペイン語でDVDなどを見る(1) |
| 14回 | スペイン語でDVDなどを見る(2) |
| 15回 | まとめ |

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 60% 日常の授業への取り組み 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

辞書必携です。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

スペイン語(I・II・III・IV・V・VII)の単位をとっていることは必須ではありませんが、よく理解している必要があります。

キーワード /Keywords

スペイン語 スペイン語圏 中南米 ラテンアメリカ

日本語 A 【昼】

担当者名 /Instructor 国際教育交流センター 小林浩明、非常勤講師 中山亜紀子

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期 (ペア)
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語Aでは、特に「大学生生活へのオリエンテーション」と「日本語表現力」に焦点を当てる。「大学生生活へのオリエンテーション」では、日本の大学教育の特徴を理解しながら、大学生として必要な「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」を実際に体験しながら学ぶ。「日本語表現力」では、タスクを用いた自己発信型トレーニングにより、論理的思考力を伸ばす。

教科書 /Textbooks

『大学・大学院留学生のためのやさしい論理的思考トレーニング』(西隈俊哉、アルク)
『スタディスキルズ・トレーニング - 大学で学ぶための25のスキル』(吉原恵子他、実教出版)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○佐々木瑞枝他『大学で学ぶためのアカデミック・ジャパニーズ』The Japan Times

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

< 小林担当分 >	< 中山担当分 >
1回 オリエンテーション	1回 オリエンテーション
2回 高校・日本語学校と大学の違い	2回 大学生と論理的思考力
3回 大学・学部・学科について学ぶ	3回 リストアップする
4回 キャンパスツアー	4回 マッピングする
5回 大学教員・職員との付き合い方	5回 キーワードを繋げる
6回 図書館ツアー	6回 イラストから読み取ったことを表現する
7回 大学生生活のデザイン	7回 定義をする
8回 講義の上手な受け方	8回 日本語の語順に沿って考える
9回 演習に参加するコツ	9回 時間軸に沿って考える
10回 チュートリアル(1)【学習計画】	10回 主張に理由を加えて表現する
11回 チュートリアル(2)【振り返り】	11回 主張に理由や具体例を加えて表現する
12回 チュートリアル(3)【修正】	12回 総合的に表現する
13回 チュートリアル(4)【評価】	13回 論理的に考えて表現する
14回 大学の定期試験	14回 日本語で表現することと自分
15回 総括	15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ... 30 %
ポートフォリオ評価 ... 70%(学習者評価 30% ピア評価 20% 実習生評価 20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定である。

履修上の注意 /Remarks

日本語Aは、ペア科目です。週2回同じクラスで受講しなければなりません。
日本語Aと日本語Bは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生活日本語 大学生活日本語 大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ) 日本語表現力

日本語 A 【昼】

担当者名 /Instructor 国際教育交流センター 小林浩明、非常勤講師 中山亜紀子

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期(ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス 留学生 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語Aでは、特に「大学生生活へのオリエンテーション」と「日本語表現力」に焦点を当てる。「大学生生活へのオリエンテーション」では、日本の大学教育の特徴を理解しながら、大学生として必要な「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」を実際に体験しながら学ぶ。「日本語表現力」では、タスクを用いた自己発信型トレーニングにより、論理的思考力を伸ばす。

教科書 /Textbooks

『大学・大学院留学生のためのやさしい論理的思考トレーニング』(西隈俊哉、アルク)
『スタディスキルズ・トレーニング - 大学で学ぶための25のスキル』(吉原恵子他、実教出版)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○佐々木瑞枝他『大学で学ぶためのアカデミック・ジャパニーズ』The Japan Times

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

< 小林担当分 >	< 中山担当分 >
1回 オリエンテーション	1回 オリエンテーション
2回 高校・日本語学校と大学の違い	2回 大学生と論理的思考力
3回 大学・学部・学科について学ぶ	3回 リストアップする
4回 キャンパスツアー	4回 マッピングする
5回 大学教員・職員との付き合い方	5回 キーワードを繋げる
6回 図書館ツアー	6回 イラストから読み取ったことを表現する
7回 大学生生活のデザイン	7回 定義をする
8回 講義の上手な受け方	8回 日本語の語順に沿って考える
9回 演習に参加するコツ	9回 時間軸に沿って考える
10回 チュートリアル(1)【学習計画】	10回 主張に理由を加えて表現する
11回 チュートリアル(2)【振り返り】	11回 主張に理由や具体例を加えて表現する
12回 チュートリアル(3)【修正】	12回 総合的に表現する
13回 チュートリアル(4)【評価】	13回 論理的に考えて表現する
14回 大学の定期試験	14回 日本語で表現することと自分
15回 総括	15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ... 30 %
ポートフォリオ評価 ... 70%(学習者評価 30% ピア評価 20% 実習生評価 20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定である。

履修上の注意 /Remarks

日本語Aは、ペア科目です。週2回同じクラスで受講しなければなりません。
日本語Aと日本語Bは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生活日本語 大学生活日本語 大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ) 日本語表現力

日本語 B 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 (ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を滋養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語Bでは、大学生に求められる文章を書けるようになることをめざし、その基礎となる日本語表現を学ぶ。具体的には、TAE(THINKING AT THE EDGE)を用い、日常的な身体感覚を日本語で展開できるようになることを目標とする。また、講義を聞き取るための聴解スキルやノートテイキング、批判的思考力を養うためのディベート活動も行う。

教科書 /Textbooks

得丸さと子『TAEによる文章表現ワークブック』図書文化

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○犬飼康弘『聴解・発表ワークブック』スリーエーネットワーク
福嶋健伸編著『大学生のための日本語表現トレーニング』三省堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業オリエンテーション
- 2回 ノートテイキング【メモ】【構成】
- 3回 基本練習テーマ「食中毒」【全体の流れ】【基本的表現】
- 4回 「言葉と文化」【背景説明】【方向付け】
- 5回 「不登校」【予告】【本論】【データ提示】
- 6回 「高校生とバイク」【データの説明】【データの解釈】
- 7回 「食料自給率」【データ比較】
- 8回 応用練習テーマ「少子化」【序論・本論・結論の構成確認】
- 9回 ディベート「ディベートにふさわしいテーマ」
- 10回 「ディベートの流れ」
- 11回 「実践①」【立論】【反論】
- 12回 「実践②」【最終弁論】
- 13回 「実践③」【判定】
- 14回 TAE「ウォーミングアップ編」【フェルトセンス】【リラックスのワーク】
- 15回 「ウォーミングアップ編」【色模様のワーク】
- 16回 「初級編」【コツのワーク】【共同詩のワーク】
- 17回 「初級編」【励ます言葉のワーク】
- 18回 「初級編」【マイセンテンス】
- 19回 「中級編」【パターンを見つける】
- 20回 「中級編」【パターンを交差させる】
- 21回 「中級編」【自己PR文を作ろう】
- 22回 「中級編」【資料を使って論じよう】
- 23回 「中級編」【経験から論じよう】
- 24回 「中級編」【感想文を書こう】
- 25回 「上級編」【理論】
- 26回 「上級編」【～は...である】
- 27回 「上級編」【性質を考えて思考を深めよう】
- 28回 「上級編」【概念を組み込んで理論を作ろう】
- 29回 「上級編」【理論を精緻化しよう】
- 30回 「上級編」【フェルトセンスから理論を作る】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み・・・30% 発表・課題・・・30% 自己評価...20% ピア評価...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日頃から、身体や気持ちの感覚に注意を払っててください。

日本語 B 【昼】

履修上の注意 /Remarks

日本語AとBは授業内容の関連が深いので同時受講が望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ノートテイキング ディベート TAE 身体を感じ

日本語 B 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 (ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を滋養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語Bでは、大学生に求められる文章を書けるようになることをめざし、その基礎となる日本語表現を学ぶ。具体的には、TAE(THINKING AT THE EDGE)を用い、日常的な身体感覚を日本語で展開できるようになることを目標とする。また、講義を聞き取るための聴解スキルやノートテイキング、批判的思考力を養うためのディベート活動も行う。

教科書 /Textbooks

得丸さと子『TAEによる文章表現ワークブック』図書文化

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○犬飼康弘『聴解・発表ワークブック』スリーエーネットワーク
福嶋健伸編著『大学生のための日本語表現トレーニング』三省堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業オリエンテーション
- 2回 ノートテイキング【メモ】【構成】
- 3回 基本練習テーマ「食中毒」【全体の流れ】【基本的表現】
- 4回 「言葉と文化」【背景説明】【方向付け】
- 5回 「不登校」【予告】【本論】【データ提示】
- 6回 「高校生とバイク」【データの説明】【データの解釈】
- 7回 「食料自給率」【データ比較】
- 8回 応用練習テーマ「少子化」【序論・本論・結論の構成確認】
- 9回 ディベート「ディベートにふさわしいテーマ」
- 10回 「ディベートの流れ」
- 11回 「実践①」【立論】【反論】
- 12回 「実践②」【最終弁論】
- 13回 「実践③」【判定】
- 14回 TAE「ウォーミングアップ編」【フェルトセンス】【リラックスのワーク】
- 15回 「ウォーミングアップ編」【色模様のワーク】
- 16回 「初級編」【コツのワーク】【共同詩のワーク】
- 17回 「初級編」【励ます言葉のワーク】
- 18回 「初級編」【マイセンテンス】
- 19回 「中級編」【パターンを見つける】
- 20回 「中級編」【パターンを交差させる】
- 21回 「中級編」【自己PR文を作ろう】
- 22回 「中級編」【資料を使って論じよう】
- 23回 「中級編」【経験から論じよう】
- 24回 「中級編」【感想文を書こう】
- 25回 「上級編」【理論】
- 26回 「上級編」【～は...である】
- 27回 「上級編」【性質を考えて思考を深めよう】
- 28回 「上級編」【概念を組み込んで理論を作ろう】
- 29回 「上級編」【理論を精緻化しよう】
- 30回 「上級編」【フェルトセンスから理論を作る】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み・・・30% 発表・課題・・・30% 自己評価...20% ピア評価...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日頃から、身体や気持ちの感覚に注意を払っててください。

履修上の注意 /Remarks

日本語AとBは授業内容の関連が深いので同時受講が望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ノートテイキング ディベート TAE 身体を感じ

日本語C 【昼】

担当者名 /Instructor 国際教育交流センター 小林浩明、非常勤講師 中山亜紀子

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期(ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語Cでは、特に「読むこと」に焦点を当てる。タスクを用いた読解トレーニングにより、論理的思考力を伸ばすことと、ピア・リーディングによる読み方の変化と読みにおける他者の存在の有用性に気付くことで、留学生一人一人に「日本語で読むこととは何か」を問いかける。また、日本語Aに続き、アカデミックなスタディスキルの練習を行う。

教科書 /Textbooks

『大学・大学院留学生のためのやさしい論理的思考トレーニング』(西隈俊哉、アルク)
『スタディスキルズ: トレーニング - 大学で学ぶための25のスキル』(吉原恵子他、実教出版)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○一橋大学留学生センター『留学生のためのストラテジーを使って学ぶ文章の読み方』スリーエーネットワーク

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

< 中山担当分 >	< 小林担当分 >
1回 オリエンテーション	1回 オリエンテーション
2回 大学生に求められる読む力	2回 小論文と学術的文章の違い
3回 自己評価	3回 小論文を書く(1)
4回 絵やイラストを読む	4回 小論文を書く(2)
5回 文章を読んで図や表にする	5回 テーマを決める
6回 表やグラフを読み取る	6回 資料を探す(スキミングとスキミング)
7回 表やグラフ以外のものを読み取る	7回 資料を読む(批判的な読み方)
8回 マッピングしながら読む	8回 図解で考える
9回 登場人物になったつもりで読む	9回 表やグラフを描く
10回 どちらがいいかを考えながら読む	10回 レポートの特徴
11回 理由を考えながら読む	11回 主体的に読む・聞く
12回 前後の文脈から推論しながら読む	12回 レジюмеを作成する
13回 総合的に読む	13回 パソコンを使ったプレゼン
14回 日本語で読むことと自分について考える	14回 ポスターを使ったプレゼン
15回 総括	15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ...30%
ポートフォリオ評価 ...70%(自己評価 30% ピア評価 20% 実習生評価 20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が授業の一部を担当する予定である。

履修上の注意 /Remarks

日本語Cと日本語Dは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

論理的思考 大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ) ピア・リーディング スタディスキル

日本語C 【昼】

担当者名 /Instructor 国際教育交流センター 小林浩明、非常勤講師 中山亜紀子

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期(ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス 留学生1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語Cでは、特に「読むこと」に焦点を当てる。タスクを用いた読解トレーニングにより、論理的思考力を伸ばすことと、ピア・リーディングによる読み方の変化と読みにおける他者の存在の有用性に気付くことで、留学生一人一人に「日本語で読むこととは何か」を問いかける。また、日本語Aに続き、アカデミックなスタディスキルの練習を行う。

教科書 /Textbooks

『大学・大学院留学生のためのやさしい論理的思考トレーニング』(西隈俊哉、アルク)
『スタディスキルズ: トレーニング - 大学で学ぶための25のスキル』(吉原恵子他、実教出版)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○一橋大学留学生センター『留学生のためのストラテジーを使って学ぶ文章の読み方』スリーエーネットワーク

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

< 中山担当分 >	< 小林担当分 >
1回 オリエンテーション	1回 オリエンテーション
2回 大学生に求められる読む力	2回 小論文と学術的文章の違い
3回 自己評価	3回 小論文を書く(1)
4回 絵やイラストを読む	4回 小論文を書く(2)
5回 文章を読んで図や表にする	5回 テーマを決める
6回 表やグラフを読み取る	6回 資料を探す(スキミングとスキミング)
7回 表やグラフ以外のものを読み取る	7回 資料を読む(批判的な読み方)
8回 マッピングしながら読む	8回 図解で考える
9回 登場人物になったつもりで読む	9回 表やグラフを描く
10回 どちらがいいかを考えながら読む	10回 レポートの特徴
11回 理由を考えながら読む	11回 主体的に読む・聞く
12回 前後の文脈から推論しながら読む	12回 レジюмеを作成する
13回 総合的に読む	13回 パソコンを使ったプレゼン
14回 日本語で読むことと自分について考える	14回 ポスターを使ったプレゼン
15回 総括	15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ...30%
ポートフォリオ評価 ...70%(自己評価 30% ピア評価 20% 実習生評価 20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が授業の一部を担当する予定である。

履修上の注意 /Remarks

日本語Cと日本語Dは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

論理的思考 大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ) ピア・リーディング スタディスキル

日本語D 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 (ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を滋養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語Dでは、日本語で書くことを中心とする。特に、論拠を基に意見を述べる「論証型レポート」を作成することを目標とする。レポートを作成しながら課題に取り組むことで、日本語表現の学習だけではなく、構想からレポートの完成に至る一連の過程を学ぶ。授業ではピア(仲間)活動を多く取り入れ、自分の考えを論理的に伝え、相手の意見を聴くことで、協働的に学習することの有効性を感じてもらう。

教科書 /Textbooks

『ピアで学ぶ大学生の日本語表現』(大島弥生他、ひつじ書房)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『レポートの組み立て方』(木下是雄、筑摩書房)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の目的及び必要性を知る【知る】
- 2回 授業の目的及び必要性を知る【課題の条件を確認する】
- 3回 レポートとは何かを考える【論証型レポート】
- 4回 レポートとは何かを考える【根拠の大切さを知る】
- 5回 レポートのテーマを考える【構想マップ】
- 6回 レポートのテーマを考える【練る】
- 7回 情報をカード化する【情報の信頼性】
- 8回 情報をカード化する【調べる】
- 9回 目標を仮に規定する【情報の整理】
- 10回 目標を仮に規定する【絞る】
- 11回 アウトラインを作る【序論・本論・結論】
- 12回 アウトラインを作る【組み立てる】
- 13回 パラグラフライティング【中心文】
- 14回 パラグラフライティング【説明文・指示文】
- 15回 パラグラフライティング【引用】
- 16回 パラグラフライティング【引用文献リスト】
- 17回 文章を点検する【校正】
- 18回 文章を点検する【表現の点検】
- 19回 文章を点検する【形式の点検】
- 20回 文章を点検する【ピア・レスポンス】
- 21回 レポートの完成【体裁】
- 22回 レポートの完成【最終稿】
- 23回 発表を準備する【発表の意義・レジユメの作成】
- 24回 発表を準備する【発表の練習】
- 25回 発表する【話し手】
- 26回 発表する【聴き手】
- 27回 発表する【司会】
- 28回 発表する【相互評価】
- 29回 学習プロセスを振り返る
- 30回 まとめ【自己評価・ピア評価】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み...40% レポート・発表...40% ピア評価...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日頃から時事問題に関心を持ち、それに対して自分の意見を考えてみてください。

履修上の注意 /Remarks

日本語C及びDは、授業内容の関連性が深いので同時に履修することが望ましい。

日本語D 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

論証型レポート ピア・ラーニング 論理的思考

日本語D 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 (ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を滋養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語Dでは、日本語で書くことを中心とする。特に、論拠を基に意見を述べる「論証型レポート」を作成することを目標とする。レポートを作成しながら課題に取り組むことで、日本語表現の学習だけではなく、構想からレポートの完成に至る一連の過程を学ぶ。授業ではピア(仲間)活動を多く取り入れ、自分の考えを論理的に伝え、相手の意見を聴くことで、協働的に学習することの有効性を感じてもらう。

教科書 /Textbooks

『ピアで学ぶ大学生の日本語表現』(大島弥生他、ひつじ書房)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『レポートの組み立て方』(木下是雄、筑摩書房)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の目的及び必要性を知る【知る】
- 2回 授業の目的及び必要性を知る【課題の条件を確認する】
- 3回 レポートとは何かを考える【論証型レポート】
- 4回 レポートとは何かを考える【根拠の大切さを知る】
- 5回 レポートのテーマを考える【構想マップ】
- 6回 レポートのテーマを考える【練る】
- 7回 情報をカード化する【情報の信頼性】
- 8回 情報をカード化する【調べる】
- 9回 目標を仮に規定する【情報の整理】
- 10回 目標を仮に規定する【絞る】
- 11回 アウトラインを作る【序論・本論・結論】
- 12回 アウトラインを作る【組み立てる】
- 13回 パラグラフライティング【中心文】
- 14回 パラグラフライティング【説明文・指示文】
- 15回 パラグラフライティング【引用】
- 16回 パラグラフライティング【引用文献リスト】
- 17回 文章を点検する【校正】
- 18回 文章を点検する【表現の点検】
- 19回 文章を点検する【形式の点検】
- 20回 文章を点検する【ピア・レスポンス】
- 21回 レポートの完成【体裁】
- 22回 レポートの完成【最終稿】
- 23回 発表を準備する【発表の意義・レジユメの作成】
- 24回 発表を準備する【発表の練習】
- 25回 発表する【話し手】
- 26回 発表する【聴き手】
- 27回 発表する【司会】
- 28回 発表する【相互評価】
- 29回 学習プロセスを振り返る
- 30回 まとめ【自己評価・ピア評価】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み...40% レポート・発表...40% ピア評価...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日頃から時事問題に関心を持ち、それに対して自分の意見を考えてみてください。

履修上の注意 /Remarks

日本語C及びDは、授業内容の関連性が深いので同時に履修することが望ましい。

日本語D 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

論証型レポート ピア・ラーニング 論理的思考

日本事情 (人文) A 【昼】

担当者名
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 留学生 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
						○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The major object of this course is to learn basic knowledge of contemporary Japanese culture and society. For the purpose, this course deals with a wide range of the latest topics in Japanese society as shown below. Through the course, students are encouraged to grow their own critical perspective to examine those topics. While this course emphasizes the unique characteristics of contemporary Japanese culture and society, it also discusses some common in our society in the age of globalization.

教科書 /Textbooks

Sugimoto, Y. (2010) An Introduction to Japanese Society. 3rd. edition. Cambridge: Cambridge University Press.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Sugimoto, Y. ed. (2009) The Cambridge Companion to Modern Japanese Culture. Cambridge: Cambridge University Press.
Hendry, J. (2000) The Empire Strikes Back: A Global View of Cultural Display. Oxford: Berg.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week01: Contemporary Japanese society : an introduction
Week02: The Japanese: class/stratification, and generational variations
Week03: Work and education in Japan
Week04: Tutorial (Japanese society today)
Week05: Japan's establishment: politics, business, and labor
Week06: Family and sexuality in Japan
Week07: Multiethnic Japan: minorities in society
Week08: Tutorial (social issues in contemporary Japan)
Week09: Leisure and tourism in Japan
Week10: Popular culture in Japan
Week11: Visual culture in Japan
Week12: Tutorial (Reading popular culture)
Week13: Japanese popular culture in the world
Week14: Cultural nationalism in the age of globalization
Week15: Japanese culture and society: a summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Class participation 30%
Mid-term essay 30%
Final essay 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Basic knowledge of Japanese culture and society

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Japanese society, Japanese culture, sociology, cultural studies, social change, globalization

日本事情 (人文) B 【昼】

担当者名
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 留学生 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
						○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The aim of this course is to read 'Otaku: Japan's Database Animals', one of the most controversial critiques of contemporary Japanese culture and society in the last decade. In the discussion of the nature of contemporary 'Otaku' culture in Japan, by using a wide range of sociological, cultural and philosophical terms, the author attempts to create a social theory to characterize contemporary Japanese society. Through reading and discussing this exciting text in the course, it expects students to develop the ways in which they consider contemporary Japanese society, after the rise of hyper consumer society in advanced media technologies.

教科書 /Textbooks

Azuma, H. (2009) Otaku: Japan's Database Animals. Minneapolis, MN: University of Minnesota Press.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

TBA

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week01: What is the 'Database Animals'? : an introduction
 Week02: The Otaku's pseudo-Japan (1): What is Otaku culture?
 Week03: The Otaku's pseudo-Japan (2): The postmodernism fad and the expansion of Otaku culture
 Week04: Tutorial
 Week05: Database animals (1): Otaku and postmodernity
 Week06: Database animals (2): The grand nonnarrative
 Week07: Database animals (3): Moe-elements
 Week08: Tutorial
 Week09: Database animals (4): Database consumption
 Week10: Database animals (5): The simulacra and the database
 Week11: Database animals (6): The animal age
 Week12: Tutorial
 Week13: Hyperflatness and multiple personality (1): Hyperflatness and hypervisuality
 Week14: Hyperflatness and multiple personality (2): Multiple personality
 Week15: Summary and conclusion

成績評価の方法 /Assessment Method

Class Participation 30%
 Mid-term essay 30%
 Final essay 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Basic knowledge of Japanese culture and society

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Japanese culture, Japanese society, consumer society, subculture, sociology, media studies, cultural studies, postmodernity

日本事情 (社会) A 【昼】

担当者名 山崎 勇治 / 国際教育交流センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 留学生 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

授業概要

第二次世界大戦後、日本経済はどのようにして発展してきたか、発展の過程でどんな問題が生じたかを知り、今後の日本経済のあり方について考えることがこの講義の目標である。日本が経済大国になった高度経済成長の時代、石油ショックとそれを克服した時代、その後のバブル経済とその崩壊、そして“失われた10年”からの回復から現代にいたる問題を取りあげ考えていく。

到達目標

1. 第二次世界大戦後、日本経済がどのような経過をたどって現在に至ったかを理解できる。
2. 1973年、1979年の石油ショックを契機に、日本経済が大きく変わったことを理解できる。
3. 1985年のプラザ合意以降、急激な円高に直面し、対外進出を強めたことを理解できる。
4. バブル経済とその崩壊後の日本経済の諸問題について理解できる。
5. 今後の日本経済のゆくえについて述べるができる。

教科書 /Textbooks

口講義のため指定の教科書なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考図書等

- 半藤利一『昭和史』平凡社、2004年、『昭和史 戦後篇』平凡社2006年
- 井村喜代子『現代日本経済論』(有斐閣)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 戦後の荒廃から復興へ

- ①第2次世界大戦後の日本経済 - 戦災と経済の混乱

第2回 ②経済復興へ - 戦後の諸改革

省エネ・省力、ファクトリー・オートメーション、貿易・経済摩擦

第3回 ③占領下の経済から復興へ

第4回 2. 高度経済成長

- ① 高度経済成長へ

第5回 ②重化学工業の発展、国土開発政策の展開

第6回 ③経済発展と公害、四大公害訴訟

- ④円高と対外直接投資の増大・日本企業の対外進出

第7回 3. 石油ショックと低成長

- ① 石油ショックとその影響

第8回 ②“重厚長大”から“軽薄短小”へ

第9回 ③貿易・経済摩擦

第10回 ④円高と対外直接投資の増大・日本企業の対外進出

第11回 4. バブル崩壊、不況

- ①バブル経済、バブル崩壊と不況、不良債権問題

第12回 ②長引く不況 - 失業の増加、非正規労働者(パートタイマー、派遣労働者、フリーター等)の増加

第13回 ③アジア諸国、中国経済の発展と日本経済

第14回 5. 現在の日本経済の諸問題

- ①少子高齢化社会保障

第15回 ②財政危機と国民生活

成績評価の方法 /Assessment Method

授業貢献度20%、レポート30%、期末試験50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日本事情 (社会) A 【昼】

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業以外の学習方法: 受講生へのメッセージ

- ・ 新聞の経済、政治、社会面を毎日読むようにしてほしい。重要な内容の記事は、切り抜いてレポート、報告等に利用する。
- ・ 講義であげる参考文献を読むようにしてほしい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本事情 (社会) B 【昼】

担当者名 山崎 勇治 / 国際教育交流センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 留学生 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本は公的医療制度たる国民皆保険制度のおかげで、世界一の長寿国となった。男性は79歳、女性は86歳である。しかし医療費が年間30兆円を超えて財政難に直面している。

そこで、日本の将来の公的医療制度は如何にあるべきか。解答を得るために世界各国の公的医療制度を比較検討したい。具体的には留学生の出身国である、イギリス、韓国、中国、オーストラリアの公的医療制度を詳細に検討していく。

教科書 /Textbooks

留学生の説明を元に講義を行うので教科書は使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

その都度指示するが、さしあたり、池上直己『ベーシック 医療問題』(日本経済新聞社)を挙げておく。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 日本、イギリス、アメリカの医療制度の特徴
- 第2回 イギリスのNHS(ナショナル・ヘルスサービス)の歴史展開過程
- 第3回 第2次世界大戦とベバリッジ報告書
- 第4回 大戦後のアトリ-労働政権と福祉国家政策
- 第5回 ベバン保健大臣とNHS発足
- 第6回 NHSの組織とヘルスセンターの役割
- 第7回 サッチャー政権とNHS改革(1)
- 第8回 サッチャーの経済改革(2)
- 第9回 トニー・ブレア労働党のNHS改革
- 第10回 アメリカの医療制度
- 第11回 クリントンの医療改革
- 第12回 戦後日本経済史
- 第13回 国民皆保険制度の確立とその特徴
- 第14回 国民会保険制度の問題点
- 第15回 老人介護

成績評価の方法 /Assessment Method

授業貢献度20%、レポート20%、定期試験60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

新聞を毎日読んで 自国の政治や経済、社会文化に目を通しておくこと。特に公的医療制度の変更事項には注意すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域研究入門 (アメリカ) 【昼】

担当者名 /Instructor 田宮 晴彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

建国から現在に至る、アメリカ合衆国の歴史・政治・経済・外交・文化について概観し、各分野に関する基本的な知識を獲得し、アメリカに関する総合的な理解を深める。

教科書 /Textbooks

講義ごとにプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 ヨーロッパにおける「17世紀の危機」と新大陸
- 第3回 革命から建国へ
- 第4回 孤立主義と膨張主義の系譜
- 第5回 南北戦争への道
- 第6回 再建の時代と黒人問題
- 第7回 日米関係の黎明
- 第8回 世界強国への道
- 第9回 大衆消費社会の光と影
- 第10回 第1次世界大戦とウィルソンの国際主義
- 第11回 恐慌下のアメリカ社会
- 第12回 第2次世界大戦
- 第13回 冷戦下の世界とアメリカ
- 第14回 冷戦後の世界
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度...20% 課題(復習小テスト)...20% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講にあたって、高等学校での世界史・日本史履修の有無は問わないが、世界史の教科書を読んでおく和良好的。個人的な学習のための参考図書などは、授業中に指示する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカの社会I【昼】

担当者名 /Instructor 田宮 晴彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

アメリカ合衆国の人種的・民族的多様性をその起源にさかのぼり歴史的に概観すると共に、現在のエスニック状況も考察する。また、近年アメリカ合衆国で起こった、ないし起こりつつある出来事の中から顕著なものを取り上げ、各項目についての具体的事例、その歴史的背景、争点、多様な見解を解説する。

教科書 /Textbooks

講義ごとにプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 ヨーロッパにおける「17世紀の危機」と新大陸
- 第3回 特許状による植民とアングロ・アメリカ社会の形成
- 第4回 民族・人種から見るフレンチ・アンド・インディアン戦争
- 第5回 独立革命と疎外された人々
- 第6回 西部への膨張 - 「大草原の小さな家」を読む
- 第7回 南北戦争への道 - 奴隷制度と自由労働イデオロギー
- 第8回 再建期の黒人
- 第9回 日米関係の黎明 - サムライとホイットマン
- 第10回 世界強国への道 - 島嶼領土とフィリピン統治
- 第11回 新移民とボス政治
- 第12回 ウィルソンの国際主義と人種主義
- 第13回 日系移民と日米関係
- 第14回 第2次世界大戦 - 日系兵と戦後の名誉回復
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度...20% 課題(復習小テスト)...20% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講にあたって、高等学校での世界史・日本史履修の有無は問わないが、世界史の教科書を読んでおくが良い。個人的な学習のための参考図書などは、授業中に指示する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカの社会II 【昼】

担当者名 /Instructor 朝立 康太郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

アメリカ合衆国の民族的・人種的多様性をその起源にさかのぼり歴史的に概観すると共に、現在のエスニック状況も考察する。また、近年アメリカ合衆国で起こった、ないし起こりつつある出来事の中から、顕著なものを取り上げ、各項目について具体的な事例、その歴史的背景、争点、多様な見解を解説する。

教科書 /Textbooks

講義ごとにプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 南北戦争と奴隷制
- 第3回 南部再建と人種関係の再編
- 第4回 「新移民の流入」(2)-ヨーロッパからの新移民
- 第5回 「新移民の流入」(1)-中国系移民と日系移民
- 第6回 二つの世界大戦と「市民」への道程
- 第7回 映画「ミシシッピ・パーニング」
- 第8回 ブラウン判決以前の公民権運動
- 第9回 ブラウン判決とサザン・マニフェスト
- 第10回 ヴェトナム戦争と公民権運動
- 第11回 公民権運動の多様化
- 第12回 アファーマティヴ・アクションとは何か
- 第13回 アメリカにおけるアファーマティヴ・アクションの導入と展開
- 第14回 今後のエスニック状況の展望
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度...20% 課題(復習小テスト)...20% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講にあたって、高等学校での世界史・日本史履修の有無は問わないが、世界史の教科書を読んでおくが良い。個人的な学習のための参考図書などは、授業中に指示する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカの政治Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

アメリカ合衆国の形成と発展について、植民地期から南北戦争まで扱う。

教科書 /Textbooks

とくに使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

オリエンテーションで参考文献リストを配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回ガイダンス
- 第2回英領アメリカ植民地の形成
- 第3回7年戦争と反英抗争
- 第4回独立革命
- 第5回合衆国憲法の制定
- 第6回フェデラリストの時代
- 第7回ジェファソンの時代
- 第8回リパブリカン政権
- 第9回ジャクソンの時代
- 第10回市場革命と民主主義
- 第11回西部開拓と政党政治
- 第12回奴隷制の発展とセクシヨナリズム
- 第13回共和党の誕生
- 第14回南北戦争
- 第15回授業の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

テスト ... 70 % レポート ... 30 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

この講義の内容はアメリカ政治I,II, IVであつかう内容や、国際関係Iであつかうアメリカ外交とあわせて学習すると、アメリカ国家の発展をよく理解することができるようになります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカ 政治 歴史

アメリカの政治Ⅳ【昼】

専門教育科目
選択科目
米地域：国際科目群

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

アメリカ合衆国の政治発展について、植民地期から南北戦争まで扱う。

教科書 /Textbooks

とくに使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

オリエンテーションで参考文献リストを配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回ガイダンス
- 第2回19世紀後半のアメリカ政治の発展
- 第3回南北戦争の終結
- 第4回再建の時代のはじまり
- 第5回再建の時代の終結
- 第6回共和党政権と南北戦争後の連邦秩序
- 第7回金びか時代とマシーン政治
- 第8回北部の改革運動
- 第9回19世紀国家秩序の動揺
- 第10回1893年不況とポピュリズム
- 第11回マッキンレー政権の政治
- 第12回改革の時代
- 第13回帝国と帝国主義
- 第14回19世紀アメリカ民主政の特徴
- 第15回授業の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

テスト ... 70 % レポート ... 30 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

この講義の内容はアメリカ政治I,II, IIIであつかう内容や、国際関係Iであつかうアメリカ外交とあわせて学習すると、アメリカ国家の発展をよく理解することができるようになります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカ 政治 歴史

国際関係論I【昼】

担当者名 /Instructor 千知岩 正継 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

わたしたちが住むのは、グローバル化の進展によって地球上のあらゆる人びとが政治・経済・社会・文化の面で意識的・無意識的に緊密につながった世界。かような世界はいま、戦争、テロリズム、基本的人権の侵害、難民の大量発生、越境する感染症、地球規模の貧困や環境問題など、複雑かつ多岐にわたる難しい問題に直面しています。

そこでこの授業では、以上の難問について多面的に思索するための方法と基礎知識の獲得をめざします。授業の前半では国際関係の主要理論について説明し、後半では現代世界が抱えるグローバル・イシューのいくつかについて理論にもとづきながら検討します。

教科書 /Textbooks

山田高敬、大矢根聡 [編] 『グローバル社会の国際関係論』 [新版] (有斐閣、2011年)、2000円+税。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 村田晃嗣、君塚直隆、石川卓、他 [著] 『国際政治学をつかむ』 (有斐閣、2009年)。
- 原彬久 [編] 『国際関係学講義』 [第4版] (有斐閣、2011年)。
- 田中明彦、中西寛 [編] 『新・国際政治経済の基礎知識』 [新版] (有斐閣、2010年)。

その他の文献・論文については授業中に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. イントロダクション-なぜ国際関係論 (IR) を学ぶのか-: 理論、行為主体、争点
2. 国家とは何か: 主権、国民国家、弱い国家
3. 国内社会と国際社会: ハイアラーキー、アナーキー、権威
4. リアリズム-悲劇の国際政治-: パワー・ポリティクス、国益、慎慮
5. 構造的リアリズム-覇権が勢力均衡か-: 防衛的 / 攻撃的、相対的 / 絶対的、覇権安定論
6. リベラリズムの諸潮流-協調の国際政治-: 相互依存、制度、デモクラティック・ピース
7. ネオリベラリズム-アナーキーの下での協力-: 合理選択論、国際レジーム、ネオネオ統合
8. 英国学派-多様性と同質性の相克-: アナーキカル・ソサエティ、多元主義、連帯主義
9. コンストラクティヴィズム-現実の社会的構築-: 理念、間主観性、アイデンティティ
10. グローバル社会の到来: 冷戦の終焉、グローバル化、グローバルな市民社会
11. 現代の武力紛争と人道的介入: 内戦、複合緊急事態、R2P
12. グローバル内戦としての対テロ戦争: 先制・予防攻撃、拷問、標的殺害
13. 「核なき世界」は実現可能か: 核抑止、NPT、CTBT
14. 人権をめぐる国際政治: 普遍的人権、移民 / 難民、歓待の倫理
15. わたしたちの世界の行方-Singing our world into existence -

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点: 20%
レポート課題ないし小テスト: 30% (授業の初回で説明します)
期末試験: 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容・資料のプリントを大量に配布します。配布プリントを整理し、授業毎に必ずもってきてください。前もって指示するので、教科書や配布プリントを読んで予習するとともに、配布プリントに記載の設問を解いて復習してください。

国際関係論I【昼】

専門教育科目
選択科目
米地域：国際科目群

履修上の注意 /Remarks

情報量の多い授業です。かなりの集中力を要します。授業を欠席したり、授業中ボーっとしていると、たいへんなことになります。授業にはしっかり出席し、ノートをとってください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際関係論II 【昼】

専門教育科目
選択科目
米地域・国際科目群

担当者名 /Instructor 大平 剛 / 国際関係学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義では現代の国際社会が抱える様々な課題を取りあげ、その課題を解決するために取り組まれている諸活動を概観します。その際、単に諸問題の表層を捉えるのではなく、解決を困難にしている要因を歴史的側面からも分析します。また、様々な課題が互いに関連し合っていることを横断的に捉え直すことで、複雑な現代世界の諸相を捉える視点を養います。

教科書 /Textbooks

庄司真理子・宮脇昇編著『新グローバル公共政策』晃洋書房、2011年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

細谷千博監修、滝田賢治・大芝亮編『国際政治経済―「グローバル・イシュー」の解説と資料』有信堂高文社、2008年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 暴力と平和
- 第2回 国際システムの展開 - 近代から現代へ -
- 第3回 国際連合の役割と機能
- 第4回 貿易・通貨・金融 - プレトン・ウッズ体制 -
- 第5回 超国家機関の試み - EU -
- 第6回 国際レジームとグローバル・ガバナンス
- 第7回 グローバリゼーションと非国家アクター
- 第8回 安全保障概念の変化
- 第9回 大量破壊兵器不拡散レジームと小型武器問題
- 第10回 民主化と人権
- 第11回 ジェンダーの視点で捉える暴力
- 第12回 地球環境問題
- 第13回 貧困問題と開発
- 第14回 エネルギー問題
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 40% 学期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

平素から新聞を読んだり、関連の新書を読むように心がけると内容の理解がますます深まります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中の私語は厳禁です。遅刻や途中退室も他の受講生の迷惑になるので禁止します。

キーワード /Keywords

国際関係史I【昼】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description
現在の国際関係を理解するために必要な歴史的な知識を提供するとともに歴史的なアプローチを紹介する。講義では、第二次世界大戦後のアメリカの外交戦略の発展を体系的に論じるとともに、とくに冷戦終結期とポスト冷戦期の外交に重点を置いて議論を進める。

教科書 /Textbooks
使用しない。ただし、J. L. Gaddis, Strategies of Containment (Oxford University Press, 2005) を基礎として講義をおこなう。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
オリエンテーションで参考文献リストを配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回	ガイダンス【国際関係の史的発展】
第2回	国際政治史への接近視角【現実主義】【理想主義】
第3回	1945年の世界【ヤルタ協定】【ドイツ敗北】【ポツダム宣言】
第4回	封じ込めの形成【スターリン】【トルーマン】【原爆】
第5回	G・ケナンと長い平和【封じ込め】
第6回	NSC 68とアジアの激動【NSC 68】
第7回	朝鮮戦争の衝撃【朝鮮戦争】
第8回	核の恐怖【核兵器をめぐる国際政治】
第9回	ニュールック戦略【アイゼンハワー政権】【脱植民地化】
第10回	ケネディの時代とベトナム戦争【柔軟反応戦略】【近代化路線】
第11回	デタント戦略【ニクソン政権】
第12回	レーガンのアメリカ【レーガン政権】
第13回	冷戦の終結【東欧革命】【ドイツ統一】
第14回	ソ連崩壊とテロとの戦い【ソ連崩壊】【9・11同時多発テロ】
第15回	講義の総括

成績評価の方法 /Assessment Method
テスト ... 70 % レポート ... 30 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
この講義の内容はアメリカ合衆国が中心なので、日本外交や旧植民地諸国の発展をあわせて学習すると、国際関係の発展をよく理解できるようになります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords
国際政治 歴史 冷戦 封じ込め ポスト冷戦

国際関係史II 【昼】

担当者名 /Instructor 木村 健二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

東アジア諸国の近現代史を概観し、東アジア地域史と地域研究への理解を深める。過去と現在の「東アジアの中の日本」を考えることや、将来の「東アジア地域秩序の構想・構築」に有意義な観点を見出すことを目指す。そのために、「近代東アジアの国際関係と人の移動」というテーマで、1840年の中国におけるアヘン戦争以降、1945年のアジア太平洋戦争における日本の敗戦、そしてその後の冷戦に至る過程で、東アジアがいかなる国際関係の下に置かれ、そのもとで引き起こされた様々な形の人間の移動について、その要因・経緯・諸結果に関して検討していくことを課題とする。

教科書 /Textbooks

特に定めない。適宜プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

駒井洋監修『東アジアのディアスポラ』明石書店、2011年(5000円)ほか、適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. はじめに
2. 奴隷制の廃止とアジア人の国際人口移動
3. 中国・朝鮮・日本の開港と人の移動
4. 租界・居留地システムと人の移動
5. アメリカのハワイ・フィリピン領有と日本人移民
6. 日本による琉球処分と海外移民
7. 日本の韓国保護国化・併合と人の移動
8. 日本における外国人労働者観と外国人受け入れ政策
9. 中国・朝鮮関係と人の移動
10. 太平洋問題調査会における移民問題
11. 「満洲」における日本人・朝鮮人・中国人移民
12. 戦時下における人の強制移動(ソ連・日本・アメリカ)
13. 日本の敗戦と帝国圏からの引揚げ
14. 東アジア冷戦下における在日朝鮮人の処遇
15. その後の展開とまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 普段の授業における質問・感想・見解(30%)
- ・ 学期末試験(70%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ・ 授業内容に関する高等学校世界史・日本史テキストの理解
- ・ 基本的用語に関する予習(不平等条約・租界・琉球処分・内地雑居・間島・太平洋問題調査会等)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

・ この授業を通して、国際関係という大状況が人びとの暮らしや仕事、文化などにどのような影響を及ぼしていくのかに関して認識を深めてもらいたい。

キーワード /Keywords

国際貿易論I【昼】

担当者名 /Instructor 水戸 康夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現在の日本では、国際貿易と関係なく暮らすことはできない。朝食として、コメ、パン、お味噌汁、牛乳、卵、ベーコン、豆腐等を食べている人は多いと思う。コメを生産するには、トラクター等を使うが、輸入する原油が必要である。パンの原料の多くは輸入する小麦である。味噌や豆腐の原料の多くは、輸入大豆である。牛乳や卵やベーコンのためには、牛や豚や鶏の飼育が必要であり、そのためには輸入するトウモロコシからなる配合飼料が必要である。つまり、朝食を食べるときにも、貿易は関係している。

このような状況にありながら、保護貿易的な考えを持つ政治家や官僚などが存在する。なぜ、保護貿易が間違いであるのか、また、なぜ誤った考え方である保護貿易的な考えを持つ人がなくなるのかを示し、自由貿易を推進すべき理由を示す。その際、小学校レベルの算数は使うが、それ以上のレベルのものは使わないように努力する。

テーマ：自由貿易と保護貿易

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

水戸康夫『海外進出リスク分析』創成社、2,000円
その他の国際貿易に関わる一般的な参考書は、最初の講義時に示す。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 貿易理論を学ぶべき理由【楽市楽座、自給自足経済】
- 第3回 保護貿易の問題点【保護貿易主義者の主張】
- 第4回 自由貿易の歴史【英仏戦争、第2次世界大戦】
- 第5回 重商主義の問題点【ヒュームの理論】
- 第6回 絶対優位【A.スミス、2国2財1生産要素モデル】
- 第7回 比較優位【D.リカード、2国2財1生産要素モデル】
- 第8回 比較優位成立の確認【数値例を通じて】
- 第9回 貿易利益1【計算を通じて】
- 第10回 貿易利益2【図を用いて】
- 第11回 ヘクシャー=オリーソン理論【2国2財2生産要素モデル】
- 第12回 リプチンスキー理論【2国2財2生産要素モデル】
- 第13回 要素価格均等化定理【2国2財2生産要素モデル】
- 第14回 ストルパー=サムエルソン定理【2国2財2生産要素モデル】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート20% 学期末試験80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

国際経済論を受講すると、より深く講義を理解できるかもしれない。

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

出席は重視している。

キーワード /Keywords

自由貿易 保護貿易 TPP 比較優位

国際貿易論II 【昼】

担当者名 /Instructor 水戸 康夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

各国政府は自由貿易をめざすべきであるが、自由貿易が実現しているとはいえない状況にある。自由貿易が実現していない理由については、国際貿易論1において講義している。自由貿易が実現しないとすれば、自由貿易未実現による国際経済の不効率を改善するものとして、直接投資が求められることになる。では、自由貿易を補完・代替するものである直接投資とはどのような特徴を持つのであろうか。講義に参加された人に対して、直接投資に関してどのような選択をするのが尋ねた後、みなさんの先輩方に対して行なった実験結果を紹介し、海外進出先国選択において偏りが見られることを紹介していきたい。

ゲーム理論を紹介するので、算数レベルものに対してアレルギーのある人は避けた方が良いかもしれないが、苦手レベルであれば、ついていけるような講義を目指す。

テーマ：経済的に合理的な選択と非合理的な選択

教科書 /Textbooks

水戸康夫『海外進出リスク分析』創成社、2009年、2,000円。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨN
- 2回 行動経済学を紹介【行動経済学】
- 3回 ゲーム理論紹介【ゲーム理論】
- 4回 ゲーム理論の解き方【ゲーム理論】
- 5回 直接投資理論の紹介【直接投資理論】
- 6回 チキンゲーム【ゲーム理論】【標準偏差】【中央値】
- 7回 3状況提示【意思決定原理】
- 8回 認識と選択【認識と選択の乖離】
- 9回 ストライキリスクと地震リスク【コンジョイント分析】
- 10回 ライバル参入リスク【コンジョイント分析】
- 11回 「対日感情」と「親近感」【コンジョイント分析】
- 12回 模倣リスク【コンジョイント分析】
- 13回 低確率リスク：SARS反日感情
- 14回 反日感情(中国での反日デモ)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート20% 期末試験80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

行動経済学の関わることを多く説明するので、行動経済学の本に注目しているほうが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

出席は重視する。

キーワード /Keywords

コンジョイント分析 ゲーム理論 経済的に合理的な選択 反日感情 直接投資理論

国際金融論I【昼】

担当者名 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代の国際金融システムの全容を知ることが目的とする。新聞・ニュースの経済関係の報道内容を理解できるとともに、国際金融に関する平易な解説書やテキストを理解できるレベルを目標とする。

教科書 /Textbooks

奥田宏司ほか編(2010)『現代国際金融-構図と解明-』[第2版]、法律文化社。
なお、このテキストは国際金融論IIのテキストとしても使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

秦忠夫・本田敬吉(2007)『国際金融のしくみ』有斐閣アルマ。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【】はキーワード。	
1回 国際収支	【複式簿記の原理】
2回 国際収支	【経常収支】 【資本収支】
3回 外国為替と国際通貨	【並為替・逆為替】
4回 外国為替と国際通貨	【基軸通貨】
5回 為替相場と円高・円安	【購買力平価】
6回 為替相場と円高・円安	【実効為替レート】
7回 戦後の国際通貨制度	【IMF】
8回 戦後の国際通貨制度	【変動相場制】
9回 発展途上国の開発金融	【世界銀行】
10回 発展途上国の開発金融	【直接投資】
11回 ドル体制の変遷	【プラザ合意】
12回 ドル体制の変遷	【世界金融危機】
13回 現代の国際金融・資本市場と金融機関	【投資銀行】
14回 現代の国際金融・資本市場と金融機関	【デリバティブ】
15回 総復習	

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストの該当部分を事前に講読しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際金融論II 【昼】

担当者名 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代の国際金融システムの全容を知ることが目的とする。新聞・ニュースの経済関係の報道内容を理解できるとともに、国際金融に関する平易な解説書やテキストを理解できるレベルを目標とする。

教科書 /Textbooks

奥田宏司ほか編(2010)『現代国際金融-構図と解明-[第2版]』、法律文化社。
なお、このテキストは国際金融論Iのテキストとしても使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 【】はキーワード。
- 1回 欧州通貨統合と「ユーロ体制」【安定成長協定】
 - 2回 欧州通貨統合と「ユーロ体制」【ERM2】
 - 3回 資本取引の自由化とエマージング市場国の通貨危機【アジア金融・通貨危機】
 - 4回 資本取引の自由化とエマージング市場国の通貨危機【ロシア危機】
 - 5回 東アジアの為替制度とドル、円、人民元【ドルペッグ】
 - 6回 東アジアの為替制度とドル、円、人民元【不胎化介入】
 - 7回 アメリカ発の金融危機【サブプライム危機】
 - 8回 アメリカ発の金融危機【リーマンショック】
 - 9回 欧州への金融危機の波及【流動性危機】
 - 10回 欧州への金融危機の波及【ブルーデンス政策と危機対応】
 - 11回 危機の世界への波及と基軸通貨ドルのゆくえ【金融安定化法】
 - 12回 危機の世界への波及と基軸通貨ドルのゆくえ【外貨準備】
 - 13回 DVD学習(国際通貨危機に関する事例についてのNHKスペシャルなど)
 - 14回 DVD学習内容の解説
 - 15回 総復習

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストの該当箇所を事前に講読しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際経済論I【昼】

担当者名 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

経済のグローバル化が進むなか、企業買収、海外直接投資、経済・通貨統合など国際経済に関するさまざまな話題が日増しに注目されてきた。これら国境を越えた取引はどのような背景があるのか、どのような影響を及ぼすかなどについてより深く理解するために、国際経済論の習得が必要不可欠である。国際経済論は、ミクロ経済学の応用分野である国際貿易論とマクロ経済学の応用分野である国際金融論から構成されている。本講義では、国際ミクロの立場から、国際貿易の基礎理論、貿易政策の効果、海外直接投資を中心に説明を進める。

教科書 /Textbooks

大川昌幸『コア・テキスト国際経済学』（新世社）
なお、国際経済論IIも上記のテキストを使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

石川城太他『国際経済学をつかむ』（有斐閣）
石井安憲他『入門・国際経済学』（有斐閣）
浦田秀次郎『国際経済学入門（経済学入門シリーズ）』（日経文庫）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 リカード・モデル(1)【絶対優位】【比較優位】
- 3回 リカード・モデル(2)【貿易パターン】
- 4回 ヘクシャー=オリーン・モデル(1)【要素賦存】【要素集約度】
- 5回 ヘクシャー=オリーン・モデル(2)【リプチンスキー定理】【ストルパー=サミュエルソン定理】
- 6回 貿易政策分析の基礎(1)【部分均衡分析】【消費者余剰】【生産者余剰】
- 7回 貿易政策分析の基礎(2)【自由貿易の利益】
- 8回 小国の貿易政策(1)【関税政策】、【補助金政策】
- 9回 小国の貿易政策(2)【数量割当政策】
- 10回 大国の貿易政策(1)【関税政策】
- 11回 大国の貿易政策(2)【数量割当政策】
- 12回 経済統合【FTA】【CU】
- 13回 国際要素移動(1)【海外直接投資】
- 14回 国際要素移動(2)【国際労働移動】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題提出(数回) 20~30% 期末試験 70~80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ミクロ経済学をすでに受講した場合は、本講義の理解がより深いものになる。
主に図解分析で講義を進めるので、国際経済論の勉強を通じて論理的思考力を身につけてほしい。
部分均衡分析に関しては、清野著『ミクロ経済学入門』（日本評論社）を参照されたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

国際経済のメカニズム及び国際経済問題を包括的に理解するためには、「国際経済論II」と併せて履修することが望ましい。

キーワード /Keywords

自由貿易、貿易政策、経済統合、海外直接投資

国際経済論II 【昼】

担当者名 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

経済のグローバル化が進むなか、企業買収、海外直接投資、経済・通貨統合など国際経済に関するさまざまな話題が日増しに注目されてきた。これら国境を越えた取引はどのような背景があるのか、どのような影響を及ぼすかなどについてより深く理解するために、国際経済理論の習得が必要不可欠である。国際経済論は、ミクロ経済学の応用分野である国際貿易論とマクロ経済学の応用分野である国際金融論から構成されている。本講義では、国際マクロの立場から、国際金融の基礎理論、為替レートの決定、マクロ経済政策を中心に説明を進める。

教科書 /Textbooks

大川昌幸『コア・テキスト国際経済学』（新世社）
なお、国際経済論Iも上記のテキストを使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

小川英治『国際金融入門（経済学入門シリーズ）』（日経文庫）
橋本優子他『国際金融論をつかむ』（有斐閣）
石井安憲他『入門・国際経済学』（有斐閣）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 国際収支表（1）【国民所得勘定】
- 3回 国際収支表（2）【経常収支】【資本収支】
- 4回 外国為替の基礎（1）【為替相場市場】【通貨制度】
- 5回 外国為替の基礎（2）【マーシャル＝ラーナー条件】【Jカーブ効果】
- 6回 外国為替取引（1）【直取引】【先渡取引】
- 7回 外国為替取引（2）【金利裁定】【通貨オプション】
- 8回 外国為替の決定理論（1）【金利平価】
- 9回 外国為替の決定理論（2）【購買力平価】
- 10回 開放経済下の国民所得決定（1）【貿易乗数】
- 11回 開放経済下の国民所得決定（2）【需要の変化】
- 12回 開放経済下のマクロ経済政策(1)【IS曲線】【LM曲線】【BP曲線】
- 13回 開放経済下のマクロ経済政策(2)【固定相場制】【財政政策】【金融政策】
- 14回 開放経済下のマクロ経済政策(3)【変動相場制】【財政政策】【金融政策】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題提出（数回） 20~30 % 期末試験 70~80 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

マクロ経済学をすでに受講した場合は、本講義の理解がより深いものになる。
国際経済理論のロジックをしっかりと理解し、論理的思考力を身につけてほしい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

国際経済のメカニズム及び国際経済問題を包括的に理解するためには、「国際経済論I」と併せて履修することが望ましい。

キーワード /Keywords

国際収支、外国為替、国民所得、開放経済下のマクロ経済政策

国際法I【昼】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

国際社会を規律する主要な法体系としての国際法について、その基本的枠組みの修得を目指します。
国際法を一つのシステムとして捉え、国際法とは何か【法源論】【法の性質】、それはどのように形成され【法の定立】、実際に運用されていくのか【法の実施・履行】、【法の適用・解釈】、違反した場合どうなるのか【国際責任】、紛争はどのように処理されるのか【紛争解決】などの問題を取り扱っていきます。

教科書 /Textbooks

テキストは設定しません。
講義の理解に必要な参考資料を、適宜配布、します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書 横田洋三編『国際法入門(第2版)』(有斐閣・2005)○
参考書 山手治之・松井芳郎・香西茂『ベーシック条約集』(東信堂・最新版)○
参考文献は、初回講義時に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 コースガイダンス

第I部「国際社会における法律作り」

- 第2回 条約の締結
- 第3回 条約の留保
- 第4回 条約の無効
- 第5回 まとめ

第II部「特別法と一般法、国内社会における国際法」

- 第6回 慣習国際法
- 第7回 慣習国際法の法典化
- 第8回 条約と第三国
- 第9回 条約の国内的効力
- 第10回 まとめ

第III部「国際社会における秩序の維持」

- 第11回 国際責任
- 第12回 紛争の平和的解決義務と武力行使の禁止
- 第13回 自衛権
- 第14回 国際司法裁判所(ICJ)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題①②および学期末試験で評価します。
課題①...16.7% 課題②...16.7% 学期末試験...66.6%
なおボーダーラインにあるときは、アサインメントの実施状況等も加味し、総合的に判断します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習、復習を前提とした講義を展開します。
詳細は、学習支援フォルダーで確認してください。

履修上の注意 /Remarks

「国際法II」と併せて受講すると学習効果があがります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

4つの願いがあります。

国際問題に関心を持ってほしい。国際問題を法的に検討する視角を身につけてほしい。国際法の現状と限界を学習し、現在の国際社会の姿を正しく理解してほしい。そして国際法は、自分たちの問題であることを認識してほしい。

キーワード /Keywords

【国際法の定立】、【国際法の実施・履行】、【国際法の適用・解釈】、【国際責任】、【紛争解決】

国際法Ⅱ【昼】

担当者名 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

国際社会を規律する主要な法体系としての国際法について、その基本的枠組みの修得を目指します。
国際社会の基本構成単位としての国家が有する「主権」に注目し、国際法上、国家とは何か【国家の要件】【承認】、国家にはどのような権利が認められ、義務が課されるのか【国家の基本的権利・義務】、それはどのように行使され、どこまで認められるのか【領域】【個人】【管轄権の競合と調整】【国際法によるコントロール】などを取り扱います。

教科書 /Textbooks

講義の理解に必要な参考資料を、適宜配布、します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書 横田洋三編『国際法入門(第2版)』(有斐閣・2005)○
参考書 山手治之・松井芳郎・香西茂『ベーシック条約集』(東信堂・最新版)○
参考文献は、初回講義時に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 コースガイダンス

第I部「国際法上の国家」

- 第2回 国家と承認制度：国家承認
- 第3回 国家と承認制度：政府承認
- 第4回 国家の基本的権利
- 第5回 国家の基本的義務
- 第6回 まとめ

第II部「陸・海・空と国際法」

- 第7回 陸と国際法
- 第8回 海と国際法：海上交通
- 第9回 海と国際法：海洋資源
- 第10回 空と国際法
- 第11回 まとめ

第III部「国際法主体としての個人」

- 第12回 人権の国際的保障
- 第13回 国際犯罪
- 第14回 国際刑事裁判所(ICC)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題①②および学期末試験で評価します。
課題①...16.7% 課題②...16.7% 学期末試験...66.6%
なおボーダーラインにあるときは、アサインメントの実施状況なども加味し、総合的に判断します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習、復習を前提とした講義を展開します。
詳細は学習支援フォルダーで確認してください。

履修上の注意 /Remarks

「国際法I」と併せて受講すると学習効果があがります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

5つの願いがあります。国際問題に関心を持ってほしい。国際問題を法的に検討する視角を身につけてほしい。国家システム(state system)の現状と課題を把握してほしい。国際社会における主権国家の機能・役割を正しく理解してほしい。そして国益、共通利益、国際社会の公益について、積極的に考えてほしい。

キーワード /Keywords

【国家の要件】 【承認】 【国家の基本的権利・義務】 【領域】 【個人】 【管轄権の競合と調整】 【国際法によるコントロール】

国際取引法 【昼】

担当者名 /Instructor 大隈 一武 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 集中 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

国際取引法は、単独法として存在するものではない。企業実務において展開されてきた実務先行で、学問としてはまだ確立していない分野である。企業実務における経験から、それを国際契約法、海外投資・企業経営関係法、通商法の3つに分類して授業を行う。

教科書 /Textbooks

なし。プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

大隈一武『国際契約法入門』（中央経済社・1996）
外務省経済局監修『世界貿易機関を設立するマラケシュ協定WTO』（日本国際問題研究所・1997）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 国際契約：英米法契約理論-例えば、【約因】、【コモンロー】、【衡平法】理論・判例検討
- 2回 契約条件と国際貿易条件【インコタームズ】、契約約款などを検討
- 3回 国際取引と制限：【OECD賄賂禁止条約】、【輸出管理ワッセナー取り決め】、歴史的展開
- 4回 国際契約書の起草：海外工事請負契約UNCITRALガイド参照、契約書のドラフティング
- 5回 国際取引諸条約（国際海上物品運送・国際物品売買条約【CISG】など）や荷為替信用状規則【L/C】など
- 6回 海外進出：投資・企業経営-単独進出と企業買収・合併など実務的な展開と内容を検討
- 7回 企業経営：株式会社・【パートナーシップ】の異同を理解し、海外合併事業の方法論、実務
- 8回～9回 投資協定、投資保証、多国間投資保証機関【MIGA】、【OECD多国籍企業ガイドライン】
- 10回 通商法：自由貿易地域と関税同盟の異同、実態、国際的動向、わが国の対応などを検討
- 11回 ブロック経済と世界貿易機関【WTO】：上記10との関連で、WTOの調整・問題点を検討
- 12回～14回 GATTからWTOへ：WTOの組織、諸協定：【紛争解決のメカニズム】
- 15回 【OECD】、【IBRD】、【IMF】などの国際機関の機能と役割：WTO以外の重要な国際機関の機能と役割を理解し、わが国の対応のあり方についても検討

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験100%
なお、出席が授業回数の3分の2に満たない場合は期末試験の受験資格を認めない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカ経済【昼】

担当者名 /Instructor 山崎 好裕 / Yoshihiro Yamazaki / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 / 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

サブプライム・ローン問題に端を発する世界金融危機とその後の実体経済の悪化を受け、オバマ政権下で史上初のゼロ金利政策、量的緩和政策が行われましたが、アメリカ経済はかつての勢いを取り戻してはいません。こんななか、日本・アジアと貿易や金融の面で関係の深いアメリカですし、世界最大の経済ですから、それを学ぶことの意味は非常に大きいでしょう。でも、そもそもアメリカって...? 経済って...? 授業では、研究者としてアメリカに住んでいたときや毎年の学会出席時の私の体験談、また、南北戦争マニアの私ならではの歴史上のエピソードもたっぷりとお伝え、楽しくアメリカについて学びます。

教科書 /Textbooks

山崎好裕『目からウロコの経済学入門』ミネルヴァ書房、2004年11月。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

日高義樹『アメリカの歴史的危機で円・ドルはどうなる』徳間書店、2011年10月。
安井明彦『アメリカ 選択肢なき選択』日本経済新聞出版社、2011年7月。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 アメリカの産業と所得
- 2 アメリカの所得分配と社会保障
- 3 アメリカ家計の消費と貯蓄
- 4 アメリカの社会階層と失業
- 5 アメリカ企業と収益
- 6 アメリカ企業と投資
- 7 アメリカ政府と税制
- 8 アメリカの政府支出と財政
- 9 アメリカの通貨制度
- 10 アメリカの金融システム
- 11 アメリカ経済と金利
- 12 アメリカの国際収支
- 13 アメリカ経済と為替レート
- 14 アメリカ経済と物価
- 15 アメリカの経済成長と景気

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...80% レポート...20%

定期試験では、アメリカ経済の制度的特徴についての穴埋め問題が6問、全体的特色についての○×問題が8問、テキストのコラムにある計算問題が1問出題されます。レポートはアメリカ経済についてのプリントを読んでまとめてもらい、自分の感想・見解と一緒に2000字程度にまとめてもらいます。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講すれば、みんなの頭にアメリカのはっきりしたイメージが浮かび、なおかつ、経済というものを身近に感じるはず。経済学を学んだことがある人もない人も、安心して受講してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

私は福岡大学教授(経済学部・大学院経済学研究科)・東京大学経済学博士なので、普段は北方キャンパスにいません。質問や相談はメール(yamazaki@cis.fukuoka-u.ac.jp)に送ってください。

キーワード /Keywords

World Largest Economy 消費大国 サービス経済化 QE2 財政赤字 経常収支赤字 所得格差 投資銀行 ファンド 住宅投資 基軸通貨 リーマンショック

アメリカ文学概論【昼】

担当者名 /Instructor 前田 譲治 / Johji Maeda / 比較文化学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

アメリカ文学全体を貫く複数の特徴を確認することにより、アメリカ文学の全体像を明確化する。さらには、アメリカ文学の特徴が、ハリウッド映画によっても共有されている事実も明らかにする。次いで、そのような文学と映画との共通性が何ゆえに生じたのかを、アメリカの社会、歴史、文化のあり方に目を向けることにより考察したい。文学と映画という、一見すると全く異質に見える存在が、実は、共に特定の社会の下に誕生した以上、同根の存在とならざるを得ない事実を理解してもらえたら幸いである。また、アメリカ文学を文化的背景と絡めて分析する視点も身につけてもらえたらと考えている。

教科書 /Textbooks

使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『アメリカ文学思潮史』 福田陸太郎 中教出版
- 『アメリカ文学史』 亀井俊介 南雲堂
- 『アメリカ文学必須用語辞典』 スティーブン・マタソン 松柏社
- 『アメリカ文学案内』 寺門泰彦/渡辺信二 朝日出版社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の進め方、参考文献の説明
- 2回 アメリカ人の自意識のあり方とアメリカ文学、ハリウッド映画との関係
- 3回 アメリカ文学における権力描写の特質
- 4回 ハリウッド映画における権力描写の特質と、それが生じた文化的背景
- 5回 アメリカ文学と移動描写
- 6回 ハリウッド映画における移動描写と、それが生じた文化的背景
- 7回 アメリカ人の歴史認識と、アメリカ文学、ハリウッド映画との関係
- 8回 アメリカ文学における文明と自然の描写
- 9回 ハリウッド映画における文明と自然の描写と、それが生じた文化的背景
- 10回 アメリカ文学における女性描写
- 11回 ハリウッド映画における女性描写と、それが生じた文化的背景
- 12回 アメリカ文学における超常現象描写の特徴
- 13回 ハリウッド映画における超常現象描写の特徴と、それが生じた文化的背景
- 14回 アメリカ文学とハリウッド映画に共通する登場人物の特質
- 15回 まとめ(絶対に欠席しないこと)

成績評価の方法 /Assessment Method

試験100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義で取り上げる作家と作品は事前にお知らせしますので、既出の参考書を講義前に参照し、作者と作品に関する基礎的な情報を確認しておいてください。同様に、講義で取り上げる映画も事前に周知しておきますので、各自で事前に鑑賞しておいて下さい。講義中には、時間の関係で、映画は断片を編集したのを見る形になります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

イギリスの現代文学 【昼】

担当者名 /Instructor 杉本 美穂 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、イギリスの二十世紀文学から、受講生に比較的になじみのある作家の作品を毎回1～2冊とりあげて解説する。十九世紀、大英帝国として世界に君臨したこの国も、二十世紀に入ると、二度にわたる世界大戦で甚大な被害を被り、植民地の独立により経済的にも大打撃を受ける。階級制度のしがらみと揺らぎ、アイルランド問題、伝統の変質など、「病める老大国」と呼ばれた時期もあった。こうした時代を背景に生まれた作品を読むことで、現代の英国社会や文化の特質、そして英国人の生き方への理解を深めてもらいたい。

本講義の主なテーマは、「モダニズム」と「ファンタジー」である。作品への理解を助けるために、作家の人となり、作品成立時の政治的、文化的な背景、主題の分析、文学理論を応用する可能性など、多角的な視点を提供したい。

教科書 /Textbooks

ピーター・ミルワード著、小泉博一訳、『童話の国イギリス』中公新書1610 840円 ISBN4-12-101610-6

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は適宜、指示する。(別途、参考資料は配布する)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 C.S.ルイス 『ナルニア国物語』21章
- 2回 G.K.チェスタトン 『おとぎの国の倫理学』19章・聖書物語16章
- 3回 J.R.R.トールキン 『ホビットの冒険』20章
- 4回 V.ウルフ 『ダロウエイ夫人』と意識の流れ
- 5回 J.ジョイス 『ユリシーズ』「ネストール」
- 6回 J.ジョイス 『ユリシーズ』「セイレーン」
- 7回 J.ニューベリー編 『マザー・グースのメロデー』1章
- 8回 B.ポッター 『ピーター・ラビットのおはなし』3章・シェイクスピア物語17章
- 9回 G.オーウェル 『動物農場』反ユートピア小説
- 10回 W.ゴールディング 『蠅の王』反ユートピア小説
- 11回 G.B.ショア 『ピグマリオン』と反英国思想
- 12回 カズオ・イシグロ 『日の名残り』と失われた過去
- 13回 K.グレアム 『ヒキガエル屋敷のヒキガエル』・子供のためのイギリスの歴史15章
- 14回 J.M.バリャ 『大人になりたくなかった少年ピーター・パン』18章
- 15回 まとめと復習

成績評価の方法 /Assessment Method

課題プリント20%、小テスト20%、期末試験・60%、で総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回、支持されたテキストをしっかりと読んで、講義に臨んでもらいたい。また、原文も一部配布するので、翻訳では味わえない、原文ならではの「読み」に触れる契機にしてほしい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカの現代文学 【昼】

担当者名 江頭 理江 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

アメリカの現代文学をテキストとして用い、アメリカの歴史、政治、社会状況などの背景を考慮しながら読み解くことを授業の目標とする。具体的には、1980年代以降のアメリカの小説をテキストとして用い、20世紀以降のアメリカを、21世紀への流れの中で考えていくこととする。

教科書 /Textbooks

Cathedral by Raymond Carver (Vintage Contemporaries)
自作プリント

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

英和辞典

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目 イントロダクション
- 2回目 アメリカの歴史
- 3回目 アメリカの政治的背景
- 4回目 アメリカの社会状況
- 5回目 テキストを読む。(Cathedral)
- 6回目 テキストを読む。(Cathedral) 作品の特徴についてのディスカッション。
- 7回目 テキストを読みおえる。(Cathedral) テーマ等の考察
- 8回目 テキストを読む。(Where I'm Calling from)
- 9回目 テキストを読む。(Where) 作品の特徴についてのディスカッション。
- 10回目 テキストを読む。(Where) テーマ等の考察
- 11回目 テキストを読む。(Where) 作品の特徴についてのディスカッション。
- 12回目 二つの作品との比較。
- 13回目 二つの作品との比較、ディスカッション
- 14回目 1980年代のアメリカについて考える。
- 15回目 授業全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点20パーセント 小レポート20パーセント 最終試験60パーセントで総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

この授業の準備としては通常1週当たり120分程度の事前学習が必要である。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

イギリスの18-19世紀文学【昼】

担当者名 /Instructor 長瀬 真理子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

古典といわれる作品が、現在もお読み継がれ、映画化されて脚光を浴びている。それらの作品には、時代を超えて高く評価される価値があるのみならず、今を生きる私たちだからこそできる「新しい読み」が開かれているからである。
本講義では、イギリスの18-19世紀文学のなかから、受講生にも比較的になじみのある作家の作品を毎回1～2冊とりあげて解説する。作品への理解を深めるために、作家の人となり、作品成立時の時代背景や文化的背景、主題の分析、文学理論を応用する可能性など、多角的な視点を提供したい。

教科書 /Textbooks

『イギリス文学概観』 相島倫嘉 編著 (南雲堂、¥1200)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 『イギリス文学ガイド』 日本イギリス文学・文化研究所編 (荒地出版、¥2800)
- 『イギリス文学史入門』 川崎寿彦著 (研究者、1850円)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回	イントロダクション・イギリスという国	1章
第2回	ダニエル・デフォー 『ロビンソン・クルーソー』	
第3回	サミュエル・リチャードソン 『パメラ』	15章
第4回	ジェイン・オースティン 『高慢と偏見』	16章
第5回	ウィリアム・ワーズワス 『序曲』	18章・19章
第6回	G・G・ロード・パイロン 『ドン・ジュアン』	20章・21章・22章
第7回	ロバート・ブラウニング 『指輪と書物』	24章・25章
第8回	チャールズ・ディケンズ 『ディヴィッド・コパーフィールド』	26章
第9回	シャーロット・ブロンテ 『ジェイン・エア』	
第10回	エミリー・ブロンテ 『嵐が丘』	27章
第11回	ジョージ・エリオット 『ミドルマーチ』	
第12回	トマス・ハーディ 『ダーバーヴィル家のテス』	28章
第13回	ルイス・キャロル 『不思議の国のアリス』	
第14回	オスカー・ワイルド 『ドリアン・グレイの肖像』	29章
第15回	まとめ	

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストと提出物...40% 定期試験の成績...60%、で総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

* 毎回、配布する資料とテキストを読んでくること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

イギリスの18-19世紀文学では、小説の勃興期とその形式・内容が成熟する過程を中心にすえて授業を進める。同時に、ロマン派とその後の英国文学との関わりを考察し、入門者にも分かりやすく英国の文学史を概説したい。英国の小説と詩を味わいながら、お気に入りの一冊を見つけてもらいたい。

キーワード /Keywords

近代小説、ロマン派、ポスト・コロニアリズム、ブルームズベリ・グループ

アメリカの18-19世紀文学 【昼】

担当者名 /Instructor 非常勤:未定

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

アメリカ文学の古典である、アメリカ植民地時代の【ピューリタニズム】【アメリカの独立】を見事に描いたNathaniel Hawthorneの文学、【アメリカ民主主義】の讃歌と西洋文明の挽歌を歌ったHerman Melville、民主主義アメリカの新しい、【独立心】の強い女を描いたHenry JamesのDaisy MillerやThe Portraite of a Ladyを読んでアメリカ文学への理解を深めていきたい。

教科書 /Textbooks

Nathaniel Hawthorne: Short Stories 『ホーソン短編集』(岩波文庫)
Nathaniel Hawthorne : The Scarlet Letter 『緋文字』(岩波文庫)
Herman Melville: Moby Dick or the white whale 『白鯨』(新潮文庫)
Henry James: Daisy Miller 『デージー・ミラー』(新潮文庫)
The Portraite of a Lady 『ある婦人の肖像』(岩波文庫)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- Nathaniel Hawthorne: Short Stories 『ホーソン短編集』(岩波文庫)
 - Nathaniel Hawthorne : The Scarlet Letter 『緋文字』(岩波文庫)
 - Herman Melville: Moby Dick or the white whale 『白鯨』(新潮文庫)
 - Henry James: Daisy Miller 『デージー・ミラー』(新潮文庫)
 - The Portraite of a Lady 『ある婦人の肖像』(岩波文庫)
- 参考文献等は図書館の指定図書コーナーに開架し、さらにまた、その都度指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Nathaniel Hawthorne: Short Stories 【大英帝国植民地】【マサチューセッツ・ボストン】映像
- 2回 Nathaniel Hawthorne: Short Stories 【ピューリタニズム】映像
- 3回 Nathaniel Hawthorne: Short Stories 【自由主義思想】【Salem魔女裁判】映像
- 4回 Nathaniel Hawthorne: The Scarlet Letter 【ピューリタニズム】【啓蒙主義思想】の文学・映像
- 5回 Nathaniel Hawthorne: The Scarlet Letter 【超絶主義】の文学・映像
- 6回 NHKグレートブックス・シリーズ「緋文字」のビデオを観て「緋文字」の現代的意味を探る。
- 7回 Herman Melville: Moby Dick or the white whale 【アメリカ民主主義】【バーバリズム】Powerpointによる解説
- 8回 Herman Melville: Moby Dick or the white whale 【ゾロアスター教】【拝火教】Powerpointによる解説
- 9回 Herman Melville: Moby Dick or the white whale 【白鯨とは何ものか】【ヨブ記】【異端】映像
- 10回 Henry James: Daisy Miller 【19世紀の女性】【Independent】【自由とは】映像
- 11回 Henry James: Daisy Miller 【慣習】【因習】【しきたり】【Freedom】【自由恋愛】映像
- 12回 Henry James: The Portraite of a Lady 【民主主義アメリカの新しい女性】【自立した女性】映像
- 13回 Henry James: The Portraite of a Lady 【旧世界の因習】【選択】【人生の苦しみ】映像
- 14回 Henry James: The Portraite of a Lady 【結婚・離婚と自己責任】映像
- 15回 まとめ・映像

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(30%)、レポート(40%)と学期末試験(30%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

準備としてテキストを読むこと、授業次に指示した参考書等を読むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

【大英帝国植民地】【マサチューセッツ・ボストン】Nathaniel Hawthorne【ピューリタニズム】【自由主義思想】【Salem魔女裁判】【ピューリタニズム】【啓蒙主義思想】【超絶主義】『緋文字』の現代的意味【アメリカ民主主義】【バーバリズム】【ゾロアスター教】【拝火教】【白鯨とは何なのか】【ヨブ記】【異端】【19世紀の女性】【Independent】【自由とは】【慣習】【因習】【しきたり】【Freedom】【自由恋愛】【民主主義アメリカの新しい女性】【自立した女性】【旧世界の因習】【選択】【人生の苦しみ】【結婚・離婚と自己責任】

アメリカの歴史と社会【昼】

担当者名 寺田 由美 / Yumi Terada / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

21世紀を迎えたアメリカ社会が相変わらず抱える課題のひとつが、人種の問題である。これは、アメリカ合衆国の原則ともいえる民主主義を揺るがしかねない深刻な問題をはらんでいる一方で、アメリカのダイナミズムの源にもなりうる。本講義では主に、アフリカ系アメリカ人、ヒスパニック、日本人を取り上げ、その歴史的背景を踏まえ、今日のアメリカ社会における人種や民族をめぐる問題を考える。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

開講時及び授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 アフリカ系アメリカ人の歴史：南北戦争以前の状況
- 3回 アフリカ系アメリカ人の歴史：南北戦争後の南部社会における新しい労働体制と黒人投票権の剥奪
- 4回 アフリカ系アメリカ人の歴史：「分離すれども平等」の原則の確立とそれに対する黒人の抵抗運動
- 5回 アフリカ系アメリカ人の歴史：公民権運動①
- 6回 アフリカ系アメリカ人の歴史：公民権運動②
- 7回 アフリカ系アメリカ人の歴史：アフリカ系アメリカ人を取り巻く今日の状況
- 8回 日系アメリカ人の歴史：前世紀転換期における移住の開始
- 9回 日系アメリカ人の歴史：20世紀初頭の日本人移民制限の動き
- 10回 日系アメリカ人の歴史：太平洋戦争の勃発と強制立ち退き
- 11回 日系アメリカ人の歴史：第二次世界大戦における日系人部隊
- 12回 日系アメリカ人の歴史：戦後の補償問題
- 13回 ヒスパニック系アメリカ人の歴史：第二次世界大戦後の移民法改正①
- 14回 ヒスパニック系アメリカ人の歴史：第二次世界大戦後の移民法改正②
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、学期末試験(100%)で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業中に紹介する参考文献等を積極的に読むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカの歴史と文化【昼】

専門教育科目
選択科目
英米文学・文化科目群

担当者名 /Instructor 前田 譲治 / Johji Maeda / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

私達、誰しもがなじみの深いハリウッド映画を題材として取りあげ、アメリカの史実や文化が、いかなる形で映画に投映されているかを考察する。その過程を通して、映画とアメリカの歴史、文化との相互関連性に対する理解を深める。アメリカの歴史と文化のイメージを、映画を通して可能な限り具体的に把握できるよう工夫したい。アメリカの歴史・文化の特殊性、独自性への理解も深めることができればと思っている。具体的には、編集したハリウッド映画の断片をビデオで見ながら、映画の全体的構造を背後で支配しているアメリカ的価値観、美意識を考察する。さらに、それらの美意識と過去のアメリカの歴史との関係について考察していきたい。

教科書 /Textbooks

テキストは用いない。必要に応じて、レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講座・アメリカの文化 (全6巻、別巻2) 南雲堂
総合研究アメリカ (全7巻) 研究社
文明としてのアメリカ (全5巻) 日本経済新聞社
アメリカ古典文庫 (全23巻) 研究社
アメリカンヒーローの系譜 亀井俊介 研究社
荒野のアメリカ 亀井俊介 南雲堂
サーカスが来た 亀井俊介 東京大学出版会
読んで旅する世界の歴史と文化 アメリカ 新潮社
物語 アメリカの歴史 猿谷要 中公新書
資料が語るアメリカ 木下尚一 有斐閣
アメリカとは何か 斎藤真 平凡社
エスニックアメリカ 明石紀雄 有斐閣選書
新書アメリカ合衆国史 大陸国家の夢 講談社現代新書
アメリカの20世(上・下) 有賀夏紀 中公新書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の進め方、参考文献の説明
- 2回 Forrest Gump、Daylightとアメリカ人にとってのキリスト教
- 3回 Titanicとアメリカ人にとってのキリスト教
- 4回 Green Mileとキリスト教の関係の分析
- 5回 Monster's Incとアメリカの多様性の関係
- 6回 Star Warsとアメリカの多様性の関係
- 7回 The Lord of the Ringsとアメリカの多様性の関係
- 8回 Independence Dayとアメリカのほら話
- 9回 Star Wars EpIIIとアメリカのほら話
- 10回 Devil Wears Pradaとアメリカ人の個人観
- 11回 Titanicとアメリカ人の個人観
- 12回 A.Iとアメリカ人の機械観
- 13回 Terminator IIとアメリカ人の機械観
- 14回 Terminator IIIとアメリカ人の機械観
- 15回 全体の総括、補足説明 (絶対に欠席しないこと。)

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%
試験は、配布プリント、自筆ノート(コピーノートは不可)持ち込み可で行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義で取り上げる映画は前もって伝えますので、出来るだけ見ておいてください。
講義時には、編集された映画を部分的に見ていくことになります。

アメリカの歴史と文化【昼】

専門教育科目
選択科目
英米文学・文化科目群

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカの大衆文化 【昼】

担当者名 /Instructor 前田 譲治 / Johji Maeda / 比較文化学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

誰しもがなじみの深いハリウッド映画を題材として取りあげ、映画にアメリカ人の精神性や、美意識、価値観がいかなる形で投映されているかを考察する。その過程を通して、映画とアメリカ文化との関連性に対する理解を深める。アメリカ文化の特性を、映画を通して可能な限り具体的に把握できるよう工夫したい。この作業を通してアメリカ人の価値観や美意識の特殊性への理解を深めたい。また、ハリウッド映画を文化的な文脈の中で分析的に鑑賞する視点を、授業を通して体得してもらうことができたら幸いである。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない。必要に応じて資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『映画で学ぶアメリカ文化』、スクリーンプレイ出版 (映画とアメリカ文化の関連性を様々な視点から)
- 『映画で楽しむアメリカ文学』、金星堂、(アメリカ文学と映画の比較の視点から)
- 『映画で楽しむアメリカの歴史』、金星堂 (映画とアメリカ史の関連性を様々な視点から)
- 『サーカスが来た!』、亀井俊介先生、岩波書店、(指定図書コーナー)(サーカス、オペラハウス、ターザン、ハリウッド)
- 『アメリカンヒーローの系譜』、亀井俊介先生、研究社、クリーム色、(ランボー、ロッキー)
- 『アメリカの大衆文化』、明石書店、清水知久 (映画、音楽、スポーツ、広告)
- 『アメリカの大衆文化』、研究社、亀井俊介、(テレビ、漫画、音楽、映画など)
- 『アメリカが見えてくる』、サイマル出版会、越智道雄 (アメリカ社会の諸現象と映画の関連性)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の進め方、参考文献の説明
- 2回 『ビッグ』をビデオで鑑賞
- 3回 『ビッグ』の子供描写の特徴
- 4回 アメリカ映画の子供の描き方の概観
- 5回 アメリカ映画の子供の描き方の特徴とアメリカ史との関係
- 6回 『フェイス/オフ』、『ターミネーター2、3』、『マスク』の中の変身描写の特徴
- 7回 アメリカ映画に登場する変装描写の全体的特徴
- 8回 アメリカ映画の変身・変装へのこだわりと、アメリカ文化との関係
- 9回 『ブラダを着た悪魔』に読み取れる金銭感覚の特徴
- 10回 『フォレスト・ガンプ』、『チャーリーとチョコレート工場』に読み取れる金銭感覚
- 11回 映画に読み取れる金銭感覚と、アメリカ文化との関係
- 12回 『スタンド・バイ・ミー』、『SW:シスの復讐』の銃の描写の特徴
- 13回 映画の銃の描き方と、アメリカ史との関係
- 14回 アメリカ映画に見る平等の概念
- 15回 まとめ(絶対に欠席しないこと)

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%
試験は、配布プリント、自筆ノート持ち込み可(コピーは不可)で行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義で取り上げる映画は前もってタイトルを伝えますので、出来るだけ事前に見ておいてください。
講義時には、編集された断片のみを見ることになります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

基礎演習I (発音クリニック) 【昼】

担当者名 /Instructor デニス・ジョーンズ / Denis JONNES / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス 1 - 1 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course offers instruction in English pronunciation with a view to improving listening and speaking skills. Classes will cover some theory, but emphasis is on extensive and thorough practice. Classes will proceed from individual sounds to pronunciation units to pronunciation features. Self-study, in the form of regular homework assignments, constitute an essential element of the course.

教科書 /Textbooks

Mark Hancock, "English Pronunciation in Use," (Cambridge University Press, 2003)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

In consultation with instructor

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2回 Unit 2: Plane, Plan + Unit 22: Introducing Word Stress + Unit 42: Reading Aloud
- 3回 Unit 4: Rice, Rise + Unit 24: Consonants At The Start Of Syllables + Unit 44: Showing That You Want To Continue
- 4回 Unit 6: Meet, Met + Unit 26: Syllables: Plural And Other -s Endings + Unit 46: Understanding Small Talk
- 5回 Unit 7: Carrot, Cabbage + Unit 27: Syllables: Adding Past Tense Endings + Unit 47: Understanding Instructions
- 6回 Unit 8: Few, View + Unit 28: Stress In Two-Syllable Words + Unit 48: Quoting Speech
- 7回 Unit 9: Gate, Kate + Unit 29: Stress In Compound Words + Unit 49: Introduction To Emphatic Stress
- 8回 Unit 10: Hear, We're, Year + Unit 30: Stress In Longer Words 1 + Unit 50: Emphasizing Added Details
- 9回 Unit 11: Wine, Win + Unit 31: Stress In Longer Words 2 + Unit 51: Emphasizing Important Words
- 10回 Unit 12: Sheep, Jeep, Cheap + Unit 32: Sentences With All The Words Stressed + Unit 52: Emphasizing Contrasting Alternatives
- 11回 Unit 13: Flies, Fries + Unit 33: Unstressed Words + Unit 53: Emphasizing Corrections
- 12回 Unit 16: Note, Not + Unit 36: Auxiliary Verbs + Unit 56: Tones In Asking For Information
- 13回 Unit 17: Arthur's Mother + Unit 37: Pronouncing Short Words (a, of, or) + Unit 57
- 14回 Unit 18: Sun, Full, June + Unit 38: Joining Words 1 + Unit 58: Continuing Or Finishing Tones
- 15回 Unit 19: Shirt, Short + Unit 39: Joining Words 2 + Unit 59: Agreeing and Disagreeing Tones

成績評価の方法 /Assessment Method

Active class participation -- 50% Successful completion of regular homework assignments -- 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Required course for all majors in the English Department.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

基礎演習I (発音クリニック) 【昼】

担当者名 /Instructor 平野 圭子 / Keiko Hirano / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description
 この授業では英語の発音 (子音・母音) を基礎から練習し、正しい発音を習得することを目的とします。発音方法や日本人と米国人の発音の違い等をビデオを見ながら練習します。

教科書 /Textbooks
 Hisako Murakawa著 『Sounds Right! Sounds Good!』 マクミランランゲージハウス. 2000年.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回イントロダクション
- 2 回Lessons 1 & 2/p/, /t/, /k/,/b/, /d/, /g/
- 3 回Lessons 3 & 4/r/,母音+r/
- 4 回Lessons 5 & 6/r/ cluster, //
- 5 回 Lessons 7 & 8// cluster, /s/, /z/
- 6 回Lessons 9 & 10th,/f/, /v/
- 7 回Lessons 11 & 12sh, j,ch, dj
- 8 回Lessons 13 & 14/n/, /m/, /ng/,/w/, /j/
- 9 回Lessons 15 & 16/h/, /hw/,i
- 1 0 回Lessons 17 & 18e,a
- 1 1 回Lessons 19 & 20o,u
- 1 2 回Lessons 21 & 22/au/, /ai/, /oi/, /ju/, Flap
- 1 3 回Appendix 1Glottal stop
- 1 4 回Appendix 2Linking
- 1 5 回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 平常の学習状況...20%、期末試験 (筆記・発音) ...80%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 発音練習の際自分の口元を見るための手鏡を持参して下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

基礎演習I (発音クリニック) 【昼】

担当者名 /Instructor フィオナ・クリーサー / Fiona Creaser / 英米学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1 - 3
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description
 This course offers instruction in English pronunciation with a view to improving listening and speaking skills. Classes will cover some theory, but emphasis is on extensive and thorough practice. Classes will proceed from individual sounds to pronunciation units to pronunciation features. Self-study, in the form of regular homework assignments, constitute an essential element of the course.

教科書 /Textbooks
 Mark Hancock, "English Pronunciation in Use," (Cambridge University Press, 2003)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 In consultation with instructor

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 Introduction
 2回 Unit 2: Plane, Plan + Unit 22: Introducing Word Stress + Unit 42: Reading Aloud
 3回 Unit 4: Rice, Rise + Unit 24: Consonants At The Start Of Syllables + Unit 44: Showing That You Want To Continue
 4回 Unit 6: Meet, Met + Unit 26: Syllables: Plural And Other -s Endings + Unit 46: Understanding Small Talk
 5回 Unit 7: Carrot, Cabbage + Unit 27: Syllables: Adding Past Tense Endings + Unit 47: Understanding Instructions
 6回 Unit 8: Few, View + Unit 28: Stress In Two-Syllable Words + Unit 48: Quoting Speech
 7回 Unit 9: Gate, Kate + Unit 29: Stress In Compound Words + Unit 49: Introduction To Emphatic Stress
 8回 Unit 10: Hear, We're, Year + Unit 30: Stress In Longer Words 1 + Unit 50: Emphasizing Added Details
 9回 Unit 11: Wine, Win + Unit 31: Stress In Longer Words 2 + Unit 51: Emphasizing Important Words
 10回 Unit 12: Sheep, Jeep, Cheap + Unit 32: Sentences With All The Words Stressed + Unit 52: Emphasizing Contrasting Alternatives
 11回 Unit 13: Flies, Fries + Unit 33: Unstressed Words + Unit 53: Emphasizing Corrections
 12回 Unit 16: Note, Not + Unit 36: Auxiliary Verbs + Unit 56: Tones In Asking For Information
 13回 Unit 17: Arthur's Mother + Unit 37: Pronouncing Short Words (a, of, or) + Unit 57
 14回 Unit 18: Sun, Full, June + Unit 38: Joining Words 1 + Unit 58: Continuing Or Finishing Tones
 15回 Unit 19: Shirt, Short + Unit 39: Joining Words 2 + Unit 59: Agreeing and Disagreeing Tones

成績評価の方法 /Assessment Method
 Active class participation -- 50% Successful completion of regular homework assignments -- 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 Required course for all majors in the English Department.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

基礎演習I (発音クリニック) 【昼】

担当者名 /Instructor 村田 希巳子 / Kimiko Murata / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では英語の発音を基礎からきちんと練習し、正しい発音をしっかり習得する。日本人と外国人の発音の違いを学習し、ビデオを見ながら正しい口の形を学ぶ。単語・短文などを暗唱して正しく発音する。

教科書 /Textbooks

『Sounds Right! Sounds Good!』 Hirano Murakawa著、マクミランランゲージハウス、2000年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 様々な子音の練習
2. 様々な母音の練習
3. その他の発音練習
- 1回 Lesson 1 /p//t//k/
- 2回 Lesson 2 /b//d//g/
- 3回 Lesson 3 /r/
- 4回 Lesson 4, 5 母音 + /r/ /r/クラスター
- 5回 Lesson 6,7 // //クラスター
- 6回 Lesson 8 /s//z/
- 7回 Lesson 9 /θ//ð/
- 8回 Lesson 10 /f//v/
- 9回 Lesson 11 /ʃ//ʒ/
- 10回 Lesson 12 /tʃ//dʒ/
- 11回 Lesson 13 /n//m/
- 12回 Lesson 14, 15, 16 /w//j/ /h//hw/ /i//
- 13回 Lesson 17,18, 19 /e//é/ /æ//a//ʌ/ /u//U/
- 14回 会話を暗記して発音テスト
- 15回 Lesson 20,21,22 /o//ou/ /au//ai//ju/ フラップ音

成績評価の方法 /Assessment Method

前期・期末テスト70% 発音テスト20% 平常の学習状況10%
 欠席は3回までしか認めない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

発音を練習してくる。会話を覚えてくる。辞書を必ず持ってくる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

基礎演習II【昼】

担当者名 /Instructor ロジャー・ウィリアムソン / Rodger S. Williamson / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description
 This course offers instruction in the writing of academic essays in English. The process of essay writing will be broken down into manageable elements, with each class being made up of tasks which focus on one or two of these elements. Speaking practice will also constitute part of the course as each class will include time for discussion of class content in English.

教科書 /Textbooks
 Printed materials distributed by instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 In consultation with instructor

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1 回 Introduction
 - 2 回 The Writing Process: Writing Foundations
 - 3 回 The Writing Process: Reading and Note-Making
 - 4 回 The Writing Process: Writing Stages Part 1
 - 5 回 The Writing Process: Writing Stages Part 2
 - 6 回 Elements of Writing: Argument + Cause and Effect
 - 7 回 Elements of Writing: Cohesion + Comparison
 - 8 回 Elements of Writing: Discussion + Examples
 - 9 回 Elements of Writing: References
 - 10 回 Elements of Writing: Quotations
 - 11 回 Accuracy in Writing : Eradicating Common Errors Part 1
 - 12 回 Accuracy in Writing : Eradicating Common Errors Part 2
 - 13 回 Elements of Writing: Restatement and Repetition
 - 14 回 Elements of Writing: Visual Information
 - 15 回 Class Review

成績評価の方法 /Assessment Method
 Successful completion of regular written assignments ... 50% final essay ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 Completion of first semester English Department requirements

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

基礎演習II【昼】

担当者名 /Instructor デニス・ジョーンズ / Denis JONNES / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The course seeks to develop writing and research skills. 1st class segment focuses on personal essay and writing from one's own experience. 2nd class segment focuses on academic essay, choosing research project, collecting information and data, and analytic writing skills. In-class discussion will emphasize outlining, paragraph and essay organization, use of examples, proofreading, revising, as well as use of appropriate vocabulary. Students have the opportunity to write on a range of topics.

教科書 /Textbooks

Handouts provided by instructor

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

In consultation with the instructor.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2回 People -- Biographical Sketch
- 3回 Places and things -- Descriptive Writing
- 4回 Actions and events -- Narrative
- 5回 Social issues -- Expressing Opinion
- 6回 Texts -- Summarizing
- 7回 Research Essay -- Choosing topics
- 8回 Finding sources
- 9回 Collecting and evaluating information
- 10回 Note-taking and summarizing
- 11回 Key points and paragraphing
- 12回 Outlining & Introduction
- 12回 Key points and using quoted material
- 13回 Draft of research essay
- 14回 Revising and bibliography
- 15回 Final draft

成績評価の方法 /Assessment Method

Preparation & class work ... 30% Short essays ...30% Research paper ... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Completion of 1st semester English Department requirements.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Personal Essay, Academic Essay, Research Paper

基礎演習II【昼】

担当者名 /Instructor ダニエル・ストラック / Daniel C. Strack / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course is designed to allow students to improve their English writing skills. Students will learn various writing strategies, culminating in the writing of an academic paper. Each class will introduce specific tasks by which students will gradually increase their knowledge of broad written communication objectives and genre-specific writing techniques.

教科書 /Textbooks

Copies will be distributed in class.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要なものは授業中に提示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Lesson 1: Course Introduction
- Lesson 2: Biographical Writing
- Lesson 3: Journalistic Writing
- Lesson 4: Opinion Essay
- Lesson 5: Evaluating Texts
- Lesson 6: Outlining and Summarizing
- Lesson 7: Determining a Subject
- Lesson 8: Organizing Paragraphs
- Lesson 9: Citing Source Information
- Lesson 10: Revising a Draft
- Lesson 11: Writing Introductions and Conclusions
- Lesson 12: Writing Poetry in English
- Lesson 13: Term Paper Submission
- Lesson 14: Review
- Lesson 15: Class Wrap-up

成績評価の方法 /Assessment Method

Class Participation : 30%, Quizzes : 20%, Assignments : 30%, Attitude : 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Weekly homework assignments will be given to allow students to practice and grow accustomed to the various writing-related skills covered in class. Speaking practice will also constitute part of the course and each class will include time for discussion of class content in English.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

基礎演習II【昼】

担当者名 /Instructor フィオナ・クリーサー / Fiona Creaser / 英米学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1 - 4
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course will take a look at writing academic essays in English. The class will be task based and take students on a step-by-step approach towards academic writing. Students will be given regular writing assignments and editing assignments. Students will focus on narrative, cause and effect, comparative and argumentative writing styles. In addition, editing exercises will enable students to edit their own writing and produce coherent essays.

教科書 /Textbooks

Great Essays: Second Edition by Keith S. Folse, Elena Vestri Solomon, April Muchmore-Vokoun, Cengage Learning

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction: What is an Essay?
- 2回 Example Essays I
- 3回 Example Essays II
- 4回 Narrative Essays I
- 5回 Narrative Essays II
- 6回 Comparison Essays I
- 7回 Comparison Essays II
- 8回 Comparison Essays III
- 9回 Cause-Effect Essays I
- 10回 Cause-Effect Essays II
- 11回 Cause-Effect Essays III
- 12回 Argumentative Essays I
- 13回 Argumentative Essays II
- 14回 Argumentative Essays III
- 15回 In-class Final Writing Assignment

成績評価の方法 /Assessment Method

Successful completion of regular written assignments 40%
 Regular editing tests 20%
 Homework 20%
 In-class final writing assignment 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Students are expected to bring the text book and a dictionary to every class.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英会話演習 A 【昼】

担当者名 /Instructor アンデリユー・ジッツマン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義・実習
 クラス /Class 1 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description
 This course will build students' oral and aural English skills through a task-based, English for Specific Purposes approach. Practical activities will focus on the language and situations of tourism and the tourism industry. The class will prepare students who may be interested in working in travel or travel related fields. It will also help students enrich their travel experiences in countries where communication in English is necessary. The course will also be useful for developing general listening proficiency and speaking fluency in English.

教科書 /Textbooks
 Travel English: For Tourism Industry Professionals. Fujita, Reiko. Macmillan LanguageHouse. 2008.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 Dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回Introduction to the course, the text and the material.
- 2 回Tour Booking
- 3 回Taking a Holiday Booking
- 4 回Taking Your Group to Destinations – Tour Escort
- 5 回Yokoso Japan: Guiding Your Customers
- 6 回Group role play
- 7 回Receiving Flight Reservations
- 8 回Giving Information on Flights
- 9 回At the Airport Check-in Counter
- 1 0 回Inquiry Call to a Hotel
- 1 1 回At the Hotel Front Desk
- 1 2 回At the Concierge Desk
- 1 3 回Dealing with Guest's Problems
- 1 4 回Final Reports: Conversation Presentation
- 1 5 回Review

成績評価の方法 /Assessment Method
 Participation 40% Assignment 30% Final Test 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 Review the materials from the previous week. Learn the glossary words for the coming unit.
 Complete the homework assignments in a timely manner.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英会話演習 A 【昼】

担当者名 /Instructor デニス・ウールブライト / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course will build students' oral and aural English skills through a task-based, English for Specific Purposes approach. Students' practice will focus on the language of tourism and the tourism industry. The class will help students enrich their experiences traveling in countries where they need to communicate in English. The class will also prepare students who may be interested in working in travel or travel related fields. The course will also be useful for developing general listening proficiency and speaking fluency in English.

教科書 /Textbooks

Travel English: For Tourism Industry Professionals. Fujita, Reiko. Macmillan LanguageHouse. 2008.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction – Tour Booking
- 2 回 Taking a Holiday Booking
- 3 回 Taking Your Group to Destinations – Tour Escort
- 4 回 Yokoso Japan: Guiding Your Customers
- 5 回 Receiving Flight Reservations
- 6 回 Giving Information on Flights
- 7 回 At the Airport Check-in Counter
- 8 回 At the Boarding Gate
- 9 回 On Board
- 1 0 回 CIQ Information
- 1 1 回 Inquiry Call to a Hotel
- 1 2 回 At the Hotel Front Desk
- 1 3 回 At the Concierge Desk
- 1 4 回 Dealing with Guests' Problems
- 1 5 回 Checking Your Guests Out

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation 40% Assignment 30% Final Test 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Review the materials from the previous week. Learn the glossary words for the coming unit.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英会話演習 A 【昼】

担当者名 /Instructor デニス・ウールブライト / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course will build students' oral and aural English skills through a task-based, English for Specific Purposes approach. Students' practice will focus on the language of tourism and the tourism industry. The class will help students enrich their experiences traveling in countries where they need to communicate in English. The class will also prepare students who may be interested in working in travel or travel related fields. The course will also be useful for developing general listening proficiency and speaking fluency in English.

教科書 /Textbooks

Travel English: For Tourism Industry Professionals. Fujita, Reiko. Macmillan LanguageHouse. 2008.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction – Tour Booking
- 2 回 Taking a Holiday Booking
- 3 回 Taking Your Group to Destinations – Tour Escort
- 4 回 Yokoso Japan: Guiding Your Customers
- 5 回 Receiving Flight Reservations
- 6 回 Giving Information on Flights
- 7 回 At the Airport Check-in Counter
- 8 回 At the Boarding Gate
- 9 回 On Board
- 1 0 回 CIQ Information
- 1 1 回 Inquiry Call to a Hotel
- 1 2 回 At the Hotel Front Desk
- 1 3 回 At the Concierge Desk
- 1 4 回 Dealing with Guests' Problems
- 1 5 回 Checking Your Guests Out

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation 40% Assignment 30% Final Test 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Review the materials from the previous week. Learn the glossary words for the coming unit.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英会話演習 A 【昼】

担当者名 /Instructor デニス・ウールブライト / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course will build students' oral and aural English skills through a task-based, English for Specific Purposes approach. Students' practice will focus on the language of tourism and the tourism industry. The class will help students enrich their experiences traveling in countries where they need to communicate in English. The class will also prepare students who may be interested in working in travel or travel related fields. The course will also be useful for developing general listening proficiency and speaking fluency in English.

教科書 /Textbooks

Travel English: For Tourism Industry Professionals. Fujita, Reiko. Macmillan LanguageHouse. 2008.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction – Tour Booking
- 2 回 Taking a Holiday Booking
- 3 回 Taking Your Group to Destinations – Tour Escort
- 4 回 Yokoso Japan: Guiding Your Customers
- 5 回 Receiving Flight Reservations
- 6 回 Giving Information on Flights
- 7 回 At the Airport Check-in Counter
- 8 回 At the Boarding Gate
- 9 回 On Board
- 1 0 回 CIQ Information
- 1 1 回 Inquiry Call to a Hotel
- 1 2 回 At the Hotel Front Desk
- 1 3 回 At the Concierge Desk
- 1 4 回 Dealing with Guests' Problems
- 1 5 回 Checking Your Guests Out

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation 40% Assignment 30% Final Test 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Review the materials from the previous week. Learn the glossary words for the coming unit.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英作文演習 A 【昼】

担当者名 /Instructor 山口 実 / YAMAGUCHI, Minoru / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

与えられたテーマに沿って英文を作成するトレーニングを行う。英単語・構文・文法事項などに関する正確な知識を出来るだけ増やすことで基礎的な英語力を高め、英作文に使える「引き出し」を多くする。また内容がフォーマルなものか、インフォーマルなものかに注意して英文を作成する。

教科書 /Textbooks

Making a Difference (Japanese Success Stories Abroad) 世界が認めた日本人
 南雲堂 ISBN978-4-523-17682-4

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ひとりで学べる英作文 (創元社)
 著者: 松村純・ Leaping Lizards
 ISBN4-422-81234-3

大学生のためのコミュニケーション英文法 (改訂版)
 Everyday English Grammar
 著者: 水島孝司、Roger Pattimore

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2回 英語の文型
- 3回 Revival of Indian Buddhism ~ 佐々木秀嶺 (不定詞、受動態、否定)
- 4回 Kenya' First Japanese Veterinarian ~ 神戸俊平 (関係代名詞、名詞節、仮定法)
- 5回 Fighting Illiteracy in Vietnam ~ 塚原絵里子 (従属接続詞、前置詞、相関関係)
- 6回 Saving Tuvalu ~ 遠藤秀一 (動名詞、第5文型、分詞)
- 7回 Raising HIV Awareness through Music ~ 山田耕平 (「OをCと見做す」、分離のfrom、「~を思いつく」)
- 8回 The Father of Bhutan Agriculture ~ 西岡京治 (多義語のas、強調構文、前置詞句)
- 9回 Courage and the War Photographer ~ 之瀬泰造 (第2文型、「疑う」の表現、等位接続詞)
- 10回 The "Miracle Worker" Ophthalmologist ~ 服部匡志 (最上級、仮主語、現在完了)
- 11回 Principal with Passion ~ 森田美保子 (接続副詞、複合関係副詞、複数形で用いる名詞)
- 12回 Award Winning Gardener ~ 福原成雄 (第4文型、関係詞のWhat、他動詞と間違えやすい自動詞)
- 13回 Lessening Bereaved Families' Pain ~ 田村佳子・ 笹本妙子 (冠詞、目的語に不定詞をとる動詞、使役動詞)
- 14回 Cooking with Zest and Zeal ~ 和久田哲也 (関係代名詞、分詞形容詞、helpの語法)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

受講態度・課題遂行・・・50% 期末試験・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教科書の予習を励行すること。各ChapterのPassageを音読し、設問に解答しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

しっかり講義に出席して、課題等に就いて講師の指示に従うこと。
 目的意識を持ち、授業を楽しむこと。
 講義に関する質問や要望は大歓迎。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

25年の三井物産の国際ビジネスマンとしての経験・ 智恵や通算約14年半の米国・ イギリス・ 中東・ インドネシアなどの在外経験、更に9年の実践ビジネス英語及び国際ビジネスコミュニケーション講師としての大学教育経験を活かして、楽しく有意義な講義を行いますので、一緒にベストを尽くして学びましょう。

キーワード /Keywords

Practice makes perfect.
Intellectual Curiosity

英作文演習 A 【昼】

担当者名 /Instructor 山口 実 / YAMAGUCHI, Minoru / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

与えられたテーマに沿って英文を作成するトレーニングを行う。英単語・構文・文法事項などに関する正確な知識を出来るだけ増やすことで基礎的な英語力を高め、英作文に使える「引き出し」を多くする。また内容がフォーマルなものか、インフォーマルなものかに注意して英文を作成する。

教科書 /Textbooks

Making a Difference (Japanese Success Stories Abroad) 世界が認めた日本人
 南雲堂 ISBN978-4-523-17682-4

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ひとりで学べる英作文 (創元社)
 著者: 松村純・ Leaping Lizards
 ISBN4-422-81234-3

大学生のためのコミュニケーション英文法 (改訂版)
 Everyday English Grammar
 著者: 水島孝司、Roger Pattimore

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2回 英語の文型
- 3回 Revival of Indian Buddhism ~ 佐々木秀嶺 (不定詞、受動態、否定)
- 4回 Kenya' First Japanese Veterinarian ~ 神戸俊平 (関係代名詞、名詞節、仮定法)
- 5回 Fighting Illiteracy in Vietnam ~ 塚原絵里子 (従属接続詞、前置詞、相関関係)
- 6回 Saving Tuvalu ~ 遠藤秀一 (動名詞、第5文型、分詞)
- 7回 Raising HIV Awareness through Music ~ 山田耕平 (「OをCと見做す」、分離のfrom、「~を思いつく」)
- 8回 The Father of Bhutan Agriculture ~ 西岡京治 (多義語のas、強調構文、前置詞句)
- 9回 Courage and the War Photographer ~ 之瀬泰造 (第2文型、「疑う」の表現、等位接続詞)
- 10回 The "Miracle Worker" Ophthalmologist ~ 服部匡志 (最上級、仮主語、現在完了)
- 11回 Principal with Passion ~ 森田美保子 (接続副詞、複合関係副詞、複数形で用いる名詞)
- 12回 Award Winning Gardener ~ 福原成雄 (第4文型、関係詞のWhat、他動詞と間違えやすい自動詞)
- 13回 Lessening Bereaved Families' Pain ~ 田村佳子・ 笹本妙子 (冠詞、目的語に不定詞をとる動詞、使役動詞)
- 14回 Cooking with Zest and Zeal ~ 和久田哲也 (関係代名詞、分詞形容詞、helpの語法)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

受講態度・課題遂行・・・50% 期末試験・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教科書の予習を励行すること。各ChapterのPassageを音読し、設問に解答しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

しっかり講義に出席して、課題等に就いて講師の指示に従うこと。
 目的意識を持ち、授業を楽しむこと。
 講義に関する質問や要望は大歓迎。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

25年の三井物産の国際ビジネスマンとしての経験・ 智恵や通算約14年半の米国・ イギリス・ 中東・ インドネシアなどの在外経験、更に9年の実践ビジネス英語及び国際ビジネスコミュニケーション講師としての大学教育経験を活かして、楽しく有意義な講義を行いますので、一緒にベストを尽くして学びましょう。

キーワード /Keywords

Practice makes perfect.
Intellectual Curiosity

英作文演習 A 【昼】

担当者名 /Instructor 江口 雅子 / EGUCHI MASAKO / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

与えられたテーマに沿って英文を作成するトレーニングを行う。英単語・構文・文法事項などに関する正確な知識を出来るだけ増やすことで基礎的な英語力を高め、英作文に使える「引き出し」を多くする。また内容がフォーマルなものか、インフォーマルなものかに注意して英文を作成する。さらにパラグラフの集合体としてのアカデミック・エッセイ(レポート)を書く能力も養う。

教科書 /Textbooks

Get Your Message Across (Hisatake Jimbo 著) 南雲堂 ¥2,000 (税別)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 . Course Introduction
- 2 . What Is a Paragraph?
- 3 . The Topic Sentence
- 4 . Supporting Sentences
- 5 . Time Order
- 6 . Space Order
- 7 . Process and Direction
- 8 . Cause and Effect
- 9 . Examples
- 10 . Definition
- 11 . Classification
- 12 . Comparison and Contrast
- 13 . Review
- 14 . From a Paragraph to a Short Essay
- 15 . Course Review

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・・・50% 日常の授業への取り組み・・・20% エッセイ(課題)・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

なし

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

事前に、予習・復習をすることを必須とする。

キーワード /Keywords

paragraph、topic sentence、supporting sentence、concluding sentence

英作文演習 A 【昼】

担当者名 /Instructor 松崎 徹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

- ①与えられた日本語に相当する英文を作文するトレーニングを行う。受講者にはその時点で持っている英語の知識をフルに使って、正確な英文を書くことを求められる。
- ②基礎的な英語力を高め、英単語や構文や文法的な事柄に関する正確な知識をできるだけ増やし、英作文に使える単語の「引き出し」を増やす。
- ③日本語文章が、フォーマルなものか、インフォーマルなものか、カジュアルなものかにより、英作文する際、訳し分ける。

教科書 /Textbooks

Common Errors In English Writing Sixth Edition (Haruo Kizuka / Roger Northridge) Macmillan Languagehouse 1,890 yen

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 名詞の誤り(1) 【cost と price はどう違う?】
- 2回 名詞の誤り(2) 【climate と weather を混同しないように】
- 3回 冠詞の誤り 【「汽車で」は by train か by the train か?】
- 4回 動詞の誤り(1) 【「...について議論する」は discuss... と discuss about...のどちらが正しいか?】
- 5回 動詞の誤り(2) 【major は自動詞か他動詞か?】
- 6回 時制の誤り 【日・英時制のずれ】
- 7回 〈動詞+名詞〉表現の誤り 【「健康診断を受ける」は have a medical checkup】
- 8回 準動詞の誤り 【look forward to の後は通例動名詞】
- 9回 形容詞の誤り(1) 【childish と childlike はどう違う?】
- 10回 形容詞の誤り(2) 【sensible と sensitive はどう違う?】
- 11回 副詞の誤り 【recently と lately は通例現在完了か過去時制で使われる副詞】
- 12回 比較の誤り 【fewer が数に、less は量に】
- 13回 関係詞の誤り 【先行詞を含む関係代名詞は what】
- 14回 接続詞の誤り 【「AもBもない」は not A and B ではなく、not A or B】
- 15回 前置詞の誤り 【「~の方向へ」は to the direction of ~ではなく、in the direction of ~】

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト・・・ 20% 期末試験・・・ 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず予習をやること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語学概論 【昼】

担当者名 /Instructor 北峯 裕士 / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

英語学に関する基礎知識の習得。

教科書 /Textbooks

『英語学基礎講義 英語学ってどんな学問?』 現代図書

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『英語学概論 - 三大文法の流れと特徴 -』朝日出版社
 ○『英語学へのファーストステップ』有村(他)英宝社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

文は単語の配列で構成されているが、単語と単語の関係は線の順序だけではなく、階層的關係が存在することを理解してもらう。

- 1回 ガイダンス
- 2回 言語学の諸分野
- 3回 歴史比較言語学によるインド=ヨーロッパ祖語の再構築及び英語史の概略説明
- 4回 英文法の歴史の概略説明(規範文法から記述文法への流れ)
- 5回 音声と音素
- 6回 語と形態素
- 7回 アメリカ構造主義による複数個の形態素から成り立つ語のIC分析
- 8回 伝統文法、アメリカ構造主義、生成文法における、それぞれの語の分類方法
- 9回 統語論その1(品詞の分類に基づいた伝統文法における統語構造の分析方法とアメリカ構造主義における統語構造のIC分析の欠点、利点)
- 10回 統語論その2(生成文法における統語構造の分析方法)
- 11回 意味論(オグデン、リチャーズの意味の三角形の概略説明等)
- 12回 認知言語学の概略説明
- 13回 S. Kuno等が提案している機能文法の概略説明(前置詞残留現象を例に取り)
- 14回 述語が持つ項構造(不定詞等に見られる発音されない意味上の主語を仮定する根拠の概略説明)
- 15回 まとめ

10回程度、講義の終わりに小テストを行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

試験60% レポート40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

前もって、テキストを読んでくること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

疑問が生じたらその日に質問等をし、疑問を解消すること。

キーワード /Keywords

英文法I【昼】

担当者名 /Instructor 廣田 恵美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1 - 1・ 1 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

主に英語教育を目指す人を対象に、英語の仕組みそのものを平易な切り口で理解してもらうことを目的とする。

教科書 /Textbooks

『Rediscover Grammar』 (David Crystal著 Longman)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『英文法ビフォー&アフター』 (豊永 彰著 南雲堂 1,400円)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2回 Types of sentences
- 3回 Clause types
- 4回 The verb element, The subject element
- 5回 The object element, The complement element
- 6回 The adverbial element
- 7回 Verb phrase structure
- 8回 Finite and nonfinite
- 9回 Auxilliary verbs
- 10回 The moods of the verb phrase
- 11回 Active and passive
- 12回 Verb tenses
- 13回 Verb aspects
- 14回 Modal meanings
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...80% 授業への取り組み (小テスト含む)...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

無届けの遅刻や欠席に対しては、厳しい態度で臨む所存です。

キーワード /Keywords

「使える英文法」文の仕組み 動詞 名詞

英文法I【昼】

専門教育科目
専門基礎教育科目
選択科目

担当者名 /Instructor 廣田 恵美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1 - 3・ 1 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

主に英語教育を目指す人を対象に、英語の仕組みそのものを平易な切り口で理解してもらうことを目的とする。

教科書 /Textbooks

『Rediscover Grammar』 (David Crystal著 Longman)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『英文法ビフォー&アフター』 (豊永 彰著 南雲堂 1,400円)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2回 Types of sentences
- 3回 Clause types
- 4回 The verb element, The subject element
- 5回 The object element, The complement element
- 6回 The adverbial element
- 7回 Verb phrase structure
- 8回 Finite and nonfinite
- 9回 Auxilliary verbs
- 10回 The moods of the verb phrase
- 11回 Active and passive
- 12回 Verb tenses
- 13回 Verb aspects
- 14回 Modal meanings
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...80% 授業への取り組み (小テスト含む)...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

無届けの遅刻や欠席に対しては、厳しい態度で臨む所存です。

キーワード /Keywords

「使える英文法」文の仕組み 動詞 名詞

英文法II 【昼】

専門教育科目
専門基礎教育科目
選択科目

担当者名 /Instructor 廣田 恵美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1 - 1・ 1 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「英文法の体系を習得することを目的に、文法的事象の分析や整理の仕方を具体的に学習する。英文法の習得には日本語文法との比較対象が有効であるとの前提に立ち、学習の一助とする。」

教科書 /Textbooks

『Rediscover Grammar』 David Crystal 著 Longman

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『英文法ビフォー&アフター』(豊永 彰著) 南雲堂 ¥1,400

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業内容と成績評価の仕方に関する説明 今後の概説
- 2回 The noun phrase: outline of NP
- 3回 The noun phrase: common and proper nouns
- 4回 The noun phrase: count and noncount nouns
- 5回 The noun phrase: variable and invariable nouns
- 6回 The noun phrase: gender and case
- 7回 Determiners
- 8回 The articles
- 9回 Predeterminers, premodification
- 10回 Relative clauses
- 11回 Pronouns
- 12回 Adjectives
- 13回 Adverbs
- 14回 Prepositions
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の授業への取り組み...20%、試験...80%で総合評価をする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

専門基礎教育科目の「英文法I」とあわせて受講すればわかりやすい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

名詞句の特徴、冠詞、形容詞・副詞、前置詞

英文法II 【昼】

専門教育科目
専門基礎教育科目
選択科目

担当者名 /Instructor 廣田 恵美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1 - 3・ 1 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「英文法の体系を習得することを目的に、文法的事象の分析や整理の仕方を具体的に学習する。英文法の習得には日本語文法との比較対象が有効であるとの前提に立ち、学習の一助とする。」

教科書 /Textbooks

『Rediscover Grammar』 David Crystal 著 Longman

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『英文法ビフォー&アフター』(豊永 彰著) 南雲堂 ¥1,400

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業内容と成績評価の仕方に関する説明 今後の概説
- 2回 The noun phrase: outline of NP
- 3回 The noun phrase: common and proper nouns
- 4回 The noun phrase: count and noncount nouns
- 5回 The noun phrase: variable and invariable nouns
- 6回 The noun phrase: gender and case
- 7回 Determiners
- 8回 The articles
- 9回 Predeterminers, premodification
- 10回 Relative clauses
- 11回 Pronouns
- 12回 Adjectives
- 13回 Adverbs
- 14回 Prepositions
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の授業への取り組み...20%、試験...80%で総合評価をする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

専門基礎教育科目の「英文法I」とあわせて受講すればわかりやすい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

名詞句の特徴、冠詞、形容詞・副詞、前置詞

異文化間コミュニケーション概論【昼】

担当者名 /Instructor 山崎 和夫 / KAZUO YAMASAKI / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本と主にアメリカを例に取り、異文化接触に伴うコミュニケーション（非言語も含む）の衝突、摩擦の事例を考察して、そのメカニズムを言語的、社会的、文化的要因に分解しながら解明していく。その中で異文化コミュニケーションの関する実践的方法論などにも触れる。

教科書 /Textbooks

授業最初のコースワークの説明の時に知らせる。また必要な資料は授業において適宜配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

チャールズ・プリブル 『科学としての異文化コミュニケーション』ナカニシヤ出版
 鈴木孝夫 『ことばと文化』岩波新書
 古田暁（監修）『異文化コミュニケーション』有斐閣選書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースワークの説明
- 第2回 文化とは何か、コミュニケーションとは何か
- 第3回 異文化コミュニケーションの諸相
- 第4回 言語相対性論とコミュニケーション
- 第5回 ことばと文化とコミュニケーション
- 第6回 日本語と英語の構造に起因するコミュニケーション・ギャップ
- 第7回 事例観察 各事例とその基となる日米文化の差異（直感的な観察）
- 第8回 事例観察 理論（ハイコンテキスト、ローコンテキスト）に基づく分析
- 第9回 事例研究 日本語話者が多弁なとき、それに対する在日外国人からの反応
- 第10回 事例研究 統計的処理の実例（非）ステレオタイプ
- 第11回 事例研究 実践方法（バーンランド）の手順（「私的自己、公的自己」「防御の方策」）
- 第12回 非言語行動、研究領域、日韓行動の差異
- 第13回 広告、翻訳に見る異文化コミュニケーション
- 第14回 異文化適応、カルチュラル・アシミレーター
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業での活動30% 期末試験70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

コミュニケーション論であり、スキルの問題を扱う訳ではない。幅広い領域であるが、ことばと文化が深く関わっていること、文化がコミュニケーションがどのように関わっているかを日常的に観察することが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日英翻訳演習 【昼】

担当者名 /Instructor だニエル・ストラック / Daniel C. Strack / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本の文学作品を英語に翻訳する。作品の引用箇所を徹底的に解釈したのちに、修辞学上の理解に基づいて翻訳することができれば幸いである。本授業は、基礎的な英語力をつける講義ではない。あくまで、英語の表現力を向上させると同時に、日本語及び日本文学への理解を深めることを目的とする。

教科書 /Textbooks

Strack, Daniel C. Literature in the Crucible of Translation: A Cognitive Account. (Okayama: University Education Press, 2007)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

プリントを必要に応じて配布する。適切な和英辞典或いは電子辞典(辞典の選択は各自判断の上)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 当授業の翻訳に対するアプローチの紹介
- 第2回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【翻訳とは何か】
- 第3回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【名詞】
- 第4回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【方言】
- 第5回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【総合理解】
- 第6回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【概念】
- 第7回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【詩学】
- 第8回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【背景的知識】
- 第9回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【読者間における差異】
- 第10回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【対話】
- 第11回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【敬語】
- 第12回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【類音異義語】
- 第13回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【タイトル】
- 第14回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【歴史的観点】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加：30% 小テスト：0% 期末試験：35% 課題：22% 態度：13%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

学生は毎回その日のリーディング(英語)を読んで、授業の前に日本語の翻訳課題を英語に翻訳します。授業中では、リーディングに対する質問を解答してから、翻訳課題の例文を見ながら、その翻訳における特徴や難題を取り上げていきます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日英翻訳演習 【昼】

担当者名 /Instructor だニエル・ストラック / Daniel C. Strack / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本の文学作品を英語に翻訳する。作品の引用箇所を徹底的に解釈したのちに、修辞学上の理解に基づいて翻訳することができれば幸いである。本授業は、基礎的な英語力をつける講義ではない。あくまで、英語の表現力を向上させると同時に、日本語及び日本文学への理解を深めることを目的とする。

教科書 /Textbooks

Strack, Daniel C. Literature in the Crucible of Translation: A Cognitive Account. (Okayama: University Education Press, 2007)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

プリントを必要に応じて配布する。適切な和英辞典或いは電子辞典(辞典の選択は各自判断の上)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回当授業の翻訳に対するアプローチの紹介
- 第2回講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【翻訳とは何か】
- 第3回講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【名詞】
- 第4回講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【方言】
- 第5回講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【総合理解】
- 第6回講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【概念】
- 第7回講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【詩学】
- 第8回講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【背景的知識】
- 第9回講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【読者間における差異】
- 第10回講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【対話】
- 第11回講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【敬語】
- 第12回講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【類音異義語】
- 第13回講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【タイトル】
- 第14回講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【歴史的観点】
- 第15回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加：30% 小テスト：0% 期末試験：35% 課題：22% 態度：13%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

学生は毎回その日のリーディング(英語)を読んで、授業の前に日本語の翻訳課題を英語に翻訳します。授業中では、リーディングに対する質問を解答してから、翻訳課題の例文を見ながら、その翻訳における特徴や難題を取り上げていきます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日英翻訳演習 【昼】

担当者名 /Instructor だニエル・ストラック / Daniel C. Strack / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本の文学作品を英語に翻訳する。作品の引用箇所を徹底的に解釈したのちに、修辞学上の理解に基づいて翻訳することができれば幸いである。本授業は、基礎的な英語力をつける講義ではない。あくまで、英語の表現力を向上させると同時に、日本語及び日本文学への理解を深めることを目的とする。

教科書 /Textbooks

Strack, Daniel C. Literature in the Crucible of Translation: A Cognitive Account. (Okayama: University Education Press, 2007)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

プリントを必要に応じて配布する。適切な和英辞典或いは電子辞典(辞典の選択は各自判断の上)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 当授業の翻訳に対するアプローチの紹介
- 第2回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【翻訳とは何か】
- 第3回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【名詞】
- 第4回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【方言】
- 第5回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【総合理解】
- 第6回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【概念】
- 第7回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【詩学】
- 第8回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【背景的知識】
- 第9回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【読者間における差異】
- 第10回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【対話】
- 第11回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【敬語】
- 第12回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【類音異義語】
- 第13回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【タイトル】
- 第14回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【歴史的観点】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加：30% 小テスト：0% 期末試験：35% 課題：22% 態度：13%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

学生は毎回その日のリーディング(英語)を読んで、授業の前に日本語の翻訳課題を英語に翻訳します。授業中では、リーディングに対する質問を解答してから、翻訳課題の例文を見ながら、その翻訳における特徴や難題を取り上げていきます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日英翻訳演習 【昼】

担当者名 /Instructor だニエル・ストラック / Daniel C. Strack / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本の文学作品を英語に翻訳する。作品の引用箇所を徹底的に解釈したのちに、修辞学上の理解に基づいて翻訳することができれば幸いである。本授業は、基礎的な英語力をつける講義ではない。あくまで、英語の表現力を向上させると同時に、日本語及び日本文学への理解を深めることを目的とする。

教科書 /Textbooks

Strack, Daniel C. Literature in the Crucible of Translation: A Cognitive Account. (Okayama: University Education Press, 2007)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

プリントを必要に応じて配布する。適切な和英辞典或いは電子辞典(辞典の選択は各自判断の上)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 当授業の翻訳に対するアプローチの紹介
- 第2回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【翻訳とは何か】
- 第3回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【名詞】
- 第4回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【方言】
- 第5回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【総合理解】
- 第6回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【概念】
- 第7回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【詩学】
- 第8回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【背景的知識】
- 第9回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【読者間における差異】
- 第10回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【対話】
- 第11回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【敬語】
- 第12回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【類音異義語】
- 第13回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【タイトル】
- 第14回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【歴史的観点】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加：30% 小テスト：0% 期末試験：35% 課題：22% 態度：13%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

学生は毎回その日のリーディング(英語)を読んで、授業の前に日本語の翻訳課題を英語に翻訳します。授業中では、リーディングに対する質問を解答してから、翻訳課題の例文を見ながら、その翻訳における特徴や難題を取り上げていきます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語リスニング演習 A 【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
必修科目

担当者名 /Instructor 平野 圭子 / Keiko Hirano / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

オーディオ教材を利用してリスニングスキルの上達を目的とした授業を行います。ニュースの映像を扱ったDVD教材を用い、語彙、表現、聞き取り等の練習をします。特に必要な情報を聞き取る練習に重点を置きます。

教科書 /Textbooks

Sakae Onoda & Lucy Cooker. (2012). 『BBC Understanding the News in English 9』.金星堂.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2回 Unit 1 Olympic Tickets on Sale
- 3回 Unit 2 Free from House Arrest
- 4回 Unit 3 Kate Middleton Tour
- 5回 Unit 4 Wikipedia—10 Years Old
- 6回 Unit 5 Beef from Cloned Cows
- 7回 Unit 6 Children as News Reporters
- 8回 Review (Units 1-6)
- 9回 Unit 7 Women's Lives in Afghanistan
- 10回 Unit 8 British Summertime Controversy
- 11回 Unit 9 Bio-diversity at Risk
- 12回 Unit 10 Tobacco Displays Banned
- 13回 Unit 11 Schoolchildren and Sleep
- 14回 Unit 12 Jobs for the Over-50s
- 15回 Review (Units 7-12)

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト・平常の学習状況...40%、期末試験...60%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回指定された箇所を予習してきて下さい。必ず辞書を持参して下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語リスニング演習 A 【昼】

担当者名 /Instructor 平野 圭子 / Keiko Hirano / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

オーディオ教材を利用してリスニングスキルの上達を目的とした授業を行います。ニュースの映像を扱ったDVD教材を用い、語彙、表現、聞き取り等の練習をします。特に必要な情報を聞き取る練習に重点を置きます。

教科書 /Textbooks

Sakae Onoda & Lucy Cooker. (2012). 『BBC Understanding the News in English 9』.金星堂.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2回 Unit 1 Olympic Tickets on Sale
- 3回 Unit 2 Free from House Arrest
- 4回 Unit 3 Kate Middleton Tour
- 5回 Unit 4 Wikipedia—10 Years Old
- 6回 Unit 5 Beef from Cloned Cows
- 7回 Unit 6 Children as News Reporters
- 8回 Review (Units 1-6)
- 9回 Unit 7 Women's Lives in Afghanistan
- 10回 Unit 8 British Summertime Controversy
- 11回 Unit 9 Bio-diversity at Risk
- 12回 Unit 10 Tobacco Displays Banned
- 13回 Unit 11 Schoolchildren and Sleep
- 14回 Unit 12 Jobs for the Over-50s
- 15回 Review (Units 7-12)

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト・平常の学習状況...40%、期末試験...60%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回指定された箇所を予習してきて下さい。必ず辞書を持参して下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語リスニング演習 A 【昼】

担当者名 /Instructor 平野 圭子 / Keiko Hirano / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

オーディオ教材を利用してリスニングスキルの上達を目的とした授業を行います。ニュースの映像を扱ったDVD教材を用い、語彙、表現、聞き取り等の練習をします。特に必要な情報を聞き取る練習に重点を置きます。

教科書 /Textbooks

Sakae Onoda & Lucy Cooker. (2012). 『BBC Understanding the News in English 9』.金星堂.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2回 Unit 1 Olympic Tickets on Sale
- 3回 Unit 2 Free from House Arrest
- 4回 Unit 3 Kate Middleton Tour
- 5回 Unit 4 Wikipedia—10 Years Old
- 6回 Unit 5 Beef from Cloned Cows
- 7回 Unit 6 Children as News Reporters
- 8回 Review (Units 1-6)
- 9回 Unit 7 Women's Lives in Afghanistan
- 10回 Unit 8 British Summertime Controversy
- 11回 Unit 9 Bio-diversity at Risk
- 12回 Unit 10 Tobacco Displays Banned
- 13回 Unit 11 Schoolchildren and Sleep
- 14回 Unit 12 Jobs for the Over-50s
- 15回 Review (Units 7-12)

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト・平常の学習状況...40%、期末試験...60%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回指定された箇所を予習してきて下さい。必ず辞書を持参して下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語リスニング演習 A 【昼】

担当者名 /Instructor 平野 圭子 / Keiko Hirano / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

オーディオ教材を利用してリスニングスキルの上達を目的とした授業を行います。ニュースの映像を扱ったDVD教材を用い、語彙、表現、聞き取り等の練習をします。特に必要な情報を聞き取る練習に重点を置きます。

教科書 /Textbooks

Sakae Onoda & Lucy Cooker. (2012). 『BBC Understanding the News in English 9』.金星堂.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2回 Unit 1 Olympic Tickets on Sale
- 3回 Unit 2 Free from House Arrest
- 4回 Unit 3 Kate Middleton Tour
- 5回 Unit 4 Wikipedia—10 Years Old
- 6回 Unit 5 Beef from Cloned Cows
- 7回 Unit 6 Children as News Reporters
- 8回 Review (Units 1-6)
- 9回 Unit 7 Women's Lives in Afghanistan
- 10回 Unit 8 British Summertime Controversy
- 11回 Unit 9 Bio-diversity at Risk
- 12回 Unit 10 Tobacco Displays Banned
- 13回 Unit 11 Schoolchildren and Sleep
- 14回 Unit 12 Jobs for the Over-50s
- 15回 Review (Units 7-12)

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト・平常の学習状況...40%、期末試験...60%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回指定された箇所を予習してきて下さい。必ず辞書を持参して下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英会話演習B 【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
必修科目

担当者名
/Instructor

アンデリユー・ジッツマン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次
/Year

単位 2単位
/Credits

学期 2学期
/Semester

2学期

授業形態
/Class Format

講義・実習

クラス 2 - 1
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
						○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

To teach students the process of communication through discussion
To have students experience and practice key communications skills
To help students express their own ideas and values

教科書 /Textbooks

Impact Issues 3 (New Edition) by Richard R. Day, Joseph Shaules and Junko Yamanaka
Pearson Longman Publishing 2009

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction: Cosmetic Surgery-Friends or Lovers
- 2回 I Don't Care, Rules
- 3回 Plagiarism
- 4回 Housework
- 5回 The Unborn Child
- 6回 Earning Money
- 7回 Adult Children- Body Art
- 8回 Sexual Harassment
- 9回 Home-Career Choice
- 10回 Save Our Country
- 11回 High Tech Toys
- 12回 A Woman's Place
- 13回 One Sided Love
- 14回 Can War Make Peace
- 15回 My Split Family-Divorce

成績評価の方法 /Assessment Method

Evaluation will be based on a combination of 50% participation and a final assignment 50%.
Students are required to prepare material for each class as homework.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Prepare your speech

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英会話演習B 【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
必修科目

担当者名 /Instructor デニス・ウールブライト / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

To teach students the process of communication through discussion
To have students experience and practice key communications skills
To help students express their own ideas and values

教科書 /Textbooks

Impact Issues 3 (New Edition) by Richard R. Day, Joseph Shaules and Junko Yamanaka
Pearson Longman Publishing 2009

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction: Cosmetic Surgery-Friends or Lovers
- 2回 I Don't Care, Rules
- 3回 Plagiarism
- 4回 Housework
- 5回 The Unborn Child
- 6回 Earning Money
- 7回 Adult Children- Body Art
- 8回 Sexual Harassment
- 9回 Home-Career Choice
- 10回 Save Our Country
- 11回 High Tech Toys
- 12回 A Woman's Place
- 13回 One Sided Love
- 14回 Can War Make Peace
- 15回 My Split Family-Divorce

成績評価の方法 /Assessment Method

Evaluation will be based on a combination of 50% participation and a final assignment 50%.
Students are required to prepare material for each class as homework.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Prepare your speech

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英会話演習B 【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
必修科目

担当者名 /Instructor デニス・ウールブライト / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

To teach students the process of communication through discussion
To have students experience and practice key communications skills
To help students express their own ideas and values

教科書 /Textbooks

Impact Issues 3 (New Edition) by Richard R. Day, Joseph Shaules and Junko Yamanaka
Pearson Longman Publishing 2009

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction: Cosmetic Surgery-Friends or Lovers
- 2回 I Don't Care, Rules
- 3回 Plagiarism
- 4回 Housework
- 5回 The Unborn Child
- 6回 Earning Money
- 7回 Adult Children- Body Art
- 8回 Sexual Harassment
- 9回 Home-Career Choice
- 10回 Save Our Country
- 11回 High Tech Toys
- 12回 A Woman's Place
- 13回 One Sided Love
- 14回 Can War Make Peace
- 15回 My Split Family-Divorce

成績評価の方法 /Assessment Method

Evaluation will be based on a combination of 50% participation and a final assignment 50%.
Students are required to prepare material for each class as homework.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Prepare your speech

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英会話演習B 【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
必修科目

担当者名 /Instructor デニス・ウールブライト / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

To teach students the process of communication through discussion
To have students experience and practice key communications skills
To help students express their own ideas and values

教科書 /Textbooks

Impact Issues 3 (New Edition) by Richard R. Day, Joseph Shaules and Junko Yamanaka
Pearson Longman Publishing 2009

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction: Cosmetic Surgery-Friends or Lovers
- 2回 I Don't Care, Rules
- 3回 Plagiarism
- 4回 Housework
- 5回 The Unborn Child
- 6回 Earning Money
- 7回 Adult Children- Body Art
- 8回 Sexual Harassment
- 9回 Home-Career Choice
- 10回 Save Our Country
- 11回 High Tech Toys
- 12回 A Woman's Place
- 13回 One Sided Love
- 14回 Can War Make Peace
- 15回 My Split Family-Divorce

成績評価の方法 /Assessment Method

Evaluation will be based on a combination of 50% participation and a final assignment 50%.
Students are required to prepare material for each class as homework.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Prepare your speech

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Reading and Discussion I 【昼】

担当者名 /Instructor クレイグ・ランバート / Craig P. Lambert / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Learners will read unabridged stories, dramas or novels in English each week in order to develop comprehension and self-expression skills. To facilitate this process, they may be provided with support such as: (1) organizing activities that focus their attention of key elements of the story, (2) notes to draw their attention to difficult or idiomatic aspects of the language used, and (3) videos to help them experience how the language is used in its social context.

教科書 /Textbooks

The texts to be read each term will be chosen by the instructor in line with the needs, abilities and interests of the group.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Supplementary resources to be used each term will be specified by the instructor in line with the needs, abilities and interests of the group.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Orientation
- 2 回 Rashomon
- 3 回 In a Bamboo Grove
- 4 回 The Nose
- 5 回 The Spider's Tread
- 6 回 Dr. Ogata Ryouzai: A Memorandum
- 7 回 The Story of the Head that Fell Off
- 8 回 Neighbors
- 9 回 They're not your Husband
- 1 0 回 Are you a Doctor?
- 1 1 回 Collectors
- 1 2 回 What do you do in San Francisco?
- 1 3 回 Fat
- 1 4 回 Jerry & Molly & Sam
- 1 5 回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

70% Weekly homework, participation, writing tasks
30% Final examination

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Learners will read from 5 to 15 pages of unabridged English each week, prepare questions to discuss in class and express their ideas and opinions in writing.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Reading and Discussion I 【昼】

担当者名 /Instructor クレイグ・ランバート / Craig P. Lambert / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Learners will read unabridged stories, dramas or novels in English each week in order to develop comprehension and self-expression skills. To facilitate this process, they may be provided with support such as: (1) organizing activities that focus their attention of key elements of the story, (2) notes to draw their attention to difficult or idiomatic aspects of the language used, and (3) videos to help them experience how the language is used in its social context.

教科書 /Textbooks

The texts to be read each term will be chosen by the instructor in line with the needs, abilities and interests of the group.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Supplementary resources to be used each term will be specified by the instructor in line with the needs, abilities and interests of the group.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Orientation
- 2 回 Rashomon
- 3 回 In a Bamboo Grove
- 4 回 The Nose
- 5 回 The Spider's Tread
- 6 回 Dr. Ogata Ryouzai: A Memorandum
- 7 回 The Story of the Head that Fell Off
- 8 回 Neighbors
- 9 回 They're not your Husband
- 10 回 Are you a Doctor?
- 11 回 Collectors
- 12 回 What do you do in San Francisco?
- 13 回 Fat
- 14 回 Jerry & Molly & Sam
- 15 回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

70% Weekly homework, participation, writing tasks
30% Final examination

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Learners will read from 5 to 15 pages of unabridged English each week, prepare questions to discuss in class and express their ideas and opinions in writing.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Reading and Discussion I 【昼】

担当者名 /Instructor 石井有希子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Learners will read one unabridged piece of English literature. The purpose of the course will to develop reading and discussion skills while familiarizing learners with a range of idiomatic expressions with their socio-cultural context. In order to facilitate learners' comprehension, they will be provided with one or more of the following resources: (1) weekly study guides that focus their attention of key elements of the text, (2) video support to help them understand the language in use, and (3) notes in either Japanese or English to draw their attention to difficult or idiomatic aspects of the language and its use.

教科書 /Textbooks

Andrew Niccol, The Truman Show, Shohakusha.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

The supplementary resources to be used each term will be specified by the instructor.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Orientation; Short introductory lecture; Preview of the section
- 2回 Unit 1 Meeting Truman (Small group discussion & review)
- 3回 Unit 2 Fear of the Ocean (Small group discussion & review)
- 4回 Unit 3 Lauren & Sylvia (Small group discussion & review)
- 5回 Unit 4 Something Strange is Going on (Small group discussion & review)
- 6回 Unit 5 Truman Tries to Leave (Small group discussion & review; Preview of the next section)
- 7回 Unit 6 Truman and Meryl Go for a Ride (Small group discussion & review)
- 8回 Unit 7 The Reunion (Small group discussion & review)
- 9回 Unit 8 Truman's Past Revealed (Small group discussion & review)
- 10回 Unit 8 Truman's Past Revealed (Small group discussion & review)
- 11回 Unit 9 Truman Disappears (Small group discussion & review)
- 12回 Unit 9 Truman Disappears (Small group discussion & review)
- 13回 Unit 10 Truman Finds out (Small group discussion & review)
- 14回 Unit 10 Truman Finds out (Small group discussion & review)
- 15回 Review of the key elements of the work in preparation for the final examination

成績評価の方法 /Assessment Method

Weekly participation 25% Final examination 75%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Learners will read the script each week and complete the accompanying homework assignments.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Reading and Discussion I 【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
必修科目

キーワード /Keywords

Reading and Discussion I 【昼】

担当者名 /Instructor 石井有希子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Learners will read one unabridged piece of English literature. The purpose of the course will to develop reading and discussion skills while familiarizing learners with a range of idiomatic expressions with their socio-cultural context. In order to facilitate learners' comprehension, they will be provided with one or more of the following resources: (1) weekly study guides that focus their attention of key elements of the text, (2) video support to help them understand the language in use, and (3) notes in either Japanese or English to draw their attention to difficult or idiomatic aspects of the language and its use.

教科書 /Textbooks

Andrew Niccol, The Truman Show, Shohakusha.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

The supplementary resources to be used each term will be specified by the instructor.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Orientation; Short introductory lecture; Preview of the section
- 2回 Unit 1 Meeting Truman (Small group discussion & review)
- 3回 Unit 2 Fear of the Ocean (Small group discussion & review)
- 4回 Unit 3 Lauren & Sylvia (Small group discussion & review)
- 5回 Unit 4 Something Strange is Going on (Small group discussion & review)
- 6回 Unit 5 Truman Tries to Leave (Small group discussion & review; Preview of the next section)
- 7回 Unit 6 Truman and Meryl Go for a Ride (Small group discussion & review)
- 8回 Unit 7 The Reunion (Small group discussion & review)
- 9回 Unit 8 Truman's Past Revealed (Small group discussion & review)
- 10回 Unit 8 Truman's Past Revealed (Small group discussion & review)
- 11回 Unit 9 Truman Disappears (Small group discussion & review)
- 12回 Unit 9 Truman Disappears (Small group discussion & review)
- 13回 Unit 10 Truman Finds out (Small group discussion & review)
- 14回 Unit 10 Truman Finds out (Small group discussion & review)
- 15回 Review of the key elements of the work in preparation for the final examination

成績評価の方法 /Assessment Method

Weekly participation 25% Final examination 75%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Learners will read the script each week and complete the accompanying homework assignments.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Reading and Discussion I 【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
必修科目

キーワード /Keywords

Reading and Discussion II 【昼】

担当者名 /Instructor クレイグ・ランバート / Craig P. Lambert / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 /2nd Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2nd Semester 授業形態 /Class Format 講義・実習 /Lecture・Practical クラス /Class 2 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Learners will read unabridged stories, dramas or novels in English each week in order to develop comprehension and self-expression skills. To facilitate this process, they may be provided with support such as: (1) organizing activities that focus their attention on key elements of the story, (2) notes to draw their attention to difficult or idiomatic aspects of the language used, and (3) videos to help them experience how the language is used in its social context.

教科書 /Textbooks

The texts to be read each term will be chosen by the instructor in line with the needs, abilities and interests of each group.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Supplementary resources to be used each term will be specified by the instructor in line with the needs, abilities and interests of each group.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Atsumori
- 2回 Hagoromo
- 3回 Hanjo
- 4回 Kantan
- 5回 Semimaru
- 6回 Sumida-gawa
- 7回 Takasago
- 8回 The Story of a Panic (part 1)
- 9回 The Story of a Panic (part 2)
- 10回 The Life You Save May Be Your Own (part 1)
- 11回 The Life You Save May Be Your Own (part 2)
- 12回 The Bunchgrass Edge of the World (part 1)
- 13回 The Bunchgrass Edge of the World (part 2)
- 14回 Brokeback Mountain (part 1)
- 15回 Brokeback Mountain (part 2)

成績評価の方法 /Assessment Method

70% Weekly homework, participation, writing tasks
30% Final examination

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Learners will read between 10 and 20 pages of unabridged English each week, prepare questions to discuss in class and express their ideas and opinions in writing.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Reading and Discussion II 【昼】

担当者名 /Instructor クレイグ・ランバート / Craig P. Lambert / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 /Class Format 授業形態 講義・実習 クラス 2 - 2 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Learners will read unabridged stories, dramas or novels in English each week in order to develop comprehension and self-expression skills. To facilitate this process, they may be provided with support such as: (1) organizing activities that focus their attention on key elements of the story, (2) notes to draw their attention to difficult or idiomatic aspects of the language used, and (3) videos to help them experience how the language is used in its social context.

教科書 /Textbooks

The texts to be read each term will be chosen by the instructor in line with the needs, abilities and interests of each group.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Supplementary resources to be used each term will be specified by the instructor in line with the needs, abilities and interests of each group.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Atsumori
- 2回 Hagoromo
- 3回 Hanjo
- 4回 Kantan
- 5回 Semimaru
- 6回 Sumida-gawa
- 7回 Takasago
- 8回 The Story of a Panic (part 1)
- 9回 The Story of a Panic (part 2)
- 10回 The Life You Save May Be Your Own (part 1)
- 11回 The Life You Save May Be Your Own (part 2)
- 12回 The Bunchgrass Edge of the World (part 1)
- 13回 The Bunchgrass Edge of the World (part 2)
- 14回 Brokeback Mountain (part 1)
- 15回 Brokeback Mountain (part 2)

成績評価の方法 /Assessment Method

70% Weekly homework, participation, writing tasks
30% Final examination

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Learners will read between 10 and 20 pages of unabridged English each week, prepare questions to discuss in class and express their ideas and opinions in writing.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Reading and Discussion II 【昼】

担当者名 /Instructor デニス・ジョーンズ / Denis JONNES / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 /Class Format 授業形態 講義・実習 /Class クラス 2 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The purpose of the course will be to develop reading and discussion skills while familiarizing learners with idiomatic English in its socio-cultural context. Learners will read an unabridged literary text (or texts). To facilitate comprehension, students will be provided with one or more of the following resources:

- (1) weekly study guides that focus on key elements of the text;
- (2) video support to help them understand language in use;
- (3) notes in either Japanese or English to draw attention to difficult or idiomatic aspects of the language and its use.

教科書 /Textbooks

Text/s distributed by the instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students may consult with the instructor about supplementary materials.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1. Atsumori
- Week 2. Hagoromo
- Week 3. Hanjo
- Week 4. Kantan
- Week 5. Semimaru
- Week 6. Sumida-gawa
- Week 7. Takasago
- Week 8. The Story of a Panic (part 1)
- Week 9. The Story of a Panic (part 2)
- Week 10. The Life You Save May Be Your Own (part 1)
- Week 11. The Life You Save May Be Your Own (part 2)
- Week 12. The Bunchgrass Edge of the World (part 1)
- Week 13. The Bunchgrass Edge of the World (part 2)
- Week 14. Brokeback Mountain (part 1)
- Week 15. Brokeback Mountain (part 2)

成績評価の方法 /Assessment Method

70% Weekly reading, homework assignments, and classroom participation
30% Examination

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Students will read 10 to 25 pages a week, prepare questions to discuss in class and express their ideas and opinions in writing.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Reading and Discussion II 【昼】

担当者名 /Instructor デニス・ジョーンズ / Denis JONNES / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The purpose of the course will be to develop reading and discussion skills while familiarizing learners with idiomatic English in its socio-cultural context. Learners will read an unabridged literary text (or texts). To facilitate comprehension, students will be provided with one or more of the following resources:

- (1) weekly study guides that focus on key elements of the text;
- (2) video support to help them understand language in use;
- (3) notes in either Japanese or English to draw attention to difficult or idiomatic aspects of the language and its use.

教科書 /Textbooks

Text/s distributed by the instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students may consult with the instructor about supplementary materials.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1. Atsumori
- Week 2. Hagoromo
- Week 3. Hanjo
- Week 4. Kantan
- Week 5. Semimaru
- Week 6. Sumida-gawa
- Week 7. Takasago
- Week 8. The Story of a Panic (part 1)
- Week 9. The Story of a Panic (part 2)
- Week 10. The Life You Save May Be Your Own (part 1)
- Week 11. The Life You Save May Be Your Own (part 2)
- Week 12. The Bunchgrass Edge of the World (part 1)
- Week 13. The Bunchgrass Edge of the World (part 2)
- Week 14. Brokeback Mountain (part 1)
- Week 15. Brokeback Mountain (part 2)

成績評価の方法 /Assessment Method

70% Weekly reading, homework assignments, and classroom participation
30% Examination

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Students will read 10 to 25 pages a week, prepare questions to discuss in class and express their ideas and opinions in writing.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語リスニング演習B 【昼】

担当者名 /Instructor 江口 雅子 / EGUCHI MASAKO / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 授業形態 講義・実習 クラス 2 - 1 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

アメリカの3大ネットワークの一つである、ABC放送のワールド・ニュースをDVDで視聴し、生の速いスピードの英語を聞き取ることを目標とする。DVDが付属されているものをテキストとすることにより、内容理解を促進し、学習に対する興味を高め、動機付けとする。段階的な学習ができる練習問題と取り組み、また、アメリカ国内テレビニュース英語の特徴を捉えることにより、学生は、ニュース英語を聞き取るために必要なリスニング力を向上することが出来るようになる。

教科書 /Textbooks

ABC World News14 (Shigeru Yamane / Kathleen Yamane 著) 金星堂 ¥2,300 (税別)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 . Course Introduction
- 2 . Lady Liberty: Who's That Lady?
- 3 . Disaster in the Pacific
- 4 . Happiest Person in America?
- 5 . Working Moms' Guilt
- 6 . A Mother's Love: Elephants
- 7 . McJobs: 50,000 New Jobs
- 8 . You and Your Siblings
- 9 . 911: Getting Answers
- 1 0 . Food and ADHD
- 1 1 . Battle on the Hill
- 1 2 . Our Addiction
- 1 3 . BYU: Fair Punishment?
- 1 4 . Made in America: Checking Clothing
- 1 5 . Course Review

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・・・50% 日常の授業への取り組み・・・20% 小テスト・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

事前にDVDを視聴し、予習・復習をすることを必須とする。

キーワード /Keywords

ディクテーション、ニュース英語、Lead (ニュースの構成)

英語リスニング演習B 【昼】

担当者名 /Instructor 江口 雅子 / EGUCHI MASAKO / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

アメリカの3大ネットワークの一つである、ABC放送のワールド・ニュースをDVDで視聴し、生の速いスピードの英語を聞き取ることを目標とする。DVDが付属されているものをテキストとすることにより、内容理解を促進し、学習に対する興味を高め、動機付けとする。段階的な学習ができる練習問題と取り組み、また、アメリカ国内テレビニュース英語の特徴を捉えることにより、学生は、ニュース英語を聞き取るために必要なリスニング力を向上することが出来るようになる。

教科書 /Textbooks

ABC World News14 (Shigeru Yamane / Kathleen Yamane 著) 金星堂 ¥2,300 (税別)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 . Course Introduction
- 2 . Lady Liberty: Who's That Lady?
- 3 . Disaster in the Pacific
- 4 . Happiest Person in America?
- 5 . Working Moms' Guilt
- 6 . A Mother's Love: Elephants
- 7 . McJobs: 50,000 New Jobs
- 8 . You and Your Siblings
- 9 . 911: Getting Answers
- 1 0 . Food and ADHD
- 1 1 . Battle on the Hill
- 1 2 . Our Addiction
- 1 3 . BYU: Fair Punishment?
- 1 4 . Made in America: Checking Clothing
- 1 5 . Course Review

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・・・50% 日常の授業への取り組み・・・20% 小テスト・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

事前にDVDを視聴し、予習・復習をすることを必須とする。

キーワード /Keywords

ディクテーション、ニュース英語、Lead (ニュースの構成)

英語リスニング演習B 【昼】

担当者名 /Instructor 山口 実 / YAMAGUCHI, Minoru / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

英語の視聴覚教材の溢れる世の中ではあるが、雑音やヘッドフォンの影響などで、若者の聴力は確実に落ちている。一方、グローバル化やボーダーレス化が進む世の中で、コミュニケーションの道具たる英語の需要は増し、聴く力も大変重要となっている。そして、聴く力は他の読む、書く、話す力をバランス良く学ぶ大きな助けとなり、英語の実践力を高める。

従い、この講座では、教科書に基づき身近な題材に関する7つのエッセイを通して、聴き、理解しながら、Shadowingを繰り返しし、Outputする練習をする。NHK ETVやBBCや映画のDVDなどup-to-dateな視聴覚教材を十分活用しながら、Listening Skillを習得して行く。

教科書 /Textbooks

Developing English Fluency through Shadowing
シャドーイングで学ぶ英語—インプットをアウトプットにつなぐ—
南雲堂 ISBN978-4-523-17670-1

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Great English Speeches (英光社)
編者：新井良雄
ISBN978-4-87097-126-4

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2回 Left-handedness(Listening,Shadowing,Vocabulary/Comprehension/Grammar/Performance Check, Retellingの繰り返し、以下同様)
- 3回 Solar Power (1)
- 4回 Solar Power (2)
- 5回 Robots (1)
- 6回 Robots (2)
- 7回 Motivation (1)
- 8回 Motivation (2)
- 9回 Sleep (1)
- 10回 Sleep (2)
- 11回 Intercultural Communication (1)
- 12回 Intercultural Communication (2)
- 13回 Age and Language Learning (1)
- 14回 Age and Language Learning (2)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

受講態度・課題遂行・・・50% 期末試験・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教科書の予習を励行すること。各UnitのPassageを音読し、問題に解答する。

履修上の注意 /Remarks

しっかり講義に出席して、課題等講師の指示に従うこと。
目的意識を持ち、授業を楽しみながら学ぶこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

29年の三井物産の国際ビジネスマンとしての経験・ 智恵や通算14年半の米国・ イギリス・ 中東・ インドネシアなどの在外経験、更に8年の実践ビジネス英語及び国際ビジネスコミュニケーションの大学講義者としての経験を活かして、楽しく有意義な講義を行いますので、一緒にベストを尽くして学びましょう。

キーワード /Keywords

Practrice makes perfect.
音読
Intellectual Curiosity

英語リスニング演習B 【昼】

担当者名 /Instructor 山口 実 / YAMAGUCHI, Minoru / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

英語の視聴覚教材の溢れる世の中ではあるが、雑音やヘッドフォンの影響などで、若者の聴力は確実に落ちている。一方、グローバル化やボーダーレス化が進む世の中で、コミュニケーションの道具たる英語の需要は増し、聴く力も大変重要となっている。そして、聴く力は他の読む、書く、話す力をバランス良く学ぶ大きな助けとなり、英語の実践力を高める。

従い、この講座では、教科書に基づき身近な題材に関する7つのエッセイを通して、聴き、理解しながら、Shadowingを繰り返しし、Outputする練習をする。NHK ETVやBBCや映画のDVDなどup-to-dateな視聴覚教材を十分活用しながら、Listening Skillを習得して行く。

教科書 /Textbooks

Developing English Fluency through Shadowing
シャドーイングで学ぶ英語—インプットをアウトプットにつなぐ—
南雲堂 ISBN978-4-523-17670-1

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Great English Speeches (英光社)
編者：新井良雄
ISBN978-4-87097-126-4

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2回 Left-handedness(Listening,Shadowing,Vocabulary/Comprehension/Grammar/Performance Check, Retellingの繰り返し、以下同様)
- 3回 Solar Power (1)
- 4回 Solar Power (2)
- 5回 Robots (1)
- 6回 Robots (2)
- 7回 Motivation (1)
- 8回 Motivation (2)
- 9回 Sleep (1)
- 10回 Sleep (2)
- 11回 Intercultural Communication (1)
- 12回 Intercultural Communication (2)
- 13回 Age and Language Learning (1)
- 14回 Age and Language Learning (2)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

受講態度・課題遂行・・・50% 期末試験・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教科書の予習を励行すること。各UnitのPassageを音読し、問題に解答する。

履修上の注意 /Remarks

しっかり講義に出席して、課題等講師の指示に従うこと。
目的意識を持ち、授業を楽しみながら学ぶこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

29年の三井物産の国際ビジネスマンとしての経験・ 智恵や通算14年半の米国・ イギリス・ 中東・ インドネシアなどの在外経験、更に8年の実践ビジネス英語及び国際ビジネスコミュニケーションの大学講義者としての経験を活かして、楽しく有意義な講義を行いますので、一緒にベストを尽くして学びましょう。

キーワード /Keywords

Practrice makes perfect.
音読
Intellectual Curiosity

英語スピーキング演習【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
必修科目

担当者名
/Instructor

フィオナ・クリーサー / Fiona Creaser / 英米学科

履修年次 3年次
/Year

単位 2単位
/Credits

学期 1学期
/Semester

授業形態 講義・実習
/Class Format

クラス 3 - 1
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
						○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

英語スピーキング演習 aims to develop speaking ability through active student participation in topic-focused conversation/discussions and presentations in an all-English environment. Emphasis will be on discovering English language patterns and using them to generate accurate and efficient spoken personal expression. In the mid to latter stages of the course, students will be expected to prepare and give oral presentations on selected topics covered in class.

教科書 /Textbooks

David Paul, David Paul, Communication Strategies Level 2, (Cengage Learning, 2010)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Attitudes
- 2回 Money
- 3回 Health
- 4回 Education
- 5回 Crime
- 6回 The Environment
- 7回 Aliens
- 8回 History
- 9回 Women in Society
- 10回 The Developing World
- 11回 Violence
- 12回 Politics
- 13回 Economics
- 14回 Happiness
- 15回 Globalization

成績評価の方法 /Assessment Method

Homework Assignments (60%) Oral Presentation (40%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Prepare presentation

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語スピーキング演習【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
必修科目

担当者名
/Instructor

フィオナ・クリーサー / Fiona Creaser / 英米学科

履修年次 3年次
/Year

単位 2単位
/Credits

学期 1学期
/Semester

授業形態 講義・実習
/Class Format

クラス 3 - 2
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
						○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

英語スピーキング演習 aims to develop speaking ability through active student participation in topic-focused conversation/discussions and presentations in an all-English environment. Emphasis will be on discovering English language patterns and using them to generate accurate and efficient spoken personal expression. In the mid to latter stages of the course, students will be expected to prepare and give oral presentations on selected topics covered in class.

教科書 /Textbooks

David Paul, David Paul, Communication Strategies Level 2, (Cengage Learning, 2010)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Attitudes
- 2回 Money
- 3回 Health
- 4回 Education
- 5回 Crime
- 6回 The Environment
- 7回 Aliens
- 8回 History
- 9回 Women in Society
- 10回 The Developing World
- 11回 Violence
- 12回 Politics
- 13回 Economics
- 14回 Happiness
- 15回 Globalization

成績評価の方法 /Assessment Method

Homework Assignments (60%) Oral Presentation (40%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Prepare presentation

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語スピーキング演習【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
必修科目

担当者名
/Instructor

フィオナ・クリーサー / Fiona Creaser / 英米学科

履修年次 3年次
/Year

単位 2単位
/Credits

学期 1学期
/Semester

授業形態 講義・実習
/Class Format

クラス 3 - 3
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
						○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

英語スピーキング演習 aims to develop speaking ability through active student participation in topic-focused conversation/discussions and presentations in an all-English environment. Emphasis will be on discovering English language patterns and using them to generate accurate and efficient spoken personal expression. In the mid to latter stages of the course, students will be expected to prepare and give oral presentations on selected topics covered in class.

教科書 /Textbooks

David Paul, David Paul, Communication Strategies Level 2, (Cengage Learning, 2010)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Attitudes
- 2回 Money
- 3回 Health
- 4回 Education
- 5回 Crime
- 6回 The Environment
- 7回 Aliens
- 8回 History
- 9回 Women in Society
- 10回 The Developing World
- 11回 Violence
- 12回 Politics
- 13回 Economics
- 14回 Happiness
- 15回 Globalization

成績評価の方法 /Assessment Method

Homework Assignments (60%) Oral Presentation (40%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Prepare presentation

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語スピーキング演習【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
必修科目

担当者名
/Instructor

フィオナ・クリーサー / Fiona Creaser / 英米学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 3 - 4
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
						○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

英語スピーキング演習 aims to develop speaking ability through active student participation in topic-focused conversation/discussions and presentations in an all-English environment. Emphasis will be on discovering English language patterns and using them to generate accurate and efficient spoken personal expression. In the mid to latter stages of the course, students will be expected to prepare and give oral presentations on selected topics covered in class.

教科書 /Textbooks

David Paul, David Paul, Communication Strategies Level 2, (Cengage Learning, 2010)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Attitudes
- 2回 Money
- 3回 Health
- 4回 Education
- 5回 Crime
- 6回 The Environment
- 7回 Aliens
- 8回 History
- 9回 Women in Society
- 10回 The Developing World
- 11回 Violence
- 12回 Politics
- 13回 Economics
- 14回 Happiness
- 15回 Globalization

成績評価の方法 /Assessment Method

Homework Assignments (60%) Oral Presentation (40%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Prepare presentation

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語リーディング演習I【昼】

担当者名 /Instructor 木下 善貞 / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 3 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Anthony TrollopeのFramley Parsonageを扱う。

①テキストが書かれた時代背景、社会状況のじゅうぶんな理解、②読む者の主観を排してテキストの意図する意味の把握、③叙述の仕方と文法の分析、以上3点がねらいである。

教科書 /Textbooks

必要な者はAnthony Trollope: Framley Parsonage (Penguin Classics)を購入する。
授業はこのテキストのコピーを適宜プリントして配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

R. C. Terry: Oxford Reader's Companion to Trollope (Oxford)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 授業の進め方。1回に4頁ずつ読んでいく。担当となった受講生は授業日の2日前までに1頁の翻訳を木下に添付ファイルで提出する。授業では全員4頁を当然読んできているものとして訳出難解箇所、訳註必要箇所をチェックする。

- 2回 392-95頁の翻訳
- 3回 396-99頁の翻訳
- 4回 400-03頁の翻訳
- 5回 404-07頁の翻訳
- 6回 408-11頁の翻訳
- 7回 412-15頁の翻訳
- 8回 416-19頁の翻訳
- 9回 420-23頁の翻訳
- 10回 424-27頁の翻訳
- 11回 428-31頁の翻訳
- 12回 432-35頁の翻訳
- 13回 436-39頁の翻訳
- 14回 440-43頁の翻訳
- 15回 授業のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

担当頁の日本語訳をワードのファイルで提出する。各担当者は担当章のbrush-upに励み、書式を統一する。

履修上の注意 /Remarks

英語リーディング演習I【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
必修科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語リーディング演習I【昼】

担当者名 /Instructor 木下 善貞 / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 3 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Anthony TrollopeのFramley Parsonageを扱う。

①テキストが書かれた時代背景、社会状況のじゅうぶんな理解、②読む者の主観を排してテキストの意図する意味の把握、③叙述の仕方と文法の分析、以上3点がねらいである。

教科書 /Textbooks

必要な者はAnthony Trollope: Framley Parsonage (Penguin Classics)を購入する。
授業はこのテキストのコピーを適宜プリントして配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

R. C. Terry: Oxford Reader's Companion to Trollope (Oxford)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 授業の進め方。1回に4頁ずつ読んでいく。担当となった受講生は授業日の2日前までに1頁の翻訳を木下に添付ファイルで提出する。授業では全員4頁を当然読んできているものとして訳出難解箇所、訳註必要箇所をチェックする。

- 2回 392-95頁の翻訳
- 3回 396-99頁の翻訳
- 4回 400-03頁の翻訳
- 5回 404-07頁の翻訳
- 6回 408-11頁の翻訳
- 7回 412-15頁の翻訳
- 8回 416-19頁の翻訳
- 9回 420-23頁の翻訳
- 10回 424-27頁の翻訳
- 11回 428-31頁の翻訳
- 12回 432-35頁の翻訳
- 13回 436-39頁の翻訳
- 14回 440-43頁の翻訳
- 15回 授業のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

担当頁の日本語訳をワードのファイルで提出する。各担当者は担当章のbrush-upに励み、書式を統一する。

履修上の注意 /Remarks

英語リーディング演習I【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
必修科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語リーディング演習I【昼】

担当者名 田吹 長彦 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 3 - 3
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

テーマ：「イギリス・ロマン派とスイス」

風光明媚なスイスを背景に、Lord Byronを中心とするイギリス・ロマン派の作家の動向を探索する。

産業革命・フランス革命・ナポレオン戦争といった激動の時代を経てスイスを旅した人たちの中にByron、P.B.Shelley、Mary Shelley、William Polidoriなどがある。

テキストの背景は、イギリスのLondonを出て、Dover, Belgium, the Rhineを經由、スイスのBaselから入国、同国内各地を旅してイタリアとの国境にあるSimplon峠まで、現在の観光地をほぼ網羅する。内容には名所旧蹟・風物・歴史・文化なども含む。

「英語リーディング演習I」では主にスイス・レマン湖畔およびChamonix-Mont-Blanc地方を背景とする彼らの動向について精読する。なおテキストの後半(スイスの一部とイタリアとの国境までの部分)は、第2学期の「英語リーディング演習II」で読む予定。

教科書 /Textbooks

Elma Dangerfield: Byron and the Romantics in Switzerland.

テキストについては授業の冒頭で説明する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

和書

- 上杉文世 『バイロン研究』 研究社
 - 楠本哲夫 『永遠の巡礼詩人バイロン』 三省堂
 - 阿部知二 『バイロン』 研究社
 - 田吹長彦 『ヨーロッパ夢紀行、詩人バイロンの旅—ベルギー・ライン河・スイス編』 丸善出版サービスセンター
- その他、原書は多数あるが授業で必要に応じて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

上記のテキストを精読。各種の映像・地図などを必要に応じて随時活用する予定。

「英語リーディング演習I」では、上記の原書の前半を精読する。必ず予習を行うこと。読解力によって進捗の度合いが均一でない場合は、予定が前後する場合がある。

- 1 講義内容の概説。原書の背景(時代・地理・イギリス・ロマン派)
- 2 Introduction, "Switzerland Revisited 1814-1817"(1)
- 3 Introduction, "Switzerland Revisited 1814-1817"(2)
- 4 London, Dover, Belgium(Ostend, Brussels, Waterloo, etc.), the Rhine
- 5 Basel, Bern, Morat, Avenches, Lausanne, Lake Lemman (1)
- 6 Basel, Bern, Morat, Avenches, Lausanne, Lake Lemman (2)
- 7 Byron and the Romantics (Lake Lemman, Geneva, Sécheron, Cologny) (1)
- 8 Byron and the Romantics (Lake Lemman, Geneva, Sécheron, Cologny) (2)
- 9 Lake Lemman and Rousseau's Nouvelle Héloïse (1)
- 10 Lake Lemman and Rousseau's Nouvelle Héloïse (2)
- 11 Lausanne and Edward Gibbon
- 12 Coppet and Mme de Staël (1)
- 13 Coppet and Mme de Staël (2)
- 14 Chamonix-Mont-Blanc and the Shelleys
- 15 Chamonix-Mont-Blanc and the Shelleys、および総括。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度(予習・積極性・理解度を含む)...20% 期末試験...80%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

語学力・読解力を増強するために、必ず講義ノートを作成して、各授業の予習をすること。

履修上の注意 /Remarks

この授業は、自主的な予習を重視します。
なお、当然のことながら、
開講回数の2 / 3以上の出席回数がないと単位認定はできません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ヨーロッパ旅行をする場合のさまざまな旅の情報を提供できると思います。

キーワード /Keywords

ヨーロッパの歴史・地理・文化・文学・宗教。旅とイギリス・ロマン派文学。

英語リーディング演習I【昼】

担当者名 /Instructor 田吹 長彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 3 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

テーマ: 「イギリス・ロマン派とスイス」

風光明媚なスイスを背景に、Lord Byronを中心とするイギリス・ロマン派の作家の動向を探索する。

産業革命・フランス革命・ナポレオン戦争といった激動の時代を経てスイスを旅した人たちの中にByron、P.B.Shelley、Mary Shelley、William Polidoriなどがある。

テキストの背景は、イギリスのLondonを出て、Dover, Belgium, the Rhineを經由、スイスのBaselから入国、同国内各地を旅してイタリアとの国境にあるSimplon峠まで、現在の観光地をほぼ網羅する。内容には名所旧蹟・風物・歴史・文化なども含む。

「英語リーディング演習I」では主にスイス・レマン湖畔およびChamonix-Mont-Blanc地方を背景とする彼らの動向について精読する。なおテキストの後半(スイスの一部とイタリアとの国境までの部分)は、第2学期の「英語リーディング演習II」で読む予定。

教科書 /Textbooks

Elma Dangerfield: Byron and the Romantics in Switzerland.

テキストについては授業の冒頭で説明する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

和書

- 上杉文世 『バイロン研究』 研究社
 - 楠本哲夫 『永遠の巡礼詩人バイロン』 三省堂
 - 阿部知二 『バイロン』 研究社
 - 田吹長彦 『ヨーロッパ夢紀行、詩人バイロンの旅—ベルギー・ライン河・スイス編』 丸善出版サービスセンター
- その他、原書は多数あるが授業で必要に応じて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

上記のテキストを精読。各種の映像・地図などを必要に応じて随時活用する予定。

「英語リーディング演習I」では、上記の原書の前半を精読する。必ず予習を行うこと。読解力によって進捗の度合いが均一でない場合は、予定が前後する場合がある。

- 1 講義内容の概説。原書の背景(時代・地理・イギリス・ロマン派)
- 2 Introduction, "Switzerland Revisited 1814-1817"(1)
- 3 Introduction, "Switzerland Revisited 1814-1817"(2)
- 4 London, Dover, Belgium(Ostend, Brussels, Waterloo, etc.), the Rhine
- 5 Basel, Bern, Morat, Avenches, Lausanne, Lake Lemman (1)
- 6 Basel, Bern, Morat, Avenches, Lausanne, Lake Lemman (2)
- 7 Byron and the Romantics (Lake Lemman, Geneva, Sécheron, Cologny) (1)
- 8 Byron and the Romantics (Lake Lemman, Geneva, Sécheron, Cologny) (2)
- 9 Lake Lemman and Rousseau's Nouvelle Héloïse (1)
- 10 Lake Lemman and Rousseau's Nouvelle Héloïse (2)
- 11 Lausanne and Edward Gibbon
- 12 Coppet and Mme de Staël (1)
- 13 Coppet and Mme de Staël (2)
- 14 Chamonix-Mont-Blanc and the Shelleys
- 15 Chamonix-Mont-Blanc and the Shelleys、および総括。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度(予習・積極性・理解度を含む)...20% 期末試験...80%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

語学力・読解力を増強するために、必ず講義ノートを作成して、各授業の予習をすること。

履修上の注意 /Remarks

この授業は、自主的な予習を重視します。
なお、当然のことながら、
開講回数の2 / 3以上の出席回数がないと単位認定はできません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ヨーロッパ旅行をする場合のさまざまな旅の情報を提供できると思います。

キーワード /Keywords

ヨーロッパの歴史・地理・文化・文学・宗教。旅とイギリス・ロマン派文学。

英作文演習 B 【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
必修科目

担当者名
/Instructor

フィオナ・クリーサー / Fiona Creaser / 英米学科

履修年次 3年次
/Year

単位 2単位
/Credits

学期 2学期
/Semester

2学期

授業形態
/Class Format

講義・実習

クラス 3 - 1
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
						○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course will develop students' practical writing skills. We will develop the basic skills of essay writing in preparation for writing academic papers. The first two-thirds of the course will examine the various types and uses of paragraphs, as well as some practical skills. The final third of the course will transfer this knowledge onto essay writing.

教科書 /Textbooks

Success with College Writing: From Paragraphs to Essay. Zemach & Rumisek. Macmillan LanguageHouse. 2003.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回Introduction – Writing Methods
- 2 回Punctuation and Grammar Review
- 3 回Pre-writing: Gathering Ideas and Narrowing a Topic
- 4 回Paragraph Structure
- 5 回Paragraph Development
- 6 回Peer Editing
- 7 回Descriptive and Process Paragraphs
- 8 回Opinion Paragraphs
- 9 回Comparison / Contrast Paragraphs
- 10 回Problem / Solution Paragraphs
- 11 回Essay Structure
- 12 回Outlining an Essay: Purpose and Style
- 13 回Introductions and Conclusions: Purpose and Information Types
- 14 回Essay Unity: Creating Coherence
- 15 回Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Classwork 40% Assignment 30% Final Test 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Review previous week's material. Read the introductory material for the coming week.
Be sure to complete the weekly homework assignments as they are an integral part of classwork.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英作文演習B 【昼】

担当者名 /Instructor フィオナ・クリーサー / Fiona Creaser / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 3 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course will develop students' practical writing skills. We will develop the basic skills of essay writing in preparation for writing academic papers. The first two-thirds of the course will examine the various types and uses of paragraphs, as well as some practical skills. The final third of the course will transfer this knowledge onto essay writing.

教科書 /Textbooks

Success with College Writing: From Paragraphs to Essay. Zemach & Rumisek. Macmillan LanguageHouse. 2003.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回Introduction – Writing Methods
- 2 回Punctuation and Grammar Review
- 3 回Pre-writing: Gathering Ideas and Narrowing a Topic
- 4 回Paragraph Structure
- 5 回Paragraph Development
- 6 回Peer Editing
- 7 回Descriptive and Process Paragraphs
- 8 回Opinion Paragraphs
- 9 回Comparison / Contrast Paragraphs
- 1 0 回Problem / Solution Paragraphs
- 1 1 回Essay Structure
- 1 2 回Outlining an Essay: Purpose and Style
- 1 3 回Introductions and Conclusions: Purpose and Information Types
- 1 4 回Essay Unity: Creating Coherence
- 1 5 回Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Classwork 40% Assignment 30% Final Test 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Review previous week's material. Read the introductory material for the coming week.
Be sure to complete the weekly homework assignments as they are an integral part of classwork.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英作文演習 B 【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
必修科目

担当者名
/Instructor

フィオナ・クリーサー / Fiona Creaser / 英米学科

履修年次 3年次
/Year

単位 2単位
/Credits

学期 2学期
/Semester

2学期

授業形態
/Class Format

講義・実習

クラス 3 - 3
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
						○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course will develop students' practical writing skills. We will develop the basic skills of essay writing in preparation for writing academic papers. The first two-thirds of the course will examine the various types and uses of paragraphs, as well as some practical skills. The final third of the course will transfer this knowledge onto essay writing.

教科書 /Textbooks

Success with College Writing: From Paragraphs to Essay. Zemach & Rumisek. Macmillan LanguageHouse. 2003.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回Introduction – Writing Methods
- 2 回Punctuation and Grammar Review
- 3 回Pre-writing: Gathering Ideas and Narrowing a Topic
- 4 回Paragraph Structure
- 5 回Paragraph Development
- 6 回Peer Editing
- 7 回Descriptive and Process Paragraphs
- 8 回Opinion Paragraphs
- 9 回Comparison / Contrast Paragraphs
- 10 回Problem / Solution Paragraphs
- 11 回Essay Structure
- 12 回Outlining an Essay: Purpose and Style
- 13 回Introductions and Conclusions: Purpose and Information Types
- 14 回Essay Unity: Creating Coherence
- 15 回Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Classwork 40% Assignment 30% Final Test 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Review previous week's material. Read the introductory material for the coming week.
Be sure to complete the weekly homework assignments as they are an integral part of classwork.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英作文演習B 【昼】

担当者名 /Instructor
フィオナ・クリーサー / Fiona Creaser / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 3 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course will develop students' practical writing skills. We will develop the basic skills of essay writing in preparation for writing academic papers. The first two-thirds of the course will examine the various types and uses of paragraphs, as well as some practical skills. The final third of the course will transfer this knowledge onto essay writing.

教科書 /Textbooks

Success with College Writing: From Paragraphs to Essay. Zemach & Rumisek. Macmillan LanguageHouse. 2003.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回Introduction – Writing Methods
- 2 回Punctuation and Grammar Review
- 3 回Pre-writing: Gathering Ideas and Narrowing a Topic
- 4 回Paragraph Structure
- 5 回Paragraph Development
- 6 回Peer Editing
- 7 回Descriptive and Process Paragraphs
- 8 回Opinion Paragraphs
- 9 回Comparison / Contrast Paragraphs
- 10 回Problem / Solution Paragraphs
- 11 回Essay Structure
- 12 回Outlining an Essay: Purpose and Style
- 13 回Introductions and Conclusions: Purpose and Information Types
- 14 回Essay Unity: Creating Coherence
- 15 回Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Classwork 40% Assignment 30% Final Test 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Review previous week's material. Read the introductory material for the coming week.
Be sure to complete the weekly homework assignments as they are an integral part of classwork.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ビジネス英語演習【昼】

担当者名 松田 智 / Matsuda, Satoshi / 英米学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 2 - 1
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The objectives of this course are:(1) to help you to understand how cultures have an influence upon doing international business and(2) to help you prepare personally and professionally to succeed in a global business context. This course focuses on the topics of international dimensions of organizational behavior and management such as: multicultural teams, cultural differences in values, cross-cultural communications, negotiations across cultures, and global leadership. Topics also include the management of international managers and expatriates who involve the achievement of success for an international firm in cross-cultural business environment. In addition to the above, it trains you to develop your business presentation in English.

国際ビジネスの分野のひとつである異文化人事管理の内容をケース、プレゼンテーションを通じて学ぶものです。グローバル・ビジネスの入門と理解してください。

講義は日本語で行います。

教科書 /Textbooks

プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Harvard Business essentials. "Business Communication".
Edward T. Hall. "Hidden Differences" Anchor Books.
八代京子他. "異文化コミュニケーションワークブック". 三修社
Mary Munter. "Guide to Managerial communication". Prentice Hall.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Session 1: class orientation
Session 2: setting communication objective
Session 3: choosing a communication style
Session 4: assenting and enhancing credibility
Session 5: selecting and motivating audiences
Session 6: setting a message strategy
Session 7: overcoming language difficulties
Session 8: using appropriate nonverbal behaviors
Session 9: mid-term quiz
Session10: presentation competition: country presentation1
Session 11: presentation competition: country presentation2
Session 12: negotiations role-play: transnational manager assignment1
Session 13: negotiations role-play: transnational manager assignment2
Session 14: negotiation case study: A Canadian firm's negotiations in China1
Session 15: negotiation case study: A Canadian firm's negotiations in China2

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation:(weight 20%): class participation will be evaluated on attendance and attentive.
Class quiz:(weight 40%): this will occur midway through the course.
Presentation:(weight 40%):you will be assigned make a presentation on cross-cultural management and case of negotiation.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回アサインメントがありますので、継続的に出席して頂きたい。

ビジネス英語演習【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
選択科目

履修上の注意 /Remarks

グローバルに活躍する多国籍企業の異文化マネジメントに関するクラスです。この方面の就職を検討されている学生には役に立つと思われる。尚、他の企業、経営関係の科目を受講していれば、この講義をさらに深く理解できると思います。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

多国籍企業や企業経営に関するニュースに日ごろ関心をもってください。新聞も読むようにしてください。

キーワード /Keywords

異文化マネジメント、中国市場、国際ビジネス、アメリカ企業

ビジネス英語演習【昼】

担当者名 松田 智 / Matsuda, Satoshi / 英米学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 2 - 2
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The objectives of this course are:(1) to help you to understand how cultures have an influence upon doing international business and(2) to help you prepare personally and professionally to succeed in a global business context. This course focuses on the topics of international dimensions of organizational behavior and management such as: multicultural teams, cultural differences in values, cross-cultural communications, negotiations across cultures, and global leadership. Topics also include the management of international managers and expatriates who involve the achievement of success for an international firm in cross-cultural business environment. In addition to the above, it trains you to develop your business presentation in English.

国際ビジネスの分野のひとつである異文化人事管理の内容をケース、プレゼンテーションを通じて学ぶものです。グローバル・ビジネスの入門と理解してください。

講義は日本語で行います。

教科書 /Textbooks

プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Harvard Business essentials. "Business Communication".
Edward T. Hall. "Hidden Differences" Anchor Books.
八代京子他. "異文化コミュニケーションワークブック". 三修社
Mary Munter. "Guide to Managerial communication". Prentice Hall.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Session 1: class orientation
Session 2: setting communication objective
Session 3: choosing a communication style
Session 4: assenting and enhancing credibility
Session 5: selecting and motivating audiences
Session 6: setting a message strategy
Session 7: overcoming language difficulties
Session 8: using appropriate nonverbal behaviors
Session 9: mid-term quiz
Session10: presentation competition: country presentation1
Session 11: presentation competition: country presentation2
Session 12: negotiations role-play: transnational manager assignment1
Session 13: negotiations role-play: transnational manager assignment2
Session 14: negotiation case study: A Canadian firm's negotiations in China1
Session 15: negotiation case study: A Canadian firm's negotiations in China2

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation:(weight 20%): class participation will be evaluated on attendance and attentive.
Class quiz:(weight 40%): this will occur midway through the course.
Presentation:(weight 40%):you will be assigned make a presentation on cross-cultural management and case of negotiation.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回アサインメントがありますので、継続的に出席して頂きたい。

ビジネス英語演習【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
選択科目

履修上の注意 /Remarks

グローバルに活躍する多国籍企業の異文化マネジメントに関するクラスです。この方面の就職を検討されている学生には役に立つと思われる。尚、他の企業、経営関係の科目を受講していれば、この講義をさらに深く理解できると思います。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

多国籍企業や企業経営に関するニュースに日ごろ関心をもってください。新聞も読むようにしてください。

キーワード /Keywords

異文化マネジメント、中国市場、国際ビジネス、アメリカ企業

ビジネス英語演習【昼】

担当者名 松田 智 / Matsuda, Satoshi / 英米学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 2 - 3
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The objectives of this course are:(1) to help you to understand how cultures have an influence upon doing international business and(2) to help you prepare personally and professionally to succeed in a global business context. This course focuses on the topics of international dimensions of organizational behavior and management such as: multicultural teams, cultural differences in values, cross-cultural communications, negotiations across cultures, and global leadership. Topics also include the management of international managers and expatriates who involve the achievement of success for an international firm in cross-cultural business environment. In addition to the above, it trains you to develop your business presentation in English.

国際ビジネスの分野のひとつである異文化人事管理の内容をケース、プレゼンテーションを通じて学ぶものです。グローバル・ビジネスの入門と理解してください。

講義は日本語で行います。

教科書 /Textbooks

プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Harvard Business essentials. "Business Communication".
Edward T. Hall. "Hidden Differences" Anchor Books.
八代京子他. "異文化コミュニケーションワークブック". 三修社
Mary Munter. "Guide to Managerial communication". Prentice Hall.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Session 1: class orientation
Session 2: setting communication objective
Session 3: choosing a communication style
Session 4: assenting and enhancing credibility
Session 5: selecting and motivating audiences
Session 6: setting a message strategy
Session 7: overcoming language difficulties
Session 8: using appropriate nonverbal behaviors
Session 9: mid-term quiz
Session10: presentation competition: country presentation1
Session 11: presentation competition: country presentation2
Session 12: negotiations role-play: transnational manager assignment1
Session 13: negotiations role-play: transnational manager assignment2
Session 14: negotiation case study: A Canadian firm's negotiations in China1
Session 15: negotiation case study: A Canadian firm's negotiations in China2

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation:(weight 20%): class participation will be evaluated on attendance and attentive.
Class quiz:(weight 40%): this will occur midway through the course.
Presentation:(weight 40%):you will be assigned make a presentation on cross-cultural management and case of negotiation.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回アサインメントがありますので、継続的に出席して頂きたい。

ビジネス英語演習【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
選択科目

履修上の注意 /Remarks

グローバルに活躍する多国籍企業の異文化マネジメントに関するクラスです。この方面の就職を検討されている学生には役に立つと思われる。尚、他の企業、経営関係の科目を受講していれば、この講義をさらに深く理解できると思います。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

多国籍企業や企業経営に関するニュースに日ごろ関心をもってください。新聞も読むようにしてください。

キーワード /Keywords

異文化マネジメント、中国市場、国際ビジネス、アメリカ企業

ビジネス英語演習【昼】

担当者名 松田 智 / Matsuda, Satoshi / 英米学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 2 - 4
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The objectives of this course are:(1) to help you to understand how cultures have an influence upon doing international business and(2) to help you prepare personally and professionally to succeed in a global business context. This course focuses on the topics of international dimensions of organizational behavior and management such as: multicultural teams, cultural differences in values, cross-cultural communications, negotiations across cultures, and global leadership. Topics also include the management of international managers and expatriates who involve the achievement of success for an international firm in cross-cultural business environment. In addition to the above, it trains you to develop your business presentation in English.

国際ビジネスの分野のひとつである異文化人事管理の内容をケース、プレゼンテーションを通じて学ぶものです。グローバル・ビジネスの入門と理解してください。

講義は日本語で行います。

教科書 /Textbooks

プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Harvard Business essentials. "Business Communication".
Edward T. Hall. "Hidden Differences" Anchor Books.
八代京子他. "異文化コミュニケーションワークブック". 三修社
Mary Munter. "Guide to Managerial communication". Prentice Hall.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Session 1: class orientation
Session 2: setting communication objective
Session 3: choosing a communication style
Session 4: assenting and enhancing credibility
Session 5: selecting and motivating audiences
Session 6: setting a message strategy
Session 7: overcoming language difficulties
Session 8: using appropriate nonverbal behaviors
Session 9: mid-term quiz
Session10: presentation competition: country presentation1
Session 11: presentation competition: country presentation2
Session 12: negotiations role-play: transnational manager assignment1
Session 13: negotiations role-play: transnational manager assignment2
Session 14: negotiation case study: A Canadian firm's negotiations in China1
Session 15: negotiation case study: A Canadian firm's negotiations in China2

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation:(weight 20%): class participation will be evaluated on attendance and attentive.
Class quiz:(weight 40%): this will occur midway through the course.
Presentation:(weight 40%):you will be assigned make a presentation on cross-cultural management and case of negotiation.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回アサインメントがありますので、継続的に出席して頂きたい。

ビジネス英語演習【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
選択科目

履修上の注意 /Remarks

グローバルに活躍する多国籍企業の異文化マネジメントに関するクラスです。この方面の就職を検討されている学生には役に立つと思われる。尚、他の企業、経営関係の科目を受講していれば、この講義をさらに深く理解できると思います。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

多国籍企業や企業経営に関するニュースに日ごろ関心をもってください。新聞も読むようにしてください。

キーワード /Keywords

異文化マネジメント、中国市場、国際ビジネス、アメリカ企業

メディア英語演習I【昼】

担当者名 /Instructor 北峯 裕士 / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

メディア英語だけに絞らず、本授業では、言葉自体について考えていく。言葉について書かれてあるテキストを読みながら、言葉について考える習慣を身に付けていきたい。

教科書 /Textbooks

The Wonderful World of Language 成美堂

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

別途指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回ガイダンス
- 2回子供の文法発見
- 3回文法規則と文法変異
- 4回バイリンガリズム
- 5回世界の言語
- 6回サイン言語
- 7回絶滅の危機に瀕した言語
- 8回言葉は時代とともに変化する
- 9回ところ変わればことば変わる
- 10回感情を映し出す鏡
- 11回ポリティカル・コレクトネス
- 12回The Story of EnglishのDVDを見る①
- 13回The Story of EnglishのDVDを見る②
- 14回The Story of EnglishのDVDを見る③
- 15回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表 50% 試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

発表予定者は、必ず準備しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

グループを作り、グループごとの発表を行ってもらうので、協調性が求められます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

メディア英語演習I【昼】

担当者名 北峯 裕士 / 英米学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 2 - 2
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

メディア英語だけに絞らず、本授業では、言葉自体について考えていく。言葉について書かれてあるテキストを読みながら、言葉について考える習慣を身に付けていきたい。

教科書 /Textbooks

The Wonderful World of Language 成美堂

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

別途指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回ガイダンス
- 2回子供の文法発見
- 3回文法規則と文法変異
- 4回バイリンガリズム
- 5回世界の言語
- 6回サイン言語
- 7回絶滅の危機に瀕した言語
- 8回言葉は時代とともに変化する
- 9回ところ変わればことば変わる
- 10回感情を映し出す鏡
- 11回ポリティカル・コレクトネス
- 12回The Story of EnglishのDVDを見る①
- 13回The Story of EnglishのDVDを見る②
- 14回The Story of EnglishのDVDを見る③
- 15回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表 50% 試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

発表予定者は、必ず準備しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

グループを作り、グループごとの発表を行ってもらうので、協調性が求められます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

メディア英語演習I【昼】

担当者名 /Instructor 大塚 由美子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

映画Night at the Museumのスク립トを教材に演習形式で授業を進めます。NYの自然史博物館を舞台にしたこの映画で、「家族」や「絆」がどのように描かれているのを見ていきます。また、なぜ舞台が自然史博物館なのか、など内容について深い理解を促しクラスで意見交換します。さらに各種演習に取り組むことで、映画の中で使われる語彙表現を認識し知識の定着を図ります、プレゼンテーションでは、自分の意見を簡潔な英語にまとめて発表すると同時に、クラスメートの意見に耳を傾けることで、視点の違いなどを認識し、自分の考えをさらに深めていくことを目指します。

教科書 /Textbooks

“Night at the Museum”
Robert Ben Garant / Thomas Lennon 著
神谷久美子 / Kim R. Kanel 編著
松柏社 2012年 ISMN978-4-88198-655-4

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2-4回 Unit 1 Larry Finds a Job
- Unit 2 Larry's First Night at the Museum
- 5回 Unit 3 Larry Learns about the Magic from Teddy
- 6-8回 Unit 4 Larry's History Lessons
- Unit 5 Larry Gives It Another Try
- 9回 Unit 6 Chaos at the Museum
- 10回 Unit 7 The Truth Comes Out
- 11回 Unit 8 Larry the 'Hero'
- 12回 Unit 9 United We Stand
- 13回 Unit 10 Everything Ends Up Great!
- 14回 Presentation
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の学習状況(小テストを含む)・・・20%
課題・・・20%
期末試験・・・60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

履修上の注意 /Remarks

初回到授業の進め方を説明しますので、必ず出席すること。
予習をして授業に臨むこと。辞書必携。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

メディア英語演習I【昼】

担当者名 /Instructor 大塚 由美子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

映画Night at the Museumのスク립トを教材に演習形式で授業を進めます。NYの自然史博物館を舞台にしたこの映画で、「家族」や「絆」がどのように描かれているのを見ていきます。また、なぜ舞台が自然史博物館なのか、など内容について深い理解を促しクラスで意見交換します。さらに各種演習に取り組むことで、映画の中で使われる語彙表現を認識し知識の定着を図ります、プレゼンテーションでは、自分の意見を簡潔な英語にまとめて発表すると同時に、クラスメートの意見に耳を傾けることで、視点の違いなどを認識し、自分の考えをさらに深めていくことを目指します。

教科書 /Textbooks

“Night at the Museum”
Robert Ben Garant / Thomas Lennon 著
神谷久美子 / Kim R. Kanel 編著
松柏社 2012年 ISMN978-4-88198-655-4

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2-4回 Unit 1 Larry Finds a Job
Unit 2 Larry's First Night at the Museum
- 5回 Unit 3 Larry Learns about the Magic from Teddy
- 6-8回 Unit 4 Larry's History Lessons
Unit 5 Larry Gives It Another Try
- 9回 Unit 6 Chaos at the Museum
- 10回 Unit 7 The Truth Comes Out
- 11回 Unit 8 Larry the 'Hero'
- 12回 Unit 9 United We Stand
- 13回 Unit 10 Everything Ends Up Great!
- 14回 Presentation
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の学習状況(小テストを含む)・・・20%
課題・・・20%
期末試験・・・60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

履修上の注意 /Remarks

初回到授業の進め方を説明しますので、必ず出席すること。
予習をして授業に臨むこと。辞書必携。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

メディア英語演習II【昼】

担当者名 /Instructor 吉川 哲郎 / KIKKAWA TETSUROU / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 /Class Format 授業形態 講義・実習 クラス 2 - 1 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、アメリカのミュージカル映画を題材に使う。ミュージカル映画とはどんなものかを知るとともに、シナリオ講読等も混ぜて総合的に学んでいく。

教科書 /Textbooks

なし。プリントが主になる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入【メディア英語】【ミュージカル映画】【シナリオ講読】
- 2回 ユニット1。【ミュージカル映画】【1920年代】
- 3回 ユニット2。【ミュージカル映画】【1930年代】
- 4回 ユニット3。【ミュージカル映画】【1940年代】
- 5回 ユニット4。【ミュージカル映画】【1950年代】
- 6回 ユニット5。【ミュージカル映画】【1960年代】
- 7回 ユニット6。【ミュージカル映画】【1970年代】
- 8回 ユニット7。【ミュージカル映画】【1980年代】
- 9回 ユニット8。【ミュージカル映画】【1990年代】
- 10回 ユニット9。【ミュージカル映画】【2000年代】
- 11回 ユニット10。【ミュージカル映画】【シナリオ講読】
- 12回 ユニット11。【ミュージカル映画】【シナリオ講読】
- 13回 ユニット12。【ミュージカル映画】【シナリオ講読】
- 14回 ユニット13。【ミュージカル映画】【シナリオ講読】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート・・・100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。家庭あるいは図書館でのアメリカ英語学習として、DVDのクローズド・キャプションを利用することをお勧めする。

履修上の注意 /Remarks

特になし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

特になし

キーワード /Keywords

【メディア英語】 【ミュージカル映画】 【通時的】 【シナリオ講読】

メディア英語演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 吉川 哲郎 / KIKKAWA TETSUROU / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、アメリカのミュージカル映画を題材に使う。ミュージカル映画とはどんなものかを知るとともに、シナリオ講読等も混ぜて総合的に学んでいく。

教科書 /Textbooks

なし。プリントが主になる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入 【メディア英語】 【ミュージカル映画】 【シナリオ講読】
- 2回 ユニット1。【ミュージカル映画】 【1920年代】
- 3回 ユニット2。【ミュージカル映画】 【1930年代】
- 4回 ユニット3。【ミュージカル映画】 【1940年代】
- 5回 ユニット4。【ミュージカル映画】 【1950年代】
- 6回 ユニット5。【ミュージカル映画】 【1960年代】
- 7回 ユニット6。【ミュージカル映画】 【1970年代】
- 8回 ユニット7。【ミュージカル映画】 【1980年代】
- 9回 ユニット8。【ミュージカル映画】 【1990年代】
- 10回 ユニット9。【ミュージカル映画】 【2000年代】
- 11回 ユニット10。【ミュージカル映画】 【シナリオ講読】
- 12回 ユニット11。【ミュージカル映画】 【シナリオ講読】
- 13回 ユニット12。【ミュージカル映画】 【シナリオ講読】
- 14回 ユニット13。【ミュージカル映画】 【シナリオ講読】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート・・・100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。家庭あるいは図書館でのアメリカ英語学習として、DVDのクローズド・キャプションを利用することをお勧めする。

履修上の注意 /Remarks

特になし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

特になし

キーワード /Keywords

【メディア英語】 【ミュージカル映画】 【通時的】 【シナリオ講読】

メディア英語演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 吉川 哲郎 / KIKKAWA TETSUROU / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 /Class Format 授業形態 講義・実習 クラス /Class 2 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、アメリカのミュージカル映画を題材に使う。ミュージカル映画とはどんなものかを知るとともに、シナリオ講読等も混ぜて総合的に学んでいく。

教科書 /Textbooks

なし。プリントが主になる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入 【メディア英語】 【ミュージカル映画】 【シナリオ講読】
- 2回 ユニット1。【ミュージカル映画】 【1920年代】
- 3回 ユニット2。【ミュージカル映画】 【1930年代】
- 4回 ユニット3。【ミュージカル映画】 【1940年代】
- 5回 ユニット4。【ミュージカル映画】 【1950年代】
- 6回 ユニット5。【ミュージカル映画】 【1960年代】
- 7回 ユニット6。【ミュージカル映画】 【1970年代】
- 8回 ユニット7。【ミュージカル映画】 【1980年代】
- 9回 ユニット8。【ミュージカル映画】 【1990年代】
- 10回 ユニット9。【ミュージカル映画】 【2000年代】
- 11回 ユニット10。【ミュージカル映画】 【シナリオ講読】
- 12回 ユニット11。【ミュージカル映画】 【シナリオ講読】
- 13回 ユニット12。【ミュージカル映画】 【シナリオ講読】
- 14回 ユニット13。【ミュージカル映画】 【シナリオ講読】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート・・・100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。家庭あるいは図書館でのアメリカ英語学習として、DVDのクローズド・キャプションを利用することをお勧めする。

履修上の注意 /Remarks

特になし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

特になし

キーワード /Keywords

【メディア英語】 【ミュージカル映画】 【通時的】 【シナリオ講読】

メディア英語演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 吉川 哲郎 / KIKKAWA TETSUROU / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、アメリカのミュージカル映画を題材に使う。ミュージカル映画とはどんなものかを知るとともに、シナリオ講読等も混ぜて総合的に学んでいく。

教科書 /Textbooks

なし。プリントが主になる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入 【メディア英語】 【ミュージカル映画】 【シナリオ講読】
- 2回 ユニット1。【ミュージカル映画】 【1920年代】
- 3回 ユニット2。【ミュージカル映画】 【1930年代】
- 4回 ユニット3。【ミュージカル映画】 【1940年代】
- 5回 ユニット4。【ミュージカル映画】 【1950年代】
- 6回 ユニット5。【ミュージカル映画】 【1960年代】
- 7回 ユニット6。【ミュージカル映画】 【1970年代】
- 8回 ユニット7。【ミュージカル映画】 【1980年代】
- 9回 ユニット8。【ミュージカル映画】 【1990年代】
- 10回 ユニット9。【ミュージカル映画】 【2000年代】
- 11回 ユニット10。【ミュージカル映画】 【シナリオ講読】
- 12回 ユニット11。【ミュージカル映画】 【シナリオ講読】
- 13回 ユニット12。【ミュージカル映画】 【シナリオ講読】
- 14回 ユニット13。【ミュージカル映画】 【シナリオ講読】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート・・・100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。家庭あるいは図書館でのアメリカ英語学習として、DVDのクローズド・キャプションを利用することをお勧めする。

履修上の注意 /Remarks

特になし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

特になし

キーワード /Keywords

【メディア英語】 【ミュージカル映画】 【通時的】 【シナリオ講読】

英日翻訳演習 【昼】

担当者名 /Instructor 野島 啓一 /nojima keiichi / 英米学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・実習 クラス 2 - 1
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本語への翻訳で最も基本的な戦略と想定する原理、Context-driven Principle of Translationに拠って色々な範疇の英語文の翻訳の技術を実践的に学ぶ。更に、授業を通して、必要な英文法の知識、日本語文法の知識、専門分野での知識データの整理方法等を学ぶ。

教科書 /Textbooks

『翻訳入門 日英編』 氏木考仁他著 大阪教育図書 ¥1,800
『翻訳表現の特徴』 私家版編集教材

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業方針+Context-driven Principle of Translationの考え方+授業評価の説明。
- 2回 翻訳に必要な知識。論理構造の違い。演習課題。
- 3回 翻訳のポイントと専門知識。演習課題。
- 4回 英文法の知識と訳し方の関連付けについて。演習課題。
- 5回 国文法の知識と訳し方の関連付けについて。演習課題。
- 6回 解説文の翻訳。演習課題。
- 7回 評論文・論文の翻訳。演習課題。
- 8回 小説の翻訳。演習課題。
- 9回 絵本・映画・歌詞の翻訳。演習課題。
- 10回 テクニカルライティング・カタログ。演習課題。
- 11回 ビジネスレター・契約書の翻訳。演習課題。
- 12回 新聞・ニュース放送の翻訳。演習課題。
- 13回 翻訳実務の実際の工程。演習課題。
- 14回 機械翻訳・音声による翻訳・文字による翻訳。演習課題。
- 15回 まとめと要約。

成績評価の方法 /Assessment Method

プロジェクト...35% + 試験...65%で総合評価をする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「日英翻訳演習」の授業を履修しておくことと日本語と英語の発想の違い等にふれることになり、参考になる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英日翻訳演習 【昼】

担当者名 /Instructor 村田 希巳子 / Kimiko Murata / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本語への翻訳で最も基本的な戦略と想定する原理、Context-driven Principle of Translationに拠って色々な範疇の英語文の翻訳の技術を実践的に学ぶ。更に、授業を通して、必要な英文法の知識、日本語文法の知識、専門分野での知識データの整理方法等を学ぶ。

教科書 /Textbooks

『翻訳入門 日英編』 氏木考仁他著 大阪教育図書 ¥1,800
『翻訳表現の特徴』 私家版編集教材

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業方針+Context-driven Principle of Translationの考え方+授業評価の説明。
- 2回 翻訳に必要な知識。論理構造の違い。演習課題。
- 3回 翻訳のポイントと専門知識。演習課題。
- 4回 英文法の知識と訳し方の関連付けについて。演習課題。
- 5回 国文法の知識と訳し方の関連付けについて。演習課題。
- 6回 解説文の翻訳。演習課題。
- 7回 評論文・論文の翻訳。演習課題。
- 8回 小説の翻訳。演習課題。
- 9回 絵本・映画・歌詞の翻訳。演習課題。
- 10回 テクニカルライティング・カタログ。演習課題。
- 11回 ビジネスレター・契約書の翻訳。演習課題。
- 12回 新聞・ニュース放送の翻訳。演習課題。
- 13回 翻訳実務の実際の工程。演習課題。
- 14回 機械翻訳・音声による翻訳・文字による翻訳。演習課題。
- 15回 まとめと要約。

成績評価の方法 /Assessment Method

プロジェクト...35% + 試験...65%で総合評価をする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「日英翻訳演習」の授業を履修しておくことと日本語と英語の発想の違い等にふれることになり、参考になる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英日翻訳演習 【昼】

担当者名 /Instructor 村田 希巳子 / Kimiko Murata / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本語への翻訳で最も基本的な戦略と想定する原理、Context-driven Principle of Translationに拠って色々な範疇の英語文の翻訳の技術を実践的に学ぶ。更に、授業を通して、必要な英文法の知識、日本語文法の知識、専門分野での知識データの整理方法等を学ぶ。

教科書 /Textbooks

『翻訳入門 日英編』 氏木考仁他著 大阪教育図書 ¥1,800
『翻訳表現の特徴』 私家版編集教材

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業方針+Context-driven Principle of Translationの考え方+授業評価の説明。
- 2回 翻訳に必要な知識。論理構造の違い。演習課題。
- 3回 翻訳のポイントと専門知識。演習課題。
- 4回 英文法の知識と訳し方の関連付けについて。演習課題。
- 5回 国文法の知識と訳し方の関連付けについて。演習課題。
- 6回 解説文の翻訳。演習課題。
- 7回 評論文・論文の翻訳。演習課題。
- 8回 小説の翻訳。演習課題。
- 9回 絵本・映画・歌詞の翻訳。演習課題。
- 10回 テクニカルライティング・カタログ。演習課題。
- 11回 ビジネスレター・契約書の翻訳。演習課題。
- 12回 新聞・ニュース放送の翻訳。演習課題。
- 13回 翻訳実務の実際の工程。演習課題。
- 14回 機械翻訳・音声による翻訳・文字による翻訳。演習課題。
- 15回 まとめと要約。

成績評価の方法 /Assessment Method

プロジェクト...35% + 試験...65%で総合評価をする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「日英翻訳演習」の授業を履修しておくことと日本語と英語の発想の違い等にふれることになり、参考になる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英日翻訳演習 【昼】

担当者名 /Instructor 村田 希巳子 / Kimiko Murata / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本語への翻訳で最も基本的な戦略と想定する原理、Context-driven Principle of Translationに拠って色々な範疇の英語文の翻訳の技術を実践的に学ぶ。更に、授業を通して、必要な英文法の知識、日本語文法の知識、専門分野での知識データの整理方法等を学ぶ。

教科書 /Textbooks

『翻訳入門 日英編』 氏木考仁他著 大阪教育図書 ¥1,800
『翻訳表現の特徴』 私家版編集教材

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業方針+Context-driven Principle of Translationの考え方+授業評価の説明。
- 2回 翻訳に必要な知識。論理構造の違い。演習課題。
- 3回 翻訳のポイントと専門知識。演習課題。
- 4回 英文法の知識と訳し方の関連付けについて。演習課題。
- 5回 国文法の知識と訳し方の関連付けについて。演習課題。
- 6回 解説文の翻訳。演習課題。
- 7回 評論文・論文の翻訳。演習課題。
- 8回 小説の翻訳。演習課題。
- 9回 絵本・映画・歌詞の翻訳。演習課題。
- 10回 テクニカルライティング・カタログ。演習課題。
- 11回 ビジネスレター・契約書の翻訳。演習課題。
- 12回 新聞・ニュース放送の翻訳。演習課題。
- 13回 翻訳実務の実際の工程。演習課題。
- 14回 機械翻訳・音声による翻訳・文字による翻訳。演習課題。
- 15回 まとめと要約。

成績評価の方法 /Assessment Method

プロジェクト...35% + 試験...65%で総合評価をする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「日英翻訳演習」の授業を履修しておくことと日本語と英語の発想の違い等にふれることになり、参考になる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

異文化間コミュニケーション演習【昼】

担当者名 /Instructor 十時 康 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本コースは異文化間コミュニケーション論の理論、概念、モデル等についての知識を学習するだけでなく、得られた知識を事例分析などのさまざまなタスクに応用することを目指します。このコースが目指すところは以下のとおりです。

- ①自分がどのような文化的背景をもっているかを明らかにすること
- ②「異文化」および「コミュニケーション」という言葉の意味を批判的に捉えること
- ③自ら、あるいは他者の経験を異文化理解の視点から理解すること
- ④文化が異なる他者理解に必要な態度を獲得する
- ⑤グループワークによって、他者と協同しプロジェクトを進めるスキルと態度の獲得。またその過程で生じるコミュニケーション上の問題点を明らかにし対応する力の獲得。

教科書 /Textbooks

教科書は用いません。教員が講義用のレジユメと資料を用意します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 鍋倉健悦『異文化間コミュニケーション入門』丸善ライブラリー

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 : イントロダクション (成績判定、授業の進め方の詳細を伝えます。必ず出席のこと)
- 第2回 : グループワーク : コミュニケーションとは何か
- 第3回 : コミュニケーション / 異文化コミュニケーション
- 第4回 : 文化とは何か / 文化の冰山モデル
- 第5回 : 非言語コミュニケーション
- 第6回 : 非言語コミュニケーション
- 第7回 : 異文化適応
- 第8回 : 異文化適応
- 第9回 : ステレオタイプ
- 第10回 : ステレオタイプ
- 第11回 : Hofstedeの文化的次元
- 第12回 : Hofstedeの文化的次元
- 第13回 : グループ発表
- 第14回 : グループ発表
- 第15回 : まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 (小テスト、タスク、ミニレポート) : 70%
授業参加 (発言ポイント) : 10%
期末試験 : 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

当日の授業内容を確認し、自分が授業やグループ内でどのように貢献しようかを常に意識して授業に臨んで下さい。

履修上の注意 /Remarks

異文化間コミュニケーション論に関する一般的知識を前提としますので、「異文化間コミュニケーション概論」を受講していると、本コースの内容をより理解しやすいと思います。概論を受講していない場合は、各自参考図書等を読んでおいて下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

異文化とは何か、他者とコミュニケーションをするとはどういう行為か。そこに潜む問題は何か。こういった事柄に興味がある学生を待っています。授業もひとつのコミュニケーションです。いろいろな考えを持つ学生が集まって、「異文化」交流できるのを楽しみにしています。

キーワード /Keywords

異文化間コミュニケーション演習【昼】

担当者名 /Instructor 十時 康 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本コースは異文化間コミュニケーション論の理論、概念、モデル等についての知識を学習するだけでなく、得られた知識を事例分析などのさまざまなタスクに応用することを目指します。このコースが目指すところは以下のとおりです。

- ①自分がどのような文化的背景をもっているかを明らかにすること
- ②「異文化」および「コミュニケーション」という言葉の意味を批判的に捉えること
- ③自ら、あるいは他者の経験を異文化理解の視点から理解すること
- ④文化が異なる他者理解に必要な態度を獲得する
- ⑤グループワークによって、他者と協同しプロジェクトを進めるスキルと態度の獲得。またその過程で生じるコミュニケーション上の問題点を明らかにし対応する力の獲得。

教科書 /Textbooks

教科書は用いません。教員が講義用のレジユメと資料を用意します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 鍋倉健悦『異文化間コミュニケーション入門』丸善ライブラリー

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 : イントロダクション (成績判定、授業の進め方の詳細を伝えます。必ず出席のこと)
- 第2回 : グループワーク : コミュニケーションとは何か
- 第3回 : コミュニケーション / 異文化コミュニケーション
- 第4回 : 文化とは何か / 文化の冰山モデル
- 第5回 : 非言語コミュニケーション
- 第6回 : 非言語コミュニケーション
- 第7回 : 異文化適応
- 第8回 : 異文化適応
- 第9回 : ステレオタイプ
- 第10回 : ステレオタイプ
- 第11回 : Hofstedeの文化的次元
- 第12回 : Hofstedeの文化的次元
- 第13回 : グループ発表
- 第14回 : グループ発表
- 第15回 : まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 (小テスト、タスク、ミニレポート) : 70%
授業参加 (発言ポイント) : 10%
期末試験 : 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

当日の授業内容を確認し、自分が授業やグループ内でどのように貢献しようかを常に意識して授業に臨んで下さい。

履修上の注意 /Remarks

異文化間コミュニケーション論に関する一般的知識を前提としますので、「異文化間コミュニケーション概論」を受講していると、本コースの内容をより理解しやすいと思います。概論を受講していない場合は、各自参考図書等を読んでおいて下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

異文化とは何か、他者とコミュニケーションをするとはどういう行為か。そこに潜む問題は何か。こういった事柄に興味がある学生を待っています。授業もひとつのコミュニケーションです。いろいろな考えを持つ学生が集まって、「異文化」交流できるのを楽しみにしています。

キーワード /Keywords

異文化間コミュニケーション演習【昼】

担当者名 /Instructor 十時 康 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本コースは異文化間コミュニケーション論の理論、概念、モデル等についての知識を学習するだけでなく、得られた知識を事例分析などのさまざまなタスクに応用することを目指します。このコースが目指すところは以下のとおりです。

- ①自分がどのような文化的背景をもっているかを明らかにすること
- ②「異文化」および「コミュニケーション」という言葉の意味を批判的に捉えること
- ③自ら、あるいは他者の経験を異文化理解の視点から理解すること
- ④文化が異なる他者理解に必要な態度を獲得する
- ⑤グループワークによって、他者と協同しプロジェクトを進めるスキルと態度の獲得。またその過程で生じるコミュニケーション上の問題点を明らかにし対応する力の獲得。

教科書 /Textbooks

教科書は用いません。教員が講義用のレジユメと資料を用意します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 鍋倉健悦『異文化間コミュニケーション入門』丸善ライブラリー

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 : イントロダクション (成績判定、授業の進め方の詳細を伝えます。必ず出席のこと)
- 第2回 : グループワーク : コミュニケーションとは何か
- 第3回 : コミュニケーション / 異文化コミュニケーション
- 第4回 : 文化とは何か / 文化の冰山モデル
- 第5回 : 非言語コミュニケーション
- 第6回 : 非言語コミュニケーション
- 第7回 : 異文化適応
- 第8回 : 異文化適応
- 第9回 : ステレオタイプ
- 第10回 : ステレオタイプ
- 第11回 : Hofstedeの文化的次元
- 第12回 : Hofstedeの文化的次元
- 第13回 : グループ発表
- 第14回 : グループ発表
- 第15回 : まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 (小テスト、タスク、ミニレポート) : 70%
授業参加 (発言ポイント) : 10%
期末試験 : 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

当日の授業内容を確認し、自分が授業やグループ内でどのように貢献しようかを常に意識して授業に臨んで下さい。

履修上の注意 /Remarks

異文化間コミュニケーション論に関する一般的知識を前提としますので、「異文化間コミュニケーション概論」を受講していると、本コースの内容をより理解しやすいと思います。概論を受講していない場合は、各自参考図書等を読んでおいて下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

異文化とは何か、他者とコミュニケーションをするとはどういう行為か。そこに潜む問題は何か。こういった事柄に興味がある学生を待っています。授業もひとつのコミュニケーションです。いろいろな考えを持つ学生が集まって、「異文化」交流できるのを楽しみにしています。

キーワード /Keywords

異文化間コミュニケーション演習【昼】

担当者名 /Instructor 山崎 和夫 / KAZUO YAMASAKI / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日米話者のコミュニケーションギャップを考察する。ギャップの基底にある文化的背景を探っていくために具体的事例を中心に考察していく。また、ギャップの事象をどう記述するかを学ぶ。

教科書 /Textbooks

授業の際にプリント資料を適宜配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

八代京子、他、『異文化コミュニケーションワークブック』三修社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースワークの説明
- 第2回 文化とは何か、コミュニケーションとは何か
- 第3回 異文化コミュニケーションとは
- 第4回 コミュニケーションスタイル、①コンテキスト、②パラ言語の差異
- 第5回 言語コミュニケーションギャップ(①ほめ方、とその反応、②断り方、とその反応)
- 第6回 非言語コミュニケーションギャップ(①ジェスチャー、②空間、③時間の使い方の差異)
- 第7回 価値観(基本価値観)の差異に基づくコミュニケーションギャップ
- 第8回 コミュニケーションスキルの訓練(DIE Methodによる記述)
- 第9回 コミュニケーションスキルの訓練(assertive communication)
- 第10回 Critical Incidentsの観察(Incidentの内容、Incidentの解説、Incidentの文化的背景)
- 第11回 Critical Incidentの作成
- 第12回 各自テーマによる発表(コミュニケーション関連)
- 第13回 各自テーマによる発表(文化関連)
- 第14回 各自テーマによる発表(そのほかの関連事象)
- 第15回 授業の概括、各自テーマ発表による意見集約

成績評価の方法 /Assessment Method

授業での活動 60% 期末試験 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

文化、コミュニケーションに関する事項において常に何故かを考えることが必要。授業ではその解答を求める。また、課題の提出、各自のプレゼンテーションが必須事項である。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

通訳基礎演習Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 伊藤 健一 / Kenichi ITO / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

もしあなたが明日、アメリカから日本にやってくるプロ野球選手の通訳をしなければならなくなったとしたら、今日何をしますか？英語の勉強でしょうか？それより緊急にやらなければならないことは、その選手について、その選手が属していた球団やリーグについて、さらにはアメリカの野球界と日本の野球界の違いについて調べ、記者会見でどんなことが聞かれるのかを想定して準備しておくことが必要となるのではないのでしょうか。そう考えてみると、通訳は、ことばを移し替えるだけではないことがよく分かります。自分が理解できない話題について通訳することはできないからです。その上で、英語力や日本語表現力といった力が必要になってくるわけです。

通訳基礎演習Ⅰでは、英語をきちんと正しく聞き取れるようになるための訓練を基本としながら、多様な話題の教材を用いることにより、知識も身につけてもらえるよう工夫したいと思います。また、毎回の授業に先だって、ウォーミングアップとして日本語と英語の発音（発声）練習を行います。なお、今回使用するテキストは英語のみで作られていますので、日本語→英語の練習もできるよう、オリジナル教材を作成したいと思います。

教科書 /Textbooks

BBC Documentary: Natural Remedies (DVDで学ぶBBCドキュメンタリー)(ピアソン桐原)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第01回 オリエンテーション：通訳とはどのような行為なのかを考えます。
- 第02回 Unit 1に基づく通訳練習（英語→日本語）
- 第03回 Unit 2に基づく通訳練習（英語→日本語）
- 第04回 Unit 1および2の発展練習（英語→日本語、日本語→英語）
- 第05回 Unit 3に基づく通訳練習（英語→日本語）
- 第06回 Unit 4に基づく通訳練習（英語→日本語）
- 第07回 Unit 3および4の発展練習（英語→日本語、日本語→英語）
- 第08回 テキスト以外の音源による通訳練習（英語→日本語）
- 第09回 Unit 5に基づく通訳練習（英語→日本語）
- 第10回 Unit 6に基づく通訳練習（英語→日本語）
- 第11回 Unit 5および6の発展練習（英語→日本語、日本語→英語）
- 第12回 テキスト以外の音源による通訳練習（日本語→英語）
- 第13回 Unit 7に基づく通訳練習（英語→日本語）
- 第14回 Unit 8に基づく通訳練習（英語→日本語）
- 第15回 まとめと総復習

成績評価の方法 /Assessment Method

演習科目ですから、出席は当然です。その上で授業への積極的参加の度合いと学期末試験の得点を総合して評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

言うまでもないことですが、授業の時だけの練習では実力はつきません。平素から英語に触れる努力をし、例えばテレビを見ながら通訳練習をしてみる、というような心がけが大切だと思います。

また、毎時間、次週までに準備して欲しいことを確認しますので、予習も怠りのないようお願いします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

よく知られているように、You Tubeの中に、優れた英語の音声教材がたくさん入っています。こうしたものを使って、自宅で練習していただくのも良いと思います。時にはこうしたものを課題として指定することも考えたいと思います。

キーワード /Keywords

通訳基礎演習Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 伊藤 健一 / Kenichi ITO / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

もしあなたが明日、アメリカから日本にやってくるプロ野球選手の通訳をしなければならなくなったとしたら、今日何をしますか？英語の勉強でしょうか？それより緊急にやらなければならないことは、その選手について、その選手が属していた球団やリーグについて、さらにはアメリカの野球界と日本の野球界の違いについて調べ、記者会見でどんなことが聞かれるのかを想定して準備しておくことが必要となるのではないのでしょうか。そう考えてみると、通訳は、ことばを移し替えるだけではないことがよく分かります。自分が理解できない話題について通訳することはできないからです。その上で、英語力や日本語表現力といった力が必要になってくるわけです。

通訳基礎演習Ⅰでは、英語をきちんと正しく聞き取れるようになるための訓練を基本としながら、多様な話題の教材を用いることにより、知識も身につけてもらえるよう工夫したいと思います。また、毎回の授業に先だって、ウォーミングアップとして日本語と英語の発音（発声）練習を行います。なお、今回使用するテキストは英語のみで作られていますので、日本語→英語の練習もできるよう、オリジナル教材を作成したいと思います。

教科書 /Textbooks

BBC Documentary: Natural Remedies (DVDで学ぶBBCドキュメンタリー)(ピアソン桐原)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第01回 オリエンテーション：通訳とはどのような行為なのかを考えます。
- 第02回 Unit 1に基づく通訳練習（英語→日本語）
- 第03回 Unit 2に基づく通訳練習（英語→日本語）
- 第04回 Unit 1および2の発展練習（英語→日本語、日本語→英語）
- 第05回 Unit 3に基づく通訳練習（英語→日本語）
- 第06回 Unit 4に基づく通訳練習（英語→日本語）
- 第07回 Unit 3および4の発展練習（英語→日本語、日本語→英語）
- 第08回 テキスト以外の音源による通訳練習（英語→日本語）
- 第09回 Unit 5に基づく通訳練習（英語→日本語）
- 第10回 Unit 6に基づく通訳練習（英語→日本語）
- 第11回 Unit 5および6の発展練習（英語→日本語、日本語→英語）
- 第12回 テキスト以外の音源による通訳練習（日本語→英語）
- 第13回 Unit 7に基づく通訳練習（英語→日本語）
- 第14回 Unit 8に基づく通訳練習（英語→日本語）
- 第15回 まとめと総復習

成績評価の方法 /Assessment Method

演習科目ですから、出席は当然です。その上で授業への積極的参加の度合いと学期末試験の得点を総合して評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

言うまでもないことですが、授業の時だけの練習では実力はつきません。平素から英語に触れる努力をし、例えばテレビを見ながら通訳練習をしてみる、というような心がけが大切だと思います。

また、毎時間、次週までに準備して欲しいことを確認しますので、予習も怠りのないようお願いします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

よく知られているように、You Tubeの中に、優れた英語の音声教材がたくさん入っています。こうしたものを使って、自宅で練習していただくのも良いと思います。時にはこうしたものを課題として指定することも考えたいと思います。

キーワード /Keywords

通訳基礎演習Ⅰ【昼】

担当者名 野島 啓一 / nojima keiichi / 英米学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 2 - 3
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

読む力を基礎としてオラルコミュニケーションの開発に必要な技術の開発を目的に色々な分野の教材をもとに具体的に取得することを考える。「読む」「書く」「聞く」「話す」という側面を同時に相関的に強化する必要性を念頭にその体系的な訓練方法を各自が編み出すことも視野に入れる。

教科書 /Textbooks

『コミュニケーションと通訳演習』 斎藤彩子・Richard Potter・皆川治恵・吉田かよ子 南雲堂 1,800

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第一回 授業方針及び通訳についての概括
- 第二回 スポーツ交流
- 第三回 映画
- 第四回 環境保護
- 第五回 環境問題
- 第六回 国際交流
- 第七回 インタビューI
- 第八回 インタビューII
- 第九回 社会現象
- 第十回 先端技術
- 第十一回 映像文化
- 第十二回 経済I
- 第十三回 経済II
- 第十四回 テレビ番組『Cool Japan』『Japanology』の通訳的活用方法
- 第十五回 要約と整理

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 (20点) + レポート (30点) + 定期試験 (50点)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

オラルコミュニケーションに関する科目を並行して履修することが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

通訳基礎演習Ⅰ【昼】

担当者名 野島 啓一 / nojima keiichi / 英米学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 2 - 4
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

読む力を基礎としてオラルコミュニケーションの開発に必要な技術の開発を目的に色々な分野の教材をもとに具体的に取得することを考える。「読む」「書く」「聞く」「話す」という側面を同時に相関的に強化する必要性を念頭にその体系的な訓練方法を各自が編み出すことも視野に入れる。

教科書 /Textbooks

『コミュニケーションと通訳演習』 斎藤彩子・Richard Potter・皆川治恵・吉田かよ子 南雲堂 1,800

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第一回 授業方針及び通訳についての概括
- 第二回 スポーツ交流
- 第三回 映画
- 第四回 環境保護
- 第五回 環境問題
- 第六回 国際交流
- 第七回 インタビューI
- 第八回 インタビューII
- 第九回 社会現象
- 第十回 先端技術
- 第十一回 映像文化
- 第十二回 経済I
- 第十三回 経済II
- 第十四回 テレビ番組『Cool Japan』『Japanology』の通訳的活用方法
- 第十五回 要約と整理

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 (20点) + レポート (30点) + 定期試験 (50点)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

オラルコミュニケーションに関する科目を並行して履修することが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

通訳基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 伊藤 健一 / Kenichi ITO / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

もしあなたが明日、アメリカから日本にやってくるプロ野球選手の通訳をしなければならなくなったとしたら、今日何をしますか？英語の勉強でしょうか？それより緊急にやらなければならないことは、その選手について、その選手が属していた球団やリーグについて、さらにはアメリカの野球界と日本の野球界の違いについて調べ、記者会見でどんなことが聞かれるのかを想定して準備しておくことが必要となるのではないのでしょうか。そう考えてみると、通訳は、ことばを移し替えるだけではないことがよく分かります。自分が理解できない話題について通訳することはできないからです。その上で、英語力や日本語表現力といった力が必要になってくるわけです。

通訳基礎演習IIでは、応用編として、より高度な英語聴解力の養成を軸にすえ、さまざまな音源を教材に訓練を行いません。語彙を増やす訓練も継続して行ないたいと思います。また、毎回の授業に先だって、ウォーミングアップとして日本語と英語の発音（発声）練習を行いません。テキストはダイアログに耐えうるテーマを扱っていますので（Unit 6以降）、それに対する反対討論を用意し、それを通訳していただく練習も考えています。また、その反対討論を皆さんに作成していただくことも可能であればお願いしたいと思っています。よろしかったらご協力ください。

教科書 /Textbooks

小林 敏彦、シヨン・クランキー 著 『英語スピーチとプレゼンの技術』（南雲堂）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第01回 オリエンテーション：通訳について概説します。
- 第02回 Unit 6 に基づく通訳練習（英語→日本語）
- 第03回 反対の立場のスピーチの通訳練習（日本語→英語）
- 第04回 Unit7 に基づく通訳練習
- 第05回 反対の立場のスピーチの通訳練習（日本語→英語）
- 第06回 Unit 8 に基づく通訳練習
- 第07回 反対の立場のスピーチの通訳練習（日本語→英語）
- 第08回 テキスト以外の音源による通訳練習（英語→日本語）
- 第09回 Unit 9 に基づく通訳練習（英語→日本語）
- 第10回 反対の立場のスピーチの通訳練習（日本語→英語）
- 第11回 Unit 10 に基づく通訳練習（英語→日本語）
- 第12回 反対の立場のスピーチの通訳練習（日本語→英語）
- 第13回 Unit 11 に基づく通訳練習（英語→日本語）
- 第14回 反対の立場のスピーチの通訳練習（日本語→英語）
- 第15回 まとめと総復習

成績評価の方法 /Assessment Method

演習科目ですから、出席は当然です。その上で授業への積極的参加の度合いと学期末試験の得点を総合して評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

言うまでもないことですが、授業の時だけの練習では実力はつきません。平素から英語に触れる努力をし、たとえばテレビを見ながら通訳練習をしてみる、というような心がけが大切だと思います。

また、毎時間、次週までに準備して欲しいことを確認しますので、予習も怠りのないようお願いします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

よく知られているように、You Tubeの中に優れた英語の音声教材がたくさん入っています。こうしたものを使って、自宅で練習していただくのも良いと思います。時にはこうしたものを課題として指定することも考えたいと思います。

キーワード /Keywords

通訳基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 伊藤 健一 / Kenichi ITO / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

もしあなたが明日、アメリカから日本にやってくるプロ野球選手の通訳をしなければならなくなったとしたら、今日何をしますか？英語の勉強でしょうか？それより緊急にやらなければならないことは、その選手について、その選手が属していた球団やリーグについて、さらにはアメリカの野球界と日本の野球界の違いについて調べ、記者会見でどんなことが聞かれるのかを想定して準備しておくことが必要となるのではないのでしょうか。そう考えてみると、通訳は、ことばを移し替えるだけではないことがよく分かります。自分が理解できない話題について通訳することはできないからです。その上で、英語力や日本語表現力といった力が必要になってくるわけです。

通訳基礎演習IIでは、応用編として、より高度な英語聴解力の養成を軸にすえ、さまざまな音源を教材に訓練を行ないます。語彙を増やす訓練も継続して行ないたいと思います。また、毎回の授業に先だって、ウォーミングアップとして日本語と英語の発音（発声）練習を行ないます。テキストはダイアログに耐えうるテーマを扱っていますので（Unit 6以降）、それに対する反対討論を用意し、それを通訳していただく練習も考えています。また、その反対討論を皆さんに作成していただくことも可能であればお願いしたいと思っています。よろしかったらご協力ください。

教科書 /Textbooks

小林 敏彦、シヨン・クランキー 著 『英語スピーチとプレゼンの技術』（南雲堂）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第01回 オリエンテーション：通訳について概説します。
- 第02回 Unit 6 に基づく通訳練習（英語→日本語）
- 第03回 反対の立場のスピーチの通訳練習（日本語→英語）
- 第04回 Unit7 に基づく通訳練習
- 第05回 反対の立場のスピーチの通訳練習（日本語→英語）
- 第06回 Unit 8 に基づく通訳練習
- 第07回 反対の立場のスピーチの通訳練習（日本語→英語）
- 第08回 テキスト以外の音源による通訳練習（英語→日本語）
- 第09回 Unit 9 に基づく通訳練習（英語→日本語）
- 第10回 反対の立場のスピーチの通訳練習（日本語→英語）
- 第11回 Unit 10 に基づく通訳練習（英語→日本語）
- 第12回 反対の立場のスピーチの通訳練習（日本語→英語）
- 第13回 Unit 11 に基づく通訳練習（英語→日本語）
- 第14回 反対の立場のスピーチの通訳練習（日本語→英語）
- 第15回 まとめと総復習

成績評価の方法 /Assessment Method

演習科目ですから、出席は当然です。その上で授業への積極的参加の度合いと学期末試験の得点を総合して評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

言うまでもないことですが、授業の時だけの練習では実力はつきません。平素から英語に触れる努力をし、たとえばテレビを見ながら通訳練習をしてみる、というような心がけが大切だと思います。

また、毎時間、次週までに準備して欲しいことを確認しますので、予習も怠りのないようお願いします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

よく知られているように、You Tubeの中に優れた英語の音声教材がたくさん入っています。こうしたものを使って、自宅で練習していただくのも良いと思います。時にはこうしたものを課題として指定することも考えたいと思います。

キーワード /Keywords

通訳基礎演習II 【昼】

担当者名 野島 啓一 /nojima keiichi / 英米学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・実習 クラス 2 - 3
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

通訳基礎演習IIでは「話す」「書く」側面に関する強化を念頭に様々な具体的なケースを通して目指す。表現する段階では「着想」の調整、表現形式の構造化を具体的な状況を念頭におき、実践的訓練を通して身につける事を目指す。

教科書 /Textbooks

『通訳トレーニングコース』 水野真木子・鍵村和子著 大阪教育図書 1,800

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第一週 授業の目的と方針・通訳の定義と必要な学習要件
- 第二週 COMMUNICATION I
- 第三週 COMMUNICATION II
- 第四週 SIGHT SEEING I
- 第五週 SIGHT SEEING II
- 第六週 SIGHT SEEING III
- 第七週 SOCIAL ISSUES I
- 第八週 SOCIAL ISSUES II
- 第九章 SOCIAL ISSUES III
- 第十章 POLITICS I
- 第十一章 POLITICS II
- 第十二章 BUSINESS AND ECONOMY I
- 第十三章 BUSINESS AND ECONOMY II
- 第十四章 HISTORY
- 第十五章 まとめと応用

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(20点)+レポート(30点) +定期試験(50点)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

リスニング・スピーキングに関する授業科目を履修して動機付けを認識しておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

通訳基礎演習II 【昼】

担当者名 野島 啓一 /nojima keiichi / 英米学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・実習 クラス 2 - 4
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

通訳基礎演習IIでは「話す」「書く」側面に関する強化を念頭に様々な具体的なケースを通して目指す。表現する段階では「着想」の調整、表現形式の構造化を具体的な状況を念頭におき、実践的訓練を通して身につける事を目指す。

教科書 /Textbooks

『通訳トレーニングコース』 水野真木子・鍵村和子著 大阪教育図書 1,800

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第一週 授業の目的と方針・通訳の定義と必要な学習要件
- 第二週 COMMUNICATION I
- 第三週 COMMUNICATION II
- 第四週 SIGHT SEEING I
- 第五週 SIGHT SEEING II
- 第六週 SIGHT SEEING III
- 第七週 SOCIAL ISSUES I
- 第八週 SOCIAL ISSUES II
- 第九章 SOCIAL ISSUES III
- 第十章 POLITICS I
- 第十一章 POLITICS II
- 第十二章 BUSINESS AND ECONOMY I
- 第十三章 BUSINESS AND ECONOMY II
- 第十四章 HISTORY
- 第十五章 まとめと応用

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(20点)+レポート(30点) +定期試験(50点)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

リスニング・スピーキングに関する授業科目を履修して動機付けを認識しておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

異文化フィールドワーク【昼】

担当者名 /Instructor ロジャー・ウィリアムソン / Rodger S. Williamson / 英米学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この科目は、学生の自主的な異文化体験を「生きた学習」として認め、それに対して一定の評価を与え、学生の積極的な異文化体験を促進する目的のために開講されている。受講開始時において、原則として1年以内に1ヶ月以上の海外滞在経験を持ち、撮ってきた写真を使って異文化体験を報告することができることが受講条件となる。

教科書 /Textbooks

特にテキストは定めない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指摘。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インタロダクション
- 第2回 学生による異文化体験プレゼンテーション 1
- 第3回 ディスカッション 1
- 第4回 学生による異文化体験プレゼンテーション 2
- 第5回 ディスカッション 2
- 第6回 学生による異文化体験プレゼンテーション 3
- 第7回 ディスカッション 3
- 第8回 学生による異文化体験プレゼンテーション 4
- 第9回 ディスカッション 4
- 第10回 学生による異文化体験プレゼンテーション 5
- 第11回 ディスカッション 5
- 第12回 学生による異文化体験プレゼンテーション 6
- 第13回 ディスカッション 6
- 第14回 学生による異文化体験プレゼンテーション 7
- 第15回 ディスカッション 7

成績評価の方法 /Assessment Method

海外滞在体験報告のプレゼンテーションと、それを簡単に文にまとめたレポートによって成績を出す。

レポート - 40% プレゼンテーション - 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

1ヶ月の海外滞在経験を示す何か (写真等) を用意すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語学研究I (音声学・音韻論) 【昼】

担当者名 /Instructor 山内 ひさ子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国比優先クラス

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

音声学・音韻論の基礎知識を学ぶとともに、実践的な訓練により、英語の正しい発音を習得する。英語の強勢、リズム、イントネーションについても学び、英語らしい音声について明らかにする。音声分析ソフトを用い、spectrographによる分析も試みる。

教科書 /Textbooks

佐藤 寧、佐藤 努 著『現代の英語音声学』金星堂、2400円(税別)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じ、プリントを配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction 音声学・音韻論の定義、IPA (テキスト:第1章、第3章)
- 2回 発生のメカニズム、母音の種類(1) (テキスト:第2章、第4章)
- 3回 母音の種類(2)、二重母音 (テキスト:第4章)
- 4回 子音の種類(1) 鼻音、閉鎖音 (テキスト:第5章)
- 5回 子音の種類(2) 摩擦音 (テキスト:第5章)
- 6回 子音の種類(3) 破擦音、側音、半母音(第5章)
- 7回 紛らわしい子音、紛らわしい母音
- 8回 音の強勢(テキスト:第7章)
- 9回 音の縮小、同時長音(テキスト:第8章、第9章)
- 10回 英語のリズム(テキスト:第6章)
- 11回 イントネーション(1)(テキスト:第10章)
- 12回 イントネーション(2)(テキスト:第10章)
- 13回 音響音声学(テキスト:第11章)
- 14回 音変化と規則性(テキスト:第13章、第15章)
- 15回 授業のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加、提出課題 40%
期末試験 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

USBメモリを準備すること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

IPA, articulation, vowel, consonant, stress, intonation, acoustic phonetics

英語学研究II (統語論) 【昼】

担当者名 /Instructor 北峯 裕士 / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本語と英語の統語構造の違い。

教科書 /Textbooks

特に無し。プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 英語と日本語の統語構造の違い1 (語彙)
- 3回 英語と日本語の統語構造の違い2 (統語構造)
- 4回 理論的背景の概要
- 5回 語彙範疇① (名詞)
- 6回 語彙範疇② (形容詞)
- 7回 語彙範疇③ (動詞)
- 8回 機能範疇①(T(ense))
- 9回 機能範疇②(C(omplementizer))
- 10回 機能範疇③(D(eterminer))
- 11回 語彙範疇と機能範疇の違い
- 12回 英語と日本語の統語構造の違いの理論的説明 (機能範疇の有無)
- 13回 英語と日本語の統語構造の違いの理論的説明 (wh移動の有無)
- 14回 理論的説明における問題点等の指摘
- 15回 まとめ

全講義回数の8割程度の割合で、講義終了前に小テストを行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

試験... 40 % 小テスト... 20% レポート... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習と復習は忘れずに。

履修上の注意 /Remarks

毎週必ず出席すること。連続2回休むとついてこれない可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語史【昼】

担当者名 /Instructor 松崎 徹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講座では、国際語としての地位を確立したといえる英語の、その誕生（5世紀）から近世（16世紀）に至るまでの歴史を概観する。特に、他のヨーロッパ諸言語と比べて現代英語の際立った特徴とされる（1）語彙の豊富さ（2）語尾変化の少なさ、の2点に焦点を当て、こうした特徴がフランス語を中心とした諸外国語の影響によるものが大きいことを、具体例を通して概観し、英語の発達の歴史はいわば異質の言語・文化との交流の歴史であることを学んでいく。

教科書 /Textbooks

『ファンダメンタル英語史』（児馬修著） ひつじ書房 1500円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が適宜紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 シラバス配布 & 英語史導入問題の解答と解説
- 2回 はしがき & はじめに【外面史】、【内面史】
- 3回 英語史の概観（1）【アングロサクソン人】
- 4回 英語史の概観（2）【ケルト人】
- 5回 印欧祖語（1）【異言語間の数詞比較】
- 6回 印欧祖語（2）【ウィリアム・ジョーンズ】
- 7回 印欧祖語（3）【印欧語族】
- 8回 古英語の文献・特殊文字（1）【ルーン文字】、【ローマンアルファベット】
- 9回 古英語の文献・特殊文字（2）【古英語】
- 10回 海賊と英語（1）【ヴァイキング】
- 11回 海賊と英語（2）【借用語】
- 12回 海賊と英語（3）【地名】
- 13回 ノルマン人の征服と英語（1）【ノルマン人の征服】
- 14回 ノルマン人の征服と英語（2）【英語の危機】
- 15回 ノルマン人の征服と英語（3）【フランス語借用語】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況・・・20% 定期試験・・・80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎講義の冒頭に前回の講義内容に関する質問を受講生に口頭でおこなうので、講義開始時まで前回の講義内容を復習しておくこと。この口頭質問は重要なクラス活動と位置づけるので、平常点として成績評価の対象とする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アングロサクソン 古英語 借用語 フランス語

社会言語学研究【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
選択科目

担当者名 /Instructor 廣田 恵美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、言語と社会・文化を関連付けることで、言語が実際に社会の中でどのような役割を果たしているか、また社会や文化が言語にどのような影響を与えているかの両面からの考察を行い、言語に対するより幅広い知識や洞察力をつけることを目的とします。

教科書 /Textbooks

『新世代の言語学』（飯野公一、恩村由香子他編著 くろしお出版）¥ 1,800

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『はじめての言語学』（黒田龍之介著 講談社現代新書）¥ 740

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業内容および成績評価に関する説明 社会言語学とは
- 2回 サビア・ウォーフの仮説
- 3回 地域方言
- 4回 方言と共通語
- 5回 アコモデーション理論
- 6回 ことばの接触と変化
- 7回 外来語の受容
- 8回 外来語の持つイメージ
- 9回 公用語
- 10回 ことばをめぐる紛争
- 11回 多言語国家の状況
- 12回 アフリカ系アメリカ人と英語
- 13回 男ことば・女ことば
- 14回 ポリテイカリー・コレクト
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み... 20%、試験... 80%で総合評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業を受ける・本を読むといった受動的な態度にとどまらず、ことばの変化やことばの果たす役割を自ら敏感に察知できるようになりましょう。

キーワード /Keywords

ことば・社会・文化

アメリカ研究 【昼】

担当者名 /Instructor
ダニエル・ストラック / Daniel C. Strack / 英米学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義はアメリカ文化を様々な視点から検討します。独立宣言、政治演説など、多数の歴史的資料を取り上げることを通して、アメリカが辿ってきた道、そして現代における意義を検証していきます。

教科書 /Textbooks

S. Kathleen Kitao et al. Events and Trends in American History. Sanshusha, 1992.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要なものは授業中に提示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Course Introduction
- 2回 The New World
- 3回 The Original Colonies
- 4回 British Influence
- 5回 Early Expansion to the Mississippi
- 6回 The Moving Frontier
- 7回 【The Civil War】 and the 【Civil Rights Movement】
- 8回 The US System of 【Government】
- 9回 The Second World War
- 10回 The 1960s Counterculture
- 11回 Economic Values
- 12回 Lifestyle
- 13回 Popular Culture
- 14回 Continuing 【Immigration】
- 15回 Course Review

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加：30% 小テスト：0% 期末試験：60% 課題：0% 態度：10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Students are expected to read the English-language textbook chapter relating to each week's topic to gain historical background information so as to fully appreciate the lecture.

履修上の注意 /Remarks

The course will be taught using a combination of English and Japanese. Lecture notes will be provided to aid student review. The examination will be in Japanese but will include some English vocabulary.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

イギリス研究 【昼】

担当者名 アダム・ヘイルズ / Adam Hailes / 英米学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

映画や文学、新聞を中心にイギリスの文化を読み解く。階級、ジェンダー、セクシュアリティ、エスニシティ、宗教、王室等をキーワードとして、歴史的な視点、現代的な視点の両方から考えてみたい。

This course will assess and analyse British Culture through a focus on film, literature and journalistic text. Both historical and modern perspectives will be maintained and embraced throughout this investigation into the key themes of class, gender, sexuality, ethnicity, religion and sovereignty.

教科書 /Textbooks

Handouts will be provided at the beginning of each class.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Relevant material for further study will be introduced during each class.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Class 1: Gender and Sexuality on the Shakespearean Stage
- Class 2: Gender and Sexuality in Modern Britain: Self and Society in Billy Eliot
- Class 3: Gender, Sexuality and Identity throughout British History
- Class 4: Religion in Tudor England: The Legacy of Henry VIII
- Class 5: Religion in Tudor England: The Philosophy of Elizabeth I
- Class 6: Religion and Identity throughout British History
- Class 7: Social Class in Shakespearean London
- Class 8: Social Class in Victorian London
- Class 9: Social Class in Film and Rock in Modern Britain: Billy's Ballet and Pulp's Plea
- Class 10: Ethnicity and Shakespeare
- Class 11: Ethnicity and War
- Class 12: Ethnicity in Modern Britain: Bend It Like Beckham
- Class 13: The Royal Family and the British Press
- Class 14: Sovereigns On Stage and Film: Presenting the Royals
- Class 15: Review and Discussion

成績評価の方法 /Assessment Method

- Homework assignment 1 - 50% (Short Essay)
- Homework assignment 2 - 50% (Short Essay)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

None specified

履修上の注意 /Remarks

Please note that this course will be conducted in English.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 伊藤 健一 / Kenichi ITO / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

英米学科の教育の柱として、「語学力の養成」、「英語のこころを学ぶ」、「英語の先にある世界を学ぶ」をあげることができます。この授業は、このうち「英語のこころを学ぶ」ために用意されたものです。まずは比較文化論の方法論を踏まえ、異文化を読み解くにはどのようなことに注意を払えばよいのかを確認します。それに続いて、英語文化の背後にあるイギリス、アメリカの文化を見つめ、さらに英米以外の英語圏の国々についても理解を深めたいと思います。最後に、それによって明らかにされた日本文化のさまざまな特徴を英語で語る練習をしてみたいと思います。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しません。授業の中でプリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第01回 オリエンテーション：文化を読み解くとは
- 第02回 イギリスとアメリカの素顔を知る。
- 第03回 マザーグースと児童文学
- 第04回 シェイクスピアへの道：英国中世演劇
- 第05回 シェイクスピアとその作品：概論
- 第06回 シェイクスピア作品を観る(1)
- 第07回 シェイクスピア作品を観る(2)
- 第08回 アメリカの音楽：ジャズの歴史とロックの誕生
- 第09回 イギリスの音楽：イギリスのロック
- 第10回 イギリスの音楽：プロムスで歌われるイギリスのこころ
- 第11回 聖地デイズニーランド
- 第12回 世界共通語としての英語
- 第13回 英語を通して世界を見る
- 第14回 日本文化を英語で語ろう
- 第15回 まとめと総復習

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として期末試験の成績のみで評価します。ただし、欠席が極端に多い人は不可、もしくは極端に低い評価とします。逆にすべて、もしくはほとんどすべて出席している人にはボーナス点を加点します。したがって、割合では示しにくいのですが、出席を非常に重視していると理解して下さい。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

この授業は、予習を前提に考えてはいませんので、特に何か準備をして臨んでいただく必要はありません。しかし、復習は十分にしてくださいと思います。授業の中で配布するプリントを読み直し、できればそれをもとに、自分なりにさらにリサーチを続けていただければと思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

英語はもはやイギリス、アメリカだけのものではなくなっています。しかし、英語を育んできた両国の文化を学ぶことは、英語の背後にある考え方、ものの見方を知る上でも有益です。積極的な気持ちで学んでほしいと思います。

キーワード /Keywords

上級英語I【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
選択科目

担当者名 /Instructor アンデリユー・ジッツマン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course will take a critical look at media. We will examine the how and why of media control. Discussion of the various issues is intended to lead to a better understanding of media, the changes that media is currently experiencing, and media's influence on our lives.

教科書 /Textbooks

Puppet on a String: Media Control in Our Lives. Lynch, Jonathan. Cengage Learning, 2010.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction. What really happened?
- 2回 How true is what we read?
- 3回 How the political spectrum affects our news
- 4回 Spinning out of control
- 5回 Staged TV
- 6回 Advertising or brainwashing?
- 7回 Consumerism gone mad
- 8回 Stereotypes and the media
- 9回 The discriminating viewer
- 10回 Another bash on the head
- 11回 So beautiful, so thin
- 12回 Privacy and the media
- 13回 New media same old problems?
- 14回 Depictions of foreigners in the media
- 15回 Like a puppet on a string

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation 40%
Assignments 40%
Final Examination 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Prepare the Warm Up section before coming to class.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

上級英語II 【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
選択科目

担当者名 /Instructor アンデリユー・ジッツマン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

In this course we will continue looking at the media in a critical manner. A student centered approach will be used to discuss a variety of current issues. International, domestic, and local items of interest will be presented in various formats using this approach.

教科書 /Textbooks

None.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Course Introduction
- 2回 Project 1 planning
- 3回 Project 1 preparation
- 4回 Project 1 presentation
- 5回 Project 4 planning
- 6回 Project 2 planning
- 7回 Project 2 preparation
- 8回 Project 2 presentation
- 9回 Project 3 planning
- 10回 Project 3 preparation
- 11回 Project 3 presentation
- 12回 Project 4 planning
- 13回 Project 4 preparation
- 14回 Project 4 presentation
- 15回 Final review

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation 20%
Projects 60%
Final Exam 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Complete the tasks and be prepared for your presentation.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語プレゼンテーション演習【昼】

担当者名 /Instructor ロジャー・ウィリアムソン / Rodger S. Williamson / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 3 - 1・ 3 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

英語で情報を発信する技術を身につけることを目的とする。まず英語でプレゼンテーションをする際の基本的な方法や知識を学ぶ。原則としてパワーポイントを用いる方法を紹介するが、必ずしもパワーポイントを用いなければならないというものではない。最初の数回で、すぐれたプレゼンテーションの例をいくつか紹介、分析し、英語プレゼンテーションをする際の重要なポイント、注意すべき事などを学ぶ。4回目からは、学生自身によるプレゼンテーションの実践によって演習を進める。英語圏で、何かを語るときにまず必要なのは、自国の文化についての知識である。そういうわけで、本演習では日本と英語圏の文化について比較考察しうるようなテーマを自ら設定し、十分にサーチしたものをプレゼンテーションする。

教科書 /Textbooks

Printed materials to be supplied by instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

In consultation with instructor.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 英語プレゼンテーションの基本 I: Style
- 第3回 英語プレゼンテーションの基本 II: Organization
- 第4回 プレゼンテーションの基本技術について (powerpointなど)
- 第5回 すぐれたプレゼンテーションから学ぶ：いくつかのすぐれたプレゼンテーションの例のいくつかをビデオで見て、それについて分析、解説する。
- 第6回 ~プレゼンの実践。毎回プレゼンテーションを行う。プレゼンテーションの後、英語による全体でのディスカッションを行う。
- 第7回 English Presentation by group 2
- 第8回 English Presentation by group 3
- 第9回 English Presentation by group 4
- 第10回 English Presentation by group 5
- 第11回 English Presentation by group 6
- 第12回 Individual English Presentations 1
- 第13回 Individual English Presentations 2
- 第14回 Individual English Presentations 3
- 第15回 Individual English Presentations 4

成績評価の方法 /Assessment Method

宿題 - 50%

授業中に行われるプレゼンテーション - 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Outside readings and research related for presentations in English.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語プレゼンテーション演習【昼】

担当者名 /Instructor ロジャー・ウィリアムソン / Rodger S. Williamson / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 3 - 3・3 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

英語で情報を発信する技術を身につけることを目的とする。まず英語でプレゼンテーションをする際の基本的な方法や知識を学ぶ。原則としてパワーポイントを用いる方法を紹介するが、必ずしもパワーポイントを用いなければならないというものではない。最初の数回で、すぐれたプレゼンテーションの例をいくつか紹介、分析し、英語プレゼンテーションをする際の重要なポイント、注意すべき事などを学ぶ。4回目からは、学生自身によるプレゼンテーションの実践によって演習を進める。英語圏で、何かを語るときにまず必要なのは、自国の文化についての知識である。そういうわけで、本演習では日本と英語圏の文化について比較考察しうるようなテーマを自ら設定し、十分にサーチしたものをプレゼンテーションする。

教科書 /Textbooks

Printed materials to be supplied by instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

In consultation with instructor.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 英語プレゼンテーションの基本 I: Style
- 第3回 英語プレゼンテーションの基本 II: Organization
- 第4回 プレゼンテーションの基本技術について (powerpointなど)
- 第5回 すぐれたプレゼンテーションから学ぶ：いくつかのすぐれたプレゼンテーションの例のいくつかをビデオで見て、それについて分析、解説する。
- 第6回 ~プレゼンの実践。毎回プレゼンテーションを行う。プレゼンテーションの後、英語による全体でのディスカッションを行う。
- 第7回 English Presentation by group 2
- 第8回 English Presentation by group 3
- 第9回 English Presentation by group 4
- 第10回 English Presentation by group 5
- 第11回 English Presentation by group 6
- 第12回 Individual English Presentations 1
- 第13回 Individual English Presentations 2
- 第14回 Individual English Presentations 3
- 第15回 Individual English Presentations 4

成績評価の方法 /Assessment Method

宿題 - 50%

授業中に行われるプレゼンテーション - 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Outside readings and research related for presentations in English.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語リーディング演習II【昼】

担当者名 /Instructor 木下 善貞 / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 3 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Anthony TrollopeのFramley Parsonageを扱う。
①テキストが書かれた時代背景、社会状況のじゅうぶんな理解、②読む者の主観を排してテキストの意図する意味の把握、③叙述の仕方と文法の分析、以上3点がねらいである。

教科書 /Textbooks

必要な者はAnthony Trollope: Framley Parsonage (Penguin Classics)を購入する。
授業はこのテキストのコピーを適宜プリントして配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

R. C. Terry: Oxford Reader's Companion to Trollope (Oxford)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の進め方。1回に4頁ずつ読んでいく。担当となった受講生は授業日の2日前までに1頁の翻訳を木下に添付ファイルで提出する。授業では全員4頁を当然読んできているものとして訳出難解箇所、訳註必要箇所をチェックする。
- 2回 392-95頁の翻訳
 - 3回 396-99頁の翻訳
 - 4回 400-03頁の翻訳
 - 5回 404-07頁の翻訳
 - 6回 408-11頁の翻訳
 - 7回 412-15頁の翻訳
 - 8回 416-19頁の翻訳
 - 9回 420-23頁の翻訳
 - 10回 424-27頁の翻訳
 - 11回 428-31頁の翻訳
 - 12回 432-35頁の翻訳
 - 13回 436-39頁の翻訳
 - 14回 440-43頁の翻訳
 - 15回 授業のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

担当頁の日本語訳をワードのファイルで提出する。各担当者は担当章のbrush-upに励み、書式を統一する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

英語リーディング演習II 【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
選択科目

キーワード /Keywords

英語リーディング演習II【昼】

担当者名 /Instructor 木下 善貞 / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 3 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Anthony TrollopeのFramley Parsonageを扱う。
①テキストが書かれた時代背景、社会状況のじゅうぶんな理解、②読む者の主観を排してテキストの意図する意味の把握、③叙述の仕方と文法の分析、以上3点がねらいである。

教科書 /Textbooks

必要な者はAnthony Trollope: Framley Parsonage (Penguin Classics)を購入する。
授業はこのテキストのコピーを適宜プリントして配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

R. C. Terry: Oxford Reader's Companion to Trollope (Oxford)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の進め方。1回に4頁ずつ読んでいく。担当となった受講生は授業日の2日前までに1頁の翻訳を木下に添付ファイルで提出する。授業では全員4頁を当然読んできているものとして訳出難解箇所、訳註必要箇所をチェックする。
- 2回 392-95頁の翻訳
 - 3回 396-99頁の翻訳
 - 4回 400-03頁の翻訳
 - 5回 404-07頁の翻訳
 - 6回 408-11頁の翻訳
 - 7回 412-15頁の翻訳
 - 8回 416-19頁の翻訳
 - 9回 420-23頁の翻訳
 - 10回 424-27頁の翻訳
 - 11回 428-31頁の翻訳
 - 12回 432-35頁の翻訳
 - 13回 436-39頁の翻訳
 - 14回 440-43頁の翻訳
 - 15回 授業のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

担当頁の日本語訳をワードのファイルで提出する。各担当者は担当章のbrush-upに励み、書式を統一する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

英語リーディング演習II 【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
選択科目

キーワード /Keywords

英語リーディング演習II【昼】

担当者名 田吹 長彦 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・実習 クラス 3 - 3
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

テーマ：「イギリス・ロマン派とスイス」

風光明媚なスイスを背景に、Lord Byronを中心とするイギリス・ロマン派の作家の動向を探索する。産業革命・フランス革命・ナポレオン戦争といった激動の時代を経てスイスを旅した人たちの中にByron、P.B.Shelley、Mary Shelley、William Polidoriなどがいる。

テキストの背景は、イギリスのLondonを出て、Dover, Belgium, the Rhineを経て、スイスのBaselから入国、同国内各地を旅してイタリアとの国境にあるSimplon峠まで、現在の観光地をほぼ網羅する。内容には名所旧蹟・風物・歴史・文化なども含む。

この「英語リーディング演習II」では

主にスイスのLeman湖北東岸、Golden Pass、Bernese Oberland、Leman湖南西岸Geneveからイタリア国境Simplon峠を背景とする部分の動向について精読する。

なお、テキストの前半は、第1学期の「英語リーディング演習I」で読むので、受講しておくことが望ましい。

教科書 /Textbooks

Elma Dangerfield: Byron and the Romantics in Switzerland.

テキストについては授業の冒頭で説明する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

和書

- 上杉文世 『バイロン研究』 研究社
 - 楠本哲夫 『永遠の巡礼詩人バイロン』 三省堂
 - 阿部知二 『バイロン』 研究社
 - 田吹長彦 『ヨーロッパ夢紀行、詩人バイロンの旅—ベルギー・ライン河・スイス編』 丸善出版サービスセンター
- 原書は多数あるが授業で必要に応じて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

上記のテキストの後半部分を精読。各種の映像・地図などを必要に応じて随時活用する予定。読破の場合は、スイスに関するバイロンの他の教材を追加して読む。読解力によって進捗の度合いが均一でない場合は、予定が前後することがある。

- 1 講義内容の概説。原書の背景。
- 2 Geneve, Coligny (Villa Diodati), and Ferney
- 3 Chamonix-Mont-Blanc, Coppet(Mme de Staël)
- 4 Coppet(Mme de Staël)
- 5 Lake Lemman(Lausanne, Ouchy, Vevey, Clarens)(1)
- 6 Lake Lemman(Lausanne, Ouchy, Vevey, Clarens)(2)
- 7 Golden Pass (Montbovon, Château d'Oex, Zweisimmen), Lake Thun, Interlaken
- 8 Berner Oberland(1) (Interlaken, Lauterbrunnen, Wengen, Jungfrau, Mönch, Eiger, Grindelwald)
- 9 Berner Oberland(2) (Wengen, Jungfrau, Mönch, Eiger, Grindelwald)
- 10 Reichenbach, Lake Brienz, Thun, Bern, Fribourg, Neuchatel, Geneve, Coligny)
- 11 Byron in Geneve and Coligny (1)
- 12 Byron and his friends in Geneve (1)
- 13 Their Journey from Congny to the Simplon Pass (1)
- 14 Their Journey from Congny to the Simplon Pass (2)
- 15 the Simplon Pass and Italy、総括

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度(担当部分の翻訳提出・発表、積極性、理解度を含む)...50% 講義ノート(自筆による日本語全訳)提出...50%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

語学力・読解力を増強するために、必ず講義ノートを作成して、各授業の予習をすること。

英語リーディング演習II【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
選択科目

履修上の注意 /Remarks

この授業は、自主的な活動・予習を重視します。
なお、当然のことながら、開講回数の2 / 3以上の出席回数がないと単位認定はできません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ヨーロッパ旅行をする場合のさまざまな旅の情報を提供できると思います。

キーワード /Keywords

ヨーロッパの歴史・地理・文化・文学・宗教。旅とイギリス・ロマン派文学。

英語リーディング演習II【昼】

担当者名 田吹 長彦 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・実習 クラス 3 - 4
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

テーマ: 「イギリス・ロマン派とスイス」

風光明媚なスイスを背景に、Lord Byronを中心とするイギリス・ロマン派の作家の動向を探索する。産業革命・フランス革命・ナポレオン戦争といった激動の時代を経てスイスを旅した人たちの中にByron, P.B.Shelley, Mary Shelley, William Polidoriなどがいる。

テキストの背景は、イギリスのLondonを出て、Dover, Belgium, the Rhineを経て、スイスのBaselから入国、同国内各地を旅してイタリアとの国境にあるSimplon峠まで、現在の観光地をほぼ網羅する。内容には名所旧蹟・風物・歴史・文化なども含む。

この「英語リーディング演習II」では

主にスイスのLeman湖北東岸、Golden Pass、Bernese Oberland、Leman湖南西岸Geneveからイタリア国境Simplon峠を背景とする部分の動向について精読する。

なお、テキストの前半は、第1学期の「英語リーディング演習I」で読むので、受講しておくことが望ましい。

教科書 /Textbooks

Elma Dangerfield: Byron and the Romantics in Switzerland.

テキストについては授業の冒頭で説明する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

和書

- 上杉文世 『バイロン研究』 研究社
 - 楠本哲夫 『永遠の巡礼詩人バイロン』 三省堂
 - 阿部知二 『バイロン』 研究社
 - 田吹長彦 『ヨーロッパ夢紀行、詩人バイロンの旅—ベルギー・ライン河・スイス編』 丸善出版サービスセンター
- 原書は多数あるが授業で必要に応じて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

上記のテキストの後半部分を精読。各種の映像・地図などを必要に応じて随時活用する予定。読破の場合は、スイスに関するバイロンの他の教材を追加して読む。読解力によって進捗の度合いが均一でない場合は、予定が前後することがある。

- 1 講義内容の概説。原書の背景。
- 2 Geneve, Cologny (Villa Diodati), and Ferney
- 3 Chamonix-Mont-Blanc, Coppet(Mme de Staël)
- 4 Coppet(Mme de Staël)
- 5 Lake Lemman(Lausanne, Ouchy, Vevey, Clarens)(1)
- 6 Lake Lemman(Lausanne, Ouchy, Vevey, Clarens)(2)
- 7 Golden Pass (Montbovon, Château d'Oex, Zweisimmen), Lake Thun, Interlaken
- 8 Berner Oberland(1) (Interlaken, Lauterbrunnen, Wengen, Jungfrau, Mönch, Eiger, Grindelwald)
- 9 Berner Oberland(2) (Wengen, Jungfrau, Mönch, Eiger, Grindelwald)
- 10 Reichenbach, Lake Brienz, Thun, Bern, Fribourg, Neuchatel, Geneve, Colgny)
- 11 Byron in Geneve and Cologny (1)
- 12 Byron and his friends in Geneve (1)
- 13 Their Journey from Congny to the Simplon Pass (1)
- 14 Their Journey from Congny to the Simplon Pass (2)
- 15 the Simplon Pass and Italy、総括

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度(担当部分の翻訳提出・発表、積極性、理解度を含む)...50% 講義ノート(自筆による日本語全訳)提出...50%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

語学力・読解力を増強するために、必ず講義ノートを作成して、各授業の予習をすること。

英語リーディング演習II【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
選択科目

履修上の注意 /Remarks

この授業は、自主的な活動・予習を重視します。
なお、当然のことながら、開講回数の2 / 3以上の出席回数がないと単位認定はできません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ヨーロッパ旅行をする場合のさまざまな旅の情報を提供できると思います。

キーワード /Keywords

ヨーロッパの歴史・地理・文化・文学・宗教。旅とイギリス・ロマン派文学。

Advanced Reading and Discussion 【昼】

担当者名 /Instructor デニス・ジョーンズ / Denis JONNES / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 3 - 1・2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Aim of this course is further development of reading and discussion skills. Newspaper articles, essays, and short fiction will be used to increase reading speed, expand vocabulary, and improve discussion skills. Reading, comprehension & speaking exercises are conducted on individual basis, as well as in pair and work-group format. Students are expected to keep a reading log and to prepare sample texts and study guides. Exercises are designed to help students prepare for reading sections of standardized tests (TOEIC & TOEFL).

教科書 /Textbooks

Printed materials provided by instructor

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

In consultation with the instructor.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction
- 2 回 "Are We Still Evolving?"
- 3 回 "Intelligent Machines"
- 4 回 Forster, "The Machine Stops"
- 5 回 The Modern Community
- 6 回 Carver, "Neighbors"
- 7 回 "Marriage"
- 8 回 Hemingway, "The Cat in the Rain"
- 9 回 The Consumer Society
- 10 回 Media and Privacy
- 11 回 Cheever, "The Enormous Radio"
- 12 回 Cheever, (continued)
- 13 回 Generations
- 14 回 O'Connor, "Everything That Rises Must Converge"
- 15 回 Review and Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation ... 30% Homework ... 30% Tests ... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Reading & Discussion I; Reading & Discussion II

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Reading; Reading Comprehension; Vocabulary Development.

Advanced Reading and Discussion 【昼】

担当者名 /Instructor デニス・ジョーンズ / Denis JONNES / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 3 - 3・4

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Aim of this course is further development of reading and discussion skills. Newspaper articles, essays, and short fiction will be used to increase reading speed, expand vocabulary, and improve discussion skills. Reading, comprehension & speaking exercises are conducted on individual basis, as well as in pair and work-group format. Students are expected to keep a reading log and to prepare sample texts and study guides. Exercises are designed to help students prepare for reading sections of standardized tests (TOEIC & TOEFL).

教科書 /Textbooks

Printed materials provided by instructor

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

In consultation with the instructor.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction
- 2 回 "Are We Still Evolving?"
- 3 回 "Intelligent Machines"
- 4 回 Forster, "The Machine Stops"
- 5 回 The Modern Community
- 6 回 Carver, "Neighbors"
- 7 回 "Marriage"
- 8 回 Hemingway, "The Cat in the Rain"
- 9 回 The Consumer Society
- 10 回 Media and Privacy
- 11 回 Cheever, "The Enormous Radio"
- 12 回 Cheever, (continued)
- 13 回 Generations
- 14 回 O'Connor, "Everything That Rises Must Converge"
- 15 回 Review and Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation ... 30% Homework ... 30% Tests ... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Reading & Discussion I; Reading & Discussion II

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Reading; Reading Comprehension; Vocabulary Development.

ビジネス英語研究【昼】

担当者名 /Instructor 松田 智 / Matsuda, Satoshi / 英米学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

国際ビジネス、経済関係の英文記事を読みこなすことによって、英文を読みながら、経営、経済についての知識、概念を身につけること。

履修登録者の特徴を見て、ミクロ・マクロ経済学の基礎を必要に応じて講義しますので、経済学を学んだことのない学生にも工夫をして英文を読めるように配慮する。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。Financial Times, The Economist, Times, Newsweek, Business Week などから、できるだけ最近の国際ビジネス、経済関係の記事を取り上げる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

英和辞典、英次郎、英英辞典、文法書など

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Session 1: class orientation

Session 2: ビジネス関係の英文に慣れる : 文章自体は易しく、ビジネス・経済の専門用語を含む英文を読む。

Session 3: 同上。

Session 4: 同上。

Session 5: 同上。

Session 6: 同上。

Session 7: ややレベルの高い英文を読む。 : 内容を把握できるように丁寧に解説する。英語の専門用語を増や していく。

Session 8: 同上。

Session 9: 同上。

Session10: 同上。

Session 11: 同上。

Session 12: さらにレベルの高い英文を読む。 : 英文の内容、背景についても丁寧に説明する。

Session 13: 同上。

Session 14: 同上。

Session 15: 同上。

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation: 30 Midterm quiz:30 Final examination : 40

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

既に経済、経営関係の講義を受講している場合はさらに効果的な学習ができます。日本の新聞を読み直近の話題に関心を持ってください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

英語の発信能力が既にある方は、さらにビジネス・経営関係の専門用語、背景をしっかり学び、知的な英語の発信をできるようになることが期待できる。

キーワード /Keywords

economy, managemnet, current topics, finance, marketing, accounting, bond market, stock market, IMF, WorldBank, fiscal crisis, financial crisis, India, China, Africa, Japanese companies

卒業課題【昼】

担当者名
/Instructor

ゼミ指導教員

履修年次 4年次
/Year

単位
/Credits

8単位

学期

1・2学期(バ
ア)

授業形態

対面式

クラス 4年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
						○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

担当教員の指導のもとで卒業課題の対象とするテーマを決める。教員の指導のもとで、英語の論文、翻訳、日本語の論考等から一つ選択し、卒業課題を作成する。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

学生の各々の事情に応じて、個々に指導する。

成績評価の方法 /Assessment Method

提出された卒業課題について判定する。
卒業課題・・・100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

担当教員の指導を受けながら、資料を徹底的に集めること。徹底的に読むこと。

履修上の注意 /Remarks

特になし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

特になし。

キーワード /Keywords

【卒業課題】

異文化間コミュニケーションゼミA1【昼】

担当者名 /Instructor ロジャー・ウィリアムソン / Rodger S. Williamson / 英米学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This seminar will enable students to examine their own interests and experiences in crossing cultures. We will explore, strengthen and deepen our skills in communication and collaboration. We will have weekly discussions based on readings by writers and scholars from a wide variety of countries and cultures. The improvement of analytical, comprehension, discussion, and writing skills in English are a major goal. The first semester of this seminar will focus on basic theories of communication and culture.

教科書 /Textbooks

Printed materials and handouts to be provided by the instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

In consultation with instructor.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction
- 2 回 Instructor-led discussions on differences in culture.
- 3 回 Workshop and discussion on differences in culture.
- 4 回 Instructor-led discussions on differences in communication.
- 5 回 Workshop and discussion on differences in communication.
- 6 回 Workshop on individual materials for analysis and presentation.
- 7 回 Student presentations.
- 8 回 Student-led discussion and presentation.
- 9 回 Student presentations.
- 1 0 回 Student-led discussion and presentation.
- 1 1 回 Student presentations.
- 1 2 回 Student-led discussion and presentation.
- 1 3 回 Student presentations
- 1 4 回 Student-led discussion and presentation.
- 1 5 回 Final discussion and paper submission.

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation, & Presentations 50% Successful Completion of Paper 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Our meetings will consist of presentations followed by group discussion. While students will be given the freedom to choose materials, they are expected to follow the basic parameters of this seminar. Students can translate materials from Japanese to English but presentations must be in English. All meetings and discussions will be conducted in English. Students will be expected to submit their individual analysis of presented materials in essay format each semester. Each paper should be approximately 2000 words in English.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

通訳ゼミAI 【昼】

担当者名 /Instructor 伊藤 健一 / Kenichi ITO / 英米学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

通訳ゼミは、通訳者になるために不可欠な語学面のトレーニングはもとより、通訳者に必要な教養や知識を得ることも目標としています。通訳をするために表現力を磨くことが大切なのは言うまでもありませんが、それだけでなく、相手の論理展開について行ける訓練も必要です。その意味では、表現力だけでなく思考力を磨くこともとても大切です。
また、通訳をするためには、そこで語られていることを理解できていなければなりません。野球のルールを知らない人が、野球の実況中継を相手に分かるように通訳できるでしょうか。
こうしたことを踏まえ、このゼミでは実践と理論をとともに柱に据え、皆さんとともに高度な英語力を獲得し、同時に英語を通して幅広い知識を習得していただけるゼミにしていきたいと思っています。
3年次は、通訳の実践を通して英語力を磨くことを主眼に取り組みます。基本的には英語を日本語に通訳する練習を主に行ないませんが、授業計画には記されていませんが、日本語を英語に通訳する練習も時間を少しとって行ないたいと考えています。

教科書 /Textbooks

水野真木子・他 『グローバル時代の通訳』（三修社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第01回 ゼミ・オリエンテーション
- 第02回 通訳と異文化間コミュニケーション
- 第03回 通訳における課題
- 第04回 通訳技能演習：クイック・レスポンス等
- 第05回 通訳技能演習：要約通訳、センテンス通訳等
- 第06回 通訳技能演習：メモ取り
- 第07回 通訳技能演習：サイト・トランスレーション
- 第08回 前半のまとめ、補助教材による演習
- 第09回 通訳実践演習：英語→日本語の逐次通訳練習
- 第10回 通訳実践演習：英語→日本語の同時通訳練習
- 第11回 通訳実践演習：メモ取り練習
- 第12回 通訳実践演習：サイト・トランスレーション練習
- 第13回 通訳実践演習：初・中級レベル総合練習
- 第14回 通訳実践演習：中級レベル総合練習
- 第15回 まとめと総復習：中・上級への橋渡し

成績評価の方法 /Assessment Method

演習科目ですから、出席は当然です。その上で授業への積極的参加の度合いに実技を加味して総合的に評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

言うまでもないことですが、ゼミに出席するだけで実力がつくわけではありません。平素から英語に触れる努力をし、たとえばテレビを見ながら一人通訳練習をする、というような心がけが大切だと思います。
また、よく知られているように、You Tubeの中に、優れた英語の音声素材がたくさん入っています。こうしたものを使って、自宅で練習していただくのも良いと思います。時にはこうしたものを課題として指定することも考えたいと思っています。また、毎時間、次週までに準備して欲しいことを確認しますので、予習も怠りがないようお願いいたします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

いよいよゼミが始まります。楽しいゼミになるよう努力します。皆さんも頑張ってください。

キーワード /Keywords

通訳ゼミAI 【昼】

担当者名 /Instructor 野島 啓一 /nojima keiichi / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

自分の考え等を表現する領域（話し言葉・書き言葉を含む）に関する知識・技術の獲得に関することを目標にする。通訳訓練に関する一般的な技術にふれた後、関連する科目との融合・強化について説明して、実習等を通して自分の経験則をつくることも目的とする。メディア機器との連携を通して、字幕翻訳や音声録音の方法など実際に英語が利用されている場面を想定して総合的な学習を念頭におく。原則として3年次のゼミは毎回の授業は教材を用いた解説・練習のセクションとトピック毎の実演デモのセクションの二部構成からなる。

教科書 /Textbooks

『ウイスパリング同時通訳』 柴田バネッサ著 南雲堂 ¥2,286
適宜プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Lesson 1+英語ニュースの口頭要約（日本語）練習
- 2回 Lesson 2+英語ニュースの口頭要約（英語文）練習
- 3回 Lesson 3+reproduction, retentionの説明と練習
- 4回 Lesson 4+summarizing, paraphrasingの説明と練習
- 5回 Lesson 5+「発想」の違いの発見的学習の説明と練習
- 6回 Lesson 6+Shadowingの説明と練習
- 7回 Lesson 7+Whisperingの説明と練習
- 8回 同時通訳もしくは逐次通訳講演会の見学とその課題検討
- 9回 Lesson 8, 9+デジタル録音による訳文吹き込みの実演と課題検討
- 10回 Lesson 10+日本の文化用語の英語による説明の練習
- 11回 Lesson 11+制限時間枠での英語原文のrewritingの説明と練習
- 12回 Lesson 12+BS放送を聴きながらのnote takingの方法と練習
- 13回 Lesson 13+note takingと英文速記の違いと練習
- 14回 Lesson 14+テープ録音（日本語）を聞いてのnumbering方式の要約の練習
- 15回 まとめとプロジェクト（夏休み用）の説明及び前期のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

プロジェクト課題...40% + 試験...60%で総合評価をする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

『英語プレゼンテーション演習』などの表現を扱う専門科目を同時か前もって履修しておく
学習効果があがる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

翻訳ゼミ AI 【昼】

担当者名 /Instructor 木下 善貞 / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

文学テキストの翻訳を体得する。
Anthony TrollopeのThe Last Chronicle of Barset後半部分を翻訳する。
①テキストが書かれた時代背景、社会状況のじゅうぶんな理解、②読む者の主観を排してテキストの意図する意味の把握、③視点の人物を意識した主語の統一、④読みやすい、理解しやすい、こなれた文体の確立、⑤訳註箇所の適切な選定、以上5点がねらいである。

教科書 /Textbooks

Anthony Trollope: The Last Chronicle of Barset (Penguin Classics) をテキストとする。
その他適宜プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

R. C. Terry: Oxford Reader's Companion to Trollope (Oxford)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 演習の進め方。全体の各章1人の担当者が翻訳を授業の2日前までに木下に提出する。訳出難解箇所、訳註必要箇所をチェックし、プレゼンし、ゼミ生全員でそれを検討する。
- 2回 37章
- 3回 38章
- 4回 39章
- 5回 40章
- 6回 41章
- 7回 42章
- 8回 43章
- 9回 44章
- 10回 45章
- 11回 46章
- 12回 47章
- 13回 48章
- 14回 37 - 48章の翻訳仕上げ
- 15回 1学期全体の翻訳仕上げ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

担当章の日本語訳をワードのファイルで提出する。各担当者は担当章のbrush-upに励み、書式を統一する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

翻訳ゼミ A I 【昼】

担当者名 /Instructor ダニエル・ストラック / Daniel C. Strack / 英米学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The aim of this seminar will be to give students practical experience in translating an entire literary text from Japanese to English and give students insights into the process of translation and the challenges faced by professional translators.

教科書 /Textbooks

To be determined after consultation with participants.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要なものは授業中に提示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 Seminar introduction
- 第 2 回 Translation Check of Selected Text (pp. 1-3)
- 第 3 回 Translation Check of Selected Text (pp. 4-6)
- 第 4 回 Translation Check of Selected Text (pp. 7-9)
- 第 5 回 Translation Check of Selected Text (pp. 10-12)
- 第 6 回 Translation Check of Selected Text (pp. 13-15)
- 第 7 回 Translation Check of Selected Text (pp. 16-18)
- 第 8 回 Translation Check of Selected Text (pp. 19-21)
- 第 9 回 Translation Check of Selected Text (pp. 22-24)
- 第 10 回 Translation Check of Selected Text (pp. 25-27)
- 第 11 回 Translation Check of Selected Text (pp. 28-30)
- 第 12 回 Translation Check of Selected Text (pp. 31-33)
- 第 13 回 Translation Check of Selected Text (pp. 34-36)
- 第 14 回 Translation Check of Selected Text (pp. 37-39)
- 第 15 回 Semester wrap-up

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加 : 40% 小テスト : 0% 期末試験 : 0% 課題 : 40% 態度 : 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Students will be expected to translate extended passages from the chosen text between 3 and 6 times a semester depending on the number of participants. Students will be expected to bring copies of their translation for each participant whenever they present. Approximately 2-3 pages of text will be translated in each class. After each class, students will be expected to make corrections to their translated section and send them to the instructor by e-mail for compilation into the master document for further editing.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ビジネス英語ゼミAⅠ【昼】

担当者名 /Instructor 松田 智 / Matsuda, Satoshi / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The objective of the course are:(1) to help you develop an understanding of basic economic concepts that underline the business management, and (2) to help you develop your economic vocabularies in English.

MBAコースを学ぶための基礎作りをする期間です。

教科書 /Textbooks

アメリカの高校生が読んでいる「経済の教科書」アспект
Learning MBA Basics in English:Masatsugu Fuji, Richard Sheehan, NHK publishing
(英語で学ぶMBAベーシックス、NHK出版)

「入門経済学」マンキュー 東洋経済

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

「マーケティング戦略」沼上 幹 有斐閣アルマ

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- I.Fundamental Economics
 - 1 回scarcity,incentive
 - 2 回economic choice, trade and money
 - 3 回labor, tax
 - 4 回entrepreneur
 - 5 回productivity
 - 6 回market price, demand curve
 - 7 回supply curve
 - 8 回financial intermediaries
 - 9 回the rate of interests
 - 1 0 回personal finance
 - 1 1 回international trade

- II. Marketing
 - 1 2 回What is Marketing?
 - 1 3 回Marketing Analysis- 3C's
 - 1 4 回Segmentation, Targeting, Positioning
 - 1 5 回Marketing Mix-The 4P's

成績評価の方法 /Assessment Method

Class participation... 20% Mid-quizzes... 40% Final test... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

経営・経済関係の基礎を学んでいけば効果的な学習ができると思われる。

履修上の注意 /Remarks

最近のビジネス動向を新聞やニュースで注目し、関心を持ってください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

グローバルに活躍する多国籍企業を理解するためのMBAコースです。この方面の就職を検討されている学生には役に立つと思われる。尚、他の企業、経営関係の科目を受講していれば、この講義をさらに深く理解できると思います。

キーワード /Keywords

MBA, marketing, finance, strategy, global, MNCs, case study.

メディア英語ゼミAI 【昼】

担当者名 吉川 哲郎 / KIKKAWA TETSUROU / 英米学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

アメリカのミュージカル演劇研究が目的である。資料の調査、分析、発表、議論が主体になる。

教科書 /Textbooks

なし。プレゼンが主になる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入
- 2回 『オペラ座の怪人』
- 3回 『ヘア・スプレー』
- 4回 『ミス・サイゴン』
- 5回 『エニシング・ゴーズ』
- 6回 『アニー』
- 7回 『マイ・フェア・レディ』
- 8回 『ウェスト・サイド・ストーリー』
- 9回 『マンマ・ミーア』
- 10回 『クレージー・フォー・ユー』
- 11回 『キャッツ』
- 12回 『エヴィータ』
- 13回 『ピーター・パン』
- 14回 『ウィキッド』
- 15回 結び

成績評価の方法 /Assessment Method

プレゼン... 50% エッセー... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

プレゼンの時は、万全の準備をすること

履修上の注意 /Remarks

特になし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

特になし

キーワード /Keywords

【ミュージカル】 【演劇】

メディア英語ゼミA1【昼】

担当者名 アダム・ヘイルズ / Adam Hailes / 英米学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

British Studies: Media and Culture
メディア英語ゼミA1 offers students the opportunity to analyse the media of Britain and assess their relationship with the nation's social, political and cultural activities. The course will embrace analyses of media and culture from the very beginnings of Britain through to the present day. Students will be required to lead English-language discussions and make presentations on topics to be chosen by themselves.

教科書 /Textbooks

Handouts/research materials will be provided by the instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

A reading list will be provided at the beginning of the course.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2回-4回 Instructor-led classes
- 5回-14回 Student-led classes (presentation + discussion)
- 15回 Final discussion

成績評価の方法 /Assessment Method

Successful completion of 2000-word essay ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

The weekly preparation routine will be outlined in the first class.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカ研究ゼミAⅠ【昼】

担当者名 /Instructor デニス・ジョーンズ / Denis JONNES / 英米学科

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The American Studies seminar offers opportunities to conduct research related to American politics, culture, personal life, literature, the arts, as well as contemporary media, including film, music, television, and the internet.

Background materials focus on relation between America today and early history, beginning with period of discovery and first settlements. Attention is given to relation between America and Europe, and formation of American ideals (freedom, individualism, pioneering) with emergence of America as nation.

Areas of possible research include Native American cultures, early settlement, the role of religion in the shaping of American society, history of African-Americans, immigrants and their impact on American culture; the rise of American education, the significance of the entrepreneur and American business culture, changing perceptions of gender and family role, influence of the media and the arts, including music, television, fashion, architecture, and design; the place of sub-cultures and dissident movements.

教科書 /Textbooks

Printed materials provided by instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

In consultation with instructor.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Introduction--American Identities?
2. The Discovery of America
3. Settlement
4. Colonization
5. Religion and early ideals
6. Native Americans
7. African Americans
8. A New People?
9. Consultation on topics and presentations
10. Presentation & Discussion
11. Presentation & Discussion
12. Presentation & Discussion
13. Presentation & Discussion
14. Presentation & Discussion
15. Review and Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation -- 25 % Preparation --- 25 % Presentation -- 25 % Final Essay -- 25 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Completion of 1st and 2nd year English Department Requirements

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

America; Identity; American Culture, Freedom and Individualism, Frontier, Pioneering, Native Americans, African Americans, American Media, Family, Gender

英語学ゼミAⅠ【昼】

担当者名 北峯 裕士 / 英米学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

生成文法の基礎知識の習得。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『ミニマリストプログラム序説』 大修館書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回ガイダンス
- 2回理論的背景
- 3回語彙範疇
- 4回名詞句の構造
- 5回形容詞句の構造
- 6回動詞句の構造
- 7回前置詞句の構造
- 8回機能範疇
- 9回DP仮説
- 10回節の構造
- 11回名詞句と節の平行性
- 12回虚辞①
- 13回虚辞②
- 14回数量詞
- 15回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表内容 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

無断欠席は、決して容認しない。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語教育ゼミ AI 【昼】

担当者名 /Instructor クレイグ・ランバート / Craig P. Lambert / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 3年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This two-year course will provide learners with a foundation in second language language teaching and a practical basis for improving communication skills in Japanese schools. Learners will gain an understanding of the range of the second language learning tasks currently available and how they relate to language development.

教科書 /Textbooks

Materials to be arranged by instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

References to be arranged by instructor.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Language teaching in the 20th century
- 2 回 Description and instruction tasks / Short presentations: 'a good English lesson'
- 3 回 Narrative and opinion tasks / Short presentations: 'my description tasks'
- 4 回 The development of grammar / Short presentations: 'my instruction tasks'
- 5 回 Computational measures of language performance / Short presentations 'my narrative tasks'
- 6 回 The teacher's role in the classroom / Project work: task performance and analysis
- 7 回 Lesson planning / Project work: task performance and analysis
- 8 回 Communicative focus on form / Project work: task performance and analysis
- 9 回 Approaches to task sequencing / Project work: task performance and analysis
- 1 0 回 Introducing task work in Japanese schools / Project work: task performance and analysis
- 1 1 回 Peer-teaching using own materials (initial)
- 1 2 回 Peer-teaching using own materials (initial): First draft of projects reports due
- 1 3 回 Peer-teaching using own materials (revised)
- 1 4 回 Peer-teaching using own materials (revised)
- 1 5 回 Final project reports

成績評価の方法 /Assessment Method

- 30% Short presentations
- 40% Project work final reports
- 30% Peer-teaching

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

All lectures, materials, presentations and discussions will be English.
Learners should have a strong interest in pursuing a career teaching English in the future.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会言語学ゼミ A1【昼】

担当者名 平野 圭子 / Keiko Hirano / 英米学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

言葉の変化とバリエーションを扱う代表的な研究を紹介・解説し、変化や変異を引き起こす社会的要因や言語的要因を学びます。また言語調査を行うために必要な方法論の基礎知識を学びます。

教科書 /Textbooks

ハンドアウトを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 東 照二.(1997).『社会言語学入門-生きた言葉のおもしろさに迫る』. 研究社.
- 中尾俊夫・日比谷潤子・服部範子.(1997).『社会言語学概論-日本語と英語の例で学ぶ社会言語学』. くろしお出版.
- 田中春美・田中幸子.(1996).『社会言語学への招待-社会・文化・コミュニケーション』. ミネルヴァ書房.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 地域方言
- 3回 社会方言 - 階級
- 4回 性差
- 5回 年齢差
- 6回 人種・民族
- 7回 社会的ネットワーク
- 8回 スタイル
- 9回 調査方法
- 10回 会話データ収集
- 11回 会話データ書き起こし
- 12回 データのコーディング・分析
- 13回 アンケート作成
- 14回 ディスカッション
- 15回 まとめ・レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

研究発表50%、レポート50%。出席・授業への参加状況も考慮します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

『社会言語学研究』を受講すると、本ゼミの理解がより深いものとなります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

異文化間コミュニケーションゼミAII【昼】

担当者名 /Instructor
ロジャー・ウィリアムソン / Rodger S. Williamson / 英米学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This seminar will enable students to examine their own interests and experiences in crossing cultures. We will explore, strengthen and deepen our skills in communication and collaboration. We will have weekly discussions based on readings by writers and scholars from a wide variety of countries and cultures. The improvement of analytical, comprehension, discussion, and writing skills in English are a major goal. A goal of the second semester will be to nurture cultural and communicative competence through fieldwork exercises with exchange students and members of the international community.

教科書 /Textbooks

Printed materials and handouts to be provided by the instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

In consultation with instructor.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction and return of papers.
- 2 回 Paper-related discussions.
- 3 回 Paper-related discussions.
- 4 回 Paper-related discussions.
- 5 回 Instructor-led discussion and workshop.
- 6 回 Instructor-led discussion and workshop.
- 7 回 Instructor-led discussion and workshop.
- 8 回 Student presentations and discussion.
- 9 回 Student presentations and discussion.
- 10 回 Student presentations and discussion.
- 11 回 Student presentations and discussion.
- 12 回 Student presentations and discussion.
- 13 回 Student presentations and discussion.
- 14 回 Student presentations and discussion.
- 15 回 Final discussion and paper submission.

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation, & Presentations 50% Successful Completion of Paper 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Our meetings will consist of presentations followed by group discussion. While students will be given the freedom to choose materials, they are expected to follow the basic parameters of this seminar. Students can translate materials from Japanese to English but presentations must be in English. All meetings and discussions will be conducted in English. Students will be expected to submit their individual analysis of presented materials in essay format each semester. Each paper should be approximately 2000 words in English.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

通訳ゼミAII 【昼】

担当者名 /Instructor 伊藤 健一 / Kenichi ITO / 英米学科

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この通訳ゼミでは、通訳者になるために不可欠な語学面のトレーニングはもとより、通訳者に必要な教養や知識を得ることも目標としています。通訳をするために表現力を磨くことが大切なのは言うまでもありませんが、それだけでなく、相手の論理展開について行ける訓練も必要です。その意味では、表現力だけでなく思考力を磨くこともとても大切であると言えます。また、通訳をするためには、そこで語られていることを理解できていなければなりません。野球のルールを知らない人が、野球の実況中継を相手に分かるように通訳できるでしょうか。こうしたことを踏まえ、このゼミでは実践と理論をとともに柱に据え、皆さんとともに高度な英語力を獲得し、同時に英語を通して幅広い知識を習得していただけるゼミにしていきたいと思っています。2学期は、1学期に学んだ理論や実践に、奥行きを与えるべく、さまざまな知識を英語で身につけ、同時に通訳訓練を継続していく予定です。なお、本年度も北九州国際車椅子バスケットボール大会のボランティア通訳奉仕をお願いする予定です。その折は、参加しやすいよう配慮しますので、良い経験としていただきたいと思います。

教科書 /Textbooks

中谷 美佐 『英語で授業を受けてみる(小学校編)』(The Japan Times)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第01回 ゼミ・オリエンテーション
- 第02回 「算数(1)」に基づく演習
- 第03回 「算数(2)」に基づく演習
- 第04回 「社会」に基づく演習
- 第05回 「公民」に基づく演習
- 第06回 「歴史」に基づく演習
- 第07回 前半のまとめと補助教材による演習
- 第08回 「理科(1)」に基づく演習
- 第09回 「理科(2)」に基づく演習
- 第10回 「英語(1)」に基づく演習
- 第11回 「英語(2)」に基づく演習
- 第12回 テキストで扱った内容全般のまとめ
- 第13回 オリジナル教材に基づく演習(1)
- 第14回 オリジナル教材に基づく演習(2)
- 第15回 まとめと総復習

成績評価の方法 /Assessment Method

演習科目ですから、出席は当然です。その上で授業への積極的参加の度合いに実技を加味して総合的に評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

言うまでもないことですが、ゼミに出席するだけで実力がつくわけではありません。平素から英語に触れる努力をし、たとえばテレビを見ながら一人通訳練習をする、というような心がけが大切だと思います。また、よく知られているように、You Tubeの中に、優れた英語の音声素材がたくさん入っています。こうしたものを使って、自宅で練習していただくのも良いと思います。時にはこうしたものを課題として指定することも考えたいと思っています。また、毎時間、次週までに準備して欲しいことを確認しますので、予習も怠りないようにお願いします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

留学から戻って2学期からゼミに加わる皆さんもいらっしやと思います。楽しいゼミにしていきたいと思っていますので、一緒に頑張ってください。

キーワード /Keywords

通訳ゼミAII【昼】

担当者名 /Instructor 野島 啓一 /nojima keiichi / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

自分の考え等を表現する領域（話し言葉・書き言葉を含む）に関する知識・技術の獲得に関することを目標にする。通訳訓練に関する一般的な技術にふれた後、関連する科目との融合・強化について説明して、実習等を通して自分の経験則をつくることも目的とする。メディア機器との連携を通して、字幕翻訳や音声録音の方法など実際に英語が利用されている場面を想定して総合的な学習を念頭におく。原則として、3年次のゼミは、毎回の授業が教材を用いた解説・練習のセクションと実演・デモのセクションの二部構成でなされる。

教科書 /Textbooks

『ウイスパリング同時通訳』 柴田バネッサ著 南雲堂 ¥2,286
適宜プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Lesson 15+テープ録音（英語）を聞いてnumbering方式に要約する練習
- 2回 Lesson 16+ビジネス文書（Eメール文を含む）の説明と練習
- 3回 Lesson 17+指定された課題文に対する質問事項の設定の仕方と練習
- 4回 Lesson 18+presentationの方法の解説と練習(1)
- 5回 Lesson 19+presentationの方法の解説と練習(2)
- 6回 Presentationの実習とその反省課題の検討
- 7回 Lesson 20+「テープ起し」の説明と練習
- 8回 音声教材を用いた「区切り聞き」と「区切り訳」の説明と練習
- 9回 工夫した語彙の増やし方（vocabulary building）の説明と練習
- 10回 readingの各種練習の説明と実習（速読、黙読、音読の比較）
- 11回 映像翻訳の説明と練習(1)
- 12回 映像翻訳の説明と練習(2)
- 13回 listeningの各種練習と実習（voice over, shadowing, whisperingの比較）
- 14回 TOEIC, TOEFL, 英検 1級、通訳ガイド試験の対策の立て方の構築について
- 15回 春休みのプロジェクト課題の説明および後期内容の要約

成績評価の方法 /Assessment Method

プロジェクト課題...40% + 試験...60%で総合評価をする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

『英語プレゼンテーション演習』などの表現をあらかじめ専門科目を同時か前もって履修しておくこと
学習効果があがる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

翻訳ゼミ A II 【昼】

担当者名 /Instructor 木下 善貞 / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

文学テキストの翻訳を体得する。
Anthony TrollopeのThe Last Chronicle of Barset後半部分を翻訳する。
①テキストが書かれた時代背景、社会状況のじゅうぶんな理解、②読む者の主観を排してテキストの意図する意味の把握、③視点の人物を意識した主語の統一、④読みやすい、理解しやすい、こなれた文体の確立、⑤訳註箇所の適切な選定、以上5点がねらいである。

教科書 /Textbooks

Anthony Trollope: The Last Chronicle of Barset (Penguin Classics) をテキストとする。
その他適宜プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

R. C. Terry: Oxford Reader's Companion to Trollope (Oxford)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 演習の進め方。全体の各章1人の担当者が翻訳を授業の2日前までに木下に提出する。訳出難解箇所、訳註必要箇所をチェックし、プレゼンし、ゼミ生全員でそれを検討する。
- 2回 49章
- 3回 50章
- 4回 51章
- 5回 52章
- 6回 53章
- 7回 54章
- 8回 55章
- 9回 56章
- 10回 57章
- 11回 58章
- 12回 59章
- 13回 60章
- 14回 49 - 60章の翻訳仕上げ
- 15回 1学期全体の翻訳仕上げ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

担当章の日本語訳をワードのファイルで提出する。各担当者は担当章のbrush-upに励み、書式を統一する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

翻訳ゼミAII【昼】

担当者名 /Instructor
ダニエル・ストラック / Daniel C. Strack / 英米学科

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The aim of this seminar will be to give students practical experience in translating an entire literary text from Japanese to English and give students insights into the process of translation and the challenges faced by professional translators.

教科書 /Textbooks

To be determined after consultation with participants.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要なものは授業中に提示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Seminar introduction
- 第2回 Translation Check of Selected Text (pp. 1-3)
- 第3回 Translation Check of Selected Text (pp. 4-6)
- 第4回 Translation Check of Selected Text (pp. 7-9)
- 第5回 Translation Check of Selected Text (pp. 10-12)
- 第6回 Translation Check of Selected Text (pp. 13-15)
- 第7回 Translation Check of Selected Text (pp. 16-18)
- 第8回 Translation Check of Selected Text (pp. 19-21)
- 第9回 Translation Check of Selected Text (pp. 22-24)
- 第10回 Translation Check of Selected Text (pp. 25-27)
- 第11回 Translation Check of Selected Text (pp. 28-30)
- 第12回 Translation Check of Selected Text (pp. 31-33)
- 第13回 Translation Check of Selected Text (pp. 34-36)
- 第14回 Translation Check of Selected Text (pp. 37-39)
- 第15回 Semester wrap-up

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加 : 40% 小テスト : 0% 期末試験 : 0% 課題 : 40% 態度 : 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Students will be expected to translate extended passages from the chosen text between 3 and 6 times a semester depending on the number of participants. Students will be expected to bring copies of their translation for each participant whenever they present. Approximately 2-3 pages of text will be translated in each class. After each class, students will be expected to make corrections to their translated section and send them to the instructor by e-mail for compilation into the master document for further editing.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ビジネス英語ゼミAII【昼】

担当者名 /Instructor 松田 智 / Matsuda, Satoshi / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The objectives of the course are: (1) to help you develop an understanding of basic concepts that underline the business management, and (2) to help you develop your business vocabularies in English. Also, you can learn the advanced tools in spread sheet(PC) to solve business problems.

MBA テキストを使い、英語と日本語の両方で学んでいき、国際ビジネスについて理解を深めていく。

この時期はaccounting について理解を深めることをねらいとする。

教科書 /Textbooks

Learning MBA Basics in English:Masatsugu Fuji, Richard Sheehan, NHK publishing
(英語で学ぶMBAベーシックス、NHK出版)

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

「企業財務-理論と実践」津森信也 東洋経済
「証券アナリストのための企業分析」日本証券アナリスト協会
ビジネス・セミナー「証券分析入門」井出正介 日本経済新聞社
「統計・確率の意味がわかる」ベレ出版
「決算書を読みこなして経営分析ができる本」高下淳子 日本実業社
「実践 企業会計」岩田康成 日本経済新聞社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

I Accounting and Finance
session1-2: The Income Statement
session3-4: The Balance Sheet
session5-6: The Cash Flow Statement
session7-8: The Time Value of Money
session9: EVA

II Management Science
session10-11: Statistics review
session12: Managing data: regression, advanced listing
session13: Solver analysis: optimization
session 14: PC training
session15: presentation on financial analysis of companies

:

成績評価の方法 /Assessment Method

participation... 20% class quizzes ...30% presentation...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

エクセル関数、会計、マーケティング、経営学、統計学などの基礎を日本語で学んでおくことが望ましい。

日本語で会計・簿記関係の本を読んでおくことを勧める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

会計を学ばずに企業分析はできませんので、ここは会計の理解に専念すること。

キーワード /Keywords

income statement, balance sheet, present value, future value, EVA, NPV

メディア英語ゼミAll 【昼】

担当者名 吉川 哲郎 / KIKKAWA TETSUROU / 英米学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

アメリカのミュージカル演劇研究が目的である。資料の収集、分析、発表、議論が主体になる。

教科書 /Textbooks

プレゼンが主になる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入
- 2回 『美女と野獣』
- 3回 『ドリームガールズ』
- 4回 『アイダ』
- 5回 『ショウ・ポート』
- 6回 『シカゴ』
- 7回 『レ・ミゼラブル』
- 8回 『プロデューサーズ』
- 9回 『ライオン・キング』
- 10回 『キャバレー』
- 11回 『ファンタスティックス』
- 12回 『メリー・ポピンズ』
- 13回 『コーラス・ライン』
- 14回 『春の目覚め』
- 15回 結び

成績評価の方法 /Assessment Method

プレゼン... 50% エッセー... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

プレゼンの時は、万全の準備をすること。

履修上の注意 /Remarks

特になし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

特になし。

キーワード /Keywords

【ミュージカル】 【演劇】

メディア英語ゼミAII 【昼】

担当者名 /Instructor アダム・ヘイルズ / Adam Hailes / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 3年
単位 /Credits 2単位 2学期 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

British Studies: Media and Culture
メディア英語ゼミAII follows on from メディア英語ゼミAI. The course offers students the opportunity to analyse the media of Britain and assess their relationship with the nation's social, political and cultural activities. The course will embrace analyses of media and culture from the very beginnings of Britain through to the present day. Students will be required to lead English-language discussions and make presentations on topics to be chosen by themselves.

教科書 /Textbooks

Handouts/research materials will be provided by the instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

A reading list will be provided at the beginning of the course.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Developing Research Skills
- 2回-4回 Instructor-led classes
- 5回-14回 Student-led classes (presentation + discussion)
- 15回 Final discussion

成績評価の方法 /Assessment Method

Successful completion of 2000-word essay ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

The weekly preparation routine will be outlined in the first class.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカ研究ゼミAII【昼】

担当者名 /Instructor
デニス・ジョーンズ / Denis JONNES / 英米学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The American Studies Seminar offers students opportunities to conduct research in a wide range of subjects related to American history and culture. Topic areas include impact of immigration in the 19th, 20th and 21st centuries; westward expansion and significance of the frontier; conflict with Native Americans; inter-ethnic and inter-racial relations; impact of industrialism and new technologies; early American entertainment and sports; the rise of "leisure class."

Background materials and discussion focus on the American Revolution; importance of "individualism;" the impact of the frontier on American culture and developing American identity; regional cultures (New England, the South, East Coast, the West); emergence of the United States as industrial power, the spread of railroads; the growth of cities.

教科書 /Textbooks

Printed materials supplied by instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

In consultation with the instructor.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Introduction
2. The American Revolution
3. A New Nation
4. Frontier Democracy
5. North and South
6. The Civil War and its Legacies
7. Immigration
8. Industrialization
9. Expansionism
10. Presentation and discussion
11. Presentation and discussion
12. Presentation and discussion
13. Presentation and discussion
14. Presentation and discussion
15. Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Preparation -- 25 % Participation -- 25 % Presentation -- 25 % Essay -- 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Students should have completed 1st and 2nd year English Department requirements

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

America; Revolution; Culture; Race; Ethnicity; Frontier; Industrialization

英語学ゼミAII【昼】

担当者名 北峯 裕士 / 英米学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1学期に引き続き、生成文法の基礎知識の習得。

教科書 /Textbooks

Radford(2004) Cambridge UP.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『ミニマリストプログラム序説』 大修館書店
また、必要なときに、別途指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回ガイダンス
- 2回単語①
- 3回単語②
- 4回統語構造①
- 5回統語構造②
- 6回統語構造③
- 7回空構成素①
- 8回空構成素②
- 9回空構成素③
- 10回主要部移動①
- 11回主要部移動②
- 12回主要部移動③
- 13回Wh移動①
- 14回Wh移動②
- 15回Wh移動③

成績評価の方法 /Assessment Method

発表内容 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

無断欠席は、決して容認しない。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語教育ゼミ AII 【昼】

担当者名 /Instructor クレイグ・ランバート / Craig P. Lambert / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This two-year course will provide learners with a foundation in second language language teaching and a practical basis for improving communication skills in Japanese schools. The second term will move from the principles covered in the first term to the bigger picture of a systematic approach to language teaching course. The focus will be on second language tasks within the bigger picture of a balanced curriculum. Learners will gain a sound understanding of the range of opportunities that must be provided for in well-designed second language teaching.

教科書 /Textbooks

Materials to be arrange by the instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

References to be arranged by the instructor.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 The components of a second language course
- 2 回 Learners' needs: questions to ask before planning classes / Presentations: 'my own lesson'
- 3 回 Goals and objectives / Presentations: 'my own lesson'
- 4 回 Writing good teaching objectives / Presentations: 'my own lesson'
- 5 回 Matching test items to goals and objectives / Project: performance and analysis
- 6 回 Types of language tests / Project: performance and analysis
- 7 回 Teaching Materials: Criteria for Evaluating Units of Work / Project: performance and analysis
- 8 回 Evaluating your teachings: questions to ask after teaching classes / Project: performance and analysis
- 9 回 Peer-teaching using own materials (initial)
- 1 0 回 Peer-teaching using own materials (initial)
- 1 1 回 Peer-teaching using own materials (initial): First draft of projects reports due
- 1 2 回 Peer-teaching using own materials (revised)
- 1 3 回 Peer-teaching using own materials (revised)
- 1 4 回 Peer-teaching using own materials (revised)
- 1 5 回 Final project reports

成績評価の方法 /Assessment Method

30% Presentations
40% Projects and final report
30% Peer-teaching

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

All lectures, materials, presentations and discussions will be English.
Learners should have a strong interest in teaching English.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会言語学ゼミ AII 【昼】

担当者名 平野 圭子 / Keiko Hirano / 英米学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description
 学生が各自テーマを決め、自分達で言語調査を行います。授業時に先行研究、言語データの収集方法や分析方法、調査結果を発表し、その内容について全員で議論します。

教科書 /Textbooks
 ハンドアウトを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 ○東 照二. (2009). 『社会言語学入門-生きた言葉のおもしろさに迫る』改訂版. 研究社.
 ○中尾俊夫・日比谷潤子・服部範子. (1997). 『社会言語学概論-日本語と英語の例で学ぶ社会言語学』くろしお出版.
 ○田中春美・田中幸子. (1996). 『社会言語学への招待-社会・文化・コミュニケーション』ミネルヴァ書房.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イン트로ダクション
- 2回 言語調査プロジェクトについて
- 3回 文献検索
- 4回 研究発表の仕方
- 5回 テーマ発表
- 6回 学生による研究発表 (第1回)
- 7回 学生による研究発表 (第1回)
- 8回 学術論文の構成
- 9回 学生による研究発表 (第2回)
- 10回 学生による研究発表 (第2回)
- 11回 レポートの書き方
- 12回 学生による研究発表 (第3回)
- 13回 学生による研究発表 (第3回)
- 14回 ディスカッション
- 15回 まとめ、レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method
 研究発表50%、レポート50%。出席・授業への参加状況も考慮します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 『社会言語学研究』を受講すると、本ゼミの理解がより深いものとなります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

異文化間コミュニケーションゼミBI【昼】

担当者名 /Instructor 山崎 和夫 / KAZUO YAMASAKI / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

- (I) 事例研究、文化論などの文献を参照して、論文の書き方、論の展開の仕方などを習得する。
- (II) 卒業論文のテーマの決定、文献の資料収集の仕方などを習得する。

教科書 /Textbooks

プリント資料を授業時間に適宜配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岡本真一郎 『ことばの社会学』ナカニシヤ出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースワークの説明
- 第2回 翻訳と異文化に関する文献の解説
- 第3回 非言語と異文化に関する文献の解説
- 第4回 広告と異文化に関する文献の解説
- 第5回 価値観と異文化に関する文献の解説
- 第6回 各自の卒論テーマに関する文献の発表 (gesture)
- 第7回 各自の卒論テーマに関する文献の発表 (謝罪)
- 第8回 各自の卒論テーマに関する文献の発表 (広告)
- 第9回 各自の卒論テーマに関する文献の発表 (ポライトネス)
- 第10回 各自の卒論テーマに関する文献の発表 (会話スタイル)
- 第11回 『異文化理解の語用論』第2章「ラポールマネジメント」
- 第12回 『異文化理解の語用論』第3章「非難にどう対処するか」
- 第13回 『異文化理解の語用論』第5章「否定的見解をどう伝えるか」
- 第14回 第2章～第5章までのディスカッションの項を討議
- 第15回 卒論への各自の展望を探る

成績評価の方法 /Assessment Method

授業での活動60% アサインメント40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

担当した文献の解説：①著者の意図通りに理解、②疑問点の提示、③批判的な意見の提示、を心がけること。毎回の授業では必ず、各自疑問点、批判的なコメントを出して討議に参加すること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

異文化間コミュニケーションゼミBI【昼】

担当者名 /Instructor
ロジャー・ウィリアムソン / Rodger S. Williamson / 英米学科

履修年次 /Year 4年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Students will continue to examine their own interests and experiences in crossing cultures. We will continue our weekly discussions based on readings by writers and scholars from a wide variety of countries and cultures. Our goal during the second year will be a greater intercultural awareness through student driven activities and research. A greater improvement of analytical, comprehension, discussion, and writing skills in English will remain a primary goal.

教科書 /Textbooks

Printed materials and handouts to be provided by the instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

In consultation with instructor.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2回 Instructor-led discussions.
- 3回 Instructor-led discussions.
- 4回 Instructor-led discussions.
- 5回 Student-led discussion and presentation.
- 6回 Workshop on individual materials for analysis and presentation.
- 7回 Student-led discussion and presentation.
- 8回 Student-led discussion and presentation.
- 9回 Student-led discussion and presentation.
- 10回 Student-led discussion and presentation.
- 11回 Student-led discussion and presentation..
- 12回 Student-led discussion and presentation.
- 13回 Student-led discussion and presentation.
- 14回 Student-led discussion and presentation.
- 15回 Final discussion and paper submission.

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation, & Presentations 50% Successful Completion of Paper 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Our meetings will consist of presentations followed by group discussion. While students will be given the freedom to choose materials, they are expected to follow the basic parameters of this seminar. Students can translate materials from Japanese to English but presentations must be in English. All meetings and discussions will be conducted in English. Students will be expected to submit their individual analysis of presented materials in essay format each semester. Each paper should be approximately 2000 words in English.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

通訳ゼミBI【昼】

担当者名 /Instructor 伊藤 健一 / Kenichi ITO / 英米学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この通訳ゼミでは、通訳者になるために不可欠な語学面のトレーニングはもとより、通訳者に必要な教養や知識を得ることも目標としています。通訳をするために表現力を磨くことが大切なのは言うまでもありませんが、それだけでなく、相手の論理展開について行ける訓練も必要です。その意味では、表現力だけでなく思考力を磨くこともとても大切であると言えます。また、通訳をするためには、そこで語られていることを理解できていなければなりません。野球のルールを知らない人が、野球の実況中継を相手に分かるように通訳できるでしょうか。こうしたことを踏まえ、このゼミでは実践と理論をともに柱に据え、皆さんとともに高度な英語力を獲得し、同時に英語を通して幅広い知識を習得していけるゼミにしていきたいと思っています。4年次は、さまざまなトピックの英語を聞き取り、通訳できる実力養成を目標に取り組みます。これまであまり十分にできなかった日本語を英語に通訳する練習も、意識的に増やして生きたいと思っています。その上で、卒業課題を視野に入れて、総仕上げをしていきましょう。

教科書 /Textbooks

Live from LONDON (The Japan Times)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第01回 ゼミ・オリエンテーション
- 第02回 Day 1に基づく通訳演習
- 第03回 Day 1の内容に関連した別音源による通訳演習
- 第04回 Day 2に基づく通訳演習
- 第05回 Day 2の内容に関連した別音源による通訳演習
- 第06回 Day 3に基づく通訳演習
- 第07回 Day 3の内容に関連した別音源による通訳演習
- 第08回 前半のまとめと補助教材による通訳演習
- 第09回 Day 4(Actions 1&2)に基づく通訳演習
- 第10回 Day 4(Actions 1&2)の内容に関連した別音源による通訳演習
- 第11回 Day 4(Actions 3&4)に基づく通訳演習
- 第12回 Day 4(Actions 3&4)の内容に関連した別音源による通訳演習
- 第13回 Day 5に基づく通訳演習
- 第14回 Day 5の内容に関連した別音源による通訳演習
- 第15回 まとめと総復習

成績評価の方法 /Assessment Method

演習科目ですから、出席は当然です。その上で授業への積極的参加の度合いに実技を加味して総合的に評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

言うまでもないことですが、ゼミに出席するだけで実力がつくわけではありません。平素から英語に触れる努力をし、たとえばテレビを見ながら一人通訳練習をする、というような心がけが大切だと思います。また、よく知られているように、You Tubeの中に、優れた英語の音声素材がたくさん入っています。こうしたものを使って、自宅で練習していただくのも良いと思います。時にはこうしたものを課題として指定することも考えたいと思っています。また、毎時間、次週までに準備して欲しいことを確認しますので、予習も怠りがないようにお願いします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

いよいよ最終学年のゼミですね。この1年間は、就活、教育実習等で勉学に集中しにくい1年になるかも知れません。しかし、皆さんにとって、ここでしっかり学んでおくことは、将来への投資になると思います。今年も一緒に楽しく学んでいきましょう。

キーワード /Keywords

通訳ゼミBI【昼】

担当者名 野島 啓一 / nojima keiichi / 英米学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

通訳ゼミの最終目標は英語または日本語で自分の意見を表現する能力の育成である。三年次では「読む」・「聞く」の領域を意識したプログラムを作成しているが、四年次では「話す」「書く」の領域を体系的に強化する事を念頭におく。更に、卒論指導も兼ねて着想の仕方、議論の組み立て方、英語論文の作成についても学習課題にする。

教科書 /Textbooks

『英語通訳入門』 小松達也著 研究社 ¥2,200
適宜プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業方針と卒論の書き方の解説
- 2回 第一章(通訳の仕事)+英語表現の方法(1)英語ニュースの5W1H方式での作文方法
- 3回 第一章(通訳の仕事)+英語表現の方法(2)editorialのキーワード中心の作文方法
- 4回 第二章(通訳と言語)+英語表現の方法(3)ニュース記事を一文にまとめる作文方法
- 5回 第三章(通訳の過程)+英語表現の方法(4)パラグラフライティング方式による作文方法
- 6回 第四章(理解+英語表現の方法(5) 課題議題のpro側con側からの議論構成
- 7回 第五章(ノートの取り方+英語表現の方法(6) 英文表現の基準とその実践
- 8回 題第六章(再表現)+英語表現の方法(7) 指定語彙範囲でのparaphrasing
- 9回 第七章(サイト・トランスレーション)+英語表現の方法(8) 取材トピックに対する質問用英文の作成
- 10回 第八章(同時通訳)+口頭表現の方法(1) 「訳し下り」による逐文訳の録音
- 11回 第九章(英語学習への適応)+口頭表現の方法(2) 「訳し下り」による同時訳の録音
- 12回 第十章(通訳者への道)+口頭表現の方法(3) 単文通訳から複文通訳の説明と実践
- 13回 口頭表現の方法(4) 講演会聴取+テープ起し+英語による意見の口頭発表
- 14回 口頭表現の方法(5)指定課題の意見発表の実習と評価基準による検証
- 15回 review+自己表現と使用言語との関りについての考察と議論、夏休みのプロジェクトの説明

成績評価の方法 /Assessment Method

授業時のperformance...50% 課題プロジェクト...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

翻訳ゼミBI【昼】

担当者名 木下 善貞 / 英米学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

文学テキストの翻訳を体得する。
Anthony TrollopeのThe small House at Allingtonを翻訳する。
①テキストが書かれた時代背景、社会状況のじゅうぶんな理解、②読む者の主観を排してテキストの意図する意味の把握、③視点の人物を意識した主語の統一、④読みやすい、理解しやすい、こなれた文体の確立、⑤訳註箇所の適切な選定、以上5点がねらいである。

教科書 /Textbooks

Anthony Trollope: The small House at Allington (Penguin Classics) をテキストとする。
その他適宜プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

R. C. Terry: Oxford Reader's Companion to Trollope (Oxford)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 演習の進め方。全体の各章1人の担当者が翻訳を授業の2日前までに木下に提出する。訳出難解箇所、訳註必要箇所をチェックし、プレゼンし、ゼミ生全員でそれを検討する。
- 2回 2 2章
- 3回 2 3章
- 4回 2 4章
- 5回 2 5章
- 6回 2 6章
- 7回 2 7章
- 8回 2 8章
- 9回 2 9章
- 10回 3 0章
- 11回 3 1章
- 12回 3 2章
- 13回 2 2 - 2 6章の翻訳仕上げ
- 14回 2 7 - 3 2章の翻訳仕上げ
- 15回 1学期全体の翻訳仕上げ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

担当章の日本語訳をワードのファイルで提出する。各担当者は担当章のbrush-upに励み、書式を統一する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

翻訳ゼミBI【昼】

担当者名 /Instructor
ダニエル・ストラック / Daniel C. Strack / 英米学科

履修年次 /Year 4年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The aim of this seminar will be to give students practical experience in translating an entire literary text from Japanese to English and give students insights into the process of translation and the challenges faced by professional translators.

教科書 /Textbooks

To be determined after consultation with participants.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要なものは授業中に提示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Seminar introduction
- 第2回 Translation Check of Selected Text (pp. 1-3)
- 第3回 Translation Check of Selected Text (pp. 4-6)
- 第4回 Translation Check of Selected Text (pp. 7-9)
- 第5回 Translation Check of Selected Text (pp. 10-12)
- 第6回 Translation Check of Selected Text (pp. 13-15)
- 第7回 Translation Check of Selected Text (pp. 16-18)
- 第8回 Translation Check of Selected Text (pp. 19-21)
- 第9回 Translation Check of Selected Text (pp. 22-24)
- 第10回 Translation Check of Selected Text (pp. 25-27)
- 第11回 Translation Check of Selected Text (pp. 28-30)
- 第12回 Translation Check of Selected Text (pp. 31-33)
- 第13回 Translation Check of Selected Text (pp. 34-36)
- 第14回 Translation Check of Selected Text (pp. 37-39)
- 第15回 Semester wrap-up

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加 : 40% 小テスト : 0% 期末試験 : 0% 課題 : 40% 態度 : 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Students will be expected to translate extended passages from the chosen text between 3 and 6 times a semester depending on the number of participants. Students will be expected to bring copies of their translation for each participant whenever they present. Approximately 2-3 pages of text will be translated in each class. After each class, students will be expected to make corrections to their translated section and send them to the instructor by e-mail for compilation into the master document for further editing.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ビジネス英語ゼミBI【昼】

担当者名 /Instructor 松田 智 / Matsuda, Satoshi / 英米学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The objectives of the course are: (1) to help you develop an understanding of basic concepts that underline the international business management, and (2) to help you develop your business vocabularies in English. Also, The objective of the course are:(1) to help you write well-organized and well-developed essays and paragraphs on assigned topics, and (2) to help you develop your Practical writing and thesis in English.

この時期は企業戦略に重点をおいて学ぶ。さらに加えて、英語での論文の書き方も学び、卒論の準備とする。

教科書 /Textbooks

Learning MBA Basics in English:Masatsugu Fuji, Richard Sheehan, NHK publishing

その他論文の書き方についてプリント配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Shenkar, O. & Luo, Y. 2008. International Business (2nd ed.). Sage Publications: CA.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Human resources and organization
 session1: corporate culture
 session2: performance-based system
 session3: discrimination in the workplace
 Strategy
 session4: Industry Analysis
 session5-7: Competitive Advantage
 session8-10: Global Strategies
 session11: Synergy / Diversification
 session12: presentation on strategy analysis of companies
 Cases
 session13-15: Case study

成績評価の方法 /Assessment Method

participation... 20% class quizzes ...30% presentation...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

基本的な英語のエッセイの書き方を学んでいけばより効果的な学習となろう。

企業戦略について詳しく説明しますので、これまでの学んだビジネス概念をよく復習しておいてください。

履修上の注意 /Remarks

英語力は読む、話す、書くがかなり高いレベルで必要となりますので、総合的な英語力を磨いて訓練しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

次のタームで本格的な国際ビジネスを学ぶことになるので、よく復習しておいてください。

キーワード /Keywords

メディア英語ゼミBI 【昼】

担当者名 /Instructor 吉川 哲郎 / KIKKAWA TETSUROU / 英米学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

アメリカのミュージカル演劇研究が目的である。卒業課題についての、資料の収集、分析、発表、議論が主体になる。

教科書 /Textbooks

なし。プレゼンが主になる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入
- 2回 卒業課題についてのプレゼン。および『オペラ座の怪人』
- 3回 卒業課題についてのプレゼン。および『ヘア・スプレー』
- 4回 卒業課題についてのプレゼン。および『ミス・サイゴン』
- 5回 『エニシング・ゴーズ』
- 6回 卒業課題についてのプレゼン。および『アニー』
- 7回 卒業課題についてのプレゼン。および『マイ・フェア・レディ』
- 8回 卒業課題についてのプレゼン。および『ウェスト・サイド・ストーリー』
- 9回 卒業課題についてのプレゼン。および『マンマ・ミーア』
- 10回 卒業課題についてのプレゼン。および『クレージー・フォー・ユー』
- 11回 卒業課題についてのプレゼン。および『キャッツ』
- 12回 卒業課題についてのプレゼン。および『エヴィータ』
- 13回 卒業課題についてのプレゼン。および『ピーター・パン』
- 14回 卒業課題についてのプレゼン。および『ウィキッド』
- 15回 結び

成績評価の方法 /Assessment Method

プレゼン... 50% エッセー... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

プレゼンの時は、万全の準備をすること。

履修上の注意 /Remarks

特になし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

特になし。

キーワード /Keywords

【ミュージカル】 【演劇】

アメリカ研究ゼミBI【昼】

担当者名 /Instructor
デニス・ジョーンズ / Denis JONNES / 英米学科

履修年次 /Year 4年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The American Studies seminar offers students the opportunity to undertake a long-term research project. Students will choose topics in consultation with the instructor. Research will provide materials for the Graduation Thesis submitted at the end of the 4th Year.

Background materials will focus on 20th American culture and politics, in particular factors contributing to rise of the United States as a global power. Discussion covers First World War, Jazz Age, Great Depression, Second World War, the Cold War, postwar affluence, Civil Rights movement, Vietnam, the 1960s and the Rise of Youth Culture.

教科書 /Textbooks

Texts for background discussion provided by instructor

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

In consultation with the instructor

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Key themes: America on the global stage
- 2回 First World War; Disillusionment; the Jazz Age
- 3回 The Great Depression and Coming of War (selection of research topics)
- 4回 Second World War and its impact (consultations)
- 5回 The Cold War; arms race; the new domesticity (consultations)
- 6回 Postwar affluence--automobile, television, Disney, and the rise of rock'n'roll
- 7回 The 1950s (consultations)
- 8回 Emerging Dissent--Youth Culture
- 9回 Vietnam and the 1960s
- 10回 Student presentations and discussion
- 11回 Student presentations and discussion
- 12回 Student presentations and discussion
- 13回 Student presentations and discussion
- 14回 Student presentations and discussion
- 15回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Preparation -- 25 % Participation ... 25 % Presentation ... 25 % Essay ... 25 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Students should have completed the American Studies Seminar A I and A II, or equivalent.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

First World War, Jazz Age, Great Depression, Second World War, Cold War; Vietnam; Youth Culture; Music, Television; Movies

イギリス研究ゼミBI 【昼】

担当者名 /Instructor 木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

イギリス研究

教科書 /Textbooks

特に定めない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

当ゼミでは「文字で書かれたイギリス文化」を研究対象とする。つまりこのゼミで扱うイギリス研究とは文字で書かれたイギリス文化というぐらゐの意味になる。というわけで、研究対象には当然ミルトン、ワーズワース、ディケンズ、イェイツ、ロレンスなど本格的なイギリス文学の作家も入るが、その他マザーグース(イギリス伝承童謡)、アイルランド民話、『ピーター・ラビット』や『くまのプーさん』のような児童文学も入る。また、イギリスではなくてもアイルランド、オーストラリアなどのアメリカを除く旧イギリス植民地も対象となることがある。ゼミは木原研究室(E1111)で行う。ゼミの進め方はすべて発表討論形式。すべて英語で行う。まず、自分の研究テーマを決め、各自インターネットの文献検索を利用したり図書館に足を運んだりして資料を集め研究を進める。およそ1ヶ月に一回ぐらゐの割合で自分の研究成果を発表する。前もって資料を用意し、ゼミの他のメンバーに読んでもらう。当日発表に続いてディスカッションをする。

- 第1回 プレゼンテーションとディスカッション
- 第2回 プレゼンテーションとディスカッション
- 第3回 プレゼンテーションとディスカッション
- 第4回 プレゼンテーションとディスカッション
- 第5回 プレゼンテーションとディスカッション
- 第6回 プレゼンテーションとディスカッション
- 第7回 プレゼンテーションとディスカッション
- 第8回 プレゼンテーションとディスカッション
- 第9回 プレゼンテーションとディスカッション
- 第10回 プレゼンテーションとディスカッション
- 第11回 プレゼンテーションとディスカッション
- 第12回 プレゼンテーションとディスカッション
- 第13回 プレゼンテーションとディスカッション
- 第14回 プレゼンテーションとディスカッション
- 第15回 プレゼンテーションとディスカッション

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート、発表、ディスカッションへの参加

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

担当の学生は、他の学生に読んできて欲しい文献や資料を遅くとも前の週までに指示する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語学ゼミBI【昼】

担当者名 北峯 裕士 / 英米学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

3年次2学期に引き続き、Radford(2004)を読んで、生成文法の知識を深める。

教科書 /Textbooks

Radford(2004) Cambridge UP.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

別途指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回DP移動①
- 2回DP移動②
- 3回DP移動③
- 4回移動と素性①
- 5回移動と素性②
- 6回移動と素性③
- 7回分離CP①
- 8回分離CP②
- 9回VP shell①
- 10回VP shell②
- 11回Phase①
- 13回Phase②
- 14回Phase③
- 15回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表内容 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

無断欠席は容認しない。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語教育ゼミBI 【昼】

担当者名 /Instructor クレイグ・ランバート / Craig P. Lambert / 英米学科

履修年次 /Year 4年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This two-year course will provide learners with a foundation in second language language teaching and a practical basis for improving communication skills in Japanese schools. The third term will address second language test design. Learners will gain a sound understanding of the different types of tests and purposes for testing in second language programs as well as practical experience in writing different types of tests to meet their own needs.

教科書 /Textbooks

Materials to be arranged by the instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

References to be arranged by the instructor.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Orientation and self-introductions
- 2回 Types of Language Tests & Purposes of Language Testing
- 3回 Norm-Referenced Language Tests
- 4回 Writing Norm-Referenced Language Test Items
- 5回 Analyzing Norm-Reference Language Test Results
- 6回 Criterion-Referenced Language Tests
- 7回 Writing Criterion-Referenced Language Test Items
- 8回 Analyzing Criterion-Referenced Language Test Results
- 9回 Guidelines and Criteria for Evaluating Your Tests
- 10回 Presentation & Discussion 1: Testing Published Teaching Materials
- 11回 Presentation & Discussion 1: Testing Published Teaching Materials
- 12回 Presentation & Discussion 1: Testing Published Teaching Materials
- 13回 Presentation & Discussion 2: Testing Your Own Teaching Materials
- 14回 Presentation & Discussion 2: Testing Your Own Teaching Materials
- 15回 Presentation & Discussion 2: Testing Your Own Teaching Materials

成績評価の方法 /Assessment Method

- 40% Weekly homework
- 30% Presentations
- 30% Final report

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

All lectures, materials, presentations and discussions will be English.
Learners should have a strong interest in teaching English.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会言語学ゼミBI【昼】

担当者名 平野 圭子 / Keiko Hirano / 英米学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

社会言語学の領域から各自選択したテーマに沿って、文献調査・フィールドワークを行い、授業時に先行研究の発表、言語調査の経過報告、問題点の議論等を行います。

教科書 /Textbooks

ハンドアウトを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 中尾俊夫・日比谷潤子・服部範子.(1997).『社会言語学概論-日本語と英語の例で学ぶ社会言語学』くろしお出版.
- 田中春美・田中幸子.(1996).『社会言語学への招待-社会・文化・コミュニケーション』ミネルヴァ書房.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨN
- 2回 ゼミ研究について
- 3回 文献調査
- 4回 研究テーマ発表
- 5回 文献収集
- 6回 学生による研究発表(第1回-1)
- 7回 学生による研究発表(第1回-2)
- 8回 Excel(表・グラフ作成)講習
- 9回 学生による研究発表(第2回-1)
- 10回 学生による研究発表(第2回-2)
- 11回 PowerPoint(プレゼンテーション)講習
- 12回 学生による研究発表(第3回-1)
- 13回 学生による研究発表(第3回-2)
- 14回 ディスカッション
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

研究発表50%、論文50%。出席・授業への参加状況も考慮します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

『社会言語学研究』を受講すると、本ゼミの理解がより深いものとなります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

異文化間コミュニケーションゼミBII【昼】

担当者名 /Instructor 山崎 和夫 / KAZUO YAMASAKI / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

卒業論文の作成の指導、各自の卒論に関して討議

教科書 /Textbooks

プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ジョゼフ・ジバルディ著、原田譲治訳編『MLA英語論文の手引き』

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースワークの説明
- 第2回 各自論文のドラフトの発表 (コミュニケーション関連)
- 第3回 各自論文のドラフトの発表 (文化関連)
- 第4回 各自論文のドラフトの発表 (その他の事象関連)
- 第5回 論の展開の仕方の指導 (章立て、構成)
- 第6回 論の展開の仕方の指導 (序章と結語)
- 第7回 統計的処理の指導
- 第8回 調査結果の処理
- 第9回 論文の推敲
- 第10回 英語による文献の引用の仕方、註の処理の指導
- 第11回 論文 (英語) の推敲の指導
- 第12回 各自の論文のレジュメ、発表 (日本語)
- 第13回 各自の論文のレジュメ、発表 (英語)
- 第14回 各自の論文のPWPを用いた発表 (英語)
- 第15回 各自の論文の相互検討

成績評価の方法 /Assessment Method

授業での活動 80% アサインメント 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

論文作成のために自分の興味ある明確なテーマを持つこと。実践的な活動 (アンケート調査、ビデオ、authentic materialsによる調査) が必要になる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

異文化間コミュニケーションゼミBII【昼】

担当者名 /Instructor: ロジャー・ウィリアムソン / Rodger S. Williamson / 英米学科

履修年次 /Year: 4年次 単位 /Credits: 2単位 学期 /Semester: 2学期 授業形態 /Class Format: 演習 クラス /Class: 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

During the second semester of this seminar, students will not only continue to examine their own interests in crossing cultures but they will try to sum up their overall viewpoints based upon a culmination of their own research and presentations. We will continue our weekly discussions based on readings by writers and scholars from a wide variety of countries and cultures. Our goal during the second year will be a greater intercultural awareness through student driven activities and research. A greater improvement of analytical, comprehension, discussion, and writing skills in English will remain a primary goal.

教科書 /Textbooks

Printed materials and handouts to be provided by the instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

In consultation with instructor.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction and return of papers.
- 2 回 Instructor-led discussion and workshop
- 3 回 Instructor-led discussion and workshop
- 4 回 Instructor-led discussion and workshop
- 5 回 Instructor-led discussion and workshop.
- 6 回 Student presentations and discussion.
- 7 回 Student presentations and discussion.
- 8 回 Student presentations and discussion.
- 9 回 Student presentations and discussion.
- 1 0 回 Student presentations and discussion.
- 1 1 回 Student presentations and discussion.
- 1 2 回 Student presentations and discussion.
- 1 3 回 Student presentations and discussion
- 1 4 回 Student presentations and discussion
- 1 5 回 Final discussion and paper submission.

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation, & Presentations 50% Successful Completion of Paper 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Our meetings will consist of presentations followed by group discussion. While students will be given the freedom to choose materials, they are expected to follow the basic parameters of this seminar. Students can translate materials from Japanese to English but presentations must be in English. All meetings and discussions will be conducted in English. Students will be expected to submit their materials in essay format each semester. Each paper should be approximately 2000 words in English.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

通訳ゼミBII 【昼】

担当者名 /Instructor 伊藤 健一 / Kenichi ITO / 英米学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この通訳ゼミでは、通訳者になるために不可欠な語学面のトレーニングはもとより、通訳者に必要な教養や知識を得ることも目標としています。通訳をするために表現力を磨くことが大切なのは言うまでもありませんが、それだけでなく、相手の論理展開について行ける訓練も必要です。その意味では、表現力だけでなく思考力を磨くこともとても大切であると言えます。また、通訳をするためには、そこで語られていることを理解できていなければなりません。野球のルールを知らない人が、野球の実況中継を相手に分かるように通訳できるでしょうか。こうしたことを踏まえ、このゼミでは実践と理論をとともに柱に据え、皆さんとともに高度な英語力を獲得し、同時に英語を通して幅広い知識を習得していけるゼミにしていきたいと思っています。4年次2学期は、英語スピーチを教材に英語の論理展開に習熟し、予測しながら聞く、論理的に通訳する、といった課題に取り組みます。卒業課題に向けてラストスパートです。また、本年度も北九州国際車椅子バスケットボール大会のボランティア通訳奉仕をお願いする予定です。良い経験としていただきたいと思っています。

教科書 /Textbooks

鶴岡公幸、Gary Malmgren、Timothy Phelan著 『Get Ready for the TOEFL iBT』 (松柏社)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第01回 ゼミ・オリエンテーション
- 第02回 Chapter 1 歴史
- 第03回 Chapter 2 音楽
- 第04回 Chapter 3 文学
- 第05回 Chapter 4 情報技術
- 第06回 Chapter 5 生物学
- 第07回 Chapter 6 スポーツ
- 第08回 Chapter 7 市場調査
- 第09回 卒業課題：通訳発表会(録画します)(1)
- 第10回 卒業課題：通訳発表会(録画します)(2)
- 第11回 Chapter 8 芸術
- 第12回 Chapter 9 Critical Thinking
- 第13回 Chapter 10 気象学
- 第14回 Chapter 11 メディア
- 第15回 2年間の総まとめと総復習

成績評価の方法 /Assessment Method

演習科目ですから、出席は当然です。その上で授業への積極的参加の度合いに実技を加味して総合的に評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

言うまでもないことですが、ゼミに出席するだけで実力がつくわけではありません。平素から英語に触れる努力をし、たとえばテレビを見ながら一人通訳練習をする、というような心がけが大切だと思います。また、よく知られているように、You Tubeの中に、優れた英語の音声素材がたくさん入っています。こうしたものを使って、自宅で練習していただくのも良いと思います。時にはこうしたものを課題として指定することも考えたいと思っています。また毎時間、次週までに準備して欲しいことを確認しますので、予習も怠りがないようにお願いします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

最後の学期を迎えました。ここまでご苦労様でした。卒業課題のための発表会は、12月中旬を予定しています。2年間のゼミ、4年間の学びの集大成です。もう一頑張りですね。

キーワード /Keywords

通訳ゼミBII 【昼】

担当者名 野島 啓一 / nojima keiichi / 英米学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

通訳ゼミの最終目標は英語また日本語で自分の意見を表現する能力の育成である。三年次では「読む」・「聞く」の領域を意識したプログラムを作成しているが、四年次では「話す」「書く」の領域を体系的に強化する事を念頭におく。更に、卒論指導も兼ねて着想の仕方、議論の組み立て方、英語論文の作成についても学習課題にする。

教科書 /Textbooks

『英語通訳への道』 日本通訳協会著 大修館書店 ¥2,800
適宜プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業方針と卒論の書き方の解説
- 2回 第一章 (同時通訳・逐次通訳)
- 3回 第一章 (放送同時通訳・時差通訳)
- 4回 第一章 (司法通訳・ガイド通訳)
- 5回 第一章 (ボランティア通訳)
- 6回 第二章 (語彙構築)
- 7回 第二章 (quick response)
- 8回 題第二章 (transcription)
- 9回 第二章(slash reading)
- 10回 第二章 (技術訓練の実際(1))
- 11回 第二章(技術訓練の実際(2))
- 12回 第三章 (時差通訳)
- 13回 講演会聴取+テープ起し+英語による意見の口頭発表
- 14回 review+自己表現と使用言語との関りについての考察と議論、夏休みのプロジェクトの説明
- 15回 整理とまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業時のperformance...50% 課題プロジェクト...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

翻訳ゼミBII【昼】

担当者名 木下 善貞 / 英米学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

文学テキストの翻訳を体得する。
Anthony TrollopeのThe small House at Allingtonを翻訳する。
①テキストが書かれた時代背景、社会状況のじゅうぶんな理解、②読む者の主観を排してテキストの意図する意味の把握、③視点的人物を意識した主語の統一、④読みやすい、理解しやすい、こなれた文体の確立、⑤訳註箇所適切な選定、以上5点がねらいである。

教科書 /Textbooks

Anthony Trollope: The small House at Allington (Penguin Classics) をテキストとする。
その他適宜プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

R. C. Terry: Oxford Reader's Companion to Trollope (Oxford)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 演習の進め方。全体の各章1人の担当者が翻訳を授業の2日前までに木下に提出する。訳出難解箇所、訳註必要箇所をチェックし、プレゼンし、ゼミ生全員でそれを検討する。
- 2回 33章
- 3回 34章
- 4回 35章
- 5回 36章
- 6回 37章
- 7回 38章
- 8回 39章
- 9回 40章
- 10回 41章
- 11回 42章
- 12回 43章
- 13回 33 - 38章の翻訳仕上げ
- 14回 39 - 43章の翻訳仕上げ
- 15回 2学期全体の翻訳仕上げ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

担当章の日本語訳をワードのファイルで提出する。各担当者は担当章のbrush-upに励み、書式を統一する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

翻訳ゼミBII【昼】

担当者名 /Instructor
ダニエル・ストラック / Daniel C. Strack / 英米学科

履修年次 /Year 4年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The aim of this seminar will be to give students practical experience in translating an entire literary text from Japanese to English and give students insights into the process of translation and the challenges faced by professional translators.

教科書 /Textbooks

To be determined after consultation with participants.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要なものは授業中に提示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Seminar introduction
- 第2回 Translation Check of Selected Text (pp. 1-3)
- 第3回 Translation Check of Selected Text (pp. 4-6)
- 第4回 Translation Check of Selected Text (pp. 7-9)
- 第5回 Translation Check of Selected Text (pp. 10-12)
- 第6回 Translation Check of Selected Text (pp. 13-15)
- 第7回 Translation Check of Selected Text (pp. 16-18)
- 第8回 Translation Check of Selected Text (pp. 19-21)
- 第9回 Translation Check of Selected Text (pp. 22-24)
- 第10回 Translation Check of Selected Text (pp. 25-27)
- 第11回 Translation Check of Selected Text (pp. 28-30)
- 第12回 Translation Check of Selected Text (pp. 31-33)
- 第13回 Translation Check of Selected Text (pp. 34-36)
- 第14回 Translation Check of Selected Text (pp. 37-39)
- 第15回 Semester wrap-up

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加 : 40% 小テスト : 0% 期末試験 : 0% 課題 : 40% 態度 : 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Students will be expected to translate extended passages from the chosen text between 3 and 6 times a semester depending on the number of participants. Students will be expected to bring copies of their translation for each participant whenever they present. Approximately 2-3 pages of text will be translated in each class. After each class, students will be expected to make corrections to their translated section and send them to the instructor by e-mail for compilation into the master document for further editing.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ビジネス英語ゼミBII【昼】

担当者名 /Instructor 松田 智 / Matsuda, Satoshi / 英米学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course introduces essential concepts of international management as well as leading practices of international management. To begin with, we will review essential theoretical approaches in international management. Through the review, we will be able to gain conceptual foundation on this subject. We will use several case studies to help us understand international management in practice. We will then explore the linkages between concepts and practices.

ここでは本格的に国際ビジネスを学んでいきます。現実の企業の国際戦略をあつかったケースを読みこなすことでさらに理解が深まると思います。

教科書 /Textbooks

こちらでプリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Shenkar, O. & Luo, Y. 2008. International Business (2nd ed.). Sage Publications: CA.

浅川和宏「グローバル経営入門」日本経済新聞社、2003年

地球市場時代の企業戦略-トランスナショナル・マネジメントの構築 日本経済新聞社、

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Session1: Introduction

Session2: グローバリゼーション : グローバリゼーションの現状・原因

Session3-5: グローバル・ビジネス環境

Session6: 海外直接投資 (FDI)

Session7: 多国籍企業 (MNC)

Session8: 外国為替 : 先物、オプション取引

Session9: 途上国からの多国籍企業 (DMNC), New MNC- Born Global

Session10: エントリー戦略 : どこに立地するか

Session11: エントリー戦略 : エントリー・モードの種類

Session12: エントリー戦略 : どのようにエントリーするか

Session13-15: Case Study

成績評価の方法 /Assessment Method

participation... 20% class quizzes ...30% presentation...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

エクセル関数、会計、マーケティング、経営学、統計学などの基礎を日本語で学んでおくことが望ましい。しかし、必須条件ではない。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業以外で下記のこと留意して学習してください。

- ・ グローバリゼーションが企業に与える影響を考える。
- ・ 日本と海外とのビジネス環境の違いが国際経営に与える影響を考える
- ・ 多国籍企業の国際経営の事例調査
- ・ 企業の国際化に関する理論調査
- ・ ケースとして扱う企業に関する調査

キーワード /Keywords

global business, international business, cross boarder, strategic management, entry mode, FDI, MNC, Japanes trading houses, Japanese multinatinal companies.

メディア英語ゼミII 【昼】

担当者名 吉川 哲郎 / KIKKAWA TETSUROU / 英米学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

アメリカのミュージカル映画研究が目的である。資料の分析と発表が主体になる。

教科書 /Textbooks

プリントが主になる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入
- 2回 1960年代のミュージカル映画【ケネディの時代】【ヴェトナム戦争の時代】
- 3回 1960年代のミュージカル映画【『ウエスト・サイド・ストーリー』の周辺】
- 4回 1960年代のミュージカル映画【『マイ・フェア・レディ』の周辺】
- 5回 1960年代のミュージカル映画【『サウンド・オブ・ミュージック』の周辺】
- 6回 1960年代のミュージカル映画【プリティッシュ・インヴェイジョン】
- 7回 1960年代のミュージカル映画【ザ・ビートルズI】
- 8回 1960年代のミュージカル映画【ザ・ビートルズII】
- 9回 1960年代のミュージカル映画【パーミッシヴ・ソサイエティ】
- 10回 1960年代のミュージカル映画【人種の垣塙から人種のサラダへ】
- 11回 1960年代のミュージカル映画【ロック文化】
- 12回 1960年代のミュージカル映画【ロック・ミュージカル】
- 13回 予備回
- 14回 予備回
- 15回 結び

成績評価の方法 /Assessment Method

プレゼン... 50% エッセー... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

プレゼンの時は、万全の準備をすること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカ研究ゼミBII【昼】

担当者名 /Instructor
デニス・ジョーンズ / Denis JONNES / 英米学科

履修年次 /Year 4年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

In consultation with instructor, students in the American Studies seminar will continue to work on graduation thesis -- to research and collect relevant materials -- and prepare final draft of the Graduation Thesis.

In-class discussion will focus on latter 20th and early 21st century, in particular, end of the Cold War, the United States and the new globalism; impact of new media; the USA and war on terror; economic crisis and the Obama administration.

教科書 /Textbooks

For background discussion, printed materials will be provided by the instructor

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

In consultation with the instructor.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Key themes: A 3rd Industrial Revolution?- America and the New Globalism
- 2回 Digital Culture
- 3回 War on Terror
- 4回 Neo-Conservatism
- 5回 Boom and Bust
- 6回 New Competitors
- 7回 Race and Class in the Age of Obama
- 8回 USA in the 21st Century
- 9回 Student Presentations & Discussion
- 10回 Student Presentations & Discussion
- 11回 Student Presentations & Discussion
- 12回 Student Presentations & Discussion
- 13回 Student Presentations & Discussion
- 14回 Student Presentations & Discussion
- 15回 Review and Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Preparation -- 25 % Participation ... 25% Presentation -- 25 % Essay 25 ... 25 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Students are expected to have completed American Studies Seminar A I, A II, B I or equivalent.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

New Media, War on Terror, Great Recession, Barack Obama, American in the 21st Century

イギリス研究ゼミII 【昼】

担当者名 /Instructor 木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

卒論作成

教科書 /Textbooks

特に定めない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

後期は卒業論文指導を中心とする。ゼミの時間では、各自の卒論研究の報告をする。これとは別に、2週間に一度の個人面談を行う。一人1時間。毎回、進んだところまでの卒業論文原稿を持ってくること。それを読んで、問題点を指摘したり、さらに読むべき文献を指導したりする。

- 第1回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導
- 第2回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導
- 第3回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導
- 第4回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導
- 第5回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導
- 第6回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導
- 第7回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導
- 第8回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導
- 第9回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導
- 第10回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導
- 第11回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導
- 第12回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導
- 第13回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導
- 第14回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導
- 第15回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート、発表、ディスカッションへの参加

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回の面談に従い、卒論作成を進めてくること。進んでいない場合でも、必ず状況を報告すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語学ゼミBII【昼】

担当者名 北峯 裕士 / 英米学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

卒業論文作成。各自、自分のテーマに沿って、調査・研究してもらう。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講生の要求に応じ、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

受講者の研究経過を発表してもらう。そのため、具体的記載不能。

- 1回 ガイダンス
- 2回 研究経過の発表①
- 3回 研究経過の発表②
- 4回 研究経過の発表③
- 5回 研究経過の発表④
- 6回 研究経過の発表⑤
- 7回 研究経過の発表⑥
- 8回 研究経過の発表⑦
- 9回 研究経過の発表⑧
- 10回 研究経過の発表⑨
- 11回 研究経過の発表⑩
- 12回 研究経過の発表⑪
- 13回 研究経過の発表⑫
- 14回 研究経過の発表⑬
- 15回 研究経過の発表⑭

成績評価の方法 /Assessment Method

研究経過 50%
発表内容 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

無断欠席は、容認しない。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語教育ゼミBII 【昼】

担当者名 /Instructor クレイグ・ランバート / Craig P. Lambert / 英米学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This two-year course will provide learners with a foundation in second language teaching and a practical basis for improving communication skills in Japanese schools. The fourth term will focus on the students' abilities to provide a rationale for their teaching. Learners will gain a experience in expressing and supporting their own ideas on second language teaching which they have developed over the two-year course.

教科書 /Textbooks

Materials to be arranged by the instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

References to be arranged by the instructor.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Orientation and self-introductions
- 2回 Identifying a suitable topic
- 3回 Narrowing the topic and developing a thesis statement
- 4回 Writing an outline of how you will support your thesis; types of support
- 5回 Writing an introduction
- 6回 Creating unity in the body of your paper
- 7回 Referencing your sources; specific word choice; redundancy and elaboration
- 8回 Writing a conclusion
- 9回 Guidelines for evaluation your thesis
- 10回 Presentation & Discussion 1: Power point presentation (rough draft)
- 11回 Presentation & Discussion 1: Power point presentation (rough draft)
- 12回 Presentation & Discussion 1: Power point presentation (rough draft)
- 13回 Presentation & Discussion 2: Power point presentation (revised/final)
- 14回 Presentation & Discussion 2: Power point presentation (revised/final)
- 15回 Presentation & Discussion 2: Power point presentation (revised/final)

成績評価の方法 /Assessment Method

- 40% Weekly homework and participation
- 30% Presentation(s)
- 30% Final report

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

All lectures, materials, presentations and discussions will be English.
Learners should have a strong interest in teaching English.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会言語学ゼミBII【昼】

担当者名 平野 圭子 / Keiko Hirano / 英米学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

社会言語学の領域から各自選択したテーマに沿って、文献調査・フィールドワークを行い、授業時に先行研究の発表、言語調査の経過報告、問題点の議論等を行います。

教科書 /Textbooks

ハンドアウトを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 中尾俊夫・日比谷潤子・服部範子.(1997).『社会言語学概論-日本語と英語の例で学ぶ社会言語学』くろしお出版.
- 田中春美・田中幸子.(1996).『社会言語学への招待-社会・文化・コミュニケーション』ミネルヴァ書房.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 研究の進捗状況と今後の予定
- 2回 研究・論文指導(1)
- 3回 学生による研究発表(第4回-1)
- 4回 学生による研究発表(第4回-2)
- 5回 ディスカッション
- 6回 研究・論文指導(2)
- 7回 学生による研究発表(第5回-1)
- 8回 学生による研究発表(第5回-2)
- 9回 ディスカッション
- 10回 研究・論文指導(3)
- 11回 学生による研究発表(第6回-1)
- 12回 学生による研究発表(第6回-2)
- 13回 ディスカッション
- 14回 研究・論文指導(4)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

研究発表50%、論文50%。出席・授業への参加状況も考慮します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

『社会言語学研究』を受講すると、本ゼミの理解がより深いものとなります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語科教育法 A 【昼】

担当者名 /Instructor 森 千鶴 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業には、主に二つのねらいがある。まず英語科教育の基本となる理論を学び、知識を修得することを目的とする。次に、中学校の学習指導案の書き方を学び、モデル授業を実際に行って理論と実践を結びつけることにより、ある程度の実践力を身につけることを目的とする。中学校との関連において、小学校の外国語活動の理論と現状についてもふれる。

教科書 /Textbooks

三浦省五・深澤清治（編著）『新しい学びを拓く英語科授業の理論と実践』ミネルヴァ書房
文部科学省 中学校学習指導要領 外国語

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜プリントを配布する。
なお、以下の教科書は教職資料室に保管しています。
SUNSHINE ENGLISH COURSE 1～3 開隆堂
ONE WORLD English Course 1～3 教育出版
"NEW CROWN ENGLISH SERIES New Edition 1～3"三省堂
NEW HORIZON English Course 1～3 東京書籍
TOTAL ENGLISH 1～3 教育出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. イントロダクション及び英語教育の目的
2. 英語教育の目的
3. 指導法へのアプローチ【行動主義と認知主義】
4. 指導法へのアプローチ【コミュニケーション能力】
5. Communicative Language Teaching の理念【インフォメーション・ギャップ】
6. Communicative Language Teaching の理念【タスク活動】
7. 中学校の英語科教育および小学校の外国語活動
8. 学習指導案(中学校)の立て方
9. 評価について
10. DVD (師範授業) の視聴【筑波大学附属中学校教諭】
11. DVD (師範授業) の視聴【田尻悟郎先生】
12. モデル授業の準備
13. モデル授業 (中学校) 【1年生】
14. モデル授業 (中学校) 【2・3年生】
15. 復習と試験の準備

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末の定期試験 (75%程度) を中心として、提出物 (15%程度) 及び授業参加度 (10%程度) を考慮に入れ、総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ・前もってプリントを配布したり、次回の授業内容に関連する教科書ページを予告をする場合は、予習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

- ・多少なりとも教員になるという意思をもって、履修すること。
- ・出欠席は厳密にとる。無断欠席は厳に慎むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語科教育法B 【昼】

担当者名 /Instructor 森 千鶴 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義・演習
クラス /Class 2年

対象入学年度

/Year of School Entrance

2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
						○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業には主に二つのねらいがある。まず英語科教育における発展的な理論や学習指導案の書き方を学び、モデル授業を行うことによって、高等学校の英語科教員としての技能を身につける。次に英語科教育の学問的な側面に目を向け、英語で書かれた論文を講読することによって、英語科教育の今日的な課題を深く論考することができるようになることを目指す。

教科書 /Textbooks

三浦省五・深澤清治（編著）『新しい学びを拓く英語科授業の理論と実践』ミネルヴァ書房
文部科学省 高等学校学習指導要領 外国語

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜プリントを配布する。なお、以下の教科書は教職資料室に保管しています。

ENGLISH NOW Revised Edition I・II 開隆堂 NEW WORLD ENGLISH COURSE I・II 三友社
Vivid Reading MEW EDITION 第一学習社 Onstage English Course I・II 池田書店
EXCEED English Series New Edition I・II 三省堂 PROMINENCE English I・II 東京書籍
"MAINSTREAM ENGLISH COURSE Second Edition I・II" 増進堂
Revised POLESTAR English Course I・II 数研出版 "Revised Edition SUNSHINE English Course I・II" 開隆堂
"PRO-VISION New Edition ENGLISH COURSE I・II" 桐原書店 ELEMENT English Course I・II 啓林館
Voyager English Course NEW EDITION I・II 第一学習社
"NEW EDITION UNICORN ENGLISH COURSE I・II" 文英堂
Genius English Course Revised I・II 大修館書店 CROWN English Series New Edition I・II 三省堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. コミュニケーション能力および英語科の評価論について
2. 学習指導要領および4技能の統合
3. リーディングの理論と実践 [理論編]
4. リーディングの理論と実践 [発展編]
5. 絶対評価について (高等学校編)
6. 学習指導案 (高等学校) の立て方
7. モデル授業の準備
8. モデル授業 (高等学校) [英語I]
9. モデル授業 (高等学校) [英語I以外の科目]
10. ALTに関わる英語論文を読む[論文前半]
11. ALTに関わる英語論文を読む[論文後半]
12. 韓国の英語教育に関する英語論文を読む[論文前半]
13. 韓国の英語教育に関する英語論文を読む[論文後半]
14. リスニング・スピーキングに関する英語論文を読む
15. 復習と試験の準備

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末の定期試験 (75%程度) を中心として、提出物 (15%程度) 及び授業参加度 (10%程度) を考慮に入れ、総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ・ 前もってプリントを配布したり、次回の授業内容に関連する教科書ページを予告する場合は、予習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 多少なりとも教員になるという意思をもって、履修すること。
- ・ 出欠席は厳密にとる。無断欠席は厳に慎むこと。
- ・ モデル授業の日程や英語論文のトピックは学生と相談した上で決定することになるので、シラバス内容に関しては柔軟に考えていただきたい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

英語科教育法B 【昼】

キーワード /Keywords

道徳教育の研究【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description
 この授業では、「学習指導要領」に規定されている「学校教育」（中学校・高等学校の教育；参考のために小学校の教育も含む）における「道徳教育」の理念と具体的な実践方法について学習する。

教科書 /Textbooks
 『中学校学習指導要領』及び『高等学校学習指導要領』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード	
1回 「学校教育」における道徳教育の構造	【学校教育の全領域】
2回 「各教科」と道徳教育	【陶冶】【訓育】
3回 「特別活動」と道徳教育	【学級活動】【生徒会活動】【学校行事】
4回 「総合的な学習の時間」と道徳教育	【横断的・総合的な学習】【活動】
5回 「道徳の時間」と道徳教育	【道徳の時間の指導内容】【全体計画】
6回 「道徳の時間」の指導過程	【指導方法】
7回 「道徳の時間」の指導技術	【学習指導案】【指導技術】
8回 「道徳の時間」と「モラルジレンマ」	【ジレンマ教材】【対立・葛藤】
9回 「道徳の時間」と「役割演技」	【動作化】【ロール・プレイ】
10回 「道徳の時間」と「アサーション」	【主張】
11回 「道徳の時間」と「エンカウンター」	【出会い】【構成的グループエンカウンター】
12回 「道徳の時間」と「作文」	【教育的リアリズム】【教育的ヒューマニズム】
13回 「道徳の時間」と「体験」	【自然体験】【社会体験】
14回 「道徳の時間」の「指導事例」	【指導技術】
14回 「道徳の時間」の「模擬授業」	【評価】
15回 まとめ	

成績評価の方法 /Assessment Method
 平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 3 【昼】

担当者名 /Instructor 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科, 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科
 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科, 兎玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 4年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育実習校において教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 【 】内はキーワード
- 第 1 回 ; 実習校実習① 【教育実習指導】
 - 第 2 回 ; 実習校実習② 【教育実習指導】
 - 第 3 回 ; 実習校実習③ 【教育実習指導】
 - 第 4 回 ; 実習校実習④ 【教育実習指導】
 - 第 5 回 ; 実習校実習⑤ 【教育実習指導】
 - 第 6 回 ; 実習校実習⑥ 【教育実習指導】
 - 第 7 回 ; 実習校実習⑦ 【教育実習指導】
 - 第 8 回 ; 実習校実習⑧ 【教育実習指導】
 - 第 9 回 ; 実習校実習⑨ 【教育実習指導】
 - 第 10 回 ; 実習校実習⑩ 【教育実習指導】
 - 第 11 回 ; 実習校実習⑪ 【教育実習指導】
 - 第 12 回 ; 実習校実習⑫ 【教育実習指導】
 - 第 13 回 ; 実習校実習⑬ 【教育実習指導】
 - 第 14 回 ; 実習校実習⑭ 【教育実習指導】
 - 第 15 回 ; 実習校実習⑮ 【教育実習指導】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語科教育法C 【昼】

担当者名 /Instructor クレイグ・ランバート / Craig P. Lambert / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 授業形態 講義 /Class クラス 2年

対象入学年度

/Year of School Entrance

2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
						○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The purpose of the course is to prepare future Japanese teachers of English to design and sequence communicative tasks for Japanese junior high school students to be implemented parallel to the structural syllabus of the Japanese Ministry of Education in order to develop their learners functional skills in using English fluently for communication. Students are strongly requested to take "Teaching Method of English C" given by Professor ITO with this course.

教科書 /Textbooks

Materials will be provided by the instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Ellis, R. 2009. Task-Based Language Teaching: Sorting Out the Misunderstandings
Yule, G. 1997. Referential Communication Tasks
○文部科学省 中学校学習指導要領 外国語

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Different approaches to language teaching: pros and cons
2. The role of communicative tasks in language learning
3. Performance of description tasks
4. Guidelines for designing description tasks
5. Peer-teaching of own description tasks
6. Teaching methods: focusing on form
7. Performance of Instruction tasks
8. Guidelines for designing instruction tasks
9. Peer-teaching of own instruction tasks
10. Performance of task sequences
11. Guidelines for sequencing tasks into lessons
12. Peer-teaching of own task sequences
13. Sequencing tasks over the school year
14. Implementing task work in junior high school classes
15. Planning a parallel communication course for beginners

成績評価の方法 /Assessment Method

50% Weekly preparation and practice teaching
50% Materials development project

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

The learners will be required to attend class regularly and apply the ideas that they learn to practical projects for improving communication skills within the context of the Japanese junior high school curriculum.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語科教育法D 【昼】

担当者名 伊藤 健一 / Kenichi ITO / 英米学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「英語科教育法」は、中学校、高等学校の英語科教員を目指す人のために、実際に教壇に立って授業をすることはもとより、授業の準備、練習問題（試験問題）の作成、成績評価に至るまでを概括し、現代のニーズに応える英語教育を実践していくための、実践的な授業です。2学期開講の「英語科教育法D」では、主に高等学校の英語科教員養成に必要な知識を提供するとともに、実際に皆さんに模擬授業をしていただきます。したがって、ただ講義を聴くのではなく、それをどのように実践力に変えていくのか、という目的意識を持っていただきたいと思います。模擬授業に関しては、他の人が授業を行なっているときも、自分の身に置き換えて、教育実習や実際に教員となったときに生かせるよう、積極的な姿勢で臨んでいただきたいと思います。黒板やスライドなど、板書の仕方についても指導します。

なお、この授業は、森千鶴先生開講の「英語科教育法B」と整合性を保つよう考慮してはいますが、適正なクラスサイズで一貫性のある英語科教育法の授業を提供するために、原則としてランバート先生担当の「英語科教育法C」とあわせての受講を強くお勧めします。

教科書 /Textbooks

講師作成のプリント教材を用意します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○文部科学省 高等学校学習指導要領 外国語

上記の文献については、かならずご一読ください。その他の参考文献は授業時に必要に応じて紹介します。なお、以下の教科書は教職資料室で保管していますので閲覧可能です。

- ・ ENGLISH NOW Revised Edition I・ II (開隆堂)
- NEW WORLD ENGLISH COURSE I・ II (三友社)
- Vivid Reading MEW EDITION (第一学習社)
- Onstage English Course I・ II (池田書店)
- EXCEED English Series New Edition I・ II (三省堂)
- PROMINENCE English I・ II (東京書籍)
- MAINSTREAM ENGLISH COURSE : Second Edition I・ II (増進堂)
- Revised POLESTAR English Course I・ II (数研出版)
- Revised Edition SUNSHINE English Course I・ II (開隆堂)
- PRO-VISION New Edition ENGLISH COURSE I・ II (桐原書店)
- ELEMENT English Course I・ II (啓林館)
- Voyager English Course NEW EDITION I・ II (第一学習社)
- NEW EDITION UNICORN ENGLISH COURSE I・ II (文英堂)
- Genius English Course Revised I・ II (大修館書店)
- CROWN English Series New Edition I・ II (三省堂)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第01回 新しい時代の英語教育を目指して：カリキュラムの説明
- 第02回 英語教授法の史的変遷
- 第03回 学習指導案の作成
- 第04回 コミュニケーション能力、その増強のために
- 第05回 ALTとのチームティーチング
- 第06回 リーディングの指導（概説）
- 第07回 リーディングの指導（模擬授業）
- 第08回 文法・作文の指導（概説）
- 第09回 文法・作文の指導（模擬授業）
- 第10回 オーラル・コミュニケーションの指導（概説）
- 第11回 オーラル・コミュニケーションの指導（模擬授業）
- 第12回 テストの作成と生徒の評価
- 第13回 CALLを活用した授業
- 第14回 まとめとしての模擬授業
- 第15回 英語科教員としての責任と課題（授業の総まとめ）

成績評価の方法 /Assessment Method

本科目は講義科目と演習科目の両面の正確を持っていきますので、学期末試験の成績を基本として評価するつもりですが、それだけでなく通常の授業での発表やディスカッション等への参加姿勢を加味して、総合的に評価します。そのため、模擬授業などへ積極的に参加された方は評価が高くなります。

英語科教育法D 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

英語を教える場は、必ずしも中学校、高等学校だけとは限りません。塾や民間の英会話スクールなどで英語を教えることもあるでしょうが、基本的に教職を目指す人のための授業であるということを踏まえ、安易な気持ちでなく、責任感を持って参加していただきたいと思います。課題などをお願いする際は、必ず仕上げ、提出または発表をしていただきたいと思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

厳しいことをたくさん記しましたが、英語を学び教えることは、本来楽しいことです。楽しく、その上で気持ちをしっかりこめて、授業を行なっていきたいと思っています。

キーワード /Keywords

教師論 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教職の意義、教員の役割、教員の職務内容等に関する知識を習得し、教職についての理解を深め、教職について多角的に考察し、教職についての意欲や適性等を熟考し、「学生が教員としての適格性を持つためにどのような努力をしていけばよいのか」ということを含めて、進路選択について指導・助言を受ける。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【】 内はキーワード)	
1回 学校教育と教職の意義	【学校教育】 【教職】
2回 学校教育と教員の役割	【学校】 【教育】 【教員の役割】
3回 学校教育の「目的」	【教育目的論】
4回 学校教育の「内容」と「方法」	【教育課程】 【教育課程の編成原理】
5回 教員の職務内容と「生徒指導」	【教員の職務】 【生徒指導の伝統】
6回 キャリア教育	【職業選択の基礎理論】 【進路選択】
7回 教員の使命	【教育の論理】 【生活の論理】
8回 「生きる力」と教員の役割	【青少年の意識】 【愛と要求】
9回 「自主的な問題解決」と教員の役割	【自主性】 【生徒の意識】
10回 「いのちの教育」と教員の役割	【生と死の教育課程】
11回 「身体の教育」と教員の役割	【健康管理】 【食教育】 【排便教育】
12回 「喫煙防止」と教員の役割	【未成年者喫煙防止法】
13回 「掃除」と教員の役割	【学校掃除】 【掃除の指導】
14回 「評価」「懲戒」と「体罰」の相違	【評価の種類】 【体罰】
15回 教員の「資質」と「適格性」 / まとめ	【指導】 【管理】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育原理 【昼】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育における問題について、実践事例もふまえながら考察する。

教科書 /Textbooks

なし。プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 発達と教育
- 2回 教育の方法
- 3回 教育の関係
- 4回 諸外国の教育思想
- 5回 日本の教育思想
- 6回 諸外国の教育史
- 7回 日本の教育史
- 8回 学校とは何か
- 9回 現代の学校が抱える課題
- 10回 家庭教育の基礎と現代的課題
- 11回 メディアと教育
- 12回 職業と教育
- 13回 国際化と教育
- 14回 生涯学習社会における教育
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 20% 課題 20% 最終課題(試験) 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教育について興味・関心をもって臨むこと。
配布したレジュメ・資料をよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発達心理学【昼】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ひとの誕生から乳児期、幼児期、児童期、青年期までの人間の発達を概観し、各発達段階における特徴的なテーマを通して人間の発達に関する心理学的理解を深める。
同時に、発達の過程で生じる障害の発生機序について、発達障害、知的障害の問題等を取り上げ、その基本的な理解を築いていく。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：発達心理学とは何か
- 第2回 胎児期【生まれるまでの子どもの発達過程】
- 第3回 誕生と新生児期
- 第4回 赤ちゃんの知覚能力
- 第5回 学習能力と行動習慣の獲得
- 第6回 運動発達と相互的やり取りの基盤
- 第7回 愛着の機能と発達【愛着の個人差、世代間伝達】
- 第8回 共同注意と言語発達
- 第9回 他者の心を理解する【心の理論】
- 第10回 児童期における社会性の発達
- 第11回 青年期における論理的思考の発達
- 第12回 アイデンティティの模索【自我同一性、モラトリアム】
- 第13回 成人期・老年期の発達【家族形成、人生の終焉】
- 第14回 発達障害の発生機序について【発達障害、知的障害を中心に】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育制度【昼】

担当者名 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育制度に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育制度における問題について、諸外国の事例もふまえながら考察する。

教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて、プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 教育制度の基本原則 教育制度とは 日本の教育法制
- 2 回 学校制度の基本的事項 (1) 機会均等、学校教育における中立性等
- 3 回 学校制度の基本的事項 (2) 義務教育、学校体系等
- 4 回 教員に関する制度 教員免許法制、公務員としての教師、教員の指導力と研修等
- 5 回 教育行財政の仕組み 中央教育行政、地方教育行政、教育委員会と学校等
- 6 回 生涯学習の制度 成人教育、学校教育と社会教育の連携等
- 7 回 教育制度改革の動向 学校選択制、学校評価等
- 8 回 教育課程の意義と編成 (1) 学習指導要領、教科書・教材等
- 9 回 教育課程の意義と編成 (2) 学校の教育課程編成
- 1 0 回 学校における教育課程経営
- 1 1 回 「カリキュラム・マネジメント」と学校改善
- 1 2 回 教育課程の評価
- 1 3 回 教育課程の開発
- 1 4 回 今日の課題と教育課程
- 1 5 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題 (試験) 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教育について興味・関心をもって臨むこと。
配布したレジュメ・資料をよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別活動の研究【昼】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、以下の課題を柱として取り組んでいきたい。

- ① 「中学校学習指導要領」及び「高等学校学習指導要領」の「特別活動」の目的、領域(学級活動、生徒会活動、学校行事)の理解を理論的、実践的に深めること。
- ② 子どもたちがお互いの生きづらさや葛藤を理解し、表現しあう中で、お互いを支え合える関係づくりを学級活動の中で築いていくための課題と実践方法を検討していくこと。
- ③ 市民社会の担い手に求められる市民的スキルを学級活動などを通じて獲得させていく方法を実践的に学習すること。
- ④ 子どもたちの自己効力感、自己有用感を育み、自治の力を育む生徒会活動、学校行事のあり方について、具体的な実践報告を踏まえつつ検討していくこと。
- ⑤ 上記の理念と実践を踏まえて、学級経営、学校行事の指導計画の作成方法を学習すること

教科書 /Textbooks

楠 凡之著「いじめと児童虐待の臨床教育学」(ミネルヴァ書房)、主要には第7章を使用する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

中学校学習指導要領 及び高等学校学習指導要領 特別活動
折出健二編 2008 「特別活動」(教師教育テキストシリーズ) 学文社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体オリエンテーション - 「特別活動」の意義
- 2回 「中学校学習指導要領」及び「高等学校学習指導要領」の「特別活動」の目的・領域について
- 3回 参加者の現実の学校体験から、学級活動の課題を考える。
- 4回 子ども達の対人関係スキルを育てるHR活動 その1
- 対立解決 (conflict resolution) の多様なパターン
- 5回 子どもたちの対人関係スキルを育てるHR活動 その2 - WinWin型で解決するために
- 6回 子どもたちの対人関係スキルを育てるHR活動 その3 - ロールプレイの取り組み
- 7回 すべての子どもの居場所となる学級集団指導の留意点
- 8回 学級経営の指導計画案の作成
- 9回 子どもたちの自治の力を育てる生徒会活動の課題と方法
- 10回 子ども達の自治の力を育てる学校行事の課題 - 体育祭の取り組み
- 11回 子ども達の自治の力を育てる学校行事の課題 - 文化祭・合唱コンクールの取り組み
- 12回 子どもたちの自治の力を育てる学校行事の課題 - 修学旅行の取り組み
- 13回 荒れている学級をどう立て直すか? - 中学校の実践
- 14回 荒れている学級をどう立て直すか? - 高等学校の実践
- 15回 学校行事の指導計画案の作成

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点40%、期末試験60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受け身的な参加では実践的指導力は身に付かない。積極的な態度での参加を心がけること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は人間関係学科の専門科目にもなっていますが、基本は教職課程の科目です。教師をめざす学生に求められる真摯な授業態度や積極的な活動への参加を期待します。

キーワード /Keywords

学級集団づくり、対立解決のスキル、自治能力の育成

教育方法学【昼】

担当者名 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業では、各教科を実際に指導する授業の場面を想定し、学習指導案の作成や教材研究等を組み入れて、将来の高度情報社会に生きる生徒に必要な資質を養うための、情報機器及び教材の活用を含んだ実践的な教育の方法の理論と技術を習得する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山下政俊・湯浅恭編著『教育の方法』ミネルヴァ書房、他

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 「教育の方法」とは何か 【教育の方法の形態】【比喻・モデル】
- 2回 20世紀までの「教育の方法」の遺産 【指導】【管理】【生活と文化】【対話】
- 3回 「現代」の「教育の方法」 【連続と非連続】【現代化】
- 4回 「新しい時代」の教師の「指導技術」 【教師の資質能力】【ファシリテーター】
- 5回 「情報機器」と「教材」の活用 【メディアリテラシー】【情報活用能力】
- 6回 「情報化社会」における生徒の指導 【情報化社会】【インターネット】
- 7回 「学習遅滞」の指導 【学習遅滞】【SHELLモデル】
- 8回 教師と生徒の「コミュニケーション」 【話す】【聞く】
- 9回 「学習規律」を育てる指導方法 【出席と参加】【学習規律】
- 10回 各教科指導の「具体的システム」 【学習指導要領】【学習のシステム】
- 11回 各教科指導の「構想」と「教材研究」 【授業の三角形モデル】【事前の教材解釈】
- 12回 各教科指導の「学習指導案」 【指導】【学習活動】【指導上の留意点】
- 13回 各教科指導の「展開過程」における「指導技術」 【発問】【説明】【指示】【助言】
- 14回 各教科指導における「評価」 【授業評価】【自己評価】
- 15回 「模擬授業」 - 各教科指導に向けて - 【実践的な指導】【各教科の授業】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育工学【昼】

担当者名 /Instructor 大塚 一徳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は、教員免許を取得するにあたって必要な教育方法・技術、教材と教具、指導方法等を学び、授業の実践的指導力の基礎を養うことを目標とする。また近年の著しいICT(情報通信技術)の進展を踏まえ、PCやWebを活用した教材作成の方法・技術の修得の基礎についても概観する。さらに、模擬授業の実施及び評価等を通して、教育の方法と技術の実践的活用能力の基礎を育成し、各教科等の指導に最小限必要な資質について学ぶことを主なねらいとする。

教科書 /Textbooks

指定しない。必要な資料を適宜事業で配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中学校学習指導要領 平成20年3月告示 東山書房 244円
 高等学校学習指導要領 平成21年3月告示 東山書房 588円
 平沢茂編著 教育の方法と技術 図書文化2000円
 小川哲生他著 教育方法の理論と実践 明星大学出版部 1500円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
1. オリエンテーション【本授業の内容・進行・評価方法】
 2. 授業と教育方法【教育方法】
 3. 授業と教育技術【教育技術】
 4. 授業のシステム化の方法と授業設計の手順【授業設計】
 5. 授業過程の分析と改善【授業過程】
 6. 授業実施の技術【授業技術】
 7. 授業の評価【授業評価】
 8. 教育における情報化社会の影響【情報化社会】
 9. 教育におけるICT(情報通信技術)の活用【ICT】
 10. 学習指導案の作成【学習指導案】
 11. 教材研究【教育メディアとその活用】
 12. 模擬授業【模擬授業】
 13. テストと学習内容の評価【テスト】
 14. 授業実践能力の改善と向上【教育の方法と技術の実践能力】
 15. 現代の教育課題と講義のまとめ【現代の教育課題】

成績評価の方法 /Assessment Method

教材研究課題(20%)、模擬授業(30%)、試験(50%)により総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教材研究、模擬授業等に関する課題の提出は必須の課題となります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 1 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科, 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科, 兎玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

4年次の「教育実習」(実習校実習)に向けて、実習生として必要な心構えや学習指導及び生徒指導等の理論や知識・技術を習得する。

教科書 /Textbooks

北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード	
1回 オリエンテーション	【教育実習】【実習校】
2回 教育実習の1日	【教育実習の実態】【教師の勤務】
3回 教育実習の体験から学ぶ(中学)	【教科指導】【学級経営】
4回 教育実習の体験から学ぶ(高校)	【教科指導】【学級経営】
5回 学級経営について	【学級集団づくり】【学級通信】
6回 生徒の問題状況と生徒指導	【生徒指導】【生徒理解】
7回 生徒指導と教育相談	【生徒理解】【生徒指導体制】
8回 授業観察の方法	【授業観察の視点】【授業記録シート】
9回 生徒の人権と教育	【人権】【自尊感情】
10回 参加型授業の実践	【参加】
11回 教材研究と授業構想	【教材研究】【学習指導案】
12回 模擬授業①(中学・高校)	【授業構成】【導入】
13回 模擬授業②(中学・高校)	【授業構成】【展開】
14回 模擬授業③(中学・高校)	【授業構成】【練習】【応用】
15回 模擬授業④(中学・高校)	【指導技術】【発問】【説明】【指示・助言】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況の評価(25%) 学期末の提出物の評価(75%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の事前に指示されたことを準備すること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 2 【昼】

担当者名 /Instructor 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科, 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科
楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科, 兎玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

- ①教育実習生として必要な心構えや、指導方法等について学習する(事前指導)
- ②教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める(実習校実習)
- ③実習校実習で得た成果や反省すべき事項等を整理し、今後の課題を考察する(事後指導)

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード	
第 1回 ; オリエンテーション	【勤務】【連絡】
第 2回 ; 中学校における教育実習	【中学生の特質】【中学生への支援】
第 3回 ; 高等学校における教育実習	【高校生の特質】【高校生への支援】
第 4回 ; 実習校実習①	【教育実習指導】
第 5回 ; 実習校実習②	【教育実習指導】
第 6回 ; 実習校実習③	【教育実習指導】
第 7回 ; 実習校実習④	【教育実習指導】
第 8回 ; 実習校実習⑤	【教育実習指導】
第 9回 ; 実習校実習⑥	【教育実習指導】
第 10回 ; 実習校実習⑦	【教育実習指導】
第 11回 ; 実習校実習⑧	【教育実習指導】
第 12回 ; 実習校実習⑨	【教育実習指導】
第 13回 ; 実習校実習⑩	【教育実習指導】
第 14回 ; 実習校実習⑪	【教育実習指導】
第 15回 ; 教育実習反省会	【教師の資質】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育相談【昼】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

授業の目的は以下のとおりである。

1. 学校での教育相談の意義と課題、教育相談の領域(開発的教育相談、予防的教育相談、治療的教育相談(問題解決的教育相談)、学校教育の中での位置づけについての基本的な理解を持つこと。
2. 教育相談、カウンセリングの基本的な理念と技法(傾聴、共感的応答、開かれた質問、直面化など)を修得すること。
3. 不登校やいじめなど、様々な問題を表出している児童、生徒に対する理解を深めていくと同時に、児童・生徒に対する指導、援助の留意点について、具体的な教育相談の事例や実践を紹介しつつ、検討していきたい。
4. 子どもの「最善の利益」を一致点とした保護者との共同、関係諸機関との共同に向けての課題を明らかにしていくこと。

教科書 /Textbooks

「いじめと児童虐待の臨床教育学」(ミネルヴァ書房)をテキストとして使用する。本授業では主に第一部(1~4章)を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 広木克行 「教育相談」(教師教育テキストシリーズ) 学文社
- 吉田圭吾 教師のための教育相談の技術 金子書房
- 日本学校教育相談学会 学校教育相談学ハンドブック ほんの森出版
- 一丸藤太郎・菅野信夫編著 学校教育相談 ミネルヴァ書房
- 伊藤美奈子・春日井敏之編 よくわかる教育相談 ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 教育相談の意義と3つの領域(開発的教育相談、予防的教育相談、治療的教育相談(問題解決的教育相談))
- 3回 学校カウンセリングの教育相談の基本的な理念について
- 4回 教育相談の基本的なスキルについて - 共感的応答
- 5回 教育相談の基本的なスキルについて - 開かれ質問
- 6回 教育相談の基本的なスキルについて - ロールプレイ実習
- 7回 不登校の子どもに対する教育相談
- 8回 発達障害の子どもに対する教育相談
- 9回 子どもの問題をめぐる保護者との共同・連携の課題
- 10回 教育相談活動における連携について - スクールカウンセラーとの連携に視点をあてて
- 11回 教育相談活動における連携について - スクールソーシャルワーカー等との連携
- 12回 薬物問題に対する理解と援助(北九州ダルクの講演)
- 13回 今日のいじめ問題に対する理解と教育相談① - 前思春期
- 14回 今日のいじめ問題に対する理解と教育相談② - 思春期
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(感想レポート等)30%、レポート15%、期末試験55%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストは早め読み、基本的な知見をもった上で授業に望むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教育相談【昼】

キーワード /Keywords

教育相談の理念と技法、いじめ問題、不登校問題

生徒・進路指導論【昼】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は以下のとおりである。

- ① 生徒指導の意義と課題について、生徒指導の目的、生徒指導の3機能(①児童生徒に自己存在感を与えること、②共感的な人間関係を育成すること、③自己決定の場を与え、自己の可能性の開発を援助すること)を理解するとともに、開発的生徒指導、予防的生徒指導、治療的生徒指導)の区別と関連などを検討していくこと
- ② 養育環境や発達上の困難な課題を抱える子どもの内面に寄り添う生徒指導の課題について検討していくこと。
また、実際の生徒指導の場面を想定して、その場面での対応を考える力を養うこと。
- ③ 思春期の人格発達(「価値的自立」)の過程を踏まえた進路学習、進路指導の意義と課題について、今日の社会情勢も含めつつ検討していくこと。
また、実際の進路指導の場面に関する適切な指導のあり方を考える力を養うこと。

教科書 /Textbooks

テキストとして、「いじめと児童虐待の臨床教育学」(ミネルヴァ書房)の第II部と第III部8章を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 片山紀子 入門 生徒指導 - 「生徒指導提要」を踏まえた新しい生徒指導のありかた 学事出版
- 桑原憲一編 中学校教師のための生徒指導提要実践ガイド 明治図書
- 文部科学省 中学校キャリア教育の手引き
- 国立教育政策研究所生徒指導研究センター 「キャリア教育のすすめ」
- 日本キャリア教育学会 キャリア教育概説 東洋館出版
- 見美川孝一郎 権利としてのキャリア教育 明石書店
- キャリア発達論 - 青年期のキャリア形成と進路指導の展開 ナカニシヤ出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション - 生徒・進路指導論の課題
- 2回 学校現場での生徒指導の実践
- 3回 生徒指導の基本 その1 生徒指導の三機能と、開発的生徒指導、予防的生徒指導、治療的生徒指導
- 4回 生徒指導の基本 その2 毅然たる指導、ゼロトランス他
- 5回 実際の生徒指導場面での紙上応答練習
- 6回 「我が子の非行と向き合う親たちの会」の方の講演
- 7回 対人関係でのトラブルを繰り返す生徒に対する理解と指導(女子生徒の事例から)
- 8回 対人関係でのトラブルを繰り返す生徒に対する理解と指導(男子生徒の事例から)
- 9回 思春期の「自己形成モデル」の意義と進路学習
- 10回 中学校の進路指導実践 - 「ようこそ先輩」の取り組み
- 11回 中学校における職場体験学習と進路指導
- 12回 今日の高등학교の問題状況と進路指導の課題
- 13回 進路指導の場面を想定してのロールプレイ実習
- 14回 被虐待児に対する理解と援助 - 感想レポートの紹介とコメント
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(感想レポートなど)30%、レポート20%、期末試験50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストの5, 6章, 8章をしっかりと読み込んで授業に臨むこと。

履修上の注意 /Remarks

生徒・進路指導論【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生徒指導の三機能、児童虐待、進路指導

教育心理学【昼】

担当者名 /Instructor 五十嵐 亮 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、学校教育現場や地域社会、家庭における子どもの「学び」と、それらを育む学習教育環境（教育測定・評価、教師、カリキュラム、学級集団など）の在り様に関して、主に心理学的側面に注目しながら理解を深めていく。
 本講義では、子どもの「学び」に関わる理論や実践例を、代表的な研究者の考え方、日常的な具体例を取り上げながら学習することを通して、上記の問題に関して、「心理学的視点から自分の考えを持てるようになること」を目標とする。
 講義を中心としながら、日常的な具体例を通して実際の関わり方を考えることのできる機会を毎回設けていく。

教科書 /Textbooks

指定せず（毎回配布資料を用いる）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に随時情報を提供する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回オリエンテーション
- 第2回教育心理学の理論と方法 【行動主義・認知主義】、【社会文化理論】
- 第3回子どもの「学力」(1)：関心・意欲 【自己効力】、【学習性無力感】
- 第4回子どもの「学力」(2)：知識・理解 【知識の種類・体制化】、【学力低下論争】
- 第5回子どもの「学力」(3)：思考・判断 【問題解決】、【転移と領域固有性】
- 第6回子どもの「学力」(4)：表現・技能 【リテラシー】、【プロジェクト学習】
- 第7回教育測定・評価(1) 【測定学力】、【目標学力】
- 第8回教育測定・評価(2) 【評価基準】、【テスト作成】
- 第9回教師と授業づくり(1) 【教師の思考様式】、【教師の信念体系】
- 第10回教師と授業づくり(2) 【学級経営】、【グラウンド・ルール】
- 第11回教師と授業づくり(3) 【学びの共同体】、【教師の同僚性】
- 第12回カリキュラムと学習材 【課題分析】、【目標分類】
- 第13回学習環境と教育方法(1) 【学習集団編成】、【集団力学】
- 第14回学習環境と教育方法(2) 【習熟度別学習】、【協働学習理論】
- 第15回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の学習状況（学習態度、ミニレポート等）...30%
 レポート...20%
 学期末試験...50%
 （ミニレポートは、毎回講義時間内（10分）に記述する）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回講義中に情報提供する参考書を読んでもらうと、理解がより深まると思われる（可能な限り、図書館利用可能な書籍を提示する）。
 自らの教授学習経験と重ね合わせながら、「自分だったらどうするだろうか」「どうしてほしいだろうか」という当事者意識を持って、積極的に受講してほしい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育法規【昼】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育法規に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育法規における問題について、実践事例もふまえながら考察する。

教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて、プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 生徒指導と教育法規
- 2回 生徒の懲戒
- 3回 いじめ・不登校と教育指導
- 4回 組織としての学校における教員
- 5回 教員の指導力と研修
- 6回 教員の懲戒
- 7回 教育活動と著作権
- 8回 教育情報の取り扱い
- 9回 教育情報の発信
- 10回 子どもの健康と学校の安全
- 11回 中央教育行政と地方教育行政
- 12回 地方教育行政と学校
- 13回 保護者・地域と学校
- 14回 保護者・地域の教育参加・連携
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 40% 最終課題(試験) 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義だけでなく、グループ討論、模擬授業、実技等も含む参加型の授業を予定している。それぞれの回において積極的に臨めるよう、十分な準備を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人権教育論 【昼】

担当者名 /Instructor 弓野 勝族 / YUMINO MASATSUGU / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育現場及び日常生活での人権問題の具体的な事象に学びながら、人権教育の知識を豊かにするとともに、人権感覚を研ぎ、人権問題解決への技能・スキル・態度を培う。

教科書 /Textbooks

「手作り資料」を活用します

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

人権の絵本(大月書房)、みんなの人権(明石書店)、世界が100人の村だったら(マガジンハウス)、人権・同和問題一問一答(解放出版社)、差別と日本人(角川書店)、もののけ姫(徳間書店)、他。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「世界が100人の村だったら」【世界共通の偏見や差別の根っ子と差別のしくみ】【非識字者・同性愛者の人権】【人権教育のスキル・技能】
- 第2回 いじめ差別①(現状認識)【いじめ差別の事例(新聞記事・中高生・大学生の体験)】【各種調査(教育白書・国際調査等)】
- 第3回 いじめ差別②(構図と課題、解決への基礎基本の知識)【いじめ差別の構図(しくみ)と加害者・傍観者の心理】【文部科学省のいじめ定義】【道徳教育と人権教育の相違点】
- 第4回 いじめ差別③(解決への教育創造)【文部科学省の「人権教育の指導方法の在り方」】【金子みすず「教科書の詩」「東大入試問題」】【自尊感情と学力形成の相関関係】【学校文化と子どもの居場所づくり】
- 第5回 子どもの人権と児童虐待防止法【児童虐待の現状認識(新聞記事・教育白書等)】【教師の責務と教育・啓発の教育創造】
- 第6回 ものけ姫①(メッセージからの課題)【物語の時代背景と登場人物から課題の整理】【ハンセン病問題と国の隔離政策】【国家賠償と社会復帰】
- 第7回 ものけ姫②(メッセージからの課題)【女性差別の歴史】【学校現場における「改正男女雇用機会均等法」「男女共同参画社会基本法」を考える】
- 第8回 同和問題との出会い直し①(身分制度の歴史・中世)【身分差別をつくったのは、誰?】【中世の社会や文化のしくみと、国民的課題の意義】
- 第9回 同和問題との出会い直し②(身分制度の歴史・近世)【身分制度(身分統制令)をつくったのは、誰?】【「賤民」身分にされたのは、どんな人々?】【一向一揆、鉄砲・キリスト教の伝来、島原の乱と身分制度の確立の歴史と国の責務の意義】
- 第10回 同和問題との出会い直し③(解体新書、俳人と身分制度)【解体新書の腑分けをしたのは、どんな人?】【一茶・蕪村・芭蕉の人権感覚】
- 第11回 同和問題との出会い直し④(文学者と部落差別)【小説「破戒」(島崎藤村)と「橋のない川」(住井すゑ)】
- 第12回 同和問題との出会い直し⑤(結婚差別)【結婚差別の事例からの課題と解決への展望】【しきたり・ならわし・慣習との出会い直し】
- 第13回 同和問題との出会い直し⑥(人権文化の創造)【教科書無償・全国統一応募用紙・奨学金制度】
- 第14回 同和問題との出会い直し⑦(国の施策)【1965年の同和対策審議会・答申の意義】【1996年の地域改善対策協議会・意見具申の意義】
- 第15回 同和問題との出会い直し⑧(人権文化のまちづくり)【各地の人権文化のまちづくりの現状】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況の評価(30%)及び学期末のレポートによる評価(70%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の中で課題を出します

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

歴史と政治【夜】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ペリー来航（1853）から敗戦（1945）までの日本政治の歩みを外交政策の展開と関連させて概説する。日本のことを知らないで、国際化社会に対処することはできません。この講義では、日本近代史を学び直すことを通じて、21世紀にふさわしい歴史的感覚を涵養していきます。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○伊藤之雄『明治天皇』（ミネルヴァ書房）、○小林道彦『児玉源太郎』・『桂太郎』（ともにミネルヴァ書房）、○岡義武『山県有朋』（岩波新書）、○岡義武『近衛文麿』（岩波新書）、○高坂正堯『宰相吉田茂』など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 明治維新【維新の三傑】
- 第3回 不平等条約と条約改正
- 第4回 明治14年政変と朝鮮問題【伊藤博文】
- 第5回 日清戦争【陸奥宗光】
- 第6回 明治憲法体制【伊藤博文】
- 第7回 日露戦争【山県有朋】
- 第8回 大正政変 - 国家経営構想の分裂 - 【桂太郎】
- 第9回 21カ条要求【大隈重信】
- 第10回 原敬と協調外交【原敬】
- 第11回 二大政党制と外交政策【加藤高明】
- 第12回 政党政治と満州事変【浜口雄幸】
- 第13回 2・26事件と日中戦争【近衛文麿】
- 第14回 太平洋戦争【東条英機】【吉田茂】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み... 10% 課題... 10% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「ただ聴くだけ」という受講態度は許されない。講義前に高校教科書レベルの知識を得ておくこと。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

家族を問う【夜】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

私たちが共同生活を営んでいる社会の最小単位である家族、信頼のおけるかけがえのない存在であるこの家族に今何が起きているのか。迷走し、混迷する家族の実像から、現代の家族が抱える問題点を明らかにしてみようと思っています。

教科書 /Textbooks

レジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 開講にあたって - 問題の出発点
- 2回 家族制度の歴史
- 3回 家族の機能
- 4回 ハードウェアとしての家族
- 5回 システムとしての家族① - しつけ・教育
- 6回 システムとしての家族② - 役割・役割分担
- 7回 システムとしての家族③ - 勢力・権威
- 8回 現代家族の課題① - 離婚の原因
- 9回 現代家族の課題② - 離婚制度
- 10回 現代家族の課題③ - 中高年の離婚
- 11回 現代家族の課題④ - 夫婦間暴力
- 12回 現代家族の課題⑤ - 児童虐待
- 13回 現代家族の課題⑥ - 家族の危機
- 14回 現代家族の課題⑦ - 高齢社会と家族
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み... 10% 定期試験... 90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布するレジュメに紹介した参考文献、図書館所蔵の関連図書を読み込むと理解を深めることができます。講義ノートを作成するよう心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人間と文化【夜】

担当者名 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「文化」という言葉から伝統芸能や芸術活動を連想する受講者も多いかもしれない。本講義では文化を「人間の生活様式を規定してきたもの」としてより幅広く考え、現代社会における多様な文化のありかたを基礎から考えることを目指す。
(おそらく大部分が)北九州周辺に在住の大学生という受講者にとってあたりまえである「常識」もまた、それまで生きてきた文化のなかで育まれたものである。グローバル化が進んだ現在でも、地域によって家族・親族関係のありかた、信仰のありかた、経済活動に関する考え方は大きく異なるものであり、その違いを理解するのが困難なこともある。本講義では、その違いについて逐一学ぶものではない。身近なようでつかみどころのない文化をどうとらえるか、自分なりの姿勢を身に着けるための手掛かりを学んでほしい。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。授業ではPower Pointを使用するが、それだけに頼らず、各自ノートをしっかり取ること。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 綾部恒雄・桑山敬己2006『よくわかる文化人類学』ミネルヴァ書房
- 奥野克己(編)2005『文化人類学のレッスン』学陽書房
- 春日直樹(編)2008『人類学で世界をみる』ミネルヴァ書房

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入：グローバルでローカルな世界を理解するてがかりとしての文化
第2回 異文化理解とは
- 第3回 家族は普遍的か？
第4回 生殖医療の時代の家族・親族関係を考える
第5回 親族・家族関係から社会関係への拡張
第6回 ジェンダー
第7回 伝統と普遍的価値観
- 第8回 中間試験 / 経済活動に見る文化①：導入
第9回 経済活動にみる文化②：贈与・交換とは
第10回 経済活動にみる文化③：現代の贈与・交換
第11回 開発の現場における「文化の差異」
第12回 「貧しさ」とは何か
- 第13回 中間試験の講評 / 文化と世界観①：儀礼
第14回 文化と世界観②：宗教・呪術・占い

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験 20%、期末試験 80% を基本に、エッセイによる授業貢献を適宜加点する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回最後の10-15分は授業の感想と、指定するトピック(次回のテーマに関するもの)についてのエッセイを記述し、提出してもらいます。次回の講義の冒頭で、提出されたエッセイの中から読み取れる「現在、受講者が持っている文化に関する常識」を導入に講義を進めます。専門分野に関わらず、日常的に新聞、雑誌、書籍などを読む習慣をつけ、自分の考えをまとめる訓練を心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

中間試験の無断欠席者および授業態度が目に見える受講生は、評価割合の枠を超えて大幅に減点する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義「人間と文化」では、文化について生活に密着した側面に注目しています。2年次以上対象の「文化と政治」を受講すると、文化についてより包括的な理解が深まります。

キーワード /Keywords

文化、個人と集団、世界観、経済活動、共同体、社会関係

ことばの科学【夜】

担当者名 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「ことば」は種としての「ヒト」を特徴づける重要な要素です。しかし、私たちはそれをいかにして身につけたのでしょうか。「ことば」はどのような構造と機能を持っているのでしょうか。「ことば」の構成要素を詳しく見ていくと、私たちが「ことば」のうちに無意識に体現しているすばらしい規則性が明らかになります。それは、狭い意味での「文法」ではなく、もっと広い意味での言語の知識です。この講義では、私の専門である生成文法の言語観に基づきながら、日本語、英語をはじめその他の言語のデータや最近の脳科学での発見を交え、「ことば」について考えていきます。

教科書 /Textbooks

配布資料・その他授業中に指示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『はじめて学ぶ言語学：ことばの世界をさぐる17章』大津由紀雄編著、ミネルヴァ書房、2009年。
- 『言語を生み出す本能(上)・(下)』スティーヴン・ピンカー著、椋田 直子訳、NHKブックス、1995年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 序(1)：ことばの不思議
- 第2回 序(2)：ことばの習得
- 第3回 ことばの単位(1)：音声と音韻
- 第4回 連濁・鼻濁音
- 第5回 ことばの単位(2)：語
- 第6回 語の基本：成り立ち・構造・意味
- 第7回 語の文法：複合語・短縮語・新語
- 第8回 言葉の単位(3)：文
- 第9回 動詞の自他
- 第10回 日本語と英語の受動態
- 第11回 数量詞
- 第12回 代名詞：「彼」「彼女」「自分」「自分自身」
- 第13回 時制と相：方言比較
- 第14回 ことばと脳：言語野と他の領域
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の態度...10% 課題...30% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際学入門【夜】

担当者名 伊野 憲治 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代の国際社会を理解するに当たっては、大きく2本の柱が必要となる。すなわち、①グローバル化のすすむ国際社会へ対応する形での研究(国際関係論、国際機構論、国際地域機構論、国際経済論、国際社会論など)と②世界の多様化に対応するための研究(地域研究、比較文化論、比較政治論など)である。本講義では、後者「地域研究」の問題意識、手法を中心に、現代国際社会理解に当たって、その有用性を考えてみる。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準等の説明。
- 第2回：現代の国際社会、現代国際社会理解の方法。【国際問題の変容】【グローバル化】【多様化】
- 第3回：「地域研究」の問題意識、「地域研究のルーツ」
- 第4回～6回：「地域研究」における総合的認識。【総合化】【全体像の把握】
- 第7回～9回：「地域研究」における文化主義的アプローチ。【文化主義】【オリエンタリズム】
- 第10回：「地域」概念、中間的まとめ。
- 第11回：「地域研究」の技法。【フィールドワーク】
- 第12回：「関わり」の問題。
- 第13回～14回：地域研究の視点、ミャンマー研究を事例として。
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

可能であるならば、本講義と共に、国際関係論、国際機構論、比較文化論などを履修することを勧める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養としての平和学 【夜】

担当者名 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

皆さんがこれまで漠然と認識してきた「戦争」や「平和」という既成概念を改めて真剣に問い返して、戦争アレルギーに基づく思考停止的反戦主義や現実性に乏しい理想主義的平和主義を廃し、現実的な平和思考を養うことを目的とします。一言で言えば「平和とは何か」がテーマです。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～5回 問題提起、戦争の定義
- 6回～8回 平和の定義、積極平和論
- 9回～11回 日本の平和主義
- 12回～13回 正戦論(正義の戦争はあるか)
- 14回 二重結果の原則
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生活世界の哲学【夜】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「生活世界」を講義全体のキーワードとして、初学者向けに社会哲学への手引きを行なう。この科目を真摯に受講すれば、20世紀のヨーロッパで展開された社会思想に関する基本的な知識が得られるだろう。具体的には、マックス・ヴェーバーからフランクフルト学派、ハンナ・アーレントにまで至る思想家たちの「近代」に対する基本的なスタンスを説明したあと、近年盛んに論じられている公共性と親密圏の交錯という問題に取り組む。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 姜尚中『マックス・ウェーバーと近代—合理化論のプロブレマティーク』御茶ノ水書房
- ハンナ・アーレント『人間の条件』(志水速雄訳)ちくま学芸文庫
- 斎藤純一『公共性(思考のフロンティア)』岩波書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 「近代」とはいかなる時代だったのか? (1) 【形式合理性】
- 3回 「近代」とはいかなる時代だったのか? (2) 【官僚制】
- 4回 「近代」とはいかなる時代だったのか? (3) 【工場労働】
- 5回 「近代」とはいかなる時代だったのか? (4) 【物象化】
- 6回 「近代」とはいかなる時代だったのか? (5) 【分業体制】
- 7回 「近代」とはいかなる時代だったのか? (6) 【近代科学の勃興】
- 8回 確認テスト
- 9回 生活世界論のはじまり【フッサールの近代批判】
- 10回 生活世界論のひろがり【アーレントの近代批判】
- 11回 公私の区別とその起源(1)【古代ギリシャ概説】
- 12回 公私の区別とその起源(2)【古代ギリシャにおける公と私】
- 13回 宗教の私事性と公的領域(1)【迫害と弾圧】
- 14回 宗教の私事性と公的領域(2)【社会との確執】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

確認テスト...50% 学期末試験...50%
(第8回に予定している確認テストを受験していない者は、自動的に期末試験の受験資格を失う。この場合、成績評価はE判定となる。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

高校世界史の教科書を一通り読み直しておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

1年生向け科目であることを考慮に入れ、分かりやすい講義となるよう心がけたい。しかし、2回にわたって実施する試験は、いずれも難度の高いものであることをあらかじめ認識しておくこと。単位取得のためには相当な努力と学習意欲が求められる。

キーワード /Keywords

生活世界 形式合理性 活動 ポリス

メンタル・ヘルスI【夜】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

メンタルヘルス（心の健康）の学習とは、病気や不適応事例の発生予防だけでなく、もっと幅広く、多くの「健康な生活人」の健康増進にも役立つような要件を学ぶことである。ストレス社会と言われる現代にあつては、メンタルのタフさがなければ生活人としての活動は難しい。身近なことでは学生生活そのものがさまざまなストレス源への対処を余儀なくされる。過剰なストレスは友人間や家族内の人間関係の悪化や学習意欲の低下、生活上の事故やミス、無気力や抑うつ症状などを生じさせる。本講義では一般的な心理学を基盤に「メンタルヘルス（心の健康）」を生涯発達（エリクソン理論）の視点からとらえながら、日々の生活を充実させるための、人生でのその時期、その時期でのストレスマネジメントの力を身につけることを目標とする。

教科書 /Textbooks

教科書はない。適宜資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「こころの旅」神谷美恵子著 みすず書房
 「こころと人間」中島俊介著、ナカニシヤ出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 以下のスケジュールで行う（【 】はキーワード）
- 1回 オリエンテーション，受講上の注意，講師自己紹介など。
 - 2回 心の健康を学ぶ目的。「心」とは「健康」とは。【心の健康】【生涯発達心理学】
 - 3回 乳幼児の心の健康を知る。【エリクソンの自我発達理論】
 - 4回 児童期の心の健康を知る 【勤勉性と劣等感】
 - 5回 思春期の心のありよう【第二反抗期】
 - 6回から11回 青年期から壮年期までの人生と心の健康 【豊かな心とは】
 同一性の視点から ・遊びと人生
 配偶者の選択 ・病いと人生
 - 12回から13回 発達の障がいについての理解 【自閉症】【アスペルガー - 】
 - 14回 健康な心と身体に行く末について。【老いと死の受容】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

成績評価の方法
 定期試験...50% 受講態度と勉学への熱意...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

当該個所に対する自分の課題や疑問を整理しておくこと。自分なりの意見をまとめておいて授業に臨むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

メンタル・ヘルスII【夜】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

メンタルヘルス（心の健康）を友情の哲学と呼んだ識者がいた。多様な文化・人間性を周囲・地域に認めようということである。心の健康な人とは異端・極端を認め、そこから思考しようと努力する人であり「一人ひとりの幸福な生き方を配慮し援助する実践的な思想」といえる。時代は多文化共生の生き方を求めている。本講座では、一般的な心理学を基盤にした「メンタルヘルスI」勘案しながら、さらにポジティブ心理学やアドラーや森田正馬の心理療法領域や平和や人権文化の視点から心の健康増進の要件を学ぶ。青年期における健康な生活スタイルにも言及したい。欧米の理論も紹介しながら、特にわが国の文化的背景から出てきた、心の健康法にもふれることにより、受講者自身のセルフカウンセリングの能力がさらに高まることを期待したい。

教科書 /Textbooks

テキスト 特に設けない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業内容とタイムスケジュール (【 】はキーワード)

- 1回 オリエンテーション。受講上の注意など。【健康行動と感情】
- 2回 心的態度と生き方のセルフチェック【あるがまま・とらわれ】
- 3回～5回 人間の発達と自己形成【コフト理論やアドラー心理学などの理論紹介】
- 6回～8回 心の体操。自分の価値観を知る。自分の人間関係スキルを磨く。【傾聴・対話】
- 9回～10回 心のリフレッシュ。内観療法の視点から。森田療法の視点から。【感謝】
- 11回～12回 ライフスタイルについて。平和志向や非暴力、人権文化について。【人権・平和】
- 13回～14回 ライフプランについて(ワークライフ・バランス)。地域や世界の心の健康を考える。
キャリアプラン 【仕事】【遊び】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 受講態度と勉学への熱意...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

自己の心の健康のみならず、他者や地域、国家や地球の環境にまで視野を拡大することを望みたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスI【夜】

担当者名 /Instructor 内田 若希 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。そこで、この授業では、自分の身体とのつきあい方を身につけ、心身ともに健康なライフスタイルの維持・獲得に向けて、理論の学習と実習を行う。なお、実習では、既存のルールにとらわれない誰でも楽しむことのできる運動を取り入れ、生涯にわたる健康の自己管理能力を養うことを目指す。

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 オリエンテーション
 - 2回 (講義) 運動と身体の健康【生活習慣病】【運動基準・指針】
 - 3回 (実習) ウォーキングと至適運動強度
 - 4回 (講義) 運動と心の健康【ストレス社会】【コーピング】
 - 5回 (実習) コミュニケーションを楽しむ(1)(ふうせんバレー、ソフトバレー)
 - 6回 (実習) コミュニケーションを楽しむ(2)(ふうせんバレー、ソフトバレー)
 - 7回 (講義) 運動の継続化を目指して【行動変容】
 - 8回 (実習) 生活に役立つテーピング・キネシオテープ実習(1)
 - 9回 (実習) 生活に役立つテーピング・キネシオテープ実習(2)
 - 10回 (実習) 子どもが楽しめる運動(鬼ごっこ、ドッチビー)
 - 11回 (実習) 中高年が楽しめる運動(レクリエーション要素の高いバドミントン)
 - 12回 (実習) 高齢者が楽しめる運動(卓球バレー)
 - 13回 (講義) 健康でステキな人生をおくるために(1)
 - 14回 (講義) 健康でステキな人生をおくるために(2)
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容(講義・実習)によって教室・体育館(多目的ホール)と場所が異なるので、間違いがないようにすること。なお、体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実習には、ハードな動きのスポーツは含んでいませんので、楽しく気軽に受講できると思います。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【夜】

担当者名 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 実技 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 フライト練習(1) <ヘアピン>
- 4回 フライト練習(2) <ハイクリアー>
- 5回 フライト練習(3) <ドライブ、スマッシュ>
- 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
- 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
- 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
- 13回 ダブルスゲーム(3) <ゲームの実践>
- 14回 ダブルスゲーム(4) <まとめ>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 B II 【夜】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業は、中学校教諭一種免許状（社会）や高等学校教諭一種免許状（公民）の取得を目指し、4年次に教育実習に行きたいと考えている学生のために、開講します。
 教育実習において、実習生は、実習先の学校で少なくとも数度の授業を担当することになります。塾などで実践経験を積み、自信满满で教育実習に臨む実習生もいるでしょうが、おそらく実習生の多くは、模擬授業を経験する十分な機会にも恵まれないまま、不安な気持ちを抱えながら、教育実習に臨むことになっているのではないのでしょうか。このクラスは、そのような不安を少しでも軽減するために、学習指導要領に対する理解を深めるとともに、模擬授業の実践と相互観察を通じ、受講生のティーチングスキルの向上を図ることを目的としています。
 なおこのクラスでは、高等学校における「現代社会」の授業を題材にして、授業を展開していくこととします。

教科書 /Textbooks

高等学校学習指導要領 解説（公民編）
http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afiedfile/2010/09/07/1282000_4_1.pdf

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書は、初回の授業時に、紹介します。
 また授業の理解に必要な資料等は、適宜、配布します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースガイダンス
- 第2回 高等学校学習指導要領 解説（公民編：現代社会）を読み解く
- 第3回 学習指導案の作成①【単元】【目標】【指導計画】【指導上の立場】
- 第4回 学習指導案の発表①
- 第5回 学習指導案の作成②【本時案の位置づけ・目標】【導入・展開・まとめ】【学習内容・学習活動】
- 第6回 学習指導案の発表②
- 第7回 模擬授業における相互観察のポイント【授業構成】【説明】【発問・指示】【板書】【レジュメ】
- 第8回 模擬授業と相互観察①
- 第9回 模擬授業と相互観察②
- 第10回 模擬授業と相互観察③
- 第11回 模擬授業と相互観察④
- 第12回 模擬授業と相互観察⑤
- 第13回 模擬授業と相互観察⑥
- 第14回 模擬授業と相互観察⑦
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加の程度をもとに総合的に評価します。具体的には、出席状況、課題・模擬授業などへの取り組み状況、授業態度、貢献度（積極的な発言など）によって総合的に評価することになります。
 ゼミへの参加...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

学習指導案の作成や模擬授業の準備等、正規の授業時間外にも時間を取ってもらうことになります。
 受講申請にあたってはこの点に注意してください。

履修上の注意 /Remarks

①教育実習1を受講していること、②社会科教育法ないしは公民科教育法を受講していること、を受講の条件とします。
 なお最大でも10人程度を予定しています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教員を目指す人、自分の夢に向かって、自分の力を磨いてください。

キーワード /Keywords

【公民】【現代社会】【学習指導要領】【教材研究】【学習指導案】【模擬授業】【相互観察】

自然学のまなざし (人間と生命) 【夜】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ヒトの体は約60兆個の細胞からなり、生命の設計図である遺伝子には2万数千もの種類がある。近年、「ヒトゲノム計画」が完了し、すべての遺伝情報が明らかとなった。個々の遺伝情報のわずかな違いが体質の違いや個性につながり、これを利用した個の医療が行われる時代も近い。それぞれの遺伝子はどのような働きをし、何をどこまで決めているのだろうか。遺伝子に傷がつくと細胞や個体にどのようなこと引き起こされるのだろうか。また、細胞が作る社会とはどのようなもので、個体はどのように成り立っているのだろうか。人体を構成する細胞と遺伝子の不思議を学ぶことによって、新しい時代を生き抜くための生命科学の基礎知識を身につけることを目標とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 文系のための生命科学 第二版 東京大学生命科学教科書編集委員会 2011 (羊土社)
 - 「こころ」は遺伝子でどこまで決まるのか 宮川剛著 2011年 (NHK出版新書)
- 高校生物IおよびIIの教科書または参考書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 からだの構成単位・細胞【細胞内小器官】【核】【細胞膜】
- 3回 個体はどのようにつくられていくか【発生】【分化】
- 4回 細胞はどのように増えるか【細胞分裂】【染色体】
- 5回 遺伝子の名前と由来【変異体】【遺伝病】
- 6回 遺伝子とは何をやるものか【遺伝暗号】【タンパク質】
- 7回 遺伝子で決まるもの・決まらないもの【ゲノム】【遺伝子発現】
- 8回 遺伝子の働きはどうやって知るのが【疾患モデル動物】
- 9回 細胞の寿命と個体の老化【テロメア】【iPS細胞】
- 10回 細胞にとっての情報【受容体】【ホルモン】
- 11回 細胞社会とその反逆者【がん細胞】【細胞死】
- 12回 生体防御とそのしくみ【免疫】【抗体】
- 13回 映画鑑賞
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業への参加40% (質問やコメントの内容で評価する)、確認のための小テスト (2〜3回実施) 30%、期末レポート30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

高校で生物を履修していなかった者は参考書を入手して備えること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自然科学系科目が苦手な者も歓迎します。高校の教科書や参考書等を入手し、わからない用語は自分で調べるなど、積極的に取り組んでください。

キーワード /Keywords

くらしと化学【夜】

担当者名 /Instructor 秋貞 英雄 / Akisada Hideo / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

化学知識は生活に不可欠な知識です。化学物質は身近な物質として生活を豊かにするのに貢献しています。また”生命とは宇宙とは”豊かな発想や、豊かな未来社会を展望する上での必要な知識です。一方、地球環境汚染など否定的現象にも関わる知識です。また金銭を中心とする消費社会では、工セ科学を利用した詐欺的商法もあります。市民は其中で、単なる教養でなく、正しい判断のための正確な科学知識が必要とされます。

そのためにまず化学と身近な問題の関係を学習し、そのかわりから化学への興味をもち、そして化学的知識の理解・習得に至る過程に関わることがこの授業のねらいである。

教科書 /Textbooks

「逆説・化学物質 - あなたの常識に挑戦する」 John Emsley著、渡辺正訳 (丸善)
¥2,310円 1996年09月発行 ISBN 978-4-621-04227-4

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 「ゼロからはじめる化学」立屋敷 哲著 (丸善) \2200、ISBN 978-4-621-08016-0
- 「沈黙の春」 R. Carson著、青木 梁一訳 (新潮社)
- 「奪われし未来」 T. Colbon, D. Dumanoski, P. Myers著、長尾 力著 (翔泳社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

講義は、入門的に高校の理科・化学のまとめと補足を行い。引き続いて、教科書に与えられたテーマに基づき、補足、関連話題や解説を進めて理解の促進をはかる。

- 1化学の基礎
- 2砂糖と甘味料
- 3アルコール・・・酒と百薬の長・・・アルコールの体内挙動
- 4コレステロール、その働き
- 5脂肪、食物繊維・・・ダイエットとメタボ対策
- 6くすり その1・・・毒と薬は紙一重
- 7くすり その2・・・その開発と副作用
- 8原子力と放射性物質 (教科書外)
- 9洗剤・・・洗淨、きれいさ、その歴史と洗剤の多機能性 (教科書外)
- 10洗剤・・・洗剤と環境問題 (教科書外)
- 11塩化ビニルとダイオキシン・・・プラスチックと高分子の歴史
- 12塩化ビニルとダイオキシン・・・化学汚染と環境問題史
- 13二酸化炭素その1・・・二酸化炭素と温暖化の科学的仕組み、
- 14二酸化炭素その2・・・二酸化炭素の地球循環
- 15まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

簡単レポート20%、期末試験80%で総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

高校の理科、化学の教科書があると望ましい(手引き代わり)。
テレビ・新聞等の科学関連ニュースには注目して欲しい。疑問点は質問して欲しい。

履修上の注意 /Remarks

教科書外の内容も講義する。それがテストの範囲になるので、プリントを受け取り、ノートはきちんととること。やむ終えない欠席時はノート模写をしておくこと。教科書は事前事後どちらでもよいが目を通して置く。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

新聞、雑誌、放送機関、インターネット等の科学情報に関心を持ち、質問するような姿勢が好ましい。質問には即答できないときは後日に答えるようにします。

キーワード /Keywords

現代人のこころ【夜】

担当者名 森永 今日子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

心理学というと、まずイメージされるのが「カウンセリング」というのが一般的です。カウンセリングは心理学の大切な一分野ですが、実は心理学のごく一部分に過ぎません。心理学は人間の一般的傾向（良い側面、悪い側面の両方）を、実験や調査などで客観的に把握し、日常生活や仕事などに応用することができる学問です。

人間は大きな可能性を持つとともに、弱くて不完全な存在です。それを受け入れ（自分についても他人についても）、問題が生じないように工夫をするために、心理学を活用してみましょう。そのためには、心理学の研究がどのように行われ、何が明らかにされているかという基礎的な理論を学び、考える力が必要です。自分の行動や気持ち（自分の中・誰かに対して・集団の中で）を振り返り、心理学の理論と照らし合わせて考えてみましょう。講義の大枠は暫定的に作っていますが、毎回終了時に感想や質問などのコメントを提出してもらい、それをもとに次回講義を展開していきます。

教科書 /Textbooks

資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 【心理学的に効果のあるガイダンス】担当者の心理学や大学教育に対する考え方、講義の狙いや内容やルールとそれらの根拠を紹介し、良いコミュニケーション関係を作るための準備について心理学的に説明します。
- 2回 【人の心の一般的傾向と多様性】心を理論で捉えるとはどういうことか？心をどうやって測定するか？について学びましょう
- 3回 【コミュニケーションを共有という概念から紐解く】「わからない」「わかってもらえない」ということはなぜ起きるのか、なぜわかるのか？コミュニケーションを「共有」という概念から心理学的に紐解いてみましょう。
- 4回 【人から相談されてうまく答えられないという悩みに】相談というコミュニケーションにはどんな機能や効果があるのか？そもそもどうして人に相談したくなるのか？相手の問題解決を支援し心を軽くするのに役立つヒントについて心理学の理論で考えていきましょう。
- 5回 【ネットワークの中の私】私たちはたくさんの人とコミュニケーションし、支え合って暮らしています。そこから得られるもの、一方で人とのやり取りで感じるストレスについて、ソーシャルサポート理論から学び考えましょう。
- 6回 【自分らしさのなりたち】「私って何？」という疑問に、心理学はどこまで答えられるのでしょうか。「自分らしさ」を性格理論で紐解いて、「血液型と性格は関係あるのか？」ということについて考えましょう。
- 7回 【今ここにある私はどうやって私になったか】これまでの人生を振り返るワークを通じて、人が成長する過程と体験するもの、得られるもの、どうしても起きる苦しみについて、発達心理学の視点から学び考えましょう。
- 8回 【「やる気」がなげりゃ「その気」にさせる】「やる気」はどこから来るのか？やる気がない時、やる気のない人にどんな工夫をして「その気」にさせるのか、動機づけ理論から学び考えてみましょう。
- 9回 【人は思い込み、とらわれる】購入した商品の口コミを確認したことはありませんか？都合の良い情報ばかり集め、都合の悪い情報をシャットダウンしてしまう心について心理学の理論で学び考えてみましょう。
- 10回 【偏見はなぜ起きる？】偏見は「ワカラナイ」ものから自分を守るために発生してしまいます。自分の中にある偏見に向き合って、なぜそれが生まれるのか、偏見解消に何が有効か心理学的に考えましょう。
- 11回 【心の揺らぎと痛み】健やかな心とはどんな状態なのか？心が揺れるのはどんな時なのか？健やかな心を保つためにはどんな工夫ができるのかについて学び考えましょう。
- 12回 【集団の中の自分】私たちは様々な集団に属し、それに大きな影響を受けて生活しています。自分の心や行動への集団の影響について、集団で話し合いをするとどんなことが起きるのか、実験を体験して集団の理論から考えてみましょう。
- 13回 【組織事故-なぜ起きるのか？どうやったら防げるのか？】様々な産業組織での事故は、個人の問題だけでなく、人との関わりの中で発生します。事例分析を通じて、なぜ事故が起きるのか、防ぐためにはどうすれば良いのか、を心理学理論を使って考えましょう。
- 14回 【言いたいことを言えていますか？】日常の対人関係において、言いたいことを言えなくて苦しくなったこと、「言えば良かった」と後悔したことはありませんか？言いたいことを言えない気持ち、どうやったらうまく言えるかについて、心理学的に学び考えましょう。
- 15回 まとめと振り返り

成績評価の方法 /Assessment Method

試験100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

現代人のこころ【夜】

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

私語は他の受講生への迷惑行為なので厳禁です。※2回目の注意で退席してもらいます。
評価は、試験の結果のみで行います。
試験は、全て持ち込み可とします。
講義で行ったこと、話したことは、全て試験の範囲に含まれます。(含まれないもの、雑談などは先に「これは試験に関係のないことですが」と断ります)
欠席した場合は、配布物やノートを次の講義までに手に入れ、次の講義に差し障ることのないようにしてください。理解できない理由や配布資料を揃えていない理由に、「休んでいたから」という言い訳は通用しません。
その他、評価や試験に関することを講義中に話したり、掲示したりします。「聞いていません。知りません」という言い訳は通用しません。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代正義論【夜】

担当者名 /Instructor 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、現代社会における「正義」をめぐる諸問題や論争について、その理論的基礎を倫理的・法的な観点から学ぶと同時に、その応用問題として現代社会への「正義」論の適用を試みる。

まずは、初回に現代正義論の流れを概観する。その上で、次に現代社会における「正義」の問題の具体的な実践的応用問題として、応用倫理学上の諸問題を取りあげる。具体的には、安楽死・尊厳死や脳死・臓器移植といった具体的な身近な生命倫理にかかわる諸問題を取りあげ考察する。そのうえで、現代正義論の理論面について、ロールズ以後現在までの現代正義論の理論展開を、論争状況に即して検討する。それにより、現代社会における「正義」のあり方を、理論的かつ実践的に考察することを、本講義の目的とする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。講義の際に、適宜レジュメや資料を配布する

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- マイケル・サンデル『これからの「正義」の話しよう』（早川書房）
- マイケル・サンデル『ハーバード白熱教室講義録+東大特別授業(上)(下)』（早川書房）
- 盛山和夫『リベラリズムとは何か』（勁草書房）
- 平井亮輔編『正義』（嵯峨野書院）
- 川本隆史『現代倫理学の冒険』（創文社）
- 川本隆史『ロールズ - 正義の原理』（講談社）
- 葛生栄二郎他『いのちの法と倫理』（法律文化社）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 現代正義論とは ~ 本講義の構成と概説
- 第2回 現代正義論とは ~ 本講義の概説(続)
- [第3回~第7回まで 「正義」の応用問題(生命倫理と法)]
- 第3回 脳死・臓器移植①
- 第4回 脳死・臓器移植②
- 第5回 脳死・臓器移植③
- 第6回 安楽死・尊厳死① 基本概念の整理と国内の状況
- 第7回 安楽死・尊厳死② 諸外国の状況
- 第8回 現代正義論① ~ ロールズの正義論
- 第9回 現代正義論② ~ ノージックのリバタリアニズム
- 第10回 現代正義論③ ~ 共同体主義と多文化主義
- 第11回 現代正義論④ ~ アマルティア・センの正義論
- 第12回 現代正義論⑤ ~ センとロールズ・ノージック
- 第13回 現代正義論⑥ ~ 狭義の(ロールズ以後の)「現代正義論」のまとめ
- 第14回 法と正義 ~ 現代正義論と正義の応用問題
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...80% 講義中に課す感想文...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各回の講義で配布したレジュメや資料をきちんと読み込み、理解すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

NHK教育テレビで放送され、話題となったマイケル・サンデルの「ハーバード白熱教室」の番組を見ておけば、本講義の後半部の理解にとって、大変役にたつと思います。

キーワード /Keywords

ロールズ ノージック サンデル 正義 脳死 尊厳死

障がい学【夜】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 狭間 直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「障害」という否定的なイメージで捉えられることが少なくないが、本講義では、「文化」といった視点から「障害」という概念を捉えなおし、異文化が共存・共生していくための阻害要因や問題点を浮き彫りにしていくとともに、共存・共生社会を実現するための考え方を学ぶ。障害者問題をテーマとしたテレビドラマ等にも随時ふれながら、身近な問題として考えていく。また、ゲスト・スピーカーとして、当事者や家族、支援者にもお話をうかがう予定でいる。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準。
- 第2回：「障がい学」とは【障害学】【障がい学】
- 第3回～4回：障害の捉え方【医療モデル】【社会モデル】【文化モデル】
- 第5回～第8回：「文化モデル」の可能性、自閉症児者との共生をめぐる【文化モデル】【文化相対主義】【自閉症】
- 第9回～12回：日本の福祉制度の現状と課題【当事者の声】
- 第13回～14回：自己の問題としての障がい
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

市民活動論【夜】

担当者名 西田 心平 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

市民活動とはどのようなものが、基本的な論点が理解できるようになることを目的とする。主要な事例をとりあげ、それを柱にしながら授業を進めて行く予定である。

教科書 /Textbooks

とくに指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
 - 2回 枠組みの設定
 - 3回 民衆行動の分析①
 - 4回 民衆行動の分析②
 - 5回 市民運動の分析
 - 6回 市民の活動の展開 / 戦前 (上)
 - 7回 市民の活動の展開 / 戦前 (下)
 - 8回 市民の活動の展開 / 戦後 (上)
 - 9回 市民の活動の展開 / 戦後 (下)
 - 10回 市民の活動の展開 / 高度成長期 (上)
 - 11回 市民の活動の展開 / 高度成長期 (下)
 - 12回 市民の活動の展開 / ポスト高度成長期 (上)
 - 13回 市民の活動の展開 / ポスト高度成長期 (下)
 - 14回 市民活動の現在
 - 15回 全体まとめ
- ※スケジュールの順序または内容には、若干の変動がありうる。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極参加... 30% 期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講者には、市民活動について自分で調べてもらうような課題を課す場合がある。その際の積極的な参加が求められる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代社会の諸問題【夜】

担当者名 /Instructor 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科, 福重 さと子 / SATOKO FUKUSHIGE / 法律学科
今泉 恵子 / 法律学科, 植木 淳 / 法律学科
大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科, 岡 邦信 / 法律学科
岡本 博志 / OKAMOTO Hiroshi / 法律学科, 山本 光英 / 法律学科
高橋 衛 / 法律学科, 朴 元奎 / PARK, Won-Kyu / 法律学科
福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科, 吉村 弘 / hiromu yosimura / 法律学科
小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代社会においては、従来見られなかった問題や、従来潜在的なものであったが近年顕在的となり、議論されるようになった様々な問題がある。われわれはそのような現代的な諸問題をどのように理解し、どのように考えたら良いのであろうか。

本講義は、現代において生起しているそのような様々な問題の幾つかを取り上げ、それらを正確に理解したうえで問題解決の方向を考えることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の中で適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 開講の辞、「現代正義論の展望」(重松)
- 第2回 「民法(債権法)改正とその問題点」(福本)
- 第3回 「障害のある人の権利 — ADAを中心にして」(植木)
- 第4回 「ドメスティック・バイオレンスと児童虐待」(小野)
- 第5回 「日本における法の継受」(岡)
- 第6回 「裁判員制度」(山本)
- 第7回 「情報公開制度の現状と課題」(岡本)
- 第8回 「株式会社とは何か」(高橋)
- 第9回 「現代型犯罪の原因と予防」(朴)
- 第10回 「行政活動の実効性」(福重)
- 第11回 「現代刑事裁判の諸問題」(吉村)
- 第12回 「現代型商取引から生じる法律問題」(今泉)
- 第13回 「脳死と臓器移植」(大杉)
- 第14回 「フランチャイズ契約とその問題点」(福本)
- 第15回 まとめ(重松)

成績評価の方法 /Assessment Method

原則としてレポートによる(計3本)。

- ①受講者は各講義のテーマの中から指定された3つの課題につき、レポートを計3本作成して提出すること。3本に満たないものは不可とする。
- ②レポートの書式等は別途指示する。ただし、各レポート2000字以上とする。
- ③3本のレポートは別々に綴じ、各々に所属学科・学年・学籍番号・氏名・テーマ・講義担当教員名を明記した表紙を必ず添付すること。
- ④3本のレポートは各100点満点として採点し、その平均点で評価する。
- ⑤授業態度が著しく悪いと判断される受講者は、レポート提出があっても評価されないことがある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各回のテーマに応じて事前に情報を収集し、予習しておくとう理解が深まります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

レポート課題は、原則として全ての授業終了後に学籍番号に応じて指定します。全ての授業に出席しないと書けないことになるので注意して下さい。

キーワード /Keywords

現代社会 諸問題

国際社会論 【夜】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業のテーマは「日本における民族関係の社会的考察」である。
グローバル化の進展に伴って、定住外国人の「統合」や多文化共生の地域づくりが重要な課題となってきた。こうした課題について考えるための基礎知識を提供する。また、グローバルな現象をローカルな場（地域）において実証的に把握していく方法についても学ぶ。
授業では、まずグローバル化の現状を紹介するとともに日本への人の流れについて概説する。
ついで、日本における出入国管理の仕組み等について紹介した後、①これまで1世紀近くにわたって形成されてきた在日韓国・朝鮮人と日本人との民族関係、②近年顕著になった日系ブラジル人と日本人との民族関係について紹介し、共生社会の形成メカニズムについて考察する。

教科書 /Textbooks

なし（プリント配布）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『民族関係における結合と分離』、谷富夫編、ミネルヴァ書房
 - 『顔の見えない定住化 - 日系ブラジル人と国家・市場・移民ネットワーク』、梶田孝道・丹野清人・樋口直人著、名古屋大学出版会
 - 『在日韓国・朝鮮人の「世界」と「帝国」国家』、西成田豊著、東京大学出版会
- その他、多数あるので、講義の中で、適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 テーマの紹介
- 第2回 グローバル化の進展と国際労働力移動【グローバル化】【エスニシティ】
- 第3回 出入国管理について【外国人登録】【出入国管理】
- 第4回 エスニシティ理論【道具主義】【原初主義】【分断労働市場】【オリエンタリズム】
- 第5回 在日韓国・朝鮮人と日系ブラジル人について【特別永住者】【定住者】【永住者】
- 第6回 日本と朝鮮半島の近現代史①（外国語学部総田先生による講義）【植民地支配】
- 第7回 日本と朝鮮半島の近現代史②（外国語学部総田先生による講義）【冷戦】【民団と総連】
- 第8回 在日韓国・朝鮮人と日本社会①【民族関係】
- 第9回 在日韓国・朝鮮人と日本社会②【エスニシティ】
- 第10回 日系ブラジル人と日本社会①【国境を越えた雇用システム】
- 第11回 日系ブラジル人と日本社会②【顔の見えない定住化】
- 第12回 日系ブラジル人と日本社会③【非正規雇用】
- 第13回 日系ブラジル人と日本社会④【教育達成】
- 第14回 統合と多文化共生社会の形成に向けて - 国・自治体・NGOの役割
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 15% 期末試験... 85%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で配布したプリントをよく読んでくること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

グローバル化する経済【夜】

担当者名 /Instructor 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科, 畔津 憲司 / KENJI AZETSU / 経済学科
牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科, 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
安岡 匡也 / Masaya Yasuoka / 経済学科, 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

今日の国際経済を説明するキーワードの一つが、グローバル化である。この講義では、グローバル化とは何か、世界経済への影響、グローバル化の歴史、国や地域による違いを念頭に入れながら、グローバル化を包括的に説明する。日常の新聞・ニュースに登場するグローバル化に関する報道が理解できること、平易な新書を理解できること、さらに、国際人としての基礎的教養を身につけることを目標とする。複数担当者によるオムニバス形式で授業を行う。

教科書 /Textbooks

木暮太一(2010)『経済が世界—シンプルにつかめる本』明日香出版社。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

野田稔(監修)(2010)『ポン!とわかる日本経済』宝島SUGOI文庫。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード) ※適宜、ビデオ学習等をするため、若干のズレがありえます。

第1回	シラバス詳細版配布、授業の説明、イントロダクション	【グローバル化】
第2回	世界で何が起きている?	【サブプライム問題】
第3回	世界で何が起きている?	【WTO】【BRICs】
第4回	商品にまつわる話	【海外進出】【立地】
第5回	商品にまつわる話	【人件費】【為替レート】
第6回	食べ物にまつわる話	【食料自給率】
第7回	食べ物にまつわる話	【エコビジネス】【脱炭素燃料】
第8回	生活環境にまつわる話	【円高・円安】【人件費】
第9回	生活環境にまつわる話	【雇用慣行】【労働移動】
第10回	人の力にまつわる話	【人口減少】【貯蓄率】
第11回	人の力にまつわる話	【年金】
第12回	国の持ち物にまつわる話	【自由貿易】
第13回	国の持ち物にまつわる話	【多国籍企業】
第14回	お金と為替にまつわる話	【基軸通貨】
第15回	お金と為替にまつわる話	【変動相場制】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(ミニテストやレポートなど): 20~30%、学期末試験: 70~80%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストの該当部分を事前に講読しておくこと。また、必要に応じて配布されるプリントも予習・復習の際に参考にすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際社会と日本【夜】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

21世紀の日本外交の現状を概観した上で、第二次世界大戦後の日本と国際社会の関わりの変化を概観する。講義の軸は三つある。第一は政治面の軸であり、アメリカによる占領改革と独立の回復、冷戦期における日米同盟の発展、そしてポスト冷戦期に進められた日本の国際的役割の再定義が主な内容である。第二が経済面の軸であり、アメリカと東アジア諸国との連携の上に高度経済発展を遂げたこと、そして1970年代にはいって経済大国として世界経済の安定に中心的な役割を果たすようになっていったことを取り扱う。そして、第三に文化面での軸であり、西洋思想の吸収と安定した民主主義体制の建設を検討する。このような諸側面を見ることによって歴史的な知識を身に付けるとともに、社会変化を分析する技術を取得することがこの講義の目的である。

教科書 /Textbooks

五百旗頭真編『戦後日本外交史』第3版(有斐閣 2010年)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンス時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス【21世紀の日本】
- 第2回 敗戦時の日本【ポツダム宣言受諾】【占領軍進駐】【戦犯逮捕】
- 第3回 占領改革【日本国憲法制定】
- 第4回 朝鮮戦争と日米安保条約1【対日講和交渉】【冷戦のアジアへの波及】
- 第5回 朝鮮戦争と日米安保条約2【吉田茂政権】【日米安保条約制定】
- 第6回 自主外交と日本における二大政党制【鳩山一郎政権】【日ソ共同宣言】
- 第7回 岸外交と日米安保条約の改定【日米安保条約改定】【60年安保闘争】
- 第8回 池田政権と高度経済成長【所得倍増】【沖縄問題】
- 第9回 佐藤政権の時代【沖縄復帰】【ベトナム戦争】【米中接近】
- 第10回 石油ショックと日本の新しい役割1【田中角栄政権】【第一次石油ショック】
- 第11回 石油ショックと日本の新しい役割2【角福戦争】【第二次石油ショック】【日米同盟】
- 第12回 中曽根政権と自由主義的改革【中曽根政権】【貿易摩擦】
- 第13回 湾岸戦争と自民党政権の崩壊【バブル経済】【冷戦の終結】
- 第14回 冷戦後の日本外交【小泉政権】【民主党政権成立】
- 第15回 授業の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

テスト ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

この講義の内容は国際関係の授業とあわせて学習すると、国際関係の発展をよく理解することができるようになります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

予習復習をしっかりとください。

キーワード /Keywords

日本政治 歴史 第二次世界大戦後

歴史の読み方I【夜】

担当者名 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ここでは明治時代をはじめとする、歴史上の人物や実際の史料を取り上げながら、今日の世界の中で日本の歴史がどう捉えられているのか、また、私たち自身が歴史をどう見ているのかを考えることを目的とした歴史の見方を学びます。具体的には、明治維新から敗戦までの一次史料を直接読み、さまざまな歴史認識の可能性を探っていきます。

教科書 /Textbooks

講義の中で適宜史料プリントを配布致します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○小林道彦『桂太郎』(ミネルヴァ書房)、小林道彦『見玉源太郎』(ミネルヴァ書房)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 西南戦争【木戸孝允】
- 第3回 日清戦争【伊藤博文】
- 第4回 日露戦争【桂太郎】
- 第5回 第一次世界大戦とシベリア出兵【原敬】
- 第6回 山東出兵(1)【田中義一】
- 第7回 山東出兵(2)【張作霖】
- 第8回 満州事変(1)【石原莞爾】
- 第9回 満州事変(2)【牧野伸顕】
- 第10回 日中戦争(1)【近衛文麿】
- 第11回 日中戦争(2)【蒋介石】
- 第12回 太平洋戦争(1)【松岡洋右】
- 第13回 太平洋戦争(2)【東条英機】
- 第14回 太平洋戦争(3)【昭和天皇】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な取り組み... 10% 課題... 10% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「ただ聴くだけ」という受講態度は駄目です。講義前に最低限高校教科書レベルの知識を得ておくこと。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

歴史の読み方II【夜】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

司馬遼太郎『坂の上の雲』で、「戦術的天才」として描き出された児玉源太郎（日露戦争時の満州軍総参謀長、台湾総督）の実像に実証的に迫り、その「立憲主義的軍人」としての生涯をたどることを通じて、歴史小説と政治外交史研究との関係について思いをめぐらすきっかけを作りたい。要するに、「歴史認識とはいったい何か」という問題を考察していく。

教科書 /Textbooks

小林道彦『児玉源太郎 - そこから旅順港は見えるか』（ミネルヴァ書房）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○小林道彦『桂太郎 - 予が生命は政治である』（ミネルヴァ書房）。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 政治的テロルの洗礼 - 義兄の死 - 佐賀の乱 -
- 第3回 危機管理者 - 神風連の乱 - 西南戦争 -
- 第4回 雌伏の日々 - 佐倉にて -
- 第5回 洋行と近代陸軍の建設
- 第6回 陸軍次官 - 英米系知識人との出会い -
- 第7回 台湾経営 - 後藤新平を使いこなす -
- 第8回 政治への関わり - 第一次桂内閣
- 第9回 陸軍改革の模索 - 大山巖・山県有朋との対立 -
- 第10回 日露戦争 - 統帥権問題の噴出 -
- 第11回 旅順攻防戦 - 統帥権問題と明治国家の危機 -
- 第12回 児玉は「天才的戦術家」だったか - 危機における人間像 -
- 第13回 立憲主義的軍人
- 第14回 歴史小説と政治史研究の間
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な講義への取り組み...20% 期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義前に高校教科書レベルの知識を得ておくこと（必須）。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

児玉源太郎 陸軍 統帥権 帷幄上奏 日露戦争 西南戦争 伊藤博文 山県有朋

都市と農村の生活文化史【夜】

担当者名 福間 裕爾 / Yuji FUKUMA / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義には、二つの柱がある。ひとつは、「都市と農村」あるいは「都会と田舎」という区分が、現代社会において、どのような繋がりや存在意義を持っているのかを明らかにすることである。もうひとつは、「世間」というものが、現代の私たちの生活を無意識のうちに律していることを自覚し、その存在理由を文化的に分析することである。

授業においては、都市から農村を見ていくことで、両者のダイナミズムやそのなかに秘められた人々を相対化する技法を考える。また、文献等に残ることが少ない人々の営みをどのように整理し、現場のなかでいかに問題を発見し理論化するか、というフィールドワークの基本にも触れることができる内容としたい。何気ない日常に焦点をあて、そのなかから理論を析出するおもしろさを伝えたい。

教科書 /Textbooks

特定の教科書は用いない。資料はプリントで適宜配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス 何気ない普段の生活を意識する
- 第2回 はじめに「都市の誘惑」都市と農村のリズム
- 第3回 「世間とは」気づかない日常の拘束力
- 第4回 「言葉の威力」言葉から都市と農村を見る
- 第5回 「新しい世間」電子メディアと文化均一化
- 第6回 「稲の魂」農村と神
- 第7回 「都市と御霊」都市の間と光
- 第8回 「祭と祭礼」都市の指標としての祭礼
- 第9回 「都会の身体 / 田舎の身体」身振りと文化
- 第10回 「人気(じんき)」国民性・県民性 集合的無意識
- 第11回 「都会のハビトゥス1」出会いと社交の技法
- 第12回 「都会のハビトゥス2」結集の技法
- 第13回 「都会のハビトゥス3」不文律の妙
- 第14回 「都市の威力」博多山笠に見る文化伝播
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポートまたは試験 80% 授業中の小レポート等20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業を聞き、十分にノートをとること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

身近なところから問題点を発見し、自ら分析し、解決する。この知的技法の基本を楽しく伝えていきたいと思います。

キーワード /Keywords

日本民俗学 柳田國男 世間 世間体 空気を読む 文化伝播 伝統と創造 都市祭礼 フィールドワーク

人物と時代の歴史【夜】

担当者名 /Instructor 山崎 勇治 / 国際教育交流センター, 新村 昭雄 / 北方キャンパス 非常勤講師
乗口 眞一郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

歴史の面白さを、特定の代表的な人物を中心として講義して、学生に知らせることを目的とする。
なぜならば、歴史の背後にある人物や文化などを理解することが複雑な今日政治、経済、文化、外交、戦争などの諸現象を理解できるからである。
三人の教員が、日本・アメリカ・ヨーロッパの代表的な人物について、人物と時代について語る。まず、ヨーロッパについては1930年代の世界恐慌とそれを打開しようとしたアメリカのルーズベルト大統領のニューディール政策、ドイツのヒットラーのナチス経済、世界恐慌を救済する理論を考案した経済学者M. ケインズ。ケインズ政策を使って昭和恐慌を救った高橋是清について述べる。
次にアメリカを代表する人物の話に移る。果たして、オバマ大統領のノーベル平和賞授与は正しかったのか。オバマ大統領の経歴と奴隷解放運動の歴史について語る。そして、歴代大統領とその素顔(リンカーン、ケネディー、クリントン大統領)について。
最後は、「剣と禅」に生きた山岡鉄舟と幕末・明治維新について語る。今、武士道(Bushido)が見直されている。核兵器と原子力を抑止するのは結局のところ人間の心しかない。禅と武道を極めた鉄舟もその心を無刀流においた。江戸時代、上杉鷹山はその儒教的経営で壊滅的な上杉家の財政を見事に立て直した。その技を見てみよう。次に、徳川幕府が始まってまだその礎が固まっていなとき、3代将軍家光の弟・保科正之は江戸幕府の礎を築いた。長い平安の時代が終わり、貴族に代わって武士が台頭したとき、貴族のための仏教に代わって、庶民のために仏教が生まれた。それを代表するのが浄土真宗の親鸞であった。日本古来の縄文信仰(アイヌや南方諸島に残る)や弥生信仰に代わって、聖徳太子(厩戸皇子)は仏教を大和(やまと)の国の根本におかれた。飛鳥・奈良時代、なぜ、インド・中国から渡来した仏教が日本で繁栄したのか。これらを明らかにする。

教科書 /Textbooks

教科書 /Textbooks 資料を配付します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 新渡戸稲造『武士道』(BUSHIDO)
- 藤沢周平『漆の実のみのる国』(文春文庫)
- 中村彰彦『保科正之』(中公新書)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 日本、アメリカ、ヨーロッパの歴史の中からテーマを厳選し、講義をする
- 第1回 永遠の繁栄のアメリカと賠償支払い問題で苦境のドイツ
 - 第2回 1929年世界恐慌の構造
 - 第3回 ルーズベルト大統領とニューディール政策
 - 第4回 ヒットラーとナチス経済
 - 第5回 M ケインズと不況の経済学「一般理論」
 - 第6回 高橋是清と昭和恐慌
 - 第7回 サッチャーの経済政策とバブル経済
 - 第8回 オバマ大統領のノーベル平和賞授与は正しかったのか
 - 第9回 オバマ大統領の経歴と奴隷解放運動の歴史
 - 第10回 歴代大統領とその素顔(リンカーン、ケネディー、クリントン大統領)
 - 第11回 「ラスト・サムライ」山岡鉄舟と【幕末・明治維新】
 - 第12回 【江戸時代】、ギリシャと同様に壊滅的だった藩の財政を立て直した上杉鷹山と儒教的経営
 - 第13回 【3・11東日本大震災】同様の危機を乗り切ったり【江戸幕府】の礎を築いた三代将軍家光の弟・保科正之
 - 第14回 乱世の世に現れた宗教家・親鸞と【平安・鎌倉時代】
 - 第15回 聖徳太子と【飛鳥・奈良時代】

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート(70%)と平常の学習状況(30%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

* 受講する際に、各回で取り上げる人物やテーマについて図書館等で調べておくこと。

履修上の注意 /Remarks

人物と時代の歴史【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本史【夜】

担当者名 /Instructor 内山 一幸 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

境界・領域・国家といった観点から、日本の歴史上の諸問題について考えていく。例えば現代において「国境」というものは容易に越えがたいものであるが、中世の日本では「境界」は容易に越えうるものであった。それはなぜか、そのことが意味するものは何か、といったことを考えてみることで、古代から現代に至る各時代の「日本」や「日本人」について理解を深めてもらいたい。

教科書 /Textbooks

使用しない。毎回資料を配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 網野善彦『「日本」とは何か』(講談社、2000年 / 講談社学術文庫、2008年)
- 大石直正ほか編『周縁から見た中世日本』(講談社、2001年 / 講談社学術文庫、2009年)
- 小熊英二『「日本人」の境界』(新曜社、1998年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 日本史を学ぶこととは
- 第2回 「鎖国」と「開国」
- 第3回 蝦夷地とアイヌ
- 第4回 近代化とアイヌ社会
- 第5回 琉球の形成と環シナ海世界
- 第6回 琉球から沖縄へ
- 第7回 対馬からみた日朝関係
- 第8回 近世的日朝関係と対馬
- 第9回 台湾をめぐる同化と異化
- 第10回 韓国併合と「日本人」
- 第11回 満洲国と「民族協和」
- 第12回 「外国」になった沖縄
- 第13回 「大帝国日本」の解体
- 第14回 「日本人」の戦後問題
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

西洋史【夜】

担当者名 /Instructor 曠谷 憲洋 / Norihiro Kurotani / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

地球規模で進行する「世界の一体化」。地中海や大西洋、インド洋、東・南シナ海といった海域世界の発展と相互の接続を見ることによって、ヨーロッパとアフリカ・「新世界」・アジアの出遭いの諸相と諸文明の交流・衝突、そして近代世界の形成を理解します。

教科書 /Textbooks

プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】内はキーワード)
- 1回 「13世紀世界システム」とヨーロッパ 【バックス・モンゴリカ】
 - 2回 ヨーロッパ進出以前のアジア海域世界 【港市国家】
 - 3回 イベリア諸国の形成 【レコンキスタ】
 - 4回 「中世の危機」とポルトガルの海外進出【エンリケ航海王子】
 - 5回 新世界到達と「世界分割」【トルデシリャス条約】
 - 6回 ポルトガル海洋帝国の形成① 【香辛料】
 - 7回 ポルトガル海洋帝国の形成② 【点と線の支配】
 - 8回 スペインによる植民地帝国の形成① 【ポトシ】
 - 9回 スペインによる植民地帝国の形成② 【モナルキア・イスパニカ】
 - 10回 「17世紀の危機」と国際秩序の再編①【東インド会社】
 - 11回 「17世紀の危機」と国際秩序の再編②【砂糖革命】
 - 12回 環大西洋世界の展開① 【第二次英仏百年戦争】
 - 13回 環大西洋世界の展開② 【環大西洋革命】
 - 14回 ヨーロッパ勢力とアジアの海 【近代世界システム】
 - 15回 まとめ 【「コロンブスの交換」】

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内に課す小レポート(5回)・・・25%、期末試験・・・75%
(小レポートの提出が一度もない場合、期末試験を受けることが出来ません)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

既習の歴史に関する知識を再確認しておいてください(とくに世界史)。

履修上の注意 /Remarks

毎回講義プリントを配布し、それに基づいて講義します。講義後も配布プリントとノートを見直し、整理・復習を心がけてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東洋史【夜】

担当者名 /Instructor 藤野 月子 / FUJINO TSUKIKO / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、東アジアを中心としてその歴史的な変容を考察する。目標として、中国・朝鮮・日本をはじめとする東アジア諸地域の特異性について明らかにし、更にはそれを通じて東アジア諸地域の今後の在り方を自らで模索することの出来る能力を養うことを目指す。なお一般的に中国の歴史というと、単に中国国内のみの問題と捉える傾向があるかもしれない。しかし、古来から中国は近隣の様々な民族を吸収・同化しつつ変容を繰り返しているのである。また、近隣諸地域もその影響を受けつつオリジナルな国家形成を行ってきているのである。つまり、東アジアにおいて両者を巡るこのような関わりは相互に密接なものを有しているといえよう。よってここでは具体的に、中国における古代文明の誕生から隋唐の世界帝国の形成・衰退までを、中国のみに止まることなく東アジアという包括的視座に置いて各時代の政治・思想・外交・文化等の多角的な面から理解することを掲げる。

教科書 /Textbooks

特に使用しない。講義では毎回プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに - 講義のガイダンス・東洋史と中国 -
- 第2回 秦の始皇帝による統一 - 古代文明の誕生から中華思想の形成まで -
- 第3回 秦漢と匈奴 - 中国と北方騎馬民族との関係 -
- 第4回 中国の外交政策 - 羈縻・冊封・互市・和蕃公主の降嫁 -
- 第5回 前漢の政治と思想 - 儒教との関係 -
- 第6回 後漢の政治と思想 - 外戚と宦官 -
- 第7回 三国志の時代 - 三国の領土拡大と卑弥呼の朝貢 -
- 第8回 西晋による三国統一 - 西晋の内乱と諸民族の動向 -
- 第9回 東晋南朝の社会 - 貴族とは -
- 第10回 五胡十六国北朝の時代 - 北中国における民族の融合 -
- 第11回 南北朝と朝鮮・日本 - 朝鮮・日本の中国外交 -
- 第12回 隋唐による統一 - 世界帝国の成立と政治制度 -
- 第13回 唐と朝鮮・日本 - 唐の朝鮮政策と白村江の戦い -
- 第14回 唐代の外交 - 唐の近隣支配体制と商業活動 -
- 第15回 安史の乱後における唐の滅亡 - 世界帝国の衰退と東アジアへの影響 -

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習態度... 20%・定期試験... 80%
(講義では毎回感想カードを配布回収する)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習としては特になし。
復習としては講義中に適宜紹介するものを読んで理解を深めることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

特になし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

世界史・東洋史に初めて触れる人にも理解しやすい講義を心がけたいと思います。
先入観に振り回されず、
今後の世界に大きな影響を与えることが確実な中国の歴史について学ぶことは必要であると同時に大変有益です。

キーワード /Keywords

東アジア 中国 朝鮮 日本

社会学 【夜】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業のねらいは、社会学の基本的な考え方と概念を身につけ、現代社会の諸問題を社会的に解釈していく力を身につけることにある。授業では、まず、社会学の基本的な考え方についてデュルケムやウェーバーらの古典的著作を例にとりながら紹介していく。ついで、「集団・組織」、「家族」、「階層」、「国際化」といった社会の各領域について社会的分析を行う。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『現代の社会的解釈』(山本努・辻正二・稲月正著、学文社、2006)
その他、講義の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN
- 第2回 社会学の基本的な考え方
- 第3回 社会と個人をつなぐ1 - デュルケム1 : 集合意識と行為
- 第4回 社会と個人をつなぐ2 - デュルケム2 : 『自殺論』
- 第5回 社会と個人をつなぐ3 - ウェーバー1 : 理解社会学
- 第6回 社会と個人をつなぐ4 - ウェーバー2 : 『プロテスタントの倫理と資本主義の精神』
- 第7回 集団と組織1 - 集団・組織の種類と機能
- 第8回 集団と組織2 - 官僚制の逆機能
- 第9回 家族1 - 家族の種類と機能
- 第10回 家族2 - 近代化と家族
- 第11回 社会階層と社会移動1 - 階層化の趨勢
- 第12回 社会階層と社会移動2 - 階層化のメカニズム
- 第13回 グローバル化とエスニシティ1 - グローバル化の趨勢
- 第14回 グローバル化とエスニシティ2 - 統合のメカニズム
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 15% 期末試験... 85%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業にあたって配布プリント等をよく読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人文地理学 【夜】

担当者名 吉津 直樹 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では世界的視野で自然的要素の諸相を明らかにし、自然的条件が人間および人間社会に及ぼす影響を及ぼすかを世界の様々な地域を事例を挙げて検討する。さらに日本において生活の基礎的条件としての自然的条件が人間生活に影響を及ぼしている事例を検討する。

教科書 /Textbooks

特定の教科書は用いない。随時、プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

井関弘太郎『沖積平野』東京大学出版会、1988年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. はじめに～地理学あるいは人文地理学とは
2. 世界の自然 - 気候、地形、地震
3. 世界の自然と農業 - 農業様式と景観
4. 未開発地域の人々の生活
5. 氷雪地域における人間の生活 - シベリア・オイミヤコン
6. 熱帯地域における人間の生活 - 酷暑地域
7. 乾燥地域における人間の生活 - アタカマ砂漠
8. 西ヨーロッパの気候と人間の生活 - イギリス、ドイツ、スペインなど
9. 世界最多雨地域における人間の生活 - マガラヤ
10. 日本の自然条件 - 気候、地形、陸水
11. 日本における気候と農業、生活
12. 自然条件が人間活動に及ぼす影響 - 氷河性海面変動と沖積層
13. 自然条件が人間活動に及ぼす影響 - 沖積層と地盤沈下
14. 自然条件が人間活動に及ぼす影響 - 沖積層と工業立地
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 (50%)、日常の授業の取り組み (50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

地図帳持参が望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

機構、地形、極寒地域、酷暑地域、温暖地域、氷河性海面変動、沖積層

土地地理学 【夜】

担当者名 野井 英明 / Hideaki Noi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

地理学は、地球表面に生起する自然、人文の緒現象を「地域的観点」から究明する科学です。そのため、地理学を研究する場合、必ず必要になるのが地図です。この科目では、地理学の言語ともいわれる地図に関して学ぶとともに、地図や空中写真を利用した実習を行い、地理学的知見を高めることを目的とします。

教科書 /Textbooks

教科書はありません。適宜、プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 「地理的情報の分析手法」(菅野峰明・安仁屋政武・高阪宏行著 古今書院 3,675円)
- 「日本列島地図の旅 付・地図の読み方入門」大沼一雄著 東洋選書 2,625円)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地理学では何を学ぶか。【自然地理学】【人文地理学】
- 2回 地図の役割。【地図の能力】
- 3回 地図の歴史。
- 4回 地図には、どのような種類があるか。【一般図】【主題図】
- 5回 地図は、どのように作られるか。【地図投影】【図法】
- 6回 地図記号から景観を読む。【図式】
- 7回 山の地形を地形図から描くI (講義・実習)。【等高線】
- 8回 山の地形を地形図から描くII (実習)。
- 9回 地図を利用して地表の状態を調べる。【地形計測】
- 10回 地形図を利用して山の体積を測定するI (講義・実習)。
- 11回 地形図を利用して山の体積を測定するII (実習)。
- 12回 空中写真の利用。【リモートセンシング】
- 13回 空中写真を利用して高さを測定する(講義・実習)。
- 14回 リモートセンシング、衛星データの利用。
- 15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...40% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

参考書や配布する資料などを読んでおくとより理解が深まります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地誌学 【夜】

担当者名 吉津 直樹 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

地域を対象としてとりあげ、「社会的環境の変化と地域の変化」をテーマとする。産業構造の変化、交通の変化、自治体の再編成が地域にどのような変化をもたらすかを明らかにする。
ビデオなども使い、具体的なイメージが湧くように努めたい。

教科書 /Textbooks

特定の教科書は用いない。随時、資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (1)はじめに～地理学とは、地誌とは
- (2)産業構造の変化と地域① - 製鉄業の再編成と地域の変貌 (北九州、釜石、福山など)
- (3)産業構造の変化と地域② - 自動車産業の再編成と地域の変貌 (座間、豊田、荻田など)
- (4)産業構造の変化と地域③ - 造船業の再編成と地域の変貌 (下関、因島など)
- (5)産業構造の変化と地域④ - エネルギー革命と地域の変貌 (宇部)
- (6)産業構造の変化と地域⑤ - エネルギー革命と地域の変貌 (夕張)
- (7)交通の変化と地域の変貌① - 道路輸送、鉄道輸送の整備と地域の変貌 (農業地域、一戸、飯田など)
- (8)交通の変化と地域の変貌② - 高速交通網の整備と地域の変貌 (観光地、角館、小布施、湯布院など)
- (9)交通の変化と地域の変貌③ - 橋、トンネルの開通と地域の変貌 (下関、高松、函館、青森など)
- (10)交通の変化と地域の変貌④ - 空路輸送、海上輸送の整備と地域の変化 (ハブ港とフィーダー輸送)
- (11)自治体の再編成と地域の変貌① - 何のための自治体の再編成か
- (12)自治体の再編成と地域の変貌② - 山口県における自治体再編成と下関市の合併
- (13)自治体の再編成と地域の変貌③ - 合併しなかった自治体について (福島県矢祭町、長野県栄村など)
- (14)自治体の再編成と地域の変貌④ - 合併しなかった自治体について (山口県阿武町)
- (15)まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 (50%)、日常の授業の取り組み (50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

地図帳を持参することが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域、産業再編成、交通変化、自治体再編成、製鉄業、自動車産業、造船業、エネルギー革命、高速交通網

倫理学 【夜】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

哲学や宗教との関わりを通して古代から現代にいたる主要な倫理学説を紹介してゆく。西洋の歴史において倫理思想がどのように発展してきたのかを学びつつ、倫理学についての基本的知識を身につけることが本授業の目的である。

教科書 /Textbooks

適宜レジュメを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 岩田靖夫ほか『西洋思想のあゆみ—ロゴスの諸相』有斐閣、1993年。
- 熊野純彦『西洋哲学史 古代から中世へ』岩波新書、2006年。
- 熊野純彦『西洋哲学史 近代から現代へ』岩波新書、2006年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 哲学と倫理 (1) 古代ギリシャにおける倫理学の成立【概説】
- 3回 哲学と倫理 (2) 古代ギリシャにおける倫理学の成立【ソクラテス】
- 4回 哲学と倫理 (3) 古代ギリシャにおける倫理学の成立【プラトン】
- 5回 哲学と倫理 (4) 古代ギリシャにおける倫理学の成立【アリストテレス】
- 6回 哲学と倫理 (5) 古代ギリシャにおける倫理学の成立【ヘレニズム期】
- 7回 宗教と倫理 (1) ユダヤ-キリスト教の倫理【古代イスラエルの宗教】
- 8回 宗教と倫理 (2) ユダヤ-キリスト教の倫理【ユダヤ教】
- 9回 宗教と倫理 (3) ユダヤ-キリスト教の倫理【原始キリスト教】
- 10回 宗教と倫理 (4) ユダヤ-キリスト教の倫理【キリスト教の発展】
- 11回 近代倫理学の誕生 (1)【イギリス経験論】
- 12回 近代倫理学の誕生 (2)【契約説】
- 13回 近代倫理学の発展 (1)【カント】
- 14回 近代倫理学の発展 (2)【功利主義】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み... 10% 学期末試験... 90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教養教育科目の「現代社会と倫理」とあわせて受講すれば、この分野に関する理解がいつそう深まるはずである。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教職科目という性質上、当然ながら一般的な授業よりも採点基準は厳しくなる。テストは持ち込み一切不可。最終的な成績は、日頃の学習態度と記憶力の程度によって大きく異なってくるだろう。

キーワード /Keywords

エンドユーザコンピューティング 【夜】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 群 . 夜間主コース /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業のねらいは、エンドユーザの立場から、職場や家庭、大学等の様々な環境において必要不可欠な情報に関する技術や知識を習得し、コンピュータを利用する際の正しい判断力を身につけることです。具体的には以下のような項目を説明することができるようになります：

- 情報社会におけるエンドユーザの役割
- Webページの作成元や信頼度
- インターネットを用いた情報収集、情報発信についての基礎的な知識

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『エンドユーザのための情報基礎』 (浅羽 修丈他著) FOM出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 エンドユーザコンピューティングを学ぶために【エンドユーザ】
- 2回 コンピュータ内部のデータ表現【2進数】【ビット・バイト】【文字コード】
- 3回 ハードウェア【CPU】【メモリ】【ハードディスク】【フラグメンテーション】
- 4回 ソフトウェア【OS】【拡張子】
- 5回 ネットワークの仕組み【サーバ】【LAN】【IPアドレス】【ドメイン名】
- 6回 情報システムの利用者としての心得(1)【PDCA】【パスワード】【リスク分析】
- 7回 情報システムの利用者としての心得(2)【検索エンジン】【フリー百科事典】【情報の引用】
- 8回 情報システムの利用者としての心得(3)【ブログ】【ソーシャルメディア】【掲示板】
- 9回 情報システムの利用者としての心得(4)【クラウドコンピューティング】【スマートフォン】【データベース】
- 10回 情報システムの利用者としての心得・まとめ
- 11回 情報セキュリティ対策(1)【コンピュータウイルス】【Windows Update】
- 12回 情報セキュリティ対策(2)【スパイウェア】【ファイアウォール】
- 13回 情報セキュリティ対策(3)【SSL】【クッキー】
- 14回 情報セキュリティ対策・まとめ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 75%
日常の授業への取り組み ... 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

受講生の理解や授業進度に応じて、授業計画が変更になる可能性があります。変更がある場合は、授業中にお伝えします。ただし、授業内容を大幅に変更することはありません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

情報分野の専門用語を数多く学習していきます。あまり興味のない人にとっては、慣れない専門用語がたくさんあるかもしれません。授業中の説明を1度聞いただけで理解できると考えずに、毎回、しっかりと復習をしてください。そして、わからない事があれば、授業中に質問してください。

キーワード /Keywords

エンドユーザ、情報セキュリティ、ソーシャルメディア

データ処理【夜】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 群 /Class 夜間主コース

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要です。この授業では、みなさんがコンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習します。具体的には以下の様な項目を身につけることができます：

- タイピングの基礎を習得することができます。
- 表計算ソフトを使ったデータ処理、グラフ作成の基礎を習得することができます。
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎を習得することができます。
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎を習得することができます。

教科書 /Textbooks

「情報利活用 表計算」日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境を知る【ID】【パスワード】【グループウェア】
- 2回 文字入力を正確に行う【タイピング】
- 3回 ネットワークコミュニケーションの技法を知る【電子メール】【SSL通信】
- 4回 ネットワークの光と影を知る【情報倫理】【著作権】【個人情報保護】
- 5回 きれいな表を作る【セル】【シート】【書式】【ページ設定】【印刷プレビュー】
- 6回 計算式を作る【セルの参照】【コピー】【ペースト】
- 7回 いろいろなグラフを作る【グラフ】
- 8回 グラフをカスタマイズする【グラフ編集】
- 9回 基本的な関数を利用する【関数】【引数】
- 10回 さまざまな関数を利用する【関数の挿入】
- 11回 表計算演習1【表・グラフ作成】
- 12回 表計算演習2【条件分岐】【ソート】
- 13回 表計算演習3【表の参照】
- 14回 総合課題に取り組む
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50% ,
積極的な授業参加 (タイピング , 電子メール送受信 , 情報倫理の理解等を含む) ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

コンピュータの基本的な操作 (キーボードで文字を入力する , マウス操作など) ができるようになっておく受講しやすくなります。

履修上の注意 /Remarks

授業の進度、情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」に記入した内容の順番が入れ替わることがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

コンピュータの操作が基本になるので、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切です。

キーワード /Keywords

表計算ソフト タイピング 電子メール 情報倫理

英語I【夜】

担当者名 /Instructor 杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEICの演習問題を通して英語聴解能力を訓練し、またエッセイや英字新聞の記事を読み解きながら文法能力と英語読解力の伸長を目指すことを目的とする。

教科書 /Textbooks

リスニング教材：生協の教科書リストに指定するので確認されたい。
リーディング教材：生協の教科書リストに指定するので確認されたい。
その他、適宜プリントを用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 リスニング プレテスト、リーディング ユニット1
- 3回 リスニング ユニット1、リーディング ユニット2
- 4回 リスニング ユニット2、リーディング ユニット3
- 5回 リスニング ユニット3、リーディング ユニット4
- 6回 リスニング ユニット4、リーディング ユニット5
- 7回 リスニング ユニット5、リーディング ユニット6
- 8回 リスニング ユニット6、リーディング ユニット7
- 9回 リスニング ユニット7、リーディング ユニット8
- 10回 リスニング ユニット8、リーディング ユニット9
- 11回 リスニング ユニット9、リーディング ユニット10
- 12回 リスニング ユニット10、リーディング ユニット11
- 13回 リスニング ユニット11、リーディング ユニット12
- 14回 リスニング ユニット12、リーディング まとめ
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・小テスト 80% 授業への貢献 20%
欠席が授業実施回数の3分の1を超えた場合、不合格になることがあります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎授業、指定された作業とリーディング教材の予習を必ず行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II【夜】

担当者名 /Instructor 杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description
 TOEICの演習問題を通して英語聴解能力を訓練する。また口語英語を中心に、文法能力と英文の内容を読み取る力の伸長を目指すことを目的とする。

教科書 /Textbooks
 リスニング教材：生協の教科書リストに指定するので確認されたい。
 リーディング教材：生協の教科書リストに指定するので確認されたい。
 その他、適宜プリントを用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 特になし。

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 オリエンテーション
 - 2回 リスニング プレテスト、リーディング インタロダクション
 - 3回 リスニング ユニット1、リーディング ユニット1
 - 4回 リスニング ユニット2、リーディング ユニット2
 - 5回 リスニング ユニット3、リーディング ユニット3
 - 6回 リスニング ユニット4、リーディング ユニット4
 - 7回 リスニング ユニット5、リーディング ユニット5
 - 8回 リスニング ユニット6、リーディング ユニット6
 - 9回 リスニング ユニット7、リーディング ユニット7
 - 10回 リスニング ユニット8、リーディング ユニット8
 - 11回 リスニング ユニット9、リーディング ユニット9
 - 12回 リスニング ユニット10、リーディング ユニット10
 - 13回 リスニング ユニット11、リーディング ユニット11
 - 14回 リスニング ユニット12、リーディング ユニット12
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 学期末試験・小テスト 80% 授業への貢献 20%
 欠席が授業実施回数の3分の1を超えた場合、不合格になることがあります。
 最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 毎授業、指定された作業とリーディング教材の予習を必ず行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語III 【夜】

担当者名
/Instructor

クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次
/Year

単位 1単位
/Credits

学期 1学期
/Semester

授業形態 講義
/Class Format

クラス 英夜1年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
						○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course will focus on writing and discussion. The topic will change weekly and students will be asked to write their creative compositions in class for marking and evaluating. During this course, students will be able to improve their English language communication skills using a variety of interesting topics.

教科書 /Textbooks

No textbook

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese/English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回(Week 1)Introduction to the course: Self introduction
- 第2回My favourite place in Japan
- 第3回My important friends
- 第4回The sports I enjoy to watch and play
- 第5回The places I want to visit
- 第6回The food I like and what I can make
- 第7回My favourite movies and actors/actresses
- 第8回Countries of the world
- 第9回What I would buy with 10 million yen
- 第10回My family
- 第11回The music I like
- 第12回What I want to have for my dinner
- 第13回What I do in the morning (routine)
- 第14回The season I like
- 第15回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam, class participation and positive attitude. To be explained in more detail in the first lesson.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Good attendance is a prerequisite for getting a credit.

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

英語IV 【夜】

担当者名
/Instructor

クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次
/Year

単位 1単位
/Credits

学期 2学期
/Semester

授業形態 講義
/Class Format

クラス 英夜1年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
						○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course will focus on writing and discussion. The topic will change weekly and students will be asked to write their creative compositions in class for marking and evaluating. During this course, students will be able to improve their English language communication skills using a variety of interesting topics.

教科書 /Textbooks

No textbook

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese/English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回(Week 1)My summer holiday
- 第2回The pets I like / the animals I hate
- 第3回Health and fitness
- 第4回The crossword puzzle
- 第5回The person I want to meet
- 第6回What I want to do over New Year
- 第7回My stress in my life and how I relieve stress
- 第8回Sporting heros
- 第9回The TV programmes I like to watch
- 第10回My skills
- 第11回My future dream
- 第12回How I get the news in my life
- 第13回My three most important possessions
- 第14回My biggest worry at the moment
- 第15回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam, class participation and positive attitude. To be explained in more detail in the first lesson.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Good attendance is a prerequisite for getting a credit.

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

英語V【夜】

担当者名 /Instructor 伊藤 晃 / Akira Ito / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英夜2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングの英語の4つのスキルのうち、リーディングとリスニングのスキルを高める。TOEICの問題演習を通じて英語力を高める。

教科書 /Textbooks

Successful Keys to the TOEIC Test 2 (Second Edition) 桐原書店

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Daily Life
- 2 回 Places
- 3 回 People
- 4 回 Travel
- 5 回 Business
- 6 回 Office
- 7 回 Technology
- 8 回 Personnel
- 9 回 Management
- 1 0 回 Purchasing
- 1 1 回 Finances
- 1 2 回 Media
- 1 3 回 Entertainment
- 1 4 回 Health
- 1 5 回 Restaurants

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 ... 90% 日常の授業への取り組み ... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の前半は、テキストを使ってTOEICの問題演習を行い、授業の後半は、プリントを使ってリーディングを行う。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英夜2年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
						○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

テーマ：世界から見た日本
ねらい：英語教材を通して、世界における日本のあり方や、日本が抱える課題、日本文化と他の文かの異同について考える。

教科書 /Textbooks

Takemura, Hideo et al. 2012. The World Watches Japan. Nan'Un-do.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業の進め方・ Unit 1
- 第2回 Unit 2
- 第3回 Unit 3
- 第4回 Unit 4
- 第5回 Unit 5
- 第6回 Unit 6
- 第7回 Unit 7
- 第8回 Unit 8
- 第9回 Unit 9
- 第10回 Unit 10
- 第11回 Unit 11
- 第12回 Unit 12
- 第13回 Unit 13
- 第14回 Unit 14
- 第15回 Unit 15

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度...20% 期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業前に分からない語句を必ず辞書で調べておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VII 【夜】

担当者名
/Instructor

クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次
/Year

単位 1単位
/Credits

学期 1学期
/Semester

授業形態 講義
/Class Format

クラス 英夜2年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
						○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course will focus on writing. The topic will change weekly and students will be asked to write their creative compositions in class for marking and evaluating.

教科書 /Textbooks

No textbook

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese/English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回(Week 1) Introduction to the course: Self introduction
- 第2回 My favourite place in Japan
- 第3回 My important friends
- 第4回 The sports I enjoy to watch and play
- 第5回 The places I want to visit
- 第6回 The food I like and what I can make
- 第7回 My favourite movies and actors/actresses
- 第8回 Countries of the world
- 第9回 What I would buy with 10 million yen
- 第10回 My family
- 第11回 The music I like
- 第12回 What I want to have for my dinner
- 第13回 What I do in the morning (routine)
- 第14回 The season I like
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam 40%, class participation and positive attitude 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Good attendance is a prerequisite for getting a credit.

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

担当者名
/Instructor

クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次
/Year

単位
/Credits

1単位

学期
/Semester

2学期

授業形態
/Class Format

講義

クラス 英夜2年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
						○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course will focus on writing. The topic will change weekly and students will be asked to write their creative compositions in class for marking and evaluating.

教科書 /Textbooks

No textbook

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese/English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回(Week 1) My summer holiday
- 第2回 The pets I like / the animals I hate
- 第3回 Health and fitness
- 第4回 The crossword puzzle
- 第5回 The person I want to meet
- 第6回 What I want to do over New Year
- 第7回 My stress in my life and how I relieve stress
- 第8回 Sporting heroes
- 第9回 The TV programmes I like to watch
- 第10回 My skills
- 第11回 My future dream
- 第12回 How I get the news in my life
- 第13回 My three most important possessions
- 第14回 My biggest worry at the moment
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam 40%, class participation and positive attitude 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Good attendance is a prerequisite for getting a credit.

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

中国語I【夜】

担当者名 /Instructor 一木 達彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英比人夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。
 (1)発音から学び始め、語彙力を増やしなが、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
 (2)課文の講読を通して中国の一部の都市や地理、人文について理解します。
 (3)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ、知識を得ることができます。

教科書 /Textbooks

『西遊記』 < 試用本 > (『西遊記』編集委員会)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【轻声】
- 2回 第二課 発音【子音】
- 3回 第三課 発音【複合母音】【鼻母音】
- 4回 第四課 自己紹介【人称代名詞】【指示代名詞】【動詞の文】【是の文】
- 5回 第四課 自己紹介(本文)
- 6回 第五課 北京【形容詞の文】【名詞の修飾】【数字】
- 7回 第五課 北京(本文)
- 8回 第六課 天津【動詞が複数ある文】【時間詞】【量詞】
- 9回 第六課 天津(本文)
- 10回 第七課 上海【指示代名詞】【方位詞】【存在の在】【存在の有】【複文】
- 11回 第七課 上海(本文)
- 12回 第八課 蘇州と杭州【前置詞の在】【所有の有】【是~的】
- 13回 第八課 蘇州と杭州(本文)
- 14回 前期のまとめ(1)
- 15回 前期のまとめ(2)

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・60% 小テスト・・・20% 日常の授業への取り組み・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語II【夜】

担当者名 /Instructor 一木 達彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英比人夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。
 (1)発音から学び始め、語彙力を増やしなが、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
 (2)課文の講読を通して中国の一部の都市や地理、人文について理解します。
 (3)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ、知識を得ることができます。

教科書 /Textbooks

『西遊記』 <試用本> (『西遊記』編集委員会)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 義烏【了】【動作の現在進行形】【助動詞】【前置詞】
- 2回 第九課 義烏(本文)
- 3回 第十課 西安と洛陽【動詞+過】【動作の回数】【結果補語】【状態補語】【助動詞】
- 4回 第十課 西安と洛陽(本文)
- 5回 第十一課 成都【前置詞】【複文】【結果補語】【動作の時間を表す単位】【動作の時間】
- 6回 第十一課 成都(本文)
- 7回 第十二課 昆明【複文】【結果補語】【前置詞】
- 8回 第十二課 昆明(本文)
- 9回 第十三課 広州【結果補語】【前置詞】【ちょっと、少しの表現】【複文】【方向補語】【把の構文】
- 10回 第十三課 広州(本文)
- 11回 第十四課 大連【比較表現】【比喻表現】【使役表現】【受身表現】
- 12回 第十四課 大連(本文)
- 13回 第十五課 日本の紹介【複文】【了】【助動詞】
- 14回 第十五課 日本の紹介(本文)
- 15回 後期のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・60% 小テスト・・・20% 日常の授業への取り組み・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英比人夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業は、中国語の発音、基礎文法、日常生活によく使用される実用会話を身につけることを目標とする。まず初習外国語としての中国語の基本である発音および基本文法を一部分ずつ詳しく解説した上、十分な練習を通じて身に付け、その上、実用会話が中心になっている場面で編成された本文について読解と音読の訓練を行う。また、将来中国語検定試験・中国語HSK試験などの就職に役立てる能力試験を受けるため、語学資格検定の試験問題も練習する。

教科書 /Textbooks

『比較中国語（実用・基礎編）』（王 占華 著 駿河台出版社）[コピー配布]

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 『中国語学概論』【改訂版】（王占華 他著 駿河台出版社）
- 『就職に役立てる中国語』【改訂版】（王占華 他著 駿河台出版社）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 中国語概説・単母音と声調
2. 子音1と複母音1
3. 子音2と複母音2・基本挨拶
4. 鼻母音・音節と音便・教室用語
5. 発音の復習とまとめ
6. 「自己紹介」（判断文・疑問文1・人称代名詞）
7. 復習と実用練習
8. 「空港で」（授受表現・存在表現・疑問文2）
9. 復習と実用練習
10. 「両替」（願望表現・数字・場所）
11. 復習と実用練習
12. 「道を尋ねる」（方位表現・移動表現・禁止表現）
13. 復習と実用練習
14. 「乗り物に乗る」（動作の進行・状態の持続・動作の実現）
15. 復習と実用練習

成績評価の方法 /Assessment Method

授業の参加態度・授業中の練習・小テスト（4割）、定期試験の成績（6割）で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

確認と復習として、文法規則としての重要性、文例としての実用性、使用頻度の角度から文字及び口頭による常用短文の作文、中→日、日→中双方向の訳などの練習を課する。コミュニケーションの基礎としての代表的な文例について、活用できるように要求するので、予習と積極的な練習を望んでいる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語の発音 中国語の基礎文法 中国語の実用会話 中国語能力試験 中国事情

中国語Ⅳ【夜】

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英比人夜 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業は、中国語の発音、基礎文法、日常生活によく使用される実用会話を身につけることを目標とする。まず初習外国語としての中国語の基本である発音および基本文法を一部分ずつ詳しく解説した上、十分な練習を通じて身に付け、その上、実用会話が中心になっている場面で編成された本文について読解と音読の訓練を行う。また、将来中国語検定試験・中国語HSK試験などの就職に役立てる能力試験を受けるため、語学資格検定の試験問題も練習する。

教科書 /Textbooks

『比較中国語（実用・基礎編）』（王 占華 著 駿河台出版社）[コピー配布]

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 『中国語学概論』【改訂版】（王占華 他著 駿河台出版社）
- 『就職に役立てる中国語』【改訂版】（王占華 他著 駿河台出版社）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 「中国語Ⅲ」についての復習・中国語で夏休みについての話
2. 「宿泊」（可能表現・時点・時量）
3. 復習と実用練習
4. 「食事」（数量表現・形容詞述語文・程度表現）
5. 復習と実用練習
6. 「ショッピング」（指示表現・仮定表現・比較表現）
7. 復習と実用練習
8. 「ツアーでの旅行」（方向補語・使役表現・受身表現）
9. 復習と実用練習
10. 「友達を作る」（意向確認・難色を示す・ことわる）
11. 復習と実用練習
12. 「会社見学」（必要表現・可能補語・経験表現）
13. 復習と実用練習
14. 「電話を掛ける」（方向補語・処置表現・複文）
15. 復習と実用練習

成績評価の方法 /Assessment Method

授業の参加態度・授業中の練習・小テスト（4割）、定期試験の成績（6割）で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

確認と復習として、文法規則としての重要性、文例としての実用性、使用頻度の角度から文字及び口頭による常用短文の作文、中→日、日→中双方向の訳などの練習を課する。コミュニケーションの基礎としての代表的な文例について、活用できるように要求するので、予習と積極的な練習を望んでいる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語の発音 中国語の基礎文法 中国語の実用会話 中国語能力試験 中国事情

朝鮮語Ⅰ【夜】

担当者名 /Instructor 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英比人夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

朝鮮語（韓国語）を基礎から学ぶ。入門段階ではハングル文字と発音を正確に習得することを目指す。ハングル文字はまるで記号のようにみえるが、実はとても科学的かつ合理的に作られている文字であり、パズルのように子音と母音を組み合わせれば容易に覚えらる。この講義では一言会話とともに、ハングルを見て正確に声に出して読めることを目標とする。

教科書 /Textbooks

『韓国語の初歩（改訂版）』（巖基珠・金三順・金天鶴・申鉉竣・吉川友丈、白水社）定価2,200円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』（小学館）定価8,000円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. ガイダンス
2. 母音 (1)
3. 子音 (1)
4. 子音 (2)
5. 子音 (3)
6. 子音 (4)
7. 子音 (5)
8. 母音 (2)
9. 終声 (1)
10. 発音の変化
 11. 日本語のハングル表記方法
 12. ~は~ですか？【指定詞の丁寧形・疑問①】
 13. ~は~です。【指定詞の丁寧形】
 14. ~は~ではありませんか？【指定詞の丁寧形・疑問②】
 15. ~は~ではありません。【指定詞の丁寧形・否定】

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト及び課題到達度・・・30%
授業中の参加意欲及び発言状況・・・20%
学期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

課題への取り組み、小テストに向けた復習を十分に行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅱ【夜】

担当者名 /Instructor 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英比人夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日常会話程度の短いダイアログを覚えて、対話形式で話すことができる。初級テキストにあげる朝鮮語の基本文型と同等レベルの作文ができ、正確に読めるようにする。また、日本語に訳すことができるようにする。

教科書 /Textbooks

『韓国語の初歩(改訂版)』(叢基珠・金三順・金天鶴・申鉉竣・吉川友丈、 白水社) 定価2,200円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』(小学館) 定価8,000円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 . 前期のまとめ、
- 2 . 【指示代名詞】【疑問代名詞】
- 3 . 【漢数詞】
- 4 . 【固有数詞】
- 5 . ～ですか?～ますか?【動詞と形容詞の丁寧形・疑問】
- 6 . ～です、～ます。【動詞と形容詞の丁寧形】
- 7 . ～ません、～くありません。【動詞と形容詞の丁寧形・否定】
- 8 . ～ですか?【指定詞の打ちとけた丁寧形】～ではありません。【指定詞の打ちとけた丁寧形・否定】
- 9 . ～です、～ます。【動詞と形容詞の打ちとけた丁寧形】
- 10 . 【尊敬表現】
- 11 . 【動詞と形容詞の丁寧形・過去】
- 12 . 【動詞と形容詞の打ちとけた丁寧形・過去】
- 13 . 【意思・推量・婉曲表現】
- 14 . 【願望表現～したい】
- 15 . まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト及び課題到達度・・・30%
授業中の参加意欲及び発言状況・・・20%
学期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

課題への取り組み、小テストに向けた復習を十分に行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英比人夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

朝鮮語（韓国語）を基礎から学ぶ。入門段階ではハングル文字と発音を正確に習得することを目指す。ハングル文字はまるで記号のようにみえるが、実はとても科学的かつ合理的に作られている文字であり、パズルのように子音と母音を組み合わせれば容易に覚えらる。この講義では一言会話とともに、ハングルを見て正確に声に出して読めることを目標とする。

教科書 /Textbooks

『新チャレンジ！韓国語』（金順玉・阪堂千津子、白水社）定価2,300円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』（小学館）定価8,000円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 基本文字について【基本母音と基本子音①】
2. 書き方と発音【基本子音と基本子音②】
3. 書き方と発音【激音と濃音】【合成母音字】
4. パッチム【終声①】
5. パッチム【終声②】
6. 発音のルール【連音化】【濃音化】
7. 発音のルール【激音化】【鼻音化】
8. 単語と音の変化【その他の発音法則】
9. 尋ねる時の表現（～ですか？）【指定詞の丁寧形・疑問】
10. 自己・物を紹介する時の表現①（～です、～ではありません）【指定詞の丁寧形・否定】
11. 自己・物を紹介する時の表現②（～といます）
12. 存在の有無を尋ねる時の表現①（～がありますか？～いますか？）【存在詞のうちとけた丁寧形・疑問】【場所をあらわす助詞】
13. 存在の有無を尋ねる時の表現②（～に～があります。います）【存在詞のうちとけた丁寧形】【時を表す単語および助詞】
14. 存在の有無を尋ねる時の表現③（～に～があります。います）【存在詞のうちとけた丁寧形】【位置を表す単語および助詞】
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト及び課題到達度・・・30%
授業中の参加意欲及び発言状況・・・20%
学期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

課題への取り組み、小テストに向けた復習を十分に行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅳ【夜】

担当者名 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 英比人夜 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日常会話程度の短いダイアログを覚えて、対話形式で話すことができる。初級テキストにあげる朝鮮語の基本文型と同等レベルの作文ができ、正確に読めるようにする。また、日本語に訳すことができるようにする。

教科書 /Textbooks

『新チャレンジ!韓国語』(金順玉・阪堂千津子、白水社) 定価2,300円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』(小学館) 定価8,000円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 前期のまとめ
2. 「これは何ですか?」①【指示代名詞】【疑問代名詞】
3. 「これは何ですか?」②【指定詞の打ちとけた丁寧形】
4. 「日曜日に何をしますか?」①【固有数詞】【曜日】【時間】【動詞のうちとけた丁寧形】
5. 「日曜日に何をしますか?」②【漢数詞】【助数詞】【月日】【電話番号】
6. 「日曜日に何をしますか?」③【一週間の予定】
7. 「何が好きですか?」①【動詞と容詞のうちとけた丁寧形・否定】
8. 「何が好きですか?」②【目的/～しに行く・来る】
9. 「何が好きですか?」③【動詞・形容詞の変則】
10. 「週末に何をしましたか?」①【動詞と形容詞のうちとけた丁寧形・過去】
11. 「週末に何をしましたか?」②【願望表現～したい】
12. 「週末に何をしましたか?」③【接続表現/～(し)て】【確認表現/～じゃないですか?】
13. 「明日は何をするつもりですか?」①【意思表現/～するつもりです】【推測表現/～でしょう】
14. 「明日は何をするつもりですか?」②【進行や状態の継続表現/～しています】
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト及び課題到達度・・・30%
授業中の参加意欲及び発言状況・・・20%
学期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

課題への取り組み、小テストに向けた復習を十分に行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅰ【夜】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英比人夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

読み書き、標準的発音の習得に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ロシア語概論、アルファベット
- 2回 文字と発音：母音、子音（1）、アクセント、疑問詞のある疑問文と答え方（1）
- 3回 子音（2）、疑問詞のある疑問文と答え方（2）、硬子音と軟子音、名詞の性
- 4回 所有代名詞、疑問詞のある疑問文と答え方（3）、有声子音と無声子音、子音の発音規則
- 5回 硬音記号と軟音記号、疑問詞のない疑問文と答え方、イントネーション
- 6回 50音のロシア文字表記法
- 7回 一課前半 テキストの読み、内容解説、挨拶表現、ロシア人の名、自己紹介の練習
- 8回 一課後半 テキストの読み、内容解説、人称代名詞、国名・国民名、名詞複数形
- 9回 二課前半 テキストの読み、内容解説、動詞の現在変化、接続詞、副詞、練習問題
- 10回 二課後半 テキストの読み、内容解説、名詞格変化（対格）、和文露訳
- 11回 三課前半 テキストの読み、内容解説、所有表現、名詞格変化（前置格）、練習問題
- 12回 三課後半 テキストの読み、内容解説、形容詞、複数専用名詞、前置詞用法、和文露訳
- 13回 四課前半 テキストの読み、内容解説、動詞過去、個数詞、時間表現、練習
- 14回 四課後半 テキストの読み、内容解説、動詞の体、名詞格変化（生格）、和文露訳
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト ... 20% 授業への参加度 ... 20%
(欠席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

2-3回毎に1回の割合で単語力・文法事項の理解力を問う小テストを行う。また、本課に入れば、2回に1回の割合で、和文露訳の問題を課する。習ったことの復習に時間をかけて授業準備をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅱ【夜】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英比人夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

読み書き、標準的発音の習得に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 一学期に習ったことの復習(1)
- 2回 一学期に習ったことの復習(2)
- 3回 五課前半 テキストの読み、内容解説、動詞未来、前置詞句(1)、曜日
- 4回 五課後半 テキストの読み、内容解説、完了動詞未来、不定人称文、命令形、和文露訳
- 5回 六課前半 テキストの読み、内容解説、運動の動詞、行先表現、交通手段表現
- 6回 六課後半 テキストの読み、内容解説、出発と到着表現、場所に関する疑問詞、和文露訳
- 7回 七課前半 テキストの読み、内容解説、形容詞と副詞について、数量表現
- 8回 七課後半 テキストの読み、内容解説、述語副詞、四季、方位、月、和文露訳
- 9回 八課前半 テキストの読み、内容解説、無人称述語、動詞の格支配(1)(2)
- 10回 八課後半 テキストの読み、内容解説、義務・可能性表現、動詞の格支配(3)、和文露訳
- 11回 九課前半 テキストの読み、内容解説、年齢表現、年月日表現、比較級
- 12回 九課後半 テキストの読み、内容解説、値段表現、授与動詞、仮定法、和文露訳
- 13回 十課前半 テキストの読み、内容解説、関係代名詞、形容詞最上級、形容詞格変化
- 14回 十課後半 テキストの読み、内容解説、単文と複文、直接話法と間接話法、ことわざ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト ... 20% 授業への参加度 ... 20%
(欠席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

単語力・文法事項の理解力を問う小テストを行う。また、本課に入れば、2回に1回の割合で、和文露訳の問題を課する。復習に力を入れて授業準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅲ【夜】

担当者名 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 英比人夜 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

聞き取り・発音、会話に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 アルファベットの読み
- 2回 文字と発音：母音と母音文字、アクセント、母音の発音規則
- 3回 発音しにくい子音、硬子音と軟子音、名詞の性の判別
- 4回 所有代名詞表現、有声子音と無声子音、子音の発音規則
- 5回 硬音記号と軟音記号、文の種類とイントネーション型
- 6回 50音のロシア文字表記法、文字の書き方練習
- 7回 一課前半 テキストの繰り返し読み、挨拶表現、自己紹介の練習
- 8回 一課後半 テキストの繰り返し読み、人称代名詞、名詞複数形、所有表現の練習
- 9回 二課前半 テキストの繰り返し読み、動詞の現在変化練習
- 10回 二課後半 テキストの繰り返し読み、動詞を使った和文露訳
- 11回 三課前半 テキストの繰り返し読み、所有表現練習、場所表現問題
- 12回 三課後半 テキストの繰り返し読み、形容詞変化の練習、和文露訳
- 13回 四課前半 テキストの繰り返し読み、1-10までの個数詞と時間表現の練習
- 14回 四課後半 テキストの繰り返し読み、生格用法の練習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト ... 20% 授業への参加度 ... 20%
(欠席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

2 - 3回に1回の割合で単語力・文法事項の理解力を問う小テストを行う。また、本課に入れば、2回に1回の割合で、和文露訳の問題を課する。習ったことの復習に時間をかけて授業準備をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅳ【夜】

担当者名 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 英比人夜 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

聞き取り・発音、会話に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 一学期に習ったことの復習(1)
- 2回 一学期に習ったことの復習(2)
- 3回 五課前半 テキストの繰り返し読み、動詞未来表現、「・・・と一緒に」の表現練習
- 4回 五課後半 テキストの繰り返し読み、与格表現の練習、命令形の作り方練習
- 5回 六課前半 テキストの繰り返し読み、行先表現の練習、不規則動詞の発音練習
- 6回 六課後半 テキストの繰り返し読み、「どこへ」「どこで」「どこから」の表現練習
- 7回 七課前半 テキストの繰り返し読み、数量表現の練習、「雨・雪が降る」の表現
- 8回 七課後半 テキストの繰り返し読み、述語副詞、四季、方位、月、和文露訳
- 9回 八課前半 テキストの繰り返し読み、無人称文における述語表現の練習、月名の発音
- 10回 八課後半 テキストの繰り返し読み、義務・可能性表現の練習、「・・・は・・・が痛い」表現
- 11回 九課前半 テキストの繰り返し読み、年齢表現・年月日表現の練習
- 12回 九課後半 テキストの繰り返し読み、値段表現・仮定法表現の練習
- 13回 十課前半 テキストの繰り返し読み、関係代名詞構文の練習、形容詞格変化練習
- 14回 十課後半 テキストの繰り返し読み、単文と複文の練習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト ... 20% 授業への参加度 ... 20%
(欠席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

単語力・文法事項の理解力を問う小テストを行う。また、本課に入れば、2回に1回の割合で、和文露訳の問題を課する。復習に力を入れて授業準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅰ【夜】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツ語を身近に感じることに。

教科書 /Textbooks

『気分はドイツ』三修社、本郷建治 他
(Deutsch macht Spaß!)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ドイツの若者をビデオで見る【アルファベット・発音】
- 2回 自己紹介【動詞の現在人称変化(1)、名詞】
- 3回 英語の君は話すの?【動詞の現在人称変化(2)、数詞】
- 4回 あなたの名前は何か?【動詞の現在人称変化(2)、時刻】
- 5回 私は父にこの本を贈ります。【人称代名詞、家族】
- 6回 私の夫はオーストリア人です。【冠詞類、月・季節】
- 7回 君は今日、暇ですか?【定形の位置(1)、曜日】
- 8回 もし私に暇があれば、小倉へ行きます。【定形の位置(2)】
- 9回 母の代わりに父が料理をします。【前置詞(1)】
- 10回 私は明日、街へ行きます。【前置詞(2)】
- 11回 ここに車を停めることができますか?【話法の助動詞(1)】
- 12回 私はこの手紙を日本へ送りたいのですが。【話法の助動詞(2)】
- 13回 なぜ君はパーティーにいかなかったの?【動詞の3基本形(1)】
- 14回 私には熱がありました。【動詞の3基本形(2)】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音:ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語II【夜】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツ語を身近に感じること。

教科書 /Textbooks

『気分はドイツ』三修社、本郷建治 他
(Deutsch macht Spaß!)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ビデオで「グリム兄弟の生涯」を見る。【(現在)完了形(1)】
- 2回 君は昨日何をしましたか？【(現在)完了形(2)】
- 3回 フランクフルト行きの列車はいつ発車するのですか？【分離動詞(1)】
- 4回 私はどこで下車しますか？【分離動詞(2)】
- 5回 私達はドイツのレストランへ行きます。【形容詞】
- 6回 私はベンチの上に座ります。【再帰動詞】
- 7回 雨が降っています。【esの用法】
- 8回 あなたが訪ねるその男性は私の友人です。【関係代名詞(1)】
- 9回 私が昨日見た映画は面白かった。【関係代名詞(2)】
- 10回 オーストリアではドイツ語が話されます。【受動(1)】
- 11回 山々は雪で覆われています。【受動(2)】
- 12回 夏にヨーロツパへ行く、と山下さんは言っています【接続法(1)】
- 13回 暇があれば、私もヨーロツパへ行くのになあ。【接続法(2)】
- 14回 ドイツ語を学ぶことは難しくありません。【分詞・zu不定詞】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音:ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じる。

教科書 /Textbooks

『スツエーネン1 場面で学ぶドイツ語』三修社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 名前、出身、住所、挨拶。【規則動詞の現在人称変化、1・2人称、】
- 2回 名前、出身、住所を尋ねる【前置詞、副詞、疑問文、疑問詞】
- 3回 紹介、数字、電話番号【3人称、数詞】
- 4回 各国の国名、車のナンバープレート【名詞の性、定冠詞、所有冠詞】
- 5回 履修科目、言語、曜日【動詞の位置と語順】
- 6回 ドイツと日本の外国人数【冠詞の使い方】
- 7回 趣味、好きなこと、嫌いなこと【否定文の作り方】
- 8回 ドイツ人と日本人の余暇活動【不規則動詞の現在人称変化】
- 9回 好物、外国料理【接続詞】
- 10回 ドイツの食事【頻度を表す副詞】
- 11回 家族、職業、年齢、性格【不定冠詞、否定冠詞、人称代名詞、1(主)格】
- 12回 ドイツと日本の子供の数【名詞の複数形、形容詞、否定文の作り方】
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音:ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅳ【夜】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じる事。

教科書 /Textbooks

『スツエーネン1 場面で学ぶドイツ語』三修社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 持ち物、持ち物を尋ねる【指示代名詞】
- 2回 傘はドイツ語でなんと言うか【4(直接目的)格】
- 3回 住居、場所の表現【前置詞、人称代名詞の3格、】
- 4回 家賃はいくらですか、部屋の広さは
- 5回 時刻の表現、テレビを何時間みるか【非人称動詞の主語es】
- 6回 日付、曜日、誕生日、今週の予定
- 7回 大学の建物、道案内、【副詞】
- 8回 交通手段、ドイツの大学【Sieに対する命令形、疑問詞womit】
- 9回 休暇の計画、手紙の書き方【話法の助動詞】
- 10回 ドイツで人気のある休暇先【疑問詞】
- 11回 過去の表現、天気、日記【完了形、過去人称変化】
- 12回 クイズ：ドイツの首都は。再統一はいつ。
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音：ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語I【夜】

担当者名 福島 勲 / FUKUSHIMA ISAO / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 英夜1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

最初の一步として、フランス語の基本文法を習得してもらいます。この授業の内容を理解すれば、辞書の引きかたはもちろん、簡単なフランス語の文章を読み解けるようになります。

教科書 /Textbooks

太田浩一・前田保他『[新装版]フランス語文法の〈基礎〉』（駿河台出版社、2500円）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

『でる順 仏検単語集』駿河台出版社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 名詞の性と数
- 2回 冠詞
- 3回 人称代名詞(1) : 主語
- 4回 動詞êtreとavoirの活用
- 5回 否定形
- 6回 形容詞
- 7回 第1群規則動詞
- 8回 疑問形
- 9回 指示形容詞
- 10回 所有形容詞
- 11回 動詞allerとvenirの活用
- 12回 近接未来と近接過去
- 13回 前置詞à、deと定冠詞の縮約
- 14回 疑問形容詞・疑問副詞
- 15回 疑問代名詞

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点...30% 小テスト...20% 学期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

仏和辞書(電子でも紙でもよい)必携のこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

仏検5級に合格できる程度の文法力をつけることを目指します。

キーワード /Keywords

フランス語II 【夜】

担当者名 /Instructor 福島 勲 / FUKUSHIMA ISAO / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

次の一歩として、フランス語の初級文法のほぼ全体を習得してもらいます。この授業の内容を理解すれば、辞書さえあれば、基本的なフランス語の文章を読み解けるようになります。

教科書 /Textbooks

太田浩一・前田保他『[新装版] フランス語文法の〈基礎〉』（駿河台出版社、2500円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『でる順 仏検単語集』駿河台出版社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第2群規則動詞
- 2回 比較級と最上級
- 3回 命令法
- 4回 非人称表現
- 5回 人称代名詞(2) : 目的語、強勢形
- 6回 複合過去
- 7回 関係代名詞
- 8回 指示代名詞
- 9回 代名動詞
- 10回 単純未来
- 11回 特殊な代名詞
- 12回 半過去
- 13回 受動態
- 14回 現在分詞とジェロンディフ
- 15回 条件法・接続法

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点...30% 小テスト...20% 学期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

仏和辞書(電子でも紙でもよい)必携のこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

仏検4級に合格できる程度の文法力をつけることを目指します。

キーワード /Keywords

フランス語Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 福島 勲 / FUKUSHIMA ISAO / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

DVD付きの教科書を使って、目と耳と口からフランス語の初歩的な会話表現を学びます。フランス語Ⅳとあわせて履修することで、一年間で日常的なフランス語を理解できるようになります。

教科書 /Textbooks

小笠原洋子『ピエールとユゴー [DVD付]』(白水社、2500円)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『でる順 仏検単語集』駿河台出版社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨN
- 2回 あいさつ(1) : 自己紹介
- 3回 持ちものをたずねる
- 4回 趣味をたずねる
- 5回 onを使った表現
- 6回 あいさつ(2) : お元気ですか?
- 7回 年齢の言い方
- 8回 名前を聞く
- 9回 好きな色を聞く
- 10回 飲み物を頼む
- 11回 時刻の表現
- 12回 あいさつ(3) : 人を紹介する
- 13回 デザートを頼む
- 14回 代名動詞を使った表現
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点...30% 小テスト...20% 学期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

仏和辞書(電子でも紙でもよい)必携のこと。

履修上の注意 /Remarks

自宅で教材のDVDを再生できる環境を用意すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

仏検5級に合格できる程度の力をつけることを目指します。

キーワード /Keywords

フランス語Ⅳ【夜】

担当者名 /Instructor 福島 勲 / FUKUSHIMA ISAO / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

DVD付きの教科書を使って、目と耳と口からフランス語の初歩的な会話表現をさらに学んでいきます。フランス語Ⅲとあわせて履修することで、一年間で日常的なフランス語を理解できるようになります。

教科書 /Textbooks

小笠原洋子『ピエールとユゴー [DVD付]』（白水社、2500円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『でる順 仏検単語集』駿河台出版社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 カフェで注文する
- 2回 曜日
- 3回 C'est + 形容詞の表現
- 4回 疑問代名詞のまとめ
- 5回 値段を聞く
- 6回 12ヶ月
- 7回 mondeを使った表現
- 8回 「～できる」という表現
- 9回 季節
- 10回 感嘆文
- 11回 依頼・願望の表現
- 12回 感情の表現
- 13回 義務の表現
- 14回 お礼のメールを出す
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点...30% 小テスト...20% 学期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

仏和辞書(電子でも紙でもよい)必携のこと。

履修上の注意 /Remarks

自宅で教材のDVDを再生できる環境を用意すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

仏検4級に合格できる程度の力をつけることを目指します。

キーワード /Keywords

スペイン語I【夜】

担当者名 /Instructor 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英比人夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

スペイン語は「エスパニョール」といいます。この授業では、アルファベットから発音練習に慣れ親しみながら、文法・講読に重点的に学び、スペイン語の入門的基礎力を習得します。授業はテキストの練習のほか、動詞を中心にスペイン語文の構造を理解したいと思います。また映像などを利用して、スペインの歴史・文化・社会の諸相を学びます。

教科書 /Textbooks

『スペイン語で表現しよう』（青木・辻・マリアJ、弘学社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○岡田たつお『現代スペイン語講座』芸林書房、その他、図書館にあります。
辞典は必須です。『現代スペイン語辞典』白水社、『西和中辞典』小学館、『クラウ西和辞典』三省堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語とは? その歴史
- 2回 アルファベット・発音・アクセント
- 3回 名詞の性・数・冠詞
- 4回 人称代名詞・基本動詞の変化
- 5回 直説法現在形の規則活用
- 6回 文の種類、肯定文、否定文、特殊疑問文
- 7回 基本的文章表現
- 8回 不規則動詞の活用と基本表現
- 9回 形容詞の性・数変化
- 10回 指示詞、所有形容詞
- 11回 代名詞目的格と基本表現
- 12回 不規則動詞と慣用的表現
- 13回 不定詞の用例
- 14回 重要表現の反復練習(プリント)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

スペイン語の動詞活用はやや難解です。連続して欠席するとついて行けません。分からない語彙は事前に辞書で調べることを。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語II【夜】

担当者名 /Instructor 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英比人夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

スペイン語Iの続編です。この授業で、スペイン語の初級文法を習得します。映像などを利用してスペインの歴史・文化・社会の諸相を学びたいと思います。

教科書 /Textbooks

『スペイン語で表現しよう』（青木・辻・マリアJ, 弘学社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○岡田たつお『現代スペイン語講座』芸林書房、その他、図書館にあります。
辞典は必須です。『現代スペイン語辞典』白水社、『西和中辞典』小学館、『クラウ西和辞典』三省堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 現在完了形
- 2回 過去形(完了過去・不完了過去)
- 3回 不定語とその例文
- 4回 天候表現
- 5回 不規則動詞の過去形
- 6回 現在分詞、進行形と例文
- 7回 名詞節・副詞節・形容詞節
- 8回 未来形・条件未来・過去完了
- 9回 同上
- 10回 直接話法・間接話法(時制の一致)
- 11回 再帰動詞(1)
- 12回 再帰動詞(2)その用例
- 13回 接続法現在形と命令文
- 14回 接続法とその用例
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

辞書は必要です。授業にも辞書を持参すること。予習・復習を行い、スペイン語検定4級くらいは合格しよう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英比人夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

スペイン語は「エスパニョール」といいます。授業では、アルファベットから発音練習に慣れ親しみながら、日常の生きた初歩的な会話表現を重点的に学び、スペイン語の入門的基礎力を習得します。授業は教員からの一方的な講義ではなく、「聴く・話す(発音)」方式を採用いたします。また、ときどき、映像などを利用して、スペインの歴史・文化・社会の諸相を学びたいと思います。

教科書 /Textbooks

『コミュニケーションのためのスペイン語』第三書房、2006年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○岡田たつお『現代スペイン語講座』芸林書房、その他、図書館にあります。
 辞典は必須です。『現代スペイン語辞典』白水社、『西和中辞典』小学館、『クラウン西和辞典』三省堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入的なお話、スペイン語とスペイン語圏について
- 2回 アルファベット、単語の読み方
- 3回 名詞の性と数、冠詞、挨拶表現
- 4回 規則動詞(1)の活用と基本表現
- 5回 動詞estar、重要な不規則動詞
- 6回 形容詞 不規則動詞serを用いた基本的表現
- 7回 規則動詞(2)の活用と基本表現
- 8回 規則動詞(3)の活用と基本的表現
- 9回 所有形容詞
- 10回 3つの規則動詞活用の復習
- 11回 人称代名詞の目的格と基本用例
- 12回 動詞活用と基本表現のブラクティス
- 13回 重要な不規則動詞の基本表現
- 14回 便利な日常会話表現
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

外国語を学ぶには辞書は不可欠です。聴いて話す(発声)ことを反復すること。動詞の活用が難解です。この入門編でスペイン語の基礎を学部こととなりますが、出だしが肝心です。意欲的に取り組んでください

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語Ⅳ【夜】

担当者名 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 英比人夜 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業は1学期開講のスペイン語Ⅲの続編です。初歩的な会話表現に重点を置き、入門的基礎力を習得します。授業は教員からの一方的な講義ではなく、「聴く・話す(発音)」方式で行われます。また映像などを利用して、スペインの歴史・文化・社会の諸相を学びたいと思います。

教科書 /Textbooks

『コミュニケーションのためのスペイン語』第三書房、2006年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○岡田たつお『現代スペイン語講座』芸林書房、その他、図書館にあります。
辞典は必須です。『現代スペイン語辞典』白水社、『西和中辞典』小学館、『クラウ西和辞典』三省堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語Ⅲの復習-動詞の活用と基本表現
- 2回 直説法現在：不規則動詞、人称代名詞(目的格)
- 3回 人称代名詞を用いた表現
- 4回 近接未来表現など天候表現、時刻表現
- 5回 不規則動詞、不定詞表現、所有形容詞(その2)
- 6回 gustar(~が好きです)系の表現、間接目的格
- 7回 前置詞に導かれる人称代名詞
- 8回 復習：日常的表現
- 9回 再帰動詞(1)
- 10回 再帰動詞(2)
- 11回 ビデオでイスパニア圏を旅する
- 12回 比較級と最上級
- 13回 現在完了形
- 14回 現在進行形
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験... 70% 小テスト... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日ごろから動詞の活用を繰り返し練習。辞書はいつでも携帯する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際貿易論I【夜】

担当者名 /Instructor 山口 実 / YAMAGUCHI, Minoru / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

貿易を通じて、日本経済が国際的に直面している課題を考える。
日本経済の変化に応じて貿易についての最新動向を伝える。
あまり、「貿易理論」に重きをおかず、貿易を巡る現状を解説する。

教科書 /Textbooks

立石揚志「海外直接投資とアジアの貿易循環」ふくろう出版(2007年)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

別途

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 貿易とは何か。現代の貿易と経済。貿易の基礎理論
- 2回 貿易と経済・社会
- 3回 貿易と国際収支、為替レート
- 4回 貿易を巡る国際的枠組みとIMF体制
- 5回 GATTからWTO体制へ
- 6回 FTA/EPAを巡る国際的動き
- 7回 東アジア共同体構想の現状と将来
- 8回 日本経済と貿易の歩み
- 9回 貿易摩擦の変遷と日本の対応
- 10回 アジアとの生産分業が進んだ90年代以降の貿易
- 11回 貿易を巡る新しい動き(TPP環太平洋経済連携協定)
- 12回 グローバル化と反グローバル化
- 13回 直接投資の増大と貿易
- 14回 日本の貿易の将来
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む)...25%、課題...25%、期末レポート...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

新聞や経済雑誌を中心とする貿易に関する情報に常に関心をもつこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際貿易論II 【夜】

担当者名 /Instructor 山口 実 / YAMAGUCHI, Minoru / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

貿易を通じて、日本経済が国際的に直面している課題を考える。
日本経済の変化に応じて貿易についての最新動向を伝える。
あまり、「貿易理論」に重きをおかず、貿易を巡る現状を解説する。

教科書 /Textbooks

立石揚志「海外直接投資とアジアの貿易循環」ふくろう出版（2007年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

別途

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 直接投資の増大と貿易
- 2回 同上
- 3回 アジアを中心とするFTA, EPAの動き
- 4回 TPP(環太平洋経済連携協定)との関連
- 5回 東アジア共同体構想の推移
- 6回 1990年代以降の歴史
- 7回 東アジア共同体の現状
- 8回 日中韓のFTA
- 9回 東アジア共同体の課題
- 10回 アメリカのアジア回帰
- 11回 国際経済学と国際貿易論
- 12回 WTOと貿易自由化
- 13回 TPPの今後と国際貿易に関するトピックス
- 14回 アメリカ、中国、日本
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む)...25%、課題...25%、期末レポート...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

新聞を中心とする貿易に関する情報に常に興味をもつこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際経済論I【夜】

担当者名 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

経済のグローバル化が進むなか、企業買収、海外直接投資、経済・通貨統合など国際経済に関するさまざまな話題が日増しに注目されてきた。これら国境を越えた取引はどのような背景があるのか、どのような影響を及ぼすかなどについてより深く理解するために、国際経済論の習得が必要不可欠である。国際経済論は、ミクロ経済学の応用分野である国際貿易論とマクロ経済学の応用分野である国際金融論から構成されている。本講義では、国際ミクロの立場から、国際貿易の基礎理論、貿易政策の効果、海外直接投資を中心に説明を進める。

教科書 /Textbooks

大川昌幸『コア・テキスト国際経済学』（新世社）
なお、国際経済論IIも上記のテキストを使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

石川城太他『国際経済学をつかむ』（有斐閣）
石井安憲他『入門・国際経済学』（有斐閣）
浦田秀次郎『国際経済学入門（経済学入門シリーズ）』（日経文庫）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 リカード・モデル（1）【絶対優位】【比較優位】
- 3回 リカード・モデル（2）【貿易パターン】
- 4回 ヘクシャー＝オリーン・モデル（1）【要素賦存】【要素集約度】
- 5回 ヘクシャー＝オリーン・モデル（2）【リプチンスキー定理】【ストルパー＝サミュエルソン定理】
- 6回 貿易政策分析の基礎（1）【部分均衡分析】【消費者余剰】【生産者余剰】
- 7回 貿易政策分析の基礎（2）【自由貿易の利益】
- 8回 小国の貿易政策（1）【関税政策】、【補助金政策】
- 9回 小国の貿易政策（2）【数量割当政策】
- 10回 大国の貿易政策（1）【関税政策】
- 11回 大国の貿易政策（2）【数量割当政策】
- 12回 経済統合【FTA】【CU】
- 13回 国際要素移動（1）【海外直接投資】
- 14回 国際要素移動（2）【国際労働移動】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題提出（数回） 20~30 % 期末試験 70~80 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ミクロ経済学をすでに受講した場合は、本講義の理解がより深いものになる。
主に図解分析で講義を進めるので、国際経済論の勉強を通じて論理的思考力を身につけてほしい。
部分均衡分析に関しては、清野著『ミクロ経済学入門』（日本評論社）を参照されたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

国際経済のメカニズム及び国際経済問題を包括的に理解するためには、「国際経済論II」と併せて履修することが望ましい。

キーワード /Keywords

自由貿易、貿易政策、経済統合、海外直接投資

国際経済論II 【夜】

担当者名 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

経済のグローバル化が進むなか、企業買収、海外直接投資、経済・通貨統合など国際経済に関するさまざまな話題が日増しに注目されてきた。これら国境を越えた取引はどのような背景があるのか、どのような影響を及ぼすかなどについてより深く理解するために、国際経済理論の習得が必要不可欠である。国際経済論は、ミクロ経済学の応用分野である国際貿易論とマクロ経済学の応用分野である国際金融論から構成されている。本講義では、国際マクロの立場から、国際金融の基礎理論、為替レートの決定、マクロ経済政策を中心に説明を進める。

教科書 /Textbooks

大川昌幸『コア・テキスト国際経済学』（新世社）
なお、国際経済論Iも上記のテキストを使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

小川英治『国際金融入門（経済学入門シリーズ）』（日経文庫）
橋本優子他『国際金融論をつかむ』（有斐閣）
石井安憲他『入門・国際経済学』（有斐閣）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 国際収支表（1）【国民所得勘定】
- 3回 国際収支表（2）【経常収支】【資本収支】
- 4回 外国為替の基礎（1）【為替相場市場】【通貨制度】
- 5回 外国為替の基礎（2）【マーシャル＝ラーナー条件】【Jカーブ効果】
- 6回 外国為替取引（1）【直取引】【先渡取引】
- 7回 外国為替取引（2）【金利裁定】【通貨オプション】
- 8回 外国為替の決定理論（1）【金利平価】
- 9回 外国為替の決定理論（2）【購買力平価】
- 10回 開放経済下の国民所得決定（1）【貿易乗数】
- 11回 開放経済下の国民所得決定（2）【需要の変化】
- 12回 開放経済下のマクロ経済政策（1）【IS曲線】【LM曲線】【BP曲線】
- 13回 開放経済下のマクロ経済政策（2）【固定相場制】【財政政策】【金融政策】
- 14回 開放経済下のマクロ経済政策（3）【変動相場制】【財政政策】【金融政策】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題提出（数回） 20~30 % 期末試験 70~80 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

マクロ経済学をすでに受講した場合は、本講義の理解がより深いものになる。
国際経済理論のロジックをしっかりと理解し、論理的思考力を身につけてほしい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

国際経済のメカニズム及び国際経済問題を包括的に理解するためには、「国際経済論I」と併せて履修することが望ましい。

キーワード /Keywords

国際収支、外国為替、国民所得、開放経済下のマクロ経済政策

国際法I【夜】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

国際社会を規律する主要な法体系としての国際法について、その基本的枠組みの修得を目指します。
国際法を一つのシステムとして捉え、国際法とは何か【法源論】【法の性質】、それはどのように形成され【法の定立】、実際に運用されていくのか【法の実施・履行】、【法の適用・解釈】、違反した場合どうなるのか【国際責任】、紛争はどのように処理されるのか【紛争解決】などの問題を取り扱っていきます。

教科書 /Textbooks

テキストは設定しません。
講義の理解に必要な参考資料を、適宜配布、します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書 横田洋三編『国際法入門(第2版)』(有斐閣・2005)○
参考書 山手治之・松井芳郎・香西茂『ベーシック条約集』(東信堂・最新版)○
参考文献は、初回講義時に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 コースガイダンス

第I部「国際社会における法律作り」

- 第2回 条約の締結
- 第3回 条約の留保
- 第4回 条約の無効
- 第5回 まとめ

第II部「特別法と一般法、国内社会における国際法」

- 第6回 慣習国際法
- 第7回 慣習国際法の法典化
- 第8回 条約と第三国
- 第9回 条約の国内的効力
- 第10回 まとめ

第III部「国際社会における秩序の維持」

- 第11回 国際責任
- 第12回 紛争の平和的解決義務と武力行使の禁止
- 第13回 自衛権
- 第14回 国際司法裁判所(ICJ)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題①②および学期末試験で評価します。
課題①...16.7% 課題②...16.7% 学期末試験...66.6%
なおボーダーラインにあるときは、アサインメントの実施状況等も加味し、総合的に判断します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習、復習を前提とした講義を展開します。
詳細は、学習支援フォルダーで確認してください。

履修上の注意 /Remarks

「国際法II」と併せて受講すると学習効果があがります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

4つの願いがあります。
国際問題に関心を持ってほしい。国際問題を法的に検討する視角を身につけてほしい。国際法の現状と限界を学習し、現在の国際社会の姿を正しく理解してほしい。そして国際法は、自分たちの問題であることを認識してほしい。

キーワード /Keywords

【国際法の定立】、【国際法の実施・履行】、【国際法の適用・解釈】、【国際責任】、【紛争解決】

国際私法【夜】

担当者名 /Instructor 小林 啓一 / NAKABAYASHI KEIICHI / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 集中 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本人同士の日本での結婚・売買等には日本の法律（民法など）が適用される。それでは、日本人が外国人と結婚・売買等をおこなう場合に適用されるのはいずれの国の法律であろうか。国際私法はこのような問題を解決するための法律である。

この授業では、国際私法とはどのような法律か、いかなる問題が国際私法によって解決できるかという点について、できるだけ具体例を用いながら考えてみたい。

教科書 /Textbooks

使用しない。適宜レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

松岡博編『国際関係私法入門(第2版)』(有斐閣、2009年)○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 国際民事訴訟法(1)【財産関係事件の国際裁判管轄】
- 2回 国際民事訴訟法(2)【身分関係事件の国際裁判管轄】
- 3回 国際私法序論【国際私法の意義と必要性、法的性質】
- 4回 国際私法総論(1)準拠法の決定【法性決定、連結点の意味】
- 5回 国際私法総論(2)準拠法の特定【反致、公序】
- 6回 国際家族法(1)属人法と、婚姻の準拠法【国際結婚と法】
- 7回 国際家族法(2)離婚、親子関係の準拠法【国際離婚と法】
- 8回 国際家族法(3)その他の問題【氏、相続など】
- 9回 国際財産法(1)契約の準拠法(1)【当事者自治の原則】
- 10回 国際財産法(2)契約の準拠法(2)【特徴的給付、消費者契約、労働契約】
- 11回 国際財産法(3)不法行為の準拠法【一般不法行為、生産物責任、名誉毀損】
- 12回 国際財産法(4)自然人、法人【渉外的法律関係の主体と準拠法】
- 13回 国際財産法(5)その他の問題【知的財産、物権、債権譲渡】
- 14回 国際民事訴訟法(3)【外国判決の承認執行】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に指示する課題... 40% 期末試験... 60%
※出席点はありません。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前準備は特に不要。復習すべき要点を授業中に指摘する。

履修上の注意 /Remarks

受講に際しては六法が必要です。
法律学科以外の学生は、「法の適用に関する通則法」をコピーでもよいから準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

他の受講生の受講機会を阻害するような私語には(もしあれば)厳しく対処します。

キーワード /Keywords

国際結婚、国際取引、国際裁判管轄

途上国開発論 【夜】

担当者名 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

グローバル化の波によって、めまぐるしく変化している現在の世界において、今世紀は開発途上国がその中心舞台に躍り出ることが予想されている。そのテーマといえば、貧困問題、環境問題、人口問題、民族紛争、人権問題など枚挙にいとまがないほどである。本講義では、途上国の開発と環境に焦点を絞り（事例としてはバングラデシュ）、数々のテーマと切り口で臨みたい。日本の若者が海外に出ていくことを躊躇していると言われているが、同じ地球に生きる人間として、途上国の問題にも真正面からぶつかり、世間で言われる途上国の違った側面を捉えて欲しい。

教科書 /Textbooks

○三宅博之『開発途上国の都市環境 - バングラデシュ・ダカ 持続可能な社会の希求』明石書店、2008年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ジェニファー・エリオット著、古賀正則訳『持続可能な開発』古今書院、2003年
* 中村尚司『人びとのアジア - 民衆学の視座から』岩波新書、1994年
* 菊地京子編『開発学を学人のために』世界思想社、2001年、1900円
* 恩田守雄『開発社会学 理論と実践』ミネルヴァ書房、3800円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「途上国開発論（途上国の開発政策）」のねらい、担当教員の途上国での体験からの受講生への問題提起
- 第2回 開発概念の検討～歴史的推移と「持続可能な開発」の定義
- 第3回 成長概念と貧困概念～貧困線をめぐって
- 第4回 アマルティア・センと社会・人間開発
- 第5回 人口問題～中国の1人っ子政策と先進国の少子化対策
- 第6回 都市問題～インフォーマルセクターの存在
- 第7回 居住問題～スラム・スクワッター居住区
- 第8回 資源分配をめぐって（エネルギー技術のあり方）
- 第9回 環境問題～自然破壊など
- 第10回 環境問題～都市のゴミ問題を中心に
- 第11回 途上国での農漁村での農業・漁業の在り方
- 第12回 途上国の諸問題の解決への取り組みと結果～国連とODA
- 第13回 台頭するNGO～インド・バングラシユの事例より
- 第14回 地域内共生～隣人関係の在り方
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業の内容にかかわる日常的姿勢...20% 小課題の提出 ... 20% 試験 ... 60 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

時々的小課題の実施。途上国に関するさまざまなテレビ番組の視聴。

履修上の注意 /Remarks

英語の文章も少しは読むので、日頃から英語の勉強も怠りなく。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

途上国の現実を知り、興味深い事象を探し、もっと足を踏み入れてほしい。

キーワード /Keywords

開発途上国、アマルティア・セン、環境問題、持続可能な開発 (SD)

イギリス文学概論【夜】

専門教育科目
選択科目
英米文学・文化科目群

担当者名 /Instructor 田部井 世志子 / Yoshiko TABEL / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

今日、文学というどうしてもかたいイメージを持ってしまふ人が多いかもしれませんが、「おもしろくなければ文学じゃない」というイギリスの作家W.S.モームの言葉にもあるように、本来、人間の様々な生き様を描いた小説や詩がおもしろくないはずはないのです。敬遠されるようになったのは、ひとつには、読書感想文を書くための読書であったり、画一的な解釈を強要される読書であったり、昨今の「読書」を取り巻く環境が変化してきたためであり、それが私たちから読書の本来の楽しさを奪ってしまっているのです。人間同士のかかわり、絆が希薄になりつつあるといわれる今、多くのすぐれた文学作品に触れることは、今一度、人間に対する、他者に対する関心を呼び起こしてくれることでしょう。

イギリス文学の歴史はそれなりに長く、詩から劇、そして小説へと発展してきたわけですが、本講義では、その始まりから説き起こし、今日に至るまでの流れを追いつつ、さらに具体的に作品の抜粋を読みつつ、それらを生み出した時代背景、文化背景との関わりを探っていきます。

伝統あるイギリス文学の作品を様々な文化事項と絡めながら見ていき、そのおもしろさを共に味わえればと思います。また同時に、作品との関連で、人間に関する様々なテーマ(生、死、愛、宗教、想像力・・・)についても問題提起をします。一緒に考えていきましょう！！

教科書 /Textbooks

An Outline of English Literature by G.C.Thornley and Gwyneth Roberts (Longman)
(テキストは、速読ができるほどの、非常に易しい英語で書かれています。)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入(文学の勤め、文学のおもしろさ、イギリスについて、評価方法などの説明)
- 2回 『ベオウルフ』(古英語) 想像力と文学、頭韻など
- 3回 『キャンタベリー物語』by チョーサー (中英語) 脚韻など
- 4回 『エヴリマン』(中英語) 死と人間
- 5回 『失樂園』by ミルトン 宗教の影響
- 6回 シェイクスピアの4大悲劇(『ハムレット』、『リア王』)
- 7回 シェイクスピアの4大悲劇(『マクベス』、『オセロ』)
- 8回 散文、日記文学(自意識の芽生え)
- 9回 『ロビンソン・クルーソー』(デフォー、勃興期の小説)
- 10回 『ガリヴァー旅行記』by スウィフト (風刺文学)
- 11回 『パメラ』by リチャードソン、『シャメラ』by フィールディング(パロディ)
- 12回 『高慢と偏見』by オースティン、『テス』by ハーディ
- 13回 ロレンス、オプライエン(問題小説)、ドラブル、イシグロ(伝統回帰)
- 14回 『不思議の国のアリス』by キャロル(児童文学、ファンタジー)
- 15回 まとめ(イギリス文学の流れ: 「詩」→「劇」→「小説」、宗教との関連)

成績評価の方法 /Assessment Method

試験 or レポート(受講者数により決定します)・・・90%
平常点(課題、授業への参加度など)・・・10% (出席重視)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で配布する資料は、よく目を通してください。また、本講義で扱う作品に限らず、様々な文学作品をたくさん読んでください。

イギリス文学概論 【夜】

専門教育科目
選択科目
英米文学・文化科目群

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

イギリス文学の中でも現代に近い作品に関心を持っている人は「イギリスの現代文学」の受講をおすすめします。

キーワード /Keywords

「詩」「劇」「小説」「伝統」「文学のおもしろさ」「想像力」「風刺」「パロディ」「児童文学」「ファンタジー」

アメリカの生活文化 【夜】

担当者名 寺田 由美 / Yumi Terada / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義の目的は、20世紀前半を中心としたアメリカの近代建築と、それらが建ち並ぶ都市の歴史を学び、現代合衆国都市の文化や人びとのくらしの源流を探ることにある。本講義では、福田は、合衆国の1900年以降に建設されたモダニズム建築を取り上げ、映像や写真を中心に、デザインの裏側にあるアメリカの文化、建築家の思考、建築デザインが生み出される社会的な背景などを解説する。寺田は、19世紀末から20世紀前半の合衆国社会の変容と都市における居住空間の形成、およびそれに伴い発生する問題について解説する。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Twentieth-Century American Architecture: The Buildings and Their Makers (W. W. Norton & Company, 2000) ; 竹田有 『アメリカ労働民衆の世界』(ミネルヴァ書房、2010年) ; リチャード・プランツ 『ニューヨーク 都市居住の社会史』(鹿島出版会、2005年)。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 . はじめに(福田 / 寺田)
- 2 . アメリカ近代建築の潮流(福田)
- 3 . シカゴ超高層建築(福田)
- 4 . ニューヨークの近代建築(福田)
- 5 . カリフォルニアの建築(福田)
- 6 . アメリカの巨匠建築家1(福田)
- 7 . アメリカの巨匠建築家2(福田)
- 8 . 大都市の誕生(寺田)
- 9 . エスニック・コミュニティの形成(寺田)
- 10 . エスニック・コミュニティにおける人びとのくらし(寺田)
- 11 . 移民と黒人のコミュニティ形成(寺田)
- 12 . 都市における対立と隔離の発生(寺田)
- 13 . 都市郊外の人びとのくらし(寺田)
- 14 . 学生レポート講評(福田)
- 15 . おわりに(寺田)

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、レポート(福田)50%、試験(寺田)50%で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業中に紹介する参考文献等を積極的に読むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業課題【夜】

担当者名
/Instructor

ゼミ指導教員

履修年次 4年次 単位 8単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 対面式 クラス 4年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
						○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

担当教員の指導のもとで卒業課題の対象とするテーマを決める。教員の指導のもとで、英語の論文、翻訳、日本語の論考等から一つ選択し、卒業課題を作成する。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

学生の各々の事情に応じて、個々に指導する。

成績評価の方法 /Assessment Method

提出された卒業課題について判定する。
卒業課題・・・100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

担当教員の指導を受けながら、資料を徹底的に集めること。徹底的に読むこと。

履修上の注意 /Remarks

特になし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

特になし。

キーワード /Keywords

【卒業課題】

異文化間コミュニケーションゼミBI【夜】

担当者名 /Instructor ロジャー・ウィリアムソン / Rodger S. Williamson / 英米学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Students will continue to examine their own interests and experiences in crossing cultures. We will continue our weekly discussions based on readings by writers and scholars from a wide variety of countries and cultures. Our goal during the second year will be a greater intercultural awareness through student driven activities and research. A greater improvement of analytical, comprehension, discussion, and writing skills in English will remain a primary goal.

教科書 /Textbooks

Printed materials and handouts to be provided by the instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

In consultation with instructor.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2回 Instructor-led discussions.
- 3回 Instructor-led discussions.
- 4回 Instructor-led discussions.
- 5回 Student-led discussion and presentation.
- 6回 Workshop on individual materials for analysis and presentation.
- 7回 Student-led discussion and presentation.
- 8回 Student-led discussion and presentation.
- 9回 Student-led discussion and presentation.
- 10回 Student-led discussion and presentation.
- 11回 Student-led discussion and presentation..
- 12回 Student-led discussion and presentation.
- 13回 Student-led discussion and presentation.
- 14回 Student-led discussion and presentation.
- 15回 Final discussion and paper submission.

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation, & Presentations 50% Successful Completion of Paper 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Our meetings will consist of presentations followed by group discussion. While students will be given the freedom to choose materials, they are expected to follow the basic parameters of this seminar. Students can translate materials from Japanese to English but presentations must be in English. All meetings and discussions will be conducted in English. Students will be expected to submit their individual analysis of presented materials in essay format each semester. Each paper should be approximately 2000 words in English.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

グループ演習 (デイバート・ 討論) 【夜】

担当者名 伊藤 健一 / Kenichi ITO / 英米学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
											○	○

※副専攻プログラム履修者のみ本科目を履修できます。

授業の概要 /Course Description

英語を使いこなすためには、英語の思考法、論理構造に慣れ、それを踏まえて議論を行なう力を培っていかねばなりません。とりわけ、デイバートは日本ではあまりなじみがありませんが、英語で議論する際にはごく普通に見られるメソッドであり、ビジネス商談などの場においてもこの思考法に通じていなければ商談を成功させることは難しいのではないかと思います。この授業では、基本的に英語でさまざまなビジネストピックについて議論し、英語の思考法を体得していただくことを目指します。

教科書 /Textbooks

杉田敏 『杉田敏のグローバル時代の英語』 (NHK出版)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で必要に応じて紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第01回 ゼミ・オリエンテーション
- 第02回 Lesson 1に基づくディスカッション
- 第03回 Lesson 2に基づくディスカッション
- 第04回 Lesson 3に基づくディスカッション
- 第05回 Lesson 4に基づくディスカッション
- 第06回 デイバートについて：オリエンテーション
- 第07回 デイバート実践 (Lessons 1~4の内容に基づいて)
- 第08回 Lesson 5に基づくディスカッション
- 第09回 Lesson 6に基づくディスカッション
- 第10回 Lesson 7に基づくディスカッション
- 第11回 Lesson 8に基づくディスカッション
- 第12回 デイバート実践 (Lessons 5~8の内容に基づいて)
- 第13回 Lesson 9に基づくディスカッション
- 第14回 Lesson 10に基づくディスカッション
- 第15回 総括：まとめのディスカッションとデイバート

成績評価の方法 /Assessment Method

演習科目ですから、出席は当然です。その上で授業への積極的参加の度合いに実技を加味して総合的に評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

言うまでもないことですが、授業に出席するだけで実力がつくわけではありません。平素から英語に触れる努力をすることが大切だと思います。また、毎時間、次週までに準備して欲しいことを確認しますので、予習も怠りのないようお願いいたします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

いよいよ副専攻プログラムが始まります。皆さんのやる気の度合いで授業の充実度も変わります。楽しく内容の濃い授業ができるよう努力したいです。皆さんの意欲を期待しています。

キーワード /Keywords

Japanese Affairs 【夜】

担当者名 /Instructor
フィオナ・クリーサー / Fiona Creaser / 英米学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
											○	○

※副専攻プログラム履修者のみ本科目を履修できます。

授業の概要 /Course Description

This course provides an introduction to contemporary Japanese society. We will critically evaluate both popular and scholarly theories about Japan with special attention paid to key themes in Japanese society. Topics covered will include Japanese identity, Japan and Asia, Japan and the West, religion, ethnicity, gender, sexuality, and education. Throughout the course we shall investigate some recurrent ideas in Japanese society as well as the ways in which cultural differences are perceived, depicted, and theorized.

By the end of this course students will have a clear understanding of Japan and Japanese culture. Students will be able to think critically about Japan's relationship with the West and Asia, and students will be given the opportunity to discuss issues pertaining to modern Japanese society.

教科書 /Textbooks

Material will be given by the instructor each week.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Instructor will provide material

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2回 Being Japanese
- 3回 Being Foreign
- 4回 Urban sprawl, Rural Idyll
- 5回 Japan and the West
- 6回 Japan and Asia
- 7回 Mid-term exam
- 8回 Religion
- 9回 Ethnicity
- 10回 Gender
- 11回 Sexuality
- 12回 Violence
- 13回 Invisible minorities
- 14回 Review Class
- 15回 Final Exam

成績評価の方法 /Assessment Method

- Task-based assignments 50%
- Mid-term exam 20%
- Final exam 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Students are expected to pre-read assigned materials.

履修上の注意 /Remarks

Task-based assignments will include in-class activities such as discussions and presentations and assigned home works.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Japanese Culture and Society 【夜】

担当者名 /Instructor ロジャー・ウィリアムソン / Rodger S. Williamson / 英米学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
											○	○

※副専攻プログラム履修者のみ本科目を履修できます。

授業の概要 /Course Description

The objective of this course is to cover and discuss various aspects of Japanese society and culture from the past till present. Topics will include subjects ranging from traditional customs to pop culture and the influence of different religions. One specific goal will be to analyze the way Japan has been influenced by outside cultural influences throughout its long history. Another aspect of this course will be to see Japan from the perspective of non-Japanese students in order to help international students adapt to their new surroundings as well as encourage Japanese students to realize their own cultural identity.

教科書 /Textbooks

Varley, Paul. Japanese Culture

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Davies, R. and Ikeno, O. The Japanese Mind. Tuttle,
Hendry, Joy. Understanding Japanese Society

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction and Orientation
- 2回 Origins of Japanese Civilization
- 3回 Japanese Religions I : Indigenous Beliefs
- 4回 Japanese Religions II: Buddhism, Confucianism, and Christianity
- 5回 Japanese Society I: Medieval Japan
- 6回 Japanese Society II: Edo Period
- 7回 Japanese Society III: Meiji till Present
- 8回 Student Led Discussion & Presentations I
- 9回 Student Led Discussion & Presentations II
- 10回 Encounters with Japanese Culture: Food
- 11回 Encounters with Japanese Culture: Media
- 12回 Encounters with Japanese Culture: Education
- 13回 Encounters with Japanese Culture: Family
- 14回 Final Presentations I
- 15回 Final Presentations II

成績評価の方法 /Assessment Method

Final Presentation and Paper -50%
Final Exam -50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

All coursework will be done in English. Students will be expected to participate actively in discussion and make presentations on materials presented in this course.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経営学I【夜】

担当者名 晴山 英夫 / 国際教育交流センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
											○	○

※副専攻プログラム履修者のみ本科目を履修できます。

授業の概要 /Course Description

経営学Iは、経営学を初めて学ぶ人のための入門であり、経営学の考え方や基礎理論を学ぶ。
経営学の学問領域は大きく「企業論」と「マネジメント論」の2つに分けられるが、ここでは前者の「企業論」を中心に講義する。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない。レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 経営学へのアプローチ 【対象と方法】【企業と経営の概念】【経営学の発展と潮流】
- 2回 企業とは何か 【企業は契約の束】【企業家と企業家精神】【株主理論と利害関係者論】
- 3回 企業形態論 【私企業と公企業】【企業の発展形態】【中小企業とベンチャー企業】
- 4回 株式会社論 【所有と経営の分離】【経営者支配論】【株式所有の日米比較】
- 5回 経営者論 【企業者】【所有経営者】【専門経営者】【戦略的な意思決定者】
- 6回 企業目的論 【利潤極大化仮説】【単一目標論と多目標論】【企業価値と株主利益最大化】
- 7回 企業の社会的責任論 【責任の範囲と評価】【社会的義務と社会的貢献】【CSR】
- 8回 企業の成長戦略論 【垂直統合戦略】【多角化戦略】【国際化戦略】
- 9回 M&Aと戦略的提携 【内部成長と外部成長】【事業再構築】【時間の節約】
- 10回 M&Aによる企業成長の事例研究 【ソニーのコロンビア映画会社買収】
- 11回 国際経営論 【企業の国際化】【多国籍企業】【海外生産】【雇用と技術の空洞化】
- 12回 企業統治論 【企業主権論と企業支配論】【コンプライアンス経営】【退出と発言】
- 13回 企業統治の国際比較 【米国型統治とドイツ型統治】【日本型統治と中国型統治】
- 14回 企業統治不全の事例研究 【三菱ふそうのハブ欠陥事件】【オリンパスの損失隠し事件】
- 15回 まとめ-変貌する日本の企業-【国際化のジレンマ】【企業統治のジレンマ】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 80%、レポート・小テスト... 20%で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業研究I【夜】

専門教育科目
選択科目
実践ビジネス科目群

担当者名 晴山 英夫 / 国際教育交流センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
											○	○

※副専攻プログラム履修者のみ本科目を履修できます。

授業の概要 /Course Description

受講生は、本学教員による企業経営の事例研究の発表と、学外から招聘した企業経営者のプレゼンテーションを聴講し、教員や企業経営者との質疑応答、自由な意見交換を行う。
これによって、学生が生きた経営学を学び、仕事や企業についての自分の考え方や自己主張を持ってもらうことを狙っている

教科書 /Textbooks

使用しない。レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

構想としては以下のとおりである。

- 1回 インタロダクション(本科目の狙い、全体の構成と概要、進行の説明)
- 2回 科目担当教員による事例研究の発表と意見交換
- 3回 本学教員Aによる事例研究の発表と意見交換
- 4回 本学教員Bによる事例研究の発表と意見交換
- 5回 本学教員Cによる事例研究の発表と意見交換
- 6回 上記事例研究についての受講生のレポート発表と意見交換
- 7回 外部講師Aによるプレゼンテーションと意見交換
- 8回 外部講師Bによるプレゼンと意見交換
- 9回 外部講師Cによるプレゼンと意見交換
- 10回 外部講師Dによるプレゼンと意見交換
- 11回 外部講師Eによるプレゼンと意見交換
- 12回 上記プレゼンについての受講生のレポート発表と意見交換
- 13回 科目担当教員による事例研究と意見交換
- 14回 科目担当教員による事例研究と意見交換
- 15回 まとめ

本学教員および外部講師については、確定次第連絡する。

成績評価の方法 /Assessment Method

意見交換への参加度... 60% レポート提出と発表... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Chinese Culture and Society 【夜】

専門教育科目
選択科目
実践ビジネス科目群

担当者名 /Instructor 金縄 初美 / HATSUMI KANENAWA / 中国学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
											○	○

※副専攻プログラム履修者のみ本科目を履修できます。

授業の概要 /Course Description

近年国際社会での存在感が高まっている中国を理解することは、国際社会の情勢を理解することにおいて非常に重要であり、我々の日常生活とも密接な関わりを持っている。本授業では、隣国中国をより深く知るために、中国の文化と社会に関する基礎的知識を多面的に学び、文化の多様性と社会の特質を把握する。さらに、時事問題を読み解くことにより、現在の中国社会事情について理解を深める。

教科書 /Textbooks

プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『読んで旅する世界の歴史と文化 中国』(陳舜臣・尾崎秀樹監修、新潮社、1993年)(○)
その他の参考文献は授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 概要—中国の文化と社会の特性とは？ 授業の進め方、学習目標
- 2回 中国の民族と言語
- 3回 食文化の多様性
- 4回 中国の茶と酒
- 5回 建築文化の地域的特徴
- 6回 服飾文化—民族衣装とチャイナドレスの変遷
- 7回 家族と結婚
- 8回 祭りと信仰
- 9回 ニュースから見る現代中国事情
- 10回 映画から見る現代中国
- 11回 映像から読み取る現代中国事情
- 12回 教育事情から見る現代中国
- 13回 日中文化交流—日本から中国へ渡った人々
- 14回 日中文化交流—中国から日本への伝来
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度...30% 授業中に提出するミニレポート...20% 学期末レポート...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回授業の最後に、授業内容の要点や問題点及び質問などを記述して提出してもらいますので、予習、復習をしっかりと行うようにして下さい。

履修上の注意 /Remarks

基本的には日本語で授業を進めるが、中国語も使用するので、中国語の学習も並行して行ってほしい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

English Speaking Cultures and Societies 【夜】

担当者名 /Instructor ダニエル・ストラック / Daniel C. Strack / 英米学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
											○	○

※副専攻プログラム履修者のみ本科目を履修できます。

授業の概要 /Course Description

本科目には、主に二つの目的があります。第一の目的は、イギリス、アメリカ、そして他の英語を利用する国々の諸文化における共通点と相違点を見極めることである。第二の目的は、英語圏各国の諸文化に見られる共通的要素を生み出した歴史的流れを考慮し、この傾向が21世紀において未だに国際社会に影響を及ぼしていることを確認することである。

教科書 /Textbooks

プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要なものは授業中に提示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 What is the Anglosphere? (複数の「英語圏」定義の比較、21世紀における英語及び英語圏の影響力に関する検討)
- 第2回 Legends and Lore (古代ケルト文化圏、ストーンヘンジの謎、ベオウルフと古代英語、ローマ帝国時代、アーサー王伝説)
- 第3回 Continental Connections (イギリスとヨーロッパ大陸の関係史)
- 第4回 A Tale of Two Bridges (ロンドン橋と日本橋の架橋歴に見られる政治的異相)
- 第5回 Ladies and Gentlemen (イギリス人と階級)
- 第6回 Oxford and the Inklings (バブで語るファンタジー文学)
- 第7回 How to Make a Worldwide Empire (イギリス海軍と大英帝国に関して)
- 第8回 Enclosures (イギリス植民地における土地所有制度及び地元原住民の苦境)
- 第9回 Self-determination (憲法制と個人主義拡大への軌道)
- 第10回 Border Stories (スコットランド文化を中心に)
- 第11回 Imperial Inconsistencies (奴隷制度の普及と廃止、帝国主義の後退)
- 第12回 I Hear America Singing (アメリカン・ポップ・ミュージックの源泉)
- 第13回 So Many Englishes (英語の多様化、英語における標準語概念の崩壊)
- 第14回 Course Review (英語及び英語圏の諸文化に対する歴史的全体像の再確認)
- 第15回 Final Examination

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加：30% 小テスト：0% 期末試験：40% 課題：20% 態度：10%

The examination will be administered in English.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

This course will be taught in English. Lecture notes will be provided to help students review content and vocabulary outside of class time. Students will be expected to do one short presentation on an English-speaking culture of their choice during the semester.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際経営【夜】

担当者名 晴山 英夫 / 国際教育交流センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
											○	○

※副専攻プログラム履修者のみ本科目を履修できます。

授業の概要 /Course Description

経営のグローバル化に関する広い視野と国際経営に関する基礎知識の習得を狙っている。
企業の国際化の歩みは企業成長の論理からは必然の選択肢であるが、しかし、企業はその国際化の過程で企業経営上の様々な矛盾やジレンマに不可避的に直面する。
国際経営の理論はこうしたジレンマに対する考え方やその解決方法を教えている。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない。レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 国際経営へのアプローチ 【グローバル化】【脱成熟化戦略】【産業の空洞化】
- 2回 企業の国際化 【国際化の動機と発展経路】【多国籍企業】【経営資源の移転】
- 3回 国際経営の理論 【直接投資の論理】【国際資源移転論】【PLC理論】【OLI理論】
- 4回 国際経営の発展段階 【ロビンソンの6段階説】【パールムッターの4類型論】
- 5回 国際経営の海外進出戦略 【輸出】【海外生産】【技術供与】【カントリーリスク】
- 6回 国際経営の所有政策 【完全所有か合弁か】【グリーンフィールドか企業買収か】
- 7回 国際経営組織の発展 【国際事業部】【製品別事業部と地域別事業部】【マトリックス組織】
- 8回 国際ポートフォリオ戦略 【グローバル統合】【ローカル適応】【トランスナショナル戦略】
- 9回 多国籍企業のマネジメント 【本国親会社と海外子会社】【欧州型・米国型・日本型】
- 10回 海外生産 【海外生産の論理】【米欧系企業の海外生産】【日系企業の海外生産】
- 11回 国際人的資源管理 【集権化と分権化】【日系企業の本国志向型管理】【米欧企業の特徴】
- 12回 日本多国籍企業の経営課題 【経営現地化の遅れ】【業績の低迷】【内なる国際化】
- 13回 事例研究-日本自動車メーカーの国際戦略 【米国での現地生産】【モノづくりの優位性】
- 14回 事例研究-ノキアの国際戦略 【競争優位性】【知識経営】【ボトム・オブ・ピラミッド】
- 15回 まとめ-日本企業の国際経営の未来像-

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験(80%)、レポート・小テスト(20%)で成績を評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

経営学IとIIを履修し、自学自習に努めること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経営学II【夜】

担当者名 齋藤 貞之 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
											○	○

※副専攻プログラム履修者のみ本科目を履修できます。

授業の概要 /Course Description

経営学I・IIは、経営学の基本的な考え方を、理論的かつ実践的に習得することをねらいとする。
経営学は現代人が社会で生きていくうえで、不可欠な社会科学である。
経営学I・IIでは経営学を学ぶことが、いかに楽しく、現代社会を解き明かすのに役立つかが体感できる授業にする。
経営学Iでは「企業とは何か」「会社の仕組み」がテーマである。
これに対し、この経営学IIは「マネジメント」をテーマとする。「マネジメント」では、企業やNPOなどの組織を、どのように運営し、リーダーシップを発揮できるかを学ぶことになる。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

中野他編『はじめて学ぶ経営学：人物との対話』（ミネルヴァ書房、2007年）
ジョアン・マグレッタ『なぜマネジメントなのか』（ソフトバンク・パブリッシング、2003）
三戸 公『管理とはなにか』（文真堂、2002年）
伊丹敬之・加護野忠男『ゼミナール 経営学入門』（日本経済新聞社、最新版）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

マネジメントは、現代の学としてどのような体系をもった科学かをわかりやすく、かつ実践的に説明する。
マネジメントの理論は、時代とともに大きく変容してきた。
マネジメントは、社会の価値観、技術革新、市場の変化などに対応して理論モデルが再構築されるためである。
講義では、テイラー、ファヨールに始まる管理の学としての経営学から出発し、最新のマネジメント理論、戦略論にいたるまでを概観できるマネジメントのサファリ・ツアーを楽しむことにする。
主な授業スケジュールは以下のとおり（その時々トピックスを入れるので変更することもある）。

- 1回 【マネジメント】とは何か
- 2回 マネジメントの科学の出發：その1（【科学的管理】【管理過程の科学】）
- 3回 マネジメントの科学の出發：その2（【人間関係論】【経営行動科学】）
- 4回 【組織】を中核とした【マネジメント】理解の発展
- 5回 【経営戦略】と【マーケティング】
- 6回 普遍的に通用する組織は存在するか：【コンティンジェンシー理論】
- 7回 マネジメントと文化：【ネオ・コンティンジェンシー理論】【学習する組織】
- 8回 【マネージャー】と【リーダー】：その資質とは何か
- 9回 【日本の経営】とは何か：マネジメントの国際比較
- 10回 【企業の社会的責任CSR】と【企業倫理】
- 11回 世界最強の経営者にみる【リーダーシップ】：事例研究
- 12回 最強の組織を導くものとは：【戦略】【イノベーション】【人材】のいずれが優先するか
- 13回 【IT革命】とマネジメントの変容：その1（【脱産業社会】の到来と知識労働の台頭
- 14回 【IT革命】とマネジメントの変容：その2（【バーチャル・コーポレーション】の出現
- 15回 経営学IIの総括と討論

成績評価の方法 /Assessment Method

- ① ほぼ毎週、授業終了前に10分ほどの「今日の講義の理解度小テスト」を実施する。この小テストの配点は0点～5点とし、この小テストの合計点を期末テストの点数に加点する。
- ② 授業中の議論などへの参加度 … 30%
- ③ 期末テスト成績 … 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

新聞の経済記事を毎日読むこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

マネジメント 科学的管理 管理過程の科学 人間関係論 経営行動科学 組織 経営戦略 マーケティング
コンティンジェンシー理論 ネオ・コンティンジェンシー理論 学習する組織 マネージャー リーダー 日本的経営
企業の社会的責任CSR 企業倫理 リーダーシップ 戦略 イノベーション 人材 IT革命 脱産業社会
バーチャル・コーポレーション

英語科教育法 A 【夜】

担当者名 /Instructor 森 千鶴 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業には、主に二つのねらいがある。まず英語科教育の基本となる理論を学び、知識を修得することを目的とする。次に、中学校の学習指導案の書き方を学び、モデル授業を実際に行って理論と実践を結びつけることにより、ある程度の実践力を身につけることを目的とする。中学校との関連において、小学校の外国語活動の理論と現状についてもふれる。

教科書 /Textbooks

三浦省五・深澤清治（編著）『新しい学びを拓く英語科授業の理論と実践』ミネルヴァ書房
文部科学省 中学校学習指導要領 外国語

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜プリントを配布する。
なお、以下の教科書は教職資料室に保管しています。
SUNSHINE ENGLISH COURSE 1～3 開隆堂
ONE WORLD English Course 1～3 教育出版
"NEW CROWN ENGLISH SERIES New Edition 1～3"三省堂
NEW HORIZON English Course 1～3 東京書籍
TOTAL ENGLISH 1～3 教育出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. イントロダクション及び英語教育の目的
2. 英語教育の目的
3. 指導法へのアプローチ【行動主義と認知主義】
4. 指導法へのアプローチ【コミュニケーション能力】
5. Communicative Language Teaching の理念【インフォメーション・ギャップ】
6. Communicative Language Teaching の理念【タスク活動】
7. 中学校の英語科教育および小学校の外国語活動
8. 学習指導案(中学校)の立て方
9. 評価について
10. DVD (師範授業) の視聴【筑波大学附属中学校教諭】
11. DVD (師範授業) の視聴【田尻悟郎先生】
12. モデル授業の準備
13. モデル授業 (中学校) 【1年生】
14. モデル授業 (中学校) 【2・3年生】
15. 復習と試験の準備

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末の定期試験 (75%程度) を中心として、提出物 (15%程度) 及び授業参加度 (10%程度) を考慮に入れ、総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ・ 前もってプリントを配布したり、次回の授業内容に関連する教科書ページを予告をする場合は、予習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 多少なりとも教員になるという意思をもって、履修すること。
- ・ 出欠席は厳密にとる。無断欠席は厳に慎むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語科教育法B 【夜】

担当者名 /Instructor 森 千鶴 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業には主に二つのねらいがある。まず英語科教育における発展的な理論や学習指導案の書き方を学び、モデル授業を行うことによって、高等学校の英語科教員としての技能を身につける。次に英語科教育の学問的な側面に目を向け、英語で書かれた論文を講読することによって、英語科教育の今日的な課題を深く論考することができるようになることを目指す。

教科書 /Textbooks

三浦省五・深澤清治（編著）『新しい学びを拓く英語科授業の理論と実践』ミネルヴァ書房
文部科学省 高等学校学習指導要領 外国語

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜プリントを配布する。なお、以下の教科書は教職資料室に保管しています。
ENGLISH NOW Revised Edition I・II 開隆堂 NEW WORLD ENGLISH COURSE I・II 三友社
Vivid Reading MEW EDITION 第一学習社 Onstage English Course I・II 池田書店
EXCEED English Series New Edition I・II 三省堂 PROMINENCE English I・II 東京書籍
"MAINSTREAM ENGLISH COURSE Second Edition I・II" 増進堂
Revised POLESTAR English Course I・II 数研出版 "Revised Edition SUNSHINE English Course I・II" 開隆堂
"PRO-VISION New Edition ENGLISH COURSE I・II" 桐原書店 ELEMENT English Course I・II 啓林館
Voyager English Course NEW EDITION I・II 第一学習社
"NEW EDITION UNICORN ENGLISH COURSE I・II" 文英堂
Genius English Course Revised I・II 大修館書店 CROWN English Series New Edition I・II 三省堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. コミュニケーション能力および英語科の評価論について
2. 学習指導要領および4技能の統合
3. リーディングの理論と実践 [理論編]
4. リーディングの理論と実践 [発展編]
5. 絶対評価について (高等学校編)
6. 学習指導案 (高等学校) の立て方
7. モデル授業の準備
8. モデル授業 (高等学校) [英語I]
9. モデル授業 (高等学校) [英語I以外の科目]
10. ALTに関わる英語論文を読む[論文前半]
11. ALTに関わる英語論文を読む[論文後半]
12. 韓国の英語教育に関する英語論文を読む[論文前半]
13. 韓国の英語教育に関する英語論文を読む[論文後半]
14. リスニング・スピーキングに関する英語論文を読む
15. 復習と試験の準備

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末の定期試験 (75%程度) を中心として、提出物 (15%程度) 及び授業参加度 (10%程度) を考慮に入れ、総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ・ 前もってプリントを配布したり、次回の授業内容に関連する教科書ページを予告する場合は、予習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 多少なりとも教員になるという意思をもって、履修すること。
- ・ 出欠席は厳密にとる。無断欠席は厳に慎むこと。
- ・ モデル授業の日程や英語論文のトピックは学生と相談した上で決定することになるので、シラバス内容に関しては柔軟に考えていただきたい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

英語科教育法B 【夜】

キーワード /Keywords

道徳教育の研究【夜】

担当者名 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description
この授業では、「学習指導要領」に規定されている「学校教育」（中学校・高等学校の教育；参考のために小学校の教育も含む）における「道徳教育」の理念と具体的な実践方法について学習する。

教科書 /Textbooks
『中学校学習指導要領』及び『高等学校学習指導要領』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード	
1回 「学校教育」における道徳教育の構造	【学校教育の全領域】
2回 「各教科」と道徳教育	【陶冶】【訓育】
3回 「特別活動」と道徳教育	【学級活動】【生徒会活動】【学校行事】
4回 「総合的な学習の時間」と道徳教育	【横断的・総合的な学習】【活動】
5回 「道徳の時間」と道徳教育	【道徳の時間の指導内容】【全体計画】
6回 「道徳の時間」の指導過程	【指導方法】
7回 「道徳の時間」の指導技術	【学習指導案】【指導技術】
8回 「道徳の時間」と「モラルジレンマ」	【ジレンマ教材】【対立・葛藤】
9回 「道徳の時間」と「役割演技」	【動作化】【ロール・プレイ】
10回 「道徳の時間」と「アサーション」	【主張】
11回 「道徳の時間」と「エンカウンター」	【出会い】【構成的グループエンカウンター】
12回 「道徳の時間」と「作文」	【教育的リアリズム】【教育的ヒューマニズム】
13回 「道徳の時間」と「体験」	【自然体験】【社会体験】
14回 「道徳の時間」の「指導事例」	【指導技術】
14回 「道徳の時間」の「模擬授業」	【評価】
15回 まとめ	

成績評価の方法 /Assessment Method
平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 3 【夜】

担当者名 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育実習校において教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

第 1 回 ; 実習校実習①	【教育実習指導】
第 2 回 ; 実習校実習②	【教育実習指導】
第 3 回 ; 実習校実習③	【教育実習指導】
第 4 回 ; 実習校実習④	【教育実習指導】
第 5 回 ; 実習校実習⑤	【教育実習指導】
第 6 回 ; 実習校実習⑥	【教育実習指導】
第 7 回 ; 実習校実習⑦	【教育実習指導】
第 8 回 ; 実習校実習⑧	【教育実習指導】
第 9 回 ; 実習校実習⑨	【教育実習指導】
第 10 回 ; 実習校実習⑩	【教育実習指導】
第 11 回 ; 実習校実習⑪	【教育実習指導】
第 12 回 ; 実習校実習⑫	【教育実習指導】
第 13 回 ; 実習校実習⑬	【教育実習指導】
第 14 回 ; 実習校実習⑭	【教育実習指導】
第 15 回 ; 実習校実習⑮	【教育実習指導】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教師論 【夜】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教職の意義、教員の役割、教員の職務内容等に関する知識を習得し、教職についての理解を深め、教職について多角的に考察し、教職についての意欲や適性等を熟考し、「学生が教員としての適格性を持つためにどのような努力をしていけばよいのか」ということを含めて、進路選択について指導・助言を受ける。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】内はキーワード)

1回 学校教育と教職の意義	【学校教育】【教職】
2回 学校教育と教員の役割	【学校】【教育】【教員の役割】
3回 学校教育の「目的」	【教育目的論】
4回 学校教育の「内容」と「方法」	【教育課程】【教育課程の編成原理】
5回 教員の職務内容と「生徒指導」	【教員の職務】【生徒指導の伝統】
6回 キャリア教育	【職業選択の基礎理論】【進路選択】
7回 教員の使命	【教育の論理】【生活の論理】
8回 「生きる力」と教員の役割	【青少年の意識】【愛と要求】
9回 「自主的な問題解決」と教員の役割	【自主性】【生徒の意識】
10回 「いのちの教育」と教員の役割	【生と死の教育課程】
11回 「身体の教育」と教員の役割	【健康管理】【食教育】【排便教育】
12回 「喫煙防止」と教員の役割	【未成年者喫煙防止法】
13回 「掃除」と教員の役割	【学校掃除】【掃除の指導】
14回 「評価」「懲戒」と「体罰」の相違	【評価の種類】【体罰】
15回 教員の「資質」と「適格性」/まとめ	【指導】【管理】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育原理【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育における問題について、実践事例もふまえながら考察する。

教科書 /Textbooks

なし。プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 発達と教育
- 2回 教育の方法
- 3回 教育の関係
- 4回 諸外国の教育思想
- 5回 日本の教育思想
- 6回 諸外国の教育史
- 7回 日本の教育史
- 8回 学校とは何か
- 9回 現代の学校が抱える課題
- 10回 家庭教育の基礎と現代的課題
- 11回 メディアと教育
- 12回 職業と教育
- 13回 国際化と教育
- 14回 生涯学習社会における教育
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 20% 課題 20% 最終課題(試験) 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教育について興味・関心をもって臨むこと。
配布したレジュメ・資料をよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発達心理学【夜】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ひとの誕生から乳児期、幼児期、児童期、青年期までの人間の発達を概観し、各発達段階における特徴的なテーマを通して人間の発達に関する心理学的理解を深める。
同時に、発達の過程で生じる障害の発生機序について、発達障害、知的障害の問題等を取り上げ、その基本的な理解を築いていく。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：発達心理学とは何か
- 第2回 胎児期【生まれるまでの子どもの発達過程】
- 第3回 誕生と新生児期
- 第4回 赤ちゃんの知覚能力
- 第5回 学習能力と行動習慣の獲得
- 第6回 運動発達と相互的やり取りの基盤
- 第7回 愛着の機能と発達【愛着の個人差、世代間伝達】
- 第8回 共同注意と言語発達
- 第9回 他者の心を理解する【心の理論】
- 第10回 児童期における社会性の発達
- 第11回 青年期における論理的思考の発達
- 第12回 アイデンティティの模索【自我同一性、モラトリアム】
- 第13回 成人期・老年期の発達【家族形成、人生の終焉】
- 第14回 発達障害の発生機序について【発達障害、知的障害を中心に】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育制度【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育制度に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育制度における問題について、諸外国の事例もふまえながら考察する。

教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて、プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 教育制度の基本原則 教育制度とは 日本の教育法制
- 2 回 学校制度の基本的事項 (1) 機会均等、学校教育における中立性等
- 3 回 学校制度の基本的事項 (2) 義務教育、学校体系等
- 4 回 教員に関する制度 教員免許法制、公務員としての教師、教員の指導力と研修等
- 5 回 教育行財政の仕組み 中央教育行政、地方教育行政、教育委員会と学校等
- 6 回 生涯学習の制度 成人教育、学校教育と社会教育の連携等
- 7 回 教育制度改革の動向 学校選択制、学校評価等
- 8 回 教育課程の意義と編成 (1) 学習指導要領、教科書・教材等
- 9 回 教育課程の意義と編成 (2) 学校の教育課程編成
- 10 回 学校における教育課程経営
- 11 回 「カリキュラム・マネジメント」と学校改善
- 12 回 教育課程の評価
- 13 回 教育課程の開発
- 14 回 今日の課題と教育課程
- 15 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題 (試験) 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教育について興味・関心をもって臨むこと。
配布したレジュメ・資料をよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別活動の研究【夜】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、以下の課題を柱として取り組んでいきたい。

- ① 「中学校学習指導要領」及び「高等学校学習指導要領」の「特別活動」の目的、領域(学級活動、生徒会活動、学校行事)の理解を理論的、実践的に深めること。
- ② 子どもたちがお互いの生きづらさや葛藤を理解し、表現しあう中で、お互いを支え合える関係づくりを学級活動の中で築いていくための課題と実践方法を検討していくこと。
- ③ 市民社会の担い手に求められる市民的スキルを学級活動などを通じて獲得させていく方法を実践的に学習すること。
- ④ 子どもたちの自己効力感、自己有用感を育み、自治の力を育む生徒会活動、学校行事のあり方について、具体的な実践報告を踏まえつつ検討していくこと。
- ⑤ 上記の理念と実践を踏まえて、学級経営、学校行事の指導計画の作成方法を学習すること

教科書 /Textbooks

楠 凡之著「いじめと児童虐待の臨床教育学」(ミネルヴァ書房)、主要には第7章を使用する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

中学校学習指導要領 及び高等学校学習指導要領 特別活動
折出健二編 2008 「特別活動」(教師教育テキストシリーズ) 学文社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体オリエンテーション - 「特別活動」の意義
- 2回 「中学校学習指導要領」及び「高等学校学習指導要領」の「特別活動」の目的・領域について
- 3回 参加者の現実の学校体験から、学級活動の課題を考える。
- 4回 子ども達の対人関係スキルを育てるHR活動 その1
- 対立解決 (conflict resolution) の多様なパターン
- 5回 子どもたちの対人関係スキルを育てるHR活動 その2 - WinWin型で解決するために
- 6回 子どもたちの対人関係スキルを育てるHR活動 その3 - ロールプレイの取り組み
- 7回 すべての子どもの居場所となる学級集団指導の留意点
- 8回 学級経営の指導計画案の作成
- 9回 子どもたちの自治の力を育てる生徒会活動の課題と方法
- 10回 子ども達の自治の力を育てる学校行事の課題 - 体育祭の取り組み
- 11回 子ども達の自治の力を育てる学校行事の課題 - 文化祭・合唱コンクールの取り組み
- 12回 子どもたちの自治の力を育てる学校行事の課題 - 修学旅行の取り組み
- 13回 荒れている学級をどう立て直すか? - 中学校の実践
- 14回 荒れている学級をどう立て直すか? - 高等学校の実践
- 15回 学校行事の指導計画案の作成

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点40%、期末試験60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受け身的な参加では実践的指導力は身に付かない。積極的な態度での参加を心がけること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は人間関係学科の専門科目にもなっていますが、基本は教職課程の科目です。教師をめざす学生に求められる真摯な授業態度や積極的な活動への参加を期待します。

キーワード /Keywords

学級集団づくり、対立解決のスキル、自治能力の育成

教育方法学【夜】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 2単位 学期 /Semester 2学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 講義 クラス /Class 2年 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業では、各教科を実際に指導する授業の場面を想定し、学習指導案の作成や教材研究等を組み入れて、将来の高度情報社会に生きる生徒に必要な資質を養うための、情報機器及び教材の活用を含んだ実践的な教育の方法の理論と技術を習得する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山下政俊・湯浅恭編著『教育の方法』ミネルヴァ書房、他

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 「教育の方法」とは何か 【教育の方法の形態】【比喻・モデル】
- 2回 20世紀までの「教育の方法」の遺産 【指導】【管理】【生活と文化】【対話】
- 3回 「現代」の「教育の方法」 【連続と非連続】【現代化】
- 4回 「新しい時代」の教師の「指導技術」 【教師の資質能力】【ファシリテーター】
- 5回 「情報機器」と「教材」の活用 【メディアリテラシー】【情報活用能力】
- 6回 「情報化社会」における生徒の指導 【情報化社会】【インターネット】
- 7回 「学習遅滞」の指導 【学習遅滞】【SHELLモデル】
- 8回 教師と生徒の「コミュニケーション」 【話す】【聞く】
- 9回 「学習規律」を育てる指導方法 【出席と参加】【学習規律】
- 10回 各教科指導の「具体的システム」 【学習指導要領】【学習のシステム】
- 11回 各教科指導の「構想」と「教材研究」 【授業の三角形モデル】【事前の教材解釈】
- 12回 各教科指導の「学習指導案」 【指導】【学習活動】【指導上の留意点】
- 13回 各教科指導の「展開過程」における「指導技術」 【発問】【説明】【指示】【助言】
- 14回 各教科指導における「評価」 【授業評価】【自己評価】
- 15回 「模擬授業」 - 各教科指導に向けて - 【実践的な指導】【各教科の授業】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育工学【夜】

担当者名 /Instructor 大塚 一徳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は、教員免許を取得するにあたって必要な教育方法・技術、教材と教具、指導方法を学び、授業の実践的指導力の基礎を養うことを目標とする。また近年の著しいICT(情報通信技術)の進展を踏まえ、PCやWebを活用した教材作成の方法・技術の修得の基礎についても概観する。さらに、模擬授業の実施及び評価等を通して、教育の方法と技術の実践的活用能力の基礎を育成し、各教科等の指導に最小限必要な資質について学ぶことを主なねらいとする。

教科書 /Textbooks

指定しない。必要な資料を適宜事業で配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中学校学習指導要領 平成20年3月告示 東山書房 244円
 高等学校学習指導要領 平成21年3月告示東山書房 588円
 平沢茂編著 教育の方法と技術 図書文化2000円
 小川哲生他著 教育方法の理論と実践 明星大学出版部 1500円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】 はキーワード)
1. オリエンテーション【本授業の内容・進行・評価方法】
 2. 授業と教育方法【教育方法】
 3. 授業と教育技術【教育技術】
 4. 授業のシステム化の方法と授業設計の手順【授業設計】
 5. 授業過程の分析と改善【授業過程】
 6. 授業実施の技術【授業技術】
 7. 授業の評価【授業評価】
 8. 教育における情報化社会の影響【情報化社会】
 9. 教育におけるICT(情報通信技術)の活用【ICT】
 10. 学習指導案の作成【学習指導案】
 11. 教材研究【教育メディアとその活用】
 12. 模擬授業【模擬授業】
 13. テストと学習内容の評価【テスト】
 14. 授業実践能力の改善と向上【教育の方法と技術の実践能力】
 15. 現代の教育課題と講義のまとめ【現代の教育課題】

成績評価の方法 /Assessment Method

教材研究課題(20%)、模擬授業(30%)、試験(50%)により総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教材研究、模擬授業等に関する課題の提出は必須の課題となります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 1 【夜】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

4年次の「教育実習」（実習校実習）に向けて、実習生として必要な構えや学習指導及び生徒指導等の理論や知識・技術を習得する。

教科書 /Textbooks

北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード	
1回 オリエンテーション	【教育実習】【実習校】
2回 教育実習の1日	【教育実習の実態】【教師の勤務】
3回 教育実習の体験から学ぶ(中学)	【教科指導】【学級経営】
4回 教育実習の体験から学ぶ(高校)	【教科指導】【学級経営】
5回 学級経営について	【学級集団づくり】【学級通信】
6回 生徒の問題状況と生徒指導	【生徒指導】【生徒理解】
7回 生徒指導と教育相談	【生徒理解】【生徒指導体制】
8回 授業観察の方法	【授業観察の視点】【授業記録シート】
9回 生徒の人権と教育	【人権】【自尊感情】
10回 参加型授業の実践	【参加】
11回 教材研究と授業構想	【教材研究】【学習指導案】
12回 模擬授業①(中学・高校)	【授業構成】【導入】
13回 模擬授業②(中学・高校)	【授業構成】【展開】
14回 模擬授業③(中学・高校)	【授業構成】【練習】【応用】
15回 模擬授業④(中学・高校)	【指導技術】【発問】【説明】【指示・助言】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況の評価(25%) 学期末の提出物の評価(75%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の事前に指示されたことを準備すること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 2 【夜】

担当者名 /Instructor 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

- ①教育実習生として必要な心構えや、指導方法等について学習する(事前指導)
- ②教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める(実習校実習)
- ③実習校実習で得た成果や反省すべき事項等を整理し、今後の課題を考察する(事後指導)

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード	
第 1回 ; オリエンテーション	【勤務】【連絡】
第 2回 ; 中学校における教育実習	【中学生の特質】【中学生への支援】
第 3回 ; 高等学校における教育実習	【高校生の特質】【高校生への支援】
第 4回 ; 実習校実習①	【教育実習指導】
第 5回 ; 実習校実習②	【教育実習指導】
第 6回 ; 実習校実習③	【教育実習指導】
第 7回 ; 実習校実習④	【教育実習指導】
第 8回 ; 実習校実習⑤	【教育実習指導】
第 9回 ; 実習校実習⑥	【教育実習指導】
第 10回 ; 実習校実習⑦	【教育実習指導】
第 11回 ; 実習校実習⑧	【教育実習指導】
第 12回 ; 実習校実習⑨	【教育実習指導】
第 13回 ; 実習校実習⑩	【教育実習指導】
第 14回 ; 実習校実習⑪	【教育実習指導】
第 15回 ; 教育実習反省会	【教師の資質】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育相談【夜】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

授業の目的は以下のとおりである。

1. 学校での教育相談の意義と課題、教育相談の領域(開発的教育相談、予防的教育相談、治療的教育相談(問題解決的教育相談)、学校教育の中での位置づけについての基本的な理解を持つこと。
2. 教育相談、カウンセリングの基本的な理念と技法(傾聴、共感的応答、開かれた質問、直面化など)を修得すること。
3. 不登校やいじめなど、様々な問題を表出している児童、生徒に対する理解を深めていくと同時に、児童・生徒に対する指導、援助の留意点について、具体的な教育相談の事例や実践を紹介しつつ、検討していきたい。
4. 子どもの「最善の利益」を一致点とした保護者との共同、関係諸機関との共同に向けての課題を明らかにしていくこと。

教科書 /Textbooks

「いじめと児童虐待の臨床教育学」(ミネルヴァ書房)をテキストとして使用する。本授業では主に第一部(1~4章)を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 広木克行 「教育相談」(教師教育テキストシリーズ) 学文社
- 吉田圭吾 教師のための教育相談の技術 金子書房
- 日本学校教育相談学会 学校教育相談学ハンドブック ほんの森出版
- 一丸藤太郎・菅野信夫編著 学校教育相談 ミネルヴァ書房
- 伊藤美奈子・春日井敏之編 よくわかる教育相談 ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 教育相談の意義と3つの領域(開発的教育相談、予防的教育相談、治療的教育相談(問題解決的教育相談))
- 3回 学校カウンセリングの教育相談の基本的な理念について
- 4回 教育相談の基本的なスキルについて - 共感的応答
- 5回 教育相談の基本的なスキルについて - 開かれ質問
- 6回 教育相談の基本的なスキルについて - ロールプレイ実習
- 7回 不登校の子どもに対する教育相談
- 8回 発達障害の子どもに対する教育相談
- 9回 子どもの問題をめぐる保護者との共同・連携の課題
- 10回 教育相談活動における連携について - スクールカウンセラーとの連携に視点をあてて
- 11回 教育相談活動における連携について - スクールソーシャルワーカー等との連携
- 12回 薬物問題に対する理解と援助(北九州ダルクの講演)
- 13回 今日のいじめ問題に対する理解と教育相談① - 前思春期
- 14回 今日のいじめ問題に対する理解と教育相談② - 思春期
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(感想レポート等)30%、レポート15%、期末試験55%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストは早めに読み、基本的な知見をもった上で授業に望むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教育相談【夜】

キーワード /Keywords

教育相談の理念と技法、いじめ問題、不登校問題

生徒・進路指導論【夜】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は以下のとおりである。

- ① 生徒指導の意義と課題について、生徒指導の目的、生徒指導の3機能(①児童生徒に自己存在感を与えること、②共感的な人間関係を育成すること、③自己決定の場を与え、自己の可能性の開発を援助すること)を理解するとともに、開発的生徒指導、予防的生徒指導、治療的生徒指導)の区別と関連などを検討していくこと
- ② 養育環境や発達上の困難な課題を抱える子どもの内面に寄り添う生徒指導の課題について検討していくこと。
また、実際の生徒指導の場面を想定して、その場面での対応を考える力を養うこと。
- ③ 思春期の人格発達(「価値的自立」)の過程を踏まえた進路学習、進路指導の意義と課題について、今日の社会情勢も含めつつ検討していくこと。
また、実際の進路指導の場面に関する適切な指導のあり方を考える力を養うこと。

教科書 /Textbooks

テキストとして、「いじめと児童虐待の臨床教育学」(ミネルヴァ書房)の第II部と第III部8章を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 片山紀子 入門 生徒指導 - 「生徒指導提要」を踏まえた新しい生徒指導のありかた 学事出版
- 桑原憲一編 中学校教師のための生徒指導提要実践ガイド 明治図書
- 文部科学省 中学校キャリア教育の手引き
- 国立教育政策研究所生徒指導研究センター 「キャリア教育のすすめ」
- 日本キャリア教育学会 キャリア教育概説 東洋館出版
- 見美川孝一郎 権利としてのキャリア教育 明石書店
- キャリア発達論 - 青年期のキャリア形成と進路指導の展開 ナカニシヤ出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション - 生徒・進路指導論の課題
- 2回 学校現場での生徒指導の実践
- 3回 生徒指導の基本 その1 生徒指導の三機能と、開発的生徒指導、予防的生徒指導、治療的生徒指導
- 4回 生徒指導の基本 その2 毅然たる指導、ゼロトランス他
- 5回 実際の生徒指導場面での紙上応答練習
- 6回 「我が子の非行と向き合う親たちの会」の方の講演
- 7回 対人関係でのトラブルを繰り返す生徒に対する理解と指導(女子生徒の事例から)
- 8回 対人関係でのトラブルを繰り返す生徒に対する理解と指導(男子生徒の事例から)
- 9回 思春期の「自己形成モデル」の意義と進路学習
- 10回 中学校の進路指導実践 - 「ようこそ先輩」の取り組み
- 11回 中学校における職場体験学習と進路指導
- 12回 今日の高등학교の問題状況と進路指導の課題
- 13回 進路指導の場面を想定してのロールプレイ実習
- 14回 被虐待児に対する理解と援助 - 感想レポートの紹介とコメント
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(感想レポートなど)30%、レポート20%、期末試験50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストの5, 6章, 8章をしっかりと読み込んで授業に臨むこと。

履修上の注意 /Remarks

生徒・進路指導論【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生徒指導の三機能、児童虐待、進路指導

障害児の心理と指導【夜】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「障害」とは何か。その社会的定義、障害者観を踏まえ、障害を有する人々が示す特徴について理解を深める。また、障害児・者の抱える発達課題、支援のあり方について具体的なアセスメント・臨床技法を交えながら考える。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：障害児・者心理学について
- 第2回 障害の概念とノーマライゼーション
- 第3回 人々の障害者観：障害をどう捉えるか
- 第4回 障害の重積・深化の過程と発達援助
- 第5回 障害のアセスメント【発達評価・心理検査】
- 第6回 視覚障害について
- 第7回 聴覚障害について
- 第8回 姿勢・運動の障害について
- 第9回 知的障害について
- 第10回 自閉性障害について
- 第11回 注意欠陥多動性障害について
- 第12回 学習障害について
- 第13回 青年期以降に診断される障害について
- 第14回 障害児・者への地域支援の在り方
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育社会学【夜】

担当者名 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、家族、学校、地域社会等で観察される諸事象をとりあげて社会的な視点から分析をし、教育社会学の基礎的な概念を提示していきながら、教育に関する事象について、社会的な見方、考え方ができるようになることをめざす。

教科書 /Textbooks

プリント(講義レジュメ・資料)を配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

配布プリントに提示する他、授業中、適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教育社会学の対象と方法
- 2回 家族の諸形態と教育の機能
- 3回 子どもの社会化の課題
- 4回 学校・教室空間と教育過程
- 5回 教師文化と生徒文化の生成・葛藤
- 6回 若者と職業をめぐる課題
- 7回 学校と地域の歴史
- 8回 「地域の教育力」をめぐる課題
- 9回 生涯学習社会における学び
- 10回 友人関係における葛藤
- 11回 高度消費社会に生きる若者
- 12回 新たなメディアのなかの関係
- 13回 少年非行と教育・社会の課題】
- 14回 教育における格差
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 20% 課題 20% 最終課題(試験) 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業にあたり、配布したレジュメ・資料をよく読むこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人権教育論【夜】

担当者名 /Instructor 弓野 勝族 / YUMINO MASATSUGU / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育現場及び日常生活での人権問題の具体的な事象に学びながら、人権教育の知識を豊かにするとともに、人権感覚を研ぎ、人権問題解決への技能・スキル・態度を培う。

教科書 /Textbooks

「手作り資料」を活用します

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

人権の絵本(大月書房)、みんなの人権(明石書店)、世界が100人の村だったら(マガジンハウス)、人権・同和問題一問一答(解放出版社)、差別と日本人(角川書店)、もののけ姫(徳間書店)、他。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「世界が100人の村だったら」【世界共通の偏見や差別の根っ子と差別のしくみ】【非識字者・同性愛者の人権】【人権教育のスキル・技能】
- 第2回 いじめ差別①(現状認識)【いじめ差別の事例(新聞記事・中高生・大学生の体験)】【各種調査(教育白書・国際調査等)】
- 第3回 いじめ差別②(構図と課題、解決への基礎基本の知識)【いじめ差別の構図(しくみ)と加害者・傍観者の心理】【文部科学省のいじめ定義】【道徳教育と人権教育の相違点】
- 第4回 いじめ差別③(解決への教育創造)【文部科学省の「人権教育の指導方法の在り方」】【金子みすず「教科書の詩」「東大入試問題」】【自尊感情と学力形成の相関関係】【学校文化と子どもの居場所づくり】
- 第5回 子どもの人権と児童虐待防止法【児童虐待の現状認識(新聞記事・教育白書等)】【教師の責務と教育・啓発の教育創造】
- 第6回 ものけ姫①(メッセージからの課題)【物語の時代背景と登場人物から課題の整理】【ハンセン病問題と国の隔離政策】【国家賠償と社会復帰】
- 第7回 ものけ姫②(メッセージからの課題)【女性差別の歴史】【学校現場における「改正男女雇用機会均等法」「男女共同参画社会基本法」を考える】
- 第8回 同和問題との出会い直し①(身分制度の歴史・中世)【身分差別をつくったのは、誰?】【中世の社会や文化のしくみと、国民的課題の意義】
- 第9回 同和問題との出会い直し②(身分制度の歴史・近世)【身分制度(身分統制令)をつくったのは、誰?】【「賤民」身分にされたのは、どんな人々?】【一向一揆、鉄砲・キリスト教の伝来、島原の乱と身分制度の確立の歴史と国の責務の意義】
- 第10回 同和問題との出会い直し③(解体新書、俳人と身分制度)【解体新書の腑分けをしたのは、どんな人?】【一茶・蕪村・芭蕉の人権感覚】
- 第11回 同和問題との出会い直し④(文学者と部落差別)【小説「破戒」(島崎藤村)と「橋のない川」(住井すゑ)】
- 第12回 同和問題との出会い直し⑤(結婚差別)【結婚差別の事例からの課題と解決への展望】【しきたり・ならわし・慣習との出会い直し】
- 第13回 同和問題との出会い直し⑥(人権文化の創造)【教科書無償・全国統一応募用紙・奨学金制度】
- 第14回 同和問題との出会い直し⑦(国の施策)【1965年の同和対策審議会・答申の意義】【1996年の地域改善対策協議会・意見具申の意義】
- 第15回 同和問題との出会い直し⑧(人権文化のまちづくり)【各地の人権文化のまちづくりの現状】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況の評価(30%)及び学期末のレポートによる評価(70%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の中で課題を出します

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords